

阿
左
美
遺
跡

阿 左 美 遺 跡

(主)桐生伊勢崎線(阿左美大原工区)社会資本総合整備
(国土強靭化)(防災・安全)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



二〇二二三

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2023

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

阿左美遺跡

(主)桐生伊勢崎線(阿左美大原工区)社会資本総合整備
(国土強靭化)(防災・安全)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

群馬県桐生土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



阿左美遺跡遠景(南西から)

中央で作業している場所が2区。左奥に阿左美沼が見える



阿左美遺跡遠景(北から)

左奥の丘陵が八王子丘陵、そのすぐ西側、水田地帯に住宅が横に並ぶ場所が岩宿面の南端になる

口絵 2



5区南部の土坑群(南から)
縄文時代後期初頭期の袋状土坑が集中して見つかった



5区284号土坑(後期初頭、南から)
底径260cmを測る本遺跡最大規模のフラスコ状土坑、底面中央にもう1段掘り込みがある



2区125号土坑(後期初頭、南から)

作業員の肩まで深さがある袋状土坑、埋土上層で注口土器が出土した



5区246号土坑(西から)

土坑集中部からは離れた5区北端で検出、堀之内2式のほぼ完形土器が出土した

口絵 4



阿左美遺跡出土の土器群
縄文時代中期後葉～後期前葉期を主体に出土している



阿左美遺跡出土の土製品
貝輪状土製品をはじめ、多種多様な土製品が出土している

序

主要地方道桐生伊勢崎線は、群馬県が推進する「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」の交通軸の一つ、「渡良瀬軸」の中核をなす幹線道路です。群馬県では、道路ネットワークの整備を進めることで県内循環の効果を高めるとともに、安全・安心な生活基盤・経済基盤を築くことを目指しており、その一環として桐生伊勢崎線の現状2車線から4車線への道路改良事業が計画されました。この事業に伴い、事業地内に所在する阿左美遺跡の発掘調査が当事業団により実施されることとなりました。

阿左美遺跡は、昭和29(1954)年12月の東武鉄道桐生線阿左美駅プラットホーム拡張工事の際にたくさんの縄文土器や石器が発見されたことから、翌年3月、群馬大学によってはじめて発掘調査が実施されました。このときに発見された2棟の竪穴建物が「阿左美縄文式文化住居跡」として、昭和35(1960)年に群馬県指定史跡となり、群馬県が未来へと継承する重要な文化財として旧阿左美駅構内に展示されています。

今回の調査地点は、「阿左美縄文式文化住居跡」の20～30m程西方にあたります。道路拡幅という事業の性格上、幅が狭く細長い調査区での調査となりましたが、「阿左美縄文式文化住居跡」の同一集落と考えられる竪穴建物や土坑がたくさん発見され、集落の拡がりを確認することができました。また、縄文土器や石器のほか、さまざまな土製品の出土があり、縄文時代の生活の一端をうかがい知れる資料を提供することができました。このほか、今回の発掘調査成果とともに、地元自治体である旧笠懸村・笠懸町、みどり市教育委員会による阿左美遺跡の発掘調査成果をまとめることで、改めて阿左美遺跡が東毛地区を代表する縄文時代の大規模集落であったことが鮮明になりました。本書がみどり市域、ひいては東毛地区、群馬県の縄文時代の解明に広く役立つことができれば幸いです。

最後に、発掘調査の実施および本書の作成にあたり、多大なご支援とご協力を賜りました、群馬県桐生土木事務所をはじめ群馬県、みどり市教育委員会、地元住民の皆様、関係者の皆様に心より感謝の意を表し、序文といたします。

令和5年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

1. 本書は、平成30年度社会资本総合整備(活力・重点)道路改良事業および令和元年度(主)桐生伊勢崎線阿左美大原工区道路改良事業に伴う阿左美遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 阿左美遺跡は、群馬県みどり市笠懸町阿左美地内に所在する。
地番は、976-13、977-3、979-4、979-5、979-6、979-7、979-26、980-1、980-2、980-4、980-6、980-8、980-9、981-9、981-10、981-11、982-9、982-10、983-10、983-11、994-13、994-14、1053-5、1053-37、1053-43、1053-44、1053-45、1053-46、1055-1、1055-4、1055-6、1056-1、1057-7、1057-8、1057-12、1057-13、1058-11、1058-13、1058-14、1059-19、1059-21、1059-22、1059-23、1059-24、1059-25、1059-26、1059-27、1059-28、1066-1、1066-3
3. 事業主体 群馬県桐生土木事務所
4. 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 発掘調査の期間・担当者等は次のとおりである。

〈平成30年度〉

履行期間 平成30年12月1日～平成31年3月31日　　調査期間 平成31年1月1日～平成31年3月31日
調査担当 関 明愛(調査研究員)、間庭 稔(専門調査役)
調査面積 2,392m²
遺跡掘削工事請負 技研コンサル株式会社
委託 遺構測量・空中写真撮影 技研コンサル株式会社

〈令和2年度〉

履行期間 令和2年3月31日～令和2年10月31日　　調査期間 令和2年4月1日～令和2年6月30日
調査担当 田村 博(主任調査研究員)、太田 心(調査研究員)
調査面積 1,568m²
遺跡掘削工事請負 技研コンサル株式会社
委託 遺構測量 技研コンサル株式会社

6. 資料整理の期間・担当者等は次のとおりである。

〈令和3年度〉

履行期間 令和4年1月1日～令和4年3月31日　　整理期間 令和4年1月1日～令和4年3月31日
整理担当 佐藤元彦(専門調査役)

〈令和4年度〉

履行期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日　　整理期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日
整理担当 橋本 淳(主任調査研究員・資料統括)

7. 本書の編集・執筆担当者等は次のとおりである。

編集 橋本 淳
執筆 第1章第2節1 群埋文調査報告書第545集『北山遺跡』の第2章第1節1を転載・一部加筆修正
第4章第4節 田村 博(主任調査研究員)
遺物觀察表 石器・石造物：岩崎泰一(専門調査役)　土師器・須恵器：神谷佳明(専門調査役)
陶磁器：大西雅広(専門調査役)

上記以外 橋本 淳

デジタル編集 齊田智彦(主任調査研究員)

遺構写真撮影 各調査担当者 遺物写真撮影 口絵集合写真、石器・石造物：関口博幸（上席調査研究員・資料統括）
土師器・須恵器：杉山秀宏（資料2課長） 前記以外：各遺物観察表執筆者
8. 石材同定は、飯島静男氏（群馬県地質研究会会員）に依頼した。
9. 出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
10. 発掘調査及び本書の作成にあたり、次の関係機関に御指導と御支援を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
群馬県地域創生部文化財保護課 みどり市教育委員会

凡　例

1. 本報告書の挿図中で使用した座標値は、世界測地系（測地成果2011）を用い、方位は座標北を示す。また、等高線や遺構断面図に記した標高値は海拔標高を示す。
2. 調査範囲には5m×5mのグリッド網を設定し、各グリッドの呼称はXY軸それぞれ下3桁の数字を組み合わせている。
3. 遺構番号は調査時の番号を用いているが、整理段階で各遺構の再検討を行い、他の遺構に組み入れたものや遺構認定から外したものがあるため、遺構番号は連続しない。
4. 竪穴建物の方位については、原則として建物や炉の長軸方向で示した。
5. 遺構図における遺物番号は、遺物実測図と一致する。また、●は土器、▲は石器を表す。図示した遺物で、遺構図中に番号のない遺物は出土位置を記録しなかったものである。
6. 遺構図・遺物図の縮尺は、原則として次のとおりである。縮尺の異なるものは、それぞれにスケールを付すか、遺物番号に縮尺率を併記した。また、遺物写真是遺物図と同縮尺とした。
遺構図 竪穴建物・竪穴状遺構・ピット・溝：1/60 炉・埋甕・埋設土器：1/30 土坑：1/40
遺物図 繩文土器：1/3・1/4 土製品：1/2 石器：1/1・1/3・1/4 土師器・須恵器、陶磁器：1/3
7. 図中で使用したスクリーントーンは、次のとおりである。
遺構図 焼土 ■■■■■ 炭 □□□□□ カクラン □□□□□
遺物図(石器) 磨り面 □□□□□
8. 遺物観察表中の（ ）付きの数値は、縄文土器、土師器・須恵器、陶磁器は推定値、石器は残存値を示している。
9. 本書で使用した地形図・地勢図は、次のとおりである。
国土地理院1/200000地勢図「宇都宮」平成18年4月1日発行、国土地理院1/50000地形図「桐生及足利」平成11年6月1日発行、国土地理院1/25000地形図「桐生」平成30年8月7日発行、みどり市1/10000「みどり市地形図3」令和3年3月発行、みどり市1/2500「みどり市地形図34」令和3年発行

目 次

口絵

序

例言

凡例

目次

第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と地形	1
1 みどり市笠懸町の地形	1
2 阿左美遺跡の立地	6
第3節 周辺の遺跡	6
第4節 発掘調査の方法と経過	10
1 調査区の設定	10
2 発掘調査の方法	10
3 発掘調査の経過	11
4 基本土層	12

第2章 繩文時代の調査

第1節 調査の概要	13
第2節 竪穴建物	14
第3節 土坑	31
1 概要	31
2 5区	39
3 1北区	56
4 1中区	61
5 1南区	63
6 2区	115
7 3区	131
8 7北区	133
第4節 埋設土器	134
第5節 ピット	140
第6節 遺構外出土遺物	149

第3章 古代以降・旧石器時代の調査

第1節 古代の調査	177
1 概要	177
2 竪穴建物	177
3 土坑	178
4 遺構外出土遺物	178
第2節 中近世の調査	179
1 概要	179
2 竪穴状遺構	183
3 土坑	183
4 溝	193
5 ピット	195
6 遺構外出土遺物	198
第3節 旧石器時代の調査	199
1 概要	199
第4章 まとめ	
第1節 繩文時代の土坑について	200
第2節 繩文時代の集落構造について	205
第3節 出土土製品について	209
第4節 出土石皿について	214
参考文献	222
付表	
1 石器集計表	223
2 遺物観察表	226
補遺	280
写真図版	
抄録	
奥付	

挿図目次

第1図 阿左美遺跡の位置	2	第64図 1南区土坑出土遺物(2)	90
第2図 大間々層状の地形面	3	第65図 1南区土坑出土遺物(3)	91
第3図 阿左美遺跡周辺の地形区分	4	第66図 1南区土坑出土遺物(4)	92
第4図 阿左美遺跡周辺の地形	5	第67図 1南区土坑出土遺物(5)	93
第5図 周辺の遺跡	9	第68図 1南区土坑出土遺物(6)	94
第6図 調査区の設定	10	第69図 1南区土坑出土遺物(7)	95
第7図 本書における調査区呼称	11	第70図 1南区土坑出土遺物(8)	96
第8図 基本上層模式	12	第71図 1南区土坑出土遺物(9)	97
第9図 縄文時代遺跡(ピット隣く)全体図	13	第72図 1南区土坑出土遺物(10)	98
第10図 穴穴建物全体図	14	第73図 1南区土坑出土遺物(11)	99
第11図 2号窓穴建物および出土遺物(1)	16	第74図 1南区土坑出土遺物(12)	100
第12図 2号窓穴建物出土遺物(2)	17	第75図 1南区土坑出土遺物(13)	101
第13図 3号窓穴建物	18	第76図 1南区土坑出土遺物(14)	102
第14図 3号窓穴建物出土遺物(1)	19	第77図 1南区土坑出土遺物(15)	103
第15図 3号窓穴建物出土遺物(2)	20	第78図 1南区土坑出土遺物(16)	104
第16図 4号窓穴建物	20	第79図 1南区土坑出土遺物(17)	105
第17図 4号窓穴建物出土遺物(1)	21	第80図 1南区土坑出土遺物(18)	106
第18図 4号窓穴建物出土遺物(2)	22	第81図 1南区土坑出土遺物(19)	107
第19図 4号窓穴建物出土遺物(3)	23	第82図 1南区土坑出土遺物(20)	108
第20図 5号窓穴建物および出土遺物	24	第83図 1南区土坑出土遺物(21)	109
第21図 6号窓穴建物	25	第84図 1南区土坑出土遺物(22)	110
第22図 6号窓穴建物出土遺物(1)	26	第85図 1南区土坑出土遺物(23)	111
第23図 6号窓穴建物出土遺物(2)	27	第86図 1南区土坑出土遺物(24)	112
第24図 7号窓穴建物	28	第87図 1南区土坑出土遺物(25)	113
第25図 7号窓穴建物出土遺物	29	第88図 1南区土坑出土遺物(26)	114
第26図 8号窓穴建物(1)	29	第89図 2区土坑(1)	118
第27図 8号窓穴建物(2)および出土遺物	30	第90図 2区土坑(2)	119
第28図 5区土坑全図	35	第91図 2区土坑(3)	120
第29図 1北・1中区土坑全図	36	第92図 2区土坑出土遺物(1)	121
第30図 1南・7北区土坑全図	37	第93図 2区・1坑出土遺物(2)	122
第31図 2・3区土坑全図	38	第94図 2区・1坑出土遺物(3)	123
第32図 5区土坑(1)	43	第95図 2区・1坑出土遺物(4)	124
第33図 5区土坑(2)	44	第96図 2区・1坑出土遺物(5)	125
第34図 5区土坑(3)	45	第97図 2区・1坑出土遺物(6)	126
第35図 5区土坑(4)	46	第98図 2区・1坑出土遺物(7)	127
第36図 5区土坑出土遺物(1)	47	第99図 2区・1坑出土遺物(8)	128
第37図 5区土坑出土遺物(2)	48	第100図 2区・1坑出土遺物(9)	129
第38図 5区・土坑出土遺物(3)	49	第101図 2区・1坑出土遺物(10)	130
第39図 5区・土坑出土遺物(4)	50	第102図 3区土坑	131
第40図 5区・土坑出土遺物(5)	51	第103図 3区土坑出土遺物	132
第41図 5区・土坑出土遺物(6)	52	第104図 7北区土坑	133
第42図 5区・土坑出土遺物(7)	53	第105図 球根土器全図	135
第43図 5区・土坑出土遺物(8)	54	第106図 1南区埋設土器(1)	136
第44図 5区・土坑出土遺物(9)	55	第107図 1南区埋設土器(2)	137
第45図 1北区・土坑(1)	57	第108図 3区埋設土器(1)	138
第46図 1北区・土坑(2)	58	第109図 3区埋設土器(2)	139
第47図 1北区・土坑出土遺物(1)	59	第110図 5区・ピット全図	142
第48図 1北区・土坑出土遺物(2)	60	第111図 1北・1中区・ピット全図	143
第49図 1中区・土坑(1)	61	第112図 1南区・7北区・ピット全図	144
第50図 1中区・土坑(2)および出土遺物	62	第113図 2区・6・1・6・2・2区・ピット全図	145
第51図 1南区・土坑(1)	77	第114図 ピット出土遺物(1)	146
第52図 1南区・土坑(2)	78	第115図 ピット出土遺物(2)	147
第53図 1南区・土坑(3)	79	第116図 ピット出土遺物(3)	148
第54図 1南区・土坑(4)	80	第117図 5区道構外出土遺物(1)	150
第55図 1南区・土坑(5)	81	第118図 5区道構外出土遺物(2)	151
第56図 1南区・土坑(6)	82	第119図 1区道構外出土遺物(1)	152
第57図 1南区・土坑(7)	83	第120図 1区道構外出土遺物(2)	153
第58図 1南区・土坑(8)	84	第121図 1区道構外出土遺物(3)	154
第59図 1南区・土坑(9)	85	第122図 1区道構外出土遺物(4)	155
第60図 1南区・土坑(10)	86	第123図 1区道構外出土遺物(5)	156
第61図 1南区・土坑(11)	87	第124図 1区道構外出土遺物(6)	157
第62図 1南区・土坑(12)	88	第125図 1区道構外出土遺物(7)	158
第63図 1南区・土坑出土遺物(1)	89	第126図 1区道構外出土遺物(8)	159

第127図	1区道横外出土遺物(9) ······	160
第128図	1区道横外出土遺物(10) ······	161
第129図	1区道横外出土遺物(11) ······	162
第130図	1区道横外出土遺物(12) ······	163
第131図	1区道横外出土遺物(13) ······	164
第132図	1区道横外出土遺物(14) ······	165
第133図	1区道横外出土遺物(15) ······	166
第134図	2区道横外出土遺物(1) ······	167
第135図	2区道横外出土遺物(2) ······	168
第136図	2区道横外出土遺物(3) ······	169
第137図	2区道横外出土遺物(4) ······	170
第138図	2区道横外出土遺物(5) ······	171
第139図	3区道横外出土遺物 ······	172
第140図	4区・7区道横外出土遺物(1) ······	173
第141図	7区道横外出土遺物(2) ······	174
第142図	7区道横外出土遺物(3) ······	175
第143図	6区道横外出土遺物 ······	176
第144図	古代道横全体図 ······	177
第145図	1号穴・建物 ······	177
第146図	土坑 ······	178
第147図	道横外出土遺物 ······	178
第148図	5・1北・1中区中近世道横全体図 ······	179
第149図	1南・2・7・6・5区中近世道横全体図 ······	180
第150図	3・4・6-1・4区中近世道横全体図 ······	181
第151図	3・4区ピット全体図 ······	182
第152図	堅穴状道横 ······	183
第153図	5区土坑 ······	185
第154図	1中区土坑 ······	186
第155図	1南区土坑 ······	187
第156図	2区土坑 ······	188
第157図	3区土坑(1) ······	189
第158図	3区土坑(2) ······	190
第159図	3区土坑(3) ······	191
第160図	4区土坑 ······	192
第161図	溝(1) ······	193
第162図	溝(2) ······	194
第163図	溝(3) ······	195
第164図	道横外出土遺物 ······	198
第165図	旧石器の調査 ······	199
第166図	形状別土坑分布図 ······	201
第167図	時期別土坑分布図(中期後葉) ······	203
第168図	時期別土坑分布図(後期前葉) ······	204
第169図	既調査区配置図 ······	207
第170図	土製品一覧(1) ······	210
第171図	土製品一覧(2) ······	211
第172図	土製品一覧(3) ······	212
第173図	土製品一覧(4) ······	213
第174図	阿左美遺跡の石面 ······	216
第175図	大道東遺跡の石面 ······	218
第176図	大道東遺跡・下田遺跡の石面 ······	219

表 目 次

第1表	周辺の道路 ······	8
第2表	整穴建物一覧 ······	15
第3表	土坑一覧表(1) ······	32
第4表	土坑一覧表(2) ······	33
第5表	土坑一覧表(3) ······	34
第6表	ピット一覧表(1) ······	140
第7表	ピット一覧表(2) ······	141
第8表	中近世土坑一覧表 ······	184
第9表	中近世ピット一覧表(1) ······	196
第10表	中近世ピット一覧表(2) ······	197
第11表	阿左美遺跡の調査経過 ······	206
第12表	貝輪状土製品一覧 ······	209
第13表	石器類表 ······	215
第14表	阿左美遺跡の石面一覧 ······	216
第15表	渡良瀬川河床疊(安山岩) ······	220

写 真 目 次

PL. 1	1. 道跡遠景(西から) 2. 平成30年度調査区全景(南西から)	
PL. 2	1. 5区北部全景(南から) 2. 5区中南部全景(南から)	
PL. 3	1. 5区南部全景(南西から) 2. 5区南部・土坑群(南から)	
PL. 4	1. 1北区全景(南西から) 2. 1北区全景(北東から)	
PL. 5	1. 1中区・1南区北部全景(南西から) 2. 1中区・1南区北部全景(北東から)	
PL. 6	1. 1南区全景(北東を除く)(南西から) 2. 1南区全景(北東を除く)(南西から)	
PL. 7	1. 2区南北全景(南から) 2. 2区南北全景(南西から)	
PL. 8	1. 3区西半部全景(北東から) 2. 3区西半部全景(南西から)	
PL. 9	1. 3区東半部全景(北東から) 2. 3区東半部全景(南西から)	
PL. 10	1. 4区全景(南西から) 2. 6-1区全景(北東から)	
PL. 11	1. 6-2区全景(北東から) 2. 6-5区全景(北東から)	
PL. 12	1. 6-3区全景(北東から) 2. 6-4区全景(南西から) 3. 7北区全景(北東から) 4. 7南区全景(南西から)	
PL. 13	1. 2号堅穴建物全景(南東から) 2. 2号堅穴建物全景(北東から) 3. 2号堅穴建物断面(南西から) 4. 2号堅穴建物遺物出土状況(南東から) 5. 2号堅穴建物遺物出土状況(北東から)	
PL. 14	1. 2号堅穴建物遺物出土状況(北東から) 2. 2号堅穴建物埋理断面(東から) 3. 2号堅穴建物埋理断面(東から) 4. 2号堅穴建物埋理収入後状況(東から) 5. 3号堅穴建物全景(南東から)	
PL. 15	1. 3号堅穴建物断面(南東から) 2. 3号堅穴建物断面(南西から) 3. 3号堅穴建物遺物出土状況(南東から) 4. 3号堅穴建物調査風景(南から) 5. 3号堅穴建物炉全景(南から) 6. 3号堅穴建物炉断面(南東から) 7. 3号堅穴建物炉断面(東から) 8. 3号堅穴建物炉掘り方(東から)	
PL. 16	1. 4号堅穴建物全景(南東から) 2. 4号堅穴建物断面(南東から) 3. 4号堅穴建物断面(北東から) 4. 4号堅穴建物遺物出土状況(南から) 5. 4号堅穴建物遺物出土状況(南東から)	
PL. 17	1. 5号堅穴建物全景(北西から) 2. 5号堅穴建物断面(北西から) 3. 6号堅穴建物全景(南西から)	

4. 6号堅穴建物掘り方(南西から)
 5. 6号堅穴建物断面(北西から)
 6. 6号堅穴建物掘り方断面(北西から)
- PL. 18 1. 7号堅穴建物炉全景(西から)
 2. 7号堅穴建物炉断面(西から)
 3. 7号堅穴建物炉掘り方(西から)
 4. 7号堅穴建物炉掘り方断面(西から)
 5. 8号堅穴建物炉全景(南から)
 6. 8号堅穴建物炉断面(南西から)
 7. 8号堅穴建物炉体取上後状況(南西から)
 8. 8号堅穴建物炉掘り方(南西から)
- PL. 19 1. 5区246号土坑全景(西から)
 2. 5区246号土坑断面(西から)
 3. 5区246号土坑遺物出土状況(西から)
 4. 5区247号土坑全景(東から)
 5. 5区248号土坑全景(西から)
 6. 5区259号土坑全景(南東から)
 7. 5区259号土坑断面(南東から)
 8. 5区261号土坑全景(南から)
 9. 5区261号土坑断面(南から)
 10. 5区261号土坑調査風景(南から)
 11. 5区262号土坑全景(南から)
 12. 5区262号土坑断面(南から)
 13. 5区263号土坑全景(南から)
 14. 5区263号土坑断面(南から)
 15. 5区265号土坑全景(南から)
- PL. 20 1. 5区265号土坑断面(南から)
 2. 5区266号土坑全景(南東から)
 3. 5区267号土坑全景(南東から)
 4. 5区268号土坑全景(北から)
 5. 5区269号土坑全景(北から)
 6. 5区270号土坑全景(南から)
 7. 5区270号土坑断面(南から)
 8. 5区271号土坑全景(南から)
 9. 5区271号土坑断面(南から)
 10. 5区272号土坑全景(南から)
 11. 5区272号土坑断面(南から)
 12. 5区273号土坑全景(南から)
 13. 5区273号土坑断面(南から)
 14. 5区274号土坑全景(西から)
 15. 5区274号土坑断面(西から)
- PL. 21 1. 5区275・276号土坑全景(南から)
 2. 5区275・276号土坑断面(南西から)
 3. 5区277号土坑全景(北東から)
 4. 5区277号土坑断面(南西から)
 5. 5区278号土坑全景(南から)
 6. 5区278号土坑断面(南から)
 7. 5区279号土坑全景(西から))
 8. 5区280～282号土坑全景(西から)
 9. 5区280～282号土坑断面(西から)
 10. 5区283号土坑全景(西から)
 11. 5区284号土坑全景(南から)
 12. 5区284号土坑断面(南から)
 13. 5区284号土坑断面(南から)
 14. 5区285号土坑全景(東から)
 15. 5区285号土坑断面(東から)
- PL. 22 1. 5区286・287号土坑全景(西から)
 2. 5区286・287号土坑断面(西から)
 3. 5区288・289号土坑全景(西から)
 4. 5区290号土坑全景(南から)
 5. 5区290号土坑断面(南から)
 6. 5区290号土坑遺物出土状況(南から)
 7. 5区291・292号土坑全景(南東から)
 8. 5区291・292号土坑全景(南東から)
 9. 5区291・292号土坑断面(南東から)
 10. 5区294号土坑全景(北から)
11. 5区295号土坑全景(東から)
 12. 1 区299号土坑全景(北東から)
 13. 1 区301号土坑全景(南東から)
 14. 1 区301号土坑断面(南東から)
 15. 1 区305号土坑全景(南から)
- PL. 23 1. 1 区306・307号土坑全景(南東から)
 2. 1 区306・307号土坑断面(南東から)
 3. 1 区306・307号土坑遺物出土状況(南から)
 4. 1 区308号土坑全景(南西から)
 5. 1 区308号土坑断面(南西から)
 6. 1 区309号土坑全景(南から)
 7. 1 区310号土坑全景(南東から)
 8. 1 区310号土坑断面(南東から)
 9. 1 区312・313号土坑全景(南から)
 10. 1 区312・313号土坑断面(南東から)
 11. 1 区314号土坑全景(南から)
 12. 1 区314号土坑断面(西から)
 13. 1 区315号土坑全景(西から)
 14. 1 区315号土坑断面(西から)
 15. 1 中区6号土坑全景(南東から)
- PL. 24 1. 1 中区6号土坑断面(南東から)
 2. 1 中区10号土坑全景(南西から)
 3. 1 中区10号土坑断面(南西から)
 4. 1 中区12号土坑全景(南東から)
 5. 1 中区12号土坑断面(南東から)
 6. 1 中区14号土坑全景(北西から)
 7. 1 中区14・15号土坑断面(北西から)
 8. 1 中区17号土坑全景(北西から)
 9. 1 中区17号土坑断面(北西から)
 10. 1 中区17号土坑遺物出土状況(南西から)
 11. 1 中区17号土坑遺物出土状況(北東から)
 12. 1 中区18号土坑全景(東から)
 13. 1 中区18号土坑断面(東から)
 14. 1 南区30号土坑全景(南東から)
 15. 1 南区30号土坑断面(南東から)
- PL. 25 1. 1 南区31号土坑全景(南西から)
 2. 1 南区31号土坑断面(南西から)
 3. 1 南区32号土坑全景(南から)
 4. 1 南区32号土坑断面(南から)
 5. 1 南区33号土坑全景(南西から)
 6. 1 南区33号土坑断面(南西から)
 7. 1 南区34号土坑全景(南西から)
 8. 1 南区34号土坑断面(南西から)
 9. 1 南区35号土坑全景(南西から)
 10. 1 南区35号土坑断面(南西から)
 11. 1 南区36号土坑全景(南西から)
 12. 1 南区36号土坑断面(南西から)
 13. 1 南区37号土坑全景(南西から)
 14. 1 南区37号土坑断面(南西から)
 15. 1 南区37号土坑遺物出土状況(南西から)
- PL. 26 1. 1 南区38号土坑全景(北西から)
 2. 1 南区38号土坑断面(南東から)
 3. 1 南区39号土坑全景(南から)
 4. 1 南区39号土坑断面(南から)
 5. 1 南区40号土坑全景(南から)
 6. 1 南区41号土坑全景(南から)
 7. 1 南区40・41号土坑断面(南から)
 8. 1 南区42号土坑全景(南西から)
 9. 1 南区42号土坑断面(南西から)
 10. 1 南区43号土坑全景(北東から)
 11. 1 南区43号土坑断面(北西から)
 12. 1 南区44号土坑全景(南東から)
 13. 1 南区44号土坑断面(南東から)
 14. 1 南区44号土坑遺物出土状況(北西から)
 15. 1 南区47号土坑全景(東から)
- PL. 27 1. 1 南区45号土坑撲上(東から)

2. 1南区35号上坑断面(東から)
 3. 1南区35号上坑断面(東から)
 4. 1南区47号上坑全貌(北東から)
 5. 1南区47号上坑断面(北東から)
 6. 1南区47号上坑断面出土状況(北東から)
 7. 1南区49号上坑全貌(北西から)
 8. 1南区49号上坑全貌(西から)
 9. 1南区49号上坑断面(北から)
 10. 1南区49号上坑断面出土状況(北から)
 11. 1南区50号上坑全貌(南東から)
 13. 1南区52号上坑全貌(北西から)
 14. 1南区52号上坑断面(北西から)
 15. 1南区53号上坑全貌(北西から)
- PL. 28 1. 1南区53号上坑断面出土状況(北西から)
 2. 1南区54号上坑全貌(北西から)
 3. 1南区53・54号上坑断面(北西から)
 4. 1南区55号上坑全貌(南西から)
 5. 1南区55号上坑断面(南西から)
 6. 1南区56号上坑全貌(南西から)
 7. 1南区56号上坑断面(南西から)
 8. 1南区57・143号上坑全貌(東から)
 9. 1南区57号上坑断面(東から)
 10. 1南区59号上坑全貌(南東から)
 11. 1南区60号上坑全貌(南東から)
 12. 1南区59・60号上坑断面(南東から)
 13. 1南区61号上坑全貌(北西から)
 14. 1南区62号上坑全貌(南東から)
 15. 1南区62号上坑断面(南東から)
- PL. 29 1. 1南区63号上坑全貌(北東から)
 2. 1南区63号上坑断面(北東から)
 3. 1南区64号上坑全貌(東から)
 4. 1南区64号上坑断面(東から)
 5. 1南区75号上坑全貌(南東から)
 6. 1南区76号上坑全貌(北東から)
 7. 1南区76号上坑断面(南西から)
 8. 1南区111号上坑全貌(南から)
 9. 1南区111号上坑断面(南から)
 10. 1南区130号上坑全貌(東から)
 11. 1南区130号上坑断面(東から)
 12. 1南区132号上坑全貌(南から)
 13. 1南区132号上坑断面(南東から)
 14. 1南区132号上坑断面出土状況(南東から)
 15. 1南区133号上坑全貌(南から)
- PL. 30 1. 1南区135号上坑全貌(南北から)
 2. 1南区135号上坑断面(南北から)
 3. 1南区136号上坑全貌(南北から)
 4. 1南区136号上坑断面(南北から)
 5. 1南区137号上坑全貌(南東から)
 6. 1南区137号上坑断面(南北から)
 7. 1南区137号上坑断面(北西から)
 8. 1南区138号上坑全貌(南東から)
 9. 1南区138号上坑断面(南北から)
 10. 1南区140号上坑全貌(南北から)
 11. 1南区140号上坑断面(東から)
 12. 1南区141号上坑全貌(南北から)
 13. 1南区141号上坑断面(南北から)
 14. 1南区141号上坑断面出土状況(西から)
 15. 1南区141号上坑断面出土状況(南北から)
- PL. 31 1. 1南区142号上坑全貌(南北から)
 2. 1南区142号上坑全貌(南北から)
 3. 1南区142号上坑全貌(北東から)
 4. 1南区143号上坑全貌(北東から)
 5. 1南区143号上坑全貌(北東から)
 6. 1南区144号上坑全貌(東から)
 7. 1南区144・159号上坑全貌(東から)
 8. 1南区144号上坑断面(南から)
- PL. 32 9. 1南区144号上坑断面出土状況(東から)
 10. 1南区146号上坑全貌(東から)
 11. 1南区146号上坑断面(東から)
 12. 1南区147号上坑全貌(東から)
 13. 1南区147号上坑断面(東から)
 14. 1南区148号上坑全貌(東から)
 15. 1南区148号上坑断面(東から)
- PL. 33 1. 1南区149号上坑全貌(西から)
 2. 1南区149号上坑断面(南から)
 3. 1南区150号上坑全貌(南西から)
 4. 1南区150号上坑断面(南西から)
 5. 1南区151号上坑全貌(南東から)
 6. 1南区151号上坑断面(南東から)
 7. 1南区152号上坑全貌(北西から)
 8. 1南区152号上坑断面(北西から)
 9. 1南区153号上坑全貌(北から)
 10. 1南区153号上坑断面(南から)
 11. 1南区154号上坑全貌(北東から)
 12. 1南区154号上坑断面(南西から)
 13. 1南区155号上坑全貌(東から)
 14. 1南区155号上坑断面(東から)
 15. 1南区156号上坑全貌(西から)
- PL. 34 1. 1南区156号上坑断面(北東から)
 2. 1南区157号上坑全貌(北から)
 3. 1南区157号上坑断面(南から)
 4. 1南区159号上坑全貌(東から)
 5. 1南区159号上坑断面(南から)
 6. 1南区160～162号上坑全貌(西から)
 7. 1南区160～162号上坑断面(南から)
 8. 1南区160号上坑断面出土状況(南西から)
 9. 1南区161号上坑全貌(南西から)
 10. 1南区162号上坑全貌(南西から)
 11. 1南区163・164号上坑断面(南西から)
 12. 1南区165号上坑全貌(東から)
 13. 1南区165号上坑断面(東から)
 14. 1南区167号上坑全貌(南西から)
 15. 1南区167号上坑断面(南西から)
- PL. 35 1. 1南区168号上坑断面(南西から)
 2. 1南区170号上坑全貌(北西から)
 3. 1南区170号上坑断面(北西から)
 4. 1南区173号上坑全貌(北から)
 5. 1南区173号上坑断面(北から)
 6. 1南区175～178号上坑全貌(北西から)
 7. 1南区175～178号上坑断面(北西から)
 8. 1南区175号上坑全貌(南西から)
 9. 1南区176号上坑全貌(南西から)
 10. 1南区176号上坑断面出土状況(南西から)
 11. 1南区177号上坑全貌(南西から)
 12. 1南区178号上坑断面出土状況(南西から)
 13. 1南区179号上坑全貌(西から)
 14. 1南区179号上坑断面(西から)
 15. 1南区179号上坑断面出土状況(北西から)
- PL. 36 1. 1南区182号上坑全貌(北西から)
 2. 1南区184号上坑全貌(東から)
 3. 1南区184号上坑断面(北東から)
 4. 1南区187号上坑全貌(東から)
 5. 1南区187号上坑断面(東から)
 6. 1南区188号上坑全貌(北西から)
 7. 1南区188号上坑断面(北西から)
 8. 1南区188号上坑断面出土状況(北西から)
 9. 1南区188号上坑断面出土状況(北西から)
 10. 1南区189号上坑全貌(南から)
 11. 1南区189号上坑断面(南から)
 12. 1南区190・191号上坑全貌(南から)
 13. 1南区190・191号上坑断面(南から)
 14. 1南区192号上坑断面(南西から)

- PL. 36 15. 1南区193号土坑全景(南北から)
 1. 1南区193号土坑断面(南北から)
 2. 1南区194・195号土坑全景(南北から)
 3. 1南区194号土坑全景(南北から)
 4. 1南区195号土坑断面(南北から)
 5. 1南区194・195号土坑断面(南北から)
 6. 1南区196号土坑全景(南北から)
 7. 1南区196号土坑断面(南北から)
 8. 1南区197号土坑断面(南北から)
 9. 1南区198～200号土坑全景(南北から)
 10. 1南区198号土坑断面(南北から)
 11. 1南区198号土坑断面(南北から)
 12. 1南区198号土坑遺物出土状況(南北から)
 13. 1南区199号土坑断面(南北から)
 14. 1南区200号土坑断面(南北から)
 15. 1南区201号土坑断面(南北から)
- PL. 37 1. 1南区202号土坑全景(南北から)
 2. 1南区202号土坑断面(南北から)
 3. 1南区203号土坑断面(南北から)
 4. 1南区204号土坑全景(南北から)
 5. 1南区204号土坑断面(南北から)
 6. 1南区206号土坑全景(南北から)
 7. 1南区206号土坑断面(南北から)
 8. 1南区206号土坑遺物出土状況(南北から)
 9. 1南区206号土坑遺物出土状況(南北から)
 10. 1南区208号土坑全景(南北から)
 11. 1南区208号土坑断面(南北から)
 12. 1南区208号土坑遺物出土状況(南北から)
 13. 1南区209号土坑全景(南北から)
 14. 1南区209号土坑断面(南北から)
 15. 1南区211号土坑全景(南北から)
- PL. 38 1. 1南区211号土坑断面(南北から)
 2. 1南区211号土坑遺物出土状況(南北から)
 3. 1南区212号土坑断面(南北から)
 4. 1南区214号土坑全景(南北から)
 5. 1南区215号土坑全景(南北から)
 6. 1南区216号土坑全景(南北から)
 7. 1南区217号土坑全景(南北から)
 8. 1南区214～217号土坑断面(南北から)
 9. 1南区214号土坑遺物出土状況(南北から)
 10. 1南区214号土坑陶化材出土状況(南北から)
 11. 1南区214号土坑陶化材出土状況(南北から)
 12. 1南区220号土坑全景(南北から)
 13. 1南区220号土坑遺物出土状況(南北から)
 14. 1南区221号土坑全景(南北から)
 15. 1南区221号土坑断面(南北から)
- PL. 39 1. 1南区222号土坑全景(南北から)
 2. 1南区222号土坑断面(南北から)
 3. 1南区223号土坑全景(南北から)
 4. 1南区224号土坑全景(南北から)
 5. 1南区225号土坑全景(南北から)
 6. 1南区223～225号土坑断面(南北から)
 7. 1南区224号土坑遺物出土状況(南北から)
 8. 1南区225号土坑遺物出土状況(南北から)
 9. 1南区226号土坑全景(南北から)
 10. 1南区226号土坑断面(南北から)
 11. 1南区227号土坑全景(南北から)
 12. 1南区227号土坑断面(南北から)
 13. 1南区227号土坑遺物出土状況(南北から)
 14. 1南区228号土坑全景(南北から)
 15. 1南区228号土坑断面(南北から)
- PL. 40 1. 1南区229号土坑全景(南北から)
 2. 1南区229号土坑断面(南北から)
 3. 1南区230号土坑全景(南北から)
 4. 1南区230号土坑断面(南北から)
 5. 1南区231号土坑全景(南北から)
- PL. 41 6. 1南区231号土坑断面(南北から)
 7. 1南区232号土坑全景(南北から)
 8. 1南区232号土坑断面(南北から)
 9. 1南区233号土坑全景(南北から)
 10. 1南区233号土坑断面(南北から)
 11. 1南区234号土坑全景(南北から)
 12. 1南区234号土坑断面(南北から)
 13. 1南区235号土坑全景(南北から)
 14. 1南区235号土坑断面(南北から)
 15. 1南区236号土坑全景(南北から)
- PL. 42 1. 1南区237号土坑全景(南北から)
 2. 1南区237号土坑断面(南北から)
 3. 1南区237号土坑断面(南北から)
 4. 1南区238号土坑全景(南北から)
 5. 1南区238号土坑断面(南北から)
 6. 1南区239号土坑全景(南北から)
 7. 1南区241号土坑全景(南北から)
 8. 1南区242号土坑全景(南北から)
 9. 1南区242号土坑断面(南北から)
 10. 1南区243号土坑全景(南北から)
 11. 1南区243号土坑断面(南北から)
 12. 1南区244号土坑全景(南北から)
 13. 1南区244号土坑断面(南北から)
 14. 1南区316号土坑断面(南北から)
 15. 1南区317号土坑断面(南北から)
- PL. 43 1. 1南区318号土坑全景(南北から)
 2. 1南区318号土坑断面(南北から)
 3. 2区94号土坑全景(南北から)
 4. 2区94号土坑断面(南北から)
 5. 2区96号土坑全景(南北から)
 6. 2区96号土坑断面(南北から)
 7. 2区100号土坑全景(南北から)
 8. 2区100号土坑断面(南北から)
 9. 2区100号土坑遺物出土状況(南北から)
 10. 2区101号土坑全景(南北から)
 11. 2区101号土坑底面(南北から)
 12. 2区101号土坑断面(南北から)
 13. 2区101号土坑遺物出土状況(南北から)
 14. 2区102号土坑全景(南北から)
 15. 2区103号土坑全景(南北から)
- PL. 44 1. 2区107号土坑全景(南北から)
 2. 2区107号土坑断面(南北から)
 3. 2区108号土坑全景(南北から)
 4. 2区108号土坑断面(南北から)
 5. 2区114号土坑全景(南北から)
 6. 2区114号土坑断面(南北から)
 7. 2区114号土坑遺物出土状況(南北から)
 8. 2区114号土坑遺物出土状況(南北から)
 9. 2区115号土坑全景(南北から)
 10. 2区115号土坑断面(南北から)
 11. 2区115号土坑遺物出土状況(南北から)
 12. 2区118号土坑全景(南北から)
 13. 2区118号土坑遺物出土状況(南北から)
 14. 2区121号土坑全景(南北から)
 15. 2区121号土坑断面(南北から)
- PL. 45 1. 2区121号土坑全景(南北から)
 2. 2区121号土坑断面(南北から)
 3. 2区122号土坑全景(南北から)
 4. 2区122号土坑断面(南北から)
 5. 2区124号土坑全景(南北から)
 6. 2区124号土坑底面(南北から)
 7. 2区125号土坑全景(南北から)
 8. 2区125号土坑底面(南北から)
 9. 2区125号土坑断面(南北から)
 10. 2区125号土坑遺物出土状況(南北から)
 11. 2区125号土坑遺物出土状況(南北から)

12. 2区125号土坑遺物出土状況(西から)
 13. 2区125号土坑調査風景(南から)
 14. 2区126号土坑全貌(南東から)
 15. 2区127・128号土坑全貌(東から)
- PL. 45 1. 2区129号土坑全貌(南西から)
 2. 2区129号土坑断面(北側から)
 3. 2区129号土坑断面(南西から)
 4. 2区129号土坑遺物出土状況(南西から)
 5. 2区129号土坑遺物出土状況(南西から)
 6. 2区129号土坑遺物出土状況(西から)
 7. 3区70号土坑全貌(南東から)
 8. 3区70号土坑断面(南東から)
 9. 3区80号土坑全貌(南から)
 10. 3区80号土坑断面(南から)
 11. 3区80号土坑遺物出土状況(南から)
 12. 7北区255号土坑全貌(南東から)
 13. 7北区255号土坑断面(南東から)
 14. 7北区256号土坑全貌(南北から)
 15. 7北区256号土坑断面(南から)
- PL. 46 1. 3区1号理設土器全貌(南西から)
 2. 3区1号理設土器断面(北西から)
 3. 3区1号理設土器振り方(北西から)
 4. 1南区2号理設土器全貌(北から)
 5. 1南区2号理設土器断面(南から)
 6. 1南区2号理設土器振り方(東から)
 7. 3区3号理設土器全貌(南東から)
 8. 3区3号理設土器断面(南東から)
- PL. 47 1. 3区3号理設土器全貌(南東から)
 2. 3区3号理設土器収上後状況(南東から)
 3. 3区3号理設土器振り方(南東から)
 4. 3区3号理設土器断面(南東から)
 5. 1南区5号理設土器全貌(北西から)
 6. 1南区5号理設土器断面(北西から)
 7. 1南区5号理設土器収上後状況(北西から)
 8. 1南区5号理設土器振り方(北西から)
- PL. 48 1. 1南区6号理設土器全貌(南東から)
 2. 1南区6号理設土器断面(南東から)
 3. 1南区6号理設土器取上後状況(南東から)
 4. 1南区6号理設土器振り方(南東から)
 5. 1南区7号理設土器全貌(北から)
 6. 1南区7号理設土器断面(北から)
 7. 1南区7号理設土器振り方(北から)
 8. 1南区7号理設土器断面(北から)
- PL. 49 2号竪穴建物出土遺物
 PL. 50 3号竪穴建物出土遺物
- PL. 51 4号竪穴建物出土遺物(1)
- PL. 52 4号竪穴建物出土遺物(2)・5号竪穴建物出土遺物
- PL. 53 6号竪穴建物出土遺物(1)
- PL. 54 6号竪穴建物出土遺物(2)・7号・8号竪穴建物出土遺物
- PL. 55 5区土坑出土遺物(1)
- PL. 56 5区土坑出土遺物(2)
- PL. 57 5区土坑出土遺物(3)
- PL. 58 5区土坑出土遺物(4)
- PL. 59 5区土坑出土遺物(5)
- PL. 60 5区土坑出土遺物(6)・1北区土坑出土遺物(1)
- PL. 61 1北区1号土坑出土遺物(2)・1中区1号土坑出土遺物・1南区1号土坑出土遺物(1)
- PL. 62 1南区1号土坑出土遺物(2)
- PL. 63 1南区1号土坑出土遺物(3)
- PL. 64 1南区1号土坑出土遺物(4)
- PL. 65 1南区1号土坑出土遺物(5)
- PL. 66 1南区1号土坑出土遺物(6)
- PL. 67 1南区1号土坑出土遺物(7)
- PL. 68 1南区1号土坑出土遺物(8)
- PL. 69 1南区1号土坑出土遺物(9)
- PL. 70 1南区1号土坑出土遺物(10)
- PL. 71 1南区1号土坑出土遺物(11)
- PL. 72 1南区1号土坑出土遺物(12)
- PL. 73 1南区1号土坑出土遺物(13)
- PL. 74 1南区1号土坑出土遺物(14)
- PL. 75 1南区1号土坑出土遺物(15)
- PL. 76 1南区1号土坑出土遺物(16)
- PL. 77 2区1号土坑出土遺物(1)
- PL. 78 2区1号土坑出土遺物(2)
- PL. 79 2区1号土坑出土遺物(3)
- PL. 80 2区1号土坑出土遺物(4)
- PL. 81 2区1号土坑出土遺物(5)
- PL. 82 2区1号土坑出土遺物(6)
- PL. 83 2区1号土坑出土遺物(7)・3区7北区土坑出土遺物・埋設土器(1)
- PL. 84 埋設土器(2)・1区ビット出土遺物(1)
- PL. 85 1区ビット出土遺物(2)・2区・7北区ビット出土遺物
- PL. 86 5区遺構外出土遺物(1)
- PL. 87 5区遺構外出土遺物(2)・1区遺構外出土遺物(1)
- PL. 88 1区遺構外出土遺物(2)
- PL. 89 1区遺構外出土遺物(3)
- PL. 90 1区遺構外出土遺物(4)
- PL. 91 1区遺構外出土遺物(5)
- PL. 92 1区遺構外出土遺物(6)
- PL. 93 1区遺構外出土遺物(7)
- PL. 94 1区遺構外出土遺物(8)
- PL. 95 1区遺構外出土遺物(9)
- PL. 96 1区遺構外出土遺物(10)
- PL. 97 1区遺構外出土遺物(11)
- PL. 98 1区遺構外出土遺物(12)
- PL. 99 2区遺構外出土遺物(1)
- PL. 100 2区遺構外出土遺物(2)
- PL. 101 2区遺構外出土遺物(3)
- PL. 102 2区遺構外出土遺物(4)
- PL. 103 3区・4区遺構外出土遺物
- PL. 104 7区遺構外出土遺物(1)
- PL. 105 7区遺構外出土遺物(2)・6区遺構外出土遺物
- PL. 106 1. 1号竪穴建物全貌(西から)
 2. 1号竪穴建物断面(南から)
 3. 1号竪穴建物出土状況(西から)
 4. 1号竪穴建物出土状況(西から)
 5. 1中区2号土坑全貌(南から)
 6. 1中区2号土坑断面(南から)
 7. 1中区3号土坑全貌(東から)
 8. 1中区3号土坑断面(東から)
 9. 1中区5号土坑全貌(南から)
 10. 1中区5号土坑断面(南から)
 11. 1中区5号土坑遺物出土状況(東から)
- PL. 107 古代窓穴建物・土坑・遺構外出土遺物
 1. 1中区1号窓穴状遺構全貌(南から)
 2. 1中区1号窓穴状遺構全貌(西から)
 3. 1中区1号窓穴状遺構断面(南から)
 4. 1中区1号窓穴状遺構床面(東から)
- PL. 108 1. 5区245号土坑全貌(東から)
 2. 5区245号土坑断面(南から)
 3. 5区249号土坑全貌(東から)
 4. 5区249号土坑断面(東から)
 5. 5区250号土坑断面(南から)
 6. 5区251号土坑全貌(南から)
 7. 5区251号土坑断面(南から)
 8. 5区252号土坑全貌(南から)
 9. 5区252号土坑断面(南から)
 10. 5区253号土坑全貌(南東から)
 11. 5区253号土坑断面(南東から)
 12. 1中区1号土坑全貌(南から)
 13. 1中区1号土坑断面(南から)
 14. 1中区8号土坑全貌(南から)
 15. 1中区8号土坑断面(南から)
- PL. 109 1. 1中区7号土坑全貌(南から)

2. 1中区7号土坑断面(南西から)
 3. 1中区9号土坑全景(南西から)
 4. 1中区9号土坑断面(南西から)
 5. 1中区11号土坑全景(南西から)
 6. 1中区11号土坑断面(南東から)
 7. 1中区13号土坑全景(南東から)
 8. 1中区13号土坑断面(南東から)
 9. 1中区20号土坑全景(北西から)
 10. 1南区21号土坑全景(北東から)
 11. 1南区21号土坑全面(北東から)
 12. 1南区27号土坑全景(南東から)
 13. 1南区27号土坑断面(南東から)
 14. 1南区27号土坑遺物出土状況(南東から)
- PL. 110 1. 2区91号土坑全景(南西から)
 2. 2区91号土坑断面(南西から)
 3. 2区92号土坑全景(南から)
 4. 2区92号土坑断面(南から)
 5. 2区93号土坑断面(南から)
 6. 2区95号土坑全景(南東から)
 7. 2区95号土坑断面(南東から)
 8. 2区97号土坑全景(北西から)
 9. 2区98号土坑全景(南西から)
 10. 2区98号土坑断面(南西から)
 11. 2区99号土坑全景(北西から)
 12. 2区99号土坑断面(北東から)
 13. 2区113号土坑全景(西から)
 14. 2区113号土坑断面(西から)
 15. 3区65号土坑全景(南から)
- PL. 111 1. 3区65号土坑断面(南から)
 2. 3区66号土坑全景(東から)
 3. 3区67号土坑全景(西から)
 4. 3区67号土坑断面(南東から)
 5. 3区68号土坑全景(南から)
 6. 3区68号土坑断面(南から)
 7. 3区69号土坑全景(東から)
 8. 3区71号土坑全景(南東から)
 9. 3区71号土坑断面(南東から)
 10. 3区72号土坑全景(南から)
 11. 3区72号土坑断面(南から)
 12. 3区73号土坑断面(南東から)
 13. 3区77号土坑全景(東から)
 14. 3区77号土坑断面(南から)
 15. 3区78号土坑全景(南東から)
- PL. 112 1. 3区78号土坑断面(南東から)
 2. 3区81号土坑全景(南東から)
 3. 3区82号土坑全景(南東から)
 4. 3区83・84号土坑全景(南西から)
 5. 3区83号土坑断面(南西から)
 6. 3区84号土坑断面(南西から)
 7. 3区85号土坑全景(南から)
 8. 3区85号土坑断面(南西から)
 9. 3区86号土坑全景(南から)
 10. 3区86号土坑断面(南から)
 11. 3区87・90号土坑全景(南東から)
 12. 3区90号土坑断面(南東から)
 13. 3区88号土坑全景(南東から)
 14. 3区88号土坑断面(東から)
 15. 3区89号土坑全景(北東から)
- PL. 113 1. 3区89号土坑断面(北東から)
 2. 4区22号土坑全景(南東から)
 3. 4区22号土坑断面(南東から)
 4. 4区23号土坑全景(北西から)
 5. 4区23号土坑断面(北西から)
 6. 4区24号土坑全景(北西から)
 7. 4区24号土坑断面(西から)
8. 4区25号土坑全景(北から)
 9. 4区25号土坑断面(北から)
 10. 4区26号土坑全景(南西から)
 11. 4区26号土坑断面(南西から)
 12. 4区28号土坑全景(北東から)
 13. 4区28号土坑断面(北東から)
 14. 4区29号土坑断面(北西から)
 15. 4区46号土坑全景(南西から)
- PL. 114 1. 5区4号溝全景(北から)
 2. 5区4号溝断面(東から)
 3. 1中区1号溝全景(北東から)
 4. 1中区1号溝断面(南西から)
 5. 1南区3号溝全景(北西から)
 6. 7北区7号溝全景(南東から)
 7. 3区2号溝全景(南西から)
- PL. 115 1. 3区2号溝断面(南西から)
 2. 6-5区5号溝全景(南西から)
 3. 6-5区5号溝断面(北東から)
 4. 6-5区5号溝断面(南西から)
- 中近世窓穴状構造・土坑出土遺物
- PL. 116 中近世遺構外出出土遺物
1. 5区旧石器Aトレンチ全景(南から)
 2. 5区旧石器Aトレンチ断面(南から)
 3. 5区旧石器Bトレンチ全景(南から)
 4. 5区旧石器Bトレンチ断面(南から)
- PL. 117 1. 5区旧石器Bトレンチ断面(南から)
 2. 1北区旧石器Cトレンチ全景(南から)
 3. 1北区旧石器Cトレンチ断面(南から)
 4. 1北区旧石器Dトレンチ全景(南から)
 5. 1北区旧石器Dトレンチ断面(南から)
 6. 1中区旧石器Eトレンチ全景(東から)
 7. 1中区旧石器Eトレンチ断面(東から)
 8. 1中区旧石器Fトレンチ全景(東から)
 9. 1中区旧石器Fトレンチ断面(東から)
 10. 2区旧石器Gトレンチ断面(南から)
 11. 3区旧石器Hトレンチ全景(東から)
 12. 3区旧石器Hトレンチ断面(東から)
 13. 4区旧石器Iトレンチ全景(南から)
 14. 4区旧石器Iトレンチ断面(南から)
 15. 4区旧石器Jトレンチ断面(東から)

第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1節 調査に至る経緯

群馬県は「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」を推進しており、道路ネットワークの整備を進めることで県内循環の効果を高めるとともに、安全・安心な生活基盤・経済基盤を築くことを目指している。主要地方道桐生伊勢崎線は、7つの交通軸の一つである「渡良瀬軸」の中核をなす幹線道路であり、地域や産業の発展に資するため、市街地の渋滞解消と高速交通網を補完する道路として、また桐生市・みどり市域から北関東自動車道太田戸塚J.Cへのアクセス道路として、現状の2車線から4車線への道路改良事業が進められることとなった。事業地はみどり市笠懸町阿左美～太田市大原町までの総延長3,200mの区間であり、その事業地内に阿左美遺跡がかかることとなった。

これを受けて群馬県桐生土木事務所(以下、県桐生土木事務所という)から群馬県教育委員会文化財保護課(現群馬県地域創生部文化財保護課、以下、県文化財保護課といふ)に対し、事業地内での埋蔵文化財の有無について照会があった。阿左美遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、事業地内での本調査をする地区を確定するため、県文化財保護課により①平成30(2018)年1月、②同年10月、③令和元(2019)年6月、④同年10月の4度にわたって試掘・確認調査が実施された。これにより本調査をする地区が確定し、県桐生土木事務所と県文化財保護課との調整を経て、公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を受託することになった。①の試掘・確認調査結果に基づき、平成30年12月1日付で県桐生土木事務所と当事業団との間に発掘調査の委託契約が締結され、平成31年1月から本報告の1中・1南区、2～4区の発掘調査を実施することとなった。また、②～④の試掘・確認調査結果に基づき、令和2年3月31日付で県桐生土木事務所と当事業団との間に発掘調査の委託契約が締結され、令和2年4月から本報告の1北区、5～7区の発掘調査が実施されることとなった。

第2節 遺跡の位置と地形

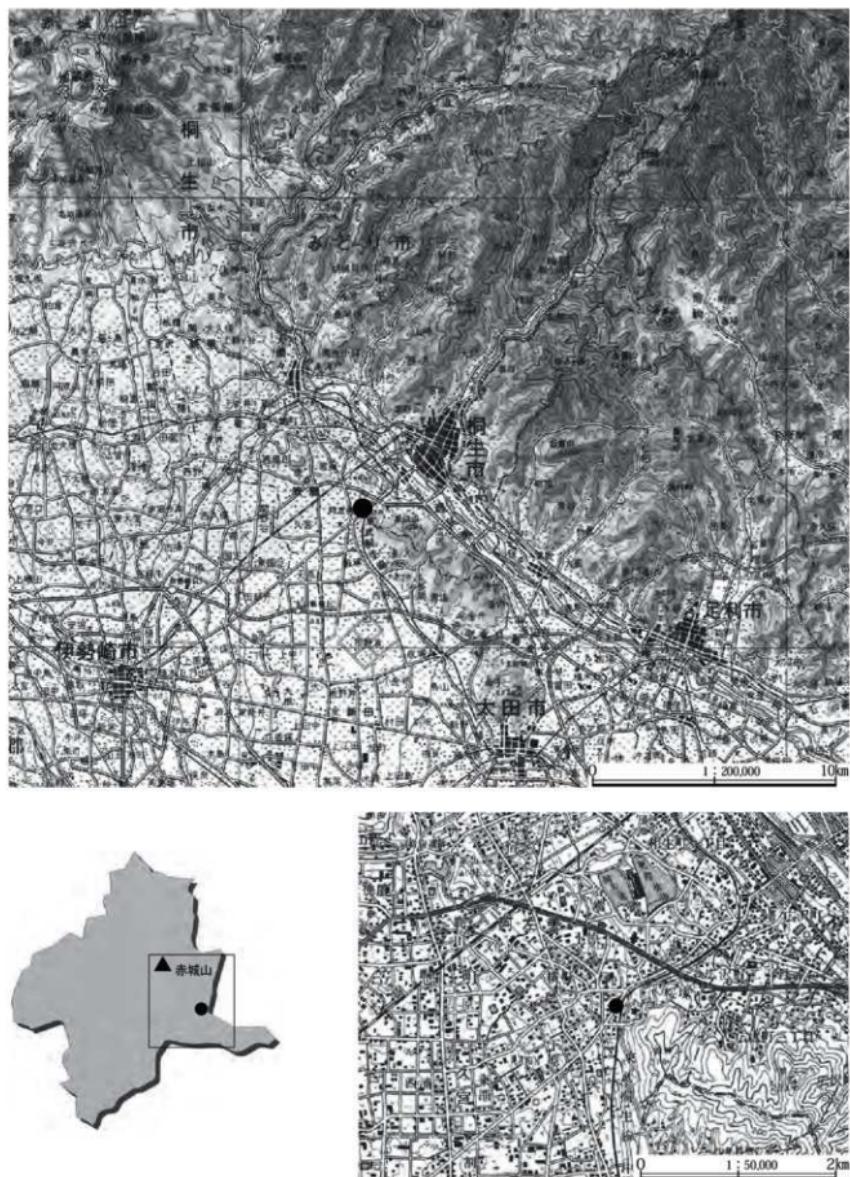
1 みどり市笠懸町の地形

阿左美遺跡のあるみどり市笠懸町は、群馬県東部の赤城山麓と足尾山地、八王子丘陵が接する地点に位置する。赤城山麓と足尾山地の間には渡良瀬川が流下しており、山地から平地に地形が変換する谷口以南に大きな扇状地が形成されている。町内は、このような丘陵性の地形と扇状地、谷底平野からなる平野の地形に大きく分けられる。

みどり市笠懸町内の中央北寄りには、鹿田山丘陵、天神山丘陵、稻荷山・琴平山丘陵の三つに丘陵が島状に分離してあり、東南部には八王子丘陵最北端の荒神山がある。このうち、八王子丘陵の北東側、稻荷山・琴平山丘陵、鹿田山丘陵東南麓には秩父古生層が、鹿田山丘陵と天神山、ならびに八王子丘陵北端部の荒神山付近には第三紀層が分布している。これらの丘陵は一見独立しているが、渡良瀬川東遷に伴った扇状地形成期に削り残された一連の古い地形である。丘陵の頂部や周辺裾野には、旧石器時代・縄文時代の遺跡が集中して分布している。

一方、鹿田山丘陵西半部の緩斜面や、阿左美沼南岸から八王子丘陵北端の山麓斜面、阿左美東貯水池南岸から桐生市広沢一丁目に伸びる段丘状の低丘陵や小丘は、第四紀更新世の赤城火山梨木岩屑流堆積物で形成されている。梨木岩屑流堆積物は、古期赤城成層火山の山頂近く標高2500m付近から南東方向に崩落した岩屑流堆積物である。堆積物は凝灰角礫岩と呼ばれる地層で、火山砂と大小さまざまな火山岩を主とした角礫が淘汰されずに不均一に半固結状態に堆積している。この堆積物はかつて梨木泥流堆積物と呼ばれたが、その成因から水の関与しない一種の粉体流と解釈され、岩屑流または岩屑だれと呼ばれるようになった。

この梨木岩屑流堆積物の北西末端にあたるのが阿左美沼周辺で、扇状地形成以前に流出した梨木岩屑流堆積物の末端が、八幡山や諏訪山などの流れ山を形成している。



第1図 阿左美遺跡の位置

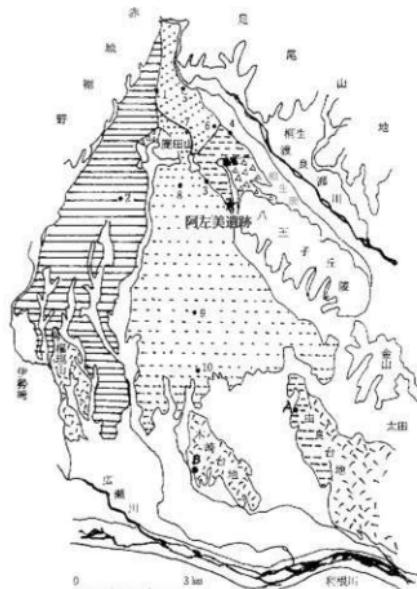
岩屑流堆積物の上位には湯之口軽石層は見られないが、下部ローム層相当以上のローム層が堆積している。周辺には旧石器時代・縄文時代の遺跡が多く分布している。

平野部の地形は、渡良瀬川によって形成された扇状地と谷底平野に分けられる。この扇状地は「大間々扇状地」と呼ばれており、みどり市大間々町を扇頂部とし、伊勢崎市と太田市を結ぶ線を扇端部とする南北約18km、扇端部の東西約13kmにおよぶ大規模な地形で、関東地方でも有数の規模を誇る。古く渡良瀬川が八王子丘陵の西側を流れていた時に運ばれた河床礫を基盤として形成され、その上位に関東ローム層が堆積した複数の地形面で構成されている。堆積している関東ローム層の堆積層序から、5万年前以前に降下した赤城湯ノ口軽石以降の中部ローム層以上が堆積した桐原面、3万数千年前に降下した赤城底沼軽石以降の中部ローム層以上が堆積した岩宿面、2万数千年前に降下した浅間板鼻褐色軽石群以降の上部ローム層が堆積した藪塚面、渡良瀬川が現流路に変流した以降に形成された大間々面と相生面に分けられている。相生面は渡良瀬川現流路左岸の河岸段丘としても

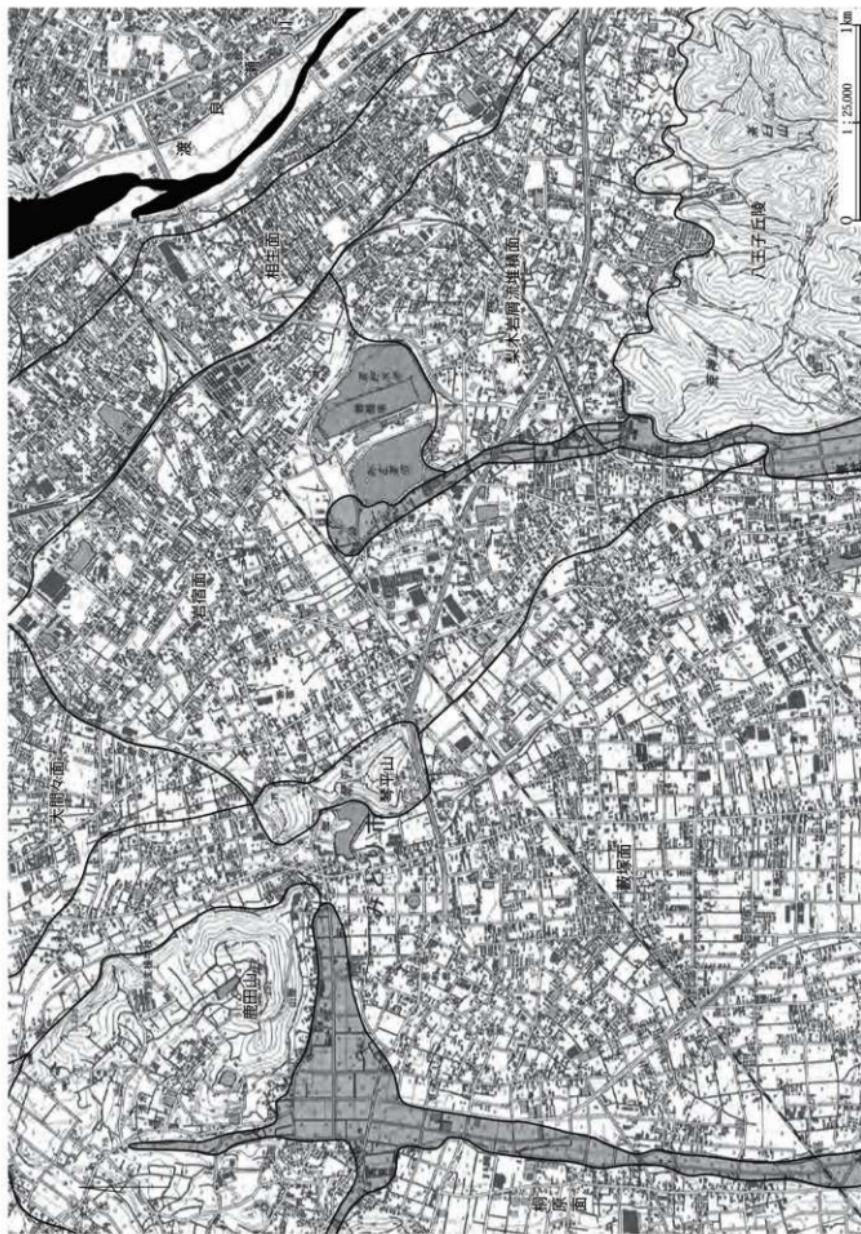
分類できる。

みどり市笠懸町域には大間々扇状地の桐原面、岩宿面、藪塚面が分布し、これら形成年代の異なる三つの扇状地面と谷底平野で構成されている。

桐原面はみどり市笠懸町寺内、金山、四津家を経て伊勢崎市赤堀町へ伸びる地形面で、西側には早川の谷、東側には天神山の西側に開野谷南部から伸びる浅い小さな谷が入り込んでいる。岩宿面は岡登用水の南側、桐生市相生町からみどり市笠懸町竹沢、岩宿、上原、仲町、生品神社に広がる地形面である。L字形をしており、形成過程が不明な地形面とされている。岩宿面の南東部には前述した赤城火山梨木岩屑流堆積物で形成された台地が接している。藪塚面は、鹿田山と稲荷山の狭窄部からみどり市笠懸町鹿の川、久宮、前鹿田、桃頭、横町、下原、さらに南に広がる地形面である。ここには桐原面のような浸食谷は発達せず、最も扇状地らしい扇形の形態を見せていている。藪塚面の東側には、扇側の谷底平野を隔てて八王子・金山丘陵が接している。



第2図 大間々扇状地の地形面(澤口2010「大間々扇状地—社会基盤としての自然環境—」図2・3を転載・追記)



第3図 阿左美遺跡周辺の地形区分



第4図 阿左美遺跡周辺の地形

2 阿左美遺跡の立地

阿左美遺跡は、前項で詳述した大間々扇状地の岩宿面南端部付近に立地する。大間々扇状地の扇側部にあたり、遺跡の東側眼前には八王子丘陵が連なっている。北方約1kmには阿左美沼がある。阿左美沼は湧水池であり、鹿田山北東方から流下する地下水が硬質かつ緻密な梨木岩肩堆積物にぶつかり、これに堰き止められて八幡山北西方で湧出しているものと考えられている。阿左美沼の北方、JR両毛線との間に他に4か所の湧水が分布し、この一帯は湿地帯が広がっていたとされる。この阿左美沼を源に小河川が発し、八王子丘陵の西裾部を流下して岩宿面との間に緩やかな谷底平野を開拓した。阿左美遺跡の東側は、この谷底平野に接している。遺跡の西側は藪塚面との境界となり、比高5m程の段丘崖を形成している。旧渡良瀬川が藪塚面を形成する際、琴平山から南東方向に岩宿面を削り出しており、八王子丘陵との間にV字状に細長く伸びる残丘状の台地を形成した。阿左美遺跡は、その台地の先端から700m程奥まった場所、東に谷底平野、西に段丘崖を望む場所に占地する(第4図)。東西幅はおよそ350m、標高は123m程である。

第3節 周辺の遺跡

本書では、主に縄文時代の遺構と遺物についての報告であるので、これと対比するため周辺の縄文遺跡について概観することにする。

第5図を見ると、縄文時代の遺跡分布は①鹿田山・琴平山丘陵の周辺、②阿左美沼の周辺、③大間々扇状地藪塚面東側の扇側部、④八王子丘陵西側裾部の大きく4地区に分類することができる。第5図の遺跡は、群馬県が公開している「マッピングぐんま『遺跡・文化財』」をもとに作成したもので遺跡の範囲全体を示しているが、③地区的縄文遺構・遺物の分布は、東武桐生線線路と東側の谷底平野との間であることを付記しておく。この4地区に共通することは、湧水や湧水から流下する小河川がそばにあることであり、縄文人が居住するのに適した場所だったといえるだろう。以下、時期ごとに遺跡の分布状況について一瞥してみたい。

草創期 藪塚面に立地する鹿の川遺跡(11)で、爪型土

器が出土している。琴平山からは少し離れており、やや異質な立地に見えるが、すぐ脇に鹿の川沼から発する身無川という小河川が流下している。そのほか、堀上遺跡(14)で石槍1点、稲荷山遺跡(20)で有茎尖頭器1点が出土している以外は確認されていないようだ。第5図の範囲外になるが、西鹿田中島遺跡が重要であるので紹介しておく。西鹿田中島遺跡は大間々扇状地桐原面上に立地し、鹿田山丘陵の西端部から300m程西方の場所にある。西側を早川、東側を鹿田山丘陵北西方の湧水から流下する小河川によって開拓された谷が合流して舌状台地を形成、この舌状台地の先端部に占地する。爪型土器、多繩文土器の2時期にわたる住居状遺構や土坑・遺物集中部が検出され、東日本を代表する草創期遺跡として平成16年に国指定史跡となっている。

早期 早期の遺跡は比較的多く確認されている。群馬県内での早期の検出例はあまり多くないことを考えると、早期遺跡が集中する地域と言ってもよいであろう。

①地区の清水北口遺跡(24)、向山遺跡(25)で燃糸文期の堅穴建物が確認されている。清水北口遺跡と向山遺跡は谷を挟んで東西の位置関係にあり、清水北口遺跡で稲荷台式期、向山遺跡で東山式期の堅穴建物が検出されている。清水北口遺跡では他に炉穴が調査され、茅山下層式が出土している。向山遺跡では東山式・押型土器がまとまっている。②地区で他に遺物だけを出土した遺跡に岩宿(9)、鹿の川(11)、沢田(13)、堀上(14)、清水山(17)、稲荷山(20)、和田(26)の各遺跡がある。岩宿遺跡(9)は遺跡範囲が広いが、早期の遺物が出土しているのはC地点と呼ばれる稲荷山の南斜面である。燃糸文・押型文・沈線文土器が出土している。清水山遺跡(17)も同様の内容である。稲荷山遺跡(20)では、燃糸文・押型文・沈線文・条痕文と多時期にわたる遺物が出土している。鹿の川遺跡(11)では井草式などの燃糸文前半期があるほか、後半期の東山式、押型文土器、条痕文土器が出土している。和田遺跡(26)では燃糸文後半期にあたる稲荷原式や東山式、無文土器がまとめて出土しており、集石遺構も確認されている。③地区では北山遺跡(3)、浅海八幡遺跡(4)がある。浅海八幡遺跡(4)は梨木岩肩堆積物北西末端の流れ山である八幡山上にあり、稲荷原式や東山式の燃糸文後半期や条痕文土器が出土している。北山遺跡(3)は八幡山の南東裾部に伸びる高台で、浅海

八幡遺跡と同時期の撫糸文土器の出土を見る。③地区では宮久保遺跡(28)、元屋敷遺跡(35)で条痕文土器の出土が見られる。④地区でも、丘陵部にあたる台山遺跡(37)で押型文土器と縄文施文土器、撫糸文期終末と考えられる無文土器が出土している。

早期については撫糸文期の出土が多いが、その分布は①地区的丘陵部や②地区的流れ山周辺、④地区的丘陵部といった比較的標高の高い場所にほぼ限定されるようである。後半の条痕文期になると、③地区でも見られるようになり、丘陵部からより低位に活動域を拡げている様子が看取される。

前期 前期になると当地域で本格的に集落を展開するようになる。しかし、前葉期の調査事例はほとんどなく、北山遺跡(3)で関山I式期の竪穴建物が1棟検出されているにすぎないようだ。黒浜式期以降、各地で遺跡が確認されるようになり、特に諸磯a式期は充実した様相を見せる。①地区的清水山遺跡(17)、稻荷山遺跡(20)、②地区的北山遺跡(3)、阿左美沼北遺跡(6)、④地区的台山遺跡(37)、滝之入前遺跡(40)で集落が調査されている。③地区での竪穴建物の検出例は、今のところないようである。

①地区的稻荷山遺跡(20)は、鹿田山丘陵北西端裾部の南面する緩斜面に立地し、黒浜式期～諸磯b式期の竪穴建物18棟、土坑約80基が検出されている。遺構外として諸磯c式、十三菩提式の出土を見る。清水山遺跡(17)は、鹿田山丘陵北東部の南斜面に立地する。諸磯a式期の竪穴建物4棟、土坑90基ほどが調査されている。竪穴建物が散在的であり、その周間に土坑が分布するあり方は、当該期の集落構造を考えるうえで重要な資料となる。清水北口遺跡(24)では、諸磯a式期の土坑が調査されている。②地区的阿左美沼北遺跡(6)では、諸磯a式期の竪穴建物1棟、土坑4基が、北山遺跡(3)で諸磯a式期の竪穴建物4棟、諸磯c式期の竪穴建物1棟、土坑170基ほどが検出されている。④地区的台山遺跡(37)は、八王子丘陵の一支部上にある。諸磯a式期の竪穴建物2棟、土坑20基あまりが確認されている。滝之入前遺跡(40)は、八王子丘陵の一支部西端裾部、西に谷底平野を望む低台地上にある。諸磯a式期の竪穴建物1棟が検出されている。遺物だけの出土を見ても黒浜式～諸磯a式が多く、鹿清水(19)、浅海八幡遺跡(4)があり、谷端遺跡(5)

で諸磯a式が出土、向山遺跡(25)で諸磯b～c式がまとまっている。元屋敷遺跡(27)では下島式の出土が見られる。

前期後葉期の遺跡立地も、早期撫糸文期と同様の傾向が見受けられる。

中期 前葉～中葉は少なく、遺物の出土が散発的に見られる程度で竪穴建物の検出例はない。後葉期についても、一般的に大規模集落が形成される時期であるが、そうした遺跡を見ることができない。①地区的堀上遺跡(14)、清水山遺跡(17)で竪穴建物が確認されている。堀上遺跡(14)では、加曾利E2式期の竪穴建物1棟、土坑2基が検出され、遺構外に中期中葉期、加曾利E4式が見られる。竪穴建物は中央に軒柱土器を埋設し、周囲に40個の円碟を敷きつめた特徴的な炉を備えている。清水山遺跡(17)では、加曾利E3式期の竪穴建物1棟、土坑数基が調査されている。

当地域で確認された竪穴建物は上記したのみであり、集落が拡大傾向にある中期後葉期としては少ない印象を受ける。遺物のみを出土した遺跡も少なからずあるが、みな出土量は断片的である。なお、みどり市職員である小菅将夫氏の「清泉寺裏遺跡で二つの環状集落が接するように残され、発掘調査が及んだだけでも70軒余りの住居跡が検出されており、当該時期の典型的な大集落として位置づけられる。」との報告があるが(小菅2010)、報告書が確認できなかったため詳細は不明である(23)。

後期 後期の遺跡も多くはない。①地区的沢田遺跡(13)で前葉期と思われる竪穴建物5棟、土坑8基、埋設土器3基が検出されているが、詳細は不明である。竪穴建物のなかには敷石住居も見られる。沢田遺跡は稻荷山・琴平山丘陵西側裾部に広がる平坦地にあり、南に鹿の川沼を望む位置にある。③地区的中原遺跡(31)でも敷石住居1棟が検出されている。生品神社境内で見つかり、現在、境内南方に移設されて露出展示されている。詳細な時期は不明であるが、後期前葉ないし中期末葉期であろう。遺物のみを出土する遺跡も、中期同様、出土量は断片的である。宮久保遺跡(28)で、称名寺II式～加曾利B式がわずかずつ、石之塔遺跡(30)で堀之内1式、加曾利B式的個体土器が見られる。元屋敷遺跡(35)では、称名寺I式、堀之内2式が確認できるほか、後葉期の安行1式の出土が特筆される。

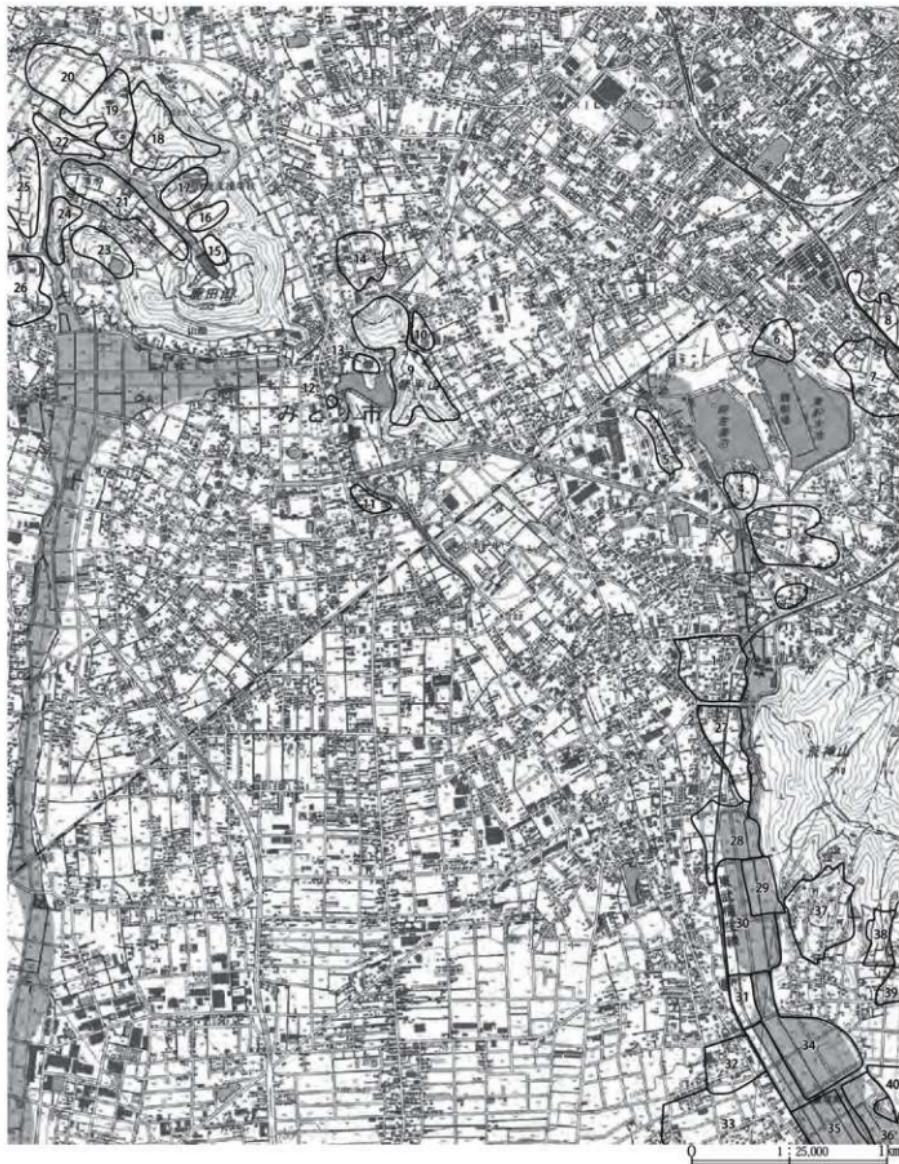
第1章 発掘調査と遺跡の概要

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	不明	文献
1	阿左美		○	○	●	●			「阿左美遺跡調査概報」1983笠懸村教委、「笠懸村誌」別巻一1983笠懸村、「群馬県史」資料編1988群馬県、「笠懸町内遺跡」[同]1993・1995笠懸町教委、「みどり市内遺跡1」[同]2、「同3」[同]4、「同8」[2010・2011・2012・2013・2018]みどり市教委、本書
2	桜塚							○	
3	北山	○	●	○					「北山遺跡」[2012群理文、「みどり市内遺跡4」[同5]2013・2014みどり市教委
4	浅海八幡	○	○						「みどり市内遺跡5」[2014みどり市教委
5	谷端		○						「みどり市内遺跡5」[2014みどり市教委
6	阿左美沼北			●					「笠懸町内遺跡」[1993笠懸町教委
7	伊勢原							○	
8	清水西							○	
9	岩宿	○	○						「群馬県史」資料編1988群馬県
10	岩宿Ⅱ							○	「岩宿Ⅱ遺跡」[2021みどり市教委
11	鹿の川	○	○						「みどり市の縄文土器」2009岩宿博物館、「みどり市内遺跡5」[2014みどり市教委
12	湘西							○	
13	沢田	○			●				「笠懸町内遺跡」[1993笠懸町教委
14	屋上	○	○	○	●	○			「屋上遺跡」[2011みどり市教委
15	大平山西							○	
16	雄子野							○	
17	清水山	○	●	●					「清水山遺跡」[1985群理文
18	道幅							○	
19	鹿清水		○						「みどり市内遺跡4」[2013みどり市教委
20	福荷山	○	○	●	○	○			「笠懸村福荷山道路」[1980笠懸村教委
21	清水西丘				○	○			「笠懸村誌」別巻一1983笠懸村、「笠懸町内遺跡II」[1995笠懸町教委
22	福荷山V							○	
23	清泉裏			●					「笠懸村誌」別巻一1983笠懸村、「みどり市の縄文土器」2009岩宿博物館
24	清水北口	●	○						「笠懸町内遺跡II」[1995笠懸町教委、「みどり市内遺跡3」[同5]2012・2014みどり市教委
25	向山	●	○	○	○	○			「笠懸村向山遺跡」[1985笠懸村教委、「みどり市内遺跡3」[同5]2012・2014みどり市教委
26	和田	○	○	○	○	○			「笠懸村和田遺跡」[1981笠懸村教委
27	元屋敷(笠懸)	○	○						「笠懸町内遺跡II」[1995笠懸町教委
28	宮久保	○	○	○	○				「宮久保遺跡」[2016群理文
29	堂ノ下							○	
30	石之塔					○	○		「石之塔遺跡」[1987藪塚本町教委
31	中原				○	●			「中原遺跡概報」[1986藪塚本町教委
32	中原下							○	
33	萩林							○	
34	新井前							○	
35	元屋敷(藪塚)	○	○	○	○				「元屋敷遺跡」[1983藪塚本町教委
36	三島前							○	
37	台山	○	●		○				「藪塚遺跡台山地点」[1990藪塚本町教委
38	東台山							○	
39	滝之入				●				「藪塚本町誌」上巻1991藪塚本町教委
40	滝之入前			●	○	○	○		「滝之入前遺跡」[1985藪塚本町教委

晩期 晩期では③地区にある石之塔遺跡(30)が注目される。前葉期の所産で、竪穴建物の検出は認められていないものの、石圓柱と考えられる石組が4か所確認されており、竪穴建物であった可能性がある。また、土坑や配石遺構、埋設土器等が確認されているほか、遺物収納箱500箱を超える膨大な遺物が出土している。土器・石器のほか、石錘・土錘など漁労に関わる遺物、土偶・土版・

岩版・耳飾り・石製裝身具・石棒・石劍などの精神的遺物など多様で豊富な遺物が出土しており、群馬県を代表する晩期遺跡の一つといえよう。ほか、向山遺跡(25)で千網式の出土が1点見られる。また、滝之入前遺跡(40)で後葉期の土器が出土している。報告書中では弥生土器として報告されているが、折り返し状の肥厚口縁に縄文が施されしており、該期に比定できよう。



第5図 周辺の遺跡

第4節 発掘調査の方法と経過

1 調査区の設定

道路拡幅という事業の性格上、幅は狭く長さが長い調査区の発掘調査を行うことになる。平成30年度は桐生伊勢崎線の西側、幅約12m、長さ約200mの範囲が調査対象となった。間には脇に入る市道や生活道路が各所にあって分断されるため、便宜的に北から1～4区を設定した。令和2年度は平成30年度のさらに北側と道路反対側が調査対象地となり、平成30年度1区のすぐ北側を1区の残地として1区の名称を用い、その北を5区、道路反対側を南から6、7区とした。6区は調査区が細分されることから、さらに南から6区-1, 6区-2, 6区-3, 6区-4, 6区-5と呼称した。最終的に調査区の総延長は約335mとなった(第6図)。

整理段階になり、遺構の分布傾向を細かく見るため、

令和2年度1区を1北区、平成30年度1区のうち西側がくびれる地点から北側を1中区、南側を1南区とした。また6区を6-1, 6-2, 6-3, 6-4, 6-5区と呼び換え、さらに7区を7北区・7南区と呼称した(第7図)。

2 発掘調査の方法

発掘調査は、記録保存調査の方針に基づき、以下の通りとした。

- ①表土およびⅡ層の掘削には重機(バックホー)を用いた。除去後、ジョレン・移植ごて等により人力による遺構確認作業、遺構調査へと進めた。
- ②表土・Ⅱ層除去後、通常、Ⅲ層上面で古代・中近世の遺構調査を実施し、調査記録終了後、Ⅲ層(縄文包含層)の掘り下げを行うという調査手順を踏むが、Ⅲ層上面での遺構調査を行うことなく包含層調査に進んでいる。

- ③縄文時代の遺構を検出するため、グリッド毎あるいは区毎にⅢ層の掘り下げを行った。この作業により出土



第6図 調査区の設定

した包含層遺物は、一部ドットにより位置とレベルを記録したものもあるが、原則グリッド毎、区毎に一括して取り上げた。本書では、これらを遺構外出土遺物として扱っている。

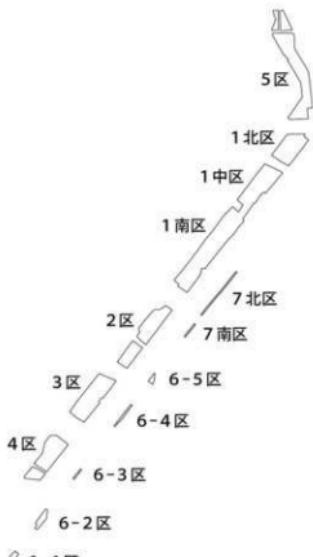
④縄文時代の遺構確認面はⅢ層下部、ないしローム層上面である。同一面で中近世遺構の調査も行った。

⑤遺構の掘削は、遺構の平面形を確認した上で土層観察用のベルトを設定し、移植ごて等により埋土の掘り下げを行った。原則として、竪穴建物は十字、土坑等は半蔵によっている。

⑥検出した遺構の番号は、区に関わらず通し番号とした。

⑦遺構内の遺物取り上げについては、個体や遺構の帰属時期を比定しうる破片等は、No.を付して位置とレベルを記録し、それ以外は遺構一括として取り上げた。

⑧遺構測量は外部委託とし、調査担当者の指示の下、トータルステーションによるデジタル遺構図を作成した。縮尺は1/20を基本とし、状況に応じて1/10で記録した。また、1/100、1/200の全体図を作成した。



第7図 本書における調査区呼称

⑨記録写真は、デジタルカメラ(Canon EOS Kiss Digital N)と6×7判モノクロフィルムによる撮影を行った。また、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影、高所作業車による高所からの撮影を行った。

⑩縄文時代の遺構調査終了後、旧石器時代の確認調査を実施した。

⑪市街地での調査であるため、通常以上に安全対策等、細心の注意を払って調査を進めた。

3 発掘調査の経過

平成30年度は平成31年1月から調査を開始した。排土置き場を確保するため、1区を南北、3区を東西に分割して調査を行わなければならず、手間と時間がかかった。令和2年度調査においても、やはり排土置き場確保のため5区を南北に2分して調査を実施した。また、6、7区は非常に狭小な調査区であり、0.35m²バックホーのバケット1個分の幅しか取れず、遺構確認・遺構調査に困難を極めた。前項の調査方針に基づいて調査を進め、令和2年6月30日に全調査を終了した。

全体的に調査区が狭小なうえ、片側は交通量の多い桐生伊勢崎線に接し、反対側には店舗や民家があるという発掘調査には厳しい環境のなかでの調査となった。

阿左美遺跡日誌抄

〈平成30年度〉

1月4日	1区北半より調査着手
1月17日	1号竪穴建物全景写真撮影
1月21日	4区調査着手
1月28日	1区北半・4区高所作業車による全景写真撮影
1月29日	4区旧石器確認調査着手
1月30日	1区北半旧石器確認調査着手
1月31日	3区東半調査着手
2月4日	1区南半調査着手
2月8日	3区西半調査着手
2月12日	2区調査着手
2月18日	ラジコンヘリコプターによる全景写真撮影
2月27日	2号竪穴建物全景写真撮影
3月5日	4号竪穴建物全景写真撮影
3月7日	3号竪穴建物全景写真撮影

3月14日	1区南半・2区高所作業車による全景写真撮影	4月24日	5区南半調査着手
	影	4月27日	6-5区全景写真撮影
3月15日	2区旧石器確認調査着手	4月28日	6-2区全景写真撮影
3月31日	調査終了	5月7日	7北区5号竪穴建物全景写真撮影
<平成2年度>		5月18日	7南区全景写真撮影
4月1日	5区北半より調査着手	5月21日	5区南半全景写真撮影
4月16日	5区北半全景写真撮影	5月26日	1区調査着手
4月17日	6区調査着手	6月5日	1区旧石器確認調査着手
4月21日	5区北半旧石器確認調査着手、6-4区全景写真撮影、7区調査着手	6月30日	全調査終了
4月22日	6-1区全景写真撮影		
4月23日	6-3区全景写真撮影		

4 基本土層

基本土層は右の模式図のとおりであるが、各区によつて少しづつ様相は異なる。以下、説明を加える。

I層 表土層 現耕作土

II層 黒褐色土 軽石を含む粗粒土

場所によってはI層と搅拌され、残っていない

III層 暗褐色土 繩文包含層

III層上面が本来の古代・中近世遺構確認面。

1北・1中区では攪乱が深くまで及び、堆積は認められなかった。5区についても、確認されたのは東側の低地部のみである。6、7区では明るさの違いによりIIIa(上層:明)、IIIb層(下層:暗)に分層される。縄文時代の遺構はIII層下部から判別できるようになる。

IV層 暗褐色土 減移層

V層 黄褐色ローム 上部にAs-YPを含む

VI層 黄褐色ローム As-OK1・OK2の可能性のある白色のテフラ粒子を含む

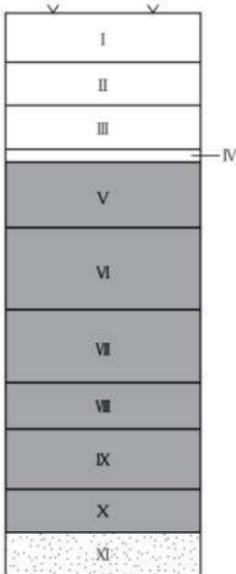
VII層 黄褐色ローム As-BPグループの可能性のある褐色のテフラ粒子を含む

VIII層 にぶい黄褐色ローム AT降灰相当のロームと考えられる

IX層 暗褐色ローム 暗色帯に相当するロームと考えられる

X層 黄褐色ローム 径30mm以下の砂礫を含む

XI層 灰色砂礫層 極小の砂粒から成る



第8図 基本土層模式図

第2章 繩文時代の調査

第1節 調査の概要

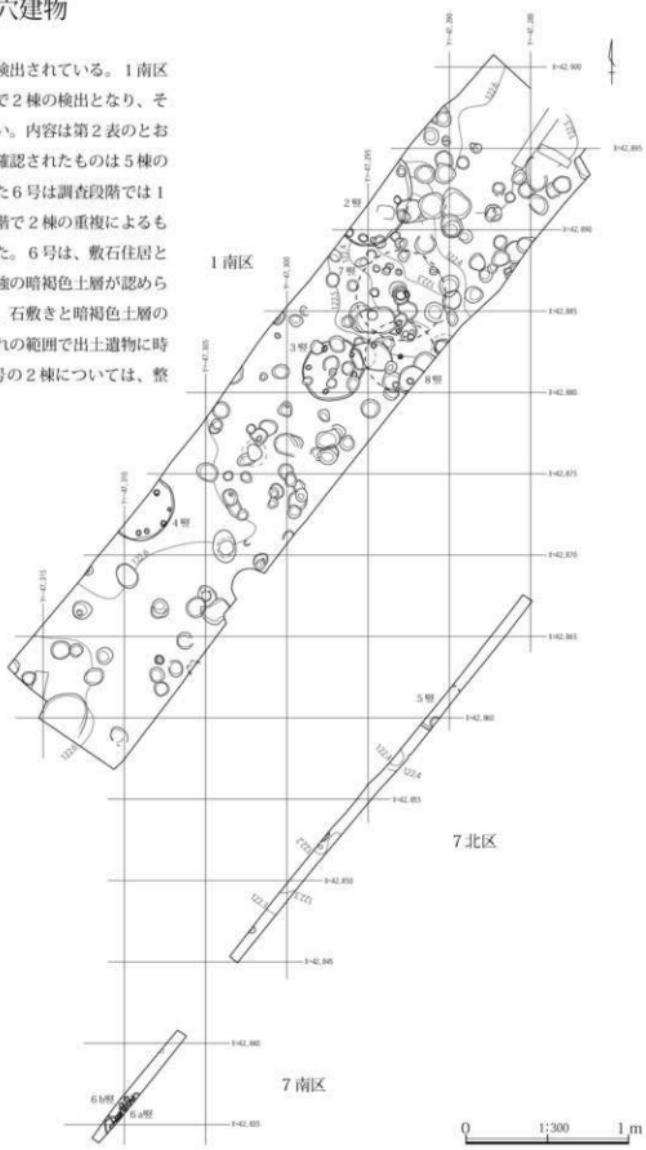
縄文時代の遺構は竪穴建物8棟、土坑214基、埋設土器6基、ピット227基となる。全調査区のほぼ中央にあたる1南区で遺構は濃密に分布し、竪穴建物5棟、土坑132基、埋設土器4基と遺構の半数以上が集中する。竪穴建物の時期は加曾利E3式、称名寺式期が主だが、土坑は加曾利E2式～堀之内2式期の集落と位置づけられよう。遺構は伴わないが、遺構外出土遺物として早期後葉・前期末葉～中期初頭・中期中葉期、加曾利B式土器もわずかだが見られ、何らかの土地利用があったのであろう。



第9図 縄文時代遺構(ピット除く)全体図

第2節 壴穴建物

本遺跡からは竪穴建物が8棟検出されている。1南区で5棟、7北区で1棟、7南区で2棟の検出となり、それ以外の区では確認されていない。内容は第2表のとおりである。しかし、調査段階で確認されたものは5棟のみであった。7南区で検出された6号は調査段階では1棟との認識であったが、整理段階で2棟の重複によるものと判断し、6a号・6b号とした。6号は、敷石住居と考えられる石敷きの下部に10cm強の暗褐色土層が認められ、掘り方として調査されたが、石敷きと暗褐色土層の範囲が一致しないこと、それぞれの範囲で出土遺物に時期差があることによる。7、8号の2棟については、整



第10図 竪穴建物全体図

第2表 穴穴建物一覧

番号	位置	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(cm)	方位	時期	新旧関係	備考
2	885,890-290,295	円形ないし 楕円形	現状 5.80	—	28	N11° W	加曾利E3式	57,143坑、97Pと重複 136Pに切られる	
3	875,880-295	楕円形	3.98	3.65	28	N43° E	加曾利E3式	144,153 ~ 156,316坑と重複。 259Pに切られる	
4	870-305,310	円形ないし 楕円形	現状 4.15	—	22	—	加曾利E3式		
5	855,860-285,290	不明	現状 3.15	—	6	—	不明	257坑、395 ~ 401Pに切られる	
6 a	835-305,310	不明 柄輪形か	—	—	0	N40° E	称名寺I式	6b穴を切る	敷石住居
6 b	835-305,310	円形ないし 楕円形	—	—	11	—	加曾利E3式	6a穴に切られる	整理段階で認識
7	880,885-290,295	不明 円形か	—	—	0	N27° W	加曾利E3式		整理段階で認識
8	880,885-285,290	不明 円形か	—	—	0	—	称名寺I式		整理段階で認識

理段階において新たに穴穴建物と認識したものである。7号は、139号土坑として調査された遺構が石圓炉として判断され、周囲から柱穴と考えられるピットが複数調査されていたことから、これらを含め穴穴建物とした。8号については、4号埋設土器が埋甕炉として判断され、7号同様、周囲からピットが複数調査されていたことから穴穴建物とした。7、8号については整理段階での認識であり、穴穴建物として確実に成立するとは言い切れないため、疑問点があれば土坑・埋設土器・ピット等それぞれの遺構として分離して考えていただきたい。

調査区の幅が狭いため建物全体を完掘できたのは3号のみであり、2、4号は東半部、7北・南区の5、6号はごく一部の調査であった。時期別では加曾利E3式期5棟、称名寺I式期2棟、時期不明1棟となる。

●2号穴穴建物

位置 885,890-290,295。1南区北部で検出。

規模 西半部が調査区外のため全体の規模は不明だが、円形ないし楕円形を呈すと考えられる。現状の最大径で5.80m、深さ28cmを測る。

方位 N-11°-W

床面 概ね平坦であり、硬化面も認められる。

炉 検出されなかった。小範囲だが、中央やや北西寄りで床面が焼けた痕跡が見られた。

埋甕 南壁際で検出された。東部は136号土坑に掘り込まれ、壊されている。径40cm、深さ22cmの掘り方に、深鉢の上部(1)を正位に埋設している。

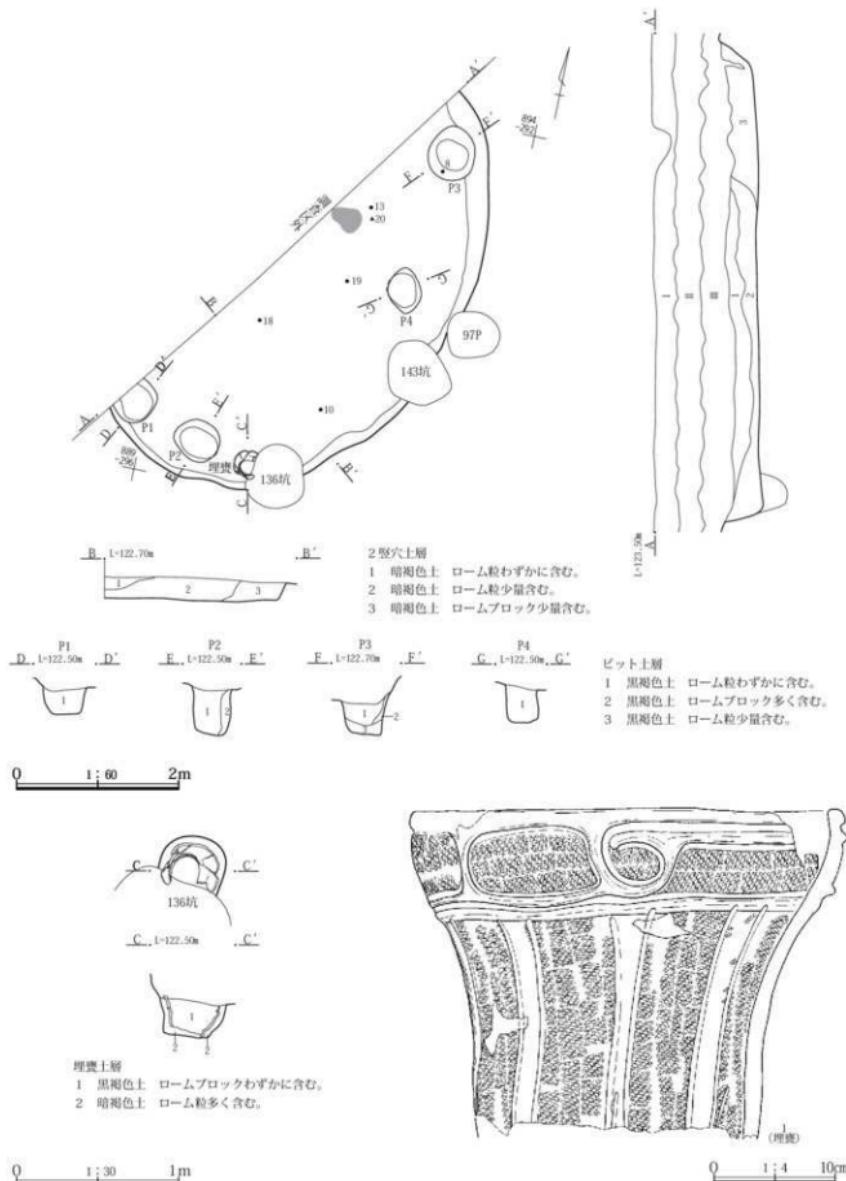
柱穴 周縁部で4基のピットが確認されている。掘り込

みはしっかりしているが、それほど深くないものが多い。各ピットの長径×深さは、P1:54×33cm、P2:57×56cm、P3:67×43cm、P4:56×45cmを測る。

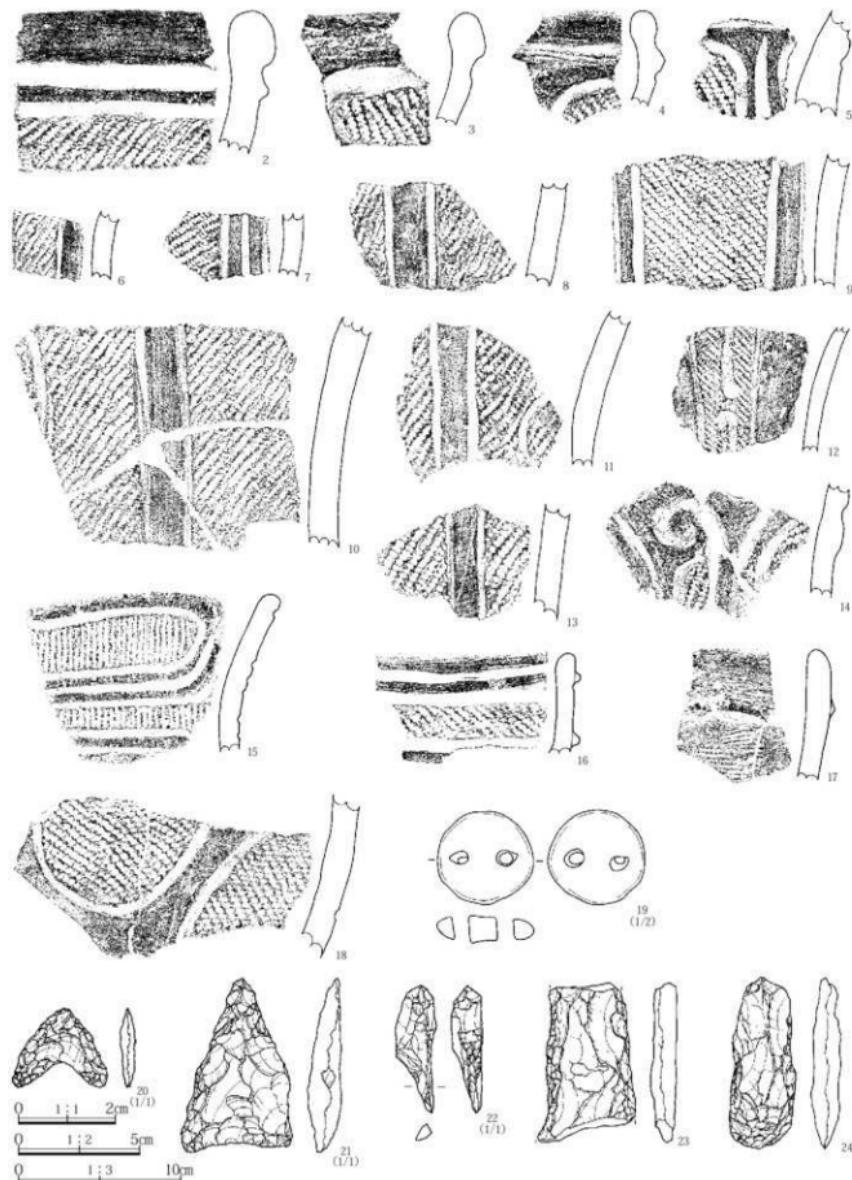
遺物 出出土器は932点と多いが、およそ半数は中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片である。時期比定できるものでは阿玉台式、加曾利E2式～堀之内1式が混在するが、その大部分を加曾利E3式が占める。阿玉台式は1点、加曾利E2式、E4式、称名寺式、堀之内1式はわずかである。No10、13、18が床面付近から、また床面からは浮いた状態ではあるがNo19の土製品が出土している。石器はチャート製の石錐3点、石錐1点、打製石斧3点、二次加工ある剥片2点、剥片39点が出土している。

時期 埋甕(1)や出土土器の状況から、加曾利E3式期と判断される。

重複 143号土坑、97号ピットと重複。136号土坑に切られる。



第11図 2号竖穴建物および出土遺物(1)



第12図 2号積穴建物出土遺物(2)

●3号竪穴建物

位置 875,880-295。1南区中央部で検出。

規模 主軸方向にやや長い楕円形で、長径3.98m、短径3.65m、深さ28cmを測る。

方位 N-43°-E

床面 概ね平坦であり、硬化面も認められる。

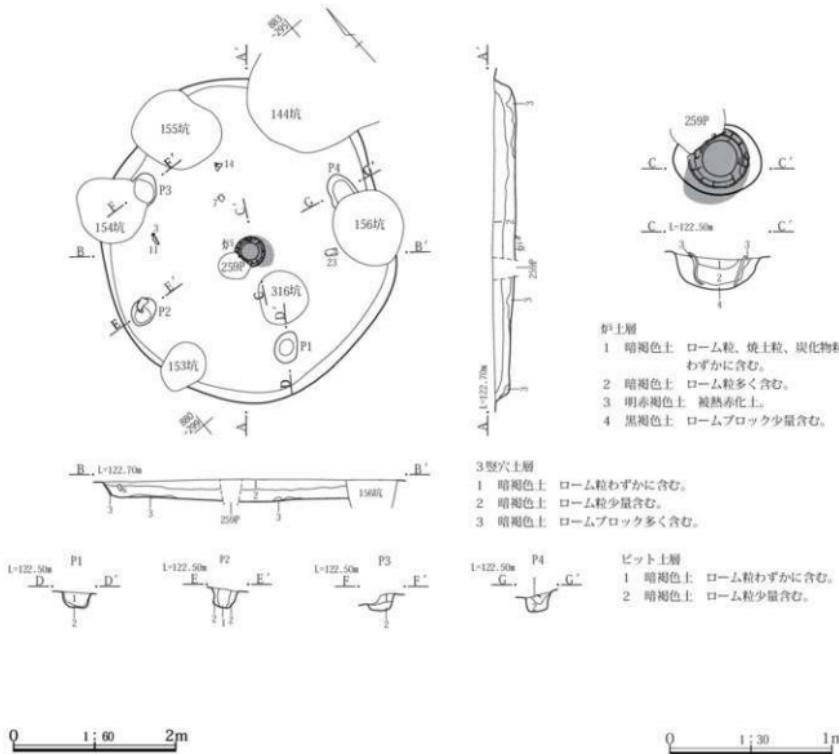
炉 ほぼ中央で埋甕炉が検出された。西側が若干259号ビットにより壊されている。径54×43cm、深さ20cmの楕円形の掘り方に、深鉢の胴上半部(1)を正面に埋設している。炉床付近では焼土が多く認められた。

柱穴 周縁部で4基のビットが確認されているが、規模も小さく浅いものが多い。各ビットの長径×深さは、P1:39×19cm、P2:36×21cm、P3:41×21cm、P4:短径35×18cmを測る。

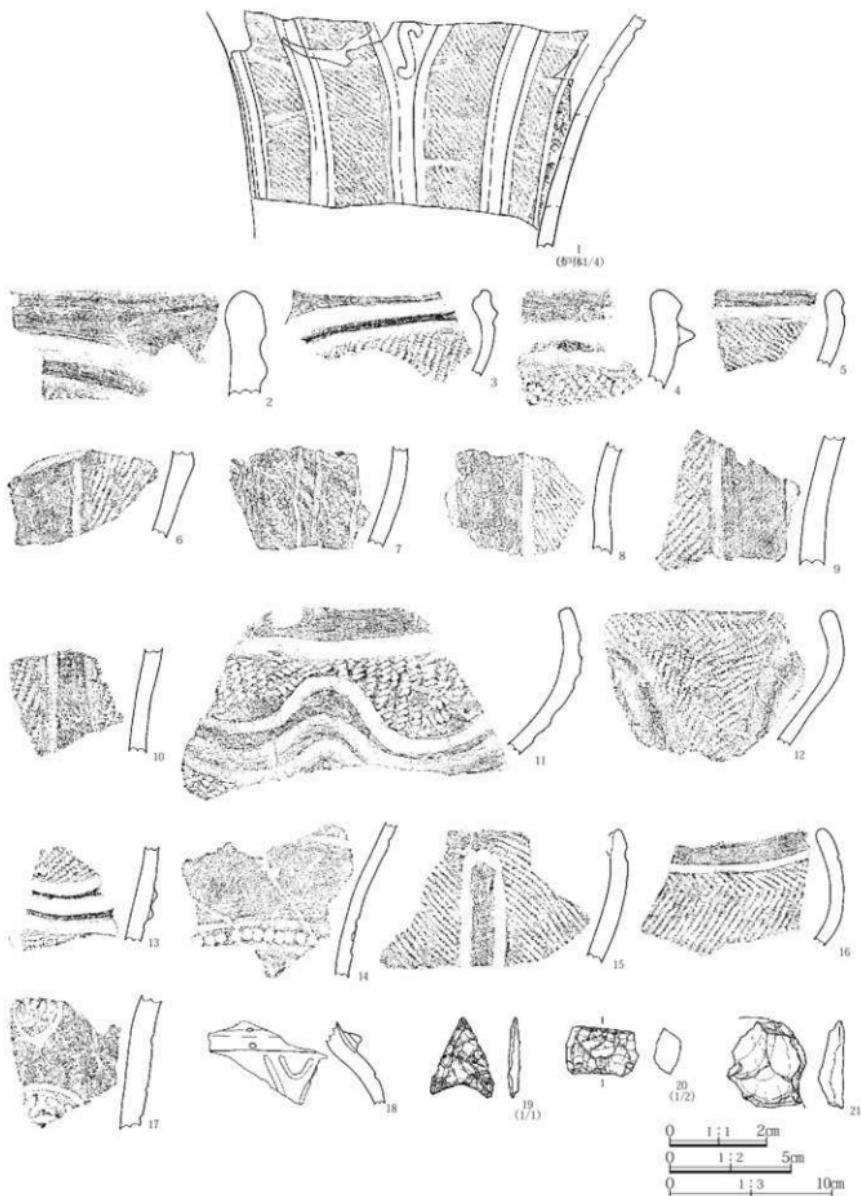
遺物 出土土器は571点で、およそ半数強は中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片である。時期比定できるものでは阿玉台式、加曾利E2式～堀之内1式が混在するが、その大部分を加曾利E3式が占める。阿玉台式は1点、加曾利E2式、E4式、称名寺式、堀之内1式はごくわずかである。石器は黒曜石製の石鏃1点、楔形石器1点、打製石斧1点、二次加工ある剥片1点、凹石2点、多孔石1点、剥片26点が出土している。No.3、11、14、22が床面付近から出土している。

時期 埋甕炉土器(1)や出土土器の状況から、加曾利E3式期と判断される。

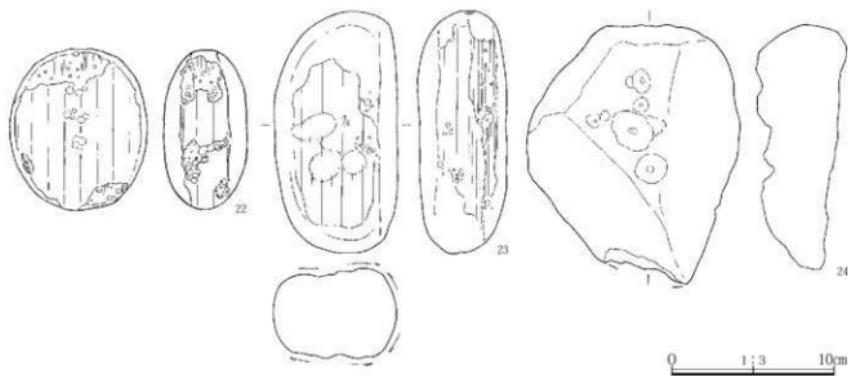
重複 144,153～156,316号土坑と重複。259号ビットに切られる。



第13図 3号竪穴建物



第14圖 3号穹穴建物出土遺物(1)



第15図 3号竖穴建物出土遺物(2)

●4号竖穴建物

位置 870-305.310。I南区南部で検出。

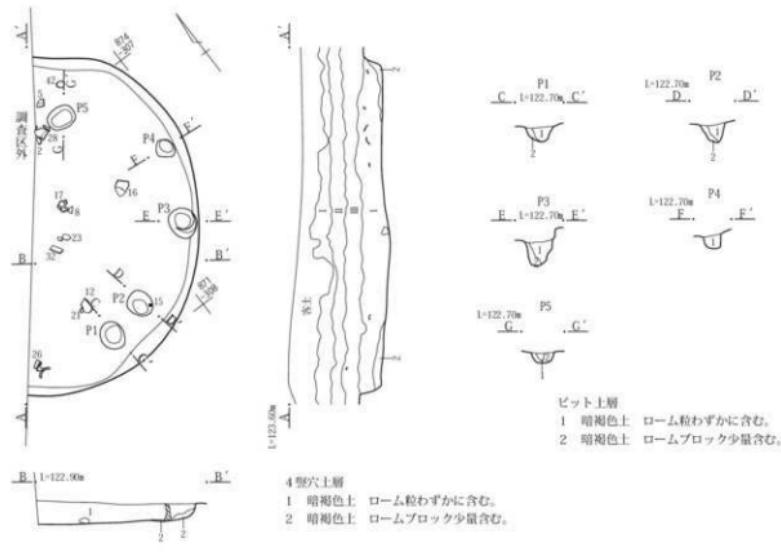
規模 西半部が調査区外のため全体の規模は不明だが、円形ないし梢円形を呈すと考えられる。現状の最大径で4.15m、深さ22cmを測る。

床面 中央部がやや凹む様子が見られるが概ね平坦であ

り、硬化面も認められる。

炉 検出されなかった。

柱穴 周縁部で5基のピットが確認されているが、規模も小さく浅いものが多い。各ピットの長径×深さは、P1: 36×18cm、P2: 33×23cm、P3: 38×32cm、P4: 23×16cm、P5: 35×14cmを測る。



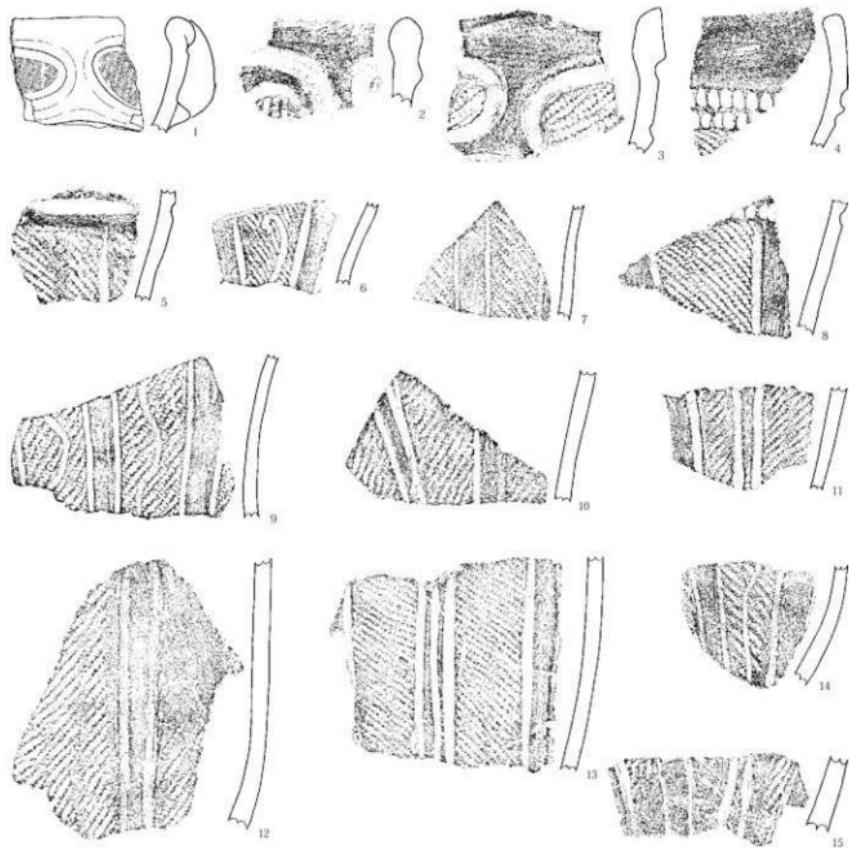
第16図 4号竖穴建物

遺物 出土土器は822点と多く、およそ半数は中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片である。時期比定できるものでは加曾利E2式～堀之内1式が混在するが、その大部分を加曾利E3式が占める。加曾利E2式、E4式、称名寺式、堀之内1式はごくわずかである。石器は黒曜石製の石鏃1点、石錐2点、打製石斧9点、二次加工ある剥片1点、チャート製の石核1点、磨石1点、敲石2点、多孔石1点、石製研磨具1点、剥片38点が出土している。およそ半分の調査ではあるが、石器の出土

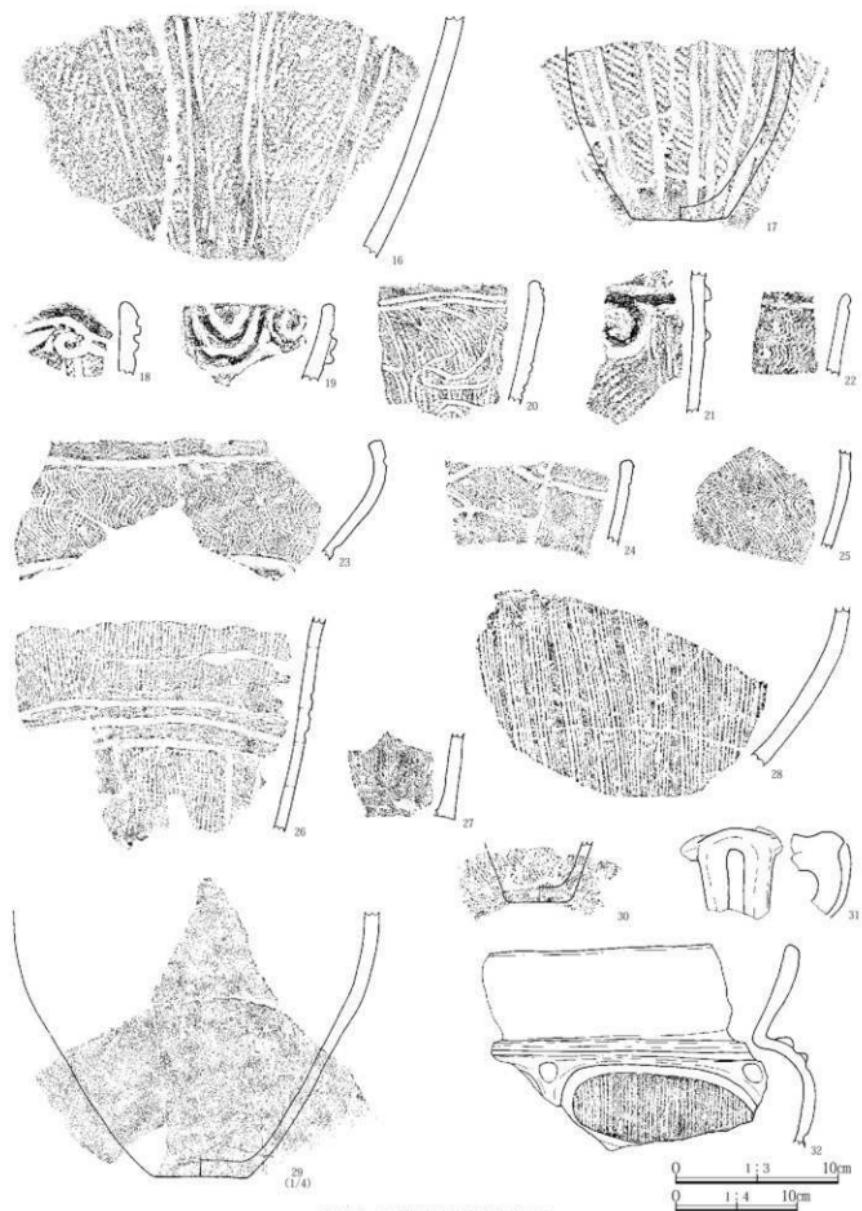
は多く、打製石斧の9点すべてがホルンフェルス製、剥片38点のうち30点がホルンフェルス製である。No.42の磨石が床面付近から出土した以外は、みな床面から浮いた状態で出土しており、土器ではNo.9、16が床上5cmと最も低いレベルで出土している。

時期 出土土器の状況から、加曾利E3式期と判断される。

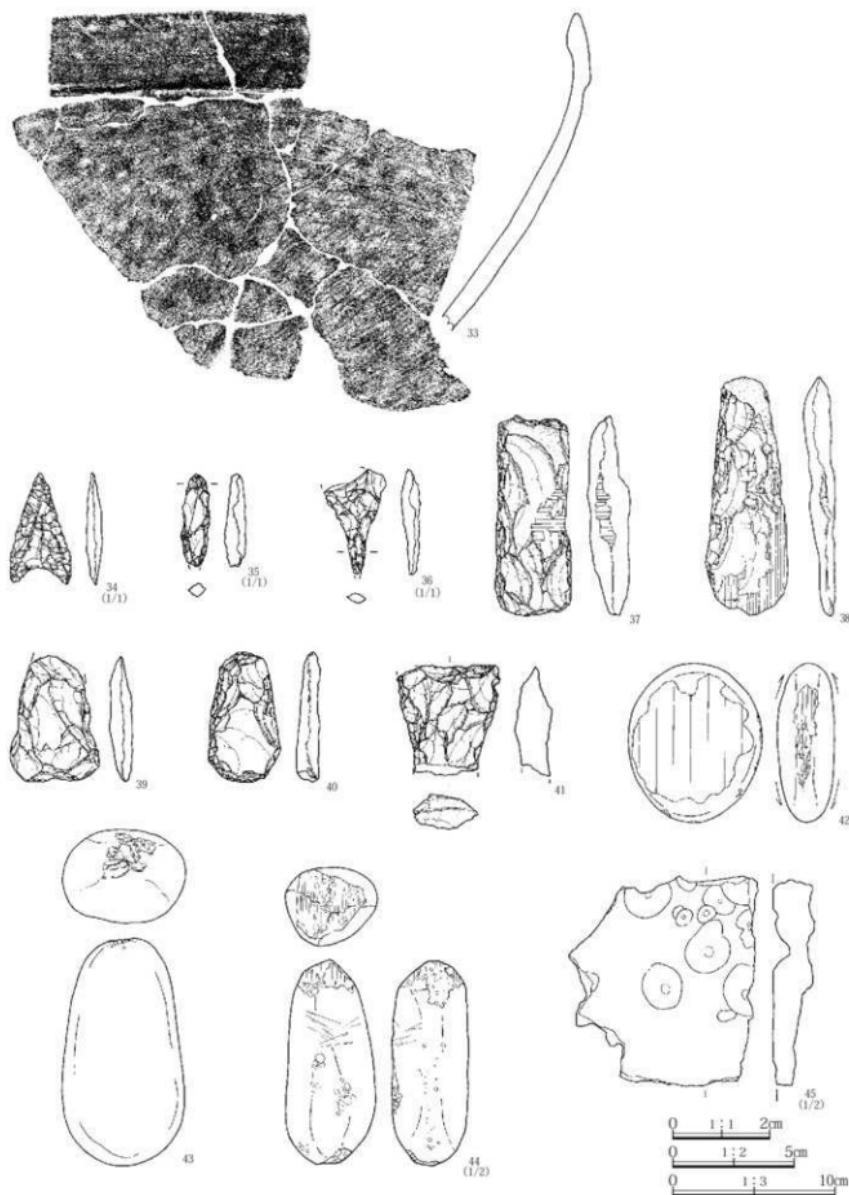
重複 なし



第17図 4号壁穴建物出土遺物(1)



第18図 4号竖穴建物出土遺物(2)



第19圖 4号穹穴建物出土遺物(3)

● 5号竪穴建物

位置 855.860-285.290。7北区北部で検出。

規模 調査区の幅が65cm程と極めて狭小のためごく一部の検出にとどまり、全体の規模や形状は不明である。現状の最大径で3.15m、深さ6cmを測る。

床面 概ね平坦だが、南西側が低く北東側に向かって緩やかに上っている。

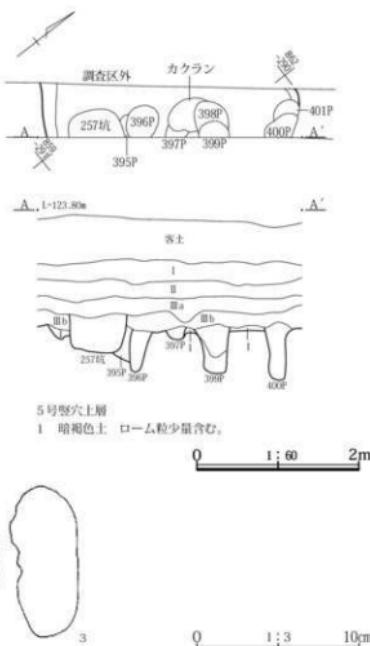
炉 検出されなかった。

柱穴 本建物に伴うピットは確認されていない。

遺物 出土土器は小破片が10点のみである。石器は凹石1点、剥片2点が出土している。

時期 情報量が少なく判断できない。

重複 257号土坑、395～401号ピットに切られる。



第20図 5号竪穴建物および出土遺物

● 6号竪穴建物

前述したとおり、6号は調査段階では1棟との認識であったが、整理段階で2棟の重複によるものと判断した。敷石住居と考えられる竪穴建物を6a号、下部で確認された竪穴建物を6b号とする。

位置 835-305.310。7南区南部で検出。

規模 5号同様、調査区の幅が65cm程と極めて狭小のためごく一部の検出にとどまり、全体の規模や形状は不明である。6a号は北東-南西方向に1.7m程にわたって直線状に石が敷設されており、北西壁際に敷かれた石列と判断される。直線状に敷設していることから建物は六角形を呈すと考えられ、これに張出が伴う柄鏡形であった可能性が考えられる。6b号は北西部の一部の検出と見られ、円形ないし梢円形状と考えてよいであろう。

床面 6a号は長さ20～30cm程の扁平な石を敷いて床面を構築する。北西壁際に直線状に敷き、内側にも敷いている様子が看取される。敷石には石棒の断片(25)も転用している。敷石の上面レベルは122.40m前後であり、概

ね平坦だが北東側に向かって緩やかに上っている。6b号の床面レベルは122.20m前後で、概ね平坦だがやはり北東側に向かって緩やかに上っている。

炉 6a号、6b号ともに検出されなかった。

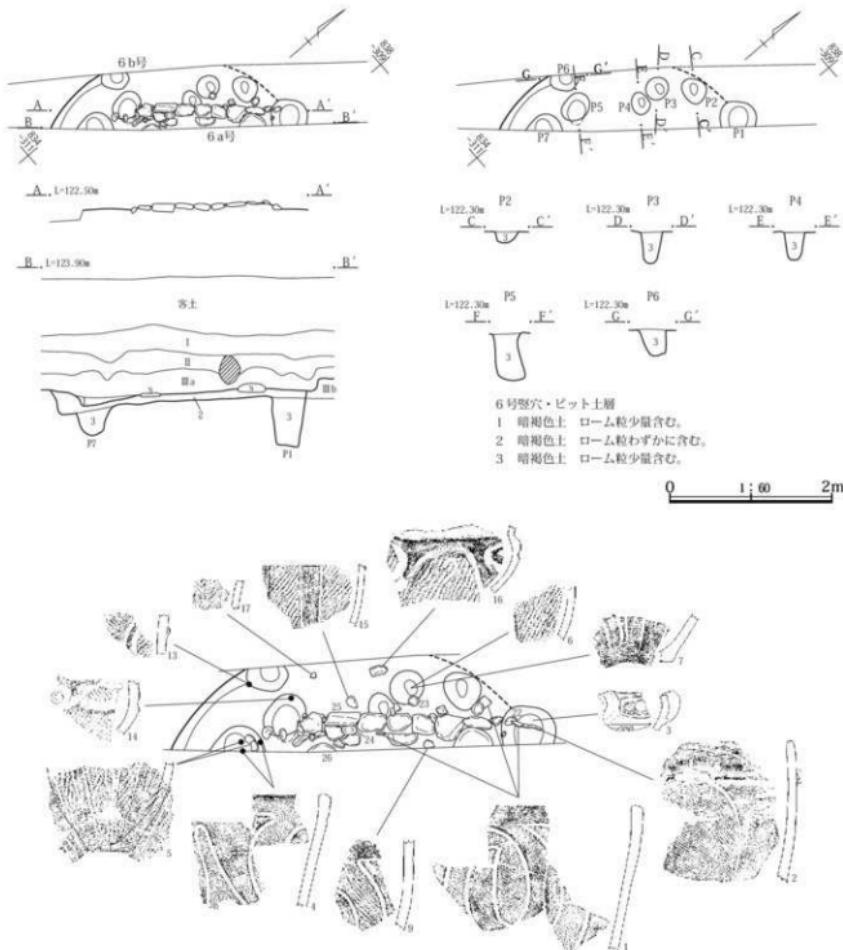
柱穴 7基のピットが確認されている。各ピットの長径×深さは、P1:44×58cm、P2:31×14cm、P3:29×38cm、P4:27×34cm、P5:38×58cm、P6:32×33cm、P7:45×36cmを測る。P1からNo.1の一部、No.2, 3が、P7からNo.4, 5が出土しており、加曾利E3式と称名寺I式が混じって出土していることから、P1およびP7は6a号に伴う柱穴と判断したい。土層断面観察ではピット上に2層の堆積が見られるが、おそらくこれを掘り抜き、1層を含めてピットの土層と考えるのが自然である。また、P3からはNo.6, 7の加曾利E3式のみが出土しているため、6b号に伴うものと考えられる。図示してはいないが、P6からも加曾利E3式のみ2点が出土しているため6b号に伴うものと判断される。P2, P4, P5についても出土土器が無くどちらともいえないが、P4, P5が6a

号の敷石周縁に配された柱穴である可能性を考えたい。
遺物 出土土器は全体で207点出土しており、加曾利E2式～堀之内1式が混在する。ピット以外で出土位置が記録された土器は、敷石内側でNo 9が、6b号内と考えられる位置でNo 13～17が出土しており、それぞれの建物に帰属するものと判断される。No 19～21は掘り方として取り上げられた土器である。石器は凹石1点、磨石4

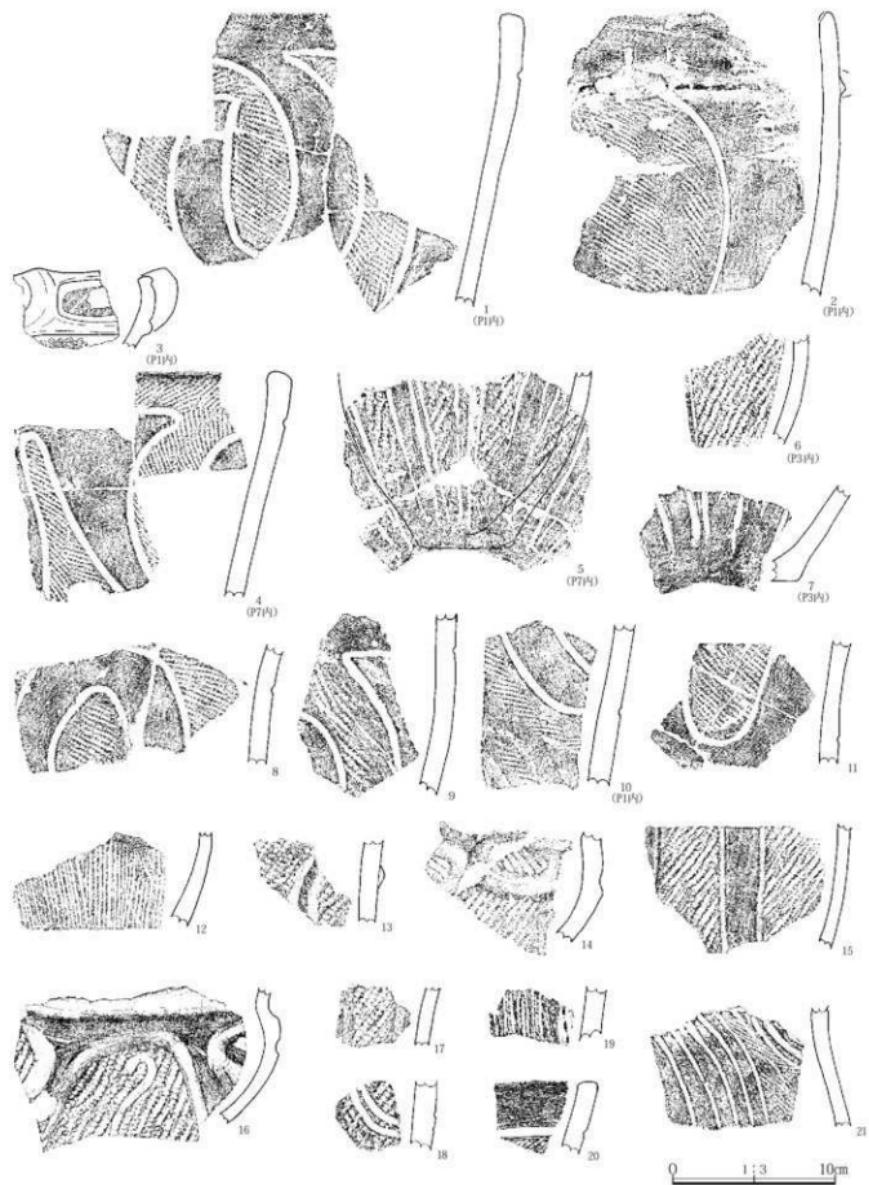
点、石皿1点、石棒1点、剥片2点が出土している。石皿(26)は6a号の床面に置かれていたもので、敷石として転用された可能性もあるが定かでない。

時期 遺物の出土状況から6a号が称名寺I式期、6b号が加曾利E3式期と判断される。

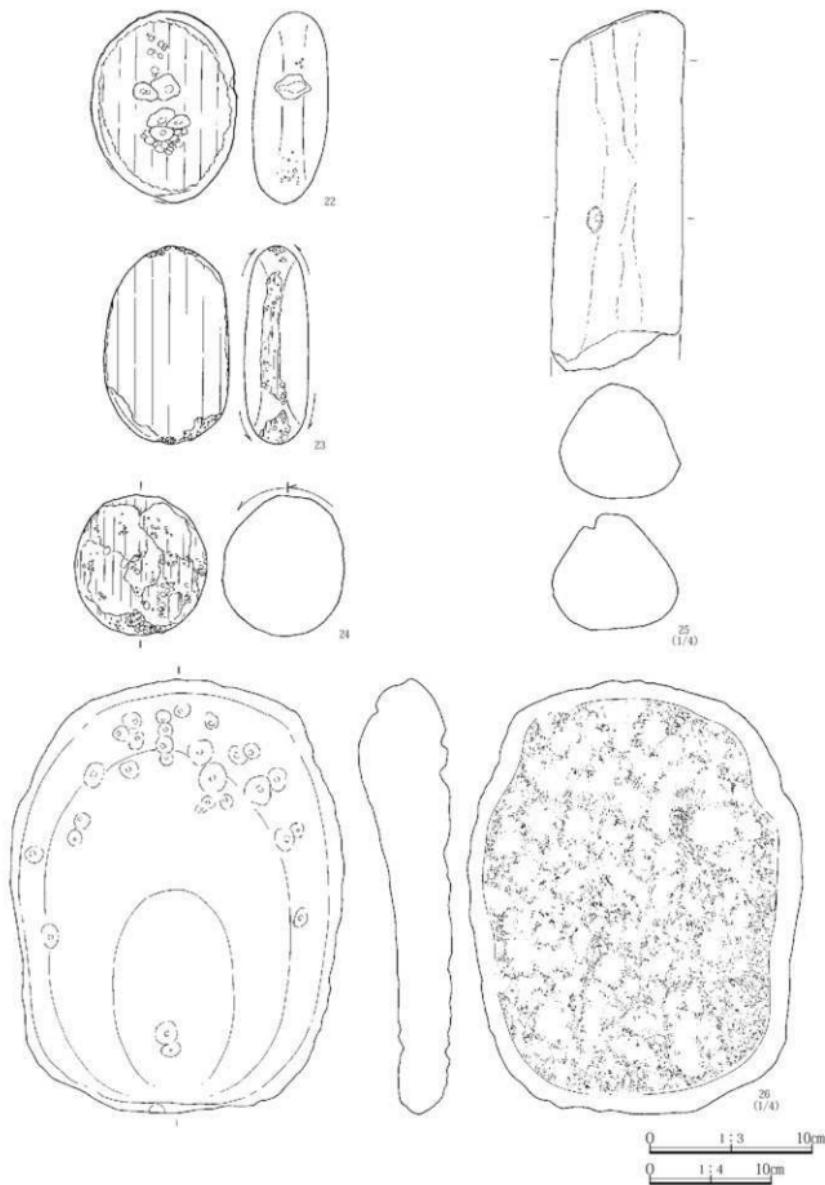
重複 なし



第21図 6号壁穴建物



第22図 6号竪穴建物出土遺物(1)



第23図 6号壁穴建物出土遺物(2)

● 7号竪穴建物

前述したとおり、7号は整理段階で竪穴建物と認定したものである。最大の根拠は、139号土坑が石圓炉であるとの認識に至ったことによる。

位置 880.885-290.295。1南区北部南寄りで検出。

規模 整理段階での認識のため全体の規模や形状は不明であるが、柱穴の配置から径5.5m程の円形ないし楕円形と考えられる。

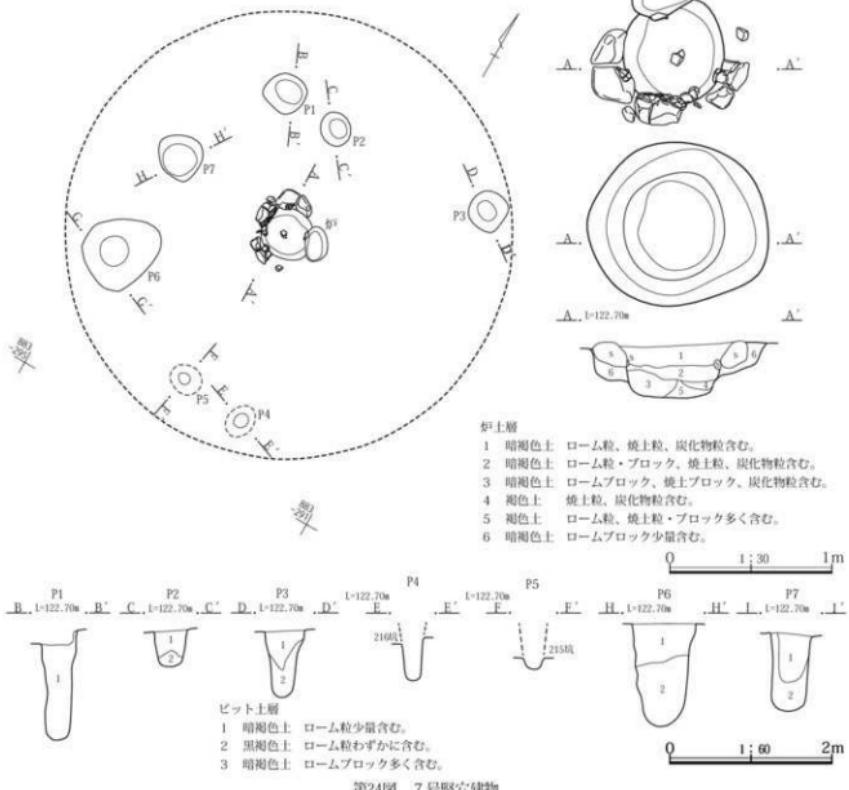
炉 139号土坑をあてた。径108×101cmの円形の掘方の壁面に石を並べて構築する。北・西面に石が残存し、東面は残っていないが石が抜けた痕跡が見られる。南面は石が抜けた痕跡が見られず、当初から置かれていた可能性もある。炉床面の規模は60×50cm程、深さ

32cmを測る。

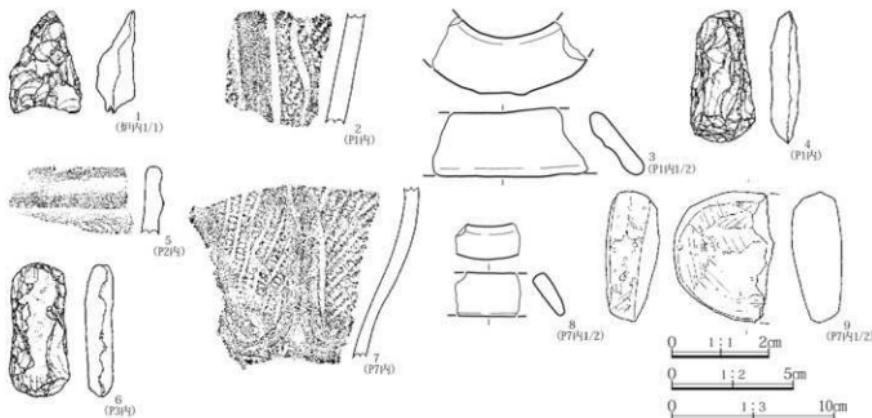
柱穴 7基のピットをあてた。各ピットの旧称、長径×深さは、P1：169号土坑、50×136cm、P2：337号ピット、42×46cm、P3：336号ピット、48×82cm、P4：302号ピット、推定42×推定70cm、P5：215号土坑内ピット、推定42×推定55cm、P6：213号土坑、98×125cm、P7：183号土坑、54×95cmを測る。

遺物 P1、P7で加曾利E3式が主体となって出土し、炉、P6で加曾利E3式と称名寺式が混在する。

時期 P1、P7出土土器の状況や、加曾利E4式期である141号土坑に切られると考えられることから、加曾利E3式期と考えたい。



第24図 7号竪穴建物



第25図 7号突穴建物出土遺物

● 8号突穴建物

7号同様、8号も整理段階で突穴建物と認定したものである。最大の根拠は、4号埋設土器が埋糞炉である可能性が考えられたことによる。

位置 880,885-285,290。1南区中央部北寄りで検出。

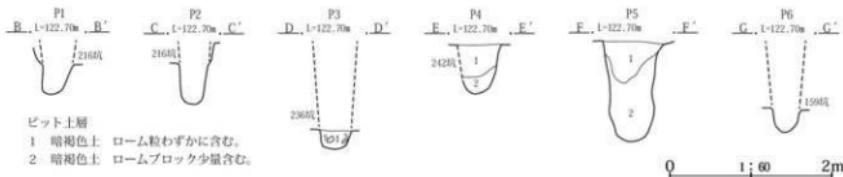
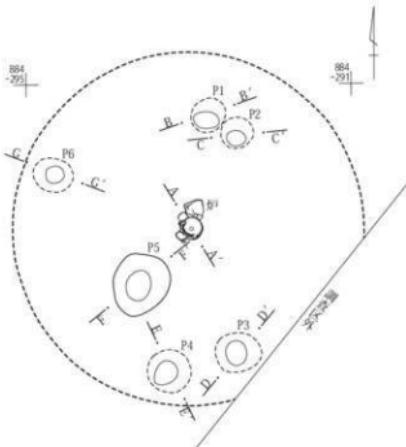
規模 全体の規模や形状は不明であるが、柱穴の配置から径4.3m程の円形ないし梢円形と考えられる。

炉 4号埋設土器をあてた。径64×56cm、深さ55cmの梢円形の掘り方に、口縁部を欠いた深鉢(1)を埋設する。脇に長さ45cm程の大型の石を置いている。

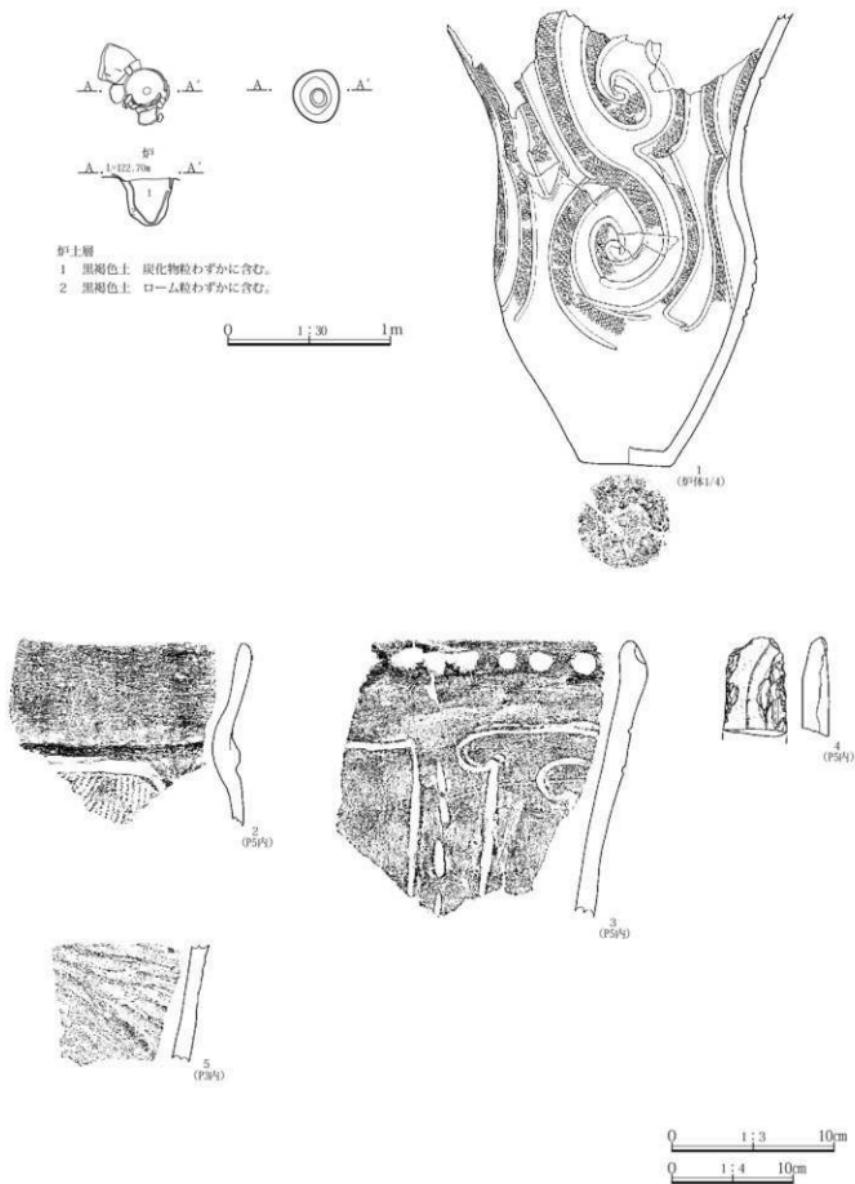
柱穴 6基のピットをあてた。各ピットの旧称、長径×深さは、P1：216号土坑内ピット、推定43×推定65cm、P2：216号土坑内ピット、推定37×推定76cm、P3：343号ピット、推定55×推定130cm、P4：242号土坑内ピット、推定53×59cm、P5：174号土坑、80×123cm、P6：330号ピット、推定50×推定110cmを測る。

遺物 P5で加曾利E3式～堀之内1式が混在する。

時期 埋糞炉体土器から称名寺I式期と考えられる。



第26図 8号突穴建物(1)



第27図 8号竪穴建物(2)および出土遺物

第3節 土坑

1 概要

本遺跡では、縄文時代の土坑が214基検出された。堅穴建物の検出が8棟のみであるのに比べ、かなり多くの数量が検出されているといえる。区毎で見ると5区で37基、1北区で12基、1中区で7基、1南区で132基、2区で21基、3区で2基、7北区で3基となる。1南区で濃密な分布を示し、1南区を中心として1中・1北、2・3区と南北に向かって少なくなる傾向にあるが、最北部の5区で大型の袋状土坑が集中するという特徴がある。

1中区での検出が疎らに見えるが、1中区は擾乱が深くにまで及んで確認面が1南区より20~30cm程下がっているため、浅めの土坑は削られて消失してしまった可能性が考えられる。しかし、掘り込みの深い土坑は当初から少なかったことはまちがいない。出土遺物も乏しい傾向がある。3区は2基と少なく集落域辺部とも考えられるが、調査段階での縄文包含層の掘り下げが甘く、いくつつかの土坑を見逃している可能性も否定できない。4区での検出は見られないが、3区と同様の可能性も考えられる。6区での検出も見られず、調査区が狭小であることが要因と考えられるが、南部の6-1, 2区は集落域外の可能性もある。

土坑の断面形状については、以下の6タイプに分類した。

- 擂 鉢 状…その名のとおり擂鉢状を呈し、底面に明確な平坦面を持たないもの
- 浅擂鉢状…擂鉢状のなかで、平面の長径に対して深さが1/3以下のもの
- 皿 状…擂鉢状のなかで、平面の長径に対して深さが1/5以下のもの
- 円 筒 状…壁の立ち上がりが垂直に近く、底面に平坦面を持つもの
- 浅円筒状…円筒状のなかで、平面の長径に対して深さが1/3以下のもの
- 袋 状…開口部の径よりも、底面あるいは壁面の径が大きいもの。底面の径が最も大きく、断面三角形状になるものを特にプラスコ状と

した。また、壁面が全周に張り出さず、一方のみ張り出すものを袋状とした。

各土坑の規模等は第3~5表のとおりである。径については、開口部である上端部を計測している。袋状土坑ないしプラスコ状土坑については、次頁の計測値凡例のとおりである。時期比定については、出土遺物が皆無であったり小破片が少量のみであったりと、帰属時期の判断が難しいものが多い。また平成30年度調査では、重複する土坑に対して両土坑を通じた半截を行っていないものが多く、土層断面観察から新旧を判断することができないうえ、遺物の出土位置を記録したものが非常に少なかったため、帰属時期を判断するには情報が少なかったことも否めない。

時期別にみると、加曾利E2式期が初出であり、1南区で数基程度が確認されている。次の加曾利E3式期がもっとも検出数が多く、やはり1南区を中心に拡がりを見せる。加曾利E4式期は、後期加曾利E系との区分が難しくあまり判然としないが、2区でやや多い傾向が看取される。称名寺式期は、これまで分布の中心であった1南区での分布はやや希薄であり、5区や2, 3区の周縁部に分布の中心が移っているように見える。袋状土坑の多くが、称名寺式期であるようだ。堀之内式期もわずかだが検出されており、確認できるもっとも新しい時期は、堀之内2式期である。

以下、次項以降にて各区各土坑の概要について記述する。なお、298, 340号ピットは規模や形状から小型の土坑と判断し、317, 318号土坑としてこの節に掲載した。逆に、58, 171, 218号土坑については同様にピットと判断されたため、遺構名称は変更せずにピットの節に掲載した。

第2章 繩文時代の調査

第3表 土坑一覧表(1)

5区土坑

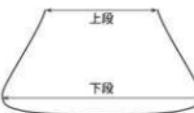
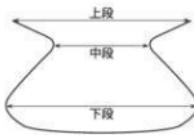
No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
246	995-260	円形	円筒状	116	103	54	縄之内2	
247	000-260	—	楕円形	—	56	20		
248	990-255	—	円筒状	—	—	37		
259	965-250	楕円形	袋状	86	68	73		
261	965-245	円形	袋状	173	168	84	称名寺か	
				115	96			
				165	157			
262	965-250	円形	袋状	139	136	75	称名寺 I	
				104	101			
				145	139			
263	960-245	楕円形	袋状	122	99	81	加曾利E4 か 称名寺 I	
				141	87			
265	960-245	円形	袋状	100	92	107		
				105	103			
266	950-250	—	円筒状	—	70	41		
267	945-255	—	円筒状	—	87	43		
268	945-255	—	浅円筒状	—	98	23		
269	945-250	—	袋状	—	93	63		
				104	63			
270	945-250	円形	浅円筒状	71	71	22		
271	945-250	楕円形	円筒状	78	60	42		
272	955-245	楕円形	円筒状	80	54	54		
273	955-250	円形	袋状	148	115	124	称名寺 II	
				131	97			
				192	174			
274	950-245	円形	袋状	177	177	79	称名寺 I 底面二段	
				220	210			
				—	108	72		
275	955-245	円形	円筒状	—	108	72	加曾利E3 か 276坑に 切られる	
276	955-245	円形	円筒状	99	90	62	加曾利E4 か 275坑を 切る	
277	945-255	円形	浅円筒状	123	121	48	称名寺 底面が凹む	
278	945-245	円形	袋状	86	85	115	称名寺 底面二段	
279	950-245	—	円筒状	—	85	62		
280	945-245	円形	椭鉢状	56	56	29		
281	945-245	—	椭鉢状	—	—	23	282坑に 切られる	
282	945-245	円形	円筒状	60	58	29	281坑を 切る	
283	945-245	—	浅円筒状	—	89	27		
284	945-250	円形	プラスコ状	100	100	104	称名寺 II 底面二段	
				260	255	128		
				—	180	86		
				235	135	120		
285	950-250	—	袋状	—	—	称名寺 底面二段		
286	950-245	楕円形	円筒状	109	92	39	称名寺 II か 縄之内 I	
287	950-245	楕円形	袋状	115	100	59	称名寺 I 286坑に 切られる	
288	950-245	—	円筒状	—	107	42	289坑を 切る	
289	950-245	—	円筒状	—	92	69	288坑に 切られる	
290	945-250	円形	袋状	—	152	162	295坑に 切られ 294坑を 切る	
291	950-245	楕円形	椭鉢状	49	—	26	292坑に 切られる	
292	950-245	円形	浅円筒状	52	51	19	291坑を 切る	
293	945-250	—	浅円筒状	—	—	30	290坑に 切られる	
294	945-250	—	半袋状	—	98	60	290坑を 切る	

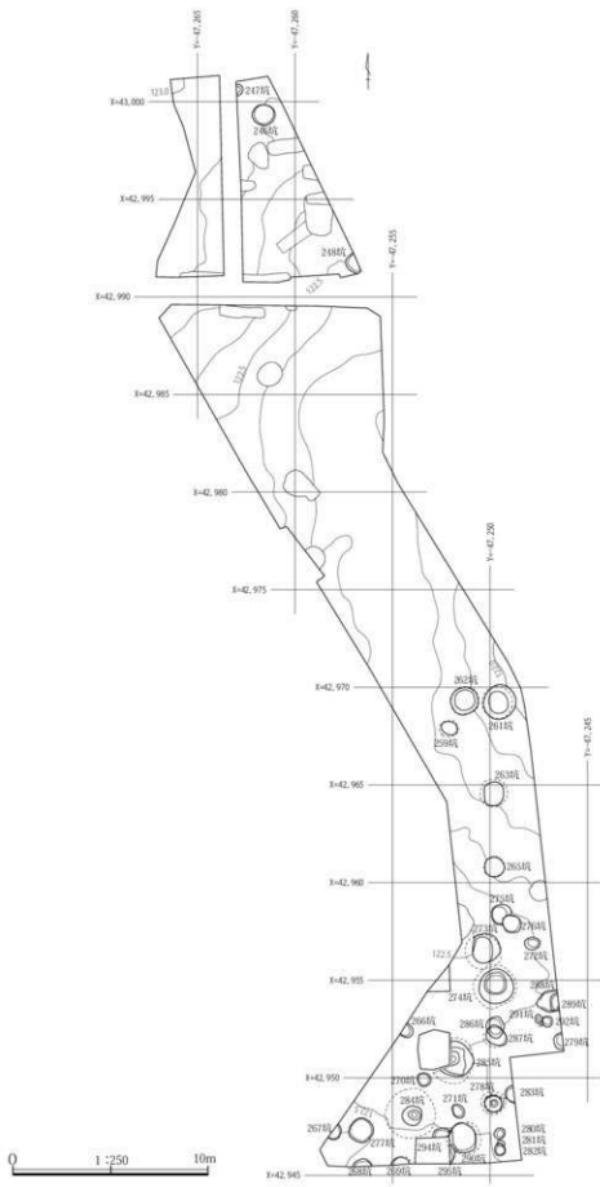
1 北区土坑

(単位: cm)

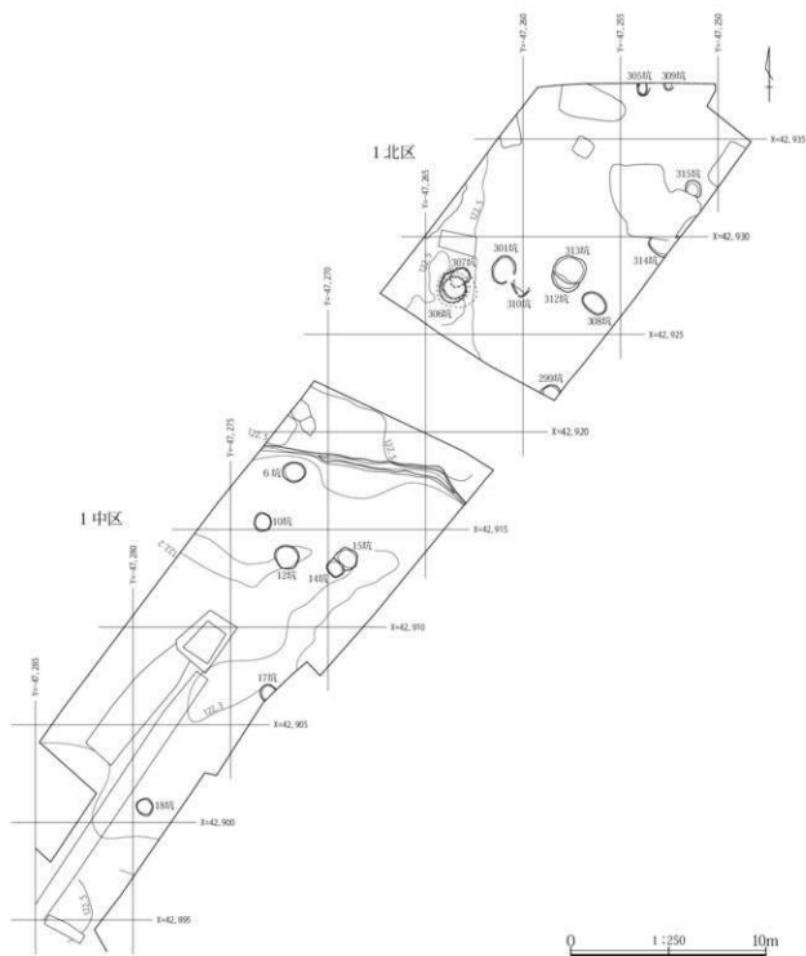
No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
299	920-255	—	浅円筒状	—	87	27	加曾利E3	
301	925-260	楕円形	浅円筒状	143	109	11		
305	935-250	—	円筒状	—	62	52	縄之内 I	
306	925-260	円形	袋状	210	151	146	称名寺 I	307坑に 切られる
307	925-260	—	円筒状	110	91	44		306坑を 切る
308	925-255	楕円形	浅円筒状	148	98	14		
309	935-250	—	円筒状	—	—	65		
310	925-260	—	浅円筒状	—	—	11		
312	925-255	—	浅円筒状	—	—	23		313坑に 切られる
313	925-255	楕円形	浅円筒状	—	162	29	加曾利E3	312坑を 切る
314	925-250	楕円形	浅円筒状	—	—	20		
315	930-250	不整円形	浅円筒状	—	79	26		

〈計測値凡例〉

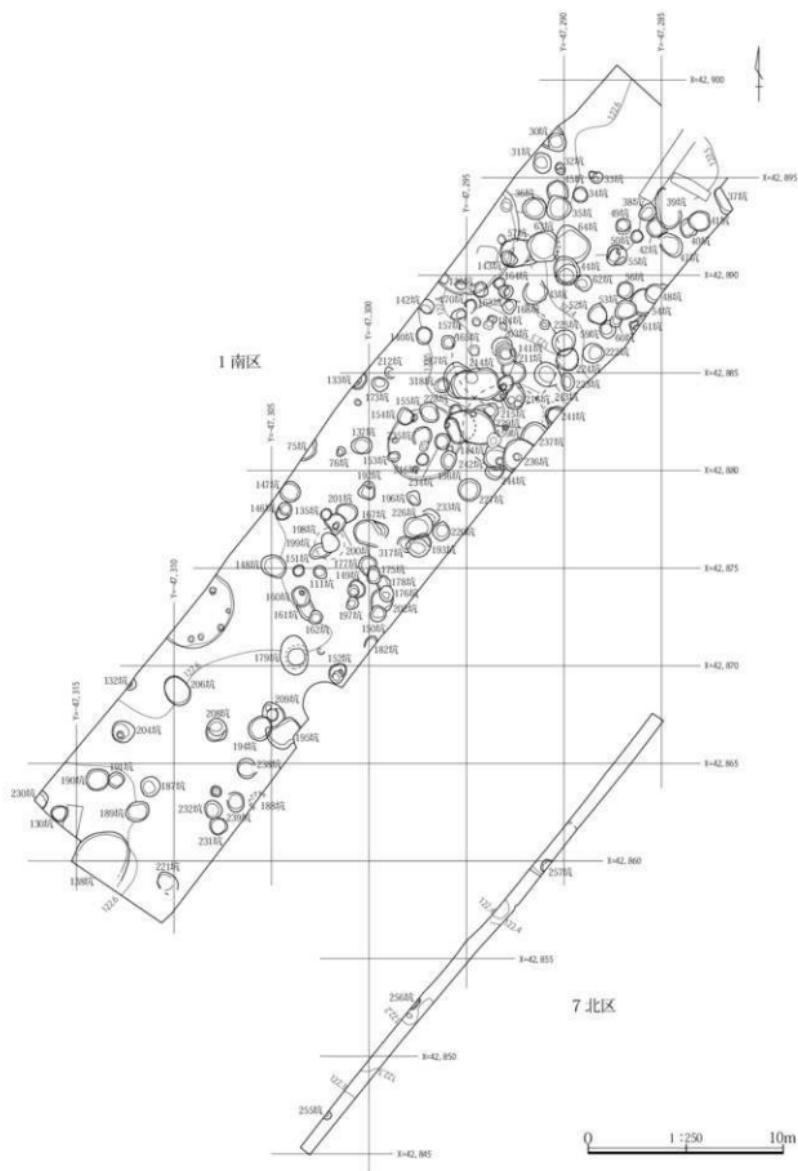




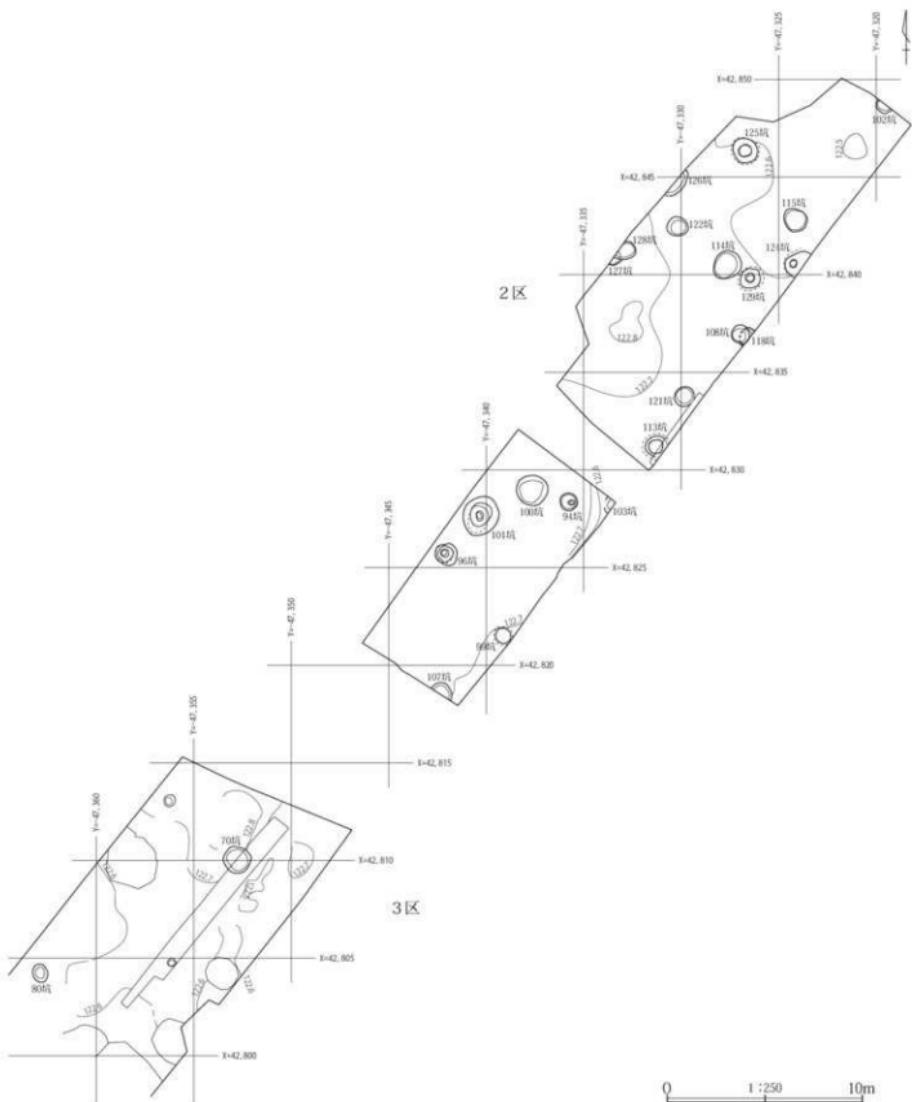
第28図 5区土坑全体図



第29図 1北・1中区土坑全体図



第30图 1南・7北区土坑全体图



第31図 2・3区土坑全体図

2 5区

●246号土坑

5区北端で検出。断面円筒状の掘り込みのしっかりした土坑である。埋土はロームブロックを含む暗褐色土で一気に埋められているようであり、中層から堀之内2式のほぼ完形土器(1)が出土した。出土土器総数は35点と多くはなく、すべてが後期前葉期に限られ、加曾利E式は見られない。同様の形態の土坑からは数多くの遺物が出土するのとは対照的であり、人為的に埋められたことに起因するのであろう。堀之内2式期の墓壙であろうか。石器の出土はない。

●247号土坑

5区北端で検出された断面鉢鉢状の土坑。西半は調査区外のため調査できなかった。ロームブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●248号土坑

5区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒を多く含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E3式の小破片が1点のみである。石器の出土はない。底面に大型の礫が置かれていた。

●259号土坑

5区中央部で検出。下半がわざかに括がる袋状土坑。ローム粒をわざかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E3式の小破片が1点のみである。石器の出土はない。

●261号土坑

5区中央部で検出された下半が大きく括がる袋状土坑。ローム粒をわざかに含む黒褐色土を主体に埋まる。出土土器総数は53点で、加曾利E3式や称名寺式など中期後葉～後期前葉期が混在する。石器は打製石斧1点、剥片1点が出土している。

●262号土坑

5区中央部、261号と隣り合うように検出された袋状

土坑。ローム粒をわざかに含む黒褐色土を主体に埋まる。出土土器総数は21点で、加曾利E2式～称名寺1式までの各時期が混在するが、後期加曾利E系と考えられるNo.3, 4が底面付近で出土しているため、称名寺1式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●263号土坑

5区中央南寄りで検出された袋状土坑。ローム粒をわざかに含む黒褐色土を主体に埋まる。出土土器総数は29点で、加曾利E2式～称名寺式までの各時期が混在するが、加曾利E4式ないし後期加曾利E系が多い傾向にあるため該期の所産と考えたい。石器の出土はない。

●265号土坑

5区南部北寄りで検出された袋状土坑。ローム粒をわざかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器総数は33点で、加曾利E3式～称名寺式までの各時期が混在する。石器は剥片1点が出土している。

●266号土坑

5区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E4式の小破片が1点のみである。石器の出土はない。

●267号土坑

5区南端で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒をわざかに含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E3式～称名寺1式の小破片が7点のみである。石器の出土はない。

●268号土坑

5区南端で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。南半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒をわざかに含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E4式の小破片が1点のみである。石器の出土はない。

●269号土坑

5区南端で検出。袋状土坑。南半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒を多く含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E3式の小破片が1点、E3ないしE4式が1点の計2点のみである。石器の出土はない。

●270号土坑

5区南部で検出。断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は前期末葉、後期前葉の小破片が1点ずつの計2点のみである。石器の出土はない。

●271号土坑

5区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックを多く含む暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●272号土坑

5区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は細片が6点のみである。石器の出土はない。

●273号土坑

5区南部で検出された袋状土坑。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土を主体に埋まる。出土土器総数は451点と数多く出土している。後期前葉期を主体とし、加曾利E3式～堀之内I式が混在するが、時期比定できるものでは称名寺I・II式が群を抜いて多く、堀之内I式はわずかであるため、称名寺II式期の所産と判断したい。埋土中から環状土製品(34)が、石器は打製石斧3点、敲石1点、剥片7点が出土している。

●274号土坑

5区南部で検出。底面際が拡がる袋状土坑である。底面中央が一段下がる2段構造を呈す。ローム粒をわずかに含む均一な褐色土と暗褐色土で埋まる。出土土器総数は72点であり、加曾利E2式～称名寺式が混在する。後期加曾利E系と考えられる繩文施文土器が多く、また称名寺式も多いことから称名寺I式期の所産と判断した

い。石器は二次加工ある剥片1点が出土している。

●275号土坑

5区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックを含む褐色土、暗褐色土で埋まる。出土土器は15点のみで、加曾利E3式、E4式が主体となる。本土坑を切る276号が加曾利E4式期の可能性が考えられるため、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●276号土坑

5区南部で検出、275号土坑を切る。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は13点のみで、称名寺式がわずかに見られるが加曾利E4式が主体となり、加曾利E4式期の可能性が考えられる。石器は剥片1点が出土している。

●277号土坑

5区南端で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑で、底面中央がやや凹む。274号と同様、ローム粒をわずかに含む褐色土と暗褐色土で埋まる。出土土器総数は43点である。時期比定できるものは加曾利E2式、E3式、堀之内I式がわずかであり、称名寺式が多いため、称名寺式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●278号土坑

5区南部で検出。袋状土坑で底面中央に浅い小ビットがある2段構造となる。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土を主体に埋まる。出土土器は小破片のみ33点であり、加曾利E3式、E4式がわずか、称名寺式がやや多いことから称名寺式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●279号土坑

5区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。ロームブロックを多く含む暗褐色土で埋まる。出土土器は称名寺式が1点、中期後葉～後期前葉期としか判別で

きない小破片が1点の2点のみである。石器の出土はない。

●280号土坑

5区南端で検出。断面描鉢状の土坑で掘り込みはやや不明瞭である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●281号土坑

5区南端で検出。断面描鉢状の土坑で掘り込みはやや不明瞭である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器はない。石器は剥片1点が出土している。

●282号土坑

5区南端で検出、281号を切る。断面円筒状の土坑で掘り込みはやや不明瞭である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土遺物は後期前葉期1点のみである。石器の出土はない。

●283号土坑

5区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかつた。ロームブロックを含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は3点のみで、加曾利E4式ないし称名寺I式が1点、中期後葉～後期前葉期が1点、不明1点である。石器の出土はない。

●284号土坑

5区南部で検出。底径260cmを測る本遺跡最大規模のプラスコ状土坑である。底面中央に径65cmの小土坑がある2段構造となる。下層にロームブロックを含む黒褐色土、中層にロームブロックを含む暗褐色土、上層に大径のロームブロックを多く含む暗褐色土で埋まる。出土土器総数は406点と数多く出土している。後期前葉期を主体とし、加曾利E2式～称名寺式が混在するが、時期比定できるものでは称名寺I・II式が群を抜いて多いため、称名寺II式期の所産と判断したい。石器は打製石斧2点、二次加工ある剥片が1点、剥片5点が出土している。

●285号土坑

5区南部で検出された、底径235cmを測る大型の袋状土坑である。底面中央に径70cmの小土坑がある2段構造となる。建物のコンクリート基礎があったため北西部は調査できなかつた。埋土は284号に似る。出土土器総数は92点であり、加曾利E3式～称名寺式が混在するが、時期比定できるものでは称名寺式が多いため、称名寺式期の所産と判断したい。石器は打製石斧1点、剥片2点が出土している。

●286号土坑

5区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。下底面にローム粒を含む黒褐色土が堆積し、上位はローム粒を含む褐色土で埋まる。また2層とも焼土粒、炭化物粒が含まれ、壁面が焼けて赤化している状況が見られる。褐色土は284号、285号最上層の堆積土に似るが他の土坑にはほとんど見られず、特異な土層といえる。出土土器は18点であり、時期比定できるものは前期末葉期、勝坂式、堀之内I式が各1点、称名寺式が3点である。本土坑が切る287号が称名寺I式期と考えられるため、称名寺II式ないし堀之内I式期と考えたい。石器の出土はない。

●287号土坑

5区南部で検出された袋状土坑である。286号に切られる。ローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は35点であり、時期比定できるものは前期末葉期、勝坂式、加曾利E2式、称名寺式が混在するが、称名寺I式が多いため称名寺I式期の所産と判断したい。石器は剥片1点が出土している。

●288号土坑

5区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかつた。ローム粒、ブロックを含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器はない。石器は剥片1点が出土している。

●289号土坑

5区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかつた。

288号に切られる。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は36点あり、時期比定できるものは加曾利E4式のみであるため、加曾利E4式期の所産と考えたい。石器は剥片3点が出土している。

●290号土坑

5区南端で検出された袋状土坑である。下層にロームブロックを含む黒褐色土、中層にローム粒をわずかに含む褐色土、上層にロームブロックをわずかに含む暗褐色土で埋まる。出土土器総数は281点と数多く出土している。後期前葉期を主体とし、加曾利E3式、壠之内1式、2式がわずかに混在するが称名寺式が群を抜いて多く、次いで加曾利E4式ないし後期加曾利E系も多いため、称名寺I式期の所産と判断したい。後期初頭期の良好な一括資料といえるだろう。石器は剥片1点が出土している。

●291号土坑

5区南部で検出された断面擂鉢状の土坑である。292号に切られる。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は中期後葉～後期前葉期の小破片が2点のみである。石器の出土はない。

●292号土坑

5区南部で検出された断面浅円筒状の土坑である。ロームブロック、焼土粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E4式1点、称名寺II式1点の2点のみであるが、称名寺II式の大型破片(1)が底面から出土していることから、称名寺II式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

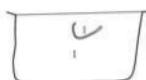
●294号土坑

5区南端で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。290号に切られる。建物のコンクリート基礎があったため、南半は調査できなかった。ロームブロックを含む暗褐色土、褐色土で埋まる。出土土器は中期後葉～後期前葉期の小破片が1点のみである。石器の出土はない。

●295号土坑

5区南端で検出。南側の底面のみ張り出す半袋状と呼ぶべき形状を呈す。西側は建物のコンクリート基礎があったため、東端部のみの調査となった。ロームブロックを含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E4式、称名寺式、後期前葉期の小破片が各1点、計3点のみである。石器の出土はない。

246号土坑

 $A-A'$, L=123.0m

246号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
247号土坑
1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

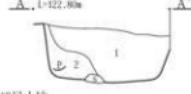
247号土坑

 $A-A'$, L=123.0m

247号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

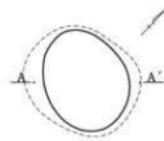
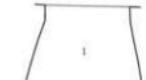
248号土坑

 $A-A'$, L=122.8m

248号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
2 暗褐色土 ローム粒少含む。

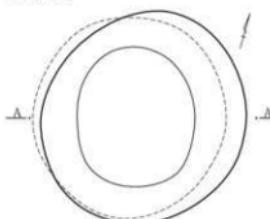
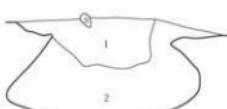
259号土坑

 $A-A'$, L=122.3m

259号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

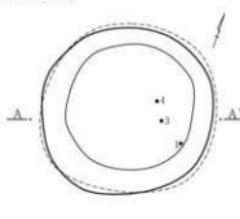
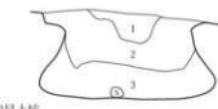
261号土坑

 $A-A'$, L=122.3m

261号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。

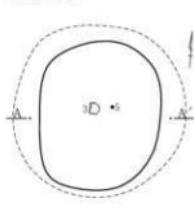
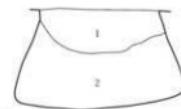
262号土坑

 $A-A'$, L=122.3m

262号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。
3 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。

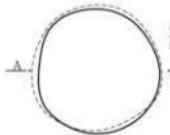
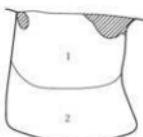
263号土坑

 $A-A'$, L=122.3m

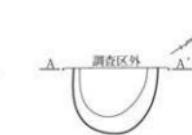
263号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黑褐色土 ロームブロックわずかに含む。

265号土坑

 $A-A'$, L=122.5m

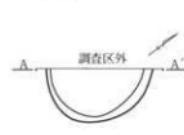
266号土坑

 $A-A'$, L=122.6m

266号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

267号土坑

 $A-A'$, L=122.7m

267号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

268号土坑

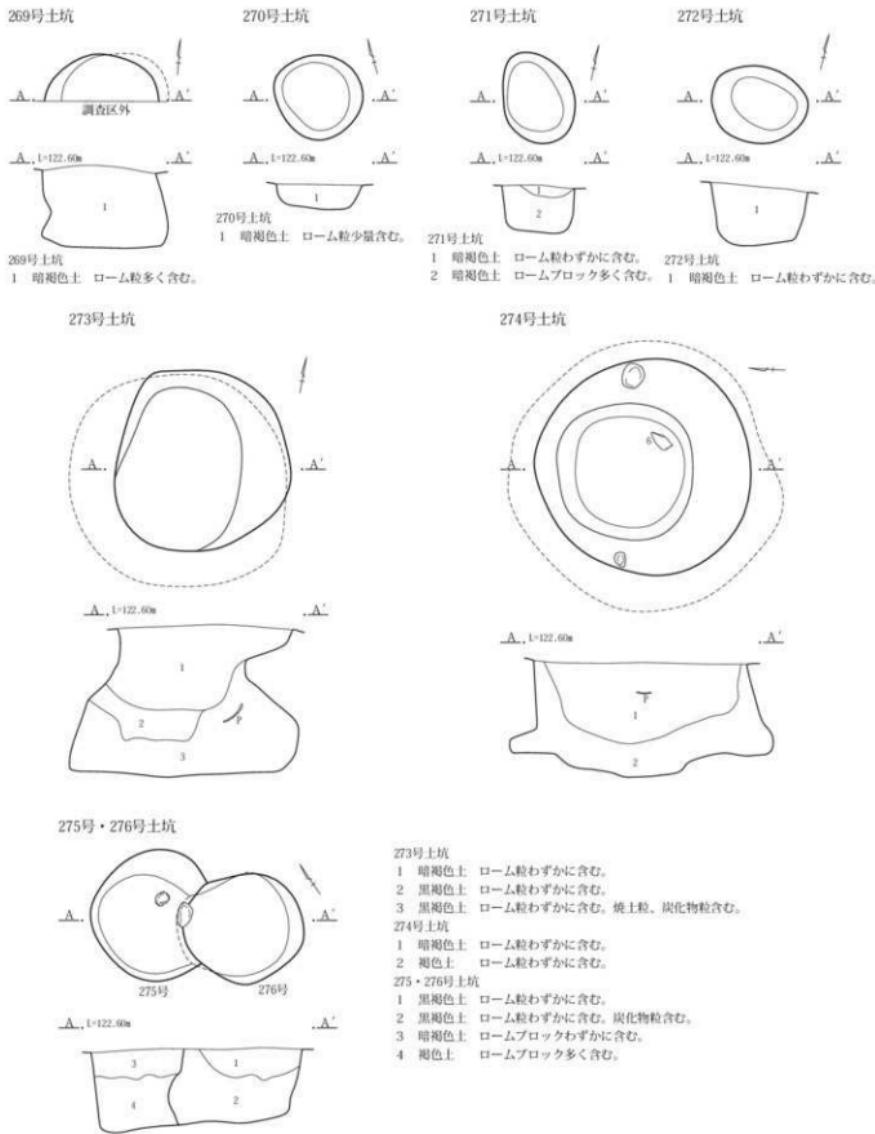
 $A-A'$, L=122.7m

268号土坑

1

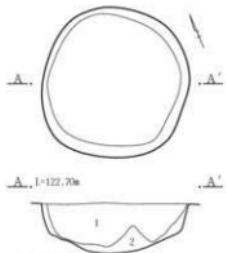
0 1:40 1m

第32図 5区土坑(1)

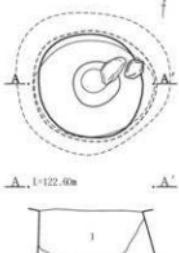


第33図 5区土坑(2)

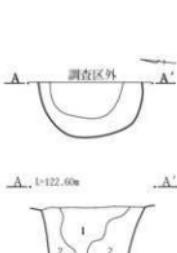
277号土坑



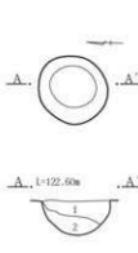
278号土坑



279号土坑



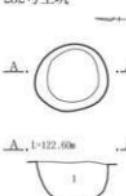
280号土坑



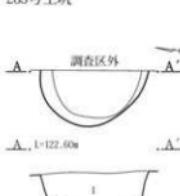
281号土坑



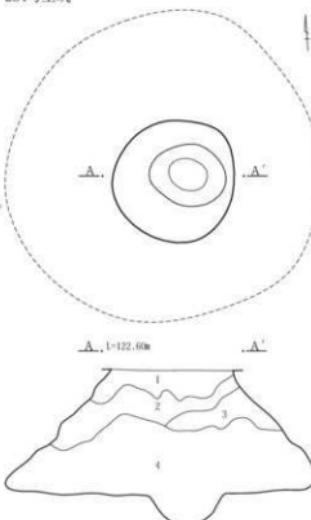
282号土坑



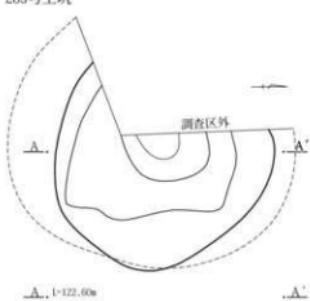
283号土坑



284号土坑



285号土坑

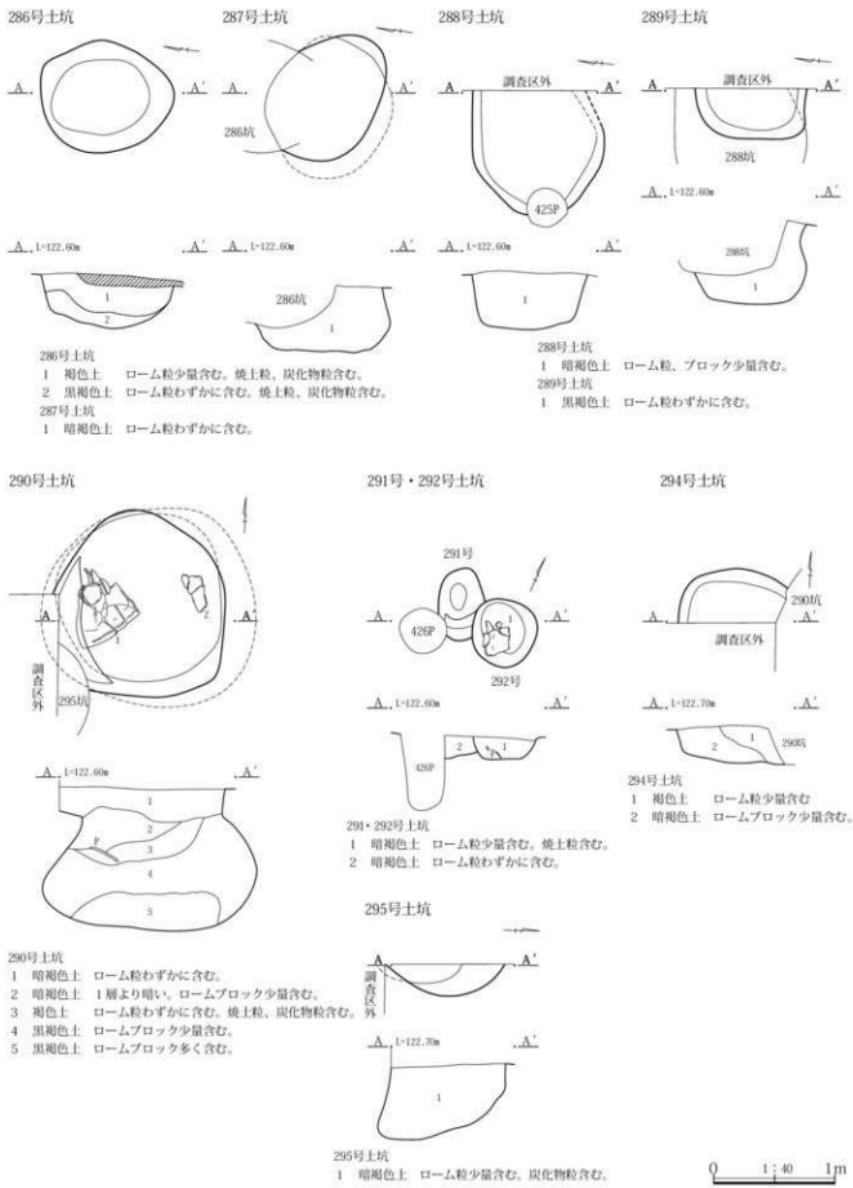


286号土坑

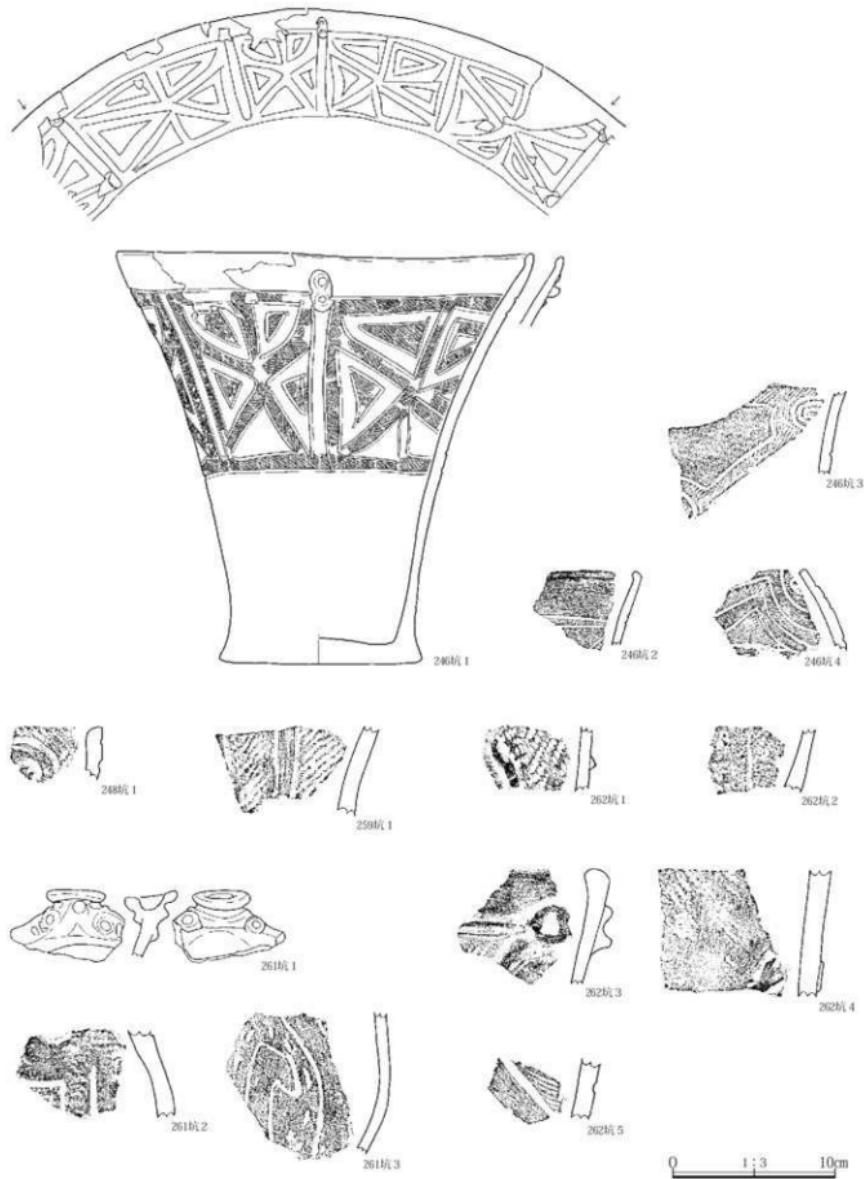
- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒少含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒多く含む。
- 4 黑褐色土 ローム粒少含む。
- 5 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。

0 1:40 1m

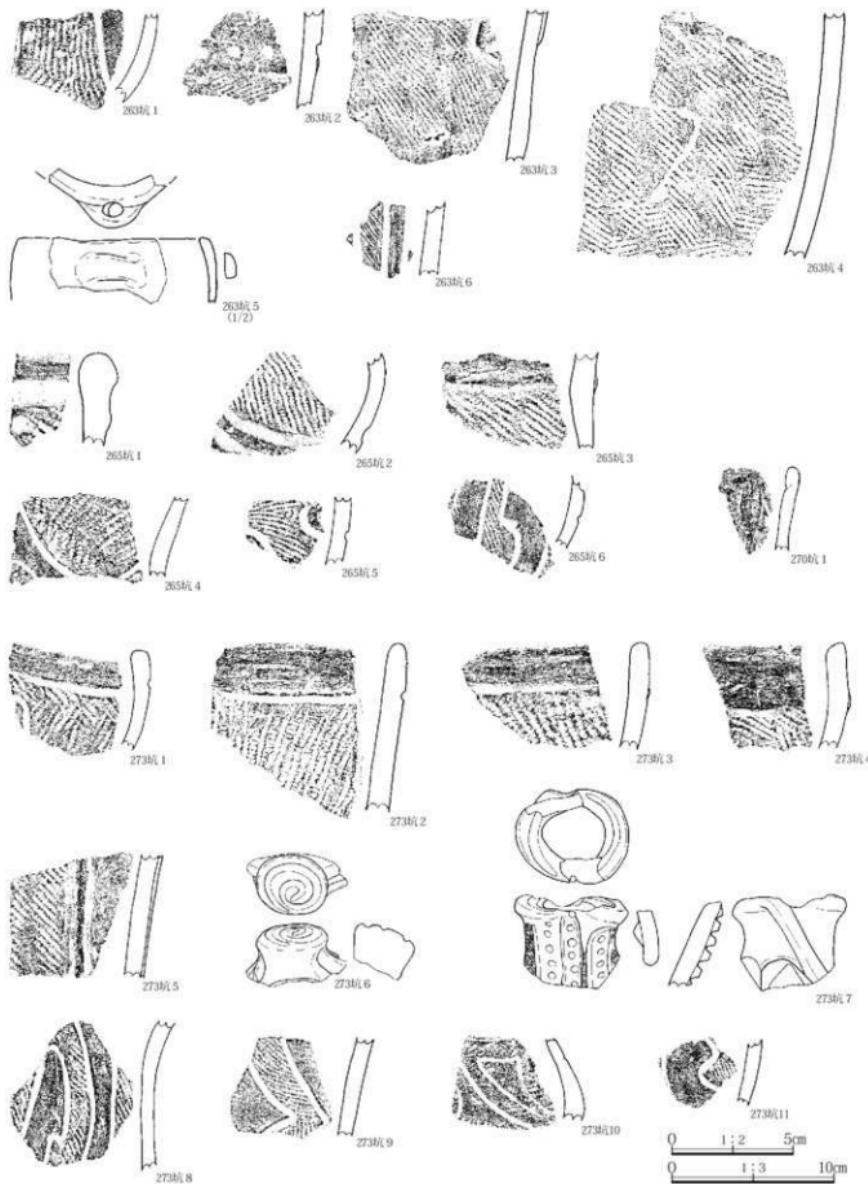
第34図 5区土坑(3)



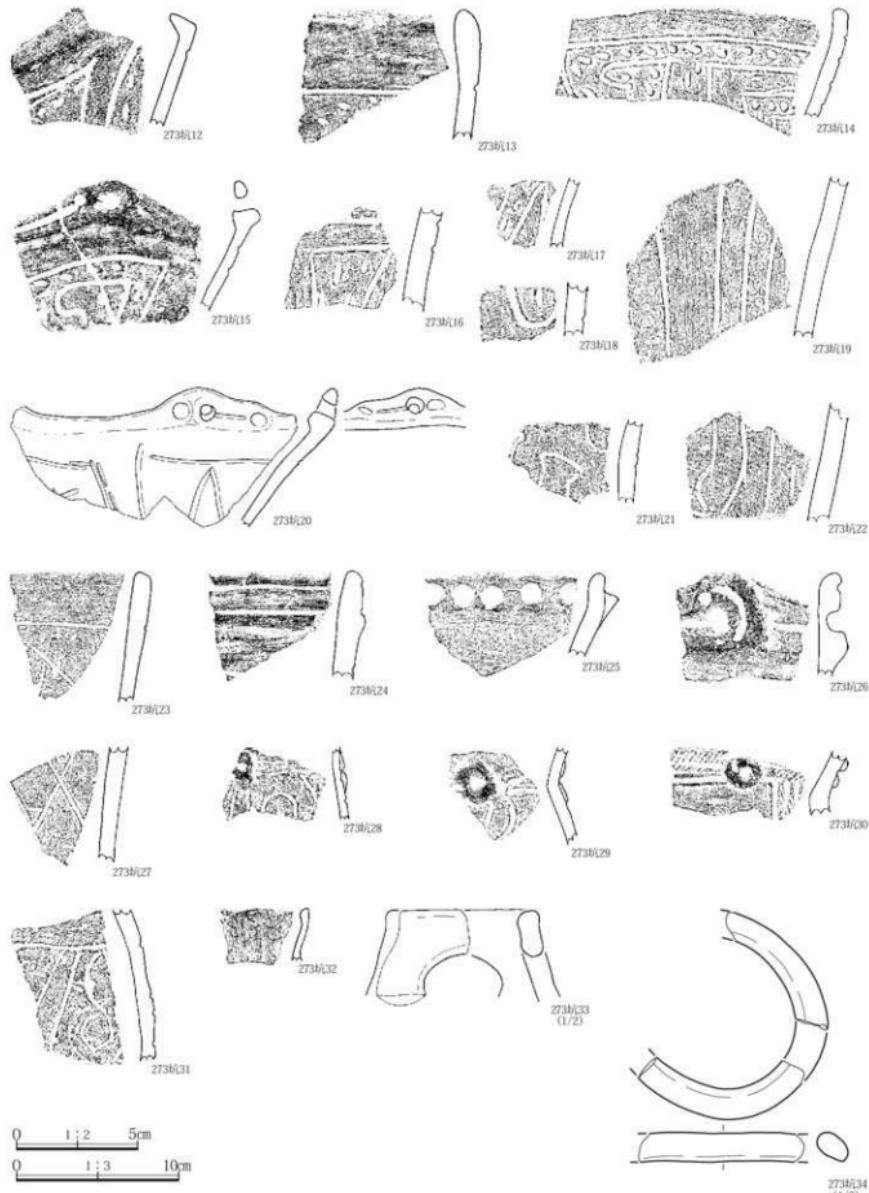
第35図 5区土坑(4)



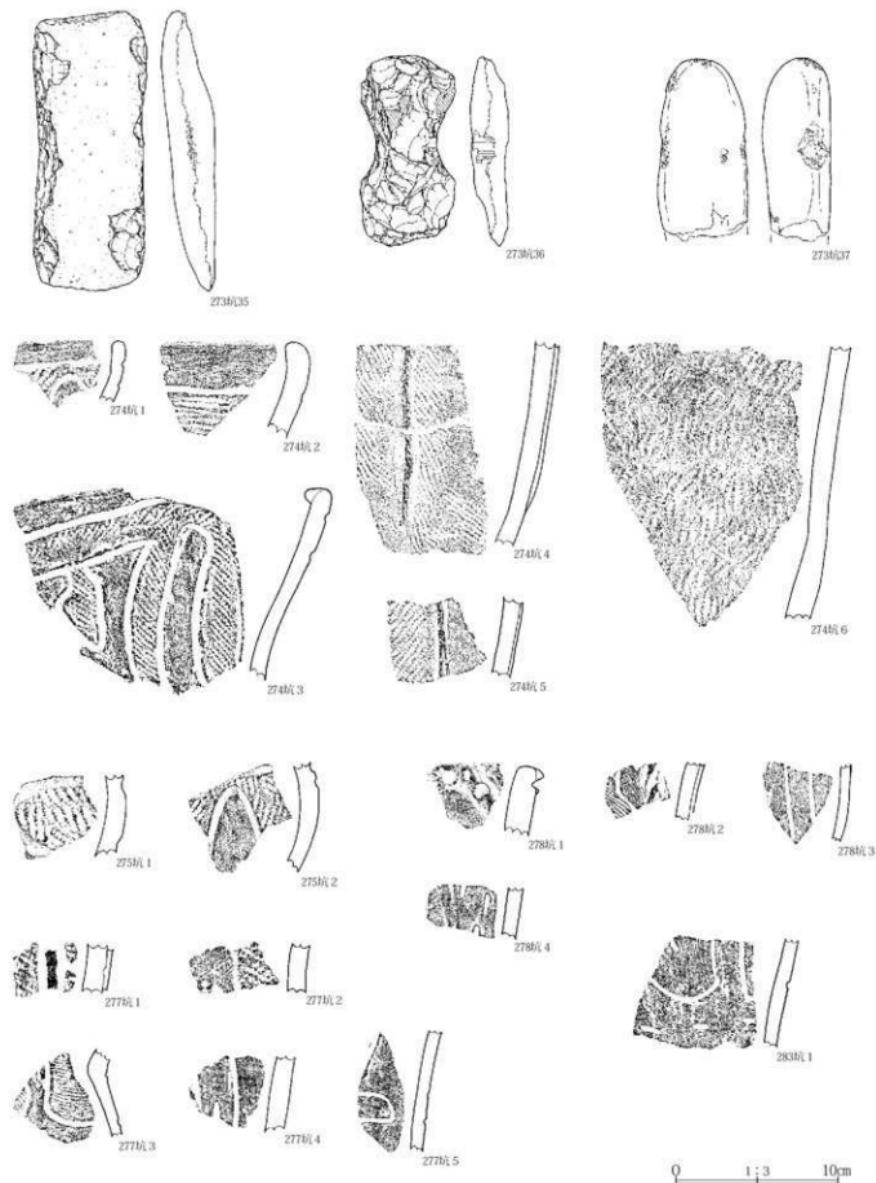
第36圖 5區土坑出土遺物(1)



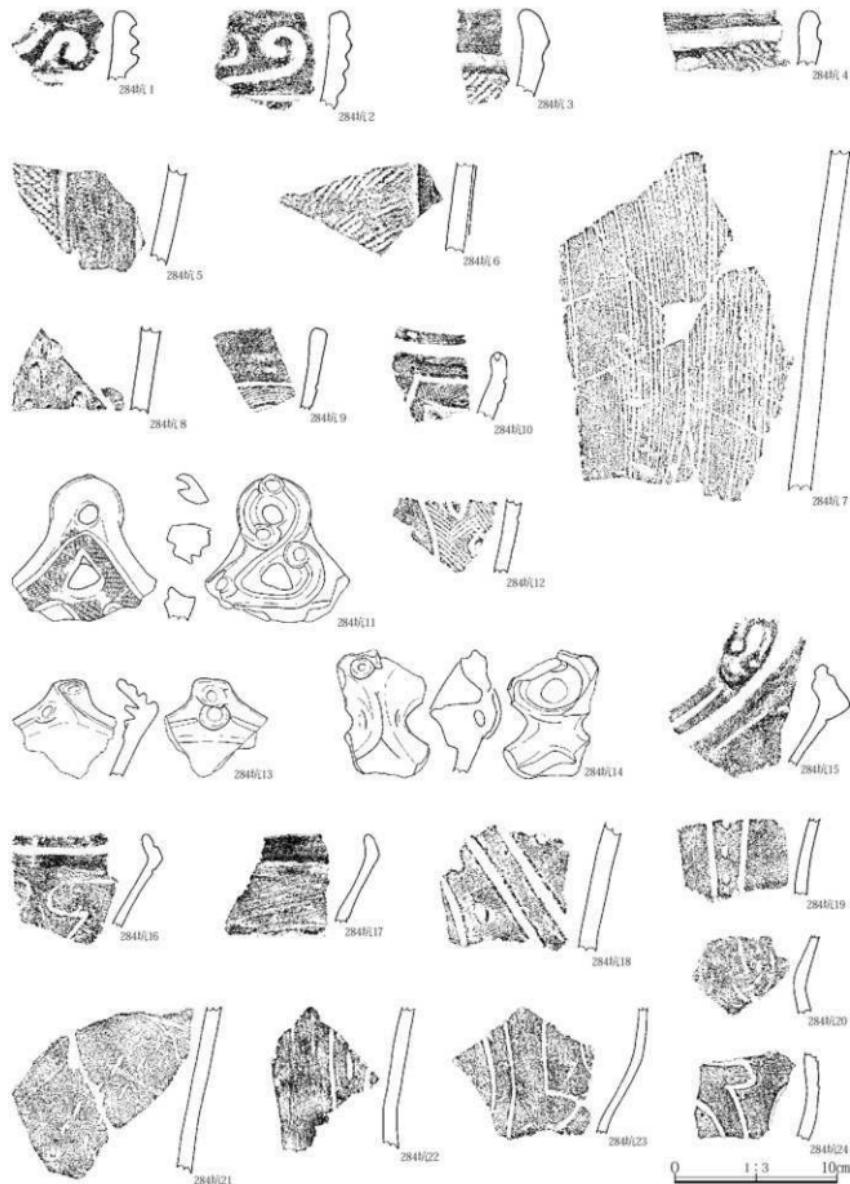
第37図 5区土坑出土遺物(2)



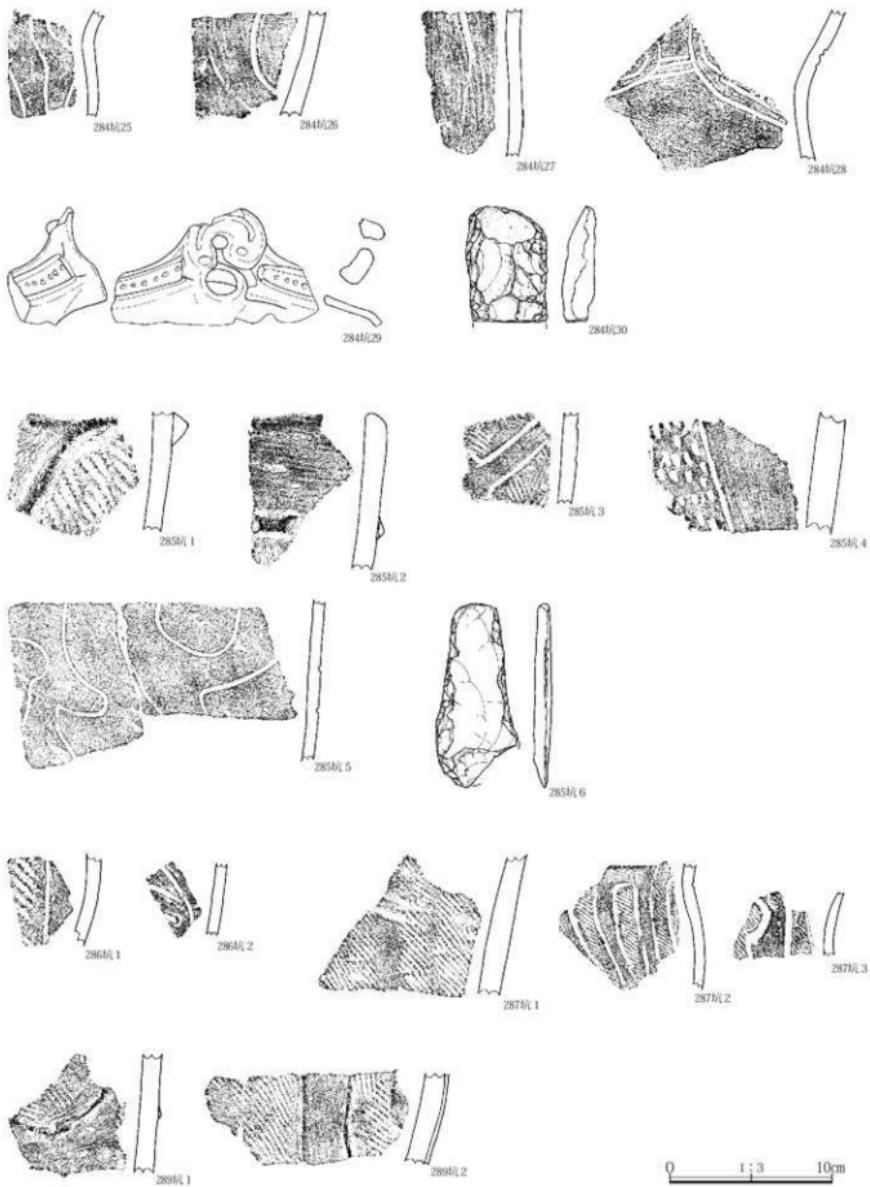
第38圖 5區土坑出土遺物(3)



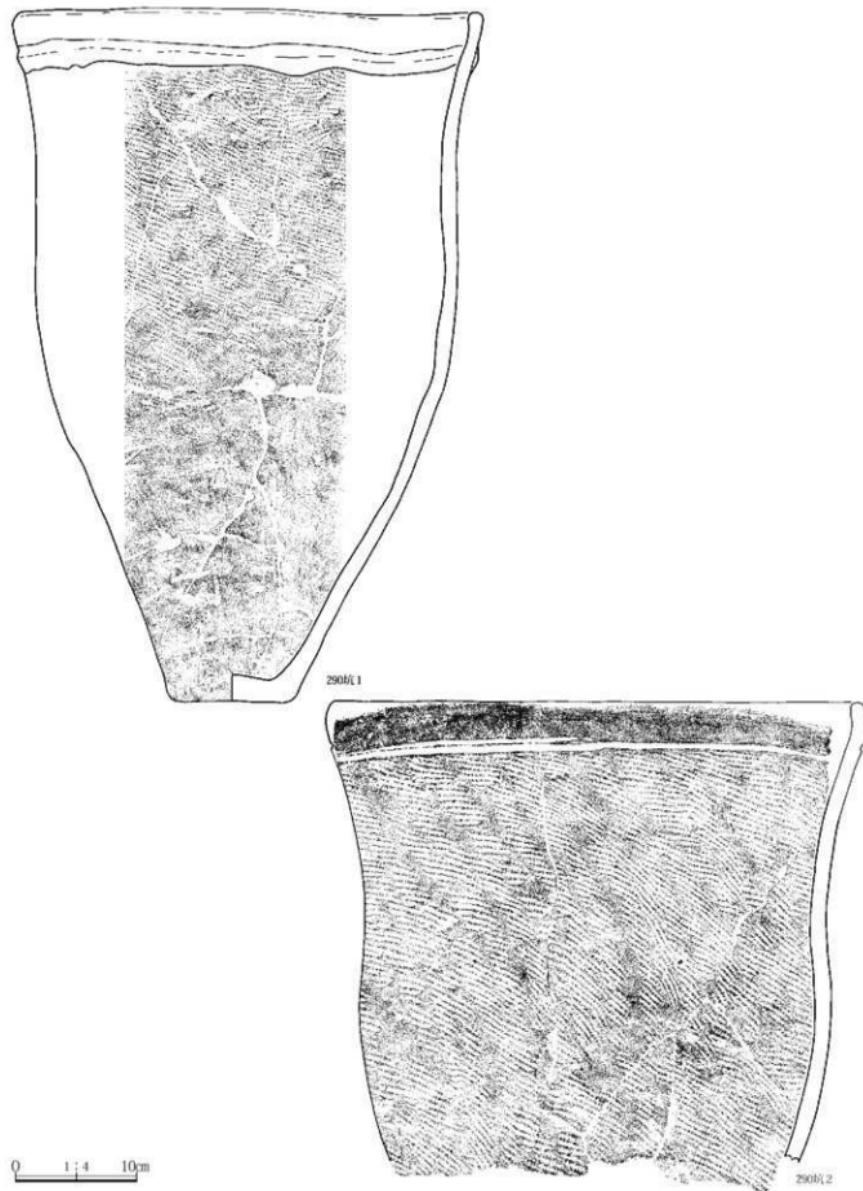
第39図 5区土坑出土遺物(4)



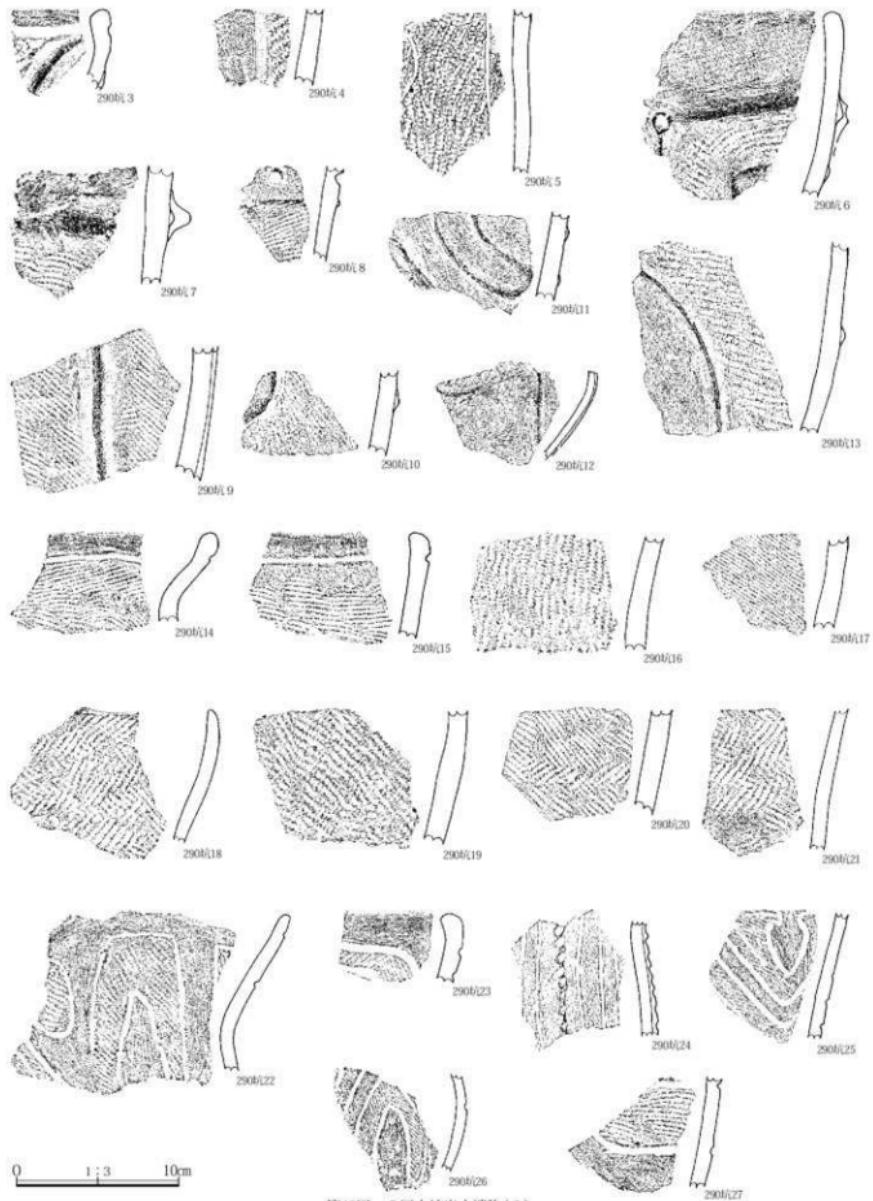
第40圖 5區土坑出土遺物(5)



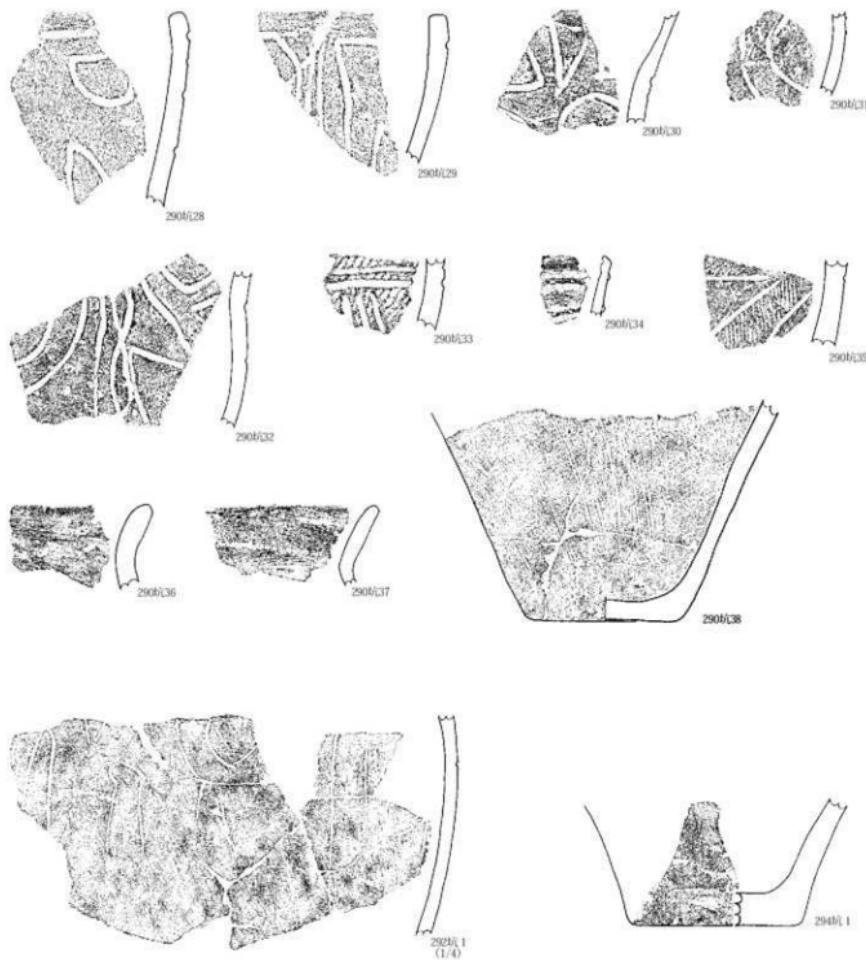
第41図 5区土坑出土遺物(6)



第42圖 5区土坑出土遺物(7)



第43図 5区土坑出土遺物(8)



0 1:3 10cm
0 1:4 10cm

第44図 5区土坑出土遺物(9)

3 1 北区

●299号土坑

1北区南端で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。南半は調査区外のため調査できなかった。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は13点であり、称名寺式が1点混じるが加曾利E3式を主体とするため、加曾利E3式期の可能性を考えたい。埋土中から環状土製品(2)が出土している。石器の出土はない。

●301号土坑

1北区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E2式1、中期後葉～後期前葉期の2点のみである。石器の出土はない。

●305号土坑

1北区北端で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は41点であり、加曾利E3式～堀之内1式が混在するが、堀之内1式の大型破片(4)が出土していることから、堀之内1式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●306号土坑

1北区南部で検出された袋状土坑である。307号に切られる。底面よりやや上位が張り出す特異な形状を呈し、最大径は210cmを測る。ローム粒を含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は107点である。早期後半期が1点あるが明らかに混入であり、それ以外は加曾利E2式～称名寺式が混在する。埋土中層に後期加曾利E系と考えられる個体土器(1)やNo. 4～6が一括して出土していることから、称名寺I式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●307号土坑

1北区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックを斑状に含む黒褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E3式3点、中期後葉～後

期前葉期2点の5点のみである。No. 1が底面付近から出土しているため加曾利E3式期とも考えられるが、調査時の新旧判断と矛盾するため混入と考えたい。石器は黒曜石製の石鏃1点が出土している。

●308号土坑

1北区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●309号土坑

1北区北端、305号の1.5m程東で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑であり、形状も305号に似る。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E3式2点、中期後葉～後期前葉期3点の5点のみである。石器の出土はない。

●310号土坑

1北区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●312号土坑

1北区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。313号に切られる。ロームブロックを多く含む褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●313号土坑

1北区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。底面に若干の段差が見られ、2基の重複にも見える。出土土器は15点で加曾利E3式が4点、加曾利E式的細別不能が11点である。出土点数は少ないが、加曾利E3式期の所産と考えたい。石器は二次加工ある剝片1点が出土している。

●314号土坑

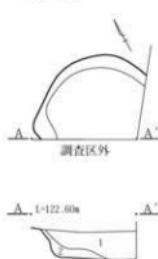
1北区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑で、底面中央がやや凹む。東部は調査区外のため調査できず、北部は擾乱により壊されている。ロー

ムブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は6点のみで称名寺II式が1点、中期後葉～後期前葉期が5点である。石器は打製石斧1点が出土している。

●315号土坑

I北区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒、焼土粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は中期後葉～後期前葉期が1点のみである。石器は石皿1点が出土している。

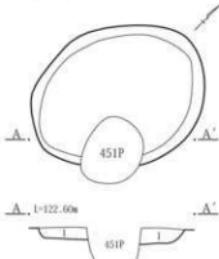
299号土坑



299号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

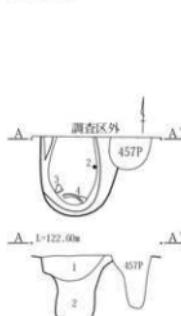
301号土坑



301号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。

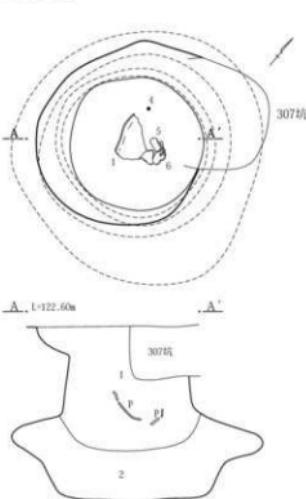
305号土坑



305号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

306号土坑



307号土坑



307号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。炭化物粒含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

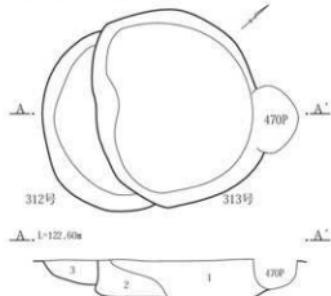
308号土坑



308号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。

312号・313号土坑

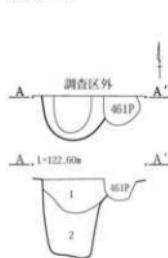


312・313号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロック多く含む。

第45図 1 北区土坑(1)

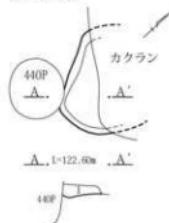
309号土坑



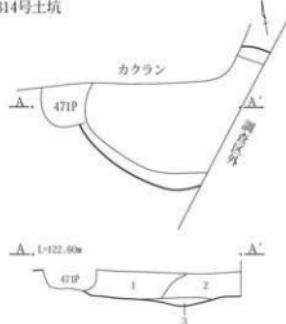
309号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。炭化物粒含む。
- 310号土坑
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

310号土坑



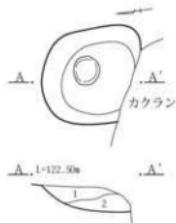
314号土坑



314号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

315号土坑



315号土坑

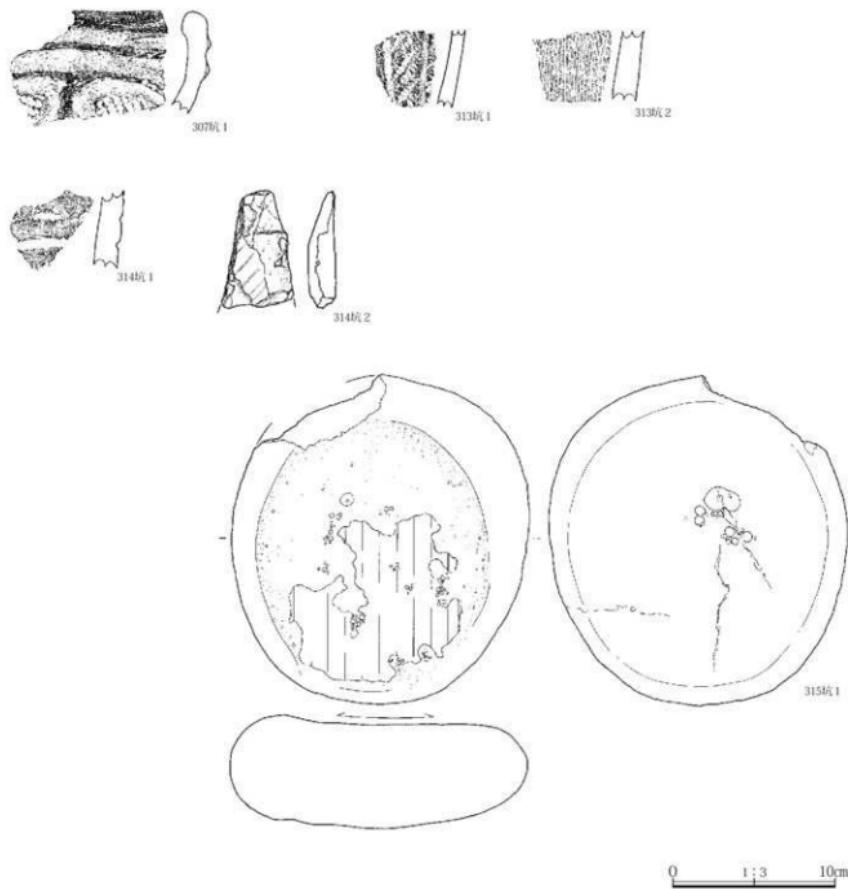
- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。燒土ブロック含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。燒土粒含む。

0 1:40 1m

第46図 1 北区土坑(2)



第47圖 1 北区土坑出土遺物(1)



第48図 1 北区土坑出土遺物(2)

4 1中区

●6号土坑

1中区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E4式の小破片が1点のみである。石器の出土はない。

●10号土坑

1中区中央やや北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まるが、間にロームブロック主体の土層を挟む。出土土器は中期後葉～後期前葉期にしか判別できない小破片が14点のみである。石器の出土はない。

●12号土坑

10号の1m程南東で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は中期後葉～後期前葉期の小破片が2点のみである。石器の出土はない。

●14号土坑

12号の1.5m程東で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は3点のみで加曾利E2、E3式が各1、加曾利E式の細別不能が1点である。石器の出土はない。

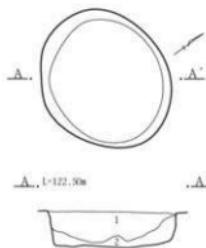
●15号土坑

14号の北東隣で検出、14号に切られる。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は7点のみで加曾利E2、E3式が各1、中期後葉～後期前葉期が5点である。石器はチャート製の石鎚1点、打製石斧1点、磨石1点が出土している。

●17号土坑

1中区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒を含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は41点で加曾利E3式が主体をなすことから、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器はチャート製の石核1点、剥片2点が出土している。

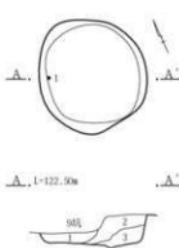
6号土坑



6号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む、炭化物粒含む。
2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

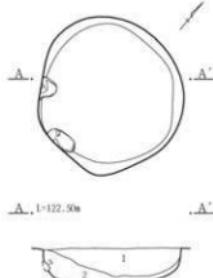
10号土坑



10号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。炭化物粒含む。
2 黄褐色土 ロームブロック主体。
3 黑褐色土 ロームブロック少量含む。

12号土坑



12号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。炭化物粒含む。
2 黑褐色土 ローム粒少量含む。

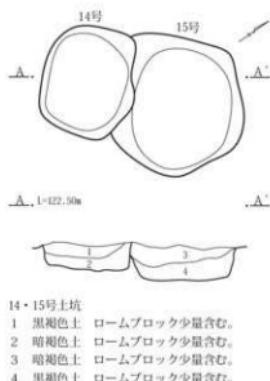


第49図 1中区土坑(1)

●18号土坑

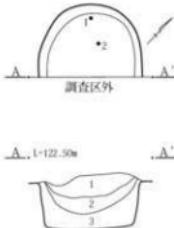
1中区南端で検出。振り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックを含む土で埋まり、最上層は黒褐色土、中層が暗褐色土、最下層はにごったロー

14・15号土坑



- 14・15号土坑
1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
4 黑褐色土 ロームブロック少量含む。

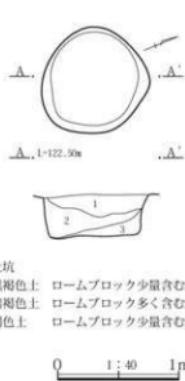
17号土坑



17号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
2 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。
3 黒褐色土 ローム粒少量含む。

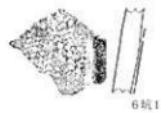
18号土坑



18号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
3 褐色土 ロームブロック少量含む。

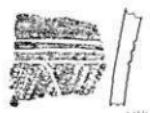
0 1:40 1m



6坑1



10坑1



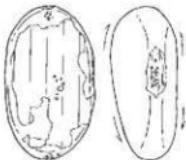
14坑1



15坑1



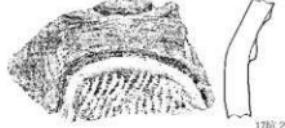
15坑2

15坑3
(1/1)

15坑4



17坑1



17坑2

0 1:1 2cm
0 1:3 10cm

第50図 1中区土坑(2)および出土遺物

5 1 南区

●30号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかった。底面が2段になっており、おそらく2基の重複であろう。ローム粒、ブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は27点で、加曾利E2式～称名寺式が混在する。石器の出土はない。

●31号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は50点でほぼ純粹に加曾利E3式で混在がないため、加曾利E3式期の所産と判断される。石器は剥片1点が出土している。

●32号土坑

1 南区北部で検出。小型だが、掘り込みのしっかりした断面擂鉢状の土坑である。ローム粒を含む黒褐色土で埋まる。出土土器は4点の細片のみである。石器の出土はない。

●33号土坑

1 南区北部で検出、32号と様相の似る断面擂鉢状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は5点のみで加曾利E2、E3式が各1点、加曾利E式の細別不能が3点で、加曾利E式の細別不能には器台2個体が含まれる。埋土上層でNo. 1～3がまとめて出土していることから、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器はチャート製の石核1点、二次加工ある剥片2点が出土している。

●34号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は小破片10点のみで加曾利E3式が4点、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が6点である。石器は二次加工ある剥片2点が出土している。

●35号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は154点で、加曾利E2式～称名寺式が混在する。加曾利E3式と称名寺式が多い傾向にあるが、加曾利E3式を切り合う45号の混入をとらえ、称名寺式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●36号土坑

1 南区北部、35号の西に隣り合う位置で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックをわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は23点で阿玉台式、加曾利E2式が各1点、加曾利E3式が6点、加曾利E4式が3点、中期後葉～後期前葉期が12点である。明確に後期前葉期に比定できる土器がないため、加曾利E4式期の可能性を考えたい。石器は剥片1点が出土している。

●37号土坑

1 南区北東隅で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒、ブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は9点で加曾利E3式が3点、中期後葉～後期前葉期が6点である。加曾利E3式の大型破片が底面付近で出土しているため、該期の所産と考えたい。石器は剥片1点が出土している。

●38号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は43点だがほぼ小破片で、時期比定できるものは加曾利E2式が1点、加曾利E3式が3点のみ、ほか39点は中期後葉～後期前葉期としか判別できず、帰属時期の判断は難しい。石器は黒色安山岩製の石鎌1点が出土している。

●39号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックをわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は29点で加曾利E2式～

後期前葉期が混在する。石器の出土はない。

●40号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。41号に切られる。ロームブロックをわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●41号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は中期後葉～後期前葉期が1点のみである。石器の出土はない。

●42号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E2式1点、中期後葉～後期前葉期1点の2点のみである。石器は二次加工ある剥片1点が出士している。

●43号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む黒褐色土で埋まる。出土土器は260点と多いが大部分が小破片で、中期後葉～後期前葉期としか判別できないものが224点を数えた。残りは加曾利E2式～称名寺式が混在するが、加曾利E3式と称名寺式が多い傾向にあることから称名寺式期の所産と考えたい。埋土中から環状土製品(4)が出土している。石器は二次加工ある剥片1点、剥片2点が出土している。底面に大型の礫が集積していた。

●44号土坑

1 南区北部で検出。底面の南側のみ張り出す半袋状の土坑である。ローム粒、ブロックをわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は290点と多いが大部分が小破片で、加曾利E2式～壜之内2式が混在する。中層で称名寺II式の大型破片がまとまるところから、該期の所産と判断しておきたい。加曾利E3式の大型破片(1)は掘り込み面の壁際から出土しており、本土坑には伴わない可能性が高い。石器はチャート製の石礫1点、打製石

斧1点、二次加工ある剥片1点、剥片2点が出土している。

●45号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。35号に切られる。ロームブロックを含む黒褐色土で埋まるが、中央に焼土が堆積する。出土土器は小破片のみ41点で、時期比定できるものは加曾利E3式が10点、称名寺式が6点である。切り合う35号が称名寺式期と考えられるため、加曾利E3式期の所産と考えたい。石器は剥片1点が出土している。

●47号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は26点で、時期比定できるものは加曾利E2式、称名寺式が各1点、加曾利E3式が11点であることから加曾利E3式期の可能性を考えたい。石器は二次加工ある剥片1点、多孔石1点、剥片1点であり、多孔石(3)は壁際で出土している。

●48号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒を含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は50点で、中期後葉～後期前葉期としか判別できないものが33点、残りは加曾利E2式～称名寺式が少量ずつが混在する。石器の出土はない。

●53号土坑

1 南区北部、52号の40cm程東で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は70点で加曾利E3式が主体をなすとともに、埋土上層で大型破片がまとまって投棄された状態で出土していることから、該期の所産と判断したい。石器はチャート製の石核1点が出土している。

●54号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。48、53号に切られる。ローム粒を含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は227点で加曾利E4式と称名寺式がわずかに混じるが、加曾利E3式が主体をなすことから加曾利E3式期の所産と判断したい。石器は凹石2点、磨石1点、剥片2点が出土している。

●49号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。写真を見る限り、北壁側が掘り切れておらず、本来はもう少し大型の土坑であったと考えられる。ローム粒を含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は273点でほぼ純粹に加曾利E3式で混在がないため、加曾利E3式期の所産と判断される。No. 1～3が確認面付近でまとまって投棄された状態で、No. 4が底面近くで出土している。石器は打製石斧1点、剥片1点が出土している。

●50号土坑

1 南区北部で検出。断面浅円筒状の土坑だが、掘り込みはやや不明瞭である。ロームブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は細片が19点のみだが、加曾利E3式が主体となるため該期の可能性が考えられる。石器の出土はない。

●52号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は24点で加曾利E4式が2点混じるが、加曾利E3式が主体をなすうえ大型破片(1)も出土していることから、加曾利E3式期の所産と判断される。石器は石錐1点が出土している。

●55号土坑

1 南区北部で検出。下半が円筒状で上半が擂鉢状に開く特異な断面形状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は106点で加曾利E3式が主体をなすことから、該期の所産と判断したい。石器はチャート製の石錐1点、黒色安山岩製の石錐2点、剥

片3点が出土している。

●56号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は59点で小破片のみだが加曾利E3式が主体をなすことから、該期の所産と判断したい。石器は剥片1点が出土している。

●57号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は103点で加曾利E4式と称名寺式がわずかに混じるが、加曾利E3式が主体をなし、また切り合う63号が称名寺式期と考えられることから、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器は石錐1点、剥片9点が出土している。

●59号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。60号に切られる。ローム粒、ブロックを含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は、明らかに混入と判断される黒浜式が1点、加曾利E3式、E4式が各1点、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が3点の計6点のみである。石器は剥片1点が出土している。

●60号土坑

1 南区北部で検出。断面円筒状でやや小型の土坑だが、掘り込みはやや不明瞭である。53号に切られる。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は細片4点のみで加曾利E3式が2点、中期後葉～後期前葉期としか判別できないもの2点である。石器の出土はない。

●61号土坑

1 南区北部で検出。断面擂鉢状の土坑で、掘り込みはやや不明瞭である。東半は調査区外のため調査できなかった。底面が2つに分かれしており、2基の重複の可能性も考えられる。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E2式、E3式が各1点、中期

後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が3点の計5点のみである。石器の出土はない。

●62号土坑

1 南区北部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は59点で、加曾利E2式～称名寺式が混在する。埋土中から環状土製品(4)が、石器は剥片1点が出土している。

●63号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は60点で、加曾利E3式～称名寺式が混在するが、称名寺式期の可能性を考えたい。石器は凹円1点、剥片1点が出土している。

●64号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は868点と多く、加曾利E3式、E4式が主体をなすことから、加曾利E4式期の所産と判断したい。埋土中から棒状の土製品(11)が出土している。石器はチャート製の石鏃、黒色安山岩製の石鏃が各1点、打製石斧1点、剥片5点が出土している。

●75号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E3式が1点(1)のみである。石器の出土はない。

●76号土坑

1 南区中央部で検出。断面円筒状で小型の土坑だが、掘り込みはやや不明瞭である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は10点のみで加曾利E2式、E4式が各1点。中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が8点である。石器の出土はない。

●111号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む均一な暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は13点で加曾利E3式が7点、加曾利E式の細別不能が6点のため、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器はチャート製の石鏃2点、打製石斧2点、剥片12点が出土している。

●130号土坑

1 南区南端で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む均一な暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●132号土坑

1 南区南部で検出。断面擂鉢状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は47点で加曾利E2式、E3式の小破片が主体となるが、加曾利E2式の個体(1)、口縁部のほぼ半周が正位に置かれた状態で出土している。石器はチャート製の石鏃2点、二次加工ある剥片1点、剥片6点が出土している。

●133号土坑

1 南区中央部で検出。断面擂鉢状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒を含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は15点で加曾利E2式、称名寺式が若干混じるが、加曾利E3式が主体となる。出土点数が少ないため時期判断は難しい。石器は打製石斧1点が出土している。

●135号土坑

1 南区中央部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●136号土坑

1 南区中央部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。2号竪穴建物を切る。ローム粒を含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は小

破片のみ47点で、加曾利E2式が若干混じるが加曾利E3式が主体となるため、加曾利E3式期の所産と判断したい。孔の開いた特殊な土製品が出土している。石器は剥片2点が出土している。

●137号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は34点で加曾利E2式、E3式が若干混じるが、無文の小破片が主体となる。底面からやや浮いた位置で加曾利E2式の破片(1)が出土していることから、該期の所産と判断したい。石器は剥片2点が出土している。

●138号土坑

1南区南端で検出。直径285cm、深さ26cmを測り、底面がほぼ平坦な落ち込みである。規模や形状は、土坑より竪穴建物に近い。壁面の立ち上がりはやや不明瞭である。ローム粒を含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は376点で加曾利E2式～称名寺式が混在する。確實な遺構としてよいものか判断が難しい。確認面もローム上面まで下げていないため、包含層最下部を掘り抜いただけの可能性も否定できない。石器はチャート製の石槍1点、チャート製の石核1点、二次加工ある剥片3点、使用痕ある剥片1点、磨石1点、剥片9点が出土している。

●140号土坑

1南区中央部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ38点で加曾利E2式、E3式が主体となるため、加曾利E3式期の可能性を考えたい。石器の出土はない。

●141号土坑

1南区中央部北寄りで検出。断面擂鉢状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。中央に加曾利E4式の両耳壺下半(1)を正位に据え、周囲を多孔石を含む礫で囲んでいる。出土土器は51点で加曾利E3式、E4式が混在する。No.1から加曾利E4式期の所産と判断される。石器は石皿1点、多孔石3点、剥片7点が出土している。

●142号土坑

1南区北部南寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E2式、E3式の小破片が6点のみである。石器は使用痕ある剥片1点が出土している。

●143号土坑

1南区北部、57号の底面で確認された。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は小破片を主に88点で、称名寺式が若干混じるが加曾利E3式が主体となる。石器の出土はない。

●144号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックを含む黒褐色土を主体に埋まる。1層は上下で分層でき、それぞれ159号の4、5層につながるように見える。出土土器は321点で称名寺II式が主体となり、次いで加曾利E3式が多い。調査段階では細長い長方形の土坑とされたが、形状が不自然であるため整理段階で見直しを行ったところ、本来は159号の西半を含めた円形状の土坑であると考えるに至った。そのため144号として調査したのは、本来の西半部のみということになる。はじめは159号との切り合いかが逆で、残った西半部を先に調査してしまった可能性を考えたが、出土土器を見ると称名寺II式が多く含まれており、また底面近くで出土している土器も中期末葉～後期前葉期(No.1, 3, 5, 11)であることから、切り合いか自体は間違っておらず称名寺II式期の所産であると判断した。埋土上層から筒状の特殊な土製品(13)、埋土中から環状土製品(14)が、石器は打製石斧1点、二次加工ある剥片2点、剥片2点が出土している。

●159号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。調査段階では東西に長い楕円形状の土坑とされたが、144号で記述したとおり西半は144号と考えられるため、本来は円形状であったと判断される。ロームブロックを含む黒褐色、暗褐色土を主体に埋まる。

4層西部のロームブロック集中は144号内の可能性が高い。出土土器は530点と多量で、加曾利E3式と称名寺式が主体となる。称名寺式を本来の144号東半部に帰属していたものと考え、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器はチャート製の石核1点、磨石1点、敲石1点、丸石1点、石皿1点、剥片4点が出土している。

●146号土坑

1南区中央部で検出。深さが2段になり、深いほうだけ見れば、やや小型だが掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ15点で、加曾利E3式が主体となる。石器は剥片1点が出土している。

●147号土坑

1南区中央部、146号の北に接するように検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は31点で、加曾利E3式が主体となるため該期の所産と判断したい。石器は剥片1点が出土している。

●148号土坑

1南区中央部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は14点と土坑の規模の割に少ない。加曾利E2式、称名寺式が若干混じるが、加曾利E3式が主体となる。石器は剥片1点が出土している。

●149号土坑

1南区中央部南寄りで検出。深さが2段になり、深いほうだけ見れば、小型だが掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。146号に似る。ローム粒を含む褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は41点で加曾利E2式、E4式、称名寺式が若干混じるが、加曾利E3式が主体となる。石器は剥片1点が出土している。

●150号土坑

1南区中央部南寄りで検出。断面擂鉢状の土坑で、掘り込みはやや不明瞭である。ローム粒を含む黄褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は、中期後葉～後期前葉期と

しか判別できない小破片が2点のみである。石器の出土はない。

●151号土坑

1南区中央部南寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器はない。石器は剥片1点が出土している。

●152号土坑

1南区南部北寄りで検出。深さが2段になり、深いほうだけ見れば、小型だが掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。146、149号に似る。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は30点で、加曾利E3式～堀之内2式が混在する。堀之内1式、2式の大型破片が出土していることから、堀之内2式期の可能性がある。出土位置は記録されていないが、断面図1、2層にまたがっている土器がNo. 3のようだ。石器の出土はない。

●153号土坑

1南区中央部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ17点で、加曾利E3式と称名寺式が混在する。石器の出土はない。

●154号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ6点で、明らかな混入とされる五頭ヶ台式が1点、加曾利E3式4点、加曾利E式の細別不能が1点となる。石器の出土はない。

●155号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックを含む褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ15点で、加曾利E2式～堀之内1式が混在する。石器の出土はない。

●156号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ26点で、加曾利E2式～加曾利E4式が混在する。石器の出土はない。

●157号土坑

1 南区北部南寄りで検出。小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ4点で加曾利E3式が1点、加曾利E式の細別不能が3点となる。石器は確認面壁際で多孔石1点(1)が出土している。

●160号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は25点で加曾利E2式、称名寺式が若干混じるが、加曾利E3式が主体となる。石器は打製石斧1点が出土している。

●161号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。160、162号に切られる。ローム粒、ブロックを含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は17点で加曾利E2式～称名寺式が混在する。石器は剥片1点が出土している。

●162号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は48点で、称名寺式が若干混じるが加曾利E3式が主体となる。石器の出土はない。

●163号土坑

1 南区北部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。底面が2段になる。ローム粒を含む均一な暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●164号土坑

1 南区北部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。163号に切られる。ローム粒を含む均一な暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●165号土坑

1 南区中央部北寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は50点で加曾利E3式が主体となることから、該期の所産と判断したい。石器は剥片1点が出土している。

●167号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。底面が2段になるが、深いほうが本来の底面であったと考えられる。ローム粒を含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は39点で加曾利E2式、E3式が主体となることから、加曾利E3式の所産と判断したい。石器は二次加工ある剥片1点、剥片1点が出土している。

●168号土坑

1 南区北部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ59点で、称名寺式が若干混じるが加曾利E3式が主体となる。埋土中から環状土製品(1)が、石器は打製石斧1点、二次加工ある剥片1点、多孔石1点、剥片1点が出土している。

●170号土坑

1 南区北部南寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む均一な暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●173号土坑

1 南区中央部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。下半はロームブロックを多く含む褐色土、上半はローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は8点のみで加曾利E2式2点、称名寺式1点、中期後葉～後期前葉期とし

か判別できないもの5点である。石器はチャート製の石鏃が1点、剥片1点が出土している。

●175号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックをわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は6点のみで加曾利E3式3点、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片3点である。石器の出土はない。

●177号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。175号に切られる。ロームブロックを含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は4点のみで加曾利E3式1点、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片3点である。石器の出土はない。

●178号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。175, 176号に切られる。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は3点のみで加曾利E2式2点、加曾利E3式1点となる。加曾利E3式の大型破片(2)が出土しているため、該期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●176号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は83点で、時期比定が可能なものは加曾利E3式2点、加曾利E4式1点、称名寺式1点、堀之内1式5点、堀之内2式12点となり、残り62点は中期後葉～後期前葉期としか判別できない。堀之内2式が最も多いことから該期の所産と考えたい。石器は打製石斧1点、剥片5点が出土している。

●179号土坑

1 南区南部北寄りで検出された袋状土坑。開口部径が最も大きく、皿状に下げた中央を掘り込んでいる。下半は均一な黒褐色土、上半は暗褐色土で埋まる。3, 5層は壁面ないし天井が崩れたものであろう。出土土器は

353点で、加曾利E2式～堀之内1式が混在するため帰属時期の特定は難しいが、後期前葉期と判断しておきたい。石器は打製石斧2点、変輝緑岩製の磨製石斧1点、二次加工ある剥片2点、剥片1点が出土している。

●182号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は23点で、加曾利E3式～称名寺式が混在する。石器の出土はない。

●184号土坑

1 南区北部南寄りで検出。小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が2点のみである。石器の出土はない。

●187号土坑

1 南区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ29点で、加曾利E2式～称名寺式が混在する。石器は剥片1点が出土している。

●188号土坑

1 南区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。ロームブロックをわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は101点で、称名寺式が若干混じるもののが曾利E3式が主体となる。No. 1の浅鉢が壁際で、No. 2の深鉢脣部上半が中央に正面に置かれた状態で出土している。石器は剥片2点が出土している。

●189号土坑

1 南区南部で検出。断面浅円筒状の土坑だが、掘り込みはやや不明瞭である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は、加曾利E3式の小破片1点のみである。埋土中から棒状の土製品(1)が出土している。石器の出

土はない。

●190号土坑

1 南区南部南寄りで検出。断面浅円筒状の土坑だが、掘り込みはやや不明瞭である。ローム粒を含む黄褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は、加曾利E2式～称名寺式の小破片6点のみである。石器の出土はない。

●191号土坑

1 南区南部南寄りで検出。断面浅円筒状の土坑だが、掘り込みはやや不明瞭である。190号に切られる。ロームブロックを含む黄褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は、加曾利E2式とE3式の小破片10点のみである。石器は剥片1点が出土している。

●192号土坑

1 南区中央部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は53点で、加曾利E3式～称名寺式が混在する。石器は磨石1点が出土している。

●193号土坑

1 南区中央部で検出。深さが2段になり、深いほうだけ見れば断面浅円筒状の土坑である。掘り込みはやや不明瞭である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は10点のみで、称名寺式が若干混じるが加曾利E3式が主体となる。石器は磨石1点、剥片1点が出土している。

●194号土坑

1 南区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。195号に切られる。下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層にローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は94点で加曾利E2式、称名寺式が若干混じるもののが加曾利E3式が主体となるため、加曾利E3式期の所産と考えたい。石器は打製石斧1点、敲石1点、剥片8点が出土している。

●195号土坑

1 南区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む均一な暗褐色土を主体に埋まる。出土土器は90点で、ほぼ純粹に加曾利E3式となるため、該期の所産と判断される。石器は打製石斧1点、ホルンフェルス製の石核1点、剥片10点が出土している。

●196号土坑

1 南区中央部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む褐色土、暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ36点で、称名寺式が若干混じるもののが加曾利E3式が主体となる。石器の出土はない。

●197号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ17点で、加曾利E3式～称名寺式が混在する。石器は剥片1点が出土している。

●198号土坑

1 南区中央部南寄りで検出された袋状ないしプラスコ状土坑。張り出し部が未調査のため規模や形状は不明だが、写真を見る限り底面が平坦で、そのままの高さで折り重なる様相を呈していることから、プラスコ状の可能性を考えたい。上層はローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。下層の調査記録はない。出土土器は984点と多量であり、加曾利E2式～堀之内1式が混在するが称名寺式、堀之内1式が主体となることから後期前葉期の所産と判断される。石器は打製石斧4点、ホルンフェルス製の石核1点、二次加工ある剥片3点、凹石2点、磨石1点、敲石2点、多孔石1点、粗粒輝石安山岩製の石製品1点、剥片5点と多く出土している。

●199号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。断面浅円筒状の土坑だが、掘り込みはやや不明瞭である。198号に切られる。ローム粒を含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。1層が2、3層

を掘り込んでおり、1層のみの土坑が存在するのである。写真でも底面に丸い掘り残しが確認できる。出土土器は、加曾利E3式の小破片1点のみである。石器の出土はない。

●200号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。底面にピット状の落ち込みがあるが、後から掘られた別のピットであろう。ローム粒を含む暗褐色土を主体に埋まる。出土土器は38点で、加曾利E2式～称名寺式が混在する。石器は剥片1点が出土している。

●201号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は小破片が5点のみで加曾利E2式が1点、加曾利E式の細別不能が4点である。石器は剥片1点が出土している。

●202号土坑

1 南区中央部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は5点のみで加曾利E2式が1点、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が4点である。石器の出土はない。

●203号土坑

1 南区北部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。7号竪穴建物炉に切られる。ロームブロックを含む褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は37点で、加曾利E2式が若干混じるもの加曾利E3式が主体となるため、加曾利E3式期の所産と判断される。石器の出土はない。

●204号土坑

1 南区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。底面にピット状の落ち込みがあるが、本土坑に伴うものか明らかでない。ロームブロックを含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は20点で、称名寺

式が若干混じるが加曾利E3式が主体となる。石器の出土はない。

●206号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は173点で加曾利E2式～称名寺式が混在するが、加曾利E4式、称名寺I式の大型破片が目立つことから、称名寺I式期の所産と判断される。No. 2の大型破片がほぼ底面直上から出土している。石器は剥片3点が出土している。

●208号土坑

1 南区南部で検出。深さが2段になり、深いほうだけ見れば、掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックをわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は40点で、加曾利E2式が若干混じるもの加曾利E3式が主体となるため、加曾利E3式期の所産と判断される。石器は四石1点が出土している。底面に礫の集積が見られた。

●209号土坑

1 南区南部で検出。深さが2段になり、断面円筒状の土坑が2基重複している様相を呈す。下層はロームブロックを多く含む暗褐色土、上層はロームブロックをわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は70点で加曾利E3式が主体となるため、加曾利E3式期の所産と判断される。石器は剥片1点が出土している。

●211号土坑

1 南区北部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。7号竪穴建物炉、141号に切られる。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は26点で加曾利E2式、加曾利E3式が混在するため、加曾利E2式ないしE3式の所産と考えたい。石器の出土はない。底面に礫の集積が見られた。

●212号土坑

1 南区中央部で検出。断面擂鉢状の小型の土坑である。ローム粒を含む黒褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●214号土坑

1 南区中央部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。141号に切られる。ローム粒を含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は677点と多量だがほとんどが小破片で、加曾利E3式～堀之内2式が混在する。称名寺式が目立つため該期に比定したいところであるが、加曾利E4式期である141号に明らかに切られることから、加曾利E3式期の所産と考えたい。出土した称名寺式は、217号との切り合いを逆ととらえ、217号に本来帰属したものと考えておきたい。石器は剥片10点が出土している。底面から炭化材が出土している。

●217号土坑

1 南区中央部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。調査段階では214号に切られるとの所見であったが、上述したとおり逆である可能性が高い。ロームブロックを含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は8点のみで加曾利E3式が1点、称名寺式が2点、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が5点であるが、上述したとおり称名寺式期の所産と判断したい。石器は剥片1点が出土している。

●215号土坑

1 南区中央部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。141,214号に切られる。ローム粒を含む均一な黒褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●216号土坑

1 南区中央部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。141, 215号に切られる。下層はロームブロックを多く含む黒褐色土、上層はロームブロックをわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は19点で加曾利E4式が2点、加曾利E4式～称名寺式が17点である。石器の出土はない。

●220号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。下層はロームブロックを多く含む黒褐色土、上層はロームブロックをわずかに含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は19点で加曾利E2式、E4式

が各1点、加曾利E3式5点、加曾利E式の細分不能が12点であることから、加曾利E3式期の所産と考えたい。石器の出土はない。

●221号土坑

1 南区南端で検出。断面浅円筒状の土坑であるが、掘り込みはやや不明瞭である。ロームブロックをわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は21点で、加曾利E3式～称名寺式が混在する。石器の出土はない。

●222号土坑

1 南区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土を主体に埋まる。出土土器は14点のみで加曾利E3式が7点、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が7点である。点数は少ないが、加曾利E3式期の可能性を考えたい。石器は打製石斧1点、削器1点が出土している。

●223号土坑

1 南区北部南寄りで検出。断面浅掘鉢状の土坑で、掘り込みはやや不明瞭である。下層はロームブロックを多く含む暗褐色土、上層はロームブロックをわずかに含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は11点で加曾利E2式、E3式が各1点、加曾利E式の細分不能が9点である。点数は少ないが、加曾利E3式期の可能性を考えたい。石器の出土はない。

●224号土坑

1 南区北部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。225号に切られる。ローム粒を含む均一な黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は164点で、加曾利E3式が若干混じるもの加曾利E2式がほぼ純粹にまとまるため、加曾利E2式期の所産と判断される。石器は打製石斧1点、凹石2点、剥片3点が出土している。

●225号土坑

1 南区北部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む暗

褐色土で埋まる。出土土器は66点で加曾利E3式がほぼ純粹にまとまるため、該期の所産と判断される。石器は打製石斧1点、剥片2点が出土している。

●226号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土を主体に埋まる。出土土器は17点で、堀之内2式が1点混じるが加曾利E3式がほぼ純粹にまとまるため、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器は打製石斧1点、剥片5点が出土している。

●227号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は99点で、加曾利E2式～堀之内2式が混在するが、中層で加曾利E2式～E3式古段階の大型破片がまとまって投棄されていることから、該期の所産と判断したい。石器は二次加工ある剥片1点、剥片6点が出土している。

●228号土坑

1 南区中央部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は11点で加曾利E3式が4点、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が7点である。石器は剥片1点が出土している。

●229号土坑

1 南区中央部で検出。調査段階では1基の土坑として調査されているが、深さが2段になると平面形状から、2基の土坑の重複と考えられる。大型の土坑の北東部に、やや小型の土坑が重複しているのであろう。大型のほうを229a号、小型のほうを229b号とする。ともに掘り込みはしっかりしており、229a号は断面浅円筒状、229b号は断面円筒状を呈す。ローム粒を含む均一な黒褐色土を主体に埋まる。出土土器はa,b号で59点あり、加曾利E3式～称名寺式が混在する。石器はチャート製の石鏃1点が出土している。

●230号土坑

1 南区南西角で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●231号土坑

1 南区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。232号に切られる。ローム粒を含む均一な暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ28点で、加曾利E3式～称名寺式が混在する。石器は剥片1点が出土している。

●232号土坑

1 南区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は5点で加曾利E3式、E4式の小破片が各1点、無文の細片が3点である。石器の出土はない。

●233号土坑

1 南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は加曾利E式の細分不能の小破片が3点のみである。石器の出土はない。

●234号土坑

1 南区中央部、3号竪穴建物の床面で検出。現状は掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑であるが、写真を見る限り底面まで掘り切れていないようであり、もう少し深くなると見られる。また、3号竪穴建物の深さが25cm程あることを考えると、本来は55cm以上の深さがあったと推定され、断面円筒状の土坑であったと考えられる。ロームブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は、加曾利E4式ないし称名寺式の細片が1点のみである。石器の出土はない。

●235号土坑

1 南区中央部、3号竪穴建物の床面で検出。現状は掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑であるが、234号同様、3号竪穴建物の深さを考慮すれば、本来は

40cm程の深さがあったと推定され、断面円筒状の土坑であったと考えられる。3号竪穴建物の前に切られる。埋没土は234号に似る。出土土器は小破片が7点のみで、時期比定できるものは加曾利E3式と称名寺式が各1点である。石器の出土はない。

●236号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒、ブロックを含む黒褐色、暗褐色土を主体に埋まる。上層にロームブロックを多く含む褐色土が堆積する。出土土器は307点と多量で、加曾利E2式～堀之内1式が混在する。ほとんどが中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片だが、時期比定できるものでは称名寺Ⅱ式がもっともまとまっているため、該期の所産と判断したい。埋土中から環状土製品(12)が出土している。石器は打製石斧1点、削器1点、ホルンフェルス製の石核1点、二次加工ある剥片1点、凹石1点、剥片6点が出土している。

●237号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。236号に切られる。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は84点で加曾利E3式、称名寺式が若干混じるもの、加曾利E2式がほぼ純粹にまとまることから、加曾利E2式期の所産と判断される。石器は磨石1点が出土している。

●238号土坑

1南区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は16点で加曾利E2式、E3式が主体となるため、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器は剥片2点が出土している。

●239号土坑

1南区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ロームブロックをわずかに含む暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●241号土坑

1南区中央部で検出された袋状土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。底面中央に径84cmの小土坑がある2段構造となる。ローム粒、ブロックを含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は133点で、加曾利E4式が若干混じるもの称名寺式～堀之内1式が主体となることから、堀之内1式期の所産と判断したい。石器は変質蛇紋岩製の磨製石斧1点、石皿1点が出土している。

●242号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。南壁際に小ピットがあるが、本土坑に伴うものか不明である。小ピットの埋没土にはロームブロックは含まれず、1層土に近い。出土土器は25点で、加曾利E3式～称名寺式が混在する。石器は黒曜石製の石核1点、剥片3点が出土している。

●243号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。壁面の立ち上がりは緩い。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は60点で堀之内1式、2式が若干混じるもの加曾利E3式が主体となることから、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器は剥片1点が出土している。

●244号土坑

1南区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は小破片のみ11点で、加曾利E3式～称名寺式が混在する。石器は剥片1点が出土している。

●216号土坑

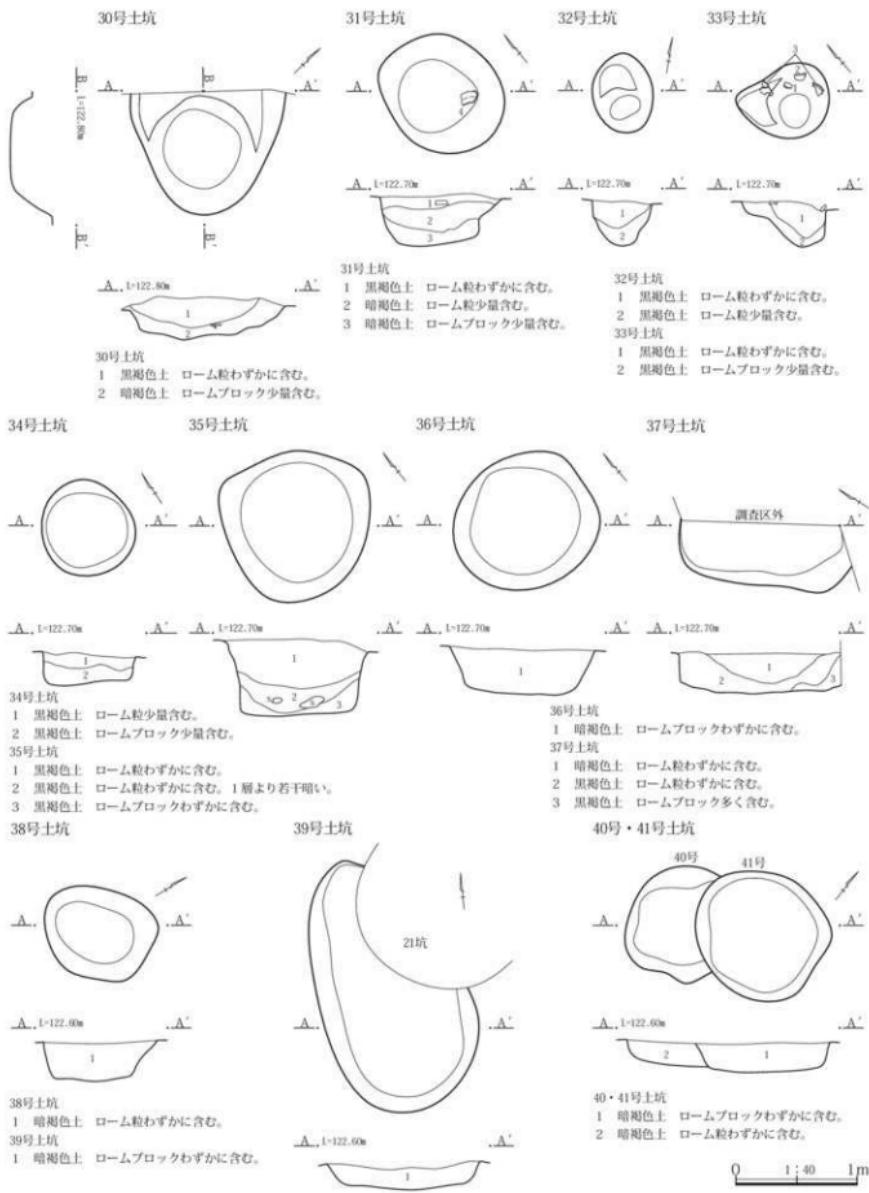
1南区中央部、3号竪穴建物の床面で検出。現状は掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑であるが、234、235号同様、3号竪穴建物の深さを考慮すれば、本来は40cm程の深さがあったと推定され、断面円筒状の土坑であったと考えられる。ロームブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土遺物はない。

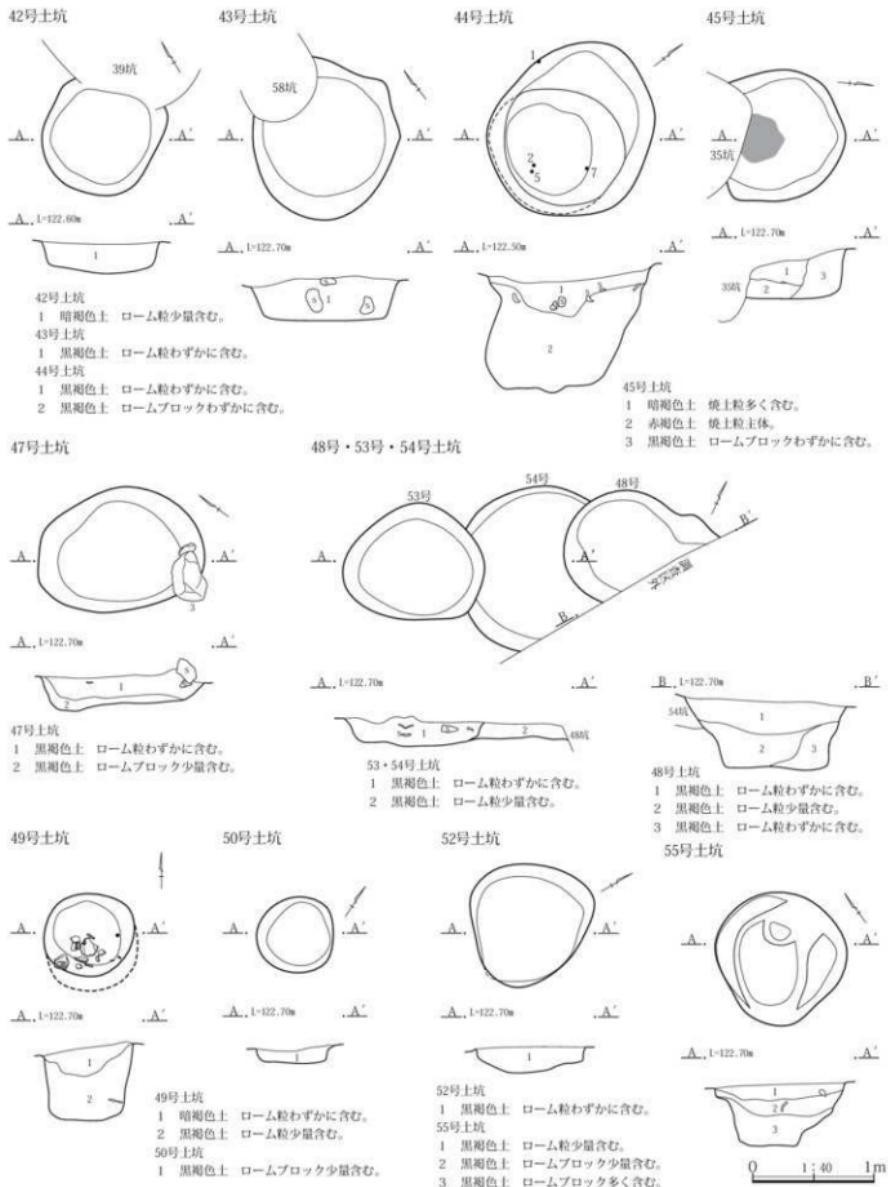
●317号土坑

1 南区中央部北寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。調査段階では298号ピットとされていたが、規模と形状から小型の土坑と判断した。ローム粒、ブロックを含む黒褐色土で埋まる。出土土器は、中期後葉～後期前葉期としか判別できない小破片が2点のみである。石器の出土はない。

●318号土坑

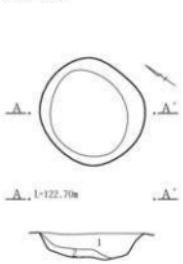
1 南区中央部北寄りで検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。調査段階では340号ピットとされていたが、317号同様、規模と形状から小型の土坑と判断した。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は、加曾利E3式が2点、中期後葉～後期前葉期としか判別できない無文土器や小破片が17点である。石器はチャート製の石鏃1点、剥片2点が出土している。





第52図 1南区土坑(2)

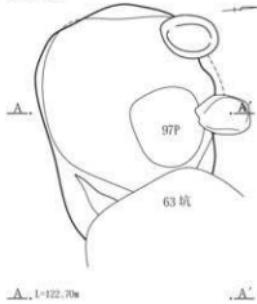
56号土坑



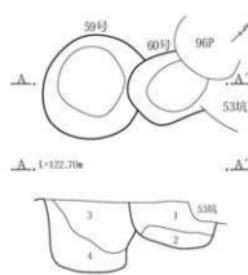
56号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黒褐色土 ロームブロック多く含む。
- 57号土坑
- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黑褐色土 ロームブロック多く含む。
3 黑褐色土 ロームブロックわずかに含む。

57号土坑



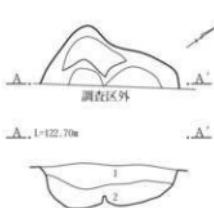
59号・60号土坑



59・60号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
3 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。
4 黑褐色土 ロームブロックわずかに含む。

61号土坑



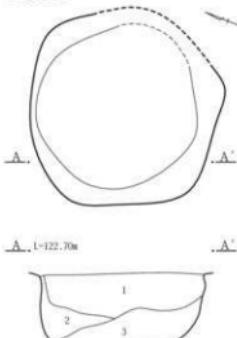
61号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
2 黑褐色土 ロームブロック少量含む。

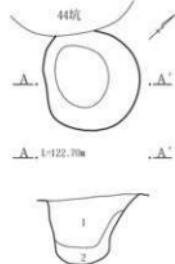
62号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黑褐色土 ロームブロック少量含む。

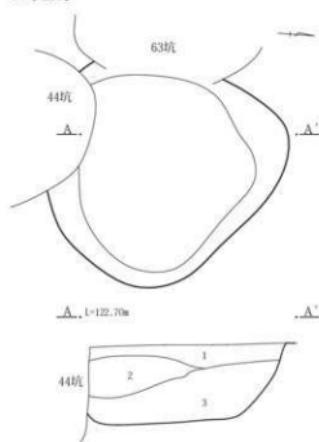
63号土坑



62号土坑



64号土坑



63号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロックわずかに含む。
2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
3 黑褐色土 ロームブロック多く含む。

64号土坑

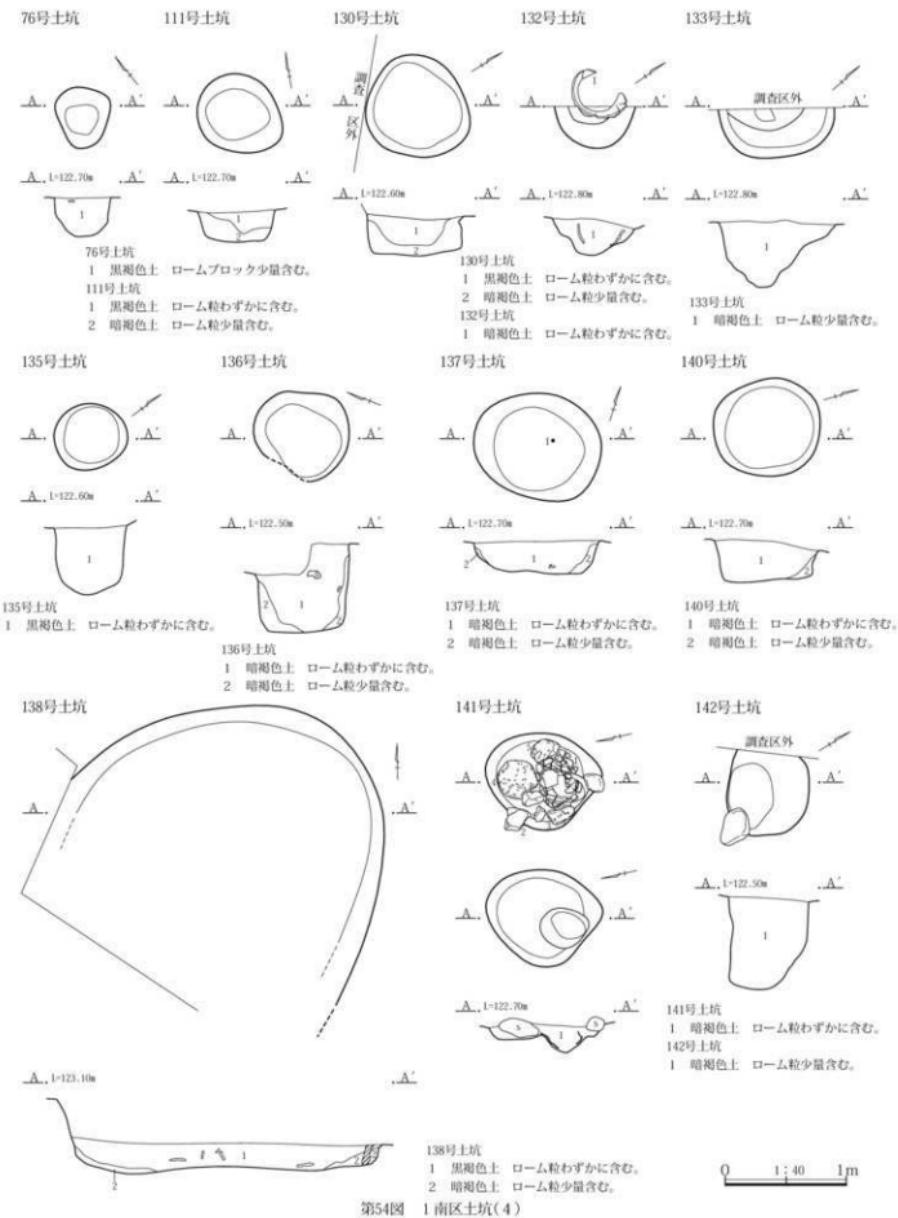
- 1 黒褐色土 ロームブロックわずかに含む。
2 黑褐色土 ロームブロック多く含む。
3 黑褐色土 ロームブロック少量含む。

75号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
2 黑褐色土 ロームブロック少量含む。

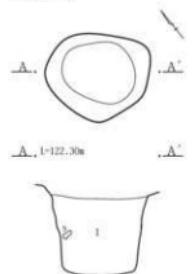
第53図 1 南区土坑(3)

0 1:40 1m

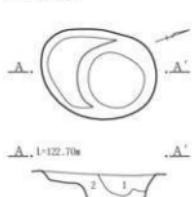


第54図 1南区土坑(4)

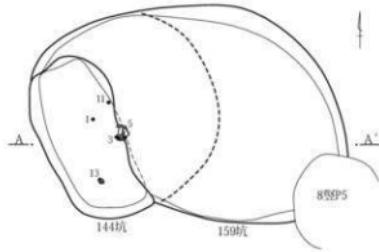
143号土坑



146号土坑



144号・159号土坑



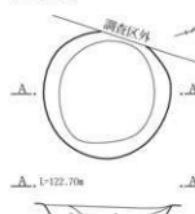
143号土坑

1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

144・159号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 6 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

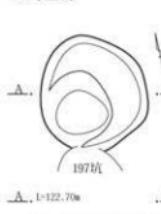
147号土坑



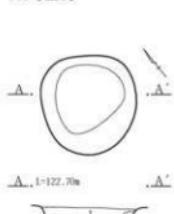
148号土坑



149号土坑



150号土坑



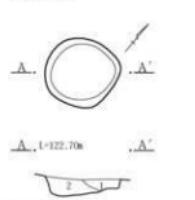
147号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

148号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

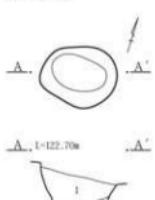
151号土坑



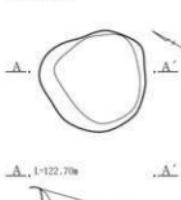
152号土坑



153号土坑



154号土坑



151号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

152号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒少量含む。

153号土坑

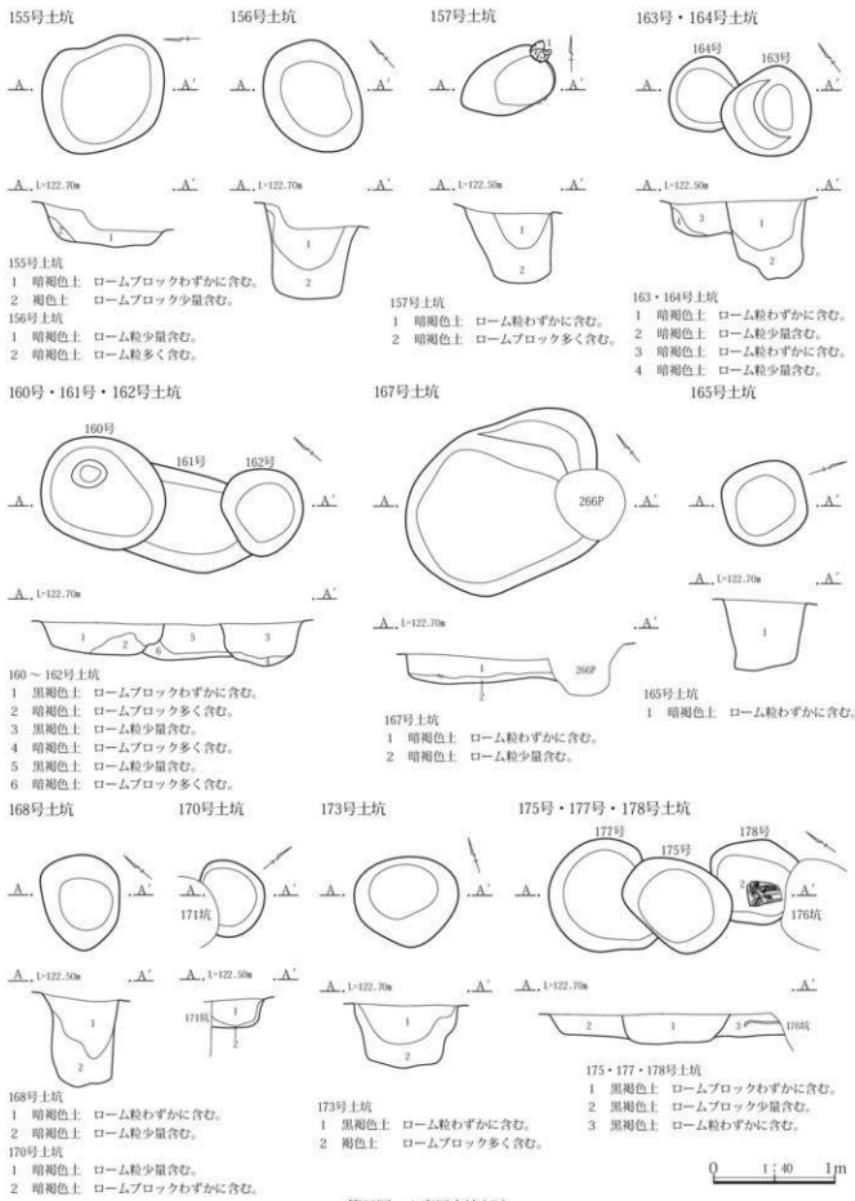
- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

154号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

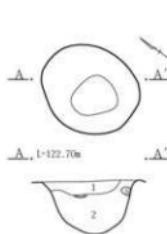


第55図 1 南区土坑(5)

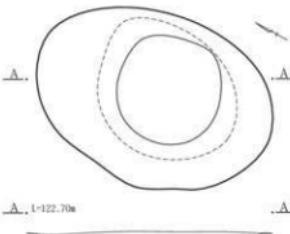


第56図 1 南区土坑(6)

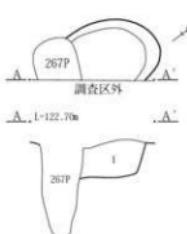
176号土坑



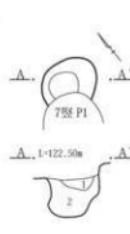
179号土坑



182号土坑



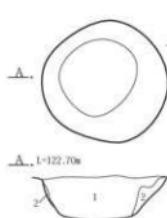
184号土坑



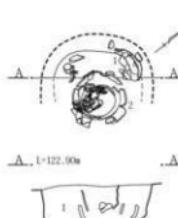
176号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黒褐色土 ローム粒少量含む。
179号土坑
1 喀褐色土 ロームブロック少量含む。
2 黒褐色土 ロームブロックわずかに含む。
3 黄褐色土 ロームブロック主体。
4 黑褐色土 ローム粒少量含む。
5 黄褐色土 ロームブロック主体。

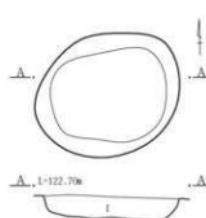
187号土坑



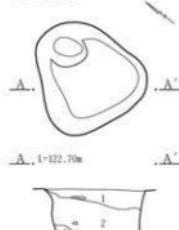
188号土坑



189号土坑



192号土坑



187号土坑

- 1 喀褐色土 ロームブロックわずかに含む。
2 喀褐色土 ロームブロック多く含む。

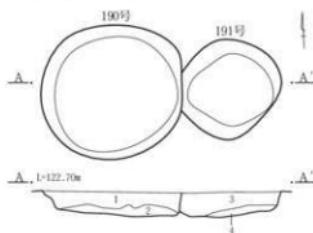
188号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロックわずかに含む。

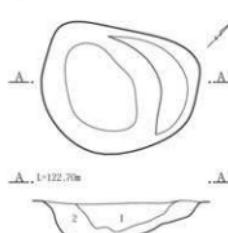
189号土坑

- 1 喀褐色土 ローム粒少量含む。

190号・191号土坑



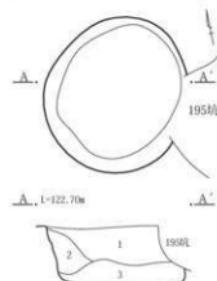
193号土坑



192号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黑褐色土 ローム粒少量含む。
3 喀褐色土 ロームブロック少量含む。

194号土坑



190・191号土坑

- 1 喀褐色土 ローム粒少量含む。
2 黄褐色土 ロームブロック少量含む。
3 喀褐色土 ロームブロック少量含む。
4 黄褐色土 ロームブロック少量含む。

193号土坑

- 1 喀褐色土 ロームブロックわずかに含む。
2 喀褐色土 ロームブロック少量含む。

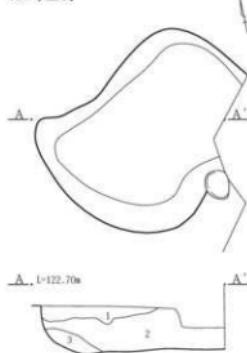
194号土坑

- 1 喀褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。
3 喀褐色土 ロームブロック少量含む。

0 1:40 1m

第57図 1 南区土坑(7)

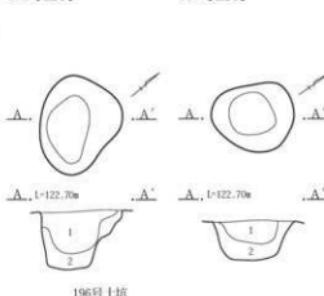
195号土坑



195号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。

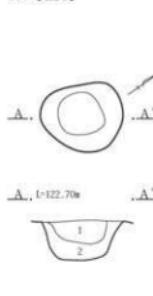
196号土坑



196号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 褐色土 ローム粒少量含む。
197号土坑
1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

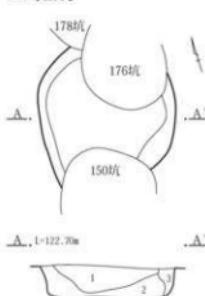
197号土坑



197号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 褐色土 ローム粒少量含む。

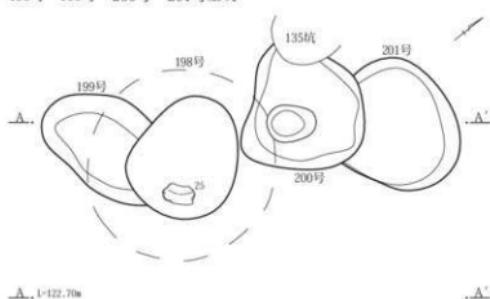
202号土坑



202号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
3 褐色土 ロームブロック多く含む。

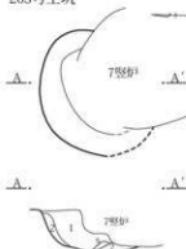
198号・199号・200号・201号土坑



1-122.70m

A'

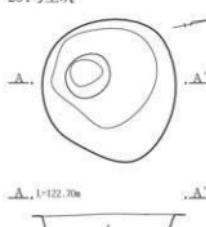
203号土坑



203号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。
2 褐色土 ロームブロック多く含む。

204号土坑



204号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

0 1:40 1m

198号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

199号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

3 黄褐色土 にごったローム。

200号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

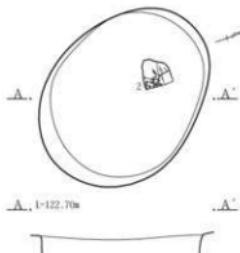
4 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。

201号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロックわずかに含む。
2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

第58図 1 南区土坑(8)

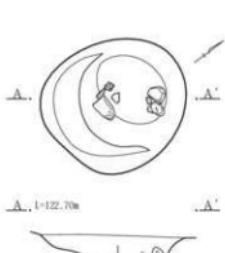
206号土坑



206号土坑

1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。

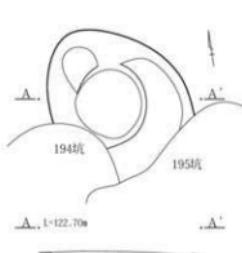
208号土坑



208号土坑

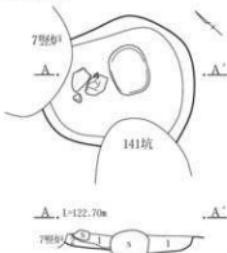
1 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。

209号土坑

194坑
195坑

A-A', L=122.70m

211号土坑



78号

A-A', L=122.70m

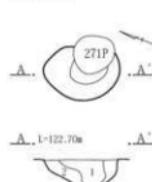
78号

141号

A-A'

78号

212号土坑

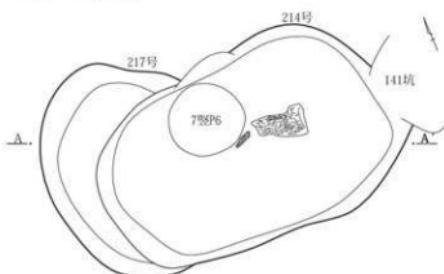


27号

A-A'

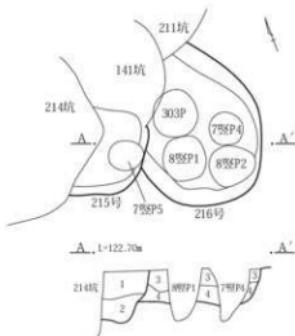
27号

214号・217号土坑



A-A', L=122.70m

215号・216号土坑



214号

A-A'

214号

215号

A-A'

215号

303P

A-A'

303P

78P4

A-A'

78P4

88P1

A-A'

88P1

78P2

A-A'

78P2

214・217号土坑

1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

2 黒褐色土 ローム粒少量含む。炭化物粒含む。

3 黒褐色土 ローム粒少量含む。

4 黒褐色土 ロームブロックわずかに含む。

5 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

215・216号土坑

1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

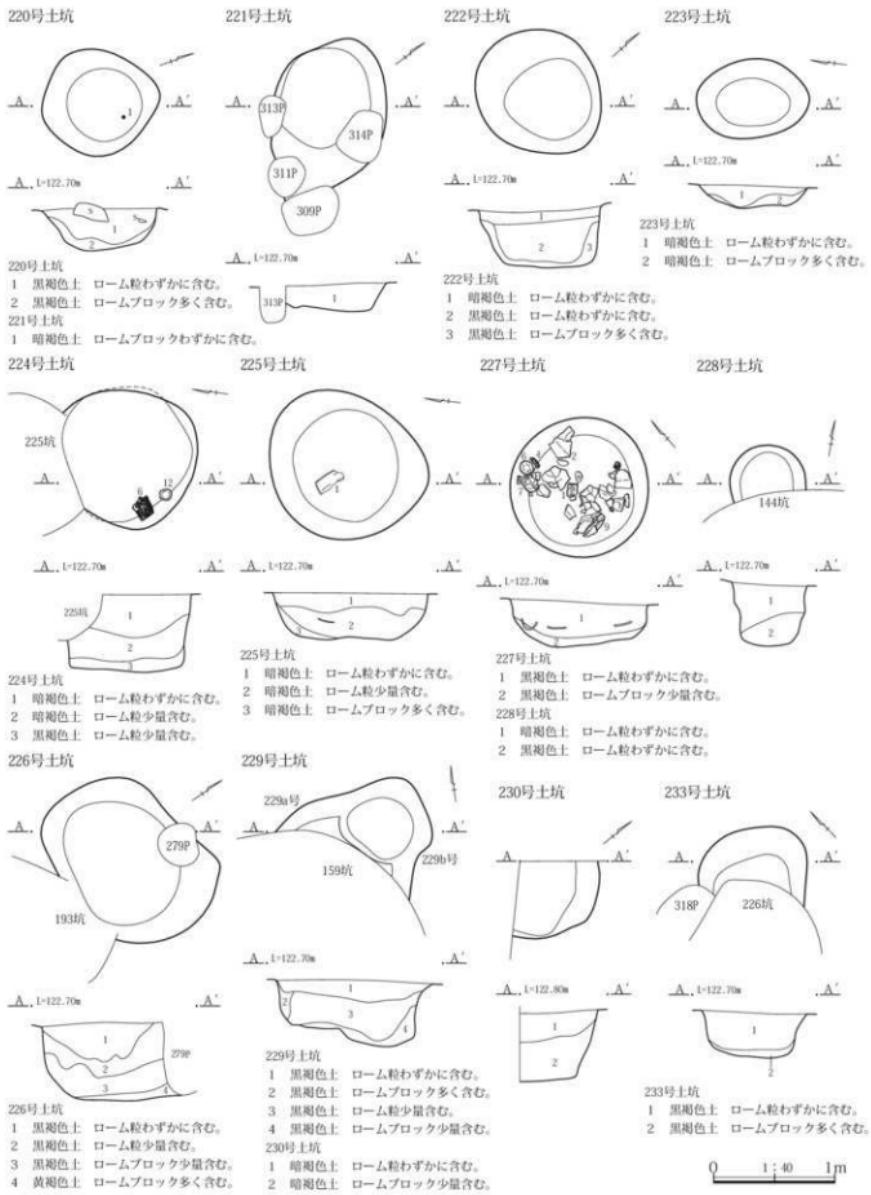
2 黒褐色土 ローム粒少量含む。

3 黑褐色土 ロームブロックわずかに含む。

4 黑褐色土 ロームブロック多く含む。

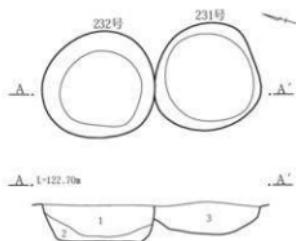
0 1:40 1m

第59図 1 南区土坑(9)



第60図 1 南区土坑(10)

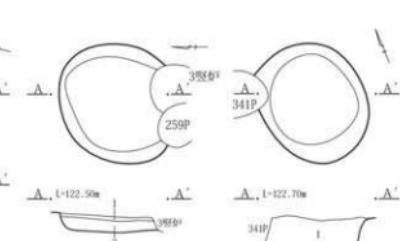
232号・231号土坑



234号土坑



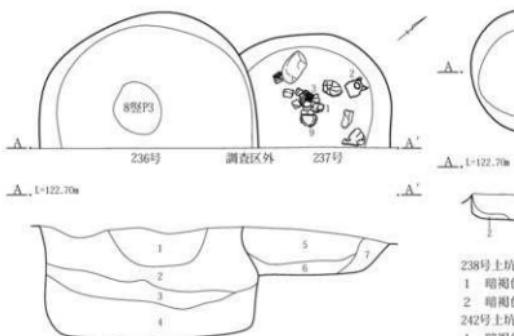
235号土坑



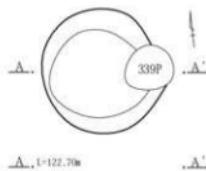
231・232号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒少量含む。

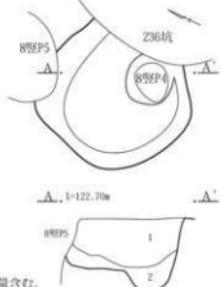
236号・237号土坑



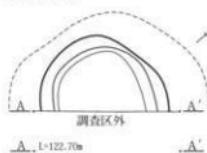
238号土坑



242号土坑



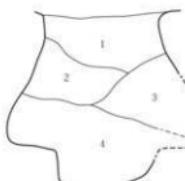
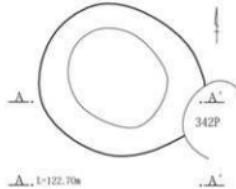
241号土坑



236・237号土坑

- 1 褐色土 ロームブロック多く含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 4 黑褐色土 ローム粒少量含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 6 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

243号土坑



241号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。
- 3 黑褐色土 ロームブロックわずかに含む。
- 4 黑褐色土 ロームブロック少量含む。

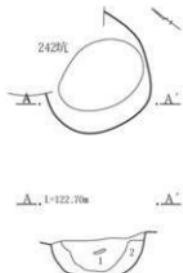
243号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

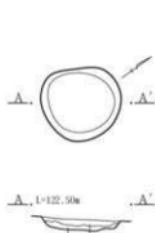
0 1:40 1m

第61図 1 南区土坑(11)

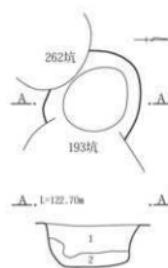
244号土坑



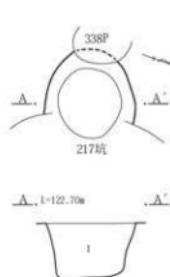
316号土坑



317号土坑



318号土坑



244号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

316号土坑

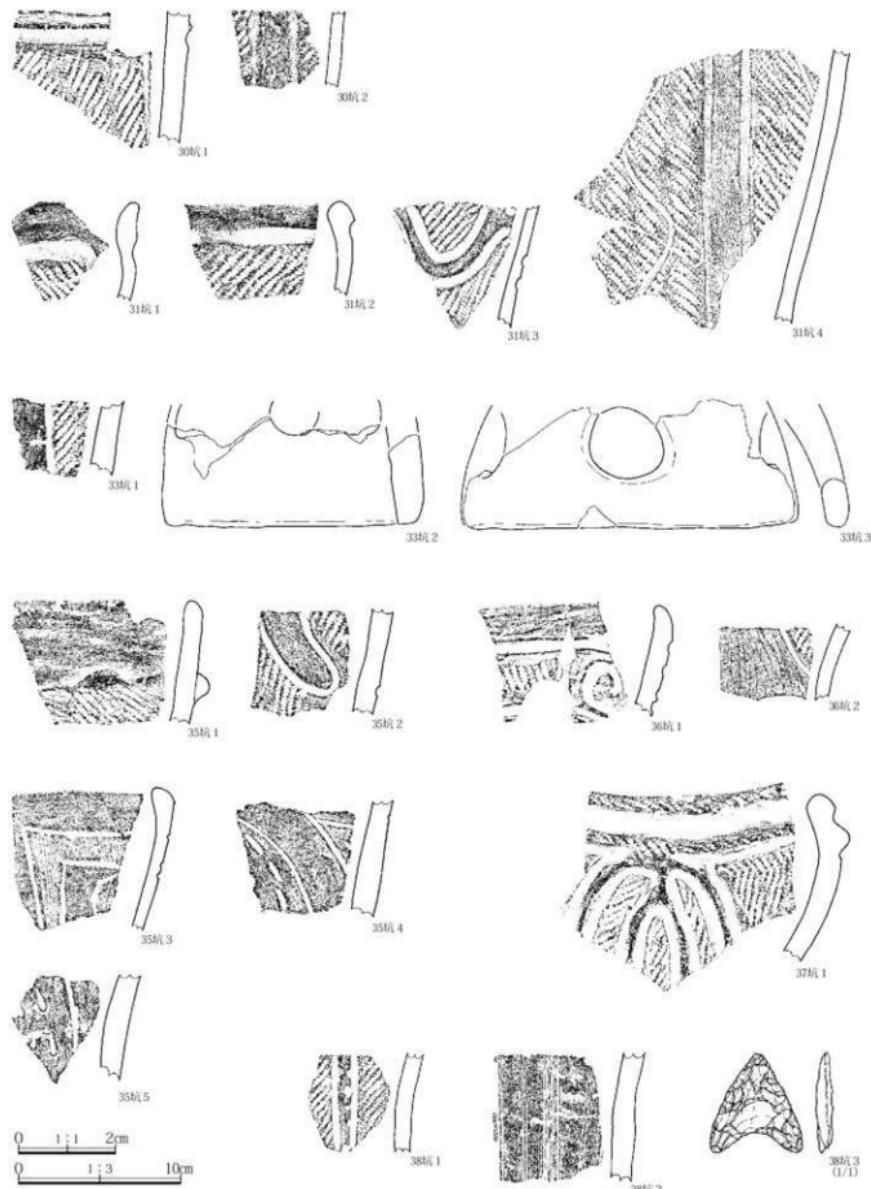
- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック多く含む。
- 317号土坑
- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒少量含む。

318号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

0 1:40 1m

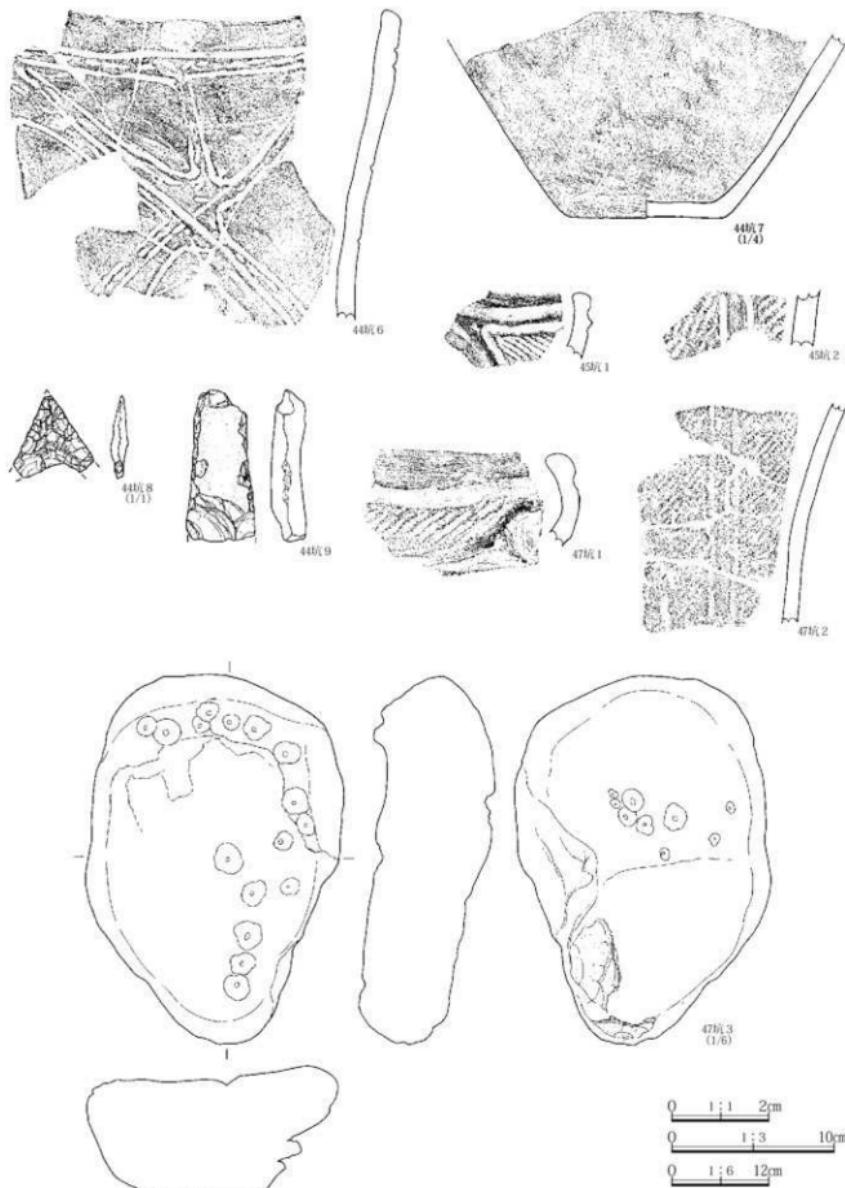
第62図 1南区土坑(12)



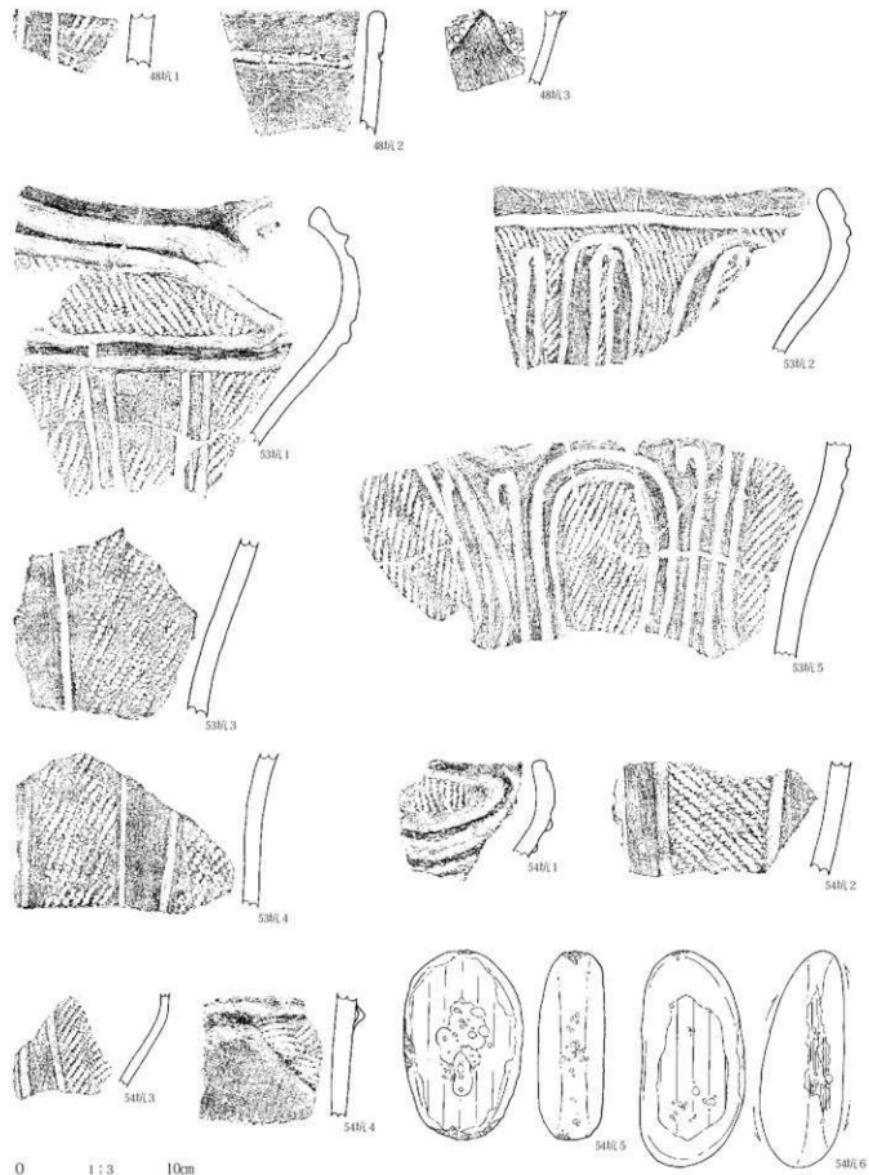
第63圖 1 南区土坑出土遺物(1)



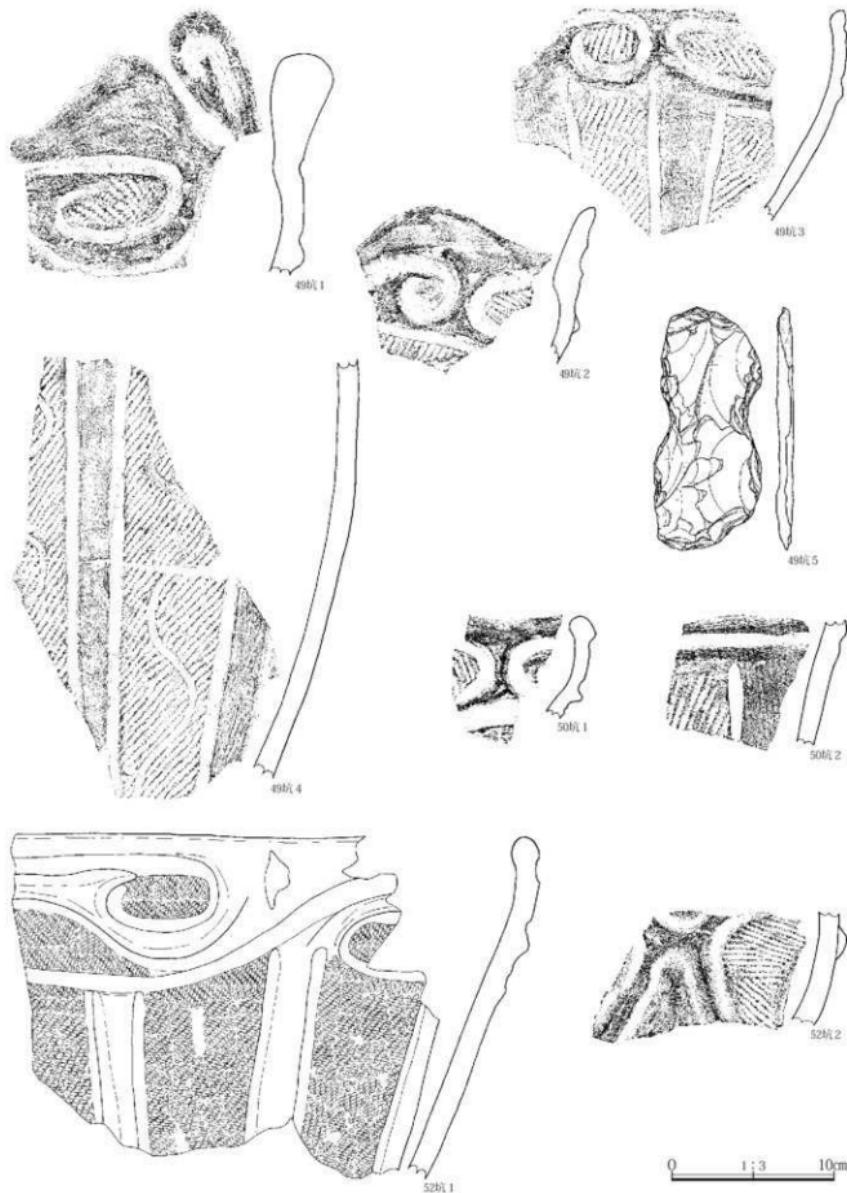
第64図 1 南区土坑出土遺物(2)



第65圖 1 南区土坑出土遺物(3)



第66図 1 南区土坑出土遺物(4)

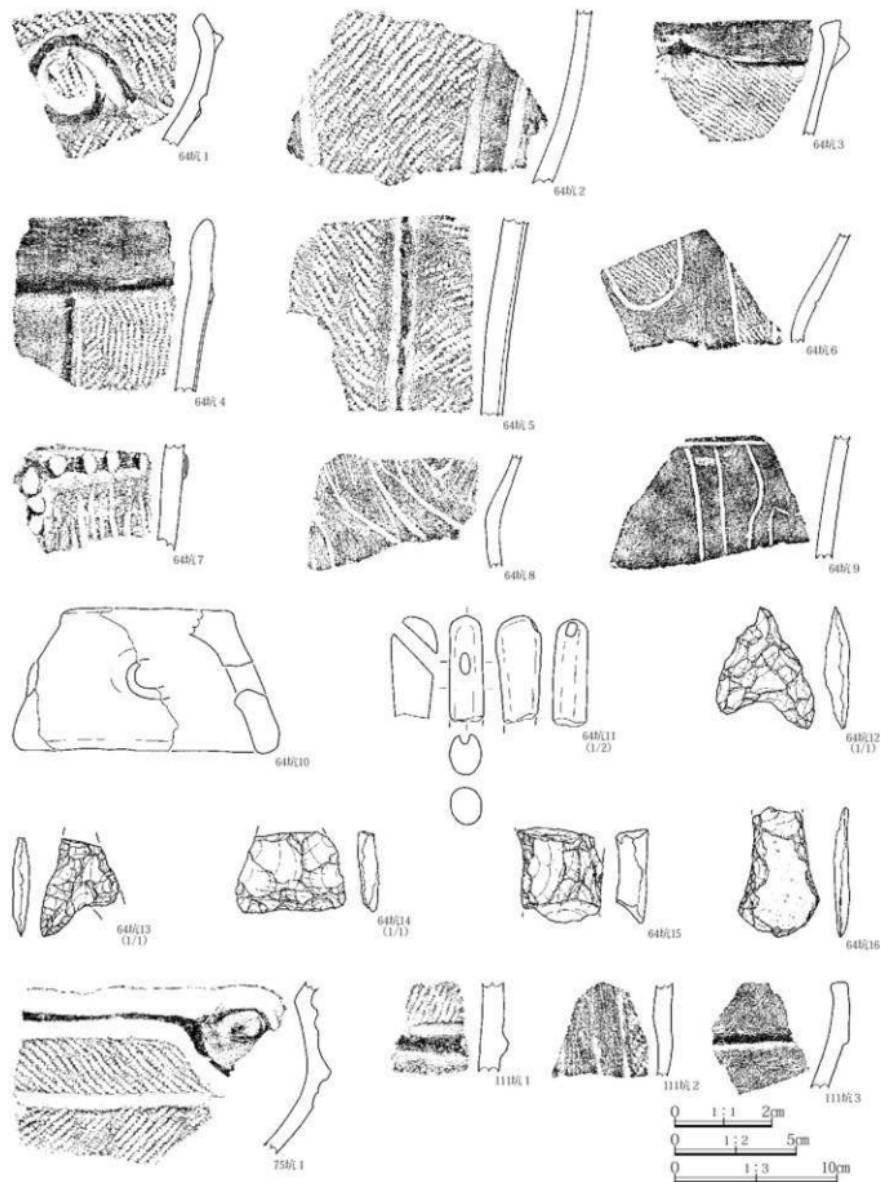


第67圖 1 南區土坑出土遺物(5)

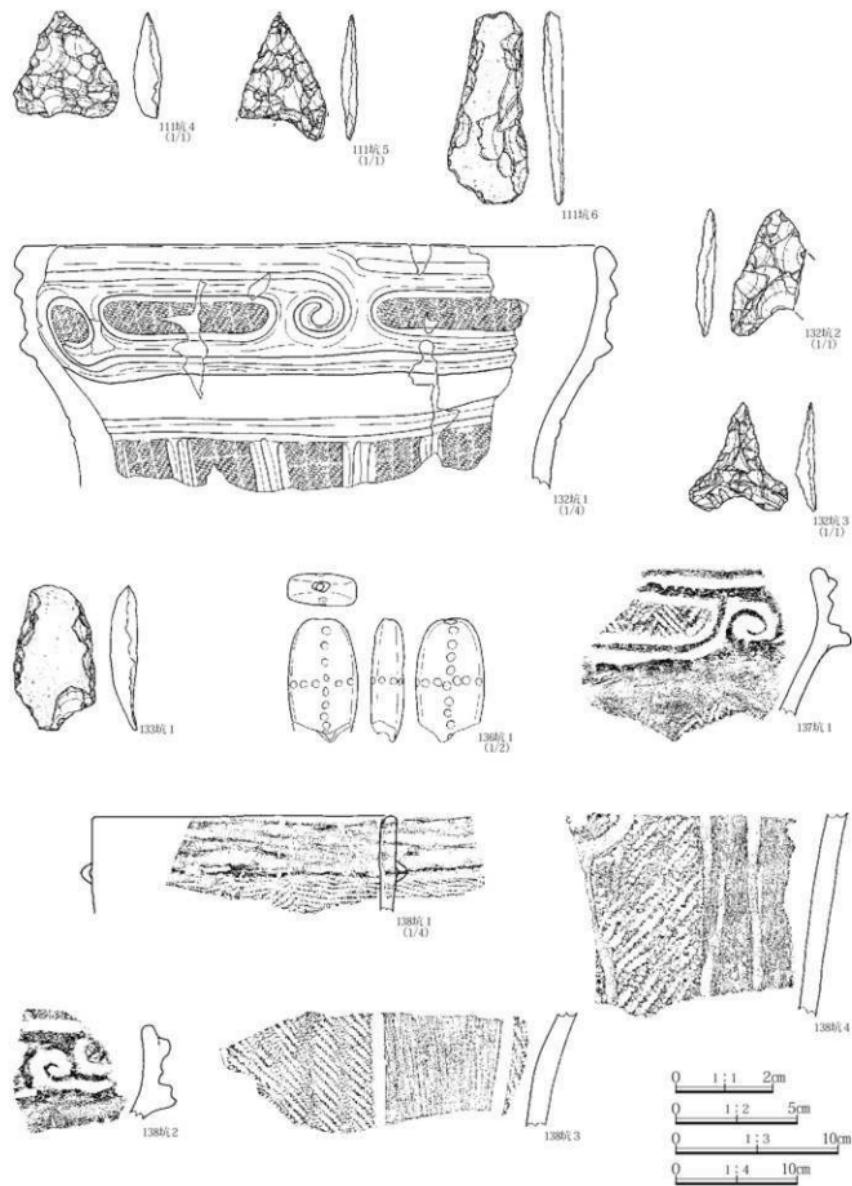
0 1:3 10cm



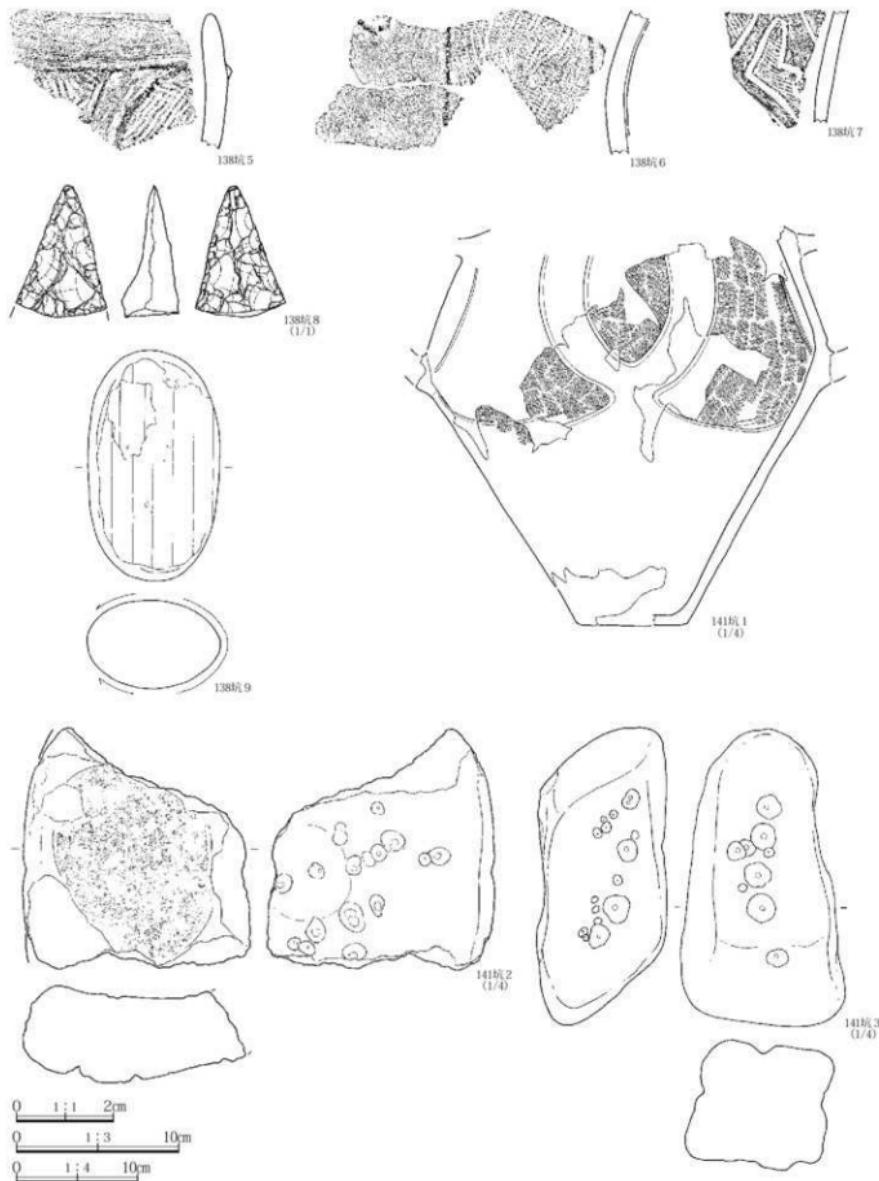
第68図 1 南区土坑出土遺物(6)



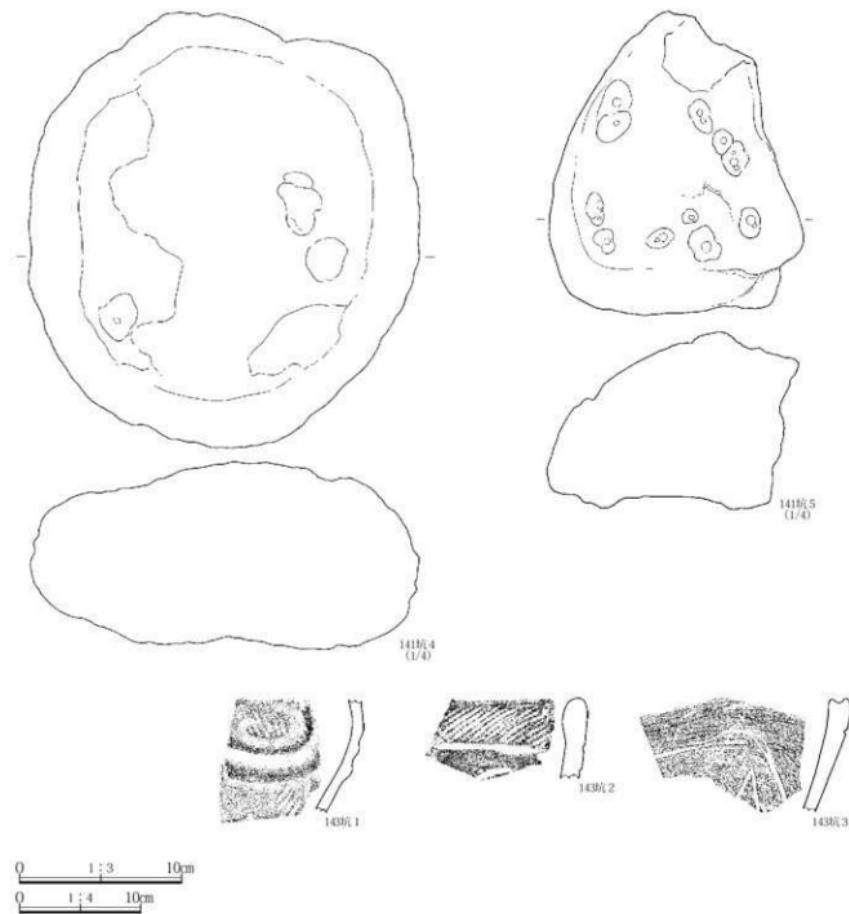
第69圖 1 南区土坑出土遺物(7)



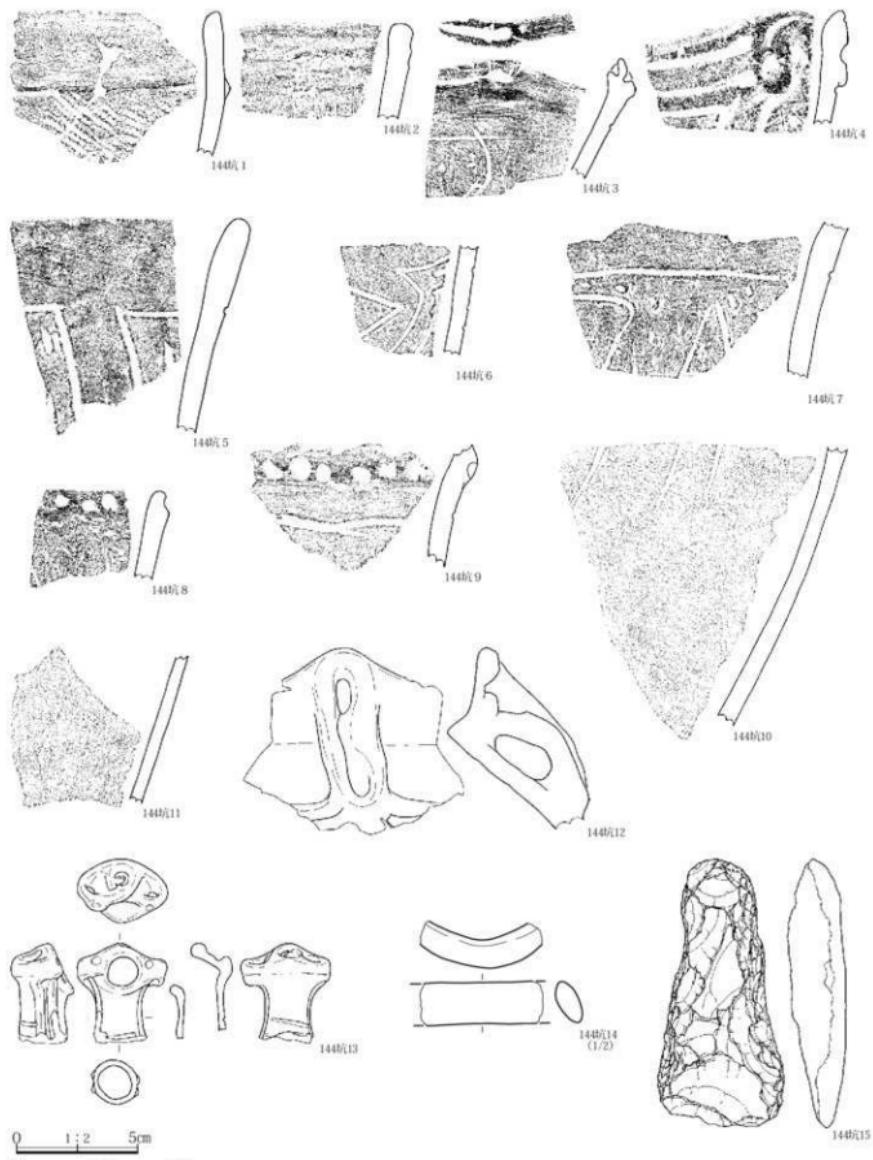
第70図 1 南区土坑出土遺物(8)



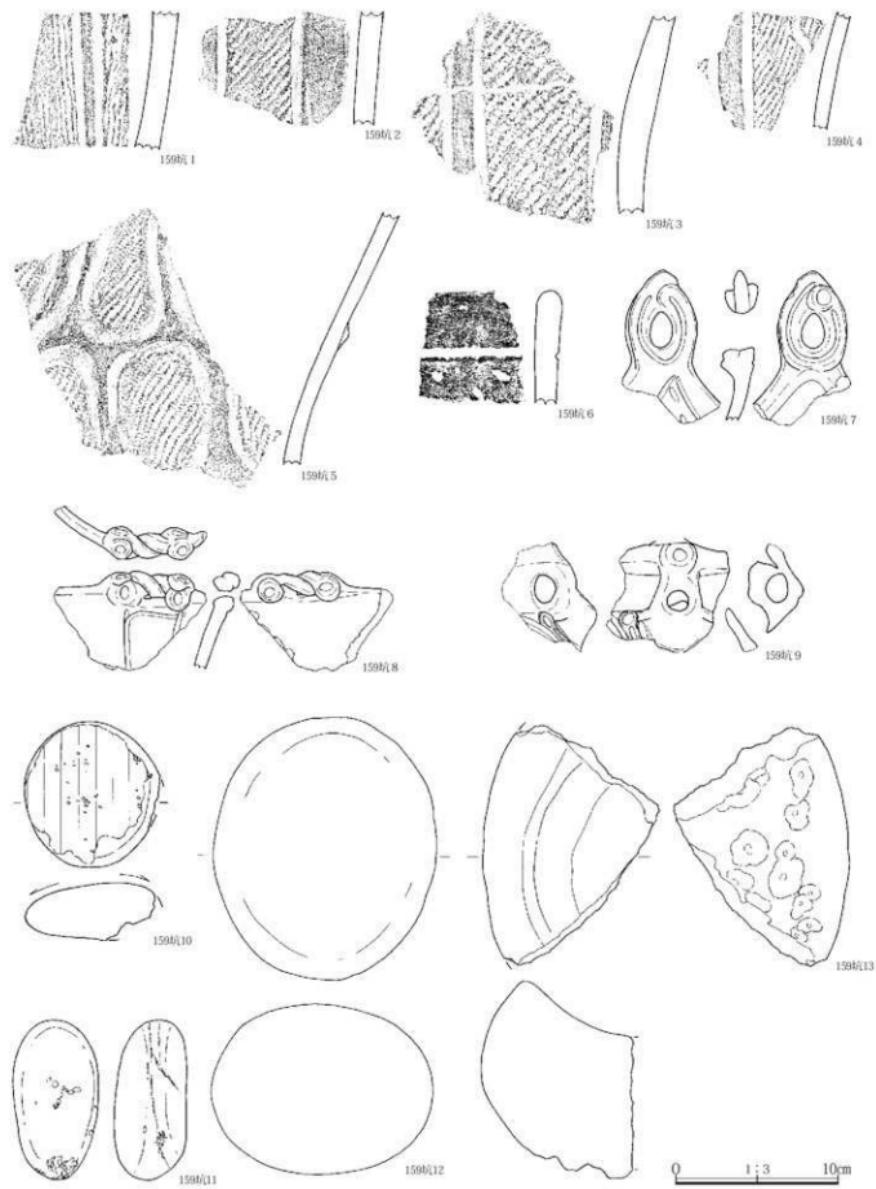
第71圖 1 南区土坑出土遺物(9)



第72図 1 南区土坑出土遺物(10)



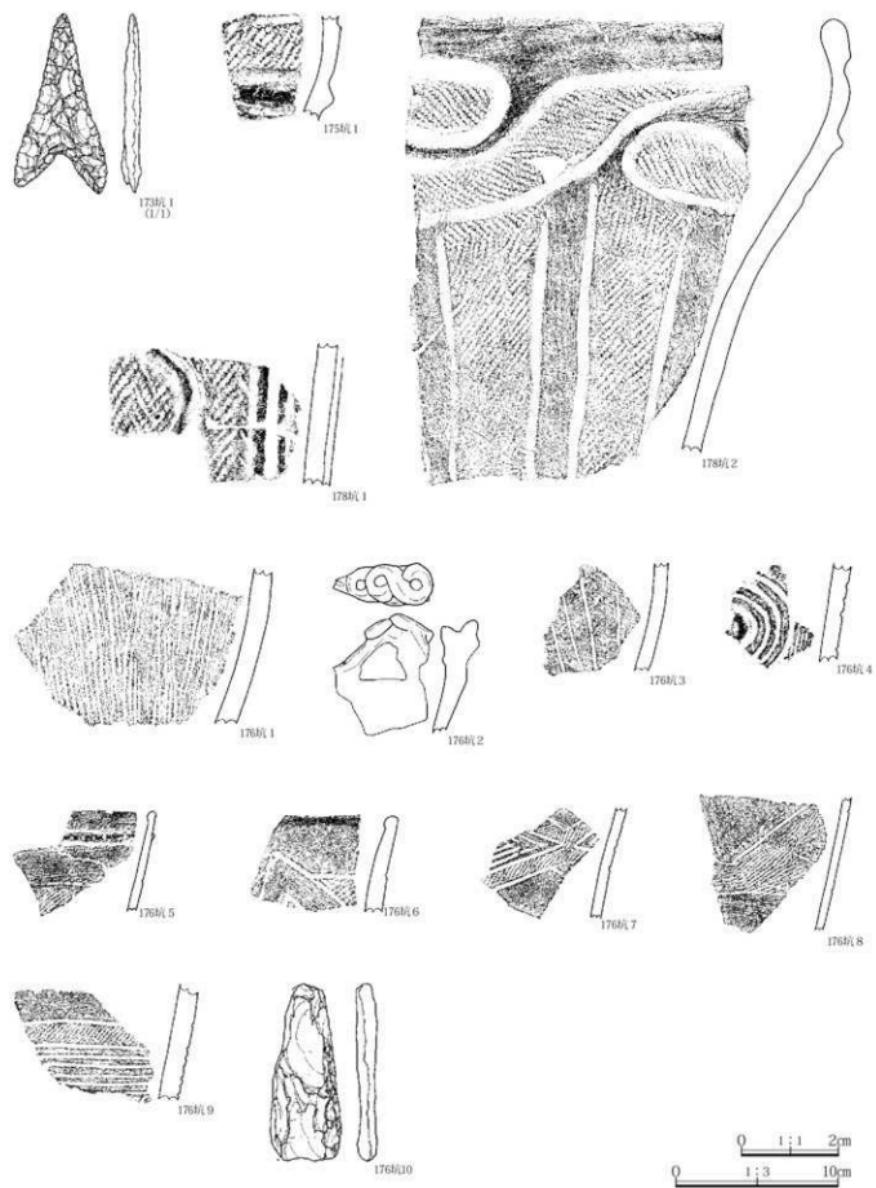
第73圖 1 南区土坑出土遺物(11)



第74図 1 南区土坑出土遺物(12)

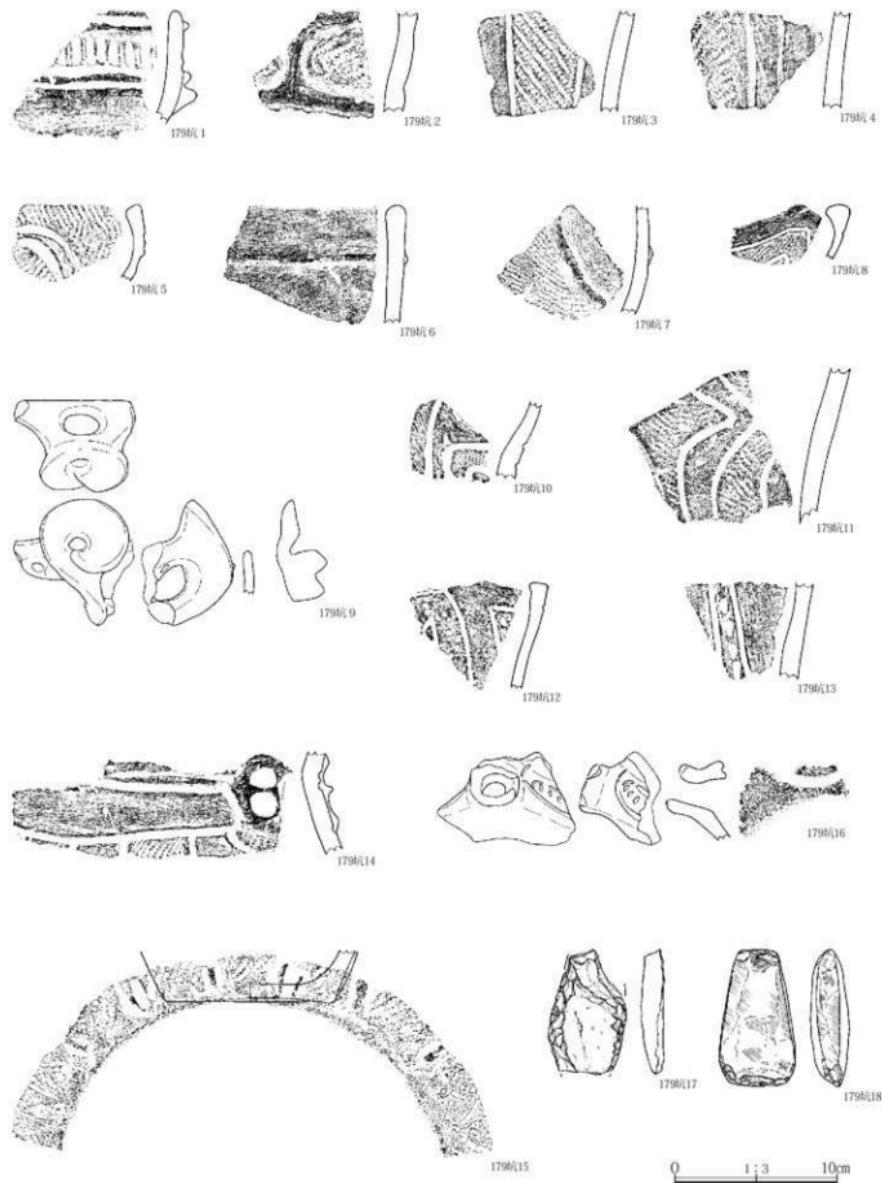


第75圖 1 南区土坑出土遺物(13)

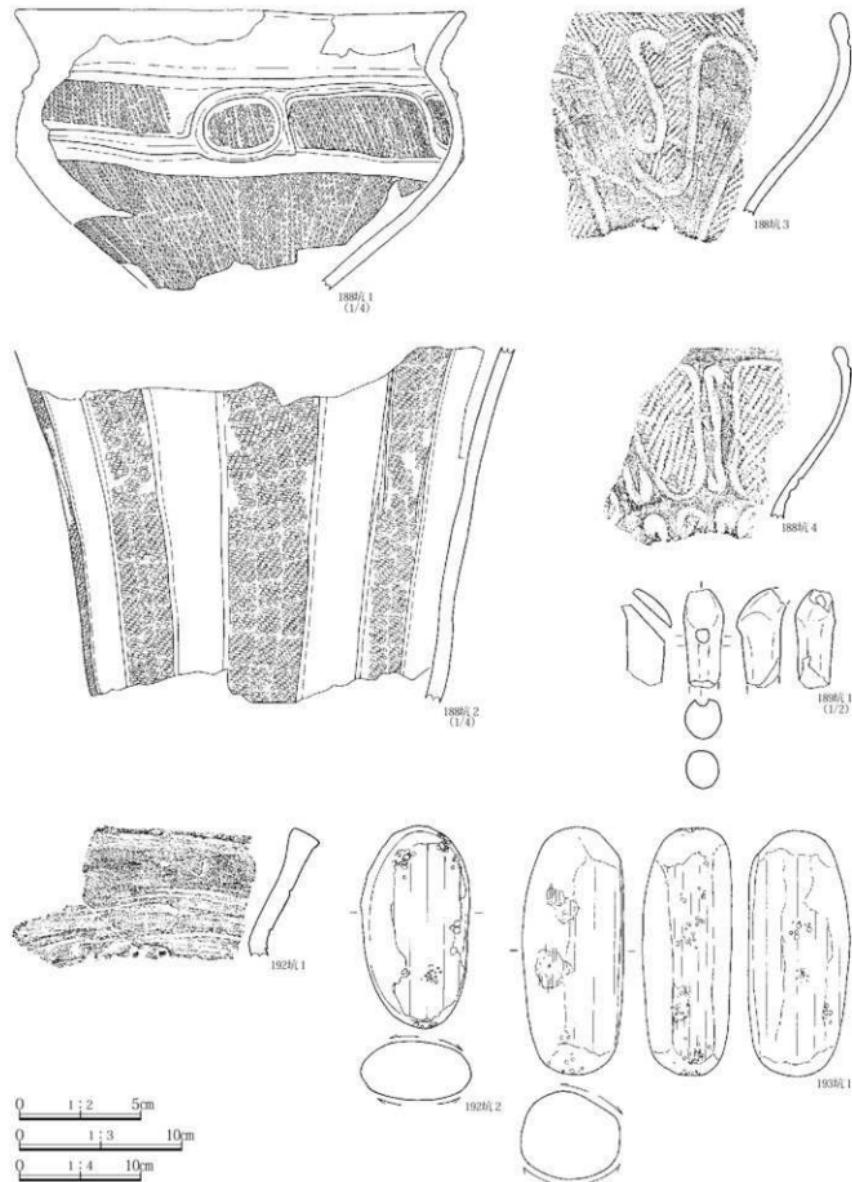


第76図 1 南区土坑出土遺物(14)

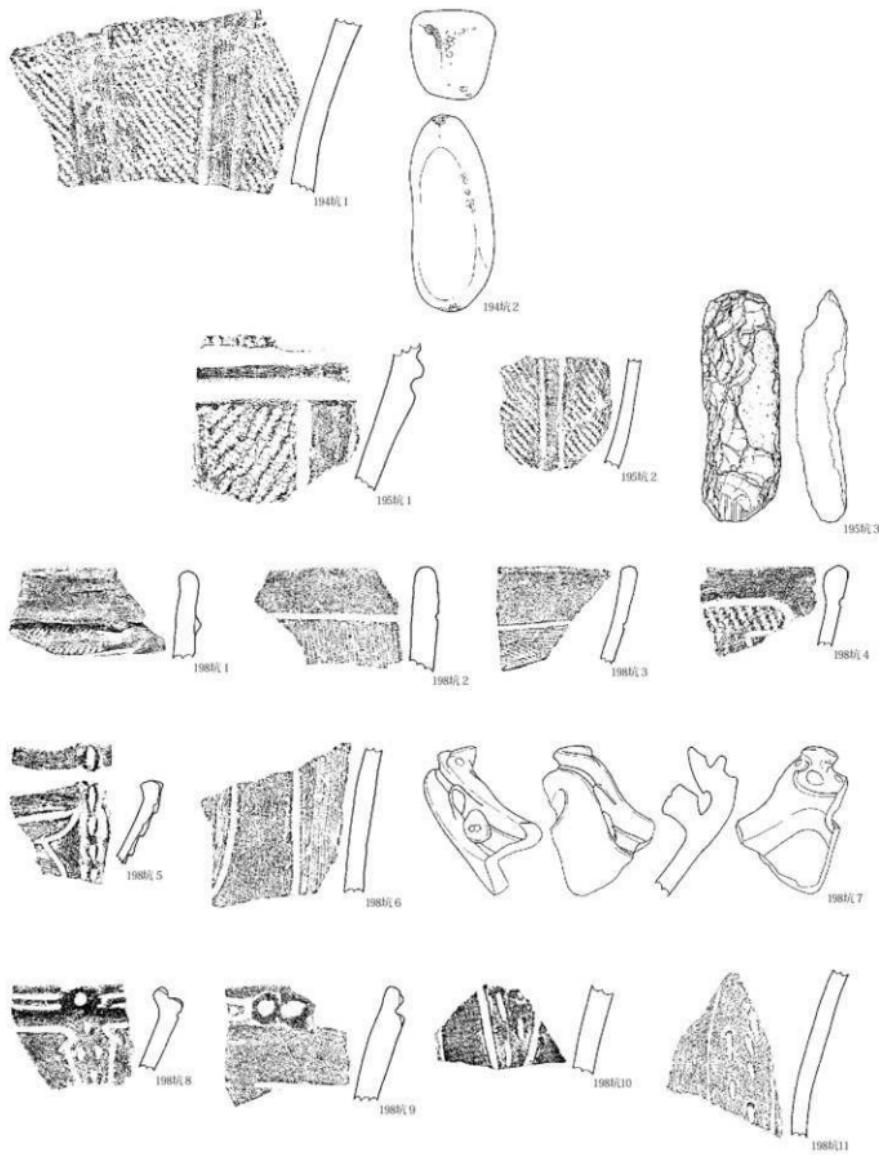
0 1:3 1:1 2cm



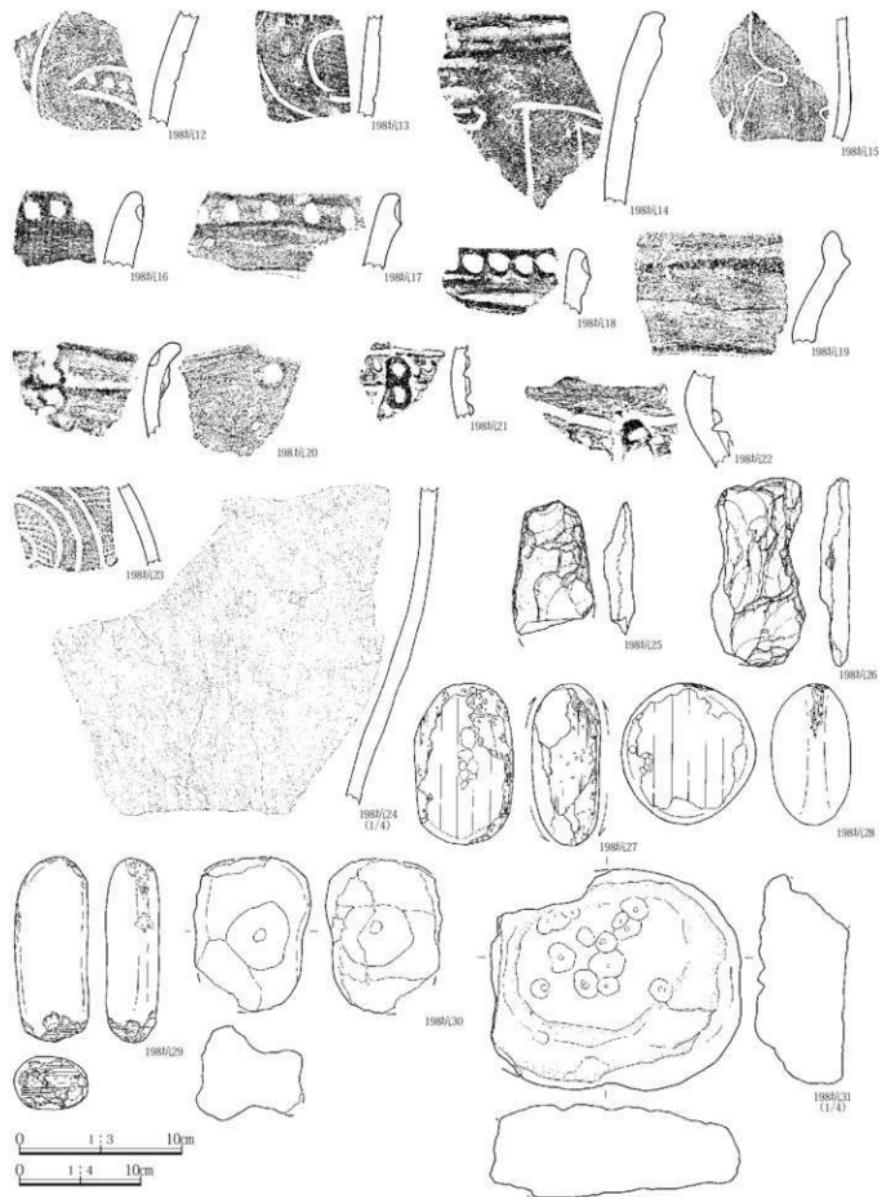
第77圖 1 南区土坑出土遺物(15)



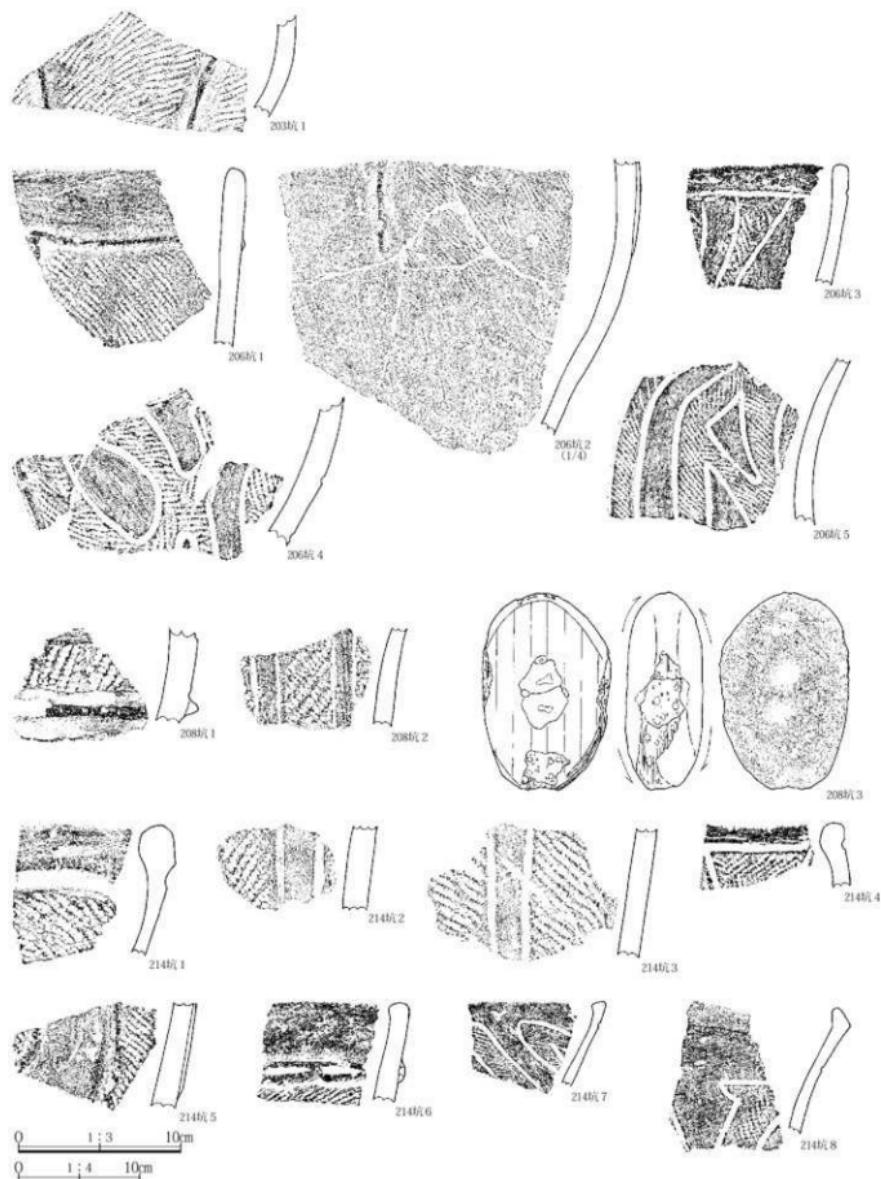
第78図 1 南区土坑出土遺物(16)



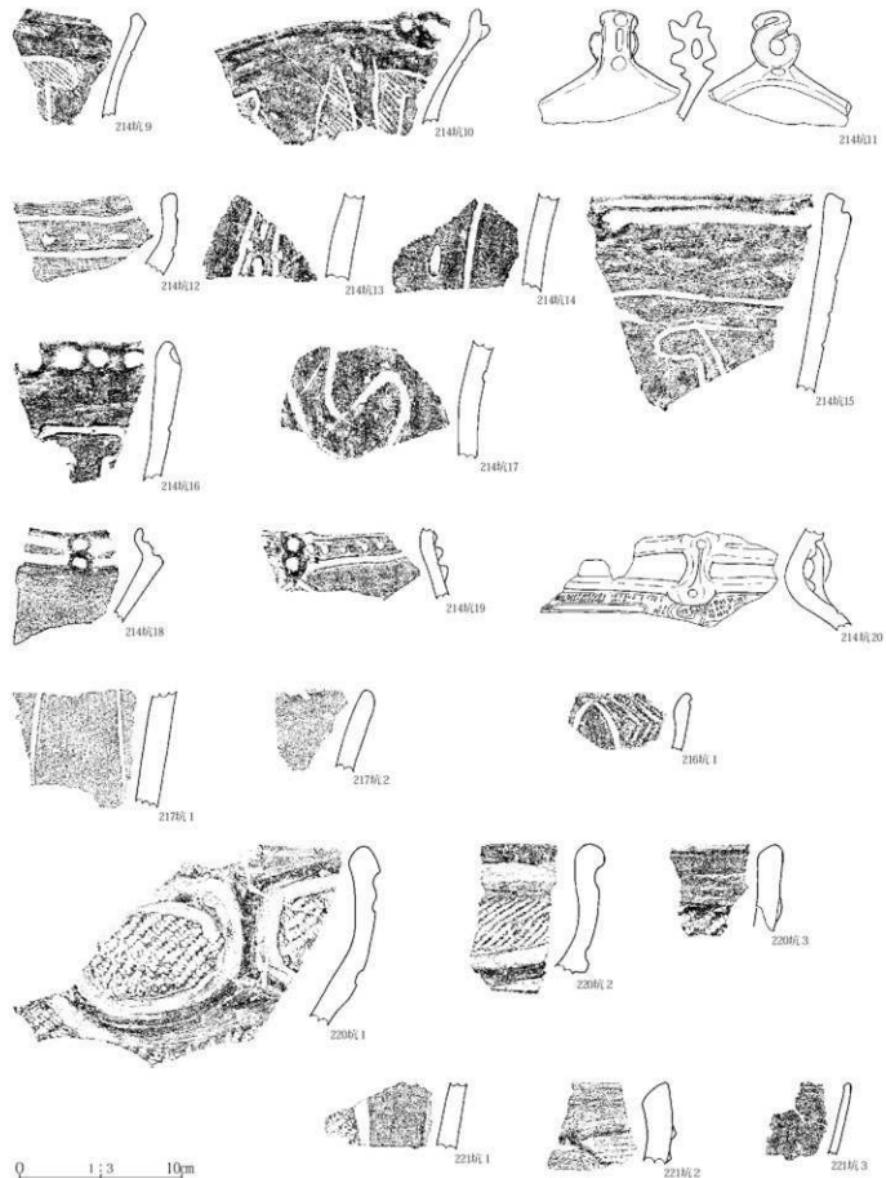
第79圖 1 南區土坑出土遺物(17)



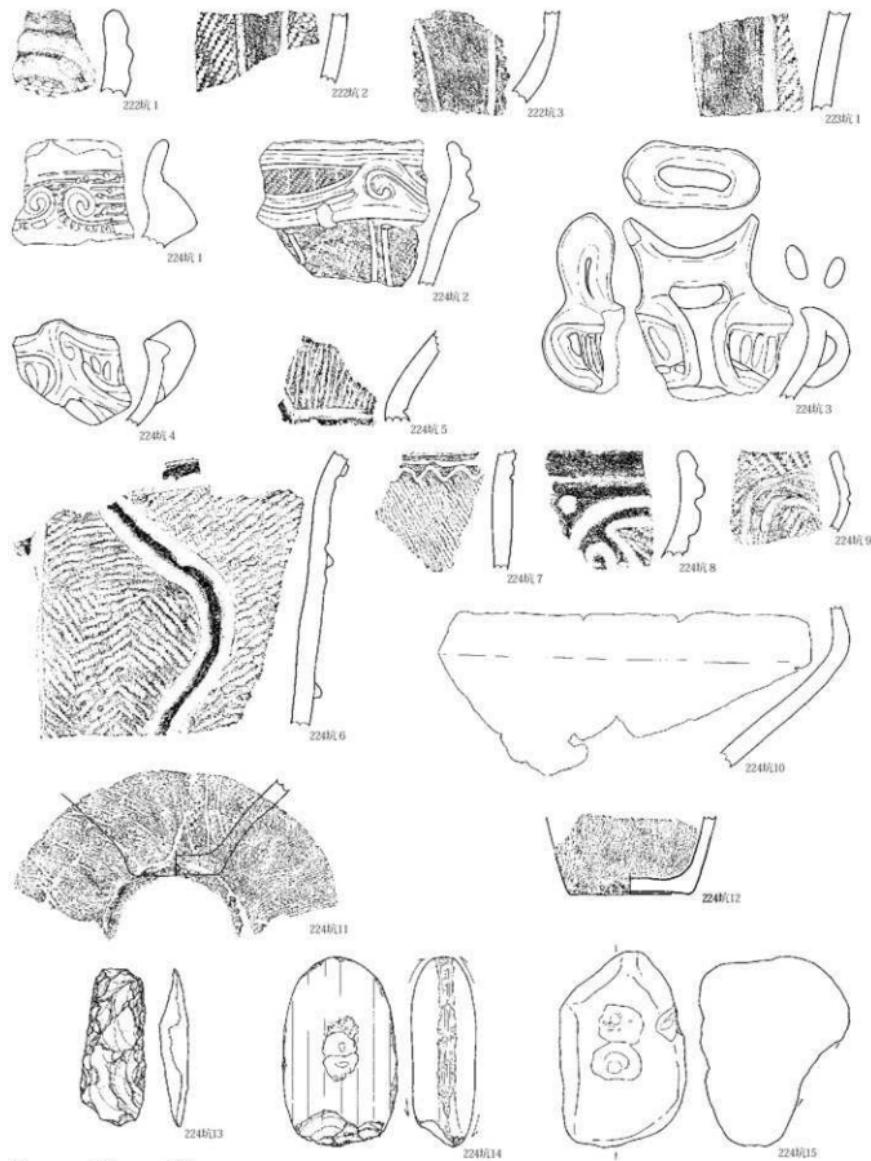
第80図 1 南区土坑出土遺物(18)



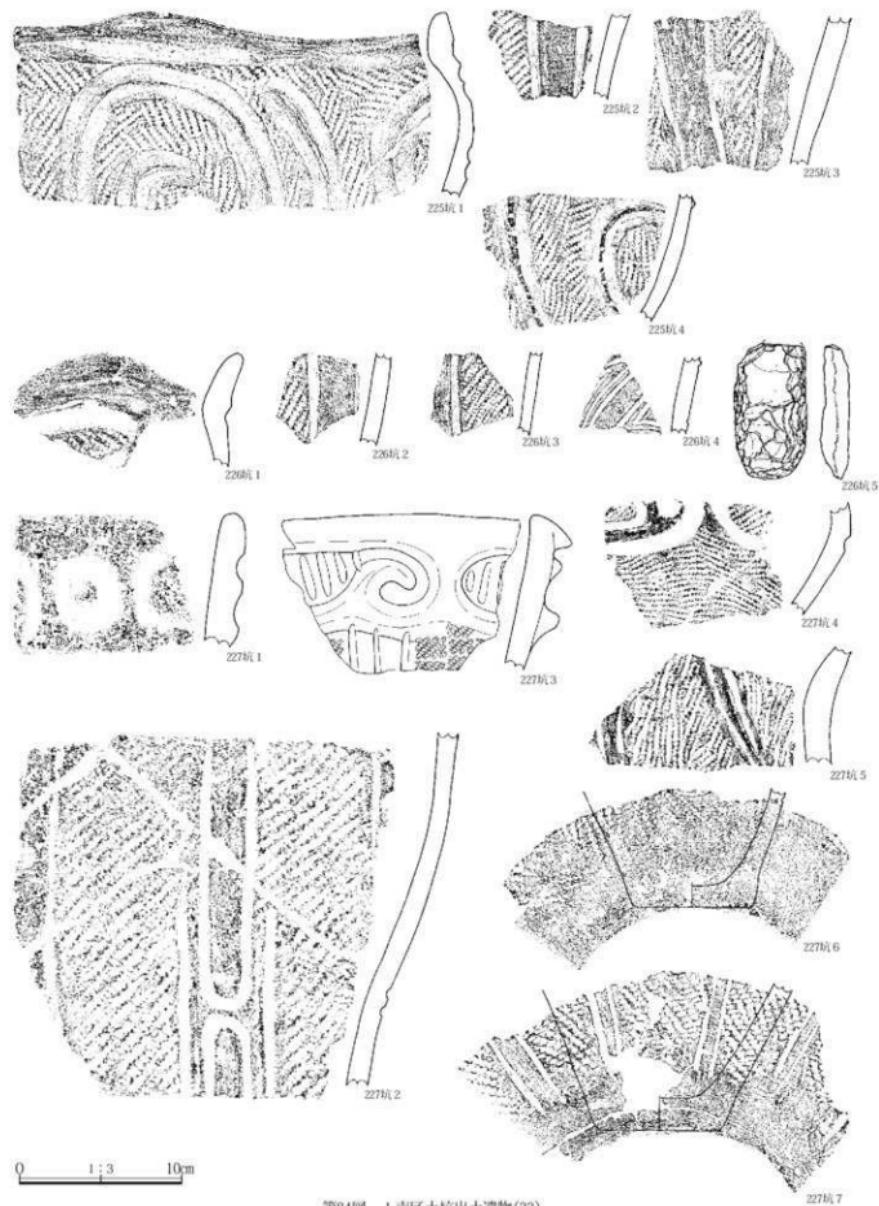
第81図 1 南区土坑出土遺物(19)



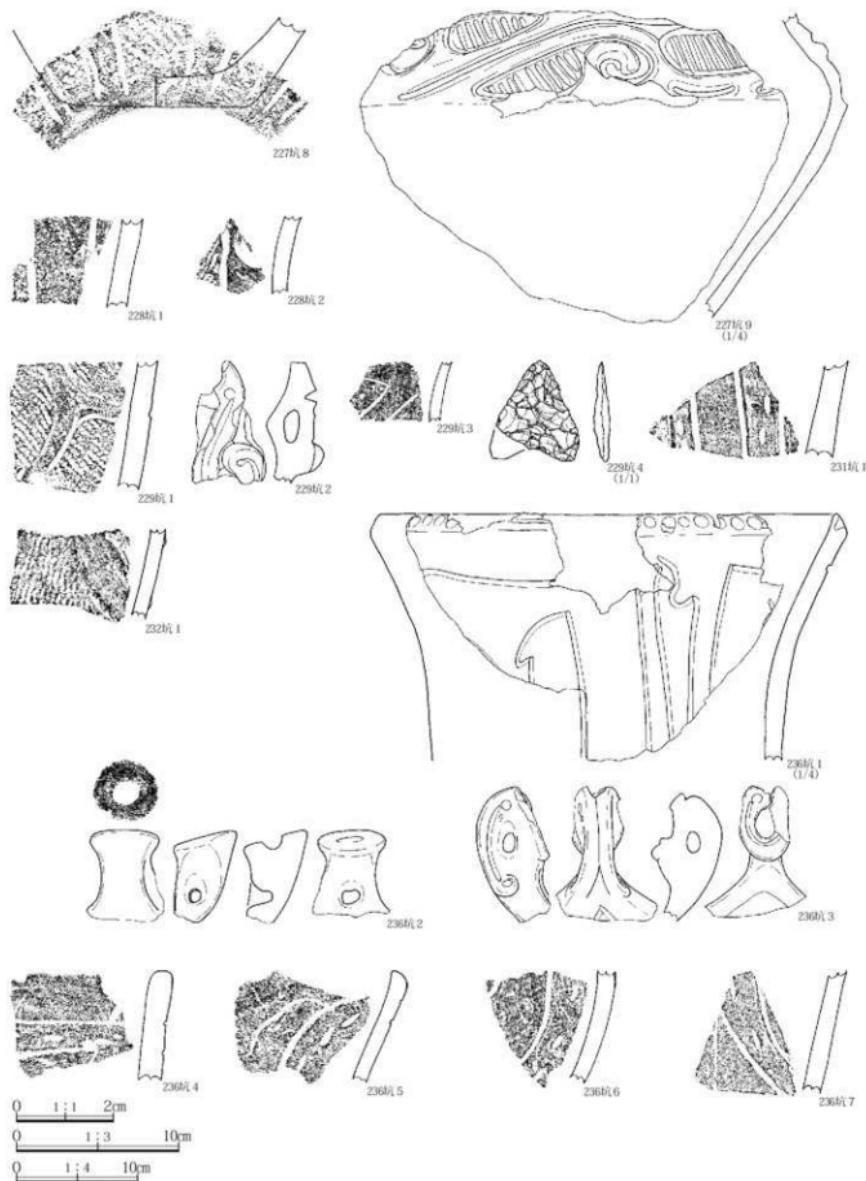
第82図 1 南区土坑出土遺物(20)



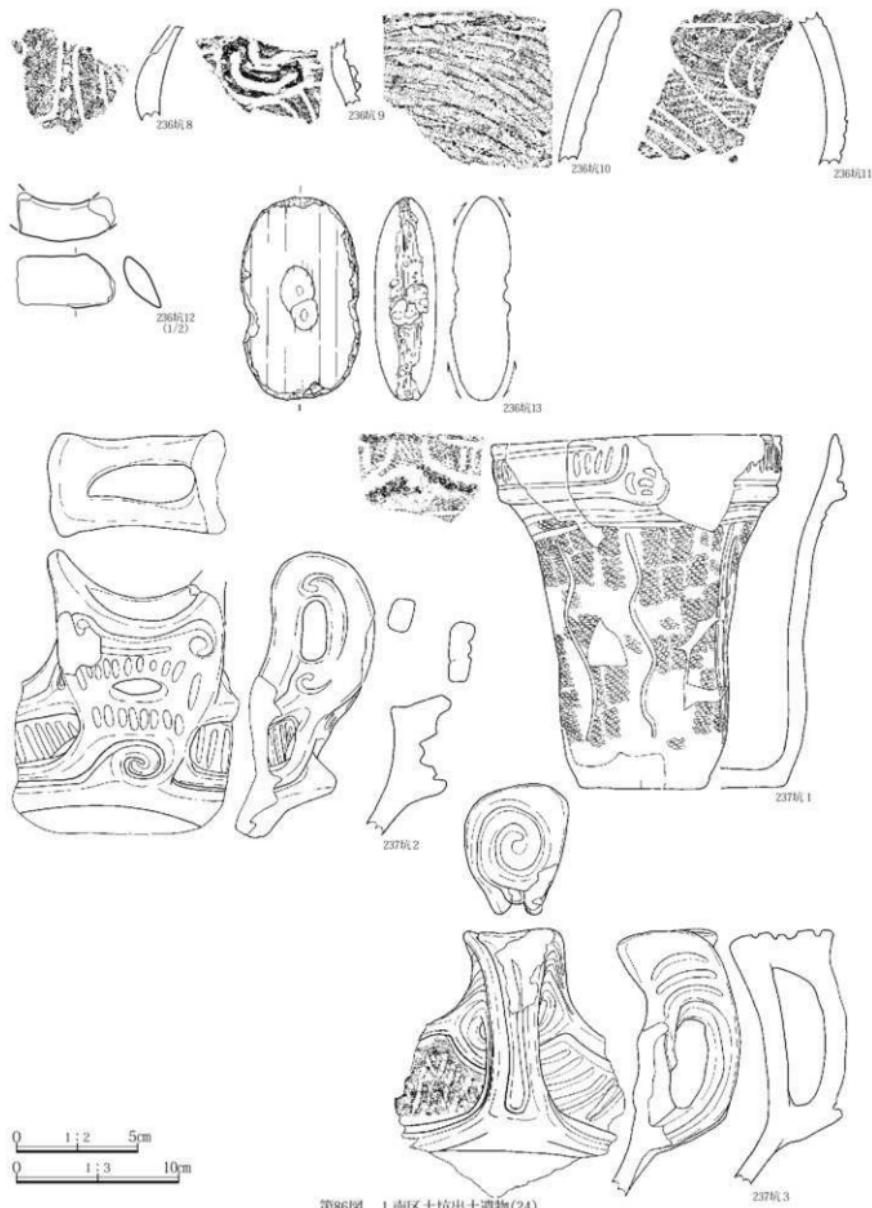
第83圖 1 南区土坑出土遺物(21)



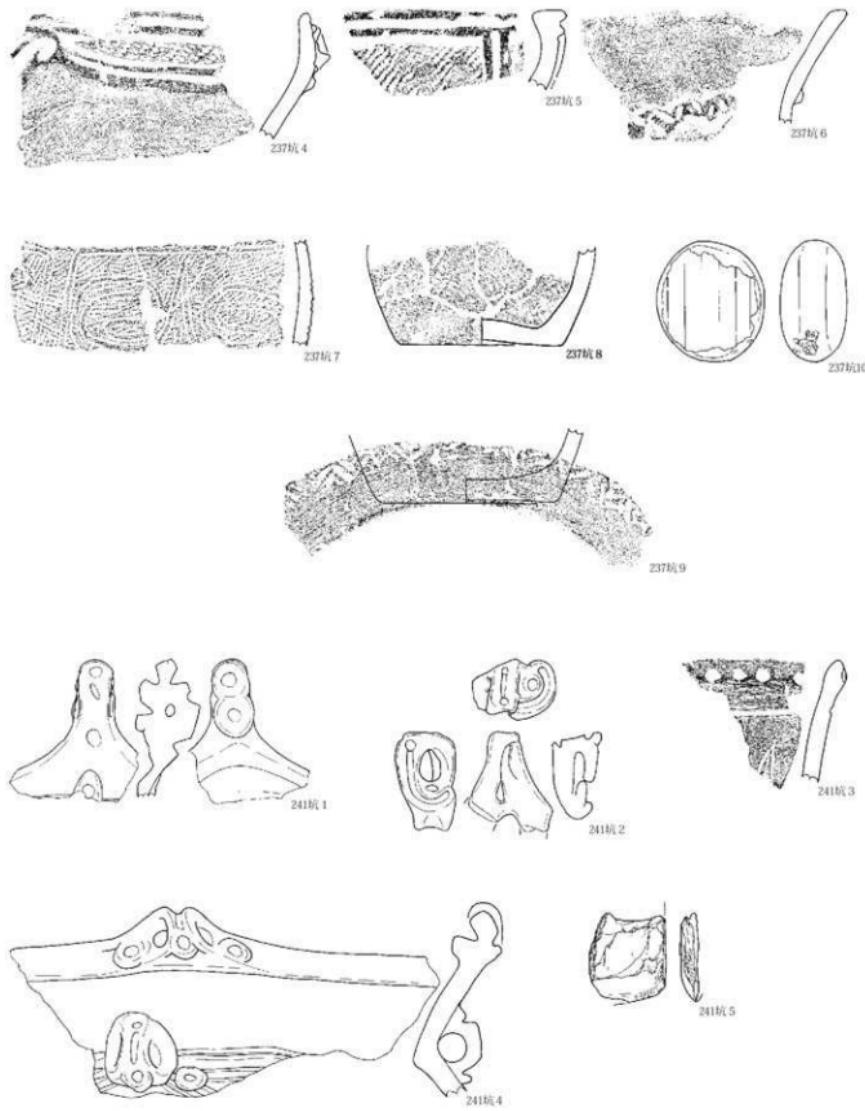
第84図 1 南区土坑出土遺物(22)



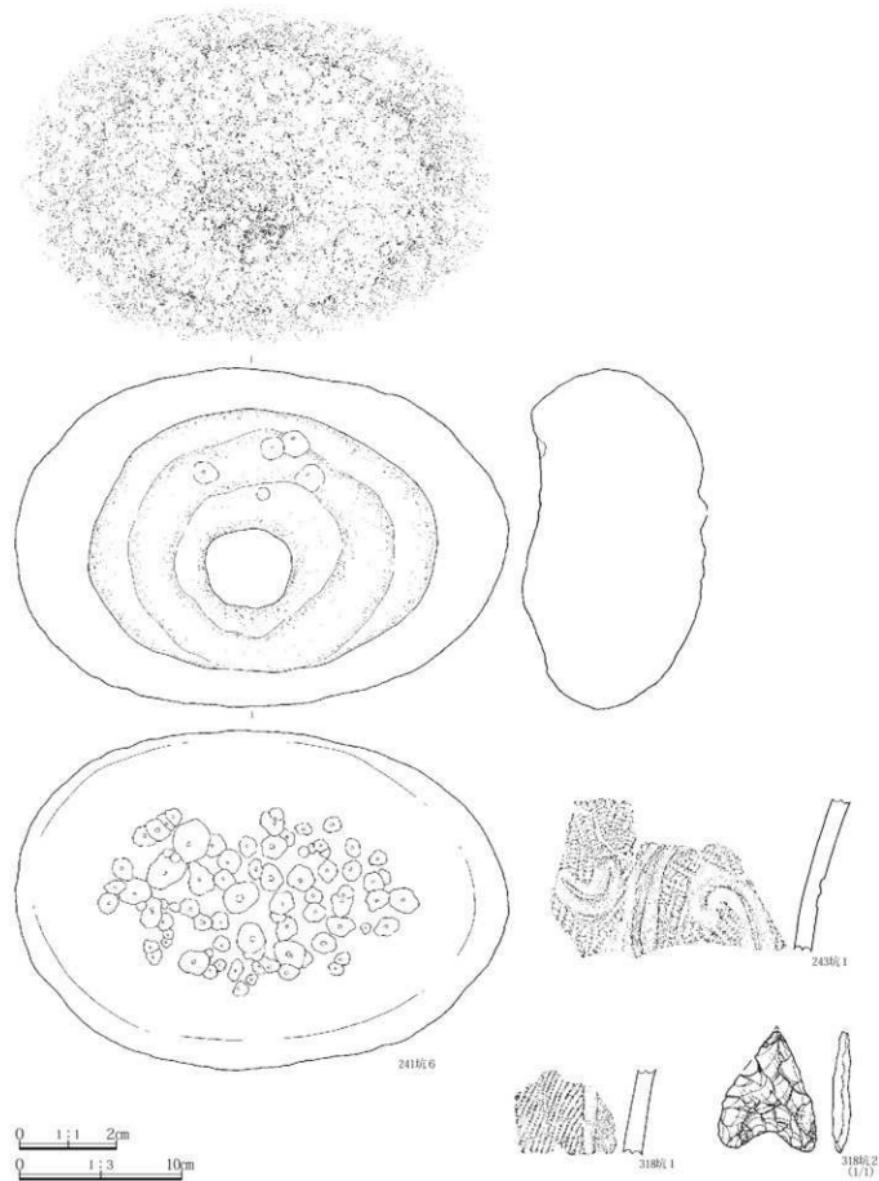
第85圖 1 南区土坑出土遺物(23)



第86図 1 南区土坑出土遺物(24)



第87圖 1 南区土坑出土遺物(25)



第88図 1 南区土坑出土遺物(26)

6 2区

●94号土坑

2区南部北寄りで検出。断面擂鉢状の土坑で、掘り込みはやや不明瞭であり、底面に凹凸が見られる。ローム粒、ブロックを含む暗褐色、黒褐色土で埋まる。出土土器は24点で、加曾利E3式～称名寺式、堀之内2式が混在する。石器は剥片3点が出土している。

●96号土坑

2区南部で検出された袋状土坑である。底面中央にピット状の落ち込みがある2段構造となる。ローム粒、ブロックを含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は74点で、加曾利E3式、E4式が主体となるため、加曾利E4式期の所産と判断したい。石器は二次加工ある剥片1点、剥片2点が出土している。

●100号土坑

2区南部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は130点で、加曾利E2式、E3式が若干混じるもの、加曾利E4式が主体となるため、加曾利E4式期の所産と判断される。石器はチャート製の石核1点、多孔石1点、丸石1点、剥片1点が出土している。埋土中層から上層にかけて礫の集積が見られた。

●101号土坑

2区南部で検出。底面の南側のみ張り出す半袋状の土坑である。開口部径が最も大きく、皿状に下げる中央を掘り込んでいる。底面中央にピット状の落ち込みがある2段構造となる。ローム粒、ブロックを含む褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は110点で、加曾利E3式が若干混じるもの、加曾利E4式、称名寺式が主体となるため、称名寺式期の所産と判断される。石器はチャート製の石鑿1点、チャート製の石核2点、磨石1点、石皿1点、剥片5点が出土している。開口部のテラス上で称名寺II式の大型破片(1)、石皿(4)が出土している。

●102号土坑

2区北端で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状

の土坑である。北半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は、加曾利E3式1点のみである。石器の出土はない。

●103号土坑

2区南部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒ないし円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。焼土粒を含む褐色土を主体に埋まる。埋土に焼土粒を多く含み、周縁に礫が配されることから炉跡の可能性も考えたが、礫は壁面に立てるのではなく周縁に平置きしていること、周囲にピットが検出されていないことから炉跡との判断には至らなかった。出土土器は53点で、加曾利E3式、加曾利E4式、堀之内2式が混在する。石器は剥片2点が出土している。

●107号土坑

2区南端で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。南半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は27点で、加曾利E2式、E4式が若干混じるもの、加曾利E3式が主体となるため、加曾利E3式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●108号土坑

2区中央部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。118号に切られる。ローム粒、ブロックを含む均一な黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は92点で、称名寺式、堀之内1式が若干混じるもの、加曾利E3式が主体となるため、加曾利E3式期の所産と判断される。石器は黒曜石製の石鑿1点、二次加工ある剥片2点が出土している。

●114号土坑

2区北部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む均一な黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は2144点と多量だが、ほとんどが小破片で大型破片はごくわずかである。明らかに混入の五領ヶ台式が2点のほかは、加曾利E2式がわずかで、加曾利E3、E4式が主体となる。明瞭に後期に比定しうるものは見られないことから、加曾利

E式期の所産と判断される。石器はチャート製の石鐵1点、打製石斧7点、削器1点、ホルンフェルス製の石核2点、二次加工ある剥片6点、砥石1点、変質安山岩製の石棒1点、剥片43点と多く出土している。

●115号土坑

2区北部やや南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む均一な黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は372点で加曾利E2式がわずかに見られる程度で、加曾利E3、E4式が主体となる。明瞭に後期に比定しうるものは見られないとから、加曾利E4式期の所産と判断される。石器は打製石斧1点、石皿1点、多孔石1点、剥片14点が出土している。底面に石皿(20)、多孔石(21)を含む礫の集積が見られた。

●118号土坑

2区中央部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。東半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は5点のみだが、後期加曾利E系の半完形土器が出土していることから、称名寺I式期の所産と判断したい。石器の出土はない。

●121号土坑

2区中央部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は197点で加曾利E2、E3式が混じるもののが曾利E4式、称名寺式が主体となる。埋土上位で後期加曾利E系と考えられる大型破片(1)が出土しているため、称名寺I式期の所産と判断したい。埋土中から棒状の土器2点が出土している。石器の出土はない。

●122号土坑

2区北部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は、中期後葉～後期前葉期としか判別できない細片が10点のみである。石器の出土はない。

●124号土坑

2区北部南寄りで検出。袋状土坑だが、写真を見る限り壁面を掘り切れていないようであり、本来はより下部径の大きい土坑だったと考えられる。底面中央にピット状の落ち込みがある2段構造となる。東半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒、ブロックを含む均一な黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は171点で加曾利E3式、称名寺式が主体となるため、称名寺式期の所産と判断したい。埋土中から三角形状の土製品が出土している。石器は二次加工ある剥片1点が出土している。

●125号土坑

2区北部で検出された袋状土坑。底面中央にピット状の落ち込みがある2段構造となる。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土を主体に埋まる。出土土器は904点と数多く出土している。加曾利E3、E4式も少なからず見られるが称名寺式が主体となっており、またほぼ完形の称名寺I式の注口土器が埋土上層から出土していることから、称名寺I式期の所産と判断される。埋土中から環状土製品が2点(27, 28)出土している。石器はチャート製の石鐵2点、黑色安山岩製の石鐵1点、打製石斧1点、ホルンフェルス製の石核1点、二次加工ある剥片1点、剥片12点が出土している。

●126号土坑

2区北部南寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒をわずかに含む均一な黒褐色土を主体に埋まる。出土土器は125点で、加曾利E2式～称名寺式が混在する。石器は剥片2点が出土している。

●127号土坑

2区中央部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかった。128号に切られる。ローム粒を含む暗褐色土で埋まる。出土土器は、中期後葉～後期前葉期の小破片が3点のみである。石器の出土はない。

●128号土坑

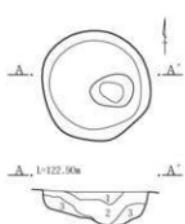
2区中央部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断

面円筒状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかった。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は105点で、加曾利E2式～称名寺式が混在する。石器は剥片2点が出土している。

●129号土坑

2区北部南寄りで検出された袋状土坑。底面中央にピット状の落ち込みがある2段構造となる。ローム粒を含む均一な黒褐色土を主体に埋まる。出土土器は308点で、点数的には加曾利E3式と称名寺式が多い傾向にあるが、称名寺I式の大型破片(7)が埋土中層から出土していることから、称名寺I式壺の所産と判断される。また、No.7のすぐ脇で土製耳飾り(14)が出土しており、同時に投棄されたものであろう。埋没状況や遺物の出土状況が125号と酷似しており、125号と同時期に土坑としての機能を失ったと考えたい。石器は凹石1点、緑色片岩製の石棒1点、剥片1点が出土している。底面に人頭大の礫1個が置かれていた。

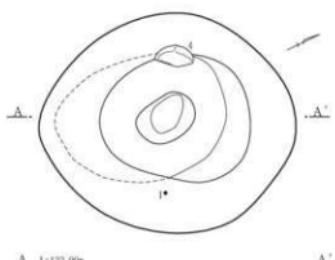
94号土坑



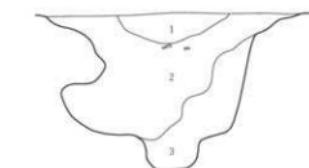
94号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 95号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

101号土坑



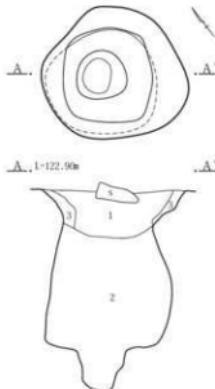
101号土坑



107号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒多く含む。
 - 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
 - 3 褐色土 ロームブロック多く含む。
- 107号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。炭化物粒わずかに含む。
 - 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。炭化物粒わずかに含む。
 - 3 暗褐色土 ローム粒多く含む。
- 108号土坑
- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
 - 2 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。
 - 3 黑褐色土 ロームブロック少量含む。

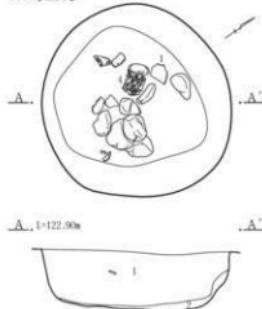
96号土坑



96号土坑



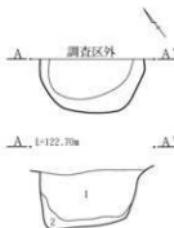
100号土坑



100号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒多く含む。

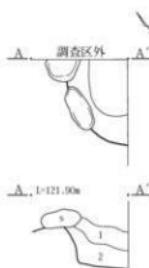
102号土坑



102号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

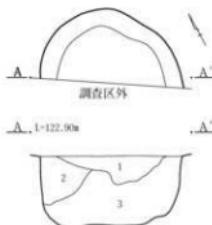
103号土坑



103号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、焼土粒、炭化物粒わずかに含む。
- 2 褐色土 焼土粒多く含む。

107号土坑



107号土坑

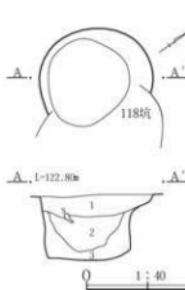
調査区外

107号土坑

A-A'

1-122.90m

108号土坑



108号土坑

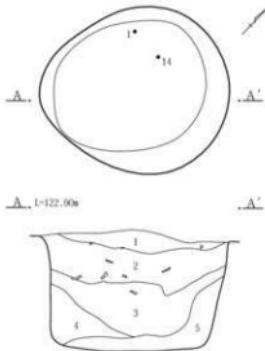
A-A'

1-122.90m

0 1:40 1m

第89図 2区土坑(1)

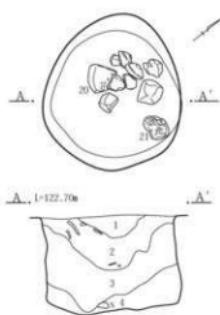
114号土坑



114号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

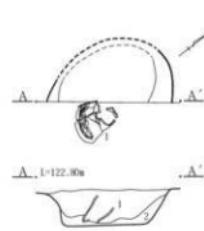
115号土坑



115号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒少量含む。

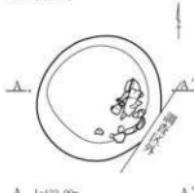
118号土坑



118号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

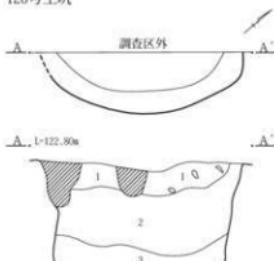
121号土坑



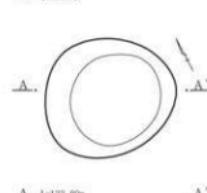
121号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。
- 2 黑褐色土 ロームブロック少量含む。
- 3 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。

126号土坑



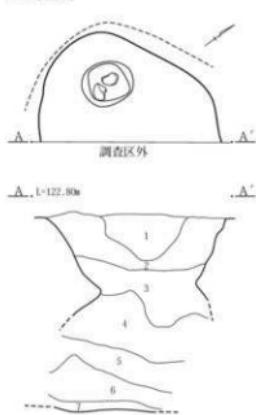
122号土坑



122号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 黑褐色土 ローム粒少量含む。
- 3 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒少量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

124号土坑



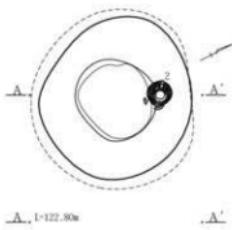
124号土坑

- 1 褐色土 ロームブロック多く含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 3 黑褐色土 ロームブロック少量含む。
- 4 黑褐色土 ローム粒少量含む。
- 5 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 6 黑褐色土 ローム粒多く含む。
- 7 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。

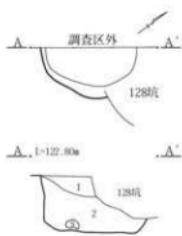
第90図 2区土坑(2)

0 1:40 1m

125号土坑



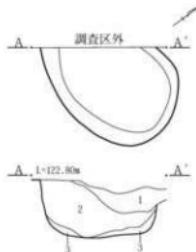
127号土坑



127号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。

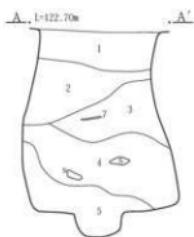
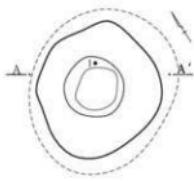
128号土坑



128号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
3 暗褐色土 ローム・ブロック少量含む。

129号土坑

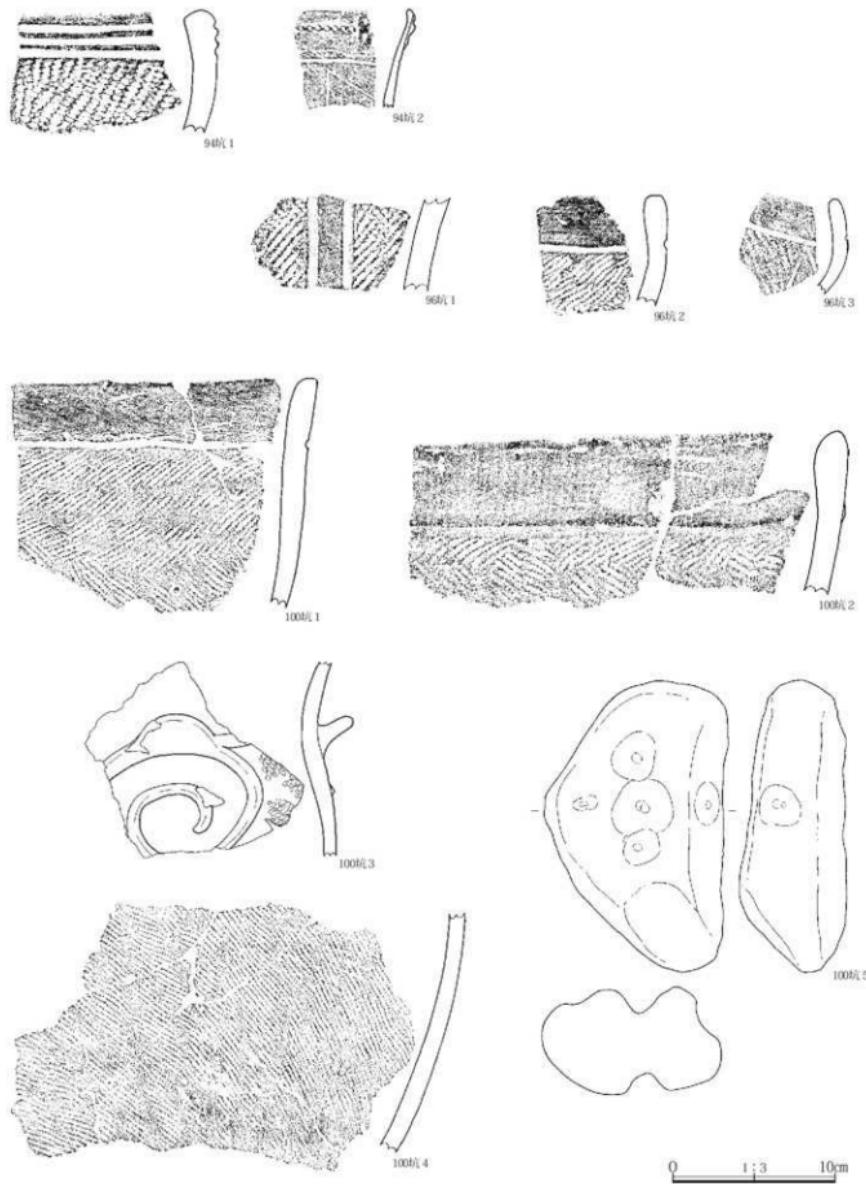


129号土坑

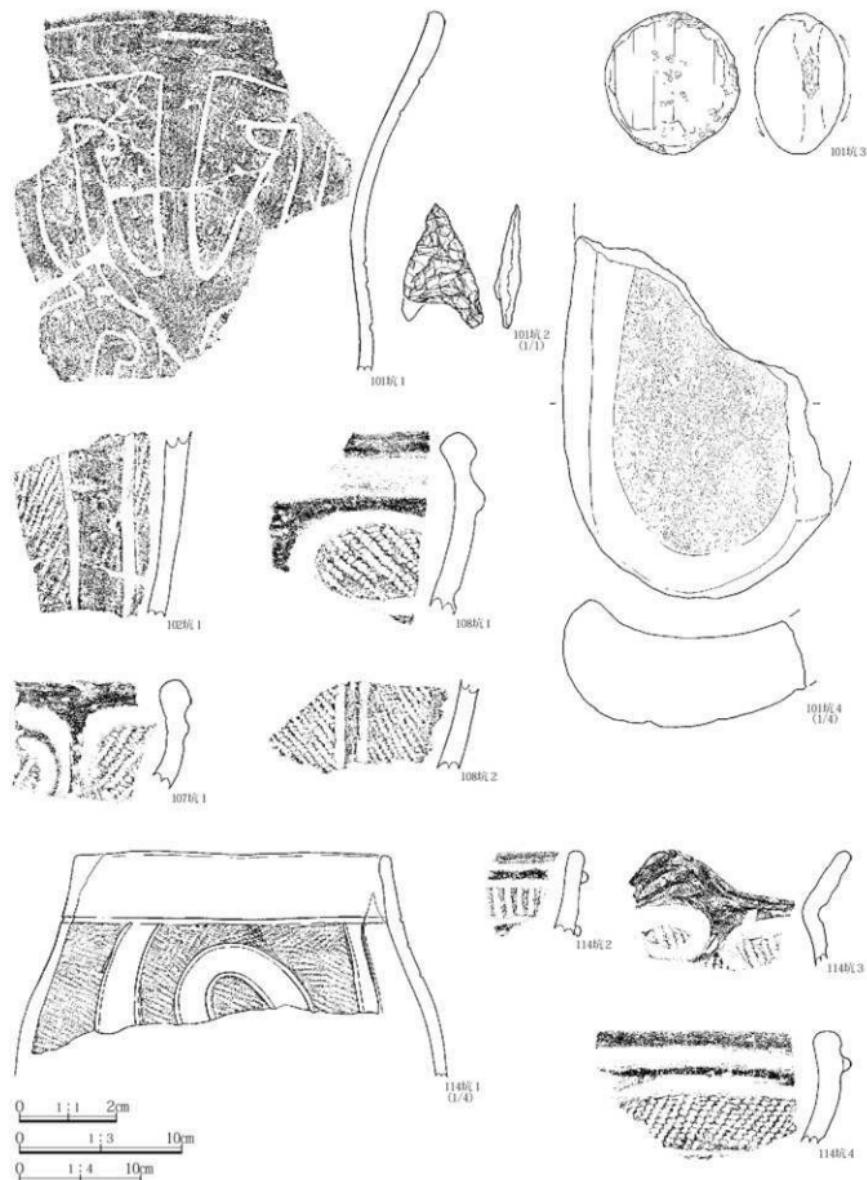
- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
3 黒褐色土 ローム粒少量含む。
4 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。
5 黑褐色土 ローム粒少量含む。

0 1:40 1m

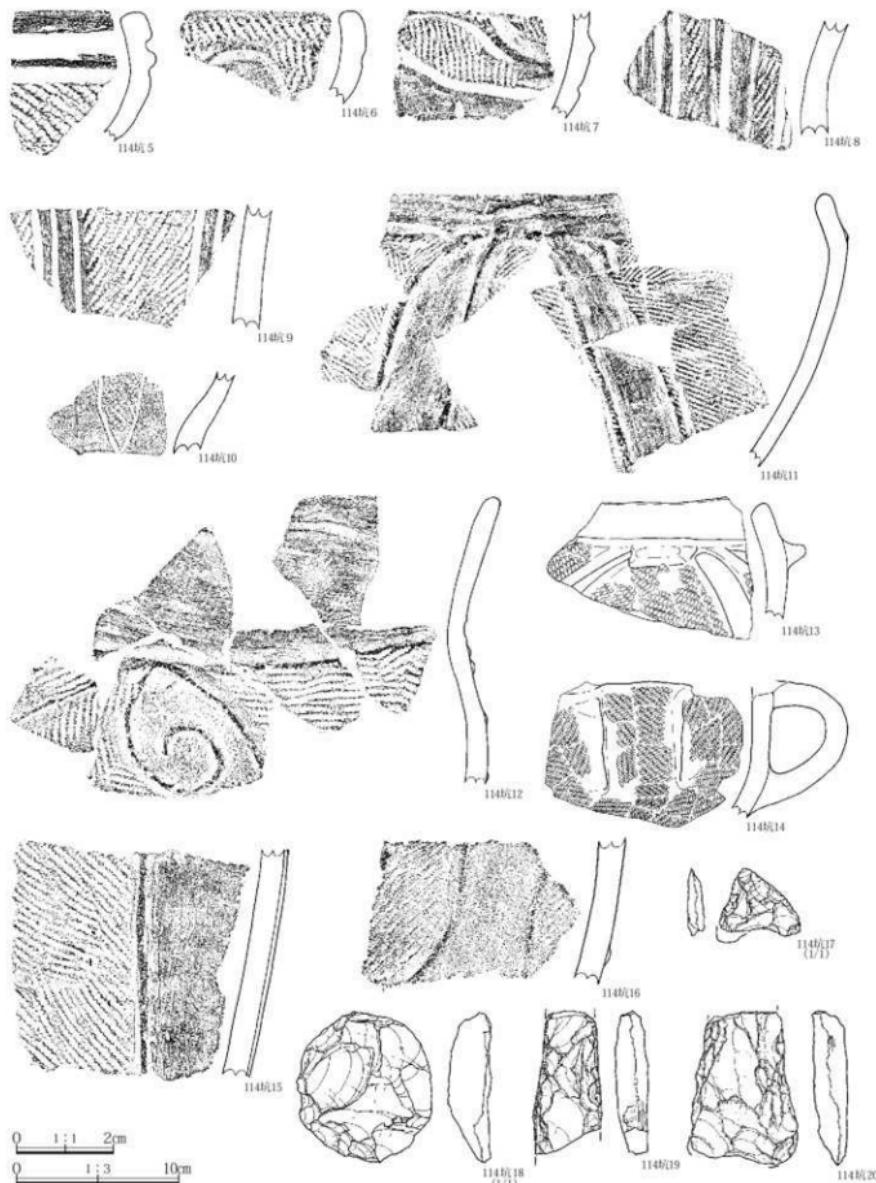
第91図 2区土坑(3)



第92圖 2区土坑出土遺物(1)



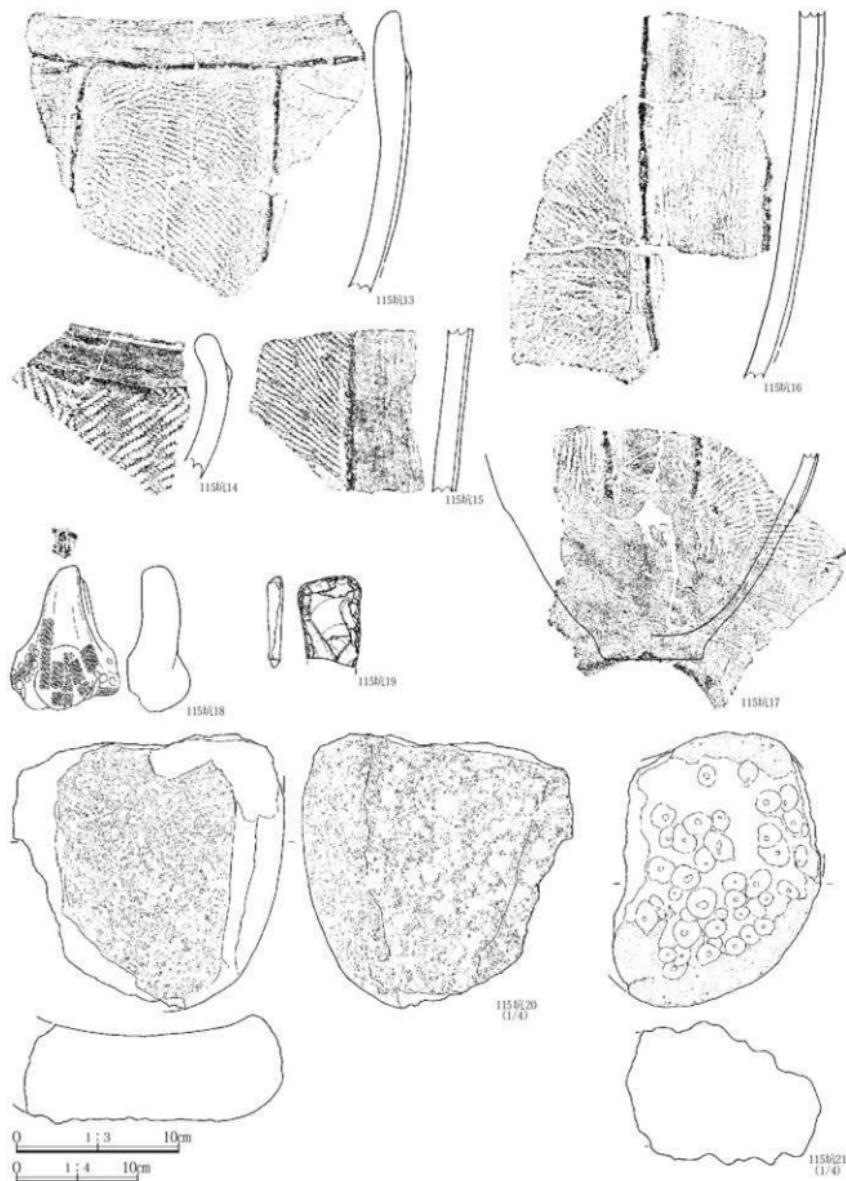
第93図 2区土坑出土遺物(2)



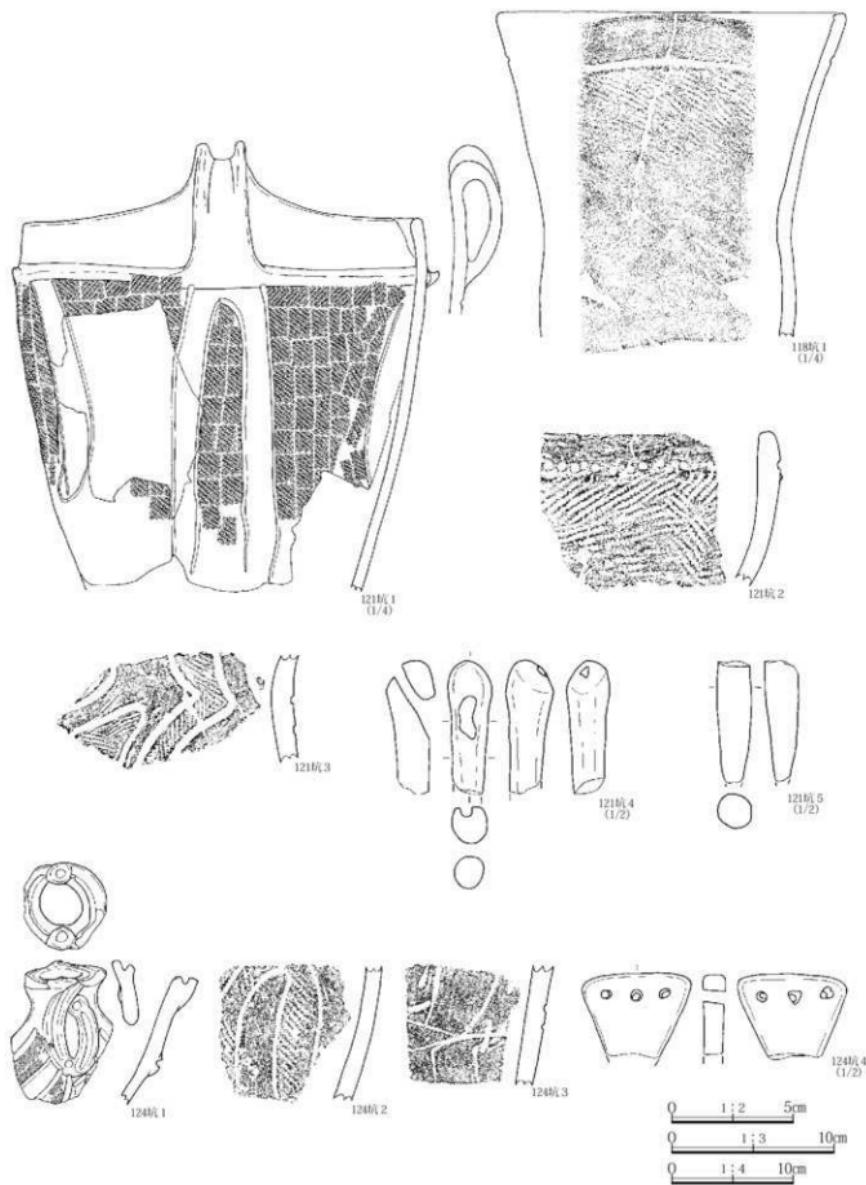
第94圖 2区土坑出土遺物(3)



第95図 2区土坑出土遺物(4)

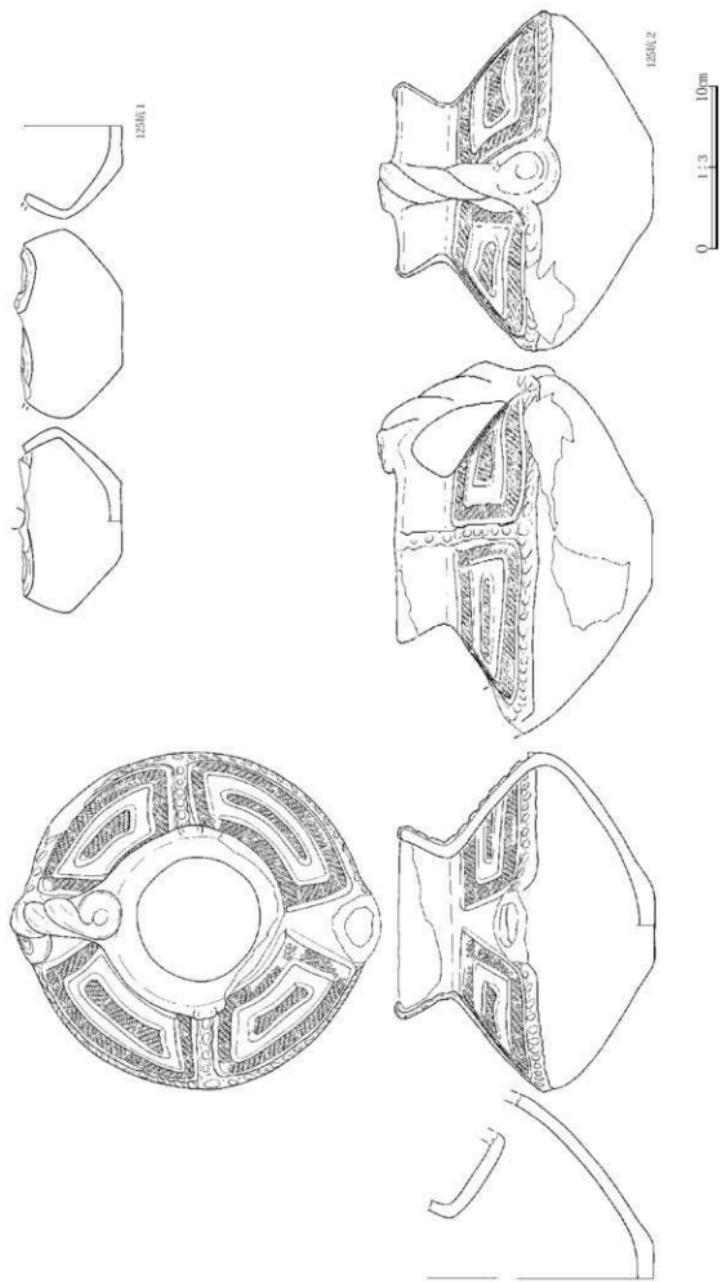


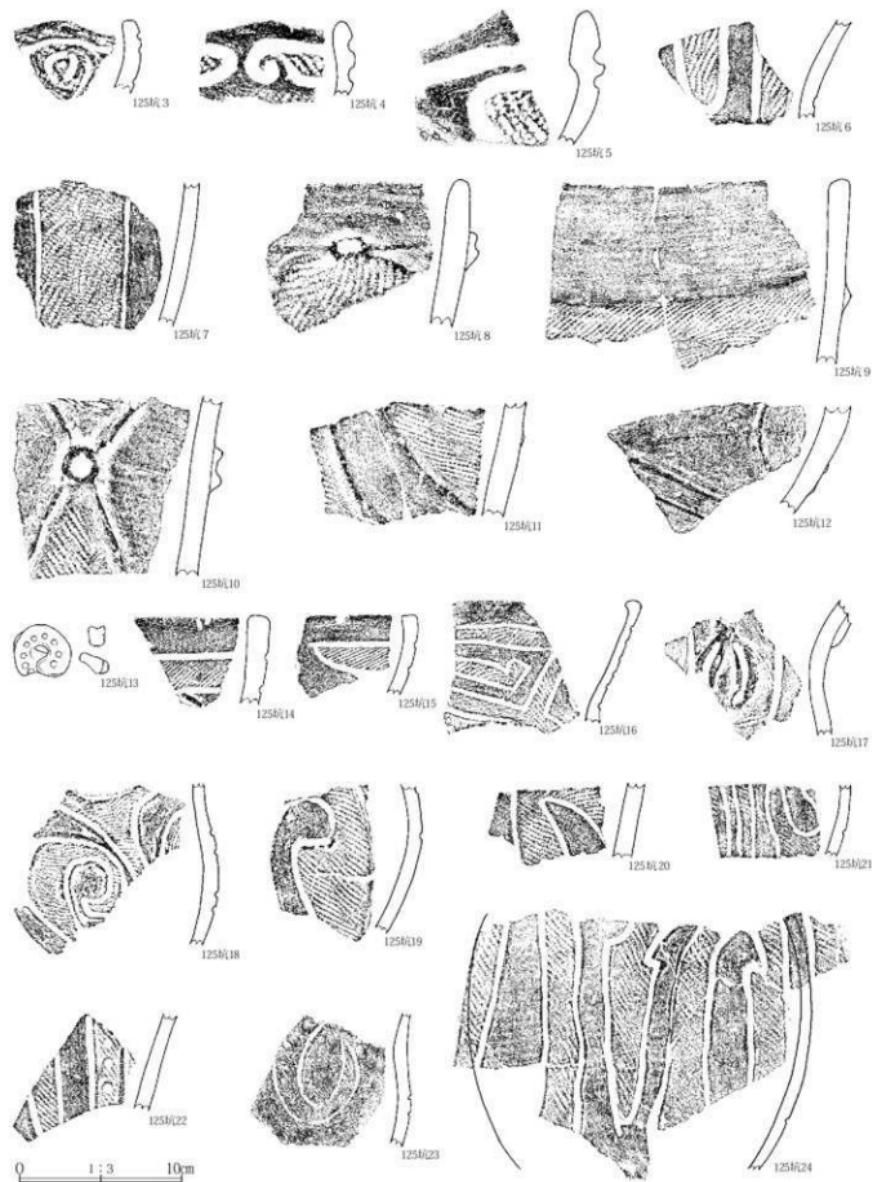
第96圖 2区土坑出土遺物(5)



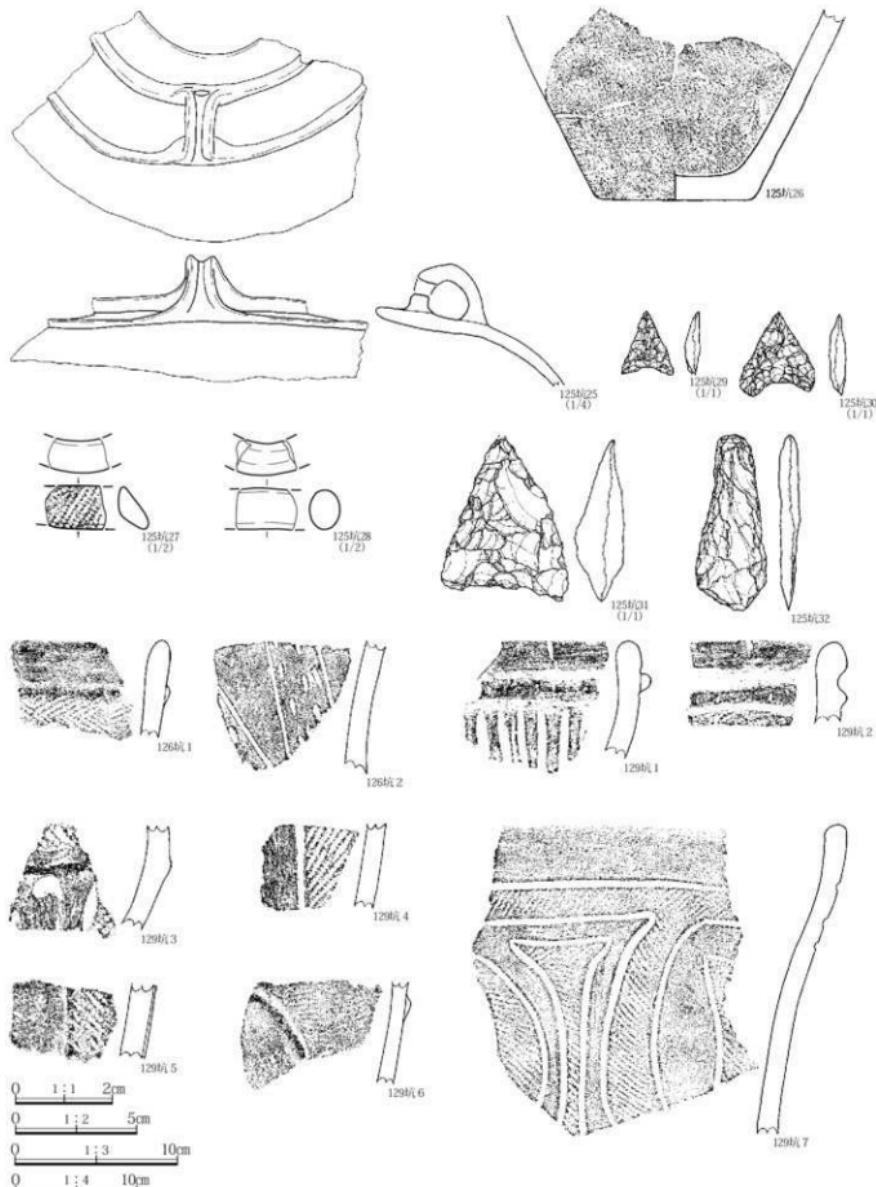
第97図 2区土坑出土遺物(6)

第298圖 2K土坑出土遺物(7)

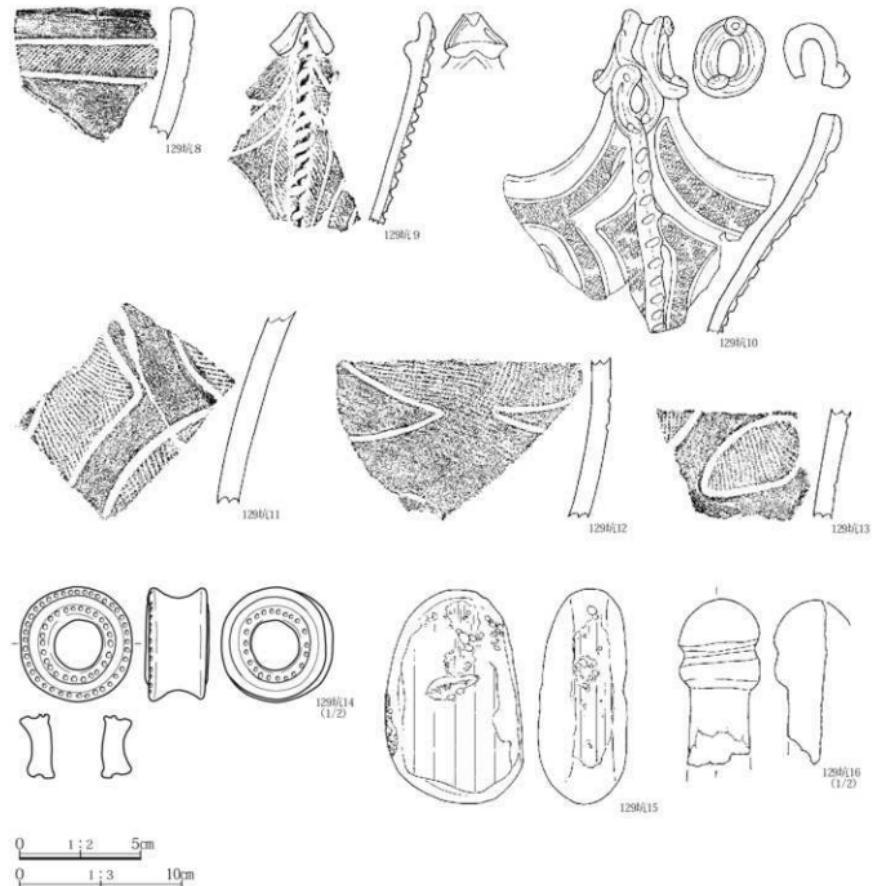




第99図 2区土坑出土遺物(8)



第100圖 2区土坑出土遺物(9)



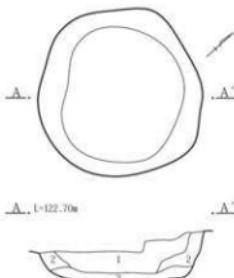
第101図 2区土坑出土遺物(10)

7 3区

●70号土坑

3区北部で検出。掘り込みのしっかりした断面浅円筒状の土坑である。ローム粒、ブロックを含む均一な黒褐色土で埋まる。出土土器は87点で加曾利E3式と称名寺式が混在するため、称名寺式期の所産と判断したい。埋土中から環状土製品(4)が、石器は二次加工ある剥片1点が出土している。

70号土坑



70号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

●80号土坑

3区中央部で検出。やや小型だが、掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。ローム粒を含む黒褐色、暗褐色土で埋まる。出土土器は16点で加曾利E4式と称名寺式が混在するが、後期加曾利E系と考えられる大型破片(1)を根拠に称名寺1式期の所産と判断したい。石器は打製石斧1点、敲石1点、石皿1点、多孔石1点が出土している。

80号土坑

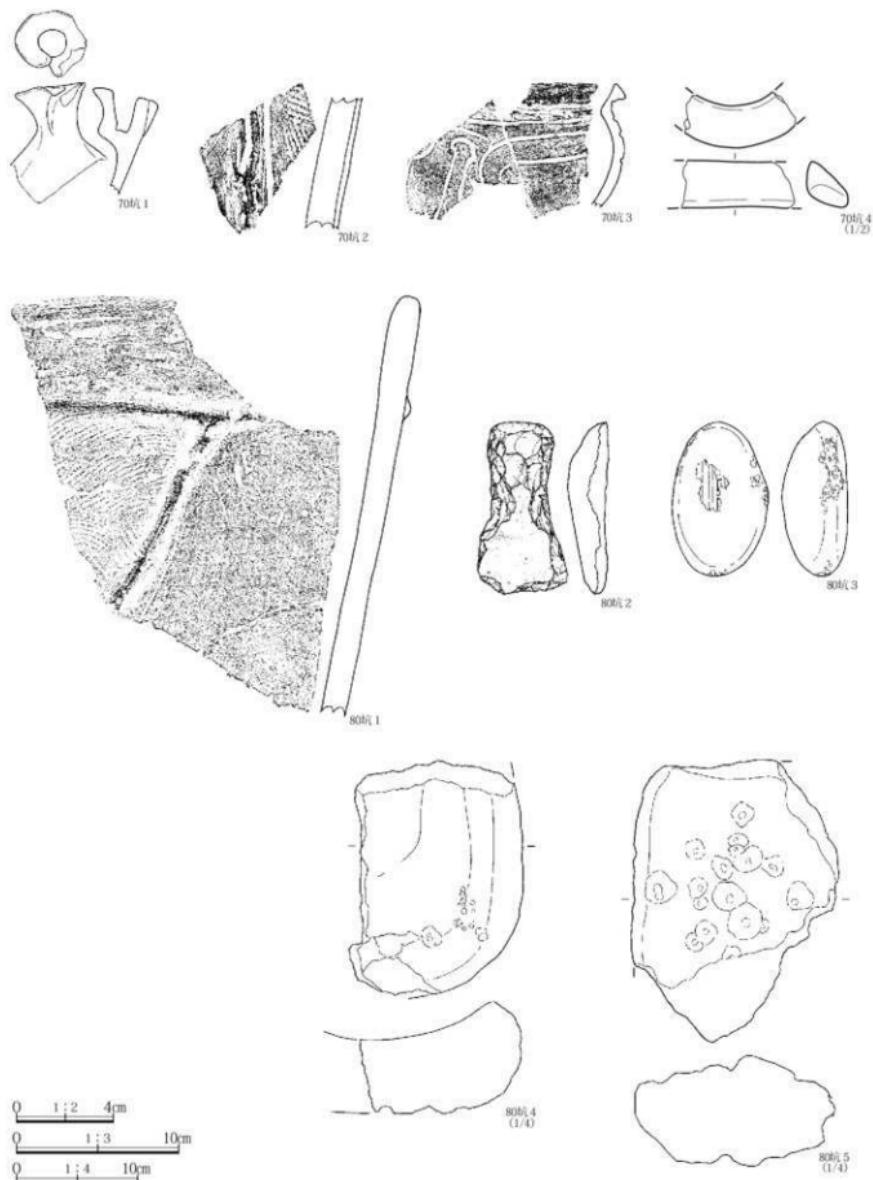


80号土坑

- 1 暗褐色土 ローム粒、炭化物粒わずかに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含む。

0 1:40 1m

第102図 3区土坑



第103図 3区土坑出土遺物

8 7北区

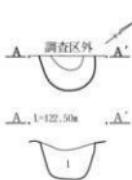
●255号土坑

7北区南部で検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。西半は調査区外のため調査できなかつた。ロームブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土遺物はない。

●256号土坑

7北区南部北寄りで検出。掘り込みのしっかりした断面円筒状の土坑である。

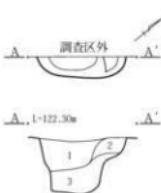
255号土坑



255号土坑

1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

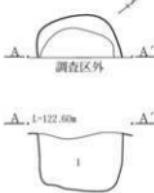
256号土坑



256号土坑

1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。炭化物粒含む。
2 暗褐色土 ローム粒少量含む。
3 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

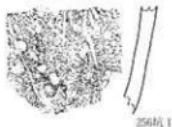
257号土坑



257号土坑

1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。炭化物粒含む。

0 1:40 1m



0 1:3 10cm

第104図 7北区土坑

第4節 埋設土器

埋設土器は、竪穴建物内に付設された埋甕とは別に、竪穴建物外に単独で構築されたものと定義して、本節で扱う。

埋設土器は1南区で5基、3区で2基の計7基が検出されたが、前述したとおり4号埋設土器を8号竪穴建物の炉体土器と判断したため、6基を報告する。時期別に見ると加曾利E2式期が2基、加曾利E3式期が3基、不明が1基となる。分布に関しては、特に集中箇所は見られず散在的な様相を見せる。竪穴建物、土坑が集中する1南区での検出がやはり多く、3区で2基の検出を見るが、間の2区での検出は見られない。

●1南区2号埋設土器

1南区中央部の885-290グリッドで検出。長径36cm、短径30cm、深さ15cmの楕円形の掘り方に、深鉢の下半部を正位に埋設する。土器は加曾利E3式である。上端径19.1cm、底径7.0cm、現存高18.0cmを測る。

●1南区5号埋設土器

1南区南部北寄りの870-300グリッドで検出。北東部を263号ピットに壊されている。短径35cm、深さ20cmの掘り方に、口縁部突起と底部を欠いた深鉢を埋設する。土器は加曾利E2式である。

●1南区6号埋設土器

1南区南部の860-305グリッドで検出。径60cm、深さ33cmのほぼ正円形の掘り方に、底部付近を欠いた深鉢を正位に埋設する。掘り方上部がテラス状に一段張がるがおそらく掘り過ぎによるものと思われ、本来は傾斜を持って真っ直ぐ立ち上がっていたと考えられる。土器は加曾利E2式である。胸部懸垂文に一部磨り消し手法が認められ、加曾利E2式でも最終段階のものと考えられる。推定口径35.0cm、下端径15.8cm、現存高22.9cmを測る。

●1南区7号埋設土器

1南区北部南寄りの885-290グリッドで検出。調査段階では158号土坑として調査されたが、土器の検出状況

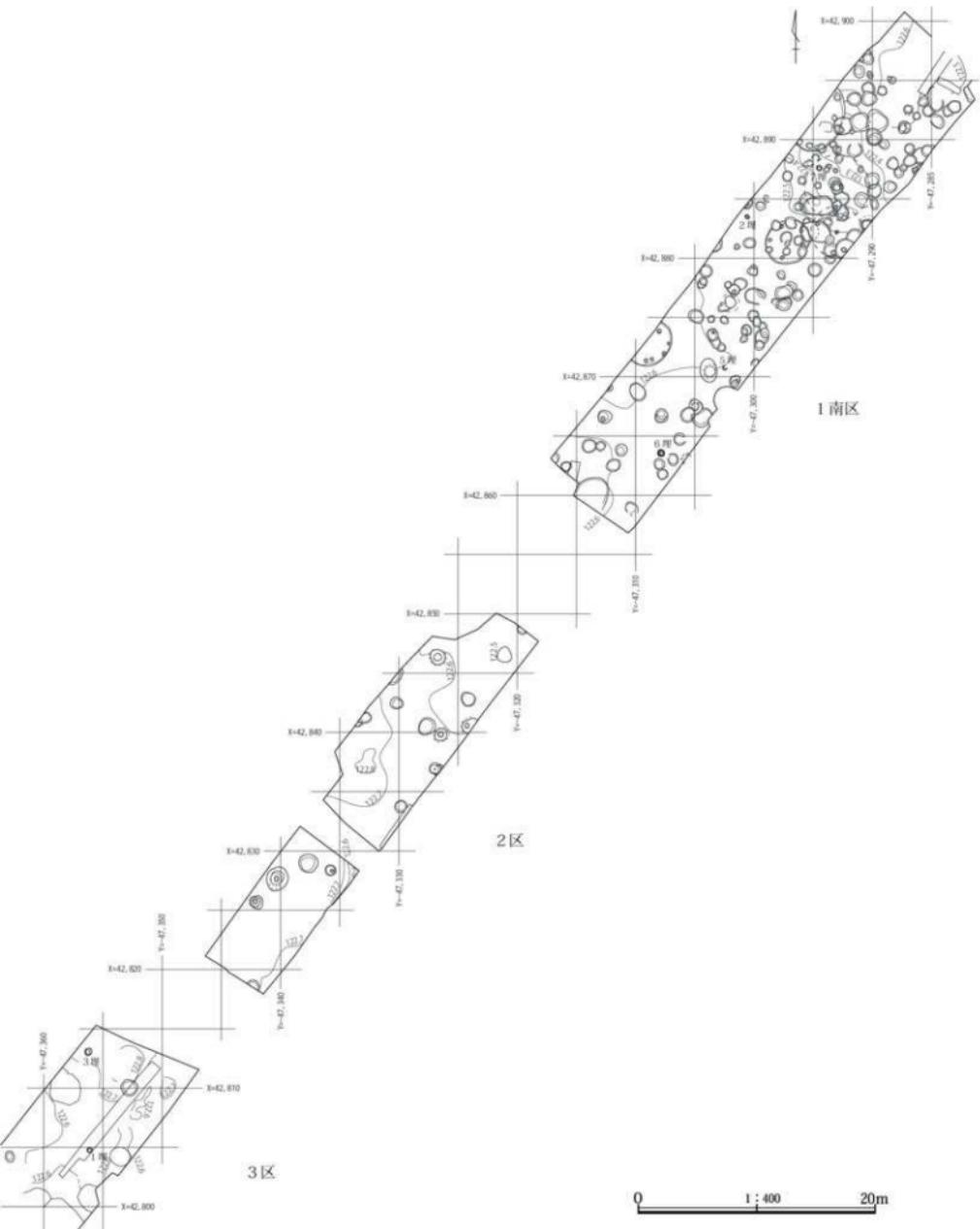
から整理段階で埋設土器に改めた。長径47cm、短径40cm、深さ20cmの楕円形の掘り方に、底部を欠いた浅鉢を正位に埋設する。無文の浅鉢のため細別型式は不明だが、後期前葉に比定できようか。推定口径34.5cm、下端径12.5cm、現存高20.8cmを測る。

●3区1号埋設土器

3区北端の810-355グリッドで検出。径42cm、深さ15cmのほぼ正円形の掘り方に、深鉢口縁部を逆位に埋設する。土器は加曾利E3式である。口径32.0cm、下端径17.4cm、現存高11.2cmを測る。

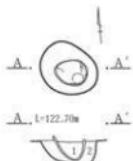
●3区3号埋設土器

3区北端の810-355グリッドで検出。径63cm、深さ22cmのほぼ正円形の掘り方に、深鉢上半部(1)を正位に埋設する。土器は加曾利E3式である。口径46.0cm、下端径27.5cm、現存高17.8cmを測る。埋設土器の中に、壊された別個体の底部破片(2)ともう1個体の底部破片(3)が埋納されていた。



第105図 埋設土器全体図

1 南区2号埋設土器

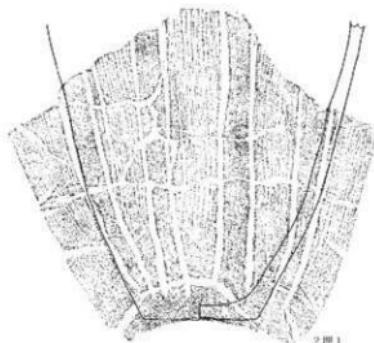


堀り方

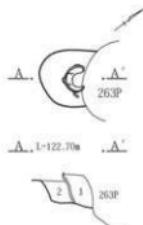


2号埋設土器

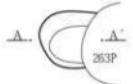
- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。しまり弱。
- 2 暗褐色土 ローム粒多く含む。



1 南区5号埋設土器

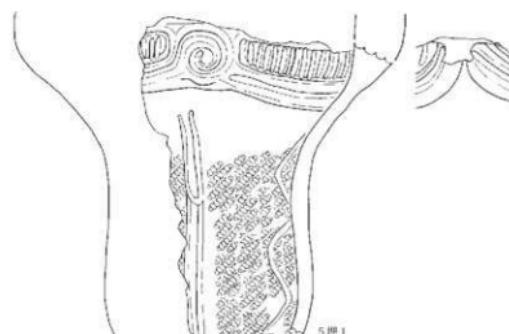


堀り方



5号埋設土器

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒少量含む。



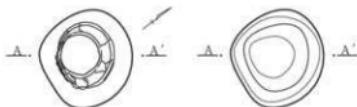
0 1:30 1m

0 1:3 10cm

第106図 1南区埋設土器(1)

1 南区6号埋設土器

堀り方

 $\Delta\Delta$, L=122.70m $\Delta\Delta'$

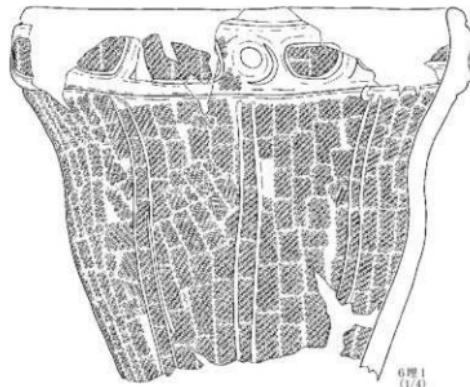
6号埋設土器

1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。下部多く含む。

2 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。

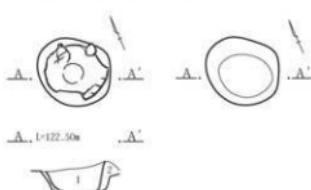


施文



1 南区7号埋設土器

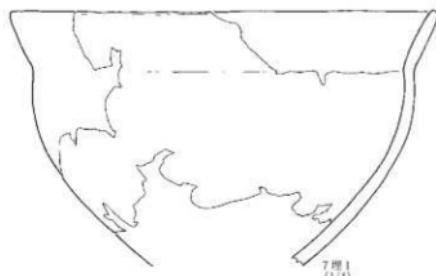
堀り方

 $\Delta\Delta$, L=122.50m $\Delta\Delta'$

7号埋設土器

1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

2 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。

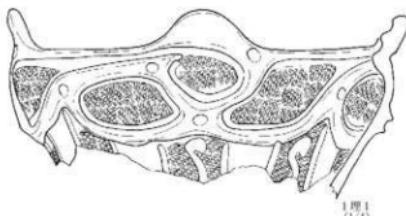
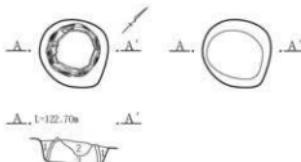


0 1:30 1m

0 1:4 10cm

第107図 1南区埋設土器(2)

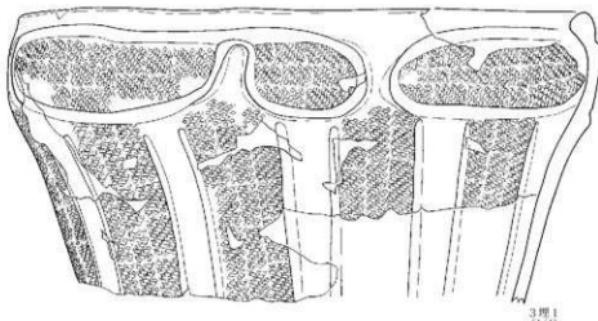
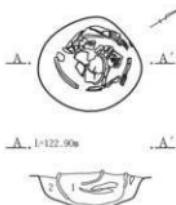
3区1号埋設土器 堀り方



1号埋設土器

- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒微量含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

3区3号埋設土器

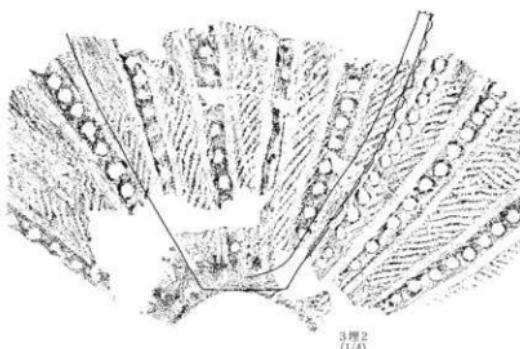


堀り方



3号埋設土器

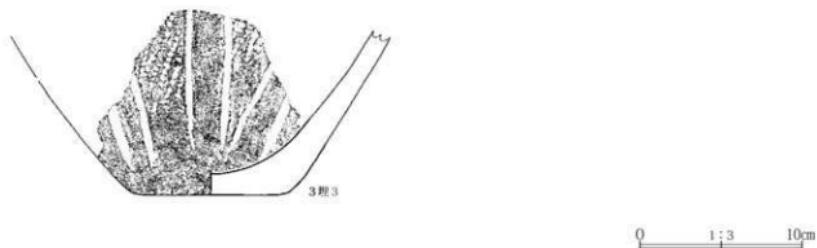
- 1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。



0 1:30 1m

0 1:4 10cm

第108図 3区埋設土器(1)



第109図 3区埋設土器(2)

第5節 ピット

ピットは5区で33基、1北区で55基、1中区で2基、1南区で87基、2区で20基、7区で19基、6区で11基の計227基が調査された。3、4区での検出は見られない。

ピットの厳密な定義はないが、土坑に比して規模が小さいもの、また小さい平面径に対して深さが深いものと考えた。いわゆる柱穴状の掘り込みをイメージするものである。しかし、227基のピットすべてが柱穴として認定できるものではなく、他の機能を考えうるであろうし、さらには縄文人の手に因らないものも含まれている可能性も否定できない。明らかに柱穴と考えられるものにつ

いては、単独のものも存在するかもしれないが、調査時に竪穴建物が認定できず、柱穴のみ調査された可能性もある。ピットという性格上、規模が小さいため出土遺物は多くないが、58号土坑で貝輪状土製品と土偶状の土製品が、95号ピットで貝輪状土製品3点が出土しており、特筆される。ともに柱穴状で、掘り込みのしっかりしたピットである。

ピットについては個別ではなく、全体圖としての掲載と、規模等の計測値をまとめた一覧表としたので参照いただきたい。なお、58、171、218号土坑については、上記した理由により土坑ではなくピットと判断したので、本節にて報告する。

第6表 ピット一覧表(1)

5区ピット

No.	位置	長径	短径	深さ	備考
352	995-260	46	41	27	
359	985-260	32	30	16	
362	995-260	28	34	20	
400	975-255	27	24	31	
403	975-255	24	22	30	
404	975-255	31	28	17	
405	970-255	35	32	26	
406	970-250	28	22	43	
407	975-250	42	34	34	
408	970-255	37	29	12	
409	970-250	34	28	37	
410	965-250	29	26	32	
411	965-245	25	23	13	
412	965-245	38	33	22	
413	965-245	33	31	34	
414	960-245	28	26	36	
415	960-245	44	44	19	416Pを切る
416	960-245	—	—	20	415Pに切られる
417	960-245	32	26	32	
418	955-250	57	55	90	
419	955-245	65	60	49	
420	955-245	38	—	51	272坑を切る
421	955-245	49	29	68	272坑に切られる
423	950-245	—	46	60	
424	945-245	52	43	45	
425	950-245	33	33	71	288Pを切る
426	950-245	40	38	68	291坑を切る
427	950-245	—	46	47	278Pに切られる
428	950-245	26	25	22	
429	950-245	32	27	58	
430	950-245	48	39	71	431Pに切られる
431	950-245	—	46	75	432Pに切られる430Pを切る
432	955-245	—	40	81	431Pを切る

1北区ピット

No.	位置	長径	短径	深さ	備考
433	925-260	27	25	30	
434	925-260	60	46	39	
435	925-260	27	27	12	
436	925-260	40	32	28	
437	930-260	29	26	69	
438	930-260	29	27	10	
439	930-260	44	43	16	
440	925-260	50	45	36	310坑を切る
441	920-255	55	—	29	468Pを切る
442	930-260	—	33	7	443Pを切る
443	930-260	34	27	71	442Pに切られる
444	930-260	36	27	29	
445	930-260	25	23	62	
446	925-255	—	46	12	447Pに切られる
447	925-255	39	33	33	446Pを切る
448	930-255	47	43	32	
449	930-255	37	37	48	
450	930-255	42	28	49	
451	925-260	57	48	34	301坑を切る
452	930-255	53	47	5	
453	930-255	29	24	26	
454	930-255	54	47	27	
455	935-255	44	—	52	
456	935-255	42	38	35	
457	935-250	—	33	41	305坑を切る
458	930-250	34	28	11	
459	925-255	36	30	16	
460	925-255	47	47	37	
461	935-250	—	30	15	309Pを切る
462	935-250	49	45	11	
463	935-250	51	45	10	
464	935-250	38	34	22	
465	935-250	—	17	31	466Pを切る

1中区ピット

No.	位置	長径	短径	深さ	備考
4	895-270	38	31	25	
93	905-270	55	48	35	

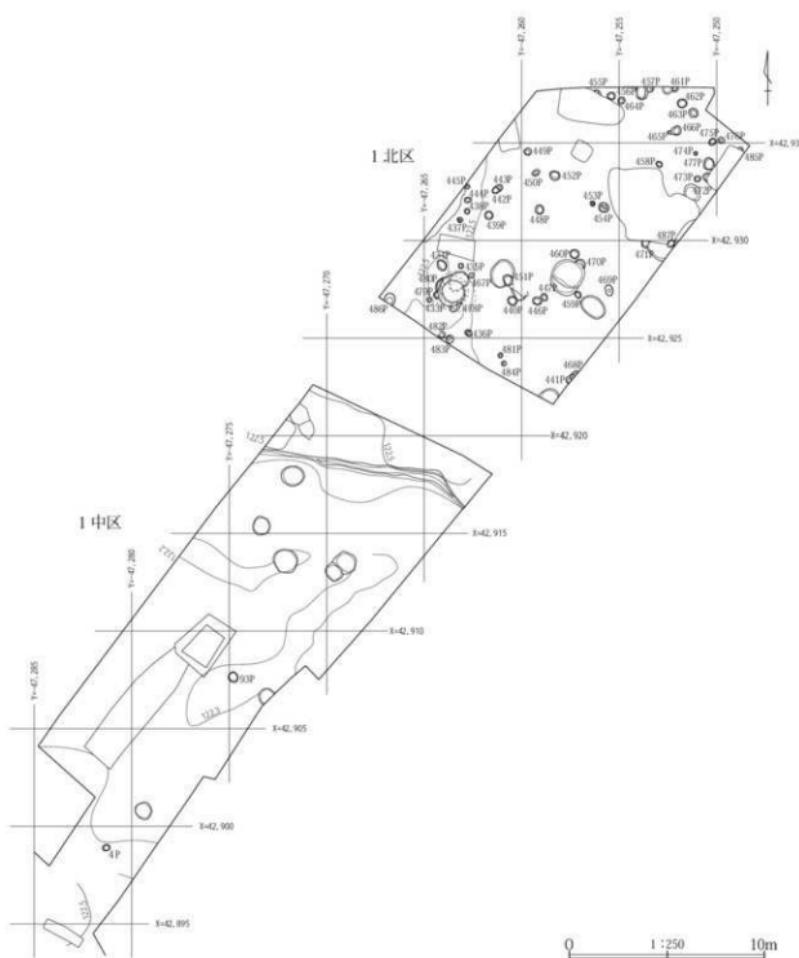
第7表 ピット一覧表(2)

1南区ピット

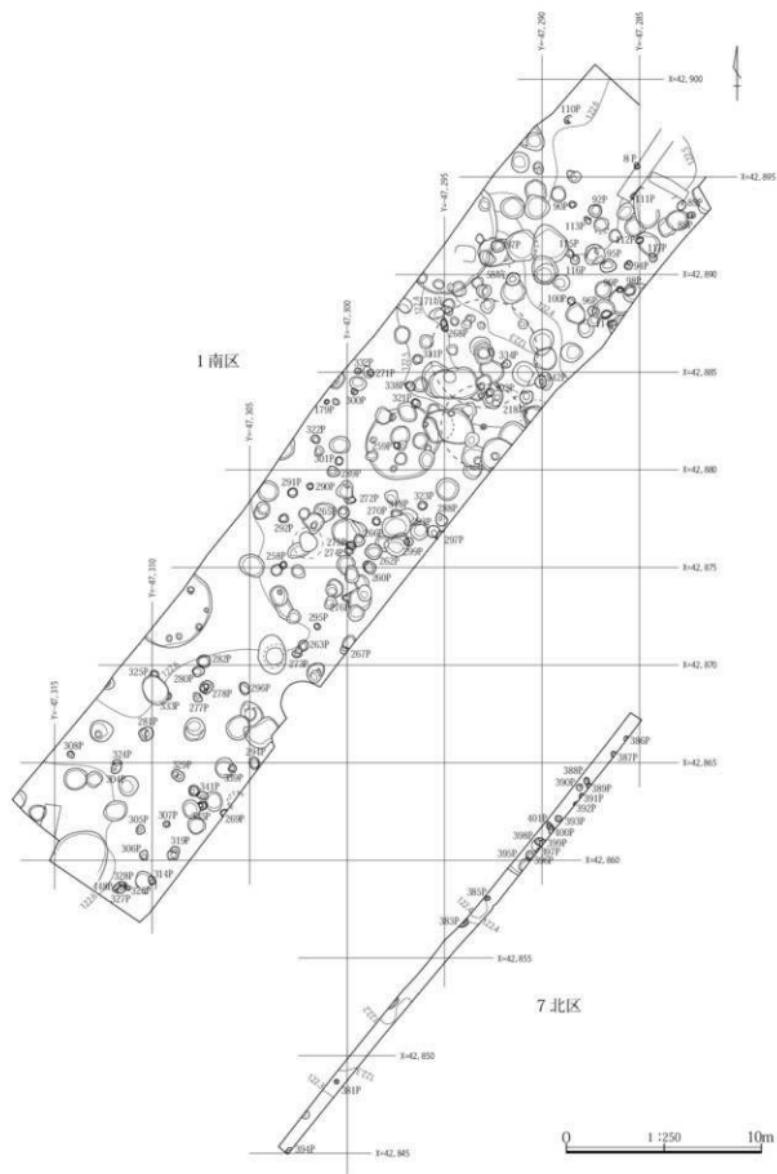
No.	位置	長径	短径	深さ	備考
58坑	885-290	—	65	87	貝輪状上 製品出上
171	885-290	59	—	85	
218	880-290	71	65	99	
8	895-275	33	28	54	
88	890-280	41	31	28	
89	890-280	52	39	49	
90	890-285	37	35	15	
92	890-285	68	65	80	
94	890-285	47	41	58	
95	890-285	83	66	90	貝輪状上 製品3点 出上
96	885-285	60	50	70	53坑に切 られる
97	890-290	65	56	81	57坑を切 る
98	885-285	—	60	78	48坑と重 複
99	885-285	35	30	76	54坑と重 複
100	885-285	42	50	45	52坑と重 複
110	825-285	46	—	56	
111	890-285	—	35	17	39坑と重 複
112	890-280	43	32	45	47坑と重 複
113	890-285	42	26	56	
114	885-285	57	43	45	53坑と重 複
115	890-285	—	36	50	64坑、 116Pと重 複
116	890-285	46	43	72	115Pと重 複
117	890-280	47	41	52	47坑と重 複
179	880-300	25	22	13	
258	875-300	40	37	17	151坑に 切られる
259	880-295	38	33	21	3照、 235坑を 切る
260	875-295	70	57	38	
262	875-295	86	80	23	298Pと重 複
263	870-300	54	50	35	5埋を切 る
265	875-300	57	56	60	
266	875-295	60	54	47	167坑を 切る
267	870-300	—	36	80	182坑を 切る
268	885-295	68	33	29	
269	860-305	—	41	20	
270	875-295	43	40	61	185坑に 切られる
271	880-295	34	31	32	212Pと 重複
272	875-295	—	58	28	192坑に 切られる
273	870-300	50	37	15	5埋に切 られる
274	875-295	45	33	24	275Pを切 る
275	875-295	53	—	41	167坑と 重複、 274Pに 切られる

2北区ピット

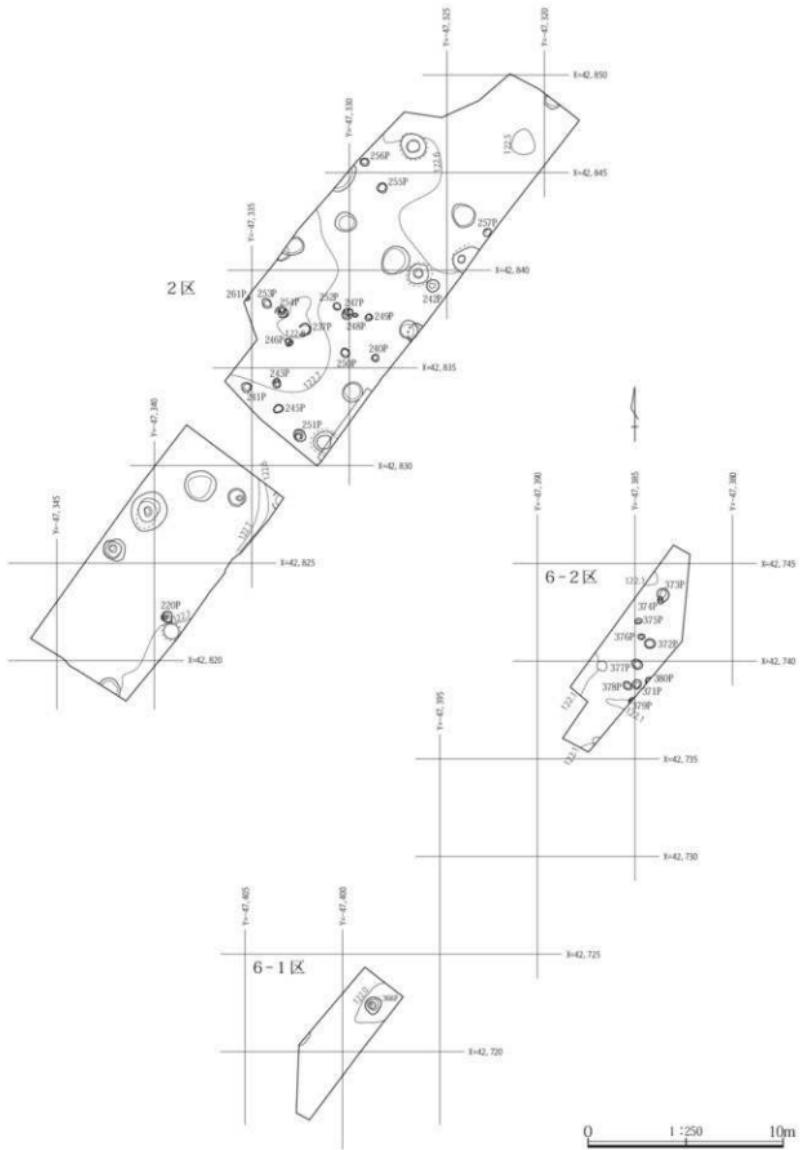
No.	位置	長径	短径	深さ	備考
220	820-335	60	58	23	
237	835-330	—	60	37	
240	835-325	36	36	19	
241	830-335	50	50	27	
242	835-325	65	63	79	
243	830-330	49	40	58	
245	830-330	50	41	15	
246	835-330	42	38	23	
247	835-330	56	50	60	
248	835-325	24	19	17	
249	830-325	37	32	19	
250	835-330	50	44	16	
251	830-330	68	58	56	
252	835-330	38	35	17	
253	830-330	55	43	25	
254	830-330	70	57	64	
255	840-325	51	50	17	
256	845-325	45	40	42	
257	840-320	43	35	87	
261	835-335	—	27	21	
7区ピット					
No.	位置	長径	短径	深さ	備考
381	845-300	23	23	14	
383	855-290	—	60	26	
385	855-290	26	23	17	
386	865-285	—	28	15	
387	865-285	—	29	26	
388	860-285	33	28	52	
389	860-285	—	26	39	
390	860-285	35	30	76	
391	860-285	—	27	17	
392	860-285	—	30	45	
393	860-285	34	32	72	
394	845-305	—	—	21	
395	860-290	—	45		5%と重複 257H、 306Pに切 られる
396	860-290	—	45	62	5%と重複 35Pを切 る
397	860-290	—	28	21	5%と重複
398	860-290	—	40	49	5%と重複
399	860-285	—	38	56	5%と重複
400	860-285	—	36	62	5%、40P と重複
401	860-285	—	31	48	5%、40P と重複
6区ピット					
No.	位置	長径	短径	深さ	備考
368	720-395	88	81	50	
371	735-380	47	42	20	
372	740-380	56	47	12	
373	740-380	59	—	14	37Pを切 る
374	740-380	37	27	22	37Pに切 られる
375	740-380	36	31	40	
376	740-380	35	30	8	
377	735-380	57	37	18	
378	735-385	51	40	16	
379	735-385	—	37	23	
380	735-380	—	39	20	



第111図 1北・1中区ピット全体図



第112図 1 南区・7 北区ピット全体図

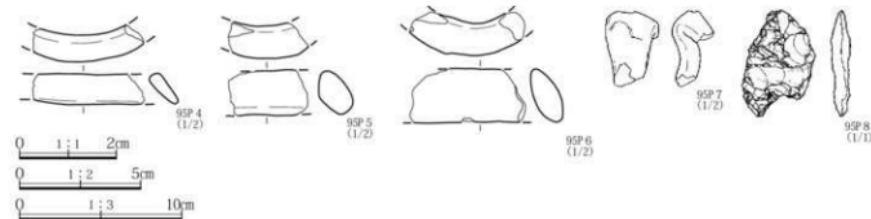
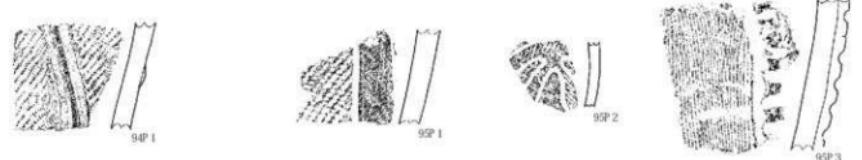
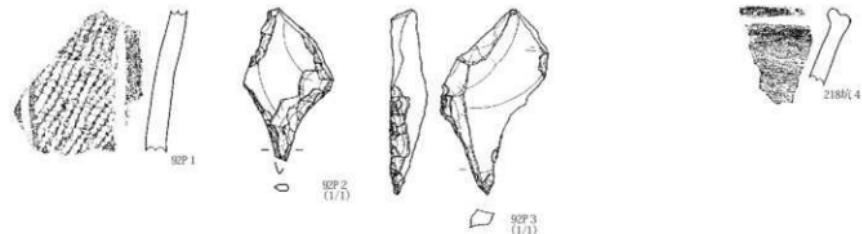


第113図 2区・6-1・6-2区ピット全体図

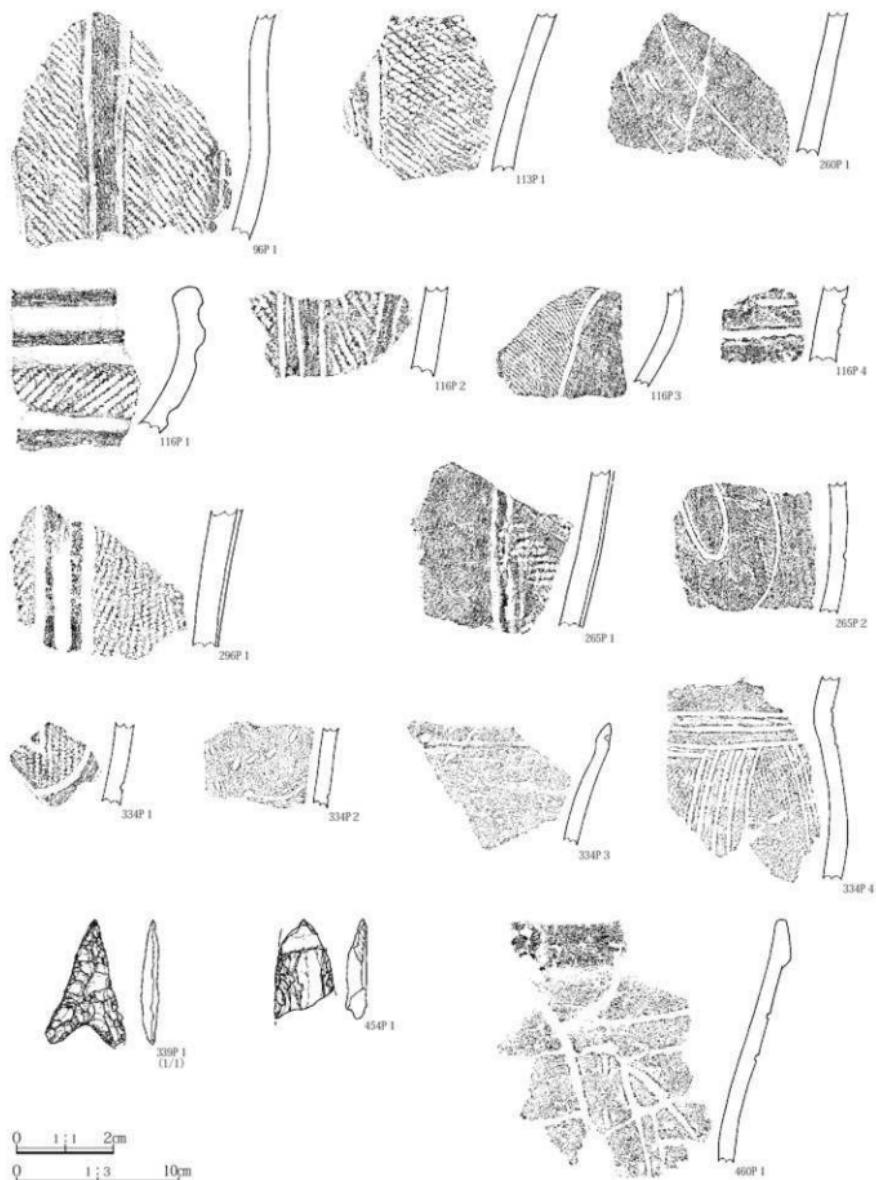
5区ピット



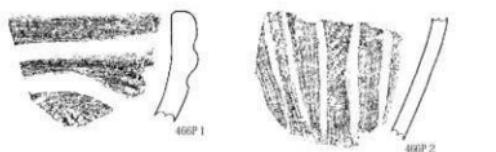
1区ピット



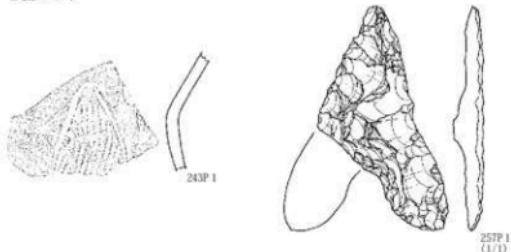
第114図 ピット出土遺物(1)



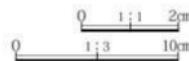
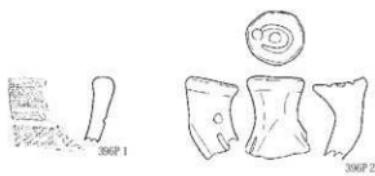
第115図 ピット出土遺物(2)



2区ピット



7北区ピット



第116図 ピット出土遺物(3)

第6節 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は、縄文時代の遺物包含層であるⅢ層から出土したものを主体とし、表土や中近世遺構の遺構内出土のものを含めて扱っている。

土器については、遺物収納箱59箱が出土した。内訳は5区6箱、1区35箱、2区9箱、3区1箱、4区1箱、7区5箱、6区2箱となる。1区の出土量が突出して多いが、前節までに見てきたとおり1南区で遺構が濃密に分布することに比例している。なお、1北・1中区はローム上面まで搅乱が及び、包含層が残っていなかったため、ほぼ1南区からの出土といえる。一方で3、4区の出土量が極端に少ない傾向がうかがえるが、これは包含層の掘り下げが甘いことが一因としてあげられよう。第165図断面H～Jを見れば一目瞭然である。3区は安定した包含層の堆積が認められている。4区は包含層の堆積が3区ほど厚くなかったが、やはり同様の理由を考えられよう。

時期別にみると、集落の存続期にあたる加曾利E2式～堀之内2式が主体となる。最も古いものでは早期後半期が1点見られ、ほかに前期末葉～中期初頭期、中期中葉期、加曾利B式がわずかだが見られる。また、5区・1区を中心に貝輪状や棒状、勾玉状など、さまざまな土製品が出土した。1・7区では、特殊な形の土製品が出土している(第130図183～185、第142図32など)。

石器は遺跡全体で477点が出土、うち遺構外出土石器は254点(53.2%)を数えた。遺構外出土の石器は剥片系石器199点(78.3%)・礫石器55点(21.7%)があり、剥片系石器が8割弱を占めた。剥片系石器では打製石斧が88点と最も多く、石鏃43点がこれに次ぐ。加工工具と目される削器は3点と少量しかないが、これは刃部加工の連続性や安定性を重視してやや厳しく器種認定したためである。実際、加工痕ある剥片としたものは50点があり、ホルンフェルス製のもの(28点)が打製石斧の製作関連資料、チャート製のもの(11点)が削器類の関連資料になる。本遺跡の場合、チャートは石鏃等小形石器の素材であり、剥片類(465点、36.3%)も多く出土しており、集落内で石鏃等狩猟具が製作されたことがわかる。チャート製の加工石器は、剥片端部や側縁など剥片形状を巧く取り込

んで、エッジを形状修正的に加工して刃部としたものが通例である。削器は便宜的石器とされる典型例で、定型化したそれは石匙などに限られ、大多数は剥片剥離過程で生じる剥片類から形状の良好なものを選んで限定的、便宜的に刃部加工して使用されたものと思われる。

礫石器類は製粉具類(凹石・磨石類27点、石皿5点)を主体としているが、わずかばかりの漁労具(石鍤3点)もあり、どの程度依存したのか不明だが、渡良瀬川を舞台に漁労活動が行われたことが確実である。このほか、礫石器には磨製石斧や石製品製作関連で使われた砥石4点、多孔石8点や丸石1点などがあり、裝身具類こそ確認できていないが、縄文時代中期後葉から後期前葉集落の道具立て全般が見て取れる。

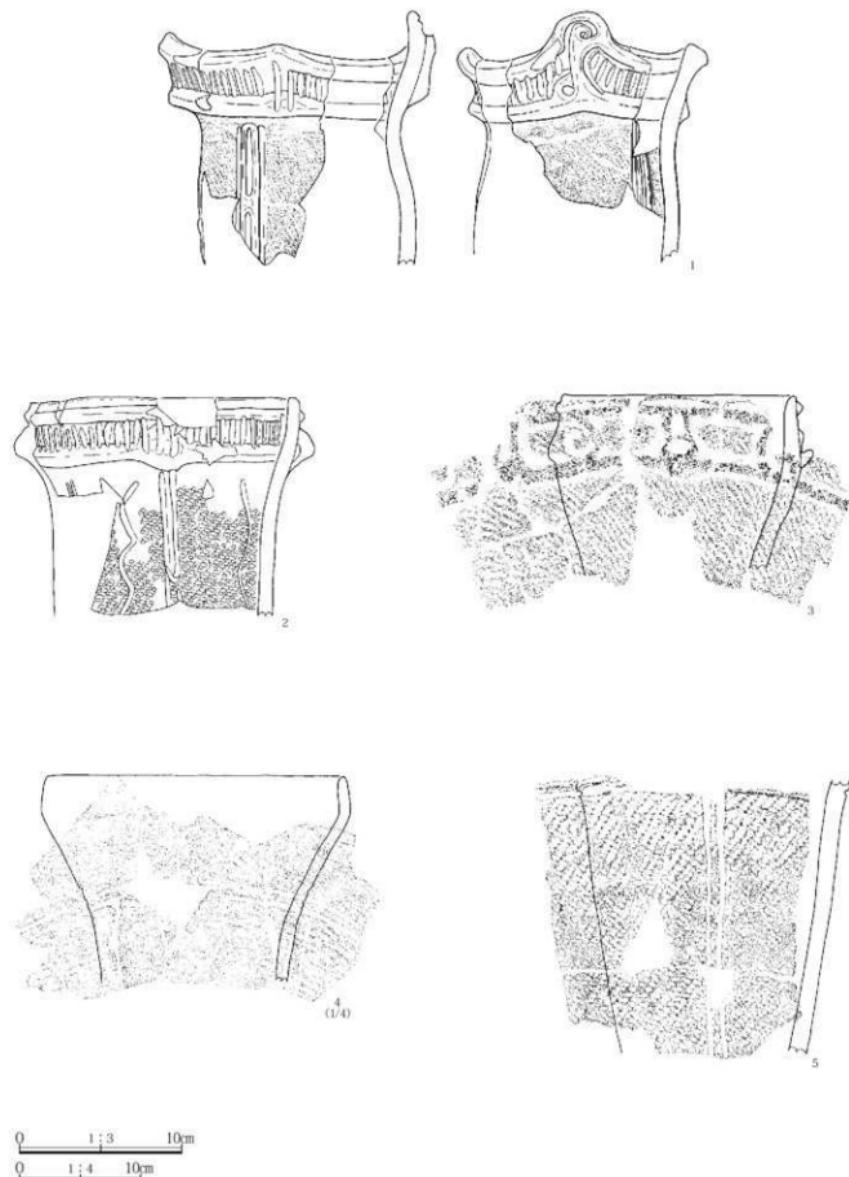
以上の石器類の他に、1280点(21,932.6g)の剥片類が出土した。剥片類は遺構出土のものが395点(30.9%)、遺構外出土のものが885点(69.1%)ほどあり、剥片類全体の7割弱を占める。遺構外出土石器の器種・石材構成は225頁のとおりであるが、このデータを通じ読み取れるのは在地石材(チャート、ホルンフェルス)主体の石器製作と、黒曜石・黒色頁岩・黒色安山岩の部分的な石器製作である。本遺跡では黒曜石製剥片類は見られないが、在地以外の石材として黒色頁岩63点(4.9%)、黒色安山岩52点(4.1%)を用いた加工工具類(削器や加工痕ある剥片)や石核が出土しており、上記石材2種を用いた少量の石器製作が遺跡内で行われたものと見られる。こうした傾向は遺構出土石器の場合も同様である。



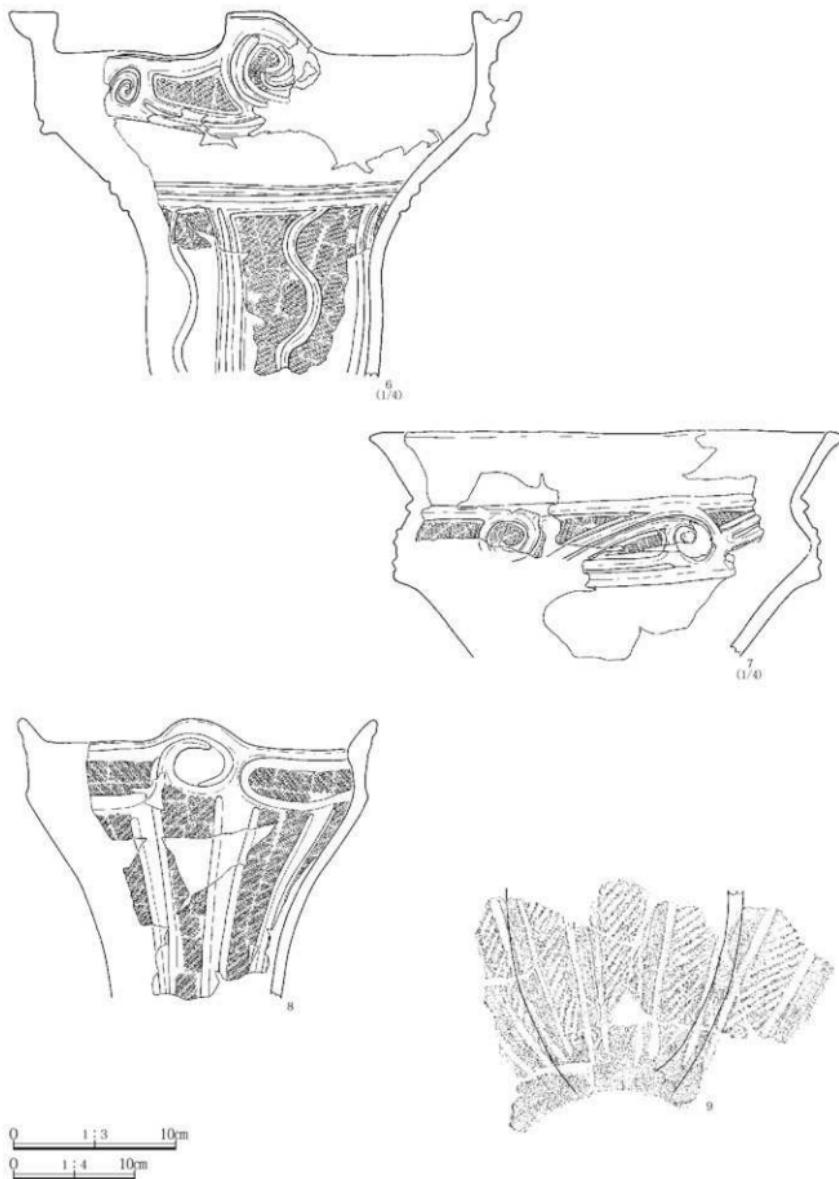
第117図 5区遺構外出土遺物(1)



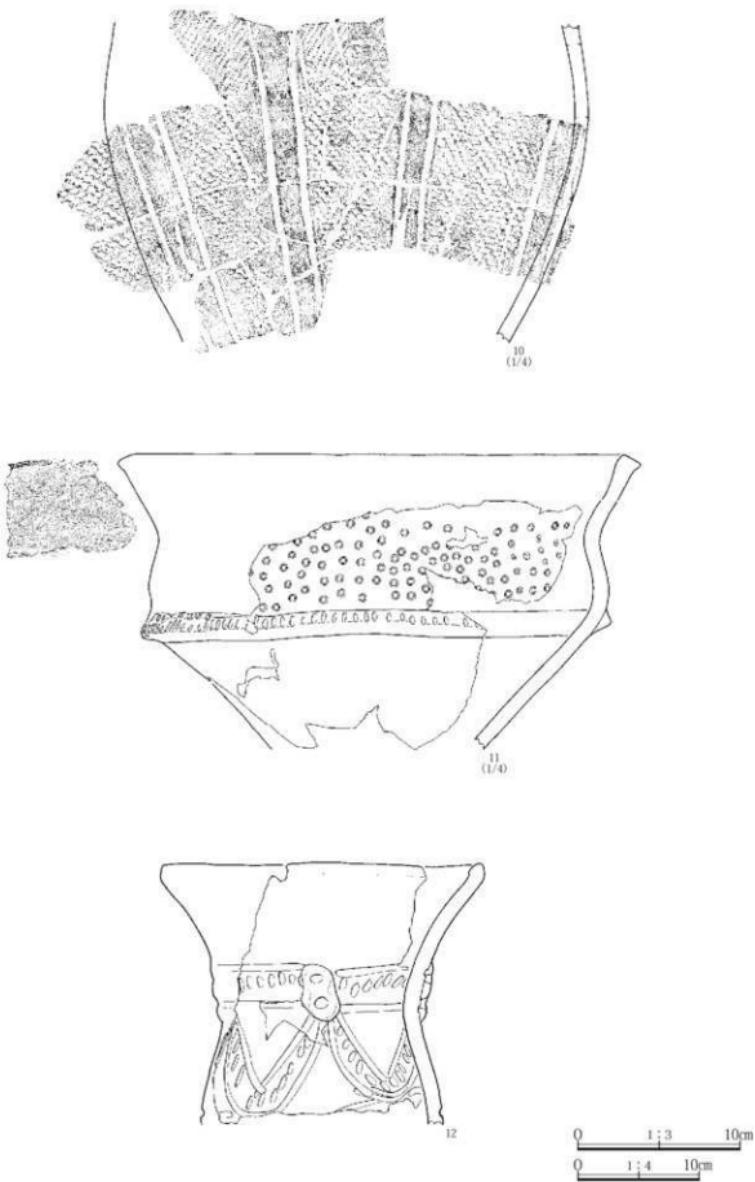
第118圖 5區遺構外出土遺物(2)



第119図 1区遺構外出土遺物(1)



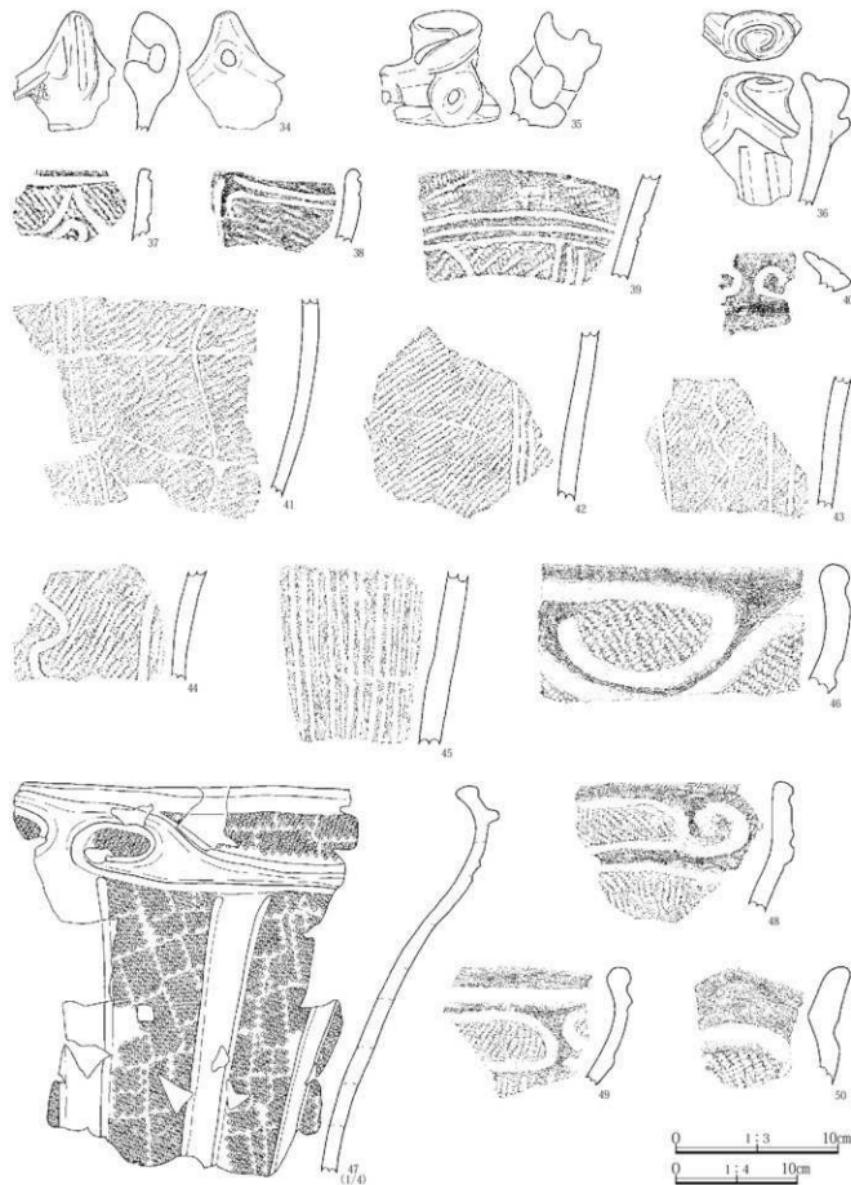
第120圖 1区遺構外出土遺物(2)



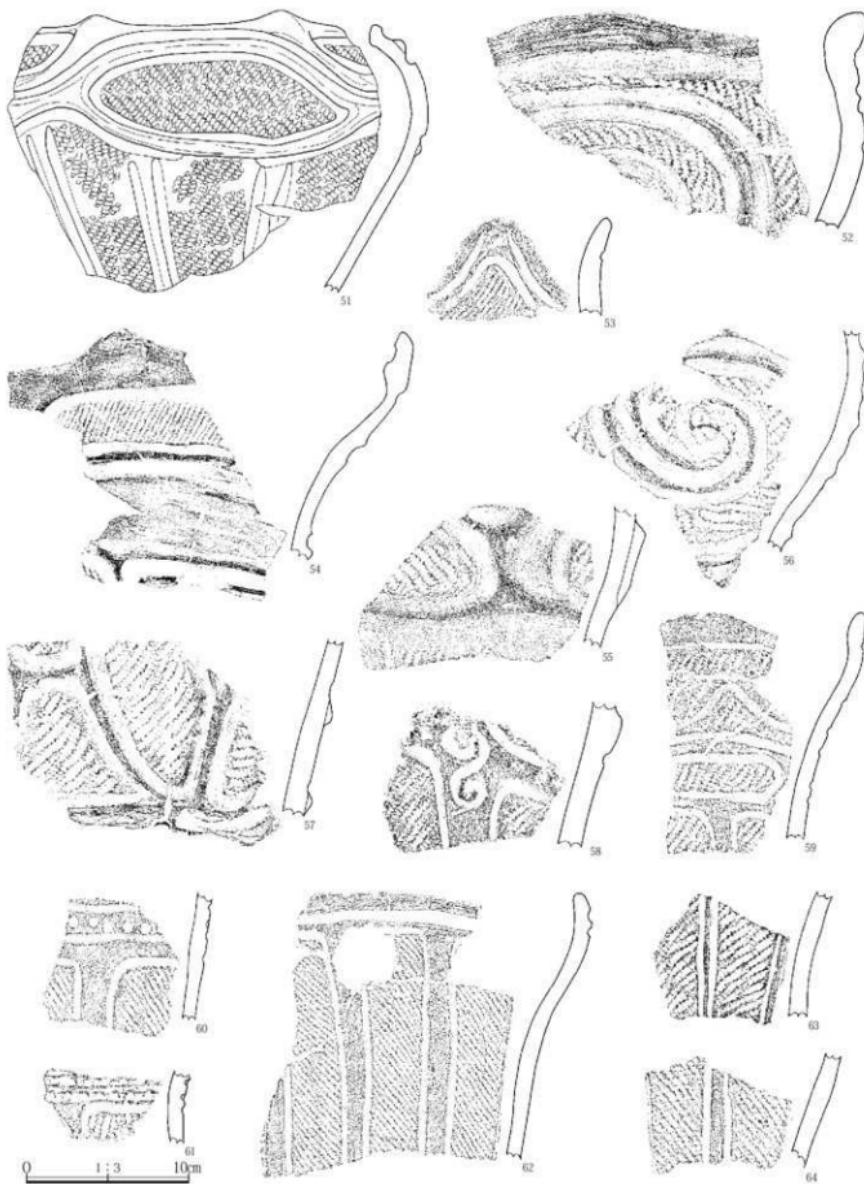
第121図 1区遺構外出土遺物(3)



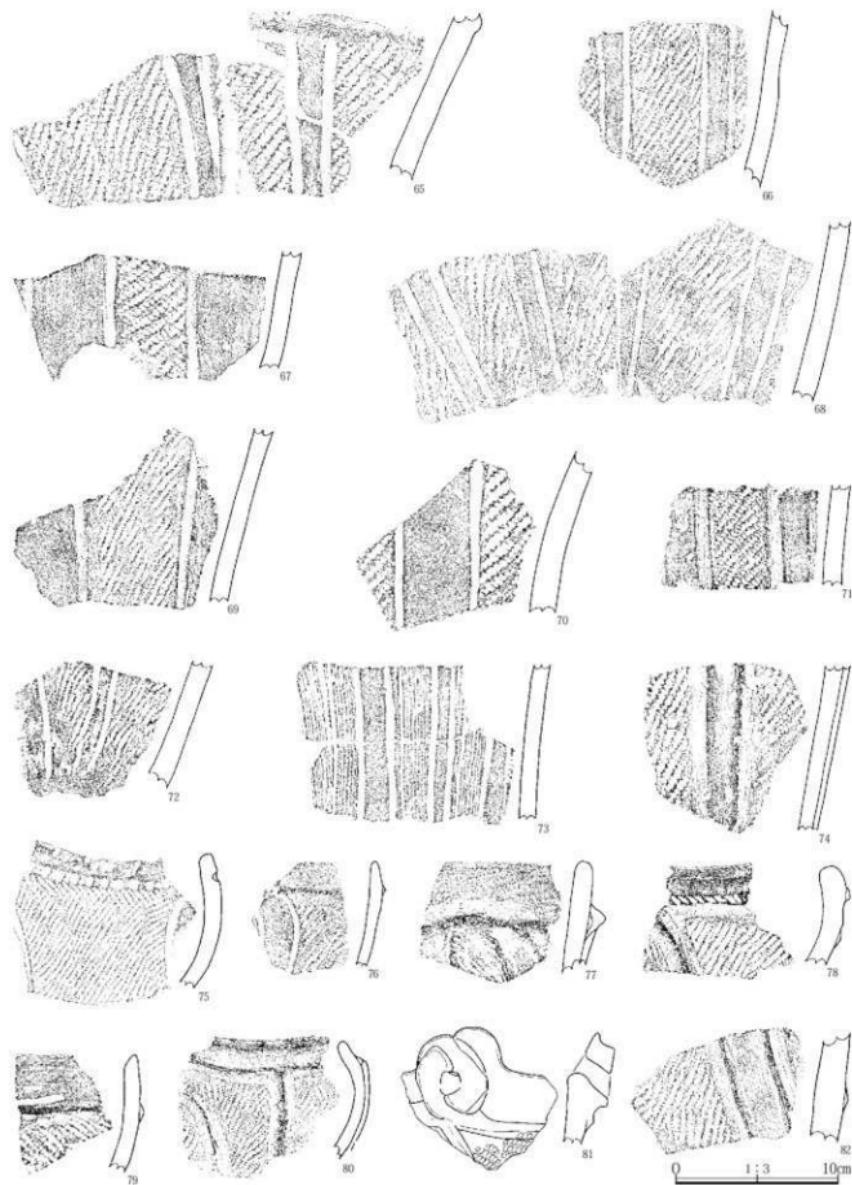
第122圖 1区遺構外出土遺物(4)



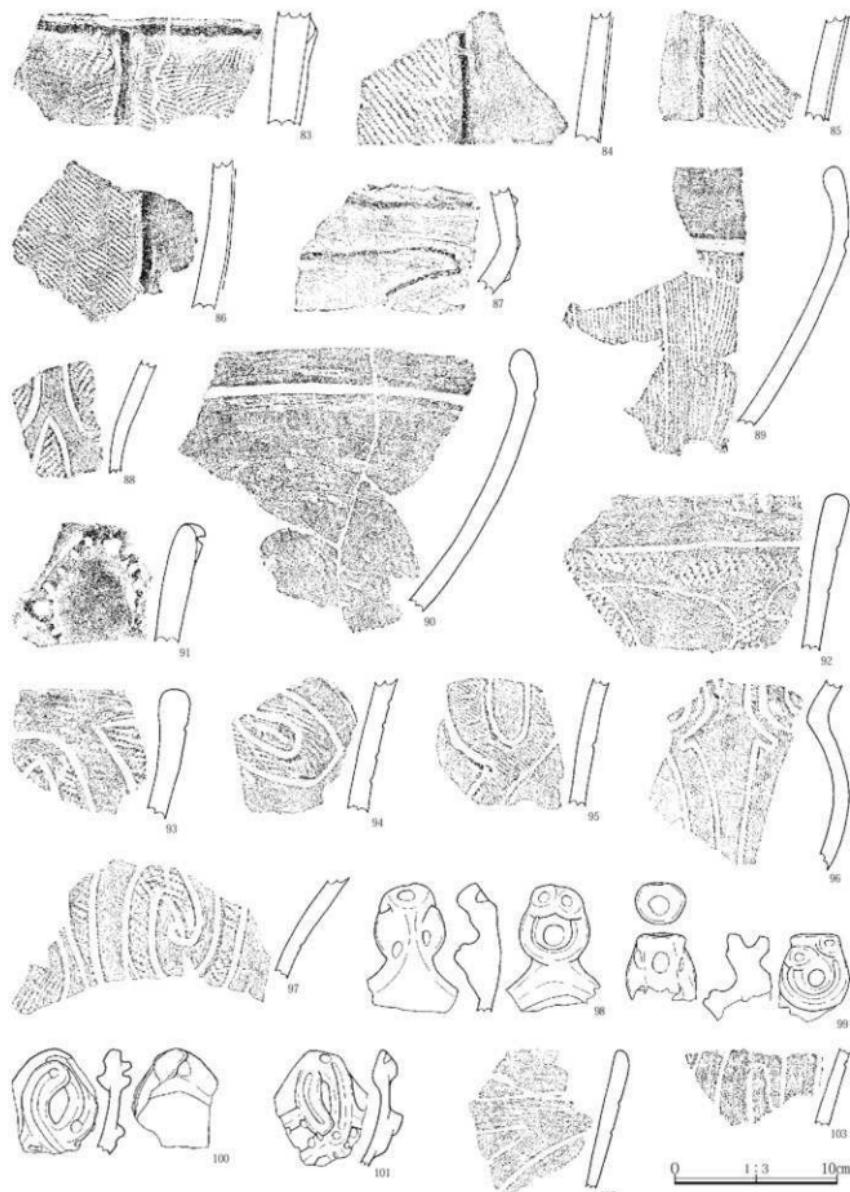
第123図 1区遺構外出土遺物(5)



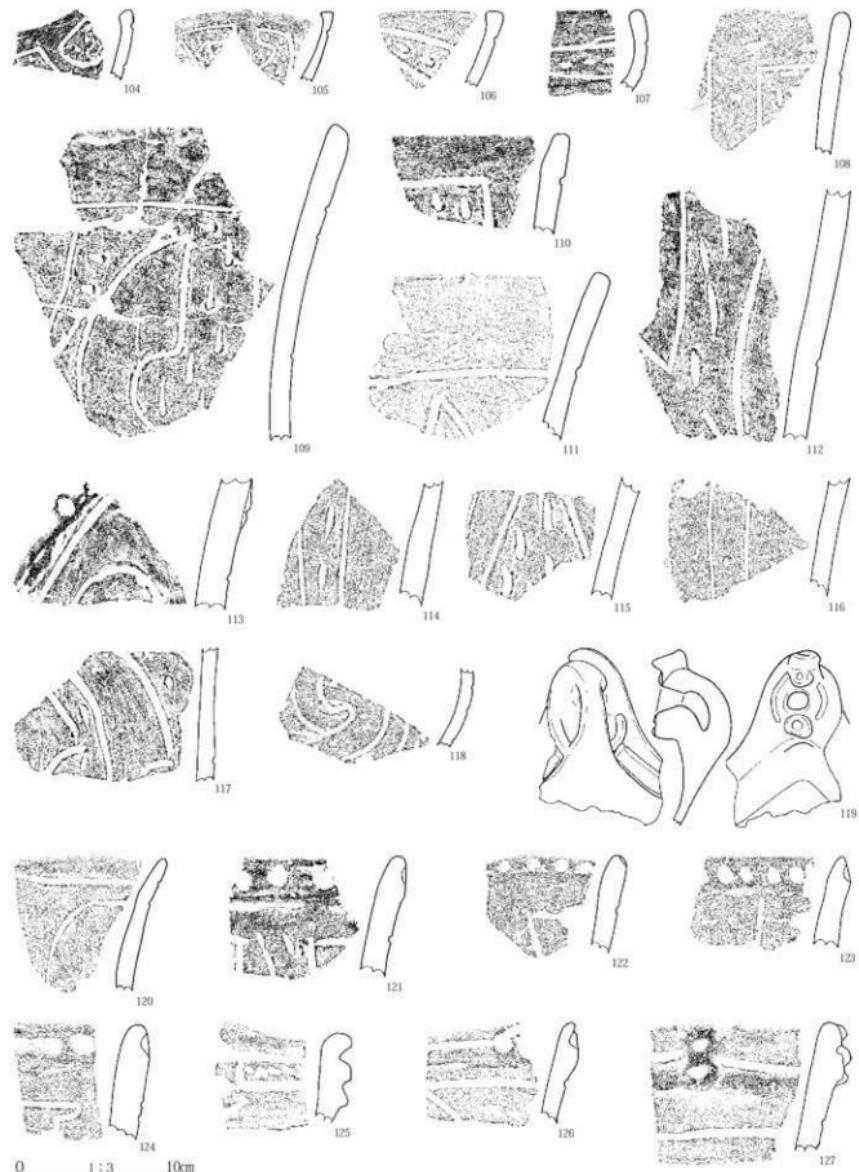
第124圖 1區遺構外出土遺物(6)



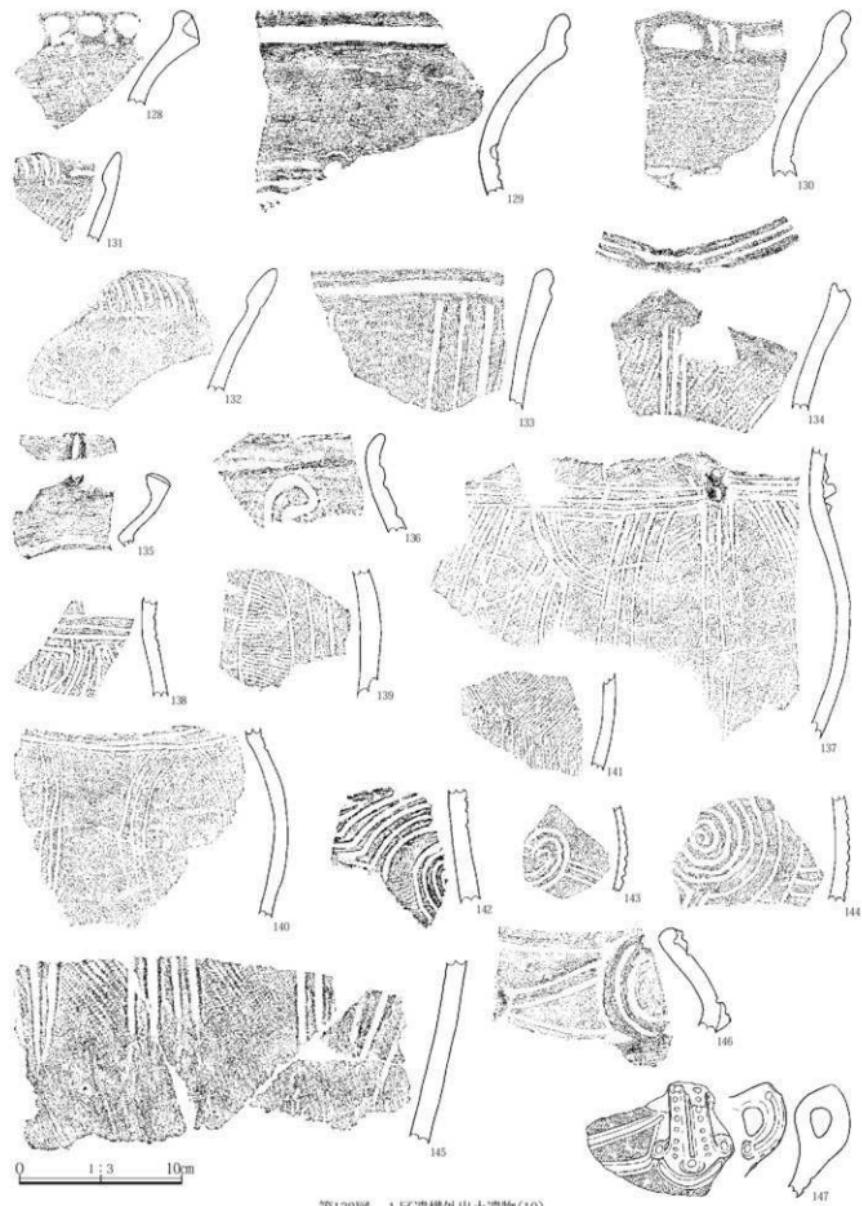
第125図 1区遺構外出土遺物(7)



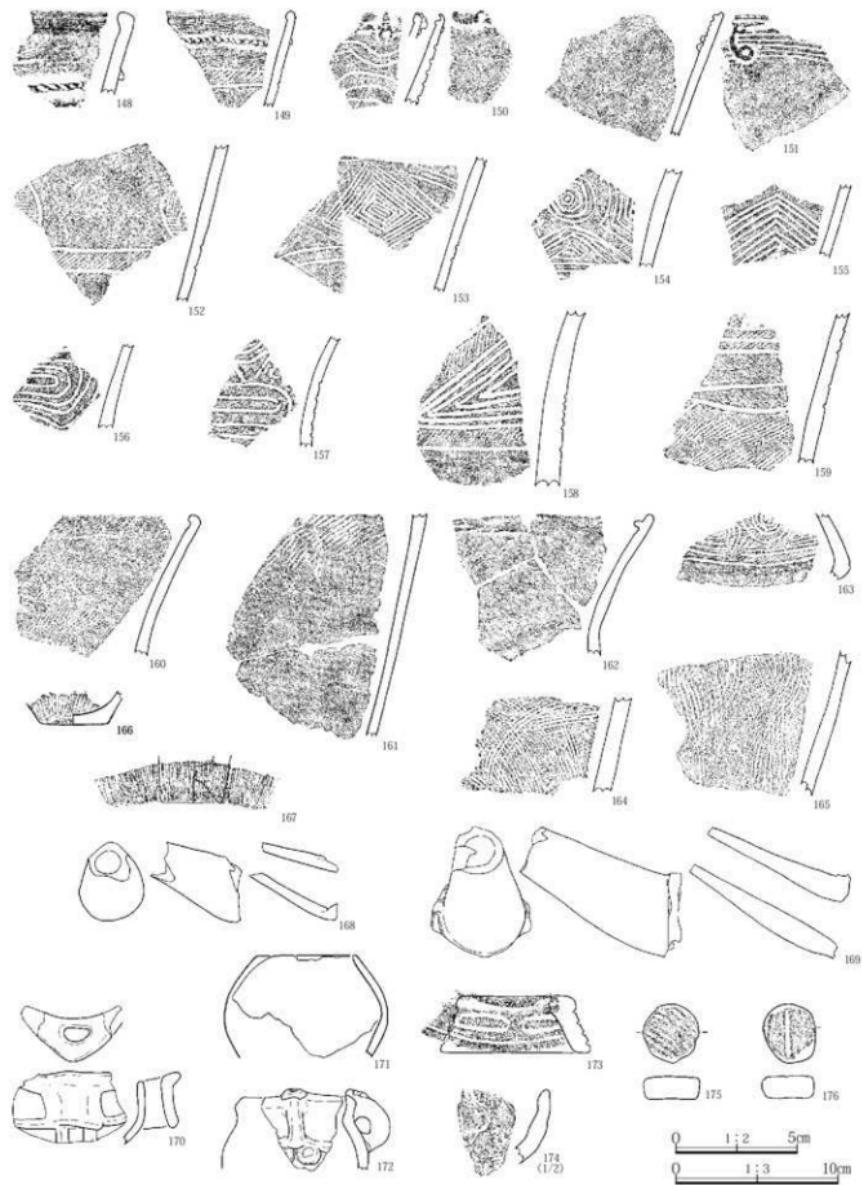
第126圖 1區遺構外出土遺物(8)



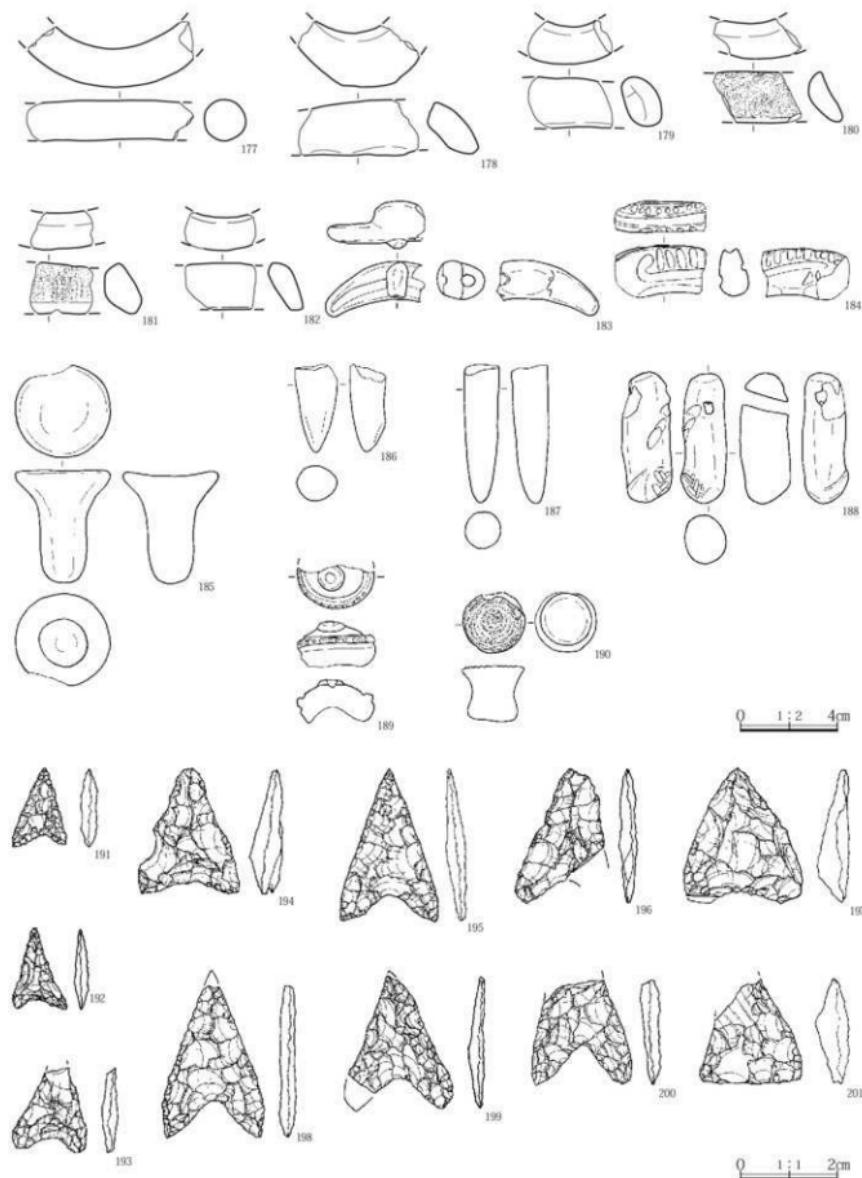
第127図 1区遺構外出土遺物(9)



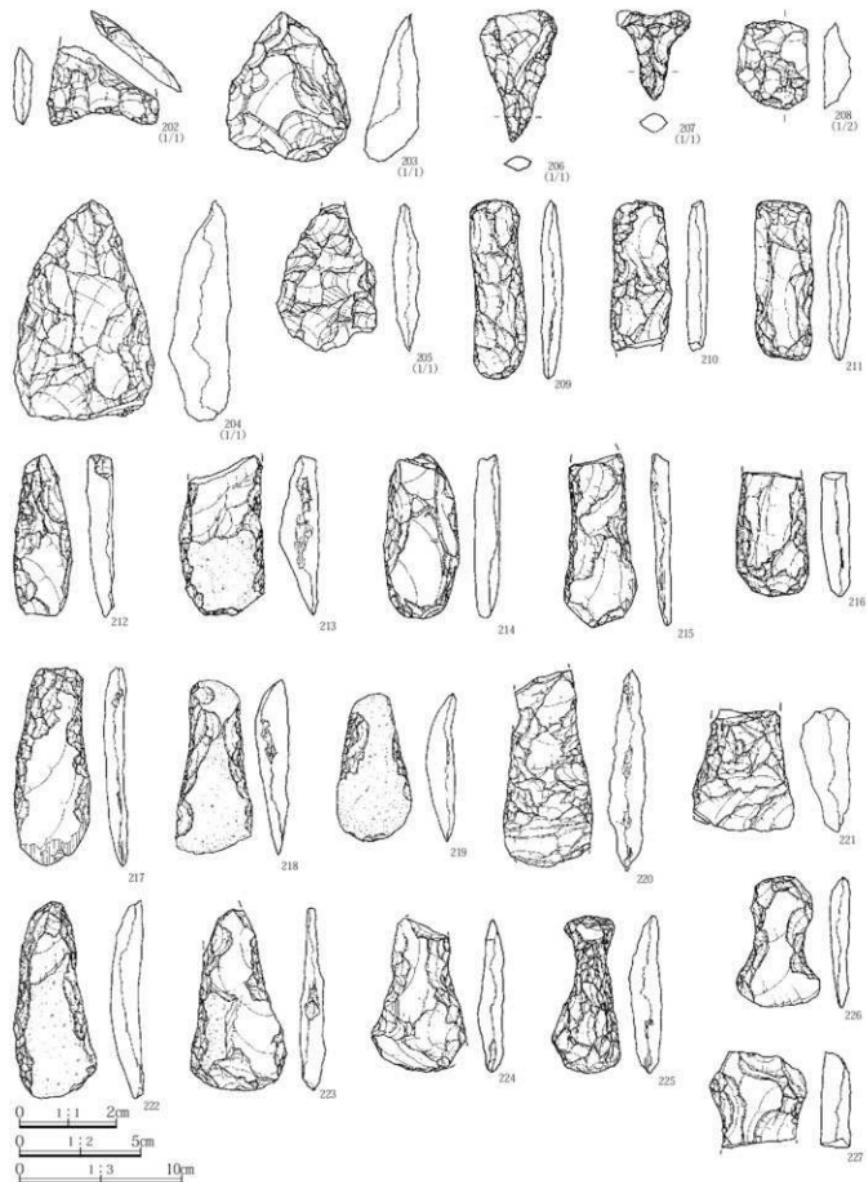
第128圖 1區遺構外出土遺物(10)



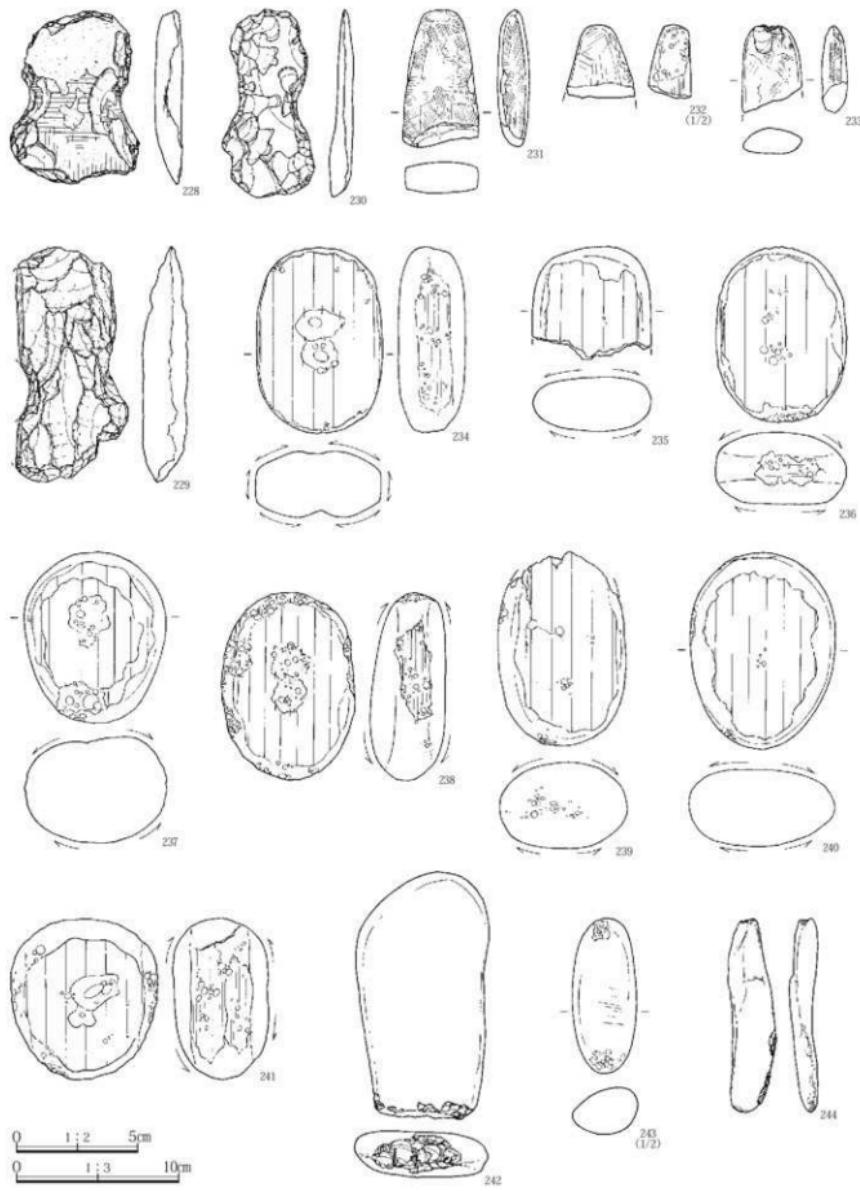
第129図 1区遺構外出土遺物(11)



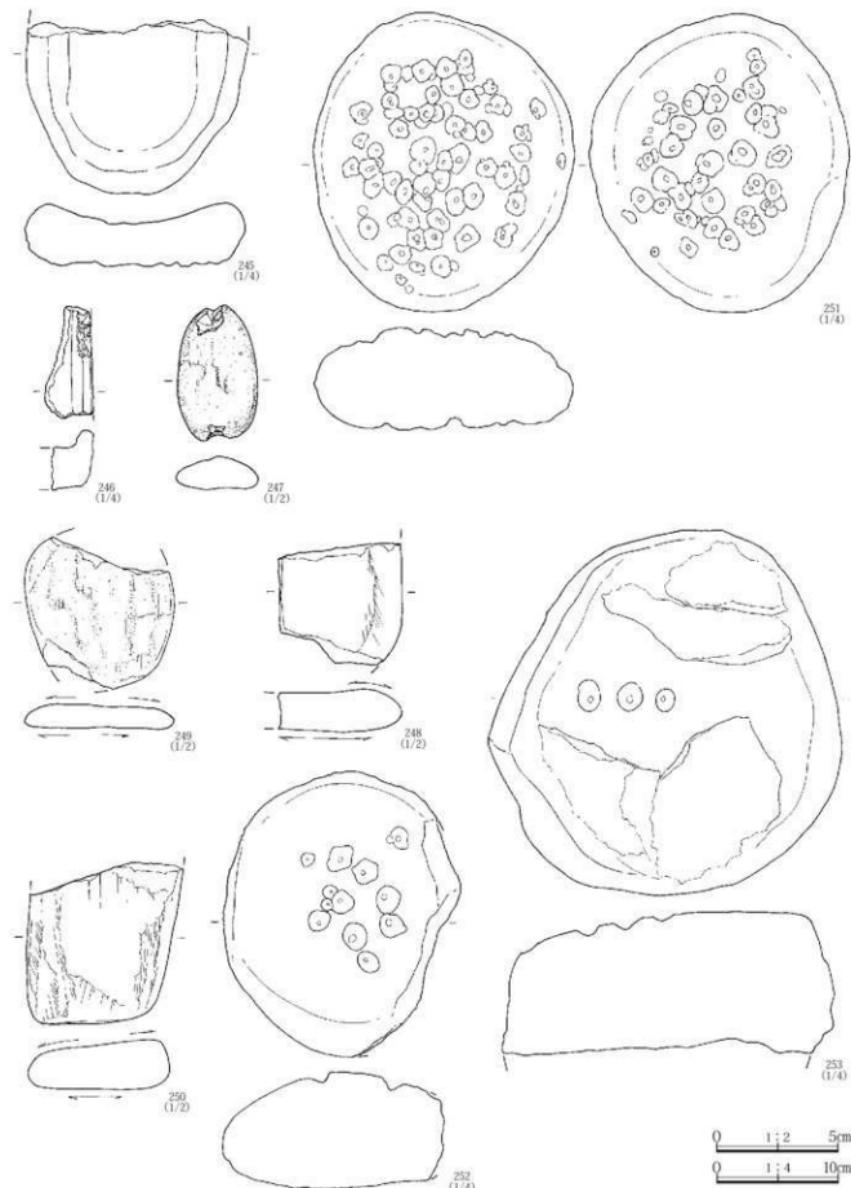
第130圖 1區遺構外出土遺物(12)



第131図 1区遺構外出土遺物(13)



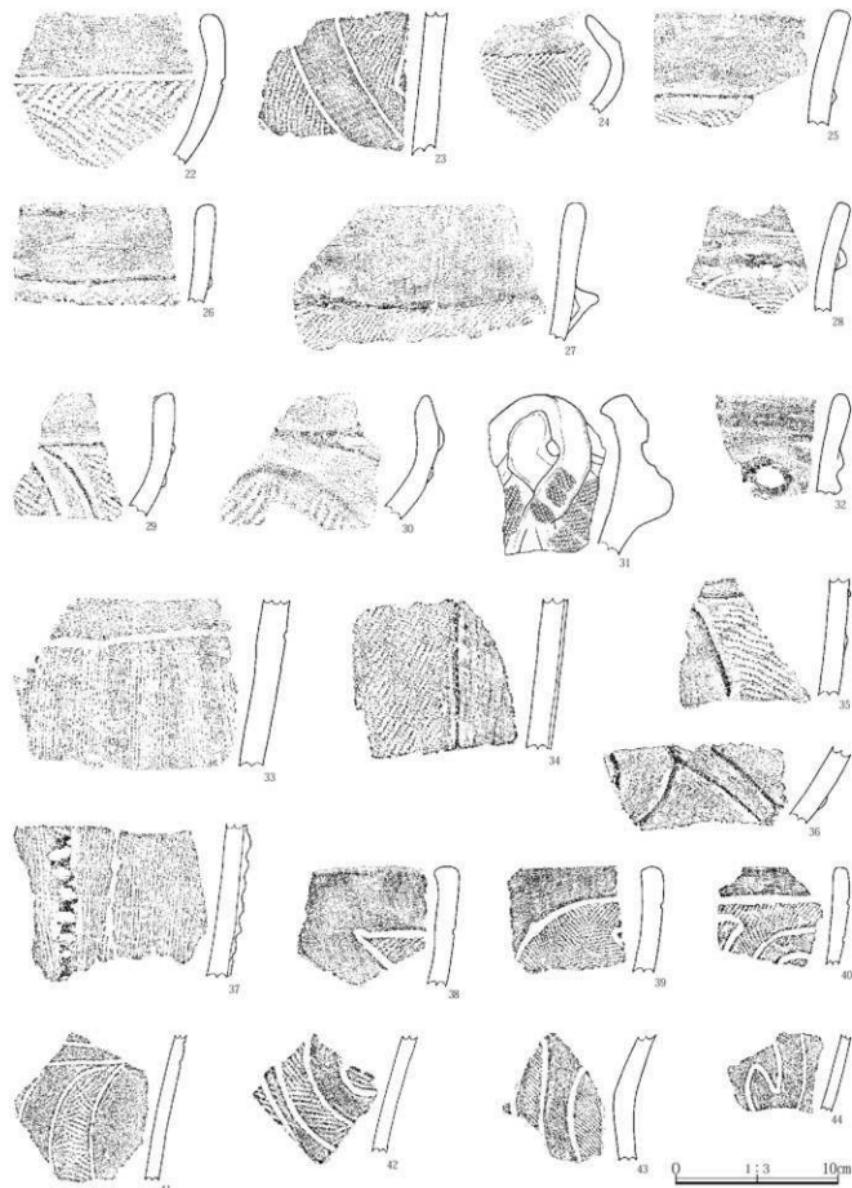
第132図 1区遺構外出土遺物(14)



第133図 1区遺構外出土遺物(15)



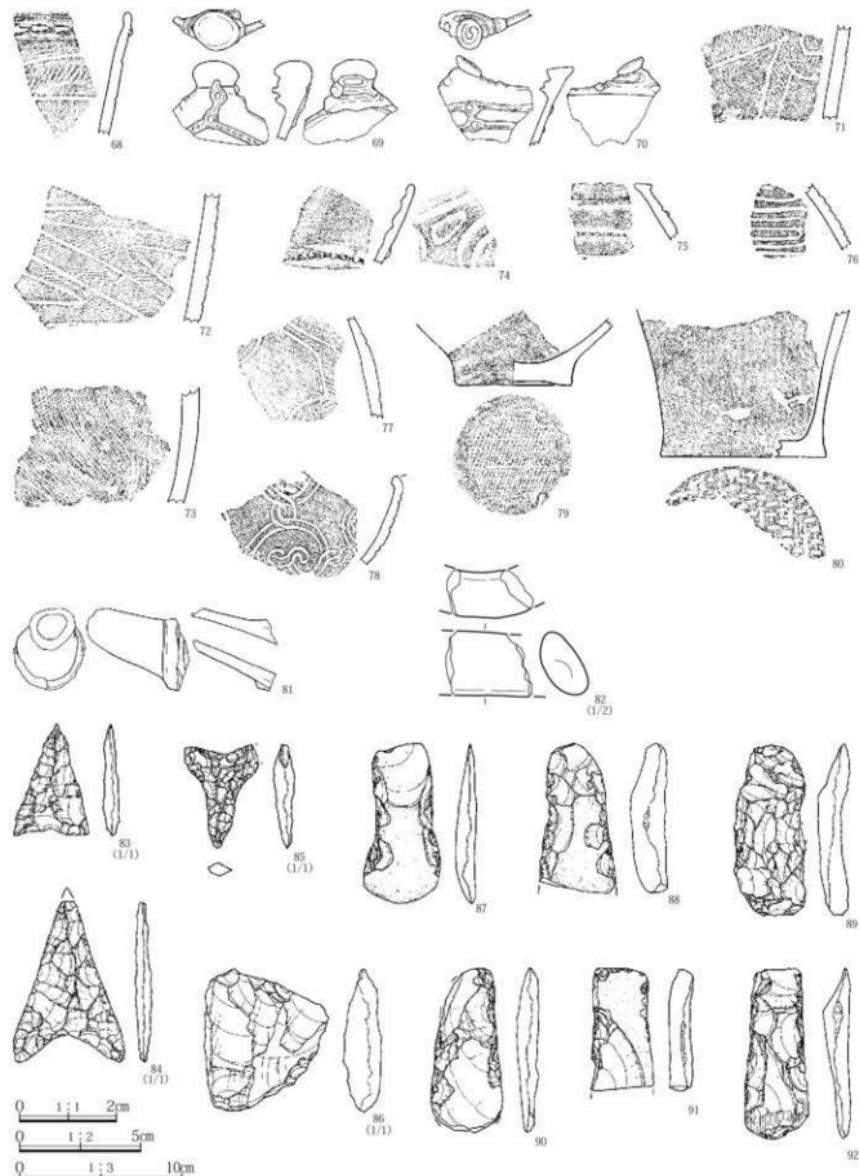
第134圖 2區遺構外出土遺物(1)



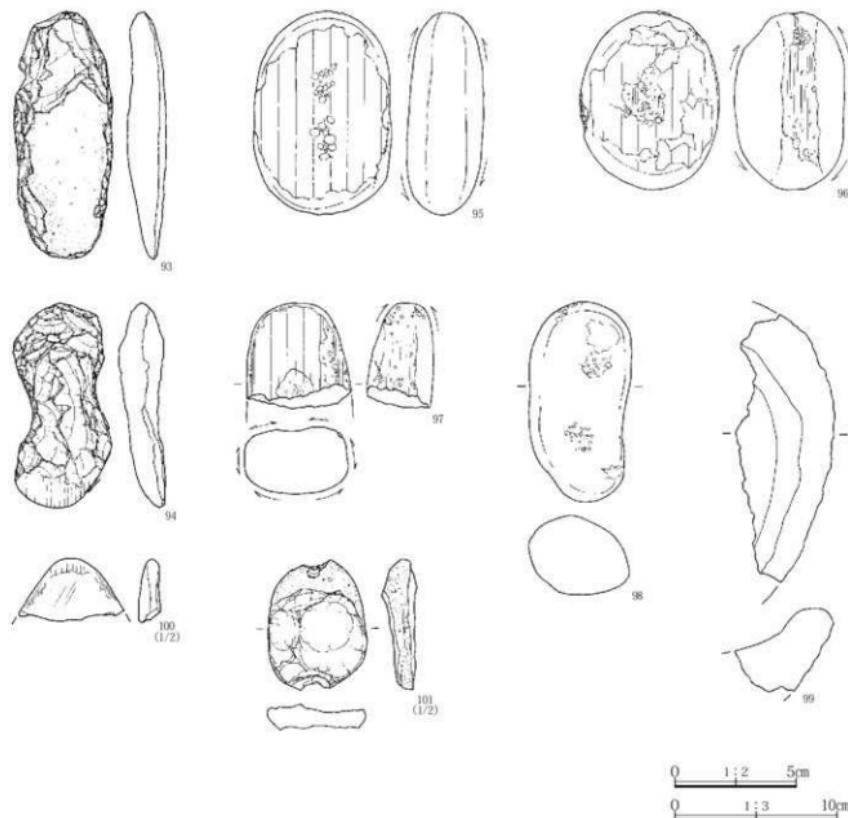
第135図 2区遺構外出土遺物(2)



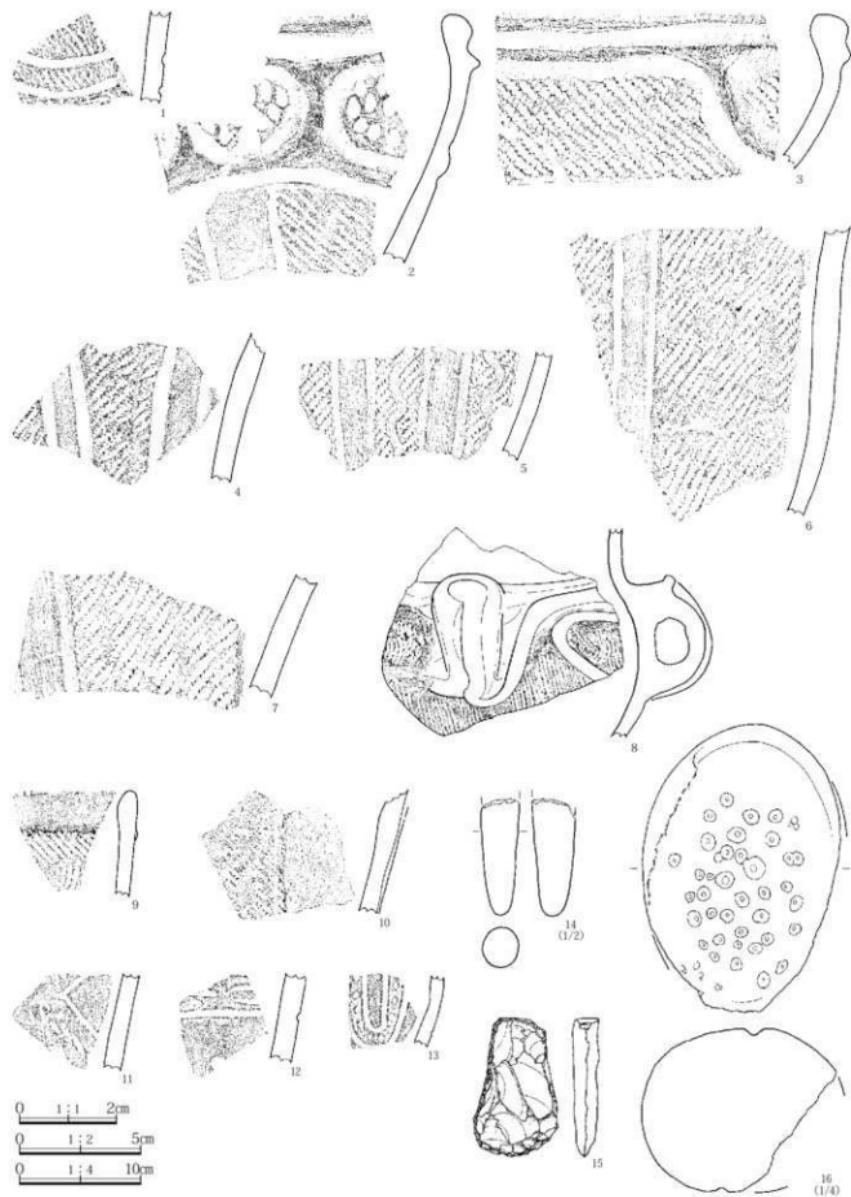
第136圖 2區遺構外出土遺物(3)



第137図 2区遺構外出土遺物(4)

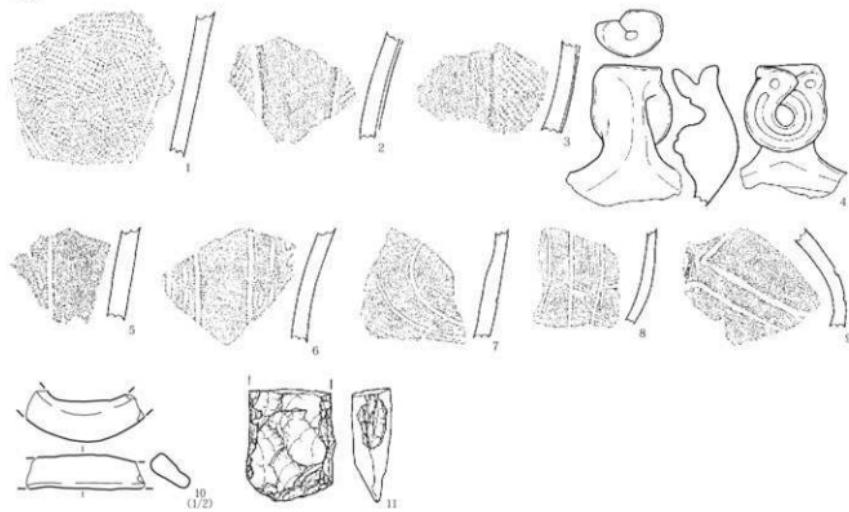


第138図 2区遺構外出土遺物(5)

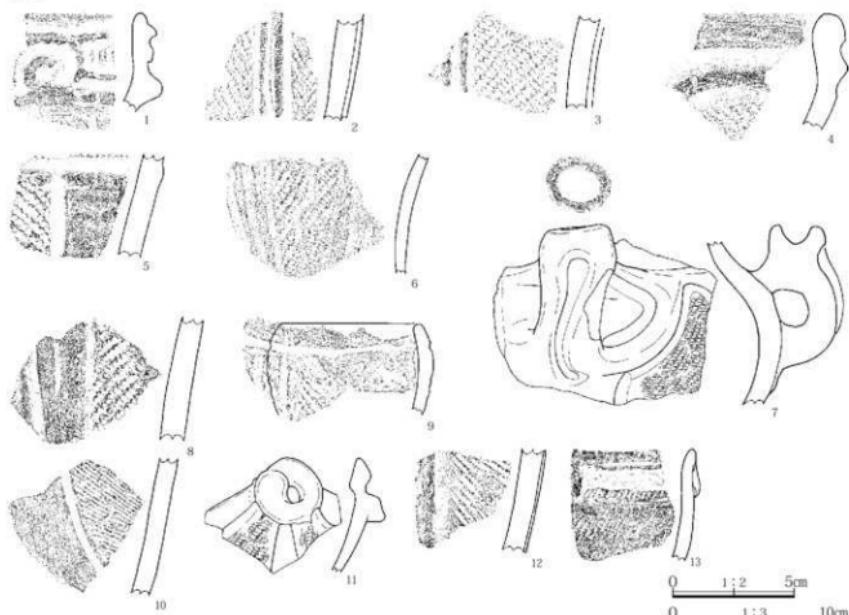


第139図 3区遺構外出土遺物

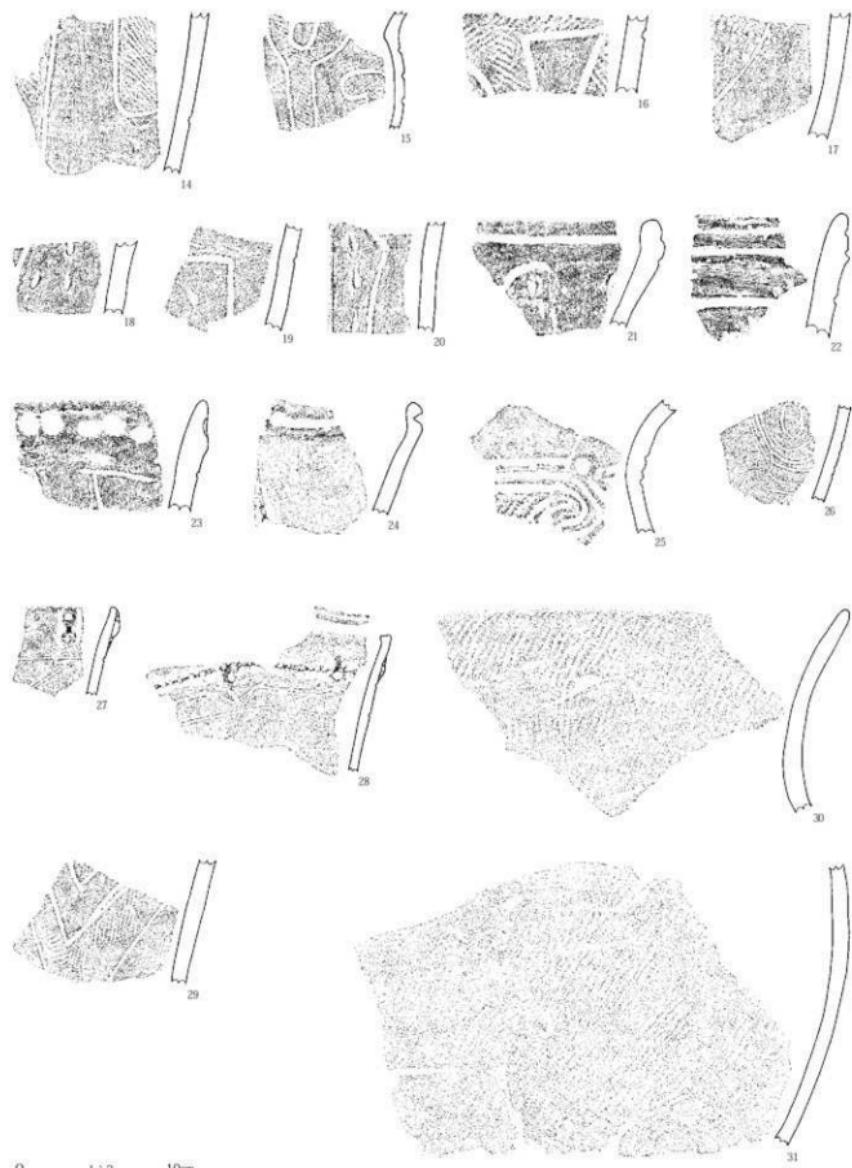
4区



7区



第140図 4区・7区遺構外出土遺物(1)

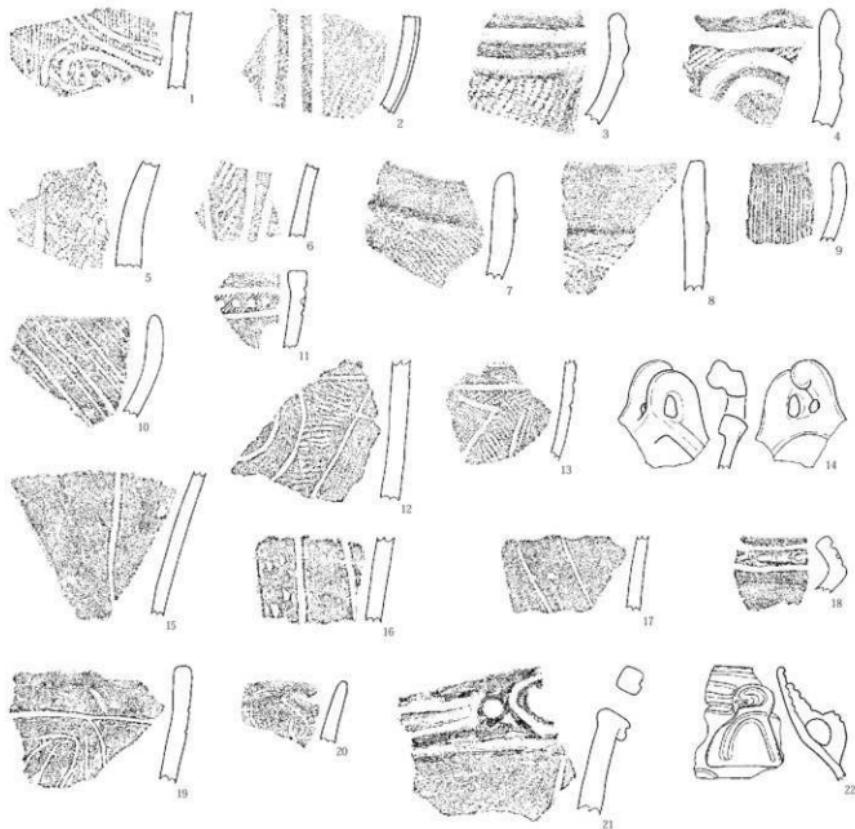


第141図 7区遺構外出土遺物(2)

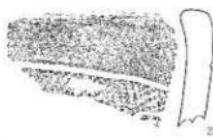


第142図 7区遺構外出土遺物(3)

6-5区



6-4区



6-2区



0 1:3 10cm

第143図 6区遺構外出土遺物

第3章 古代以降・旧石器時代の調査

第1節 古代の調査

1 概要

古代の遺構は竪穴建物1棟、土坑3基が検出されている。すべて1中区北端での検出で、小範囲にまとまっている。年代は9世紀代に属する。遺跡全体での出土遺物は少なく、遺構・遺構外含めても遺物収納箱0.5箱程度であるが、3、4区を除く各区に広範囲にわたって小破片が少量ずつ出土している状況が見られる。

2 竪穴建物

●1号竪穴建物

位置 1中区北東隅の915-260グリッドで検出。

規模 建物の南西角が一部確認されたのみであるため、全容や規模は不明。主軸は概ね東西方向と見られる。深さは18cmを測る。
床面 若干凹凸が見られるが、概ね平坦である。幅10cm、深さ5cm程の周溝がめぐる。

竈 検出されなかった。

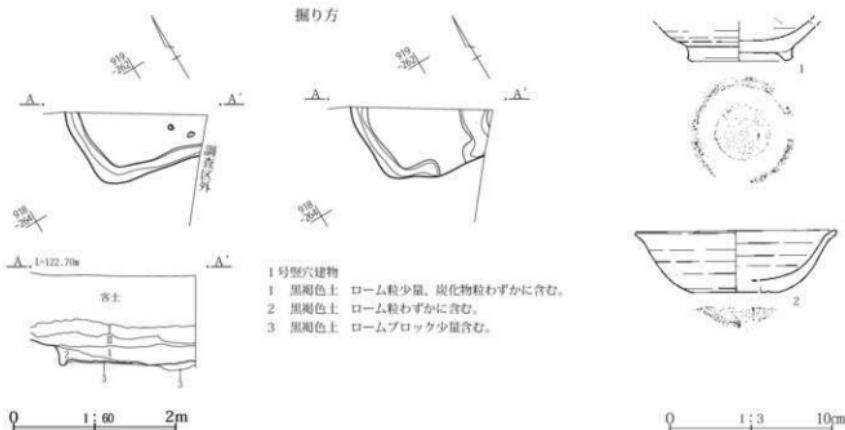


第144図 古代遺構全体図

柱穴 検出されなかった。

遺物 床面で挽2点(1, 2)が出土。他は土師器壺の小破片が6点、須恵器壺の小破片が1点出土したのみである。

時期 9世紀後半。



第145図 1号竪穴建物

3 土坑

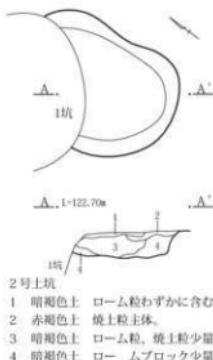
●2号土坑

1中区北端の920-265グリッドで検出。南北方向に主軸をもつ楕円形状の土坑だが、北西部が中近世の1号土坑に壊されているため、全容、長径は不明である。短径100cm、深さ21cmを測る。埋土に焼土を含んでいる。時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

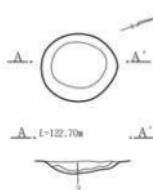
●3号土坑

1中区北端の915-265グリッドで検出。長径62cm、短

2号土坑



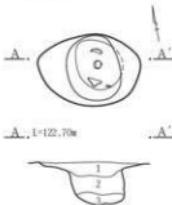
3号土坑



3号土坑

1 暗褐色土 焼土粒多く含む。
2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

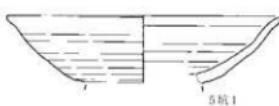
5号土坑



5号土坑

1 暗褐色土 焼土粒多く含む。
2 暗褐色土 ローム粒、焼土粒少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒少量含む。

0 1:40 1m



第146図 土坑

0 1:3 10cm

4 遺構外出土遺物

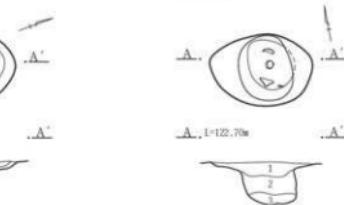
遺構外出土遺物は表土やII層、中近世の土坑や溝等から出土したものである。出土量は少なく、またほとんどが小破片であったため、掲載しうる遺物は右の2点のみである。3、4区は当該期の出土を見ないが、それ以外の各区では少量ずつだが小破片が出土しており、量は少ないものの比較的広範囲に分布する様子が見られる。

径55cm、深さ10cmの平面楕円形、断面皿状の土坑である。埋土に焼土を含んでいる。出土遺物が土師器甕の小破片2点のみのため時期は不明だが、2、5号と同時期と考えるのが妥当であろう。

●5号土坑

1中区北端の915-265グリッドで検出。開口部は長径83cm、短径58cmの楕円形を呈すが、浅く皿状に掘り込み、さらに中央部を深く掘り込む2段構造となる。深さ35cmを測る。埋土に焼土を含んでいる。時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

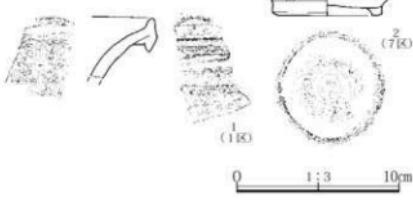
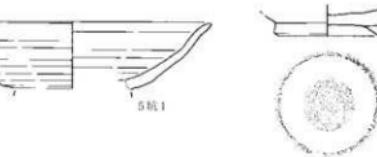
5号土坑



5号土坑

1 暗褐色土 焼土粒多く含む。
2 暗褐色土 ローム粒、焼土粒少量含む。
3 暗褐色土 ローム粒少量含む。

0 1:40 1m

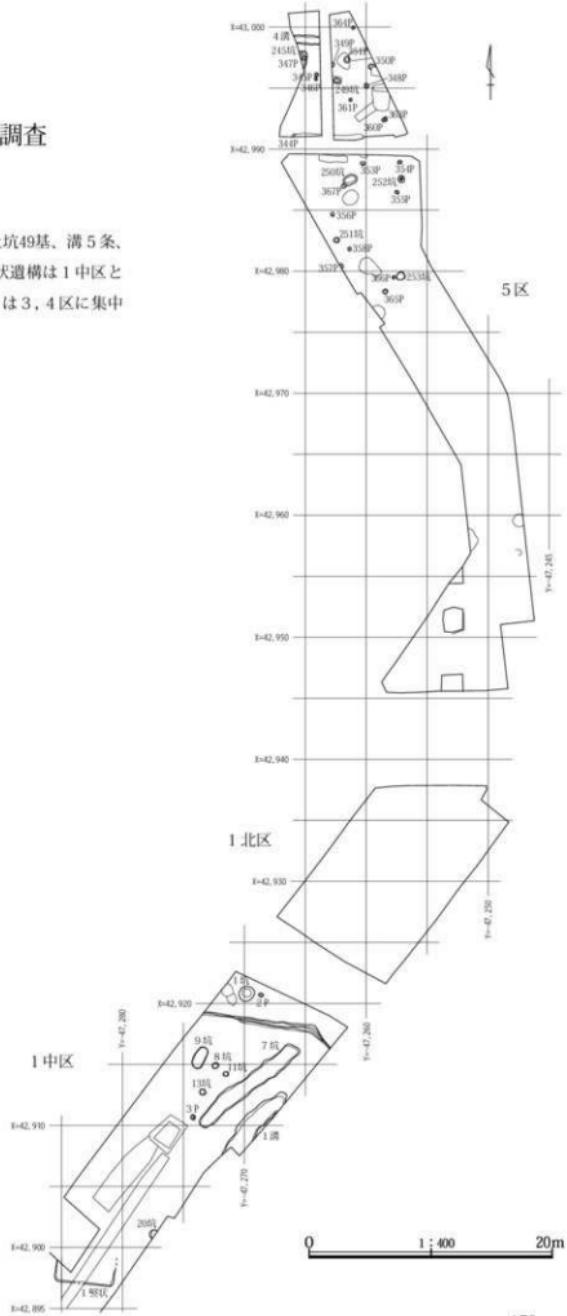


第147図 遺構外出土遺物

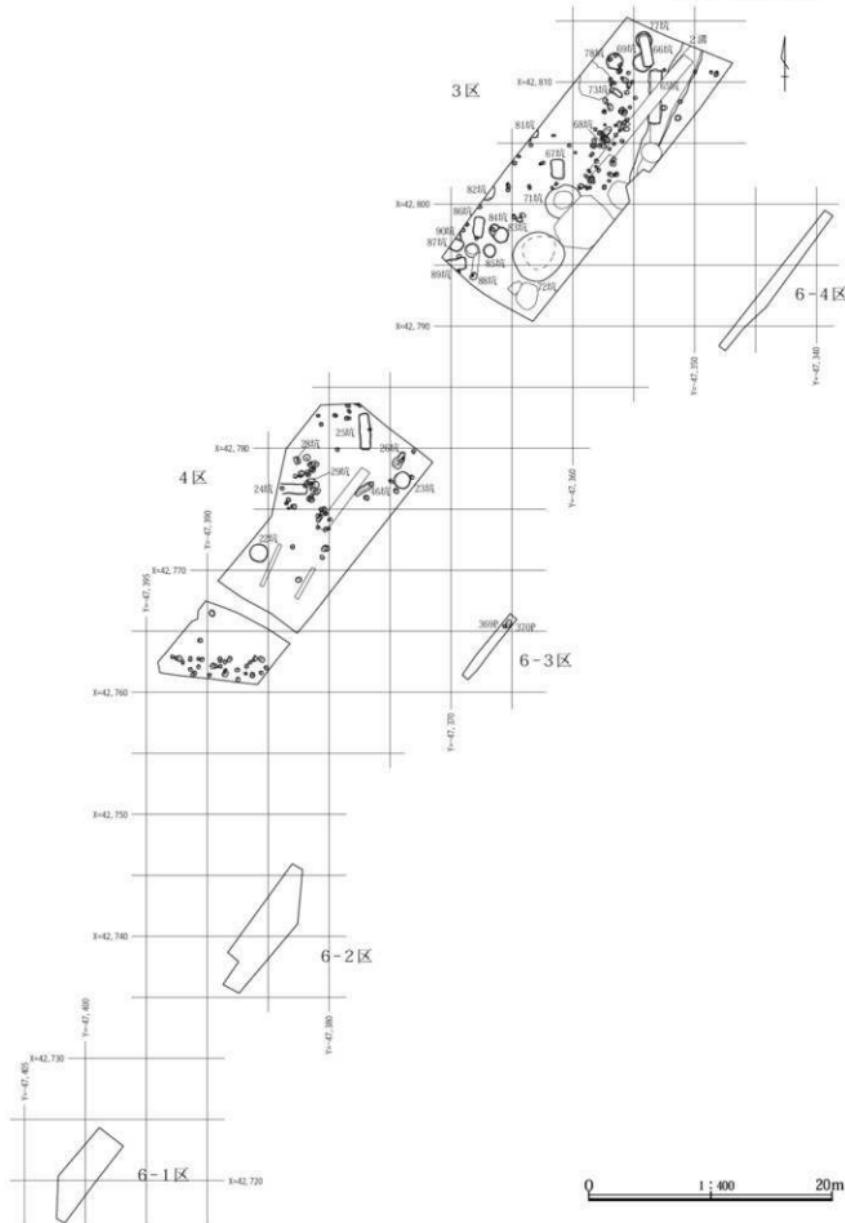
第2節 中近世の調査

1 概要

中近世の遺構は堅穴状遺構1棟、土坑49基、溝5条、ビット249基が検出されている。堅穴状遺構は1中区と1南区の中間点で検出、土坑・ビットは3, 4区に集中する傾向が見られる。



第148図 5・1北・1中区中近世遺構全体図



第150図 3・4・6-1~4区中近世遺構全体図

2 竪穴状遺構

● 1号竪穴状遺構

位置 1中区と1南区の中間地点にあたる895-280グリッドで検出。

規模 南部が確認されたのみのため全容は不明だが、正方形形状ないし長方形形状を呈すと思われる。主軸は概ね南北方向であり、東西辺は4.86m、現状の深さ25cmを測る。

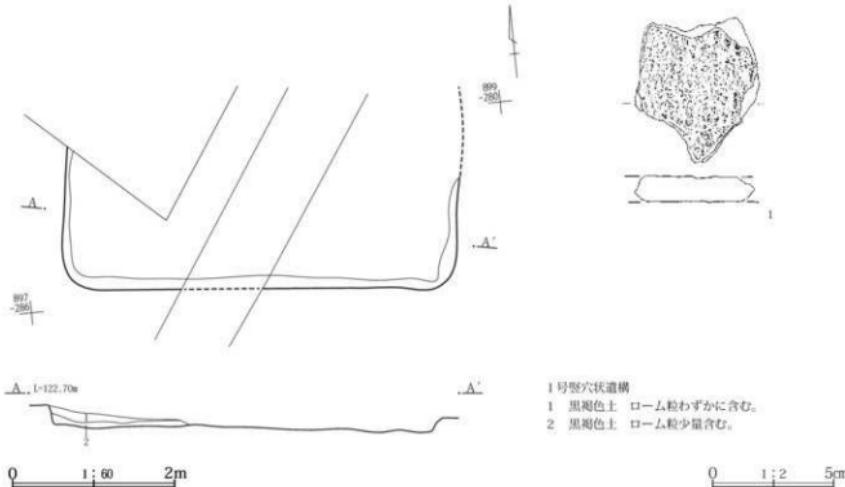
方位 N-6°E

床面 概ね平坦であるが、工具痕と思われる細かな凹凸が見られる。

柱穴 検出されなかった。

遺物 埋土中から板碑片(1)が出土しているほかは、土師器・須恵器の小破片が3点あるのみである。

時期 出土遺物が乏しいため明確な時期は不明だが、板碑片が出土していること、埋没土の様相から中世の所産と考えられる。



第152図 竪穴状遺構

3 土坑

土坑は5区で6基、1中区で7基、1南区で2基、2区で6基、3区で20基、4区で8基の計49基が検出されている。3区で最も多く検出され、1北区、6、7区での検出は見られない。

形状はいくつかのタイプがあり、短冊形とした細長い長方形状の1中区7号、2区92、93号、3区65～67、86、89号、4区24、25号はいわゆるイモ穴と呼ばれる類の土坑である。一部のみ検出の3区87、90号も同様であろう。また1中区1号、1南区21号、2区99、113号は平面円形状を呈し、円筒状の深い掘り込みをもつことから井戸と考えられるだろう。

3区では71、72号の2基の大型の土坑が検出されている。71号は南端部が搅乱によって壊されているが、概ね椭円形状を呈しており、長径で297cmを測る。断面形状は擂鉢状としたが、明瞭な底面があることから逆台形状と言ったほうがよいかもしれない。埋没過程に特徴があり、東上部が黒褐色土を主体に堆積し、西部が砂を主体に黒褐色土の下に潜り込むように堆積することから、当初は風倒木痕ないし搅乱と考えたが、壁面や底面がしっかりしていることや72号との類似性から土坑の可能性を捨てきれず掲載することとした。しかし、西部の砂層がどこからもたらされたものか、疑問が残る。出土遺物に駿河系土器の内耳銅片(1、2)がある。一方の72号は、埋没土がほぼ黒褐色土であることから土坑と判断し

第3章 古代以降・旧石器時代の調査

第8表 中近世土坑一覧表

5区土坑

No.	位置	平面形状	断面形状	長	短	深さ	時期	備考
245	995-265	—	播鉢状	—	143	14		347Pに切られる
249	995-260	楕円形	播鉢状	64	41	31		
250	985-260	楕円形	円筒状	117	79	65		367Pと重複
251	980-260	円形	浅播鉢状	48	42	19		
252	985-255	楕円形	円筒状	59	52	70		底面に小ピット
253	980-255	円形	円筒状	70	64	49		

1中区土坑

No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
1	920-265	円形	円筒状	129	118	131		
7	910-265	短冊形	皿状	1030	139	15		
8	910-270	円形	浅円筒状	54	46	17		
9	915-270	楕円形	浅円筒状	183	97	12		
11	910-270	円形	円筒状	48	40	20		
13	910-270	円形	浅円筒状	54	48	15		
20	905-275	—	円筒状	—	76	43		

1南区土坑

No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
21	890-280	円形	円筒状	—	151	256		
27	890-290	円形	円筒状	76	75	56		

2北区土坑

No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
91	820-335	円形	浅円筒状	126	118	8		
92	825-335	短冊形	箱状	160	61	18		
93	825-335	短冊形	箱状	206	78	13		219Pと重複
95	835-330	円形	播鉢状	81	81	23		
97	825-335	—	円筒状	—	146	125		
98	835-330	楕円形	播鉢状	134	71	45		237Pと重複
99	820-335	円形	円筒状	79	76	—		
113	830-330	円形	円筒状	—	106	131		

てよいであろう。調査時の安全面を考えてのことと思われるが、底面まで掘り抜いてはいない。ほぼ円形を呈し、長径は423cmを測る。71号よりさらに大きい規模となる。下部が調査されていないため、断面形状は不明だが、西半部から南面は播鉢状に緩やかに落ち込み、北東部はやや急傾斜で落ち込む形状を呈す。出土遺物に涅美陶器の片口鉢片(1)がある。71, 72号とした大型土坑の性格は不明だが、井戸の可能性を考えておきたい。

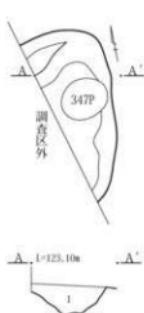
2 区1号、3 区69, 77, 78, 83 ~ 85, 88号、4 区22, 23号のようなほぼ正円形を呈し、底面が平坦な土坑は、桶を埋設したものであろう。他の形状のものについては、さまざまな用途によって掘られたものと思われ、推測は難しい。

3区土坑

No.	位置	平面形状	断面形状	長	短	深さ	時期	備考
65	805-350	短冊形	箱状	448	109	38		
66	810-350	短冊形	箱状	270	91	33		69,77号を切る
67	800-350	楕円形	箱状	158	106	17		
68	800-335	円形	播鉢状	42	41	59		154Pを切る
69	810-350	円形	浅円筒状	—	155	20		66坑に切られる
71	800-360	楕円形か	播鉢状	297	—	117		
72	795-360	円形	播鉢状	423	403	—		下部不明
73	805-355	長楕円形	皿状	—	43	23		184Pと重複
77	810-350	円形	浅円筒状	—	132	16		66坑に切られる
78	810-355	円形	皿状	139	137	13		207~209Pと重複
81	805-360	—	皿状	—	—	8		
82	800-365	—	浅円筒状	—	132	12		
83	795-365	円形	浅円筒状	128	117	13		84坑を切る
84	795-365	—	浅円筒状	—	98	15		83坑、201Pに切られる
85	795-365	円形	浅円筒状	108	100	23		
86	795-365	短冊形	箱状	170	86	21		211Pと重複
87	795-365	—	箱状	—	100	20		90坑を切る
88	795-365	円形	浅円筒状	116	114	14		
89	795-365	短冊形	箱状	—	96	21		210Pと重複
90	795-365	—	箱状	—	—	16		87坑に切られる
No.	位置	平面形状	断面形状	長径	短径	深さ	時期	備考
22	770-385	円形	浅円筒状	148	148	30		
23	775-370	円形	浅円筒状	136	131	17		
24	775-380	短冊形	皿状	—	81	7		29坑に切られる
25	780-375	短冊形	箱状	298	93	24		163Pと重複
26	775-370	不整円形	播鉢状	144	80	34		74Pに切られる
28	775-380	不整円形	ビット状	59	48	107		
29	775-380	不整円形	播鉢状	110	42	87		
46	775-375	長楕円形	播鉢状	—	50	29		24坑を切る
								79Pと重複

各土坑の規模等については、第8表の一覧表に掲載した。

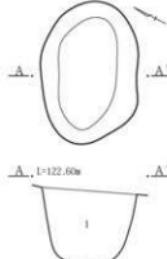
245号土坑



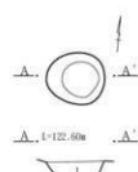
249号土坑



250号土坑



251号土坑



249号土坑

1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

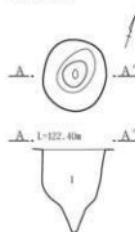
250号土坑

1 黒褐色土 ローム粒少量含む。

245号土坑

1 黒褐色土 ローム粒少量含む。

252号土坑



253号土坑



252号土坑

1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

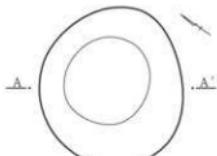
253号土坑

1 黒褐色土 ロームブロックわずかに含む。

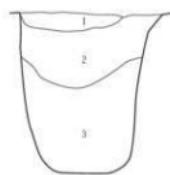
0 1m

第153図 5区土坑

1号土坑



△ A L=122.70m



△ A'

7号土坑



△ A L=122.50m



△ A'



△ A'

7号土坑

1 黒褐色土 ローム粒少量含む。締まり弱。



0 1:3 10cm

1号土坑

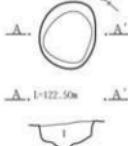
1 暗褐色土 ローム粒少量、黒褐色土ブロック多く含む。

2 暗褐色土 ローム粒多く含む。締まり弱。

3 暗褐色土 ロームブロック多く含む。締まり弱。

9号土坑

8号土坑



△ A L=122.50m



△ A'

11号土坑



△ A L=122.50m



△ A'

8号土坑

1 黒褐色土 ローム粒少量含む。



9号土坑

1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

11号土坑

1 黒褐色土 ローム粒少量含む。

13号土坑



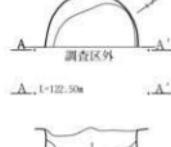
△ A L=122.50m



△ A'

0 1:40 1m

20号土坑



調査区外

△ A L=122.50m

△ A'

13号土坑

1 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

20号土坑

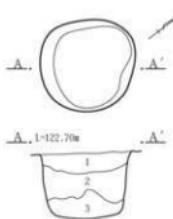
1 黒褐色土 ローム粒少量含む。

2 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

3 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

第154図 1中区土坑

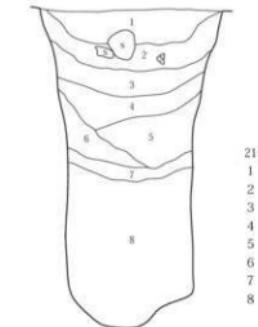
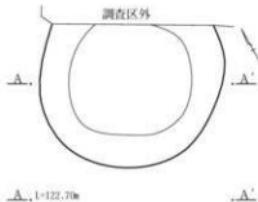
27号土坑



27号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。締まり弱。
2 黑褐色土 やや砂質。
3 黑褐色土 ローム粒少量含む。締まり弱。

21号土坑



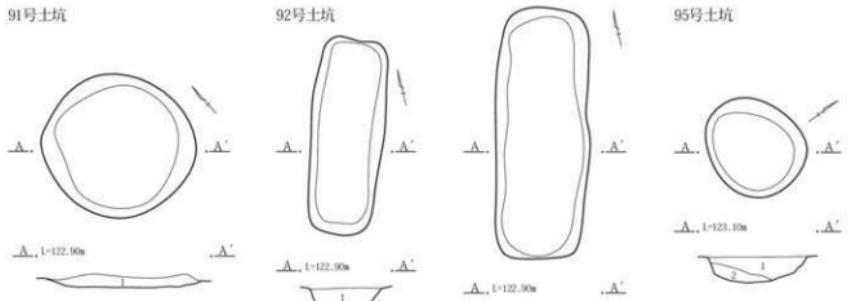
21号土坑

- 1 黒色土 ロームブロック少々含む。やや砂質。
2 黒色土 ローム粒わずかに含む。やや砂質。
3 黑褐色土 ロームブロック少々含む。やや砂質。
4 黑褐色土 ローム粒わずかに含む。やや砂質。
5 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
6 黑褐色土 ロームブロック少々含む。
7 黑褐色土 ローム粒少量含む。
8 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

0 1:40 1m

第155図 1南区土坑

93号土坑

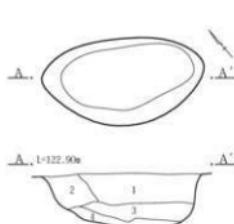


91号土坑
1 黒褐色土 ローム粒少含む。

92号土坑
1 黒褐色土 ローム粒少含む。 93号土坑
1 黒褐色土 ローム粒少含む。
2 暗褐色土 ローム粒少含む。

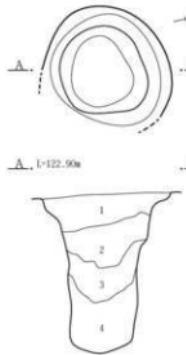
95号土坑
1 黒褐色土 ローム粒少含む。
2 黒褐色土 ローム粒多く含む。

98号土坑



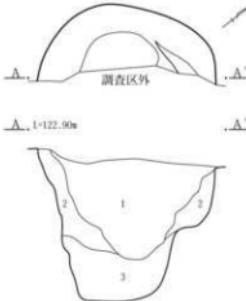
98号土坑
1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 暗褐色土 ローム粒少含む。
3 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
4 暗褐色土 ローム粒少含む。

113号土坑



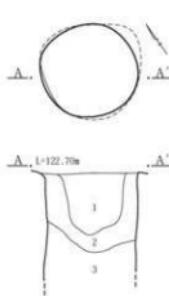
113号土坑
1 噴褐色土 ローム粒少含む。
2 黒褐色土 ローム粒少含む。
3 噴褐色土 ローム粒少含む。
4 噴褐色土 ローム粒多く含む。

97号土坑



97号土坑
1 暗褐色土 ローム粒わずかに含む。
2 暗褐色土 ローム粒少含む。
3 暗褐色土 ローム粒多く含む。

99号土坑

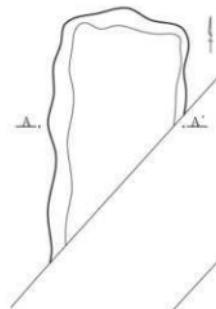


99号土坑
1 暗褐色土 ローム粒少含む。
2 暗褐色土 ローム粒少含む。
3 暗褐色土 ローム粒多く含む。

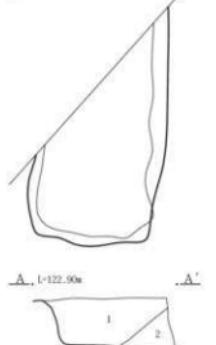
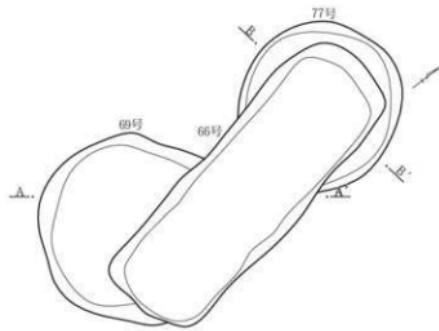
0 1:40 1m

第156図 2区土坑

65号土坑



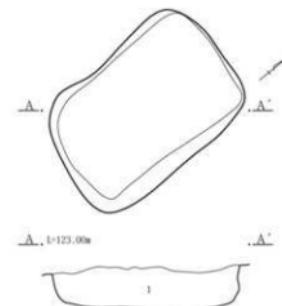
66・69・77号土坑



65号土坑

1 黒褐色土 ローム粒少量含む。

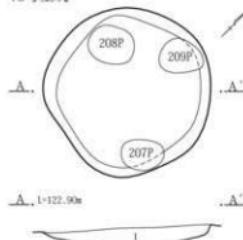
67号土坑



67号土坑

1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

78号土坑



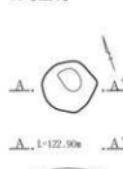
78号土坑

1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

66・69・77号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
3 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

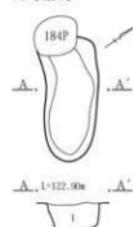
68号土坑



68号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
2 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

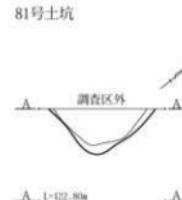
73号土坑



73号土坑

1 黒褐色土 ローム粒少量含む。

81号土坑



81号土坑

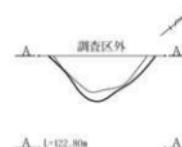
1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。砂質。

82号土坑

1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。砂質。

82号土坑

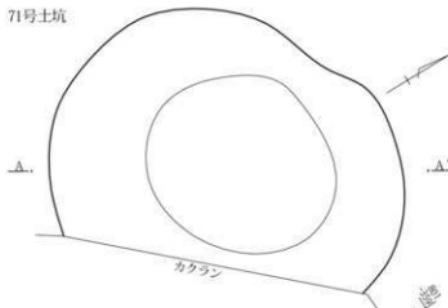
1 黒褐色土 ローム粒少量含む。



0 1:40 1m

第157図 3区土坑(1)

71号土坑



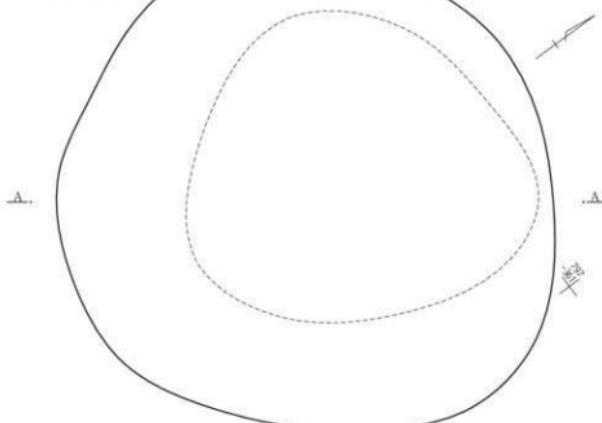
$\Delta\Delta_1$ L-122.70m



71号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、砂粒わずかに含む。粒子密。
- 2 黒褐色土 ロームブロック少量。砂粒多く含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。粒子密。
- 4 黒褐色土 ロームブロック少量。砂粒多く含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック少量含む。粒子密。
- 6 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
- 7 黄白色砂層
- 8 黒褐色土 ローム粒少量含む。粒子密。
- 9 灰色砂層
- 10 黄色砂層

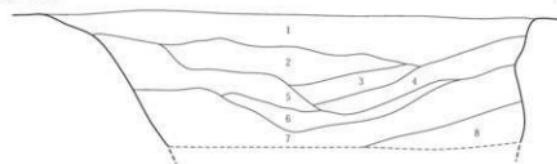
72号土坑



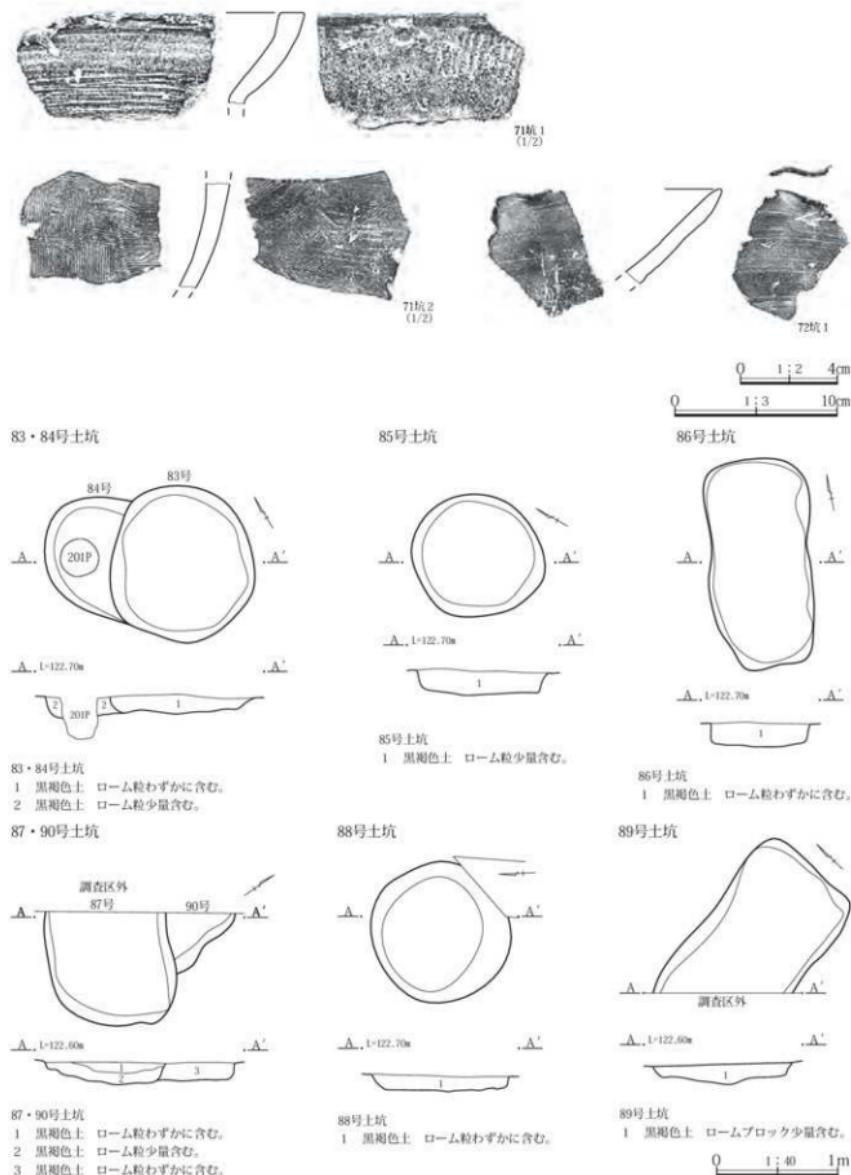
72号土坑

- 1 黒褐色土 砂粒わずかに含む。
- 2 黒褐色土 砂粒少量含む。
- 3 黒褐色土 砂粒多く含む。
- 4 黑褐色土 砂粒少量含む。
- 5 黑褐色土 砂粒わずかに含む。
- 6 黑褐色土 砂粒多く含む。
- 7 黑褐色土 砂粒わずかに含む。
- 8 黑褐色土 砂粒多く含む。

$\Delta\Delta_1$ L-122.70m

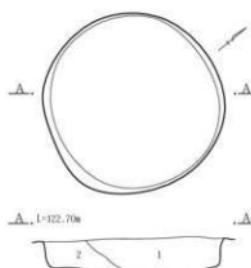


第158図 3区土坑(2)



第159図 3区土坑(3)

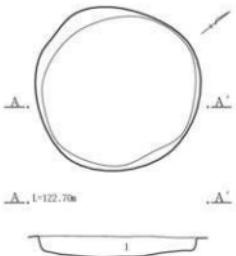
22号土坑



22号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

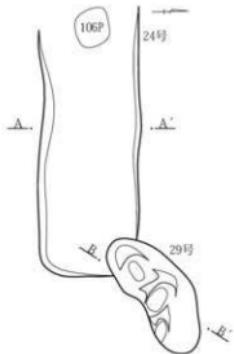
23号土坑



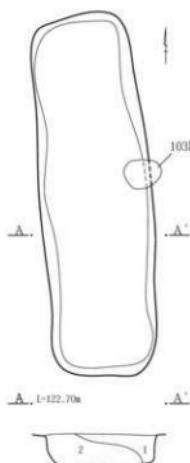
23号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。

24・29号土坑



25号土坑



25号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

26号土坑



26号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック少量含む。

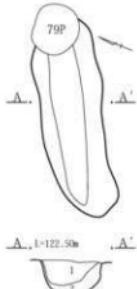
28号土坑



28号土坑

- 1 黒褐色土 ロームブロック多く含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック少額含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロックわずかに含む。

46号土坑



46号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック多く含む。

0 1:40 1m

第160図 4区土坑

4 溝

溝は5区、1中区、1南区、3区、7北区、6-5区でそれぞれ1条ずつ、計6条が検出された。ただし、1南区3号と7北区7号は走向が一致し、形状も似ているため同一の溝と判断し、計5条とする。以下、概要を述べる。

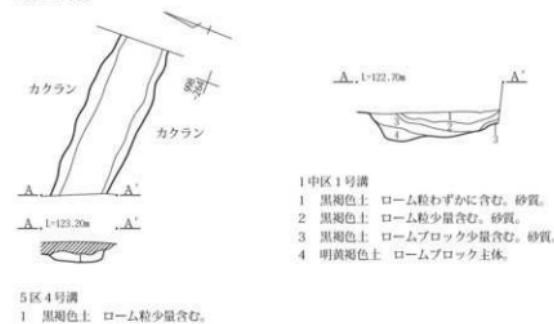
●5区4号溝

5区北端の995-260グリッドで検出。上部が擾乱によって壊されるが現状で上幅73cm、底面幅48cm、深さ14cmを測る。走向はE-3°-Sで、ほぼ東西方向に掘られている。隣接する東の調査区では確認されていない。東調査区の確認面レベルが、溝底面レベルより数cm高い程度のため当初から続いているのか、削られて無くなってしまったのかは判断できない。出土遺物は土師器の細片が1点のみである。

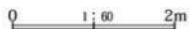
●1中区1号溝

1中区中央部東端の910-265グリッドで検出。東縁が調査区外となるが現状の幅177cm、深さ34cmを測る。走

5区4号溝



5区4号溝
1 黒褐色土 ローム粒少量含む。

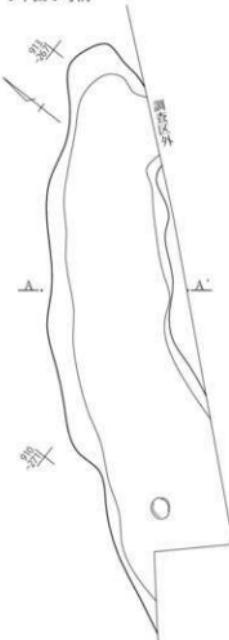


向は北東-南西であり、埋土はⅡ層土がベースになる。北東端が立ち上がっていることから溝ではなく短冊状の土坑で、西側に位置する7号土坑と対になるものと考えるのが妥当であろう。

●1南区3号溝・7北区7号溝

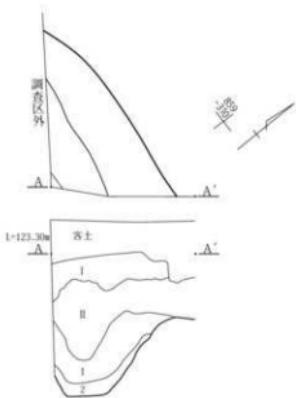
1南区南東角の855-310グリッドで検出された3号溝と、7北区中央部の850-295グリッドで検出された7号溝は、走向から同一の溝と考えられる。しっかりと掘り方で断面逆台形状を呈し、7号で見れば幅約3m、深さ約1.25mを測る。明瞭な底面の幅は約1.1mを測り、3号では0.55m程と狭まっている。走向はE-8°-Sでほぼ東西方向に掘られており、少なくとも20m以上の長さが想定できる。Ⅱ層土が上層に堆積することから、1号より古い時期の所産と考えられる。

1中区1号溝



第161図 溝(1)

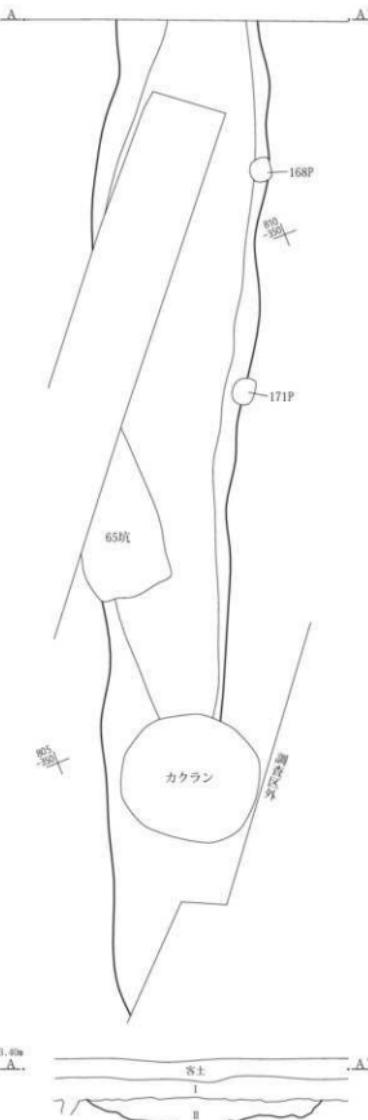
1 南区3号溝



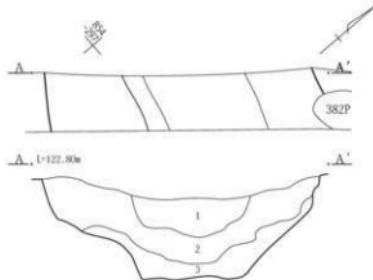
1 南区3号溝

- 1 暗褐色土 ロームブロックわずかに含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック少量含む。

3 区2号溝



7 北区7号溝



7 北区7号溝

- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒わずかに含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック多く含む。

0 1:60 2m

第162図 溝(2)

●3区2号溝

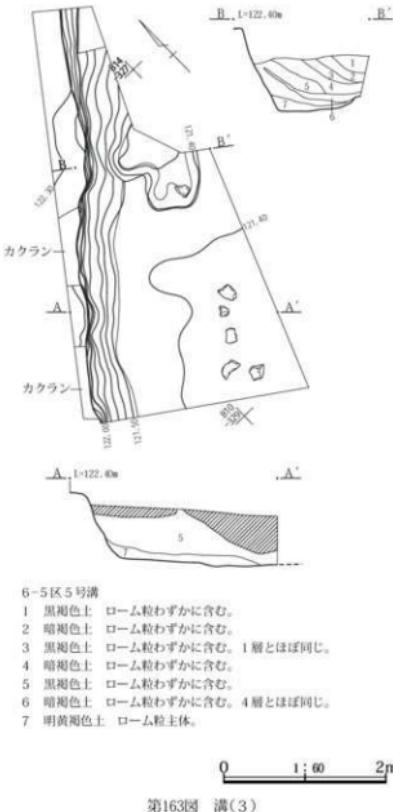
3区北部で検出。走向は北北東-南南西となる。断面形状が緩やかな浅い皿状で、埋土がⅡ層土であることから、人為的な溝ではなく自然の落ち込みと判断するのが妥当と考えられる。

●6-5区5号溝

6-5区ほぼ全域で検出。走向はN-39°-Eで、北東-南西方向に掘られている。断面逆台形状だが、3、7号に比べて底面の幅が広い。現状の底面幅は約2m、深さ約0.8mを測る。出土遺物は、近世から近代のものが含まれており、該期の所産と判断される。

以上、当初は5条であったが最終的に3条となった。ここで、1南区3号・7北区7号溝について簡単に触れておきたい。この溝は、前述したとおり走向をほぼ東西方向とし、断面逆台形状に掘られた溝である。昭和57年に、旧笠懸村教育委員会によって調査された第2次調査においても、これと酷似した溝の報告(笠懸村教委1983)があるので紹介しておく。報告書には写真のみの掲載で実測図は掲載されていないが、本文によれば「調査区北側に東西に延びる一本の溝状遺構が発見された。溝の形状は逆台形状を呈するもので東西に約27m確認された。確認面よりの深さ70cm、上幅160cm、下幅70cmを呈するもので、覆土中よりの遺物は縄文土器が圧倒的に多かつたが、その他に10世紀後半より11世紀初頭頃の土師器、須恵器なども発見されている。」とある(第169図参照)。この溝が1南区3号・7北区7号溝と同一のものであるかは判断できないが、走向と形状が一致すること、3・7号溝の埋土上層にⅡ層が堆積し、古い時期の所産と考えられることから、何らかの関連性があるものと考えておきたい。また、3・7号溝とは150m近い距離にあるが、5区北端で確認された4号溝も走向が近いことを付け加えておく。上部が削平されているため、規模を小さく錯覚してしまいがちであるが、本来はより深く、上幅も規模が大きかったことは確実である。残りが悪いため埋土の状況も比較ができないが、5区4号溝も同時期に存在した可能性を指摘しておきたい。

6-5区5号溝



第163図 溝(3)

5 ピット

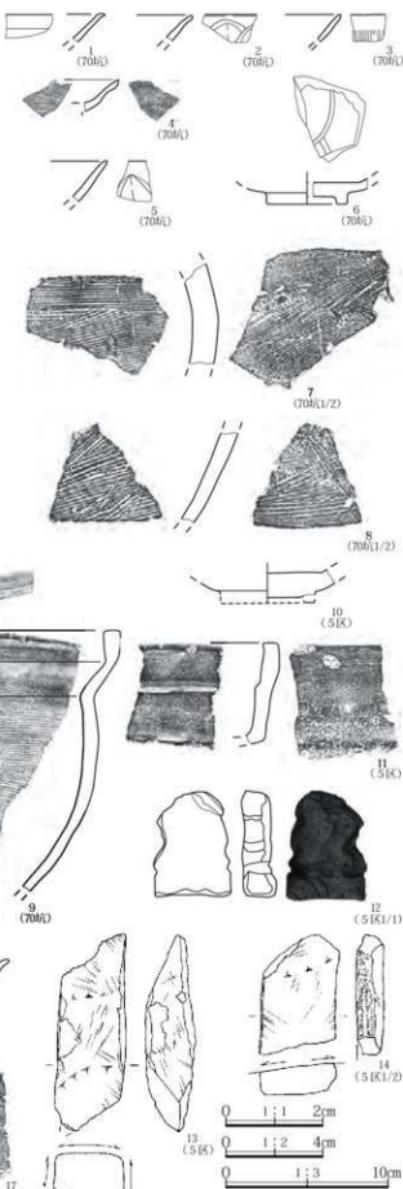
ピットは5区で21基、1中区で2基、1南区で21基、2区で27基、3区で93基、4区で82基、7区で1基、6区で2基の計249基が検出されている。3、4区での検出が多く、縄文時代とは異なり遺跡南部を中心とした人間活動の痕跡が看取される。調査段階での掘立柱建物としての所見はないが、3、4区で集中する地区があり、何らかの建物が存在した可能性はある。

ピットについては、第148図～151図の全体図と第9、10表の一覧表を参照いただきたい。

6 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は第164図に17点掲載した。これ以外に掲載しない遺物として中世の国産焼締陶器が3点、近世の国産磁器22点、国産施釉陶器5点、国産焼締陶器32点、在地系培培・鍋6点、在地系皿1点の計69点があり、全体として84点が出土している。

No 1～9は3区70号土坑からまとめて出土したものであるが、70号土坑は縄文時代の所産であることから、調査時に土坑Noをまちがえて取り上げられたものと考えられる。3区内の土坑の可能性が高いと考えられるが、どの土坑に帰属するのか確定できないため本項に掲載した。出土遺物として駿河系内耳鍋(9)が特筆される。中世の遺物は15点出土しているが、うち12点が3区からの出土であり特徴的である。前項の土坑やピットが3区に集中することと無関係ではないであろう。他は1区で2点、5区で1点出土している。近世遺物はおよそ8割が5区からの出土である。



第164図 遺構外出土遺物

第3節 旧石器時代の調査

1 概要

縄文時代の遺構調査終了後、旧石器時代の確認調査を行った。5区・1北区・1中区・4区でそれぞれ2か所、2区・3区でそれぞれ1か所のトレンチを設定し、IX層である暗色帶下面まで掘り下げるが、遺物は確認されなかった。以下、層序の概要を記しておきたい。

IV層 ローム漸移層

V層 黄褐色ローム(10YR5/8) 上部にAs-YPを含む(1%)

VI層 黄褐色ローム(10YR5/6) As-OK1・OK2の可能性のある白色のテフラ粒子を含む(1%)。5区ではVIa(明)・Vib(暗)に分層される。

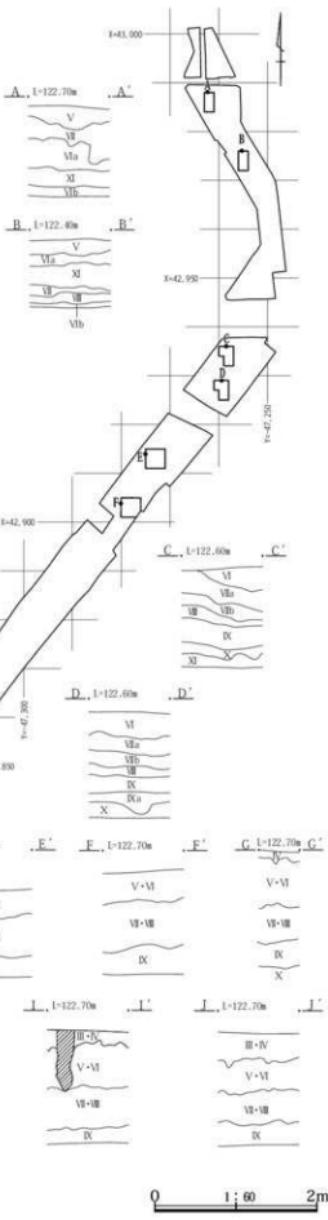
VII層 黄褐色ローム(10YR5/6) As-BPグループの可能性のある褐色のテフラ粒子を含む(1%)。1北区ではVIIa(明)・VIIb(暗)に分層される。

VIII層 にぶい黄褐色ローム(10YR5/4) AT降灰相当と考えられる。ただし、肉眼ではATは判別できない。

IX層 暗褐色ローム(10YR3/4) 暗色帶に相当すると考えられる。上半部は暗色度が強く、下半部はやや明色になる。1北区で下半部をIXaに分層した。

X層 黄褐色ローム(10YR5/6) 径30mm以下の砂礫を含む(2%)。

XI層 灰色砂礫層(5Y5/1) 極小(径1mm以下)の砂粒から成る。5区で堆積を確認。



第165図 旧石器の調査

第4章　まとめ

第1節　縄文時代の土坑について

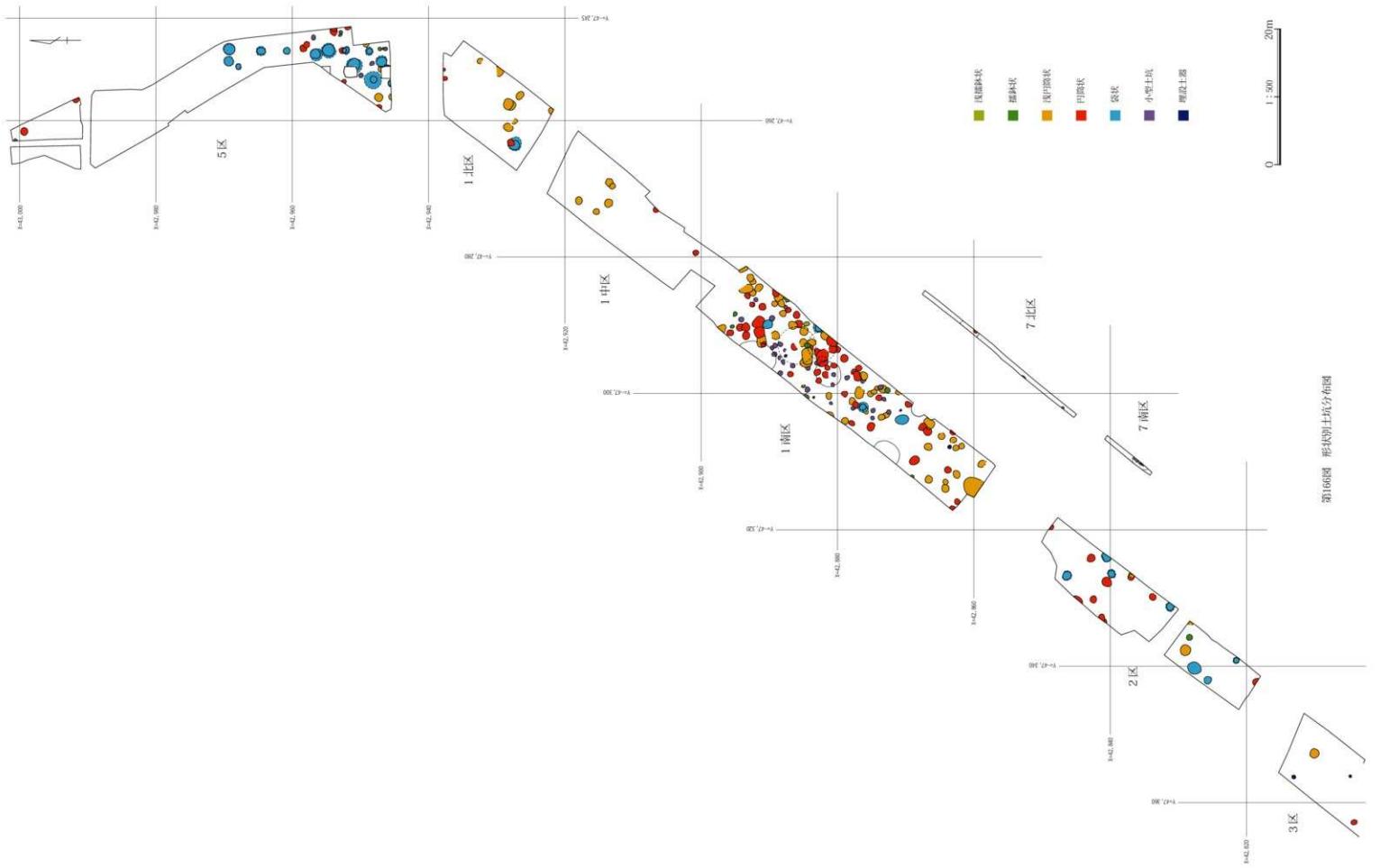
本遺跡では、縄文時代の土坑が214基検出された。

土坑の形状分類については第2章第3節1のとおりであるが、本節ではこれらの形状に加え、小型土坑を追加して分布図を作成した(第166図)。小型土坑とは、断面浅円筒状ないし円筒状を呈し、直径が概ね80cm未満の小型の土坑を指す。形状別の割合を見ると浅撲鉢状1基(0%)、撲鉢状13基(6%)、浅円筒状67基(32%)、円筒状75基(35%)、袋状26基(12%)、小型土坑32基(15%)となる。なお、袋状にはフ拉斯コ状も含んでいる。浅撲鉢状・撲鉢状は14基と少ないが、掘り込みが不明瞭なものもあり、縄文人の手に因らない落ち込みが含まれる可能性がある。浅円筒状・円筒状で全体の7割弱を占め、本遺跡の主体をなす。小型土坑も断面は浅円筒状ないし円筒状であるので、これを含めれば8割を超える。本遺跡から検出される縄文時代の土坑は、概ね円筒状と袋状の2種といってよいであろう。円筒状は加曾利E2式～堀之内2式の各時期に普遍的に見られるが、袋状の多くは称名寺式期にはほぼ比定できるという特徴がある。

次に、分布について見ていくたい。区毎で見ると5区37基、1北区12基、1中区7基、1南区132基、2区21基、3区2基、7北区3基となり、1南区で濃密に分布することが看取される。重複も著しい。袋状が4基見られるが、浅円筒状・円筒状が主体となっている。また、中央部付近に小型土坑が集中している様子も見られる。これに対し、1南区北端から1中・1北区にかけては急激に数が減少する。1中区は搅乱が深く今まで及んでおり、確認面が1南区より20～30cm程下がっているため、浅めの土坑は削られて消失してしまった可能性も考えられるが、20～30cm程度であるため掘り込みの深い土坑は当初から少なかったことはまちがいない。1北区についても、1南区と比べれば1中区同様、分布は希薄である。1中・1北区は、当初から土坑をあまり構築しなかった区域といえるであろう。しかし、最北部の5区に至ってまた集中するという状況が見られる。特に南部で、大型

の袋状土坑が多く見られることが特筆され、5区南部34基中14基が袋状土坑でもっとも多く、円筒状8基、浅円筒状4基とづく。また、大型の袋状土坑に混じって小型土坑も5基見られる。南部とは対照的に北部では全くといっていいほど無くなるが、北端部で若干認められるという特異な分布状況を示す。一方、1南区の南方に目を移すと、1中・1北区のように急激に減少するということではなく、南に向かって徐々に減少していく傾向が見られる。2区で21基が確認され、円筒状と袋状が主体となることが分かる。3区では2基のみ、4区以南では全く検出されていない。これは集落域縁辺部の様相を示しているとも考えられるが、3、4区については調査段階でのⅢ層の掘り下げが甘く、存在した土坑を見逃している可能性も否定できない。そのため、本来の分布状況を示しているのか疑問が残る。

時期別に見ると、加曾利E2式期が初出であり、1南区で5基程度が確認されている。竪穴建物は確認されていないが、他の区では該期の遺構は見られず、1南区を中心として小規模な集落が形成されたことが推定できよう。次の加曾利E3式期がもっとも検出数が多く、やはり1南区を中心に拡がりを見せる。土坑の主体は円筒状・浅円筒状である。竪穴建物も1南区を中心に7南区でも確認されており、加曾利E3式期になって集落規模が拡大したのであろう。加曾利E4式期は、後期加曾利E系との区分が難しくあまり判然としない。ただ、加曾利E3式期に比べれば減少傾向にあるようだ。分布状況に変化が見られ、これまで分布の中心であった1南区での検出数が少なくなり、代わって2区や5区での検出数が増えているように見受けられる。1南区での検出も維持されることから、「集中から拡散」という見方もできるであろう。この傾向は称名寺式期にも継承されている。称名寺式期はI式、II式の細分までは示せなかったが、①1南区から3区にかけての範囲と②1北区から5区南部にかけての範囲の2地区に分布することが分かる。①地区では7南区で敷石住居が検出されていることから、前代以来の集落域を継承している可能性が高い。②地区は大型の袋状土坑が集中するという特徴がある。



第1166号 形态图土壤分布图

ここで、「なぜ、称名寺式期になって②地区で大型の袋状土坑が集中して構築されるようになったのか」という問題が生じる。集落域が北側へと拡大したのであろうか。1中区から5区にかけての区域では、竪穴建物は検出されていない。これは、この区域のⅢ層が削平されていたためとも考えられるが、検出されたピットの配置からは竪穴建物が構築されていた痕跡は見出せない。1北区では柱穴状のピットが少なからず確認されているが、円形状の配列にはならないようだ。1中区では、ピットの検出すらごくわずかでしかない。5区南部は袋状土坑が密集するため、同時期の竪穴建物の存在は考え難い。5区北部はピットが疎らであるから、竪穴建物の存在は考えられないだろう。そうだとすると、②地区は土坑と竪穴建物が混在する集落域とは考えられず、土坑に特化した区域と考えるのが妥当と思われる。第28図を見ると、5区中央部東側は谷頭状に低くなっており、東に面する谷底平野へとつながっていると思われる。②地区の土坑群は低湿性土坑ではないが、水さらし等、水利用に関連する堅果類等の貯蔵用の土坑群であったのではないだろうか。つまり、②地区は土坑に特化した区域であり、谷底平野へと至る斜面部を貯蔵穴群として利用した可能性を考えたい。



第167図 時期別土坑分布図(中期後葉)

次の堀之内式期は、急激に検出数が減少する。1式・2式期ともに1南区での検出がわずかに見られる程度になり、1式期で1北区、2式期で5区北端での検出も認められる。5区北端で検出された246号土坑は、堀之内2式のほぼ完形土器が出土していることや、その位置関係から特異な様相に見えたが、谷頭を挟んだ②地区の対岸と考えれば土坑構築の意図は同じであり、②地区的範囲内と捉えることができるかもしれない。前段階の①地区・②地区的土地利用法が、堀之内式期に至っても継承されているのだろうか。いずれにしても、発掘調査が5区のさらに北側へと及ばなければ、246号土坑の性格を確定することはできないであろう。そして、堀之内2式期を最後に、それ以降の遺構の検出は見られなくなる。

最後に、小型土坑について触れておきたい。小型土坑の定義は前述したとおりであるが、大型の土坑群とは明らかに区別ができる。土坑がもっとも濃密に分布する1南区でまとまりが認められ、5区南部でも大型の袋状土坑に混じって散在する。あえて小さく構築することから、大型とは何らかの用途の違いがあったことは確かであろうが、それ以上は知ることができない。分布状況の特徴の一つとして、指摘するにとどめておきたい。



第168図 時期別土坑分布図(後期前葉)

第2節 縄文時代の 集落構造について

本節では、今回の調査成果を柱とし、これまで数多く行われてきた発掘調査成果をまとめ、阿左美遺跡の集落構造について考えてみたい。

阿左美遺跡の発掘調査は、昭和30(1955)年に東武鉄道桐生線旧阿左美駅プラットホームの拡張工事に伴い、群馬大学尾崎喜左雄研究室によって実施されたのが端緒となる。この調査で2棟の竪穴建物(うち1棟が柄鏡形敷石住居)が検出され、昭和35(1960)年に「阿左美縄文式文化住居跡」として群馬県指定史跡となった。昭和30年の調査成果は、正式な報告書が未刊のため詳細が分からぬのが残念であるが、2棟の竪穴建物は「調査担当者によれば縄文時代後期のものとされている。」(笠懸村誌別巻一)とある。2棟の竪穴建物は現状保存され、旧阿左美駅構内に露出展示されている。群馬大学による調査を第1次調査と位置づけ、その後、旧笠懸村・笠懸町、みどり市(以下、みどり市等という)を調査主体として、これまで31地点までの発掘調査が行われている(第169図)。みどり市等による発掘調査は、主に個人住宅の建設等によるもので小規模なものが多い。旧笠懸町教委による調査は全面発掘を行っているが、報告が概報にとどまっている。みどり市教委による調査は、調査対象地内に何本かのトレンチを設定して掘削し、原則、平面での確認のみとして遺構の掘削を行わないという調査方法となっているようである。もちろん、遺構は現状保存となっているので文化財保護の観点から正しいのであるが、考古学的には確実な遺構の性格や時期等の判断が難しい。また、調査報告が確認できたものは第11表のとおりである。なお、今回の当事業団による発掘調査は第32地点となり、阿左美遺跡を南西→北東方向に貫く大きなトレンチの形となった。調査面積も過去最大となる。以下、断片的ではあるが既調査成果を概観しつつ、阿左美遺跡の集落構造を探っていくこととする。

第1次調査は前述したとおりである。第2次調査区は遺跡東端部で、谷底平野を東に望む地点である。約100基の土坑が検出されたが、竪穴建物は確認されていない。遺構配置図が掲載されていないため詳細は不明だが、各

土坑の重複が著しく、「遺構は土坑が100基以上、いずれも重複しており単独で検出された土坑は、そのうちの10基にみたないという密集度であった。」(笠懸村誌 別巻一)とのことである。第7次調査区は、第32地点1南区から30m程西方にある。竪穴状遺構1基が検出され、竪穴建物の可能性が高いと考えられるが判然としない。ほか土坑が49基確認されており、うち1基は袋状土坑となる。第8次調査区は遺跡東端部で、第2次調査区の20m程南方になる。竪穴建物3棟が確認されており、ほかに竪穴建物の可能性のある場所が3か所あることが指摘されている。竪穴建物のうち1棟は敷石住居と見られるが、竪穴建物それぞれの時期は不明である。土坑は約150基が検出された。土坑には埋設土器も含まれている。報告書に「特に調査地南東部には、壇状の掘り込みの土坑が集中して検出されている。」との記載がある。遺物も遺物収納箱約70箱と多量に出土している。第20次調査区は谷底平野を望む東端部の南端近くに位置する。3本のトレンチ調査が行われ、北側のトレンチ西端部で土坑1基が確認された。他に遺構は確認されず、報告書に「縄文時代の集落跡の限界が押さえられたものと判断された」とある。第21地点は、第32地点2区の桐生伊勢崎線を挟んだ東方になる。1本のトレンチ調査が行われ、竪穴建物2棟、土坑・柱穴状遺構60基以上が確認されている。平面確認のため、それぞれの時期は不明である。なお、報告書に「対象地の北に隣接する地点において平成6年度に行われた発掘調査においても、多数の遺構とコンテナバット約30箱に及ぶ夥しい量の縄文時代の遺物が出土しており、当該地は、阿左美遺跡仲地区における縄文時代集落の中核をなす場所と予想された。」との記述がある。第22次調査区は遺跡北部中央付近、第32地点1南区の北西70m程の位置にあたる。2本のトレンチ調査が行われ、土壤硬化部1か所、柱穴状遺構1基が確認されている。土壤硬化部は竪穴建物の可能性があるが、掘削を行っていないため判然としない。第23地点は遺跡東端部の南部にあたり、第20次調査区の30m程北方になる。2本のトレンチ調査が行われ、トレンチ西部を中心に竪穴建物4棟以上、土坑35基以上等が確認されている。竪穴建物は2棟が埋土上層まで掘削が行われ、1号は称名寺II式期、2号は詳細な時期は不明だが後期前葉期に比定されている。第24地点は第32地点3区のすぐ西方にあ

第11表 阿左美遺跡の調査経過

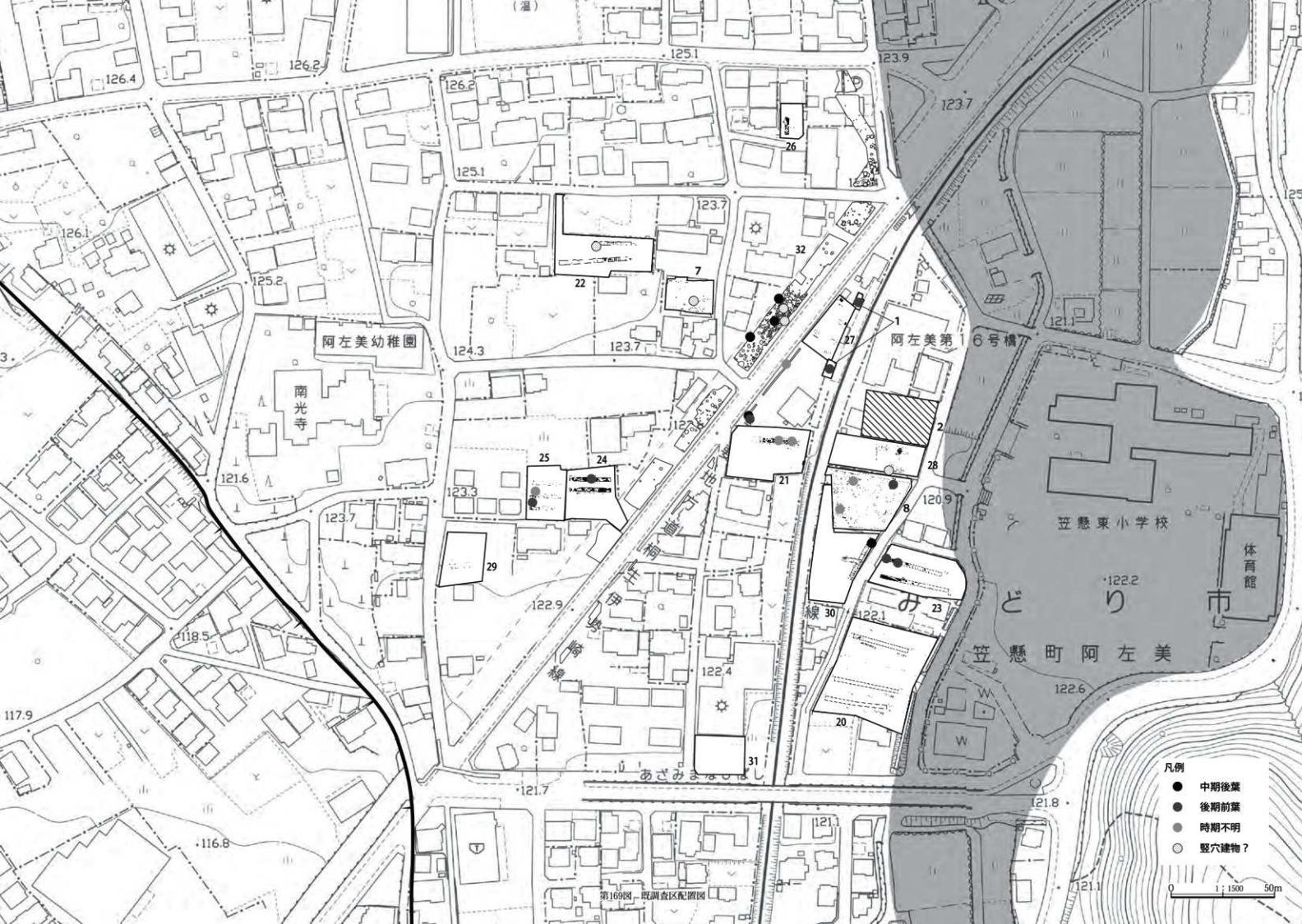
次・地点	調査年度	面積(m ²)	縄文時代の遺構	調査方法	報告書
第1次	昭和30(1955)		竪穴建物2(1棟は柄鏡形敷石住居)	全面発掘	
第2次	昭和57(1982)		土坑約100	全面発掘	『阿左美遺跡調査概報』1983
第7次	平成2(1990)	362.3	竪穴状遺構1、袋状土坑1、土坑48	全面発掘	『笠懸町内遺跡I』1993
第8次	平成3(1991)	792	竪穴建物3(1棟は敷石住居)、土坑約150	全面発掘	『笠懸町内遺跡II』1995
第20次	平成18(1996)	1986	土坑1	平面確認(トレンチ3)	『みどり市内遺跡1』2010
第21地点	平成19(1997)	979	竪穴建物2、土坑・柱穴状遺構60以上	平面確認(トレンチ1)	『みどり市内遺跡1』2010
第22次	平成20(2008)	183	竪穴建物か1、柱穴状遺構1	平面確認(トレンチ2)	『みどり市内遺跡2』2011
第23地点	平成21(2009)	127.5	竪穴建物4以上、土坑35以上、柱穴状遺構5以上	一部発掘(トレンチ2)	『みどり市内遺跡3』2012
第24地点	平成21(2009)	80	竪穴建物1、土坑20、柱穴3	一部発掘(トレンチ2)	『みどり市内遺跡3』2012
第25地点	平成22(2010)	108	竪穴建物2(1棟は柄鏡形)、土坑4	ほぼ発掘(トレンチ3)	『みどり市内遺跡4』2013
第26地点	平成23(2011)	18	なし	一部発掘(トレンチ1)	『みどり市内遺跡5』2014
第27地点	平成24(2012)	10.5	なし	平面確認(トレンチ5)	『みどり市内遺跡7』2016
第28地点	平成27(2015)	39	竪穴建物か1、土坑7、柱穴状遺構15	全面発掘(トレンチ3)	『みどり市内遺跡8』2018
第29地点	平成28(2016)	8	なし	平面確認(トレンチ2)	『みどり市内遺跡8』2018
第30地点	平成28(2016)	66.5	竪穴建物1、土坑17以上、柱穴状遺構35以上	全面発掘(トレンチ2)	『みどり市内遺跡8』2018
第31地点	平成30(2018)	6	なし	平面確認(トレンチ2)	『みどり市内遺跡10』2021
第32地点	平成30(2018) 令和2(2020)	3960 227	竪穴建物8、土坑214、埋設土器6、ピット	全面発掘	本書

たる。2本のトレンチ調査が行われ、竪穴建物1棟、土坑20基等が確認されている。竪穴建物は称名寺II式期に比定される。第25地点は第24地点の西隣にある。3本のトレンチ調査が行われ、竪穴建物2棟、土坑4基が確認されている。竪穴建物は1棟が柄鏡形を呈しており、張出部に敷石が見られる。報告書には堀之内2式期であるが、出土土器を見る限り称名寺II式期とするのが妥当であろう。もう1棟の竪穴建物の時期は不明だが、柄鏡形に切られていることから称名寺II式期以前と判断できる。第28地点は遺跡東端部にあたり、遺構が濃密に分布した第2次と第8次調査区の間になる。小規模なトレンチ3か所の調査が行われ、竪穴建物の可能性のある落ち込み1か所、土坑7基等が確認されている。遺構の時期は不明だが、トレンチ内の出土土器は後期前葉葉型を主体にしているようである。第30地点は、第8次調査区の南隣かつ第23地点の西隣にある。2本のトレンチ調査が行われ、竪穴建物1棟、土坑17基以上等が確認されている。報告書に掲載された復元土器が写真のみのため分かりづらいが、竪穴建物は加曾利E3式期、土坑も加曾利E2式～E3式が主体をなしているように見受けられる。9号土坑は称名寺II式期になろうか。第26、27、29、31地点では遺構が確認されていないが、第26地点はトレンチが小規模のため確認されなかっただけの可能性が考えられ

る。第29地点についても同様の可能性があるが、集落域の西限外の可能性も考えられる。第31地点については、第20次南部で遺構が確認されていないことを考えると、集落域南限外の可能性が高いであろう。第27地点は濃密な遺構分布が予想される地点であるが、遺構検出まで掘削が及ばなかったことにより遺構なしとなっている。

以上、長々と概略を述べてきたが、現状で20棟あまりの竪穴建物、600基程の土坑が確認されていることが分かった。時期別に見るのは難しいが可能性の域であえて述べるとすると、加曾利E3式期の竪穴建物は今回の第32地点1南・7南区の4棟と第30地点の1棟となる。両者は直線で130m程の距離にあるが、第30地点は該期の土坑も多く見られ、第32地点1南区と様相が似ている。また北隣の第8次調査区でも多数の土坑が検出され、南東部に「盤状」の土坑が集中している。さらに北に位置する第2次調査区でも土坑100基が密集しており、第32地点1南区から第2次・第8次調査区、第30地点と弧状の拡がりが推定できそうである。一般的に加曾利E3式期は集落が大規模化し、環状集落を形成する時期であるため、この弧状の拡がりがさらに西側へと伸び、第24・25地点、第7次調査区を経て直径130mの環状集落になることを想定してもよいのではないだろうか。

その他の時期については判然としないが、敷石住居を



称名寺式期と考えると、西は第25地点、東は第23地点、北は第1次調査区となり、広範囲に分布している様相が看取される。通常、集落は加曾利E3式期をピークとし、その後は縮小傾向にあるが、本遺跡では逆に拡大しているように見える。少なくとも加曾利E3式期の環状集落は維持されているであろう。さらに称名寺式期は前節で述べたとおり、集落域とは別に第32地点5区南部を中心として貯蔵穴群を形成している可能性が高い。その後の堀之内式期についても、集落規模は縮小しているが、同様の土地利用の仕方をしていた可能性がある。

集落の変遷については、加曾利E2式期で小規模な居住が始まり、加曾利E3式で規模が拡大、径130mの弧状ないし環状集落を形成、加曾利E4式期は判然としないが集落は継続、次の称名寺式期に再拡大、環状集落を形成、堀之内1式期で縮小し、堀之内2式期で集落は終焉という流れが考えられる。

以上、雑駁に書き連ねてしまったが、本遺跡が中期後葉～後期前葉期の大規模集落であったことが改めて確認できたと思う。みどり市ひいては東毛地区を代表する縄文遺跡といえよう。

第3節 出土土製品について

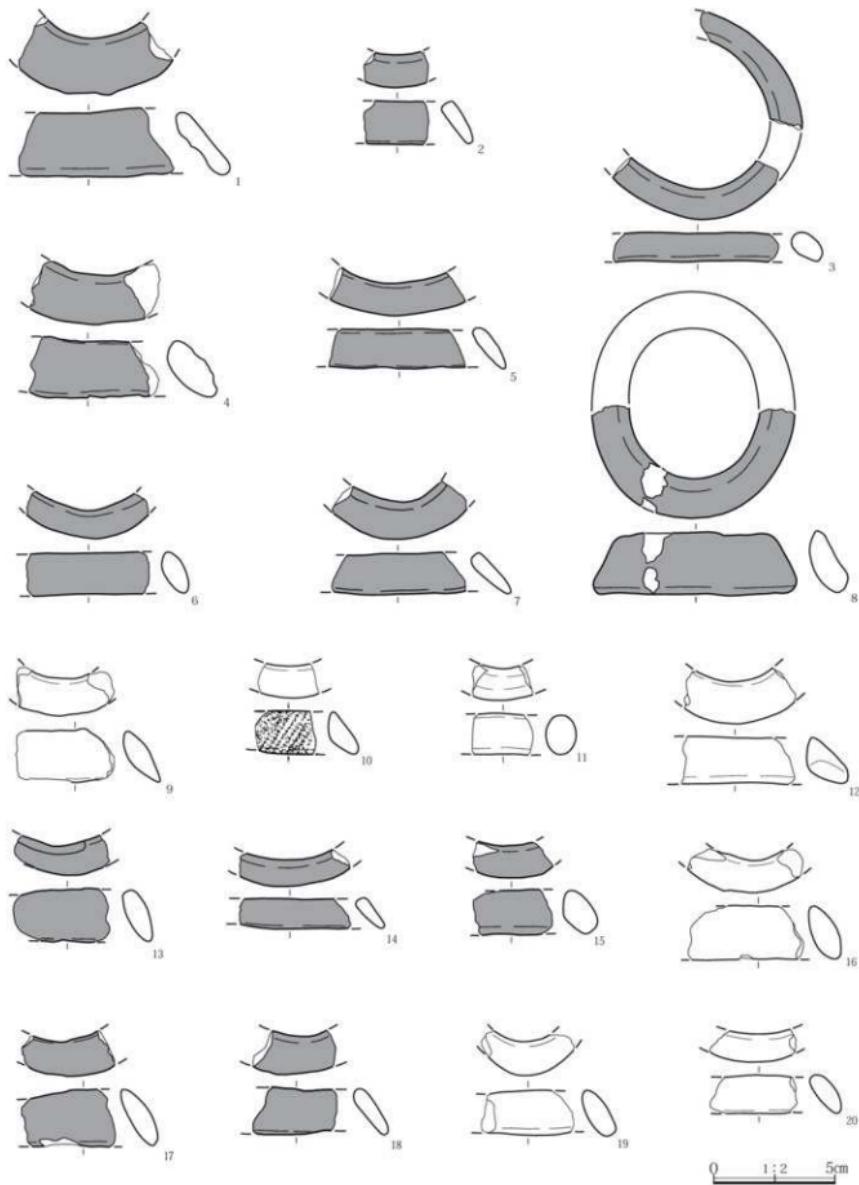
本遺跡からは貝輪状・棒状・勾玉状・耳飾りなど、さまざまな土製品が出土した(第170～173図)。本節では、これら土製品を集め、それぞれ若干の説明を加えることでまとめたい。

貝輪状土製品は31点を掲載した(1～31)。小破片であっても原則掲載としたので出土点数の大部分を掲載しているが、これ以外に細片のため図化が困難で未掲載としたものが数点ある。ほとんどが小破片のため全体をうかがい知ることはできないが、貝輪を忠実に模倣したようなものから断面が厚くなるものなど、形状はさまざまである。白色塗彩されているものが目立ち、全体の約半数を数える。本節では白色塗彩のものにトーンを入れた。土坑出土が10点あり、確実に土坑に伴うものか断定はできないが、時期が推定できたものでは7点が称名寺式期から出土している。299号土坑は加曾利E3式期でしたが、出土土器数が13点と少ないなかで加曾利E3式が主体となっていたことから該期としたが、称名寺式もわ

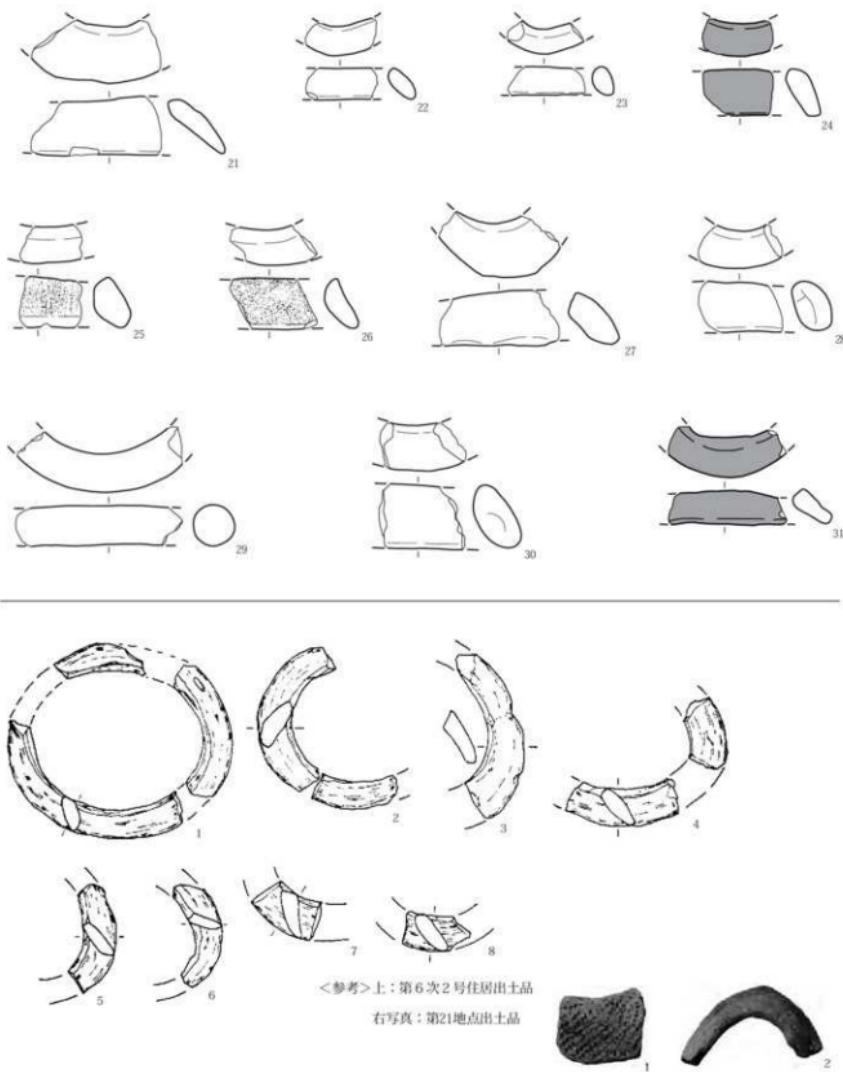
第12表 貝輪状土製品一覧

番号	出土位置	高さ	厚さ	外径	内径	装飾
1	1南区7型P1 (1H169坑)	2.8	0.8			白色塗彩
2	1南区7型P7 (1H183坑)	1.7	0.6			白色塗彩
3	5区275坑	1.2	1.2			白色塗彩
4	1南区315坑	2.3	1.3			白色塗彩
5	1南区62坑	1.6	0.6			白色塗彩
6	1南区144坑	1.7	0.8			白色塗彩
7	1南区168坑	1.7	0.6			白色塗彩
8	1北区299坑	2.5	1.0	8.3	5.3	白色塗彩
9	1南区236坑	2.1	0.9			
10	2区125坑	1.7	0.8			LR縄文施文
11	2区125坑	1.6	1.2			
12	3区70坑	2.0	1.2			
13	1南区538坑 (ピット扱い)	2.1	0.8			白色塗彩
14	1南区95P	1.2	0.5			白色塗彩
15	1南区95P	1.8	1.1			白色塗彩
16	1南区95P	2.2	1.0			
17	5区包含層	2.3	0.8			白色塗彩
18	5区包含層	1.4	0.6			白色塗彩
19	5区包含層	1.9	0.9			
20	5区包含層	1.6	0.8			
21	5区包含層	2.4	0.8			
22	5区包含層	1.3	0.6			
23	5区包含層	1.2	0.8			
24	1南区890-285	1.8	0.9			白色塗彩
25	1区表上	2.1	1.3			LR縄文施文
26	1南区880-300	2.1	0.8			LR縄文施文
27	1南区885-290	2.3	1.2			
28	1南区865-305	2.1	1.4			
29	1南区包含層	1.7	1.7			
30	2区845-325	2.6	1.5			
31	4区包含層	1.4	0.8			白色塗彩

ずかに混在しており、称名寺式期の可能性もある。ピットからの出土も認められ、95号ピットから3点まとまって出土しているのは特筆される。1、2は7号竪穴建物のピット内出土で、竪穴建物になるかは不確かだが柱穴状のピットから出土したことは事実である。遺構内外を含め、1南区で16点と全体の約半数が出土しており、次いで5区で8点と5区での出土も目立つ。なお、参考資料として第171図下段に既調査区出土の貝輪状土製品を掲載した。第6次調査区では、称名寺式期と考えられる2号住居から16点、7、8個体分がまとまって出土している。また、第21地点でも遺構外から2点の出土が見られる。貝輪状土製品については、谷藤保彌氏によって集成されており(谷藤2011,2022)、群馬県内で14遺跡、78点が紹介されている。このなかには第171図の第6次調査区出土品は含まれているが、第21地点出土品は含まれていないため、今回の出土品を含め群馬県内で14遺跡、111点となった。111点中、41点が阿左美遺跡出土となり、貴重な追加資料を提供できることになる。

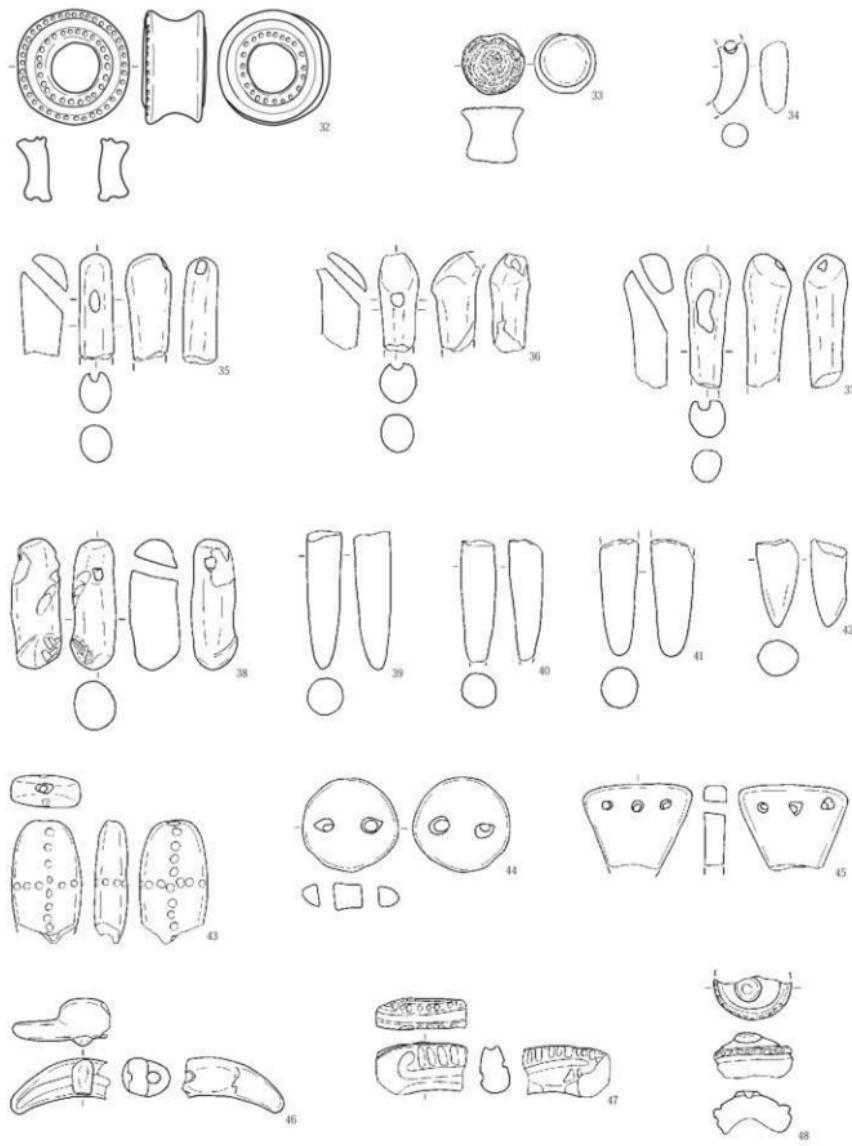


第170図 土製品一覧(1)



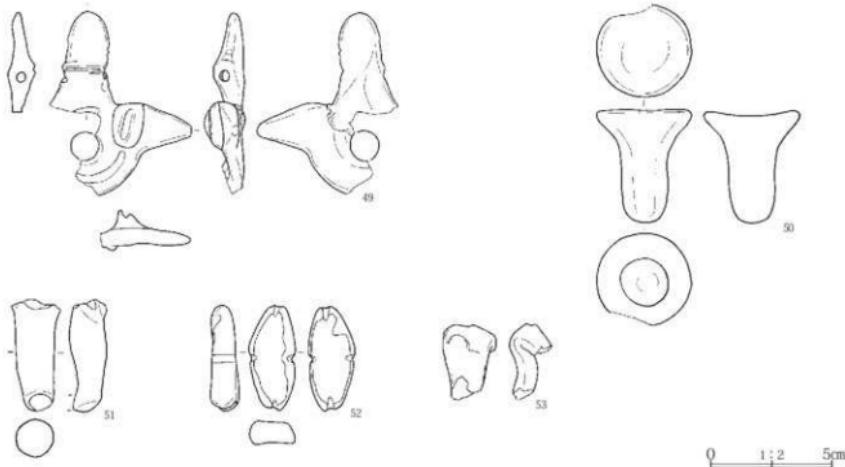
0 1 2 5cm

第171図 土製品一覧(2)



0 1:2 5cm

第172図 土製品一覧(3)



第173図 土製品一覧(4)

耳飾りは2点が出土した(32, 33)。32は円環状、33は耳栓である。32は2区129号土坑で称名寺I式の大形破片と同一レベルで出土していることから、該期の所産と考えられる。33は1南区の包含層出土のため、時期は不明である。

34は勾玉状土製品で、白色塗彩されている。5区の包含層から出土している。

35～42は棒状の土製品。出土したものすべてを掲載した。完形品は38のみで短い形状のタイプ。他は長くなると考えられ、35～37のような上部に39～42のような下部がつながる形状を呈すのだろう。長いタイプは上端部が膨らみ、そこから斜めに孔を穿つという共通性がある。37, 40は2区121号土坑出土で、ともに赤彩の痕跡が認められる。同一個体の可能性も考えられるが、37の下端の径より40の上端径のほうが太く、つながるとすれば中央部が軽く膨らまなければならない。出土位置は8点中5点が1南区出土、2点が2区、1点が3区である。5区からの出土ではなく、貝輪状土製品が5区から多く出土しているのとは対照的である。土坑出土のものは加曾利E3式、加曾利E4式、称名寺I式期となるが、やはり確実に土坑に伴うものかは判断できない。

43は橢円形状の板状土製品。長軸に孔を通し、表裏に十字状に円形刺突を施している。加曾利E3式期と考え

られる1南区136号土坑から出土している。

44は円形、45は逆三角形状の板状土製品。44は2個、45は3個の円孔を穿つ。44は1南区2号竪穴建物の床面から22cm浮いた位置、45は称名寺式期と考えられる2区124号土坑から出土している。

46～50は特殊な形状の土製品。遺構出土のものではなく、47, 48, 50が1南区、49は7区、46は1中ないし1南区出土となる。46は赤彩の痕跡が認められる。

51は土偶の手足の可能性がある土製品。13の貝輪状土製品とともに1南区58号土坑(ピット扱い)から出土している。

52は土器片加工の土錐。これまで紹介してきた土製品とは性格が異なるため、ここに掲載すべきものではないかもしれないが、5区の包含層から出土している。

53は土製品かは不明なもののだが、14～16の3点の貝輪状土製品がまとめて出土した95号ピットからの出土であるため掲載した。ほかに本節に掲載しなかったが、第73図144号土坑No13が独特の形状をしており、土製品の可能性も考えられる。

以上、本遺跡出土の土製品をまとめ、若干の説明を加えた。本来であれば他遺跡の類例を集成し、もっと踏み込んで論じるべきであるが、時間等の制約があるため本遺跡出土遺物の集成にとどめておく。

第4節　出土石皿について

阿左美遺跡からは、縄文時代の石器は剥片類をのぞき477点の石器が出土している(うち、遺構内出土223点)。出土石器の内訳をみると、打製石斧143点(30.0%)、石鏃70点(14.7%)、加工痕のある刺片93点(19.5%)、など打製石器の出土量が多く、上位3器種で石器全体の60%以上を占める。礫石器は総重量こそ90%近くを占めているが、出土点数では凹石31点(6.5%)、磨石23点(4.8%)、敲石18点(3.8%)、石皿13点(2.7%)、多孔石10点(2.1%)と20%未満である。石材構成はホルンフェルス182点(38.6%)、粗粒輝石安山岩93点(19.5%)、チャート84点(17.6%)と在地系石材主体であり、他地域の石材は利根川流域に多い黒色頁岩26点(5.5%)や黒色安山岩17点(3.6%)等が客体的に確認されたのみである。これを大間々扇状地上の大規模縄文遺跡と比較すると、第13表のようになる。比較検討した3遺跡は北関東自動車道関連の調査遺跡であり、伊勢崎市天ヶ堤遺跡が大間々扇状地Ⅰ面(桐原面)、伊勢崎市下田遺跡は大間々扇状地Ⅱ面(藪塚面)、太田市大道東遺跡は現渡良瀬川段丘面上の遺跡である。いずれの遺跡も打製石斧と石鏃、加工痕のある刺片の比率が高く、礫石器は高い数値ではないがこれらに次ぐ比率となっている。阿左美遺跡はこの傾向に合致している。

●阿左美遺跡出土石皿の概要

石皿は1区土坑から4点、1区遺物包含層から2点、2区土坑から2点、2区遺物包含層から1点、3区土坑から1点、5区遺物包含層から1点、7区竪穴建物から1点、合計12点が出土している(第174図、第14表。ミニチュア石皿をのぞく)。出土位置は明らかに調査区北東半の1・5・7区、すなわち袋状土坑群の分布範囲と県史跡近接地に偏っており、縄文時代遺構の分布傾向と合致している。

形態別では、Ⅰ a類^(注1)が包含層出土1点、Ⅰ b類が土坑出土1点と包含層出土1点の計2点、Ⅱ a類が包含層出土1点、Ⅱ b類が竪穴建物出土1点と土坑出土5点と包含層出土2点の計8点、未製品が土坑出土1点と、Ⅱ b類が60%以上を占めている^(注2)。

石皿12点中、欠損品は8点である。Ⅰ a類が1点中の1点、Ⅰ b類が3点中の1点、Ⅱ a類が1点中の1点、Ⅱ b類が7点中の5点が欠損している。欠損率は66.7%であり、うちⅠ b類の欠損率が33.3%と低い。

石皿の大きさは長軸(9.2)～35.4cm^(注3)、短軸(4.0)～27.4cm、厚さ4.3～11.3cm、重量160.7～8300.0gの範囲にある。ここで、厚さについて着目すると、厚さ11cm以上の厚手のものと9.3cm以下の薄手ものがあることがわかる。断面形等から、厚手のものは断面形が厚めの楕円盤(以下、厚楕円盤)、薄手のものは断面形が薄めの楕円盤(以下、薄楕円盤)または扁平盤を素材としていることがわかる。これを仮に厚手を「厚形」と薄手を「薄形」とする。なお、「厚形」はⅡ b類と未製品の2点であり、Ⅰ類は存在しない。

縁以外の加工・装飾がなされているものは8点である。Ⅰ b類3点中の裏面1点と裏面2点、Ⅱ b類が7点中の裏面3点(うち「厚形」1点)、未製品が1点中の裏面1点(「厚形」1点)に凹石状の加工が施されている。文様や脚の形成は見られない。

石材はすべて粗粒輝石安山岩である。多少の粗密があるが、形態ごとに著しい差はない。

●241号土坑出土石皿(未製品)

1区241号土坑から出土した石皿(以下、241号土坑出土石皿、第174図9)は、1区土坑出土石皿4点のうちの1点である。形態は未製品であり、欠損部分ではなく、粗粒輝石安山岩岩製である。大きさは長軸30.3cm、短軸20.9cm、厚さ11.3cm、重量8300.0gと他と比べ厚く重く、厚楕円盤を素材とした「厚形」である。241号土坑土坑からは縄文時代後期前半(称名寺式～堀之内1式)の土器片が出土しており、石皿も同時期の所産と考えられる。石皿と縄文土器片の出土状況は不明である。

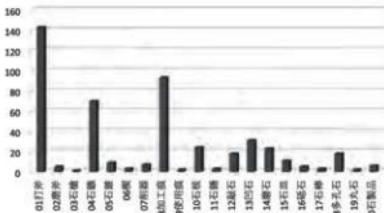
241号土坑出土石皿の表面は敲打による作業面の形成途中であり、周囲の縁の範囲はすでに定まっているように見える。裏面には凹石状の加工がなされている。形成途中ではあるが作業面中央部に高まりがあり、東北地方の後期のいわゆる「中高石皿」のように見えるが、Ⅱ類であることも十分に考えられる。なお、東北地方の遺物は調査区内から出土していない。

島状の高まりは周囲の作業面と同様に敲打により形成

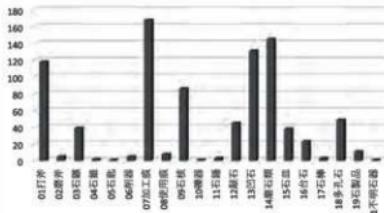
第13表 石器組成表

ア左美遺跡石器組成(除剥片)	下田遺跡石器組成(除剥片)	大道東遺跡包含層石器組成(除剥片)	天ヶ堤遺跡石器組成(除剥片)				
			調査区	II~IV	II	III	IV
01打斧	143 01打斧	1573 01打斧	118 01打斧	453	23	333	97
02磨斧	5 02磨斧	24 02磨斧	5 02磨斧	20	10	10	10
03石槍	1 03石槍	6 03石槍	39 03石槍	270	11	174	85
04石鏟	70 04石鏟	70 04石鏟	2 04石槍	9	2	5	2
05石錐	9 05石錐	92 05石錐	1 05石錐	120	13	72	35
06楔	3 06楔	48 06楔	5 06石匙	3		3	
07削器	7 07削器	167 07加工痕	168 07削器	186	17	131	38
08加工痕	93 08加工痕	927 08使用痕	8 08加工痕	193	11	130	52
09使用痕	2 09使用痕	0 09石核	96 09その他(剥片系)	88	6	53	29
10石核	24 10石核	29 10石核	1 10石核(含原石)	63	10	41	12
11石錐	3 11石錐	0 11石錐	3 11石錐	2		1	1
12鉋石	18 12鉋石	48 12鉋石	45 12鉋石	29	1	18	10
13門石	31 13門石	32 13門石	131 13門石	49	1	30	18
14磨石	23 14磨石類	221 14磨石類	145 14磨石類	86	4	53	29
15石皿	11 15石皿類	47 15石皿	38 15石皿類(含台石)	51	3	28	20
16砥石	5 16砥石	10 16台石	23 16砥石	13		7	6
17石棒	3 17石棒	8 17石棒	3 17石棒	8		4	4
18多孔石	18 18多孔石	52 18多孔石	49 18多孔石	46	4	23	19
19丸石	2 19丸石	0 19石製品	11 19その他(礫石器)	21	1	12	8
20石製品	6 20石製品	0 21不明石器	1 20石製品(袋身具類)	9		6	3
21不明石器	0 21不明石器	35	21石製品(不明)	3		2	1

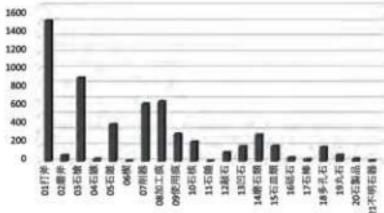
阿左美遺跡石器組成(剥片類を除く)



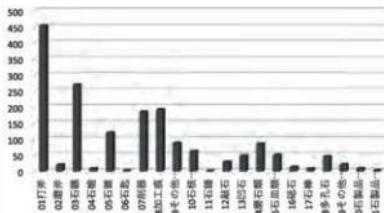
大道東遺跡包含層石器組成(剥片類を除く)

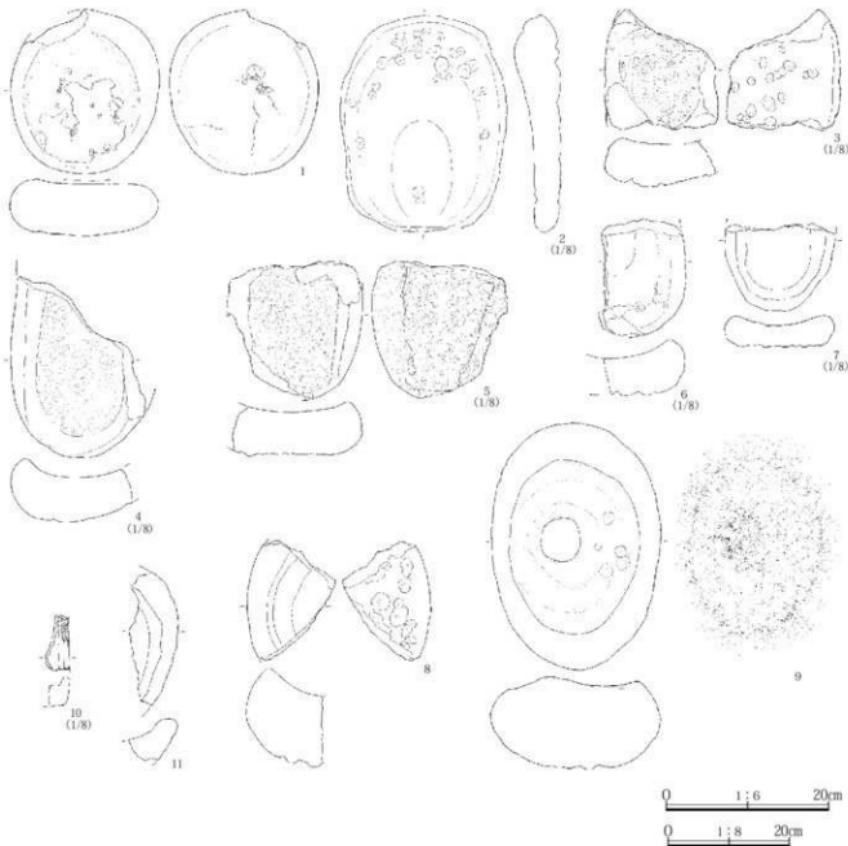


下田遺跡石器組成(剥片類を除く)



天ヶ堤遺跡石器組成(剥片類を除く)





第174図 阿左美遺跡の石皿

第14表 阿左美遺跡の石皿

No	出土遺構	長軸	短軸	厚さ	重量	形態	円石状加工	石材	縁形状	備考
1	1北K315土坑	20.2	18.1	7.9	4155.1	I b	裏	粗研安	薄	
2	7南K6a層穴建物	35.4	27.4	7.6	7900.0	II b	表裏	粗研安	薄	
3	1南K141土坑	(19.8)	(18.8)	8.0	(2768.0)	II b	裏	粗研安	薄	
4	2区101土坑	(29.8)	(22.2)	(11.0)	(6900.0)	II b		粗研安	薄	
5	2区115土坑	(22.7)	(22.3)	9.0	(5582.8)	II b	裏	粗研安	薄	
6	3区80土坑	(19.2)	(14.3)	9.3	(2439.9)	II b	裏	粗研安	薄	
7	1区包含層	(14.3)	18.3	5.2	(1525.2)	II b		粗研安	薄	
8	1南K159上坑	(14.7)	(10.8)	12.1	(1957.1)	II b	裏	粗研安	厚	
9	1南K241上坑	20.9	30.3	11.3	8300.0	未製品	裏	粗研安	厚	
10	1区包含層	(9.2)	(4.0)	4.3	(66.2)	I a		粗研安	不明	
11	2区包含層	(16.4)	(6.1)	(5.5)	(283.7)	II b		粗研安	不明	
12	5区包含層	29.7	24.2	5.7	6300.0	I a		粗研安	薄	因省略
※	7区包含層	12.4	7.5	4.7	653.5	II b	裏	粗研安	厚	ミニチュア、因省略

されている。II・III類などの「有縁石皿」の製作過程においては、作業面中央部からと縁からの連続敲打の二通りが想定されている^(注4)。縁から形成されるとすると、241号土坑出土石皿は「中高石皿」のような島状の高まりは存在するが、中高部の形成途中なのか平坦または浅く凹む作業面の形成途中なのかを判別することは難しい。この島状の高まりについては、石皿長軸方向の中心軸から外れている。しかし、短軸方向から眺めると(第174図9)、島状の高まりは左側に片寄り、左側の縁は幅が狭いことに気付く。一見、短軸側に掘出し口を形成するかのように見えるものの、狭いながらも縁は廻っており、未製品であるがために非対称となっていると考えるのが現段階では妥当であろう。すると、完成形としてはII類である可能性が高くなる。

●阿左美遺跡出土石皿と大道東遺跡出土石皿

ここで、241号土坑出土石皿を中心に阿左美遺跡出土石皿と未製品の多く出土した大道東遺跡出土石皿^(注5)を中心に、いくつかの視点から比較検討を行いたい。241号土坑出土石皿と同様に作業面中央部の島状の高まりのある石皿の類例として、太田市大道東遺跡遺物包含層出土石製品改め石皿(Na560)(以下、大道東遺跡出土Na560石皿。称名寺I式。第175図左下)^(注6)に加えて伊勢崎市(旧佐波郡東村)下田遺跡I区3号住居跡出土石皿(Na15)(以下、下田遺跡3号住居跡出土石皿。加曾利EIV式～称名寺I式。第176図最下段)を取り上げたい。なお、241号土坑出土石皿は未製品であるのに対し、類例2点は完成品のIII類である。

《石皿の厚さについて》

厚さについて比較すると、大道東遺跡出土Na560石皿は厚さ15.0cmである^(注7)。同遺跡出土の他の石皿未製品が厚さ10.6～19.0cm、石皿が厚さ3.0～10.0cmであることと比較すると明らかに厚く、間違なく「厚形」と言える。なお、大道東遺跡出土Na560石皿をのぞき、大道東遺跡出土石皿の完成品はほぼ「薄形」(第176図最下段のぞく)、未製品は「厚形」(第175図)である。対して、下田遺跡3号住居跡出土石皿は厚さ8.8cmと、同遺跡出土石皿の厚さ5.4～15.8cmの中ではやや薄めであり、「薄形」である。241号土坑出土石皿は厚さ11.3cmであり、大道東遺跡出土の石皿未製品に近い数値で、「厚形」であ

る。また、大道東遺跡出土Na560石皿、下田遺跡3号住居跡出土石皿の島状の高まりの上部は平坦に整えられている。これらのことから、断面梢円碟を素材とする「厚形」未製品は、241号土坑出土石皿をふくめ製作途中であるため完成形は現状より薄くなる可能性がある。

大道東遺跡出土Na560石皿、下田遺跡3号住居跡出土石皿とも裏面に凹石状の加工があるが、孔はともに4か所と少ない。表面石皿と裏面凹石との関係は241号土坑出土石皿以上に不明であり、表裏一体か転用(石皿⇒凹石)か判然としない。表裏逆転し凹石を上に配置しても、不安定というわけではない。

なお、凹石状加工はI類、II類、III類、「厚形」、「薄形」を問わず存在し^(注8)、表面にも存在する場合がある。

《石皿の石材について》

阿左美遺跡出土石皿、大道東遺跡出土石皿、下田遺跡3号住居跡出土石皿いずれも粗粒輝石安山岩である。石皿に使用される石材は、安山岩93.3%、片岩5.3%、玢岩0.5%、花崗岩・閃綠岩・堆積岩各0.3%であり、形態別に大きな差はないことから^(注9)、この傾向に合致する。石皿は台石等とは石材の選択性が異なり、明らかに安山岩を志向している。参考までに、台石に使用される石材は、他地域の例ではあるが、閃綠岩72.9%、砂岩11.0%、玄武岩5.7%、片岩2.9%、緑色凝灰岩(遠隔地)1.7%、花崗岩1.6%、安山岩1.2%、斑櫛岩1.0%、凝灰岩0.7%、玢岩0.7%、頁岩・泥岩0.1%、その他0.4%と安山岩の比率はきわめて低い^(注10)。

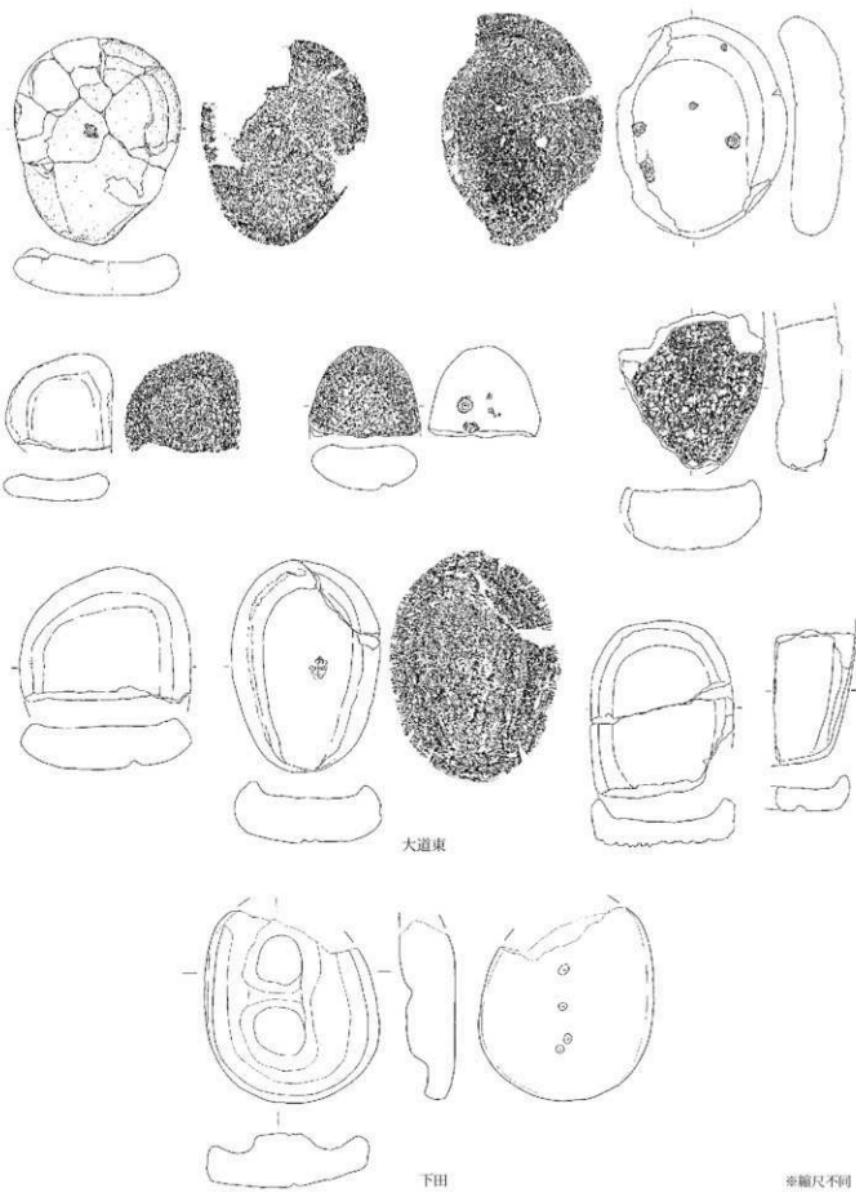
《渡良瀬川河床碟との比較》

阿左美遺跡周辺には阿左美沼から続く浅い谷や、大間々扇状地一八王子丘陵間に広がる低地部があり、ここでも旧渡良瀬川由来の河床碟は採集可能であったろうが、遺跡が残されたころには谷が埋まり、十分な量の河床碟が採集できなくなっていた可能性が高く、すでに東遷を終えた現渡良瀬川の川筋を直近の石材採集地とするのが妥当と考えた。比較対象とした河床碟は現渡良瀬川河川敷のうち阿左美遺跡の北東約2.5kmの錦桜橋下と東南東約4.8kmの松原橋下から採集された河床碟(第15表)である。碟サイズや厚さ等を踏まえ、以下出土した石皿と河床碟について比較検討を行いたい。

扁平碟は肉眼観察により、また、厚さ／短軸が0.44を厚梢円碟と薄梢円碟の境界とした。厚梢円碟6点、薄梢



第175図 大道東遺跡の石画

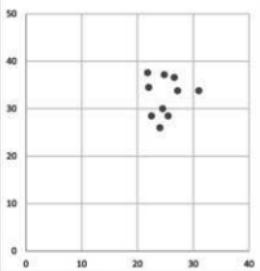


第176図 大道東遺跡・下田遺跡の石皿

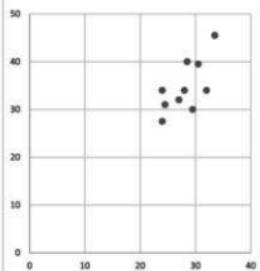
第15表 渡良瀬川河床礫（安山岩）

採集地点	サンプル番号	長軸	短軸	厚さ	厚さ／短軸	礫形状	断面形状
錦桜橋下	1	34.5	22.0	13.5	0.61	楕円形	厚
錦桜橋下	2	28.5	25.5	9.0	0.35	円形	薄
錦桜橋下	3	26.0	24.0	9.8	0.41	円形	薄
錦桜橋下	4	28.5	22.5	8.2	0.36	楕円形	薄
錦桜橋下	5	33.8	31.0	13.6	0.44	円形	厚
錦桜橋下	6	37.2	24.8	12.4	0.50	楕円形	厚
錦桜橋下	7	37.6	21.8	10.4	0.48	楕円形	片扁平
錦桜橋下	8	30.0	24.5	8.6	0.35	楕円形	薄
錦桜橋下	9	36.6	26.6	10.6	0.40	楕円形	薄
錦桜橋下	10	33.8	27.2	15.6	0.57	楕円形	厚
松原橋下	1	34.0	24.0	11.5	0.48	楕円形	片扁平
松原橋下	2	27.5	24.0	10.5	0.44	円形	厚
松原橋下	3	39.5	30.5	10.0	0.33	楕円形	薄
松原橋下	4	40.0	28.5	14.5	0.51	楕円形	片扁平
松原橋下	5	34.6	28.0	9.0	0.32	楕円形	薄
松原橋下	6	31.0	24.5	9.5	0.39	楕円形	薄
松原橋下	7	45.5	33.5	13.5	0.40	楕円形	片扁平
松原橋下	8	30.0	29.5	11.5	0.39	円形	薄
松原橋下	9	34.0	32.0	15.5	0.48	円形	厚
松原橋下	10	32.0	27.0	8.5	0.31	楕円形	薄
平均値		33.7	26.6	11.3	0.43		

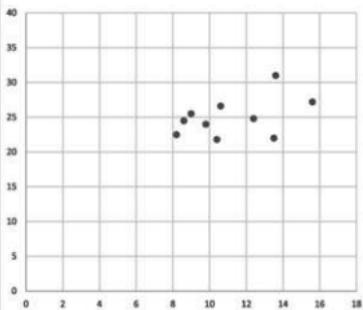
錦桜橋下（長幅比）



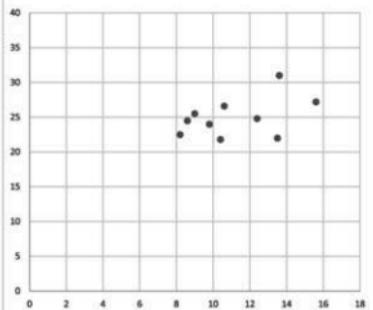
松原橋下（長幅比）



錦桜橋下（幅／厚）



錦桜橋下（幅／厚）



円環は10点、片面扁平環は4点である。片面扁平環はⅠ類として素材のまま使用可能であることから、加工が必要な厚・薄梢円環の中で考えると、「厚形」の素材となる厚梢円環は16点中6点(37.5%)である。阿左美遺跡における「厚形」は前述のように12点中3点(25.0%)であり、やや比率が低めである。

《石皿裏面の凹石状加工について》

241号土坑出土石皿をはじめ阿左美遺跡出土石皿には、前述のように裏面に凹石状加工がなされているものが多い。241号土坑出土石皿は表面が形成途中であることから、裏面の凹石が表面の石皿に先行、すなわち凹石から石皿への転用の可能性が高い。もしくは、表面石皿裏面凹石の表裏一体が完成形の可能性も考えられるが、現段階では如何とも言い難い。

《作業面中央部の島状の高まりのある石皿について》

大道東遺跡出土の石皿未製品(第175図)は、いずれも縁から形成されており、掲出しきは形成されているものと形成されていないものがある。掲出しきは長軸方向に形成されている。大道東遺跡出土No.560石皿、下田遺跡3号住居跡出土石皿とも長軸方向に欠損した掲出しきの形成が見られず、前述のように短軸方向に形成されつつあるようにも見えながらも縁が残っている。島状の高まりの上部を見ると、大道東遺跡出土No.560石皿、下田遺跡3号住居跡出土石皿は平坦に整えられている。高まりの周囲を見ると、大道東遺跡出土No.560石皿、下田遺跡3号住居跡出土石皿とも使用痕は明確ではない。241号土坑出土石皿は未製品のため作業面が粗く敲打されている。このように見ると共通点は少なく、241号土坑石皿をⅢ類の未製品と積極的に評価することは難しい。

比較した結果、以下の点が明らかとなった。

- ・厚さにおいて「厚形」「薄形」の2つの傾向がある。
- ・阿左美遺跡出土石皿はすべて安山岩であり、安山岩が90%以上を占める石皿石材の傾向に合致し、問題はない。
- ・「厚形」の素材となる厚梢円環は現河床礫のうちに占める比率が低く、そのため「厚形」の出土点数に占める比率が低い。
- ・241号土坑出土石皿の裏面に凹石状の加工が存在し、石皿は凹石からの転用の可能性が高いものの、表裏一体

か転用か断言するには至らない。他の石皿についても同様である。

- ・241号土坑出土石皿は、Ⅲ類の未製品とすることは難しく、Ⅱ類の未製品である可能性が高い。

以上、「厚形」「薄形」や河床礫との比較など、新たに気づかされた点も多い。後々の検討課題としたい。

註

(1)石皿の形態分類は以下の通り(田村2013・2014、旧分類は田村2000・2001)。

1類 縁の形成が見られない

a 平坦な作業面を有する

b 深く凹む作業面を有する(旧II b (使))

II類 縁の形成が見られる

a 平坦な作業面を有し、縁の形成が見られる

b 深く凹む作業面を有し、ゆるやかに立ち上がる縁の形成が見られる(旧II b (整))

c 深く凹む作業面を有する(旧II b)

III類 縁および作業面中央部の島状の高まりの形成が見られる

(2)田村2002ではⅠb (I b + II b)類が55.5%、本遺跡ではⅠb類+II b類とすると6.9%の率となる。

(3)面積付き数値は欠品。

(4)上條2007。板垣2019では作業面全体を平均に敲打しているように見える。

(5)岡崎ほか2009によると、当該遺物は包含層出土扱いであるが、実際は古代の219号土坑からの出土である。219号土坑は純文字時代後期初頭(称号名「式」)の73号住居内にあり、当該遺物は本来的には73号住居に帰属するものであるという。田村2017ではⅢ類としたため、「改め石皿」の文言を挿入した。

(6)岡崎ほか2009では石製品とされるものも含む。

(7)以下、計測値は小林2008・岡崎ほか2009の遺物観察表および図版による。

(8)田村2002では546点中215点(39.8%)に凹石(凹円)状の加工があるが、転用かどうか個別に判断していない。

(9)田村2002。但し、II c (旧II b)類は安山岩87.5%、片岩12.5%と片岩の比率が高い。

(10)上條2015の東京都野川・仙川流域における台石の石材別点数を集計した。台石には玄武岩・花崗岩・閃緑岩など、目が細かく、硬く、垂直方向の方に対して抵抗力のある石材が選ばれているといふ。

参考文献

板垣篤河2019「堅果類食料化の実験考古学」『神奈川考古』55 神奈川考古学会会員 pp.91-106

岩崎泰一ほか2009「大道東遺跡(1) -純文字時代編-」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

上條2007「敲打製石製品の製作技術-石皿の素材採集から製作までを中心に行なう考古学研究」54-1 考古学研究会 pp.26-46 / 2015「獨立時代における脱穀・粉砕技術の研究」六一書房

久保田正2016「石皿-圓削成形の基礎的実験-」『立正考古』53 立正大学考古学研究会 pp.37-62

小林徹2008「下田遺跡(2)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

閑根憲二ほか2007「天ヶ堤遺跡(1)」(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

田村博2000「石皿考-石皿分類私案-」「多摩考古」30 多摩考古学研究会 pp.45-51 / 2000「石皿・磨石の組み合わせについて」「利根川」

22 利根川同人 pp.43-47 / 2002「純文字時代における石皿の利用と変遷について-群馬県東部地域における石皿のあり方-」「中央史学」25 中央史学会 pp. 1-15 / 2013「ふたたび石皿の縁について-石皿分類私案の改訂-」「利根川」35 利根川同人 pp.22-24 / 2014「石皿の縁と色-第二回道民として-」「考古学の窓」33 國學院大學卒業生in群馬 pp.15-18 / 2017「伊勢崎市下田遺跡出土石皿および太田市大道東遺跡出土石製品の再検討」「研究紀要」35 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 pp.31-38

参考文献

〈参考文献〉

- 笠懸村教育委員会 1983 『阿左美遺跡調査概報』
- 笠懸村 1983 『笠懸村誌』別巻一 資料編 自然篇・原始古代篇
- 笠懸村 1985 『笠懸村誌』上巻
- 群馬県 1988 『群馬県史』資料編Ⅰ 原始古代Ⅰ
- 笠懸町教育委員会 1993 『笠懸町内遺跡Ⅰ』
- 笠懸町教育委員会 1995 『笠懸町内遺跡Ⅱ』
- 笠懸町教育委員会 2003 『西庭田中島遺跡発掘調査報告書(1)』
- 岩宿博物館 2009 『みどり市の縄文土器』企画展展示図録
- 小菅将夫 2010 「大間々扁状地の岩宿・縄文時代」『群馬県大間々扁状地の地域と景観－自然・考古・歴史・地理－』 大間々扁状地研究会
- 澤口 宏 2010 「大間々扁状地－社会基盤としての自然環境－」『群馬県大間々扁状地の地域と景観－自然・考古・歴史・地理－』 大間々扁状地研究会
- みどり市教育委員会 2010 『みどり市内遺跡1』
- 岩宿博物館 2011 『みどり市ゆかりの考古学者一個性が發揮された調査－』第51回企画展展示図録
- 谷藤保彦 2011 「関東内陸部における縄文時代中期・後期初頭の「土製貝輪形腕輪」」『扇檜林の考古学』 大竹憲治
先生還暦記念論文集刊行会
- みどり市教育委員会 2011 『みどり市内遺跡2』
- 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『北山遺跡』
- みどり市教育委員会 2012 『みどり市内遺跡3』
- みどり市教育委員会 2013 『みどり市内遺跡4』
- みどり市教育委員会 2014 『みどり市内遺跡5』
- 群馬県 2016 『第15次群馬県総合計画「はばたけ群馬プランⅡ」』
- みどり市教育委員会 2016 『みどり市内遺跡7』
- みどり市教育委員会 2018 『みどり市内遺跡8』
- みどり市教育委員会 2021 『みどり市内遺跡10』
- みどり市教育委員会 2021 『史跡岩宿遺跡保存活用計画』
- 谷藤保彦 2022 「群馬県内出土の板状土製品と他土製品－縄文時代中期から後期前葉の土製品類－」『研究紀要』 40
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

付表
1 石器集計表

〈縫穴別に見た器種構成〉

	打斧	石鑿	石錐	楔	加工痕	石核	敲石	凹石	磨石	石皿	石棒	多孔石	石製品	総計
2 縫穴	3	3	1		2									9
3 縫穴	1	1		1	1			2				1		7
4 縫穴	9	1	2		1	1	2		1			1	1	19
5 縫穴									1					1
6 縫穴									1	4	1	1		7
総計	13	5	3	1	4	1	2	4	5	1	1	2	1	43

〈石材 / 器種構成〉

	黒頁	砂岩	チャ	ホルン	黒曜	ディ	黒安	粗安	総計
2 縫穴			4	3	2				9
3 縫穴				2	1		1	3	7
4 縫穴	1	1	2	9	2			4	19
5 縫穴								1	1
6 縫穴						1		6	7
総計	1	1	6	14	5	1	1	14	43

〈石材 / 器種構成〉

縫穴建物すべて

	打斧	石鑿	石錐	楔	加工痕	石核	敲石	凹石	磨石	石皿	石棒	多孔石	石製品	総計
黒頁					1									1
砂岩												1		1
チャ		3	2			1								6
ホルン	13				1									14
黒曜		2	1		2									5
ディ											1			1
黒安				1					2	4	5	1	1	1
粗安												1	1	14
総計	13	5	3	1	4	1	2	4	5	1	1	2	1	43

2 縫穴

	打斧	石鑿	石錐	加工痕	総計
チャ		3	1		4
ホルン	3				3
黒曜				2	2
総計	3	3	1	2	9

5 縫穴

	凹石	総計
粗安	1	1
総計	1	1

3 縫穴

	打斧	石鑿	楔	加工痕	凹石	多孔石	総計
ホルン	1			1		2	
黒曜		1				1	
黒安			1			1	
粗安					2	1	3
総計	1	1	1	1	2	1	7

6 縫穴

	凹石	磨石	石錐	石棒	総計
ディ				1	1
粗安	1	4	1		6
総計	1	4	1	1	7

4 縫穴

	打斧	石鑿	石錐	加工痕	石核	敲石	磨石	多孔石	石製品	総計
黒頁				1						1
砂岩							1			1
チャ			1		1					2
ホルン	9									9
黒曜		1	1							2
粗安	9	1	2	1	1	2	1	1	1	19
総計										

付表

<土坑出土石器の器種石材構成>

	黒頁	珪頁	砂岩	溶凝	チャ	ホルン	粘板	黒曜	流紋	ディ	黒安	細安	変安	粗安	変質蛇	綠片	總計
打斧	1				1	30	1				1					1	35
磨斧															1		1
石槍				1													1
石鑿				10				2			5						17
石錐					1												1
削器						1	1					1					3
加工痕	1	3			1	4	17		2			1					29
使用痕	1					1											2
石核						7	6	1									14
敲石							1						5				6
閃石										1			9				10
磨石													8				8
石皿												5					5
砥石				1													1
石棒												1			1		2
多孔石													8				8
丸石													1				1
石製品													2				2
總計	3	3	1	1	26	55	1	3	2	1	6	2	1	38	1	2	146

<土坑出土石器一覧 1>

	打斧	磨斧	石槍	石鑿	石錐	削器	加工痕	使用痕	石核	敲石	閃石	門石	磨石	石皿	砥石	石棒	多孔石	丸石	石製品	總計
100坑									1							1	1			3
101坑											2									5
108坑											2									3
114坑	7						1	4		2									16	
115坑	1														1	1			3	
124坑									1											1
125坑	1			3				1	1											6
129坑												1				1				2
132坑					2			1												3
133坑	1																			1
138坑					1				3	1	1			1						7
141坑														1			3			4
142坑										1										1
155坑	1				1								1							3
177坑											1									1
192坑													1							1
193坑													1							1
194坑	1										1									2
195坑	1										1									2
198坑	4					3		1	2	2	1					1	1		15	
208坑											1									1
222坑	1					1														2
224坑	1										2									3
225坑	1																			1
226坑	1																			1
227坑									1											1
229坑					1										1					1
236坑	1					1	1		1	1										5
237坑														1						1
241坑					1													1		2
242坑									1											1
261坑	1																			1
273坑	3										1									4
274坑									1											1
284坑	2								1											3
285坑	1										1									2
307坑									1											1
313坑									1											1

〈土坑出土石器一覧2〉

	打斧	磨斧	石鎌	石鏟	石錐	削器	加工痕	使用痕	石核	敲石	門石	磨石	石頭	砥石	石棒	多孔石	丸石	石製品	総計
314坑	1																		1
315坑																			1
316坑	1								1										2
33坑									1	1									2
34坑									1										1
38坑				1															1
42坑								1											1
43坑								1											1
44坑	1				1				1										3
47坑									1								1		2
49坑	1																		1
53坑									1										1
54坑																			3
55坑					3														3
57坑						1													1
63坑												1							1
64坑	1			2															3
70坑							1												1
80坑	1										1						1		4
96坑								1											1
総計	35	1	1	17	1	3	29	2	14	6	10	8	5	1	2	8	1	2	146

〈ビット出土石器の岩種石材構成〉

	打斧	石鎌	削器	加工痕	石核	総計
黒頁				1	1	1
珪質				1	1	
チャ	3			1	4	
ホルン	1	1	2		4	
黒曜	2				2	
黒安			1	1	1	
総計	1	5	1	5	1	14

〈ビット出土石器一覧〉

	打斧	石鎌	削器	加工痕	石核	総計
218坑					1	1
117P					1	1
252P					1	1
257P			1			1
265P	1					1
294P					1	1
297P				1	1	2
319P					1	1
339P		1				1
340P		1				1
341P				1	1	
359P		1				1
95P		1				1
総計	1	5	1	5	2	14

〈包含柄出土石器の岩種石材構成〉

	打斧	磨斧	石鎌	石鏟	楔	削器	加工痕	石核	石錐	敲石	門石	磨石	石頭	砥石	多孔石	丸石	石製品	総計
黒頁	9	1	2	1		3	5											21
頁岩								1		3	1							5
珪質	2		1			1												4
砂岩	1									2		1	4					8
泥凝											1					1		2
チャ			28	4	2		12	2										48
ホルン	72						32	1		3		1						109
黒曜			5					2										7
玉髓			1								1							1
褐碧																		1
ダイ			1															1
黒安			5				2	2										9
細安	7							2										9
斐安	2																	2
粗安										4	16	7	5		8	2		42
斐輝		2																2
斐玄		1																1
珪準片	1																	1
花斑												1						1
軽石																1		1
総計	94	4	43	5	2	3	55	8	3	10	17	10	5	4	8	1	3	275

付表

2 遺物観察表

2号竪穴建物

補 図 PL.No.	補 類 器 種	出土位置 残 存 事	計測値	胎土/焼成/色調 石 材 / 材 素 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第11図 PL.49	1 深鉢	理縫 口縫×胸中位 2/3	口 (35.8)	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隆帯による口縫部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	2 深鉢	理上 口縫部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	隆帯による口縫部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	3 深鉢	理上 口縫部破片		粗砂/良好	隆帯による口縫部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	4 深鉢	理上 口縫部破片		粗砂、白色粒/ふ つう	隆帯による口縫部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	5 深鉢	理上 胸部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、複節RLR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	6 深鉢	P2内 胸部破片		粗砂、白色粒/ふ つう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	7 深鉢	P1内 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	8 深鉢	床下 8 cm 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	9 深鉢	理上 胸部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、複節RLR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	10 深鉢	床下 2 cm 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /雲母/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	11 深鉢	理上 胸部破片		粗砂、輝石、白 色粒、輝石、石英 /良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	12 深鉢	理上 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文、ワラビ状状態垂文を施す。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	13 深鉢	床上 2 cm 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	14 深鉢	理上 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隆帯による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	15 深鉢	理上 口縫部破片		粗砂/良好	沈線による梢円状文、横位沈線を施す。地面上に墨系Lを 縦位施文。	加曾利E2式	
第12図 PL.49	16 深鉢	理上 口縫部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隆帯による口縫部区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E2式	
第12図 PL.49	17 深鉢	理上 口縫部破片		粗砂/ふつう	隆線をめぐらして口縫部無文帶を区画、隆線上に弧状沈 線を施す。RL縦文を充填施文する。	加曾利E4式	
第12図 PL.49	18 深鉢	床下 0 cm、理上 胸部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による梢円状モチーフを施し、複節RLR縦文を充填 施文する。	加曾利E3式	
第12図 PL.49	19 土製品	床下 22 cm 完形	4.0 厚 3.8	1.1 粗砂、白色粒、輝 石/良好	円形の取扱の上製品、断面はややレンズ状を呈す。ボタ ン状孔と2個の円孔を並列させる。	加曾利E2式	
第12図 PL.49	20 石鑿	床上 5 cm 完形	1.7 厚 2.0 重	0.3 チャート	完成状態。押圧・剥離が器体全面を覆う。薄手の作り。基 部を深く抉り込み、左右の脚は長い。	凹基無茎鑿	
第12図 PL.49	21 石鑿	理上 完形	長 幅	3.6 厚 2.3 重	0.7 チャート	未製品。石器基部を深く抉り、器体中央より上半の側縫 を絞り込む。先端部は加工が進み完成状態に近づいている が、以下の加工は粗く裏面側には素材面が残る。先細 る形状は加工の進捗に連動する可能性が大。	凹基無茎鑿
第12図 PL.49	22 石鑿(ドリ 完形)	理上 完形	長 幅	2.6 厚 0.9 重	0.7 チャート	小形の板状剥片の端部を粗く加工して機能部を作出する。 機能部は新鮮で、摩耗痕等は見られない。	
第12図 PL.49	23 打製石斧	理上 完形	長 幅	(9.8) 厚 (5.9) 重	1.6 106.0	未製品。左刃側裏面は未加工。右刃頭部および刃部を欠 損する。肉側縫もまた摩耗は見られずシャープ。	短細形
第12図 PL.49	24 打製石斧	理上 完形	長 幅	10.5 厚 4.1 重	1.8 90.4	完成状態。全体的に楕円が通し、刃部および側縫は鋭く 摩耗するように見える。刃部側加工は丁寧で刃部再生も 考慮する必要がある。	短細形

3号竪穴建物

補 図 PL.No.	補 類 器 種	出土位置 残 存 事	計測値	胎土/焼成/色調 石 材 / 材 素 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第14図 PL.50	1 深鉢	理縫 上位 1/3		粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。 文様帶上端無文部にS字文を配す。	加曾利E3式
第14図 PL.50	2 深鉢	理上 口縫部破片		粗砂、白色粒/良 好	隆帯による口縫部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文 する。	加曾利E3式
第14図 PL.50	3 深鉢	床上 4 cm 口縫部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隆帯による口縫部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文 する。	加曾利E3式
第14図 PL.50	4 深鉢	理上 口縫部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	隆帯による口縫部梢円状区画を施し、複節RLR縦文を充 填施文する。	加曾利E3式
第14図 PL.50	5 深鉢	口縫部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	沈線による口縫部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文 する。	加曾利E3式
第14図 PL.50	6 深鉢	理上 胸部破片		粗砂/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第14図 PL.50	7 深鉢	床上 8 cm 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 材石・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第14回 PL.50	8	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	沈線による口縁部格円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第14回 PL.50	9	深鉢	理上 脚部破片		粗砂、白色粒/ふつ う	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第14回 PL.50	10	深鉢	理上 脚部破片		粗砂/良好	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第14回 PL.50	11	深鉢	床土 4cm 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位沈線をめぐらして幅状な口縁部無文帯を区画、3条 沈線による逆U字形状モチーフを施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第14回 PL.50	12	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	2条沈線による逆U字形状モチーフを施し、RL縦文を充填 施文する。	加曾利E3式
第14回 PL.50	13	深鉢	理上 脚部破片		粗砂、輝石/ふつ う	2条沈線による弧状モチーフを施し、LR縦文を充填施文 する。	加曾利E3式
第14回 PL.50	14	深鉢	床土 5cm 脚部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	刺突を作った状態沈線をめぐらし、頭部無文帯を区画、 口縁部に横位沈線をめぐらす。	加曾利E2式
第14回 PL.50	15	深鉢	P2内 脚部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	沈線による逆U字形状モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第14回 PL.50	16	深鉢	P3内 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	波状口縫、沈線をめぐらして幅狭な口縁部無文帯を区画、 沈線下にRL縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第14回 PL.50	17	深鉢	理上 脚部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	帶状模様による曲線モチーフを施し、列点を充填施文する。 名称寺式	
第14回 PL.50	18	浅鉢	理上 脚部破片		粗砂、輝石/ふつ う	円孔を洗つて凹面化し、以下、沈線による懸垂文状の モチーフを施す。 外面部赤。	中崩後葉
第14回 PL.50	19	石器	理上 完形	長 幅 1.6 厚 0.2 1.3 重 0.3	黒曜石	完成状態。表面裏面とも理上削離が全面を覆う。	凹基無茎纈
第14回 PL.50	20	楔形石器	理上 完形	長 幅 3.0 厚 1.1 2.1 重 7.7	黑色安山岩	上端側裏面は平坦で、これを打面に内極削離したもので、 表面側上ト両端や裏面側下端部には内極削離に伴う剝離 痕が生じている。	
第14回 PL.50	21	打製石斧	理上 破片	長 幅 (5.4) 厚 (1.6) (4.9) 重 36.8	ホルンフェルス	未製作品。右刃部がノッチ状に加工され、これにより器種 認定した。頭部側削離面はシャープで、製作途上に左刃 側頭部附近で破損したと見えた。	分鋼形?
第15回 PL.50	22	凹石	理上 完形	長 幅 9.9 厚 5.1 8.5 重 675.4	粗粒輝石安山岩	表面側のアバタ状の裁打痕があるほか、表面裏面とも摩 耗形成するまで使い込まれている。	格円纈
第15回 PL.50	23	凹石	床土 3cm 完形	長 幅 14.8 厚 5.5 7.6 重 1004.9	粗粒輝石安山岩	表面裏面とも漏斗状を呈す錐み穴があり、摩耗する。断面 は右刃部が厚く、敲打・摩耗痕により錐稜線が生じるほどである。	格円纈
第15回 PL.50	24	多孔石	理上 1/2	長 幅 (15.9) 厚 5.5 13.1 重 1116.9	粗粒輝石安山岩	断面三形状を呈す亜角縁の線上に漏斗状を呈する錐 穴3個ある。裏面側は破損面。	

4号竪穴建物

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 材石・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第17回 PL.51	1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/ふ つう	隆帯による口縁部格円状区画を施し、複節RL縦文を充 填施文する。	加曾利E3式
第17回 PL.51	2	深鉢	床土 18cm 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隆帯による口縁部格円状区画を施し、RL縦文を充填施文 する。	加曾利E3式
第17回 PL.51	3	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隆帯による口縁部格円状区画を施し、RL縦文を充填施文 する。	加曾利E3式
第17回 PL.51	4	深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	2条の刺突例をめぐらして口縁部無文帯を区画、刺突例 下にLR縦文を施す。	加曾利E3式
第17回 PL.51	5	深鉢	理上 脚部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による口縁部格円状区画、胸部懸垂文を施し、RL 縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第17回 PL.51	6	深鉢	脚部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による脚部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文、 ワラビ形状模様を施す。	加曾利E3式
第17回 PL.51	7	深鉢	脚部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第17回 PL.51	8	深鉢	床土 10cm 脚部破片		粗砂、輝石/ふつ う	刺突例をめぐらして口縁部文様帶を区画、以下、沈線に よる刺突文を施し、複節RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第17回 PL.51	9	深鉢	床土 5cm 脚部破片		粗砂、赤色粒/ふ つう	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文、 蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第17回 PL.51	10	深鉢	理上 脚部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第17回 PL.51	11	深鉢	脚部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第17回 PL.51	12	深鉢	床土 12cm 脚部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第17回 PL.51	13	深鉢	理上 脚部破片		粗砂、輝石/白色 粒、輝石/良好	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第17回 PL.51	14	深鉢	脚部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文、 蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第17回 PL.51	15	深鉢	P2内 脚部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒、輝石/良好	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第17回 PL.51	16	深鉢	床土 5cm 脚部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	沈線による脚部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式

付表

掃 図 PL. No.	種 類 器	出上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第18回 PL. 51	17 深鉢	床下10cm 底部破片	底 6.0	粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	沈線による側部懸垂を施し、LR構文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第18回 PL. 51	18 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	波状口縁。波頂部下にワラビ手文を配し、沈線による懸垂文を施す。地文にRL構文を備文。	加曾利E2式
第18回 PL. 51	19 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	口縁下に連弧状の陰帯を貼付する。	加曾利E2式
第18回 PL. 51	20 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縁下に2条の弦線をめぐらし、以下、蛇行文や曲線モチーフを施す。地文に無筋充填文を施文。	加曾利E2式
第18回 PL. 51	21 深鉢	床下12cm 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	横位、ワラビ手状の陰部を貼付し、以下、沈線による懸垂文を施し、RL構文を縦位充填施文する。	加曾利E2式
第18回 PL. 51	22 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/良好	横位疣文をめぐらして幅状の口縁部無文帶を区画、沈線下に蛇行条線を充填施文する。	加曾利E3式
第18回 PL. 51	23 深鉢	床下11cm、理上 口縁部破片		粗砂、赤色粒、輝石/良好	横位疣文をめぐらして口縁部文様帶を区画、文様帶内に蛇行条線を充填施文する。口縁部無文帶。	加曾利E3式
第18回 PL. 52	24 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/ふつう	波状口縁。横位疣文をめぐらして幅状の口縁部無文帶を区画、沈線下に蛇行条線を充填施文する。	加曾利E3式
第18回 PL. 52	25 深鉢	理上 胸部破片		粗砂、輝石/良好	蛇行条線を充填施文する。	加曾利E3式
第18回 PL. 52	26 深鉢	床下4cm、 18cm、理上 制御破片	底 8.0	粗砂、赤色粒、輝石/良好	胸中位に2条の沈線をめぐらして文様帶を区画、上位に縦位条線を充填施文。下位に長方形状の懸垂文を施し、縦位条線を充填施文する。	加曾利E3式
第18回 PL. 52	27 深鉢	理上 底部破片		粗砂、赤色粒/ふ つう	縦位、弧状の弦線を充填施文する。	加曾利E3式
第18回 PL. 52	28 深鉢	床下18cm 胸部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	縦位条線を充填施文する。	中期後葉
第18回 PL. 52	29 深鉢	床下18cm、理上 胸部下位～底部破 片	底 8.0	粗砂、輝石/ふつ う	蛇行条線を充填施文する。	加曾利E3式
第18回 PL. 52	30 深鉢	理上 底部破片	底 3.9	粗砂、赤色粒/良 好	蛇行条線を充填施文する。	加曾利E3式
第18回 PL. 52	31 両耳壺	理上 把手		粗砂/良好	四縁を張り出せるように内部を凹ます。	中期後葉
第18回 PL. 52	32 両耳壺	床下6cm 口縁～胸上位破 片		粗砂、輝石/ふつ う	口縁部無文帶。屈曲部下に帯状による横円状区画を施し、縦位条線を充填施文する。	加曾利E3式
第19回 PL. 52	33 浅鉢	理上 口縁～胸中位破 片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	口縁部肥厚。無文。	中期後葉
第19回 PL. 52	34 石鑼	理上 完形	長 幅 2.3 厚 4.7 重 1.3	0.3 黒曜石	完成形状。表面と押圧剥離が全面を覆う。側縁は直線的だが、返し部は絞り気味で、ロケット状を呈す。	凹基無茎懸
第19回 PL. 52	35 石鑼(ドリ ル)	理上 完形	長 幅 1.9 厚 0.6 重 0.5	0.4 黑曜石	薄板状の小形斜剖片を用い、内側縁を折り取る機能部を作出する。上部の摩耗痕は装着痕とすべきものか。	
第19回 PL. 52	36 石鑼(ドリ ル)	理上 ほぼ完形	長 幅 2.2 厚 1.3 重 0.7	0.4 チャート	破損して本来の形状は不明だが、橿み部を有するタイプか。機能部は細く尖り、機能的強度が保たれているのか不安。	
第19回 PL. 52	37 打製石斧	理上 完形	長 幅 12.2 厚 4.7 重 175.8	2.6 ホルンフェルス	完成形状。胸中央付近および右側縁は僧帽痕と見られる。裏面左側部分には使用過程で生じた大きな剥離痕がある。	短圓形
第19回 PL. 52	38 打製石斧	理上 完形	長 幅 14.6 厚 5.1 重 134.5	2.1 ホルンフェルス	完成形状。側縁は開き気味で、刃部に最大幅がある。刃部むねび側縁下半に著しく摩耗する。	短圓形
第19回 PL. 52	39 打製石斧	理上 2/3	長 幅 7.7 厚 5.5 重 64.9	1.4 ホルンフェルス	完成形状。側縁は開き気味で、刃部に最大幅がある。刃部エッジが著しく摩耗する。全般的に風化が進む。	圓型
第19回 PL. 52	40 打製石斧	理上 完形	長 幅 8.0 厚 4.5 重 64.2	1.5 ホルンフェルス	完成形状。左側縁が摩耗し、刃部が大きく後退するなど僧帽痕の印跡で、石斧が使用過程の最終段階にあることは確実。右側縁は刃部とするのは難しい状況だが、器種転用されたためか、摩耗が進む。	短圓形
第19回 PL. 52	41 打製石斧	理上 1/3	長 幅 (6.7) 厚 6.3 重 108.8	2.3 ホルンフェルス	完成形状。当初は直刃状の刃部を塑定、側縁は箱型の削離したもとの捉え。箱型の石斧としてみたが、刃部の剥離がシャープであり、上下を反転して見た。この場合、石斧は10cmを超える大型剣になる。	短圓形?
第19回 PL. 52	42 研磨石	床下2cm	長 幅 9.7 厚 8.3 重 430.9	3.5 粗粒輝石安山岩	掌サイズ。表面と最も弱く摩耗する。横断面は右側縁が厚く、研磨痕が見られる。側縁の敲打痕は強烈。	扁平盤
第19回 PL. 52	43 藏石	理上 完形	長 幅 14.0 厚 7.6 重 904.3	5.7 粗粒輝石安山岩	掌サイズよりやや大形で、実り気味の上端に敲打痕がある。磨耗とともに使われた可能性が高い。	棒状盤
第19回 PL. 52	44 石製品	理上 完形	長 幅 8.4 厚 3.7 重 149.0	3.3 粗粒輝石安山岩	上端側小口部に摩耗痕を伴う敲打痕が広がる。敲打痕は4面を形成、先端形状は少し気味になる。	棒状盤
第19回 PL. 52	45 多孔石	理上 破片	長 幅 (8.7) 厚 (7.8) 重 131.7	1.7 砂岩	平坦な風化面に圓錐状の瘤み穴がある。瘤み穴は径2cmで、深さ5mm前後の大きさがある。	

5号窓穴建物

掃 図 PL. No.	種 類 器	出上位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第20回 PL. 52	1 深鉢	理上 制御破片		粗砂、輝石、石英 /良好	弧状沈線を施し、LR構文を充填施文する。	称名寺I式
第20回 PL. 52	2 深鉢	理上 制御破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	無文。	後期前葉

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第20回 PL.52	3	門石	埋土 ほぼ完形	長 幅 (7.6)	9.2 厚 重	4.1 307.9	粗粒輝石安山岩	表面側中央付近に漏斗状に近い窪み部2ヶ所、裏面側はアバウト状の窪み部がある。石材は多孔質であり摩耗痕は不明瞭だが、磨石とともに使用。敲打に伴い、側縁が破損する。	横円錐

6号竪穴建物

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石 材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第22回 PL.53	1	深鉢	P1内、側り 方 122.267m、 122.394m、 122.319m 口縁部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺1式
第22回 PL.53	2	深鉢	P1内 122.267m 口縁部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隙縫をめぐらして口縁部横内文帯を区画、隙縫下に弧状沈線を重ねさせ、LR繩文を充填施文する。	後期加曾利E系
第22回 PL.53	3	深鉢	P1内 122.267m 口縁部破片				粗砂、粗粒/ふつ う	隙縫による口縁部横内区画を施し、複節RLR繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第22回 PL.53	4	深鉢	122.305m、 122.271m 口縁部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺1式
第22回 PL.53	5	深鉢	P7内 122.325m、 122.298m 底部破片	底 (5.8)			粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第22回 PL.53	6	深鉢	P3内 制脚部破片				粗砂/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第22回 PL.53	7	深鉢	P3内 底部破片				粗砂/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施す。	加曾利E3式
第22回 PL.53	8	深鉢	122.389m、 122.383m 制脚部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺1式
第22回 PL.53	9	深鉢	122.400m 制脚部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺1式
第22回 PL.53	10	深鉢	P1内 制脚部破片				粗砂、白色粒、輝 石/石英/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺1式
第22回 PL.53	11	深鉢	理上 制脚部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺1式
第22回 PL.53	12	深鉢	制脚部破片				粗砂、輝石/良好	縦位条線を充填施文する。	中期後葉
第22回 PL.53	13	深鉢	122.288m 制脚部破片				粗砂、赤色粒、輝 石/良好	RL繩文を地文とし、隙縫による蛇行懸垂文を施す。	加曾利E2式
第22回 PL.53	14	深鉢	122.289m 122.297m 口縁部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隙縫による口縁部横内区画、沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第22回 PL.53	15	深鉢	122.329m、 122.288m 制脚部破片				粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第22回 PL.53	16	両耳壺	122.320m 制脚部破片				粗砂、輝石/ふつ う	沈線による横内区画を施し、RL繩文を充填施文、ワラ ビ手状懸垂文を施す。	加曾利E3式
第22回 PL.53	17	深鉢	122.327m 制脚部破片				粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、複節RLR繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第22回 PL.53	18	深鉢	側り方 制脚部破片				粗砂、白色粒/良 好	RL繩文を地文とし、2条沈線による弧状モチーフを描く。	加曾利E2式
第22回 PL.53	19	深鉢	側り方 制脚部破片				粗砂、白色粒、赤 色粒、輝石/良好	縦位条線を充填施文する。	中期後葉
第22回 PL.53	20	深鉢	側り方 口縁部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位沈線、LR繩文を施す。	称名寺1式
第22回 PL.53	21	深鉢	側り方 制脚部破片				粗砂、白色粒、輝 石、石英/良好	横位沈線をめぐらして区画、以下、弧状の集合沈線を施し、LR繩文を充填施文する。	脛之内1式
第23回 PL.53	22	門石	理上 完形	長 幅 9.0	11.8 厚 重	4.6 589.6	粗粒輝石安山岩	表面側とも最乾燥がある。敲打痕は漏斗状を呈しているが、浅く摩耗痕は伴わない。石材觀が粗く摩耗痕は不明瞭だが、磨石として使用されたものとみられる。右側縁の敲打痕は1ヶ所に集中、溝状に見える。	横円錐
第23回 PL.54	23	磨石	122.335m 完形	長 幅 7.7	12.1 厚 重	4.0 590.7	粗粒輝石安山岩	掌サイズ。表面側とも摩耗するほか、右側縁にも敲打・摩耗痕が広がる。敲打具として小口部両端の使用頻度は低い。	横円錐
第23回 PL.54	24	磨石	122.346m 完形	長 幅 8.2	8.6 厚 重	7.5 690.9	粗粒輝石安山岩	掌サイズの確、裏面側は平滑な摩耗に覆われているが、表面側は敲打を伴い摩耗痕が広がる点が特徴的で、多面体となる。	球形錐
第23回 PL.54	25	石棒	122.288m 1/3?	長 幅 10.8	(29.5) 厚 重	10.0 3780.6	変質ディサイト 粗粒輝石安山岩	断面は三角形状を呈す。表面側の稜脚部付近に漏斗状の窪み穴を2つ。器体下半を大きく欠損。全面が被熱して亀甲状に割れる。	自然石利用
第23回 PL.54	26	石皿	122.312m 完形	長 幅 27.4	35.4 厚 重	7.6 7900	粗粒輝石安山岩	手前側が開き搔き出している。上端側には漏斗形の窪み穴が集中する。裏面側は風化の差があり平面上に整形されている可能性が高い。平面面の外縁をなぞるように窪み穴が分布する。	有縫

付表

7号竪穴建物

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第258PL. PL.54	1	石器	内側 完形	長 幅	2.1 1.5	厚 重	0.8 1.7	黒曜石	未製品。加工は段階状剥離となり、裏面側に素材面を残す。 概形は側縁が先端部が開き、途中基部側で折れ、基盤に並行、全体としてロゴット状の概形となる。	凹基無茎圓
第258PL. PL.54	2	深鉢	P1内 側部破片					繊砂/ふつう	沈殿による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縱位充填施文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第258PL. PL.54	3	上製品	P1内 破片	高 厚	2.8 0.8			繊砂/良好	断面板状で高さのある貝輪状上製品。外側に内傾する。 外側整形によるU凹頭著。外側面ともに白色塗彩が良好に残る。	
第258PL. PL.54	4	打製石斧	P1内 完形	長 幅	8.1 4.0	厚 重	1.8 69.0	ホルンフェルス	完成状態、風化が激しく摩耗痕等は不鮮明だが、刃部に近い左側縁が摩耗する。刃部は当初より相当に後退している可能性が高く、表面部まで達したように見える。	短削形
第258PL. PL.54	5	深鉢	P2内 口縁部破片					粗砂、輝石/ふつ う	隙縫による口縁部U角を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第258PL. PL.54	6	打製石斧	P3内 完形	長 幅	8.2 3.7	厚 重	1.8 78.3	ホルンフェルス	完成状態、側縁が進行するタイプで、上下両端に刃部を有するもの。左側縁の磨耗が著しく、再生は右辺主体か。	短削形
第258PL. PL.54	7	深鉢	P7内 側部破片					粗砂、輝石/ふつ う	隙縫によるU字状モチーフを施し、異次RL縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第258PL. PL.54	8	上製品	P7内 破片	高 厚	1.7 0.6			繊砂、白色、粒、石 英/良好	貝輪状上製品。外側に内傾する。断面板状で上部が厚く、下端に向かって薄くなる。白色塗彩の痕跡あり。	
第258PL. PL.54	9	石製品	P7内 1/2	長 幅	(5.4) (4.1)	重	2.2 20.9	輝石	表面面および側面を研磨して小判状に形状を整えている。 右辺側を欠損する。	

8号竪穴建物

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第278PL. PL.54	1	深鉢	仰体 口辺～底部4/5		底	7.5	粗砂、白色、粒、輝 石、石英/ふつう	帯状沈線によるS字を変形させたモチーフを5単位に施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺I式	
第278PL. PL.54	2	深鉢	P5内 口縁部破片				粗砂、繊維、白色 粒/ふつう	胎土位が内尚し、口縁が緩くくの字状に直立する。屈曲部下に横位降線をめり込めて口縁部無文帯を区画、降線下に逆U字状沈線を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式	
第278PL. PL.54	3	深鉢	P5内 口縁部破片				繊砂、繊維、白色 粒、輝石/ふつう	口縁を短く内凹させ、内部部に円形刺突をめぐらす。以下、帶状沈線によるモチーフを施し、文様に外列点を充填施文する。	称名寺II式	
第278PL. PL.54	4	打製石斧	P5内 1/3	長 幅	(6.1) (4.0)	厚 重	(1.6) 47.3	黒色頁岩	完成状態。側面は比較的新鮮だが、裏面側には傍脊痕が残る。石斧頭部破片。	短削形
第278PL. PL.54	5	深鉢	P3内 側部破片				粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	無文。斜位のナデ整形によるU凹頭著。	後期前葉	

5区上坑

種類 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第368PL. PL.55	246 坑1	深鉢	底上28cm 口辺～底部は ほぼ完形	口 底	25.3 12.4	高 厚	25.2	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	8の字貼付文を2単位に付し、これを基点に胸上位の文様を溶け4分割。区画内に重三角形を基調とした※状モチーフを施す。4分割の区画は等分ではなく、バラツキがある。	瓶之内2式
第368PL. PL.55	246 坑2	深鉢	理上 口縁部破片					繊砂、ふつう	帯状沈線による直線的なモチーフを描き、LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第368PL. PL.55	246 坑3	深鉢	底上28cm 側部破片					繊砂、繊維、輝石、 石英/ふつう	帯状沈線によるモチーフを描き、LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第368PL. PL.55	246 坑4	口土器	底上28cm 側部破片					粗砂、輝石、石英/ ふつう	帯状沈線によるモチーフを描き、LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第368PL. PL.55	248 坑1	深鉢	理上 口縁部破片					粗砂、輝石、石英/ ふつう	2条沈線による逆U字状モチーフを施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第368PL. PL.55	259 坑1	深鉢	理上 側部破片					繊砂/ふつう	沈殿による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第368PL. PL.55	261 坑1	深鉢	理上 口縁部破片					繊砂、白色粒、輝 石/ふつう	波状口縁で波頂部に環状突起を付す。口縁を短く内折させ、円形刺突、弧状沈線を施す。	称名寺式
第368PL. PL.55	261 坑2	深鉢	理上 側部破片					繊砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺I式
第368PL. PL.55	261 坑3	深鉢	理上 側部破片					繊砂/ふつう	帯状沈線による曲線モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第368PL. PL.55	262 坑1	深鉢	底上6cm 側部破片					繊砂/良好	RL縦文を施し、蛇行降帶を垂下させる。	加曾利E2式
第368PL. PL.55	262 坑2	深鉢	理上 側部破片					粗砂/ふつう	沈殿による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縱位充填施文する。	加曾利E3式

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第3684 PL.55	262 坑 3	深鉢	底上11cm 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、弧状隆帯を垂下させ、交点に刺突を伴う円形貼付文を付す。	後期加曾利E系
第3684 PL.55	262 坑 5	深鉢	底上2cm 側部破片		粗砂、輝石、石英/ふつう	斜行する隆帯を垂下させ、LR縞文を継位充填施文する。	後期加曾利E系か
第3684 PL.55	262 坑 5	深鉢	埋上 側部破片		粗砂、白色粒/ふつう	帶状沈線による弧状モチーフを施し、LR縞文を充填施文する。	称名寺I式
第3778 PL.55	263 坑 1	深鉢	埋上 側部破片		粗砂/ふつう	沈線を弧状に垂下させ、RL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第3778 PL.55	263 坑 2	深鉢	埋上 側部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆線下にLR縞文を充填施文する。隆線上位に円形刺突をめぐらす。	加曾利E4式
第3778 PL.55	263 坑 3	深鉢	底上30cm 側部破片		粗砂、輝石/ふつう	弧状の隆帯を垂下させ、LR縞文を継位充填施文する。	後期加曾利E系か
第3778 PL.55	263 坑 4	深鉢	埋上 側部破片		粗砂、白色粒、赤色粒、輝石/良好	LR縞文を継位充填施文する。	後期加曾利E系か
第3778 PL.55	263 坑 5	深鉢	底上4cm 口縁部破片	口 (7.8)	粗砂/良好	無文。口縁部に構状の把手を付す。内外面赤彩。	中期後葉
第3778 PL.55	263 坑 6	深鉢	埋上 側部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、LR縞文を充填施文する。	称名寺I式
第3778 PL.55	265 坑 1	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	隆帯による口縁部横円状区画を施し、RL縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第3778 PL.55	265 坑 2	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂/ふつう	隆帯による口縁部横円状区画を施し、RL縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第3778 PL.55	265 坑 3	深鉢	埋上 側部破片		粗砂、輝石/ふつう	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆線下にLR縞文を継位充填施文する。	加曾利E4式
第3778 PL.55	265 坑 4	深鉢	埋上 側部破片		粗砂/良好	沈線によるU字状モチーフを施し、RL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第3778 PL.55	265 坑 5	深鉢	埋上 側部破片		粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縞文を充填施文する。	称名寺I式
第3778 PL.55	265 坑 6	深鉢	埋上 側部破片		粗砂/良好	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縞文を充填施文する。	称名寺I式
第3778 PL.55	270 坑 1	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂/ふつう	小型土器。無文。	後期前葉か
第3778 PL.55	273 坑 1	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈線による逆U字状モチーフを施し、文様外にRL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第3778 PL.55	273 坑 2	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈線による懸垂文を施し、異業RL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第3778 PL.55	273 坑 3	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、石英/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆線下にRL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第3778 PL.55	273 坑 4	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、赤色粒/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画、隆線下にRL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第3778 PL.55	273 坑 5	深鉢	埋上 側部破片		粗砂、白色粒、輝石/石英/ふつう	沈線による懸垂文を施し、LR縞文を継位充填施文する。	加曾利E4式
第3778 PL.56	273 坑 6	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂/ふつう	波面部の突起。波底部に渦巻文を施す。	称名寺式
第3778 PL.56	273 坑 7	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	波面部の筋状の突起。上端部を張り出させ、円形刺突、沈線をめぐらす。波底部下から円形刺突を伴う隆帯を垂下、帶状沈線によるモチーフを施し、円形刺突、LR縞文を充填施文する。	称名寺I式
第3778 PL.56	273 坑 8	深鉢	埋上 側部破片		粗砂、白色粒/ふつう	帶状沈線によるJ字状モチーフを施し、LR縞文を充填施文する。	称名寺I式
第3778 PL.56	273 坑 9	深鉢	埋上 側部破片		粗砂/良好	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縞文を充填施文する。	称名寺I式

付表

種 図 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 10	埋上 制部破片		織砂/ふつう	帯状沈線による曲線モチーフを施し、LR罫文を充填施文する。	称名寺I式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 12	埋上 制部破片		織砂/ふつう	帯状沈線によるJ字モチーフを施し、LR罫文を充填施文する。	称名寺I式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 13	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒/良好	波状口縁。帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 14	埋上 口縁部破片		織砂、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 15	埋上 口縁部破片		粗砂、赤色粒、輝石/ふつう	口縁が短く内折。口縁部に環状の突起を付し、内折部に円形刺突、沈線をめぐらす。以下、帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 16	埋上 制部破片		粗砂/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 17	埋上 制部破片		粗砂/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 18	埋上 制部破片		織砂、輝石/良好	帯状沈線による曲線モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 19	埋上 制部破片		粗砂、輝石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、円形竹管刺突を充填施文する。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 20	埋上 口縁部破片		織砂、輝石、石英/ふつう	口縁が短く内折。口縁部に環状の突起、副突起を付し、円形刺突、沈線を施す。以下、帯状沈線による曲線モチーフを施す。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 21	埋上 制部破片		織砂/ふつう	帯状沈線による曲線モチーフを施す。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 22	埋上 制部破片		粗砂/ふつう	帯状沈線による曲線モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 23	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈線による斜格子目文を施す。	後期前葉
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 24	埋上 口縁部破片		粗砂、赤色粒/ふつう	口縁部を肥厚させ、肥厚部に帯状沈線をめぐらす。肥厚部下に横位沈線が見られる。	称名寺II式～ 堀之内I式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 25	埋上 口縁部破片		粗砂/ふつう	口縁が短く内折、肥厚。内折部に円形刺突をめぐらす。	称名寺II式～ 堀之内I式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 26	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石、石英/良好	口縁が短く内折、小突起を付す。突起下から沈線を伴う弧状隆脙を重ね、円形刺突。横位沈線をめぐらす。	称名寺II式～ 堀之内I式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 27	埋上 制部破片			No.23と同一個体。	後期前葉
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 28	埋上 制部破片		織砂/ふつう	くの字形に継ぐ外屈。屈曲部に横位。下位に縱位、弧状の沈線を施し、刺突を伴う弔状貼付文を付す。	堀之内I式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 29	埋上 制部破片		粗砂、白色粒/ふつう	くの字形に外屈。屈曲部に横位。下位に弧状の沈線を施し、刺突を伴う弔状貼付文を付す。	堀之内I式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 30	埋上 制部破片		織砂/ふつう	くの字形に外屈。屈曲部に横位。下位に縱位の集合沈線を施し、LR罫文を充填施文、刺突を伴う円形貼付文を付す。	堀之内I式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 31	埋上 制部破片		粗砂、細織、白色粒、輝石/良好	横位沈線をめぐらして文様帶を区画、下位の区画に斜行沈線、S字文を施す。	堀之内I式
第3884 PL.56	273 坑 深鉢 32	埋上 口縁部破片		織砂/ふつう	小型土器か。横断面稍円状。無文。	後期前葉か
第3884 PL.56	273 坑 上製品か 33	埋上 上端部破片	口 (6.0)	織砂/ふつう	器台状の器形を呈すが、上端は筒状となって閉じない。側面に円形の透かしが入る。	後期前葉か
第3884 PL.56	273 坑 上製品 34	埋上 上製品	高 厚 1/2 1.2	織砂、赤色粒/ふつう	貝輪状上製品。外面が内傾する。新面積円形状だが、下端を尖り氣味に成形する。白色塗装の痕跡あり。	

種 国 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第398 PL.56	273 坑 35 打製石斧	理上 完形	長 幅 7.1	17.2 厚 3.4 重 499.1 ホルンフェルス	完成状態。装着部はエッジが潰れ、使用可能な状況だが、刃部は未加工であり、未使用の可能性も否定できない。	短圓形
第398 PL.56	273 坑 36 打製石斧	理上 完形	長 幅 6.0	11.9 厚 2.5 重 185.4 ホルンフェルス	完成状態。右側縁の装着部に著しい摩耗する。これに対し左側縁の摩耗は不明瞭。刃部は若干だが留刃気味。	分銅形
第398 PL.56	273 坑 37 敲石	理上 4/5	長 幅 5.5	(11.2) 厚 4.2 重 389.4 粗粒輝石安山岩	上端小口部および両側縁に敲打痕が残る。縁の下半部欠損は被熱によるもの。	棒状體
PL.56	273 坑 38 打製石斧	理上 完形	長 幅 4.7	(6.8) 厚 1.9 重 73.3 ホルンフェルス	完成状態。刃部摩耗は微妙で、側縁の削痕跡も明瞭であることから、使用もなく破損した可能性が高い。	短圓形
第398 PL.57	274 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片			横位沈継をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈継にによる逆U字状モチーフを施し、文様外にRL縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第398 PL.57	274 坑 2 深鉢	理上 口縁部破片			横位横状沈線を施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺I式
第398 PL.57	274 坑 3 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	波状口縁。帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。
第398 PL.57	274 坑 4 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	隙縫による懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。無文帯は見られない。
第398 PL.57	274 坑 5 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石/ふつう	隙縫による懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。
第398 PL.57	274 坑 6 深鉢	底上28cm 胴部破片			粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	LR縦文を横位、斜位に全面施文する。
第398 PL.57	275 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつう	隙縫による口縁部横円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。
第398 PL.57	275 坑 2 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石/良好	横位、逆U字状沈線を施し、文様外にRL縦文を充填施文する。
第398 PL.57	277 坑 1 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石/良好	隙縫を垂下させ、RL縦文を充填施文。沈継によるモチーフを描く。
第398 PL.57	277 坑 2 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石/ふつう	沈継による胴部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。
第398 PL.57	277 坑 3 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石/ふつう	帶状沈継による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。
第398 PL.57	277 坑 4 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石/ふつう	帶状沈継によるモチーフを施し、列点を充填施文する。
第398 PL.57	277 坑 5 深鉢	理上 胴部破片			粗砂/ふつう	帶状沈継によるモチーフを施す。
第398 PL.57	278 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/良好	逆V字状に刻み隙縫を垂下せる。頭部に円形刺突を施す。
第398 PL.57	278 坑 2 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石/ふつう	刻み隙縫を垂下。帶状沈継による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。
第398 PL.57	278 坑 3 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石/良好	帶状沈継による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。
第398 PL.57	278 坑 4 深鉢	理上 胴部破片			粗砂/良好	帶状沈継によるモチーフを施し、列点を充填施文する。
第398 PL.57	283 坑 1 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石、石英/良好	帶状沈継によるモチーフを施し、列点を充填施文する。
第408 PL.57	284 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/良好	口縁部横円状区画間にワラビ手文を配す。
第408 PL.57	284 坑 2 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂/良好	口縁部横円状区画間にワラビ手文を配す。
第408 PL.57	284 坑 3 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/良好	口縁部横円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。

付表

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第4088 PL.57	284 坑 4	理上 深鉢	口縁部破片		織紗/ふつう	隠帯による口縁部格円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第4088 PL.57	284 坑 5	理上 深鉢	口縁部破片		織紗、白色粒、輝石/良好	沈線による胴部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第4088 PL.57	284 坑 6	理上 胸部破片			織紗/ふつう	隠帯による懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第4088 PL.57	284 坑 7	理上 深鉢	胸部破片		織紗、輝石/良好	縦位条線を充填施文する。	後期前葉
第4088 PL.57	284 坑 8	理上 深鉢	胸部破片		織紗、輝石/ふつう	斜行する沈線を施し、櫛状刺突を充填施文する。	後期前葉
第4088 PL.57	284 坑 9	理上 深鉢	口縁部破片		織紗、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺I式
第4088 PL.57	284 坑 10	理上 深鉢	口縁部破片		織紗、輝石/ふつう	波状口縁。帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺I式
第4088 PL.57	284 坑 11	理上 深鉢	口縁部破片		織紗、白色粒、輝石/ふつう	波状口縁で波頂部に環状突起を付し、下位に透かしを入れる。帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。内面に透かしに沿って8の字状に沈線をめぐらし、円形刺突を施す。	称名寺I式
第4088 PL.57	284 坑 12	理上 深鉢	胸部破片		織紗/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺I式
第4088 PL.57	284 坑 13	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/良好	波状口縁で口縁が内折。波頂部、内折部に円形刺突、沈線を施す。波頂部内面に上下2個の円形刺突を施し、脇に沈線をめぐらす。	称名寺式
第4088 PL.57	284 坑 14	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂/良好	波状口縁で波頂部内面に環状突起を付す。波頂部に沈線をめぐらす。	称名寺式
第4088 PL.57	284 坑 15	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石、石英/ふつう	波状口縁で波頂部に突起。口縁内折。内折部に透かし、円形刺突、沈線を施す。内折部下にも口縁に沿って1条の沈線をめぐらす。	称名寺式
第4088 PL.57	284 坑 16	理上 深鉢	口縁部破片		織紗、輝石、石英/ふつう	波状口縁で口縁が短く内折、内折部に沈線をめぐらす。内折部下は帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第4088 PL.57	284 坑 17	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/良好	くの字状に頗る外傾。口縁が短く内折。頭部に沈線をめぐらす。口縁から頭部にかけては無文。内折部にミガキ調整を施す。	後期前葉
第4088 PL.57	284 坑 18	理上 深鉢	胸部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第4088 PL.57	284 坑 19	理上 深鉢	胸部破片		織紗、輝石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第4088 PL.57	284 坑 20	理上 深鉢	胸部破片		織紗/ふつう	帯状沈線によるJ字状モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第4088 PL.58	284 坑 21	理上 深鉢	胸部破片		織紗、白色粒、輝石/ふつう	沈線による格円状モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第4088 PL.58	284 坑 22	理上 深鉢	胸部破片		粗砂、粗織、赤色粒、輝石、石英/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第4088 PL.58	284 坑 23	理上 深鉢	胸部破片		粗砂、粗織、輝石、石英/良好	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第4088 PL.58	284 坑 24	理上 深鉢	胸部破片		織紗、輝石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第4118 PL.58	284 坑 25	理上 深鉢	胸部破片		織紗、赤色粒、輝石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第4118 PL.58	284 坑 26	理上 深鉢	胸部破片		織紗/ふつう	帯状沈線による弧状モチーフを施し、沈線間にミガキ調整を施す。	称名寺II式
第4118 PL.58	284 坑 27	理上 深鉢	胸部破片		織紗、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第4118 PL.58	284 坑 28	理上 深鉢	胸部破片		粗砂、輝石/ふつう	継ぐ外反する器形。対弧状に帯状沈線を施し、3条の横位沈線でつなぐ。	瓶之内I式

種 団 PL.No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値			胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第41回 PL.58	284 坑 29	注口付浅鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒/ふつう	口縁部を内巻させ、沈継による精円状、長方形状の枠状文を備え、刺突を充填施する。注口上部に周状突起を付し、浅鉢をめぐらし、端部に側突を伴う円形貼付文を付す。	称名寺II式
第41回 PL.58	284 坑 30	打製石斧	理上 1/3	長 幅 5.1	厚 重 91.2	2.1 ホルンフェルス	完成状態?上端側に縫面があり、両側縁は並行する。刃部側を欠損するところが、両者の余地あり。	短彫形
PL.58	284 坑 31	打製石斧	理上 1/2	長 幅 6.5	厚 重 126.7	2.2 ホルンフェルス	両側縁とも摩耗して倍神痕が明らかであるのに対し、上端側は粗くトリミングした程度。下端側を欠損する。	短彫形
第41回 PL.58	285 坑 1	深鉢	理上 胴部破片			粗砂、白色粒/ふつう	横位、逆U字状の陰線を施し、LR縦文を充填施する。	後期加曾利E系か
第41回 PL.58	285 坑 2	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石、石英/良好	押縁を伴う隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、異位条線を充填施する。	後期前葉
第41回 PL.58	285 坑 3	深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石、石英/良好	帶状沈継によるモチーフを施し、文様外にLR縦文を充填施する。	中期末葉~後期初頭
第41回 PL.58	285 坑 4	深鉢	理上 胴部破片			粗砂、白色粒/ふつう	帶状沈継によるモチーフを施し、列点を充填施する。	称名寺II式
第41回 PL.58	285 坑 5	深鉢	理上 胴部破片			粗砂/ふつう	帶状沈継によるモチーフを施す。	称名寺II式
第41回 PL.58	285 坑 6	打製石斧	理上 ほぼ完形	長 幅 11.3 (5.1)	厚 重 59.4	1.2 ホルンフェルス	完成状態?薄い板状削片を用い、周辺加工して石斧を作出する。側縁は直線的に開き気味。刃部は円月状を呈す。	短彫形
第41回 PL.58	286 坑 1	深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石、石英/ふつう	沈継による懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施する。	加曾利EA式
第41回 PL.58	286 坑 2	深鉢	理上 胴部破片			粗砂、石英/良好	帶状沈継による曲線モチーフを施し、列点を充填施する。称名寺II式	称名寺II式
第41回 PL.58	287 坑 1	深鉢	理上 胴部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	LR縦文を縦位全面施する。	後期前葉
第41回 PL.58	287 坑 2	深鉢	理上 胴部破片			粗砂/ふつう	帶状沈継による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施する。	称名寺I式
第41回 PL.58	287 坑 3	深鉢	理上 胴部破片			粗砂/ふつう	帶状沈継による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施する。	称名寺I式
第41回 PL.58	289 坑 1	深鉢	理上 胴部破片			粗砂、細繩、輝石/ふつう	隣継による逆U字状モチーフを施し、LR縦文を充填施する。	中期末葉~後期初頭
第41回 PL.58	289 坑 2	深鉢	理上 胴部破片				No.1と同一個体。縦位、弧状の陰線を施し、LR縦文を充填施する。	中期末葉~後期初頭
第42回 PL.58	290 坑 1	底上48cm 深鉢	口縁~底部は 底	38.0	高 10.0	56.6 粗砂、白色粒、輝石/ふつう	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、異位RL縦文を縦位、斜位に全面施する。	後期加曾利E系か
第42回 PL.58	290 坑 2	底上13cm~ 59cm 深鉢	口縁~胴中 底	(43.0)		粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	横位沈継をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、LR縦文を縦位充填施する。	後期加曾利E系か
第43回 PL.59	290 坑 3	底上41cm 深鉢	口縁部破片			粗砂/ふつう	横位沈継をめぐらして幅狭な口縁部無文帯を区画。以下、弧状隆帯を垂下させ、LR縦文を充填施する。	加曾利EA式
第43回 PL.59	290 坑 4	底上41cm 深鉢	口縁部破片			粗砂、輝石/良好	沈継による胴部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施す。	加曾利E3式
第43回 PL.59	290 坑 5	底上41cm 深鉢	口縁部破片			粗砂、細繩、輝石、石英/良好	沈継による胴部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施す。	加曾利E3式
第43回 PL.59	290 坑 6	底上25cm 深鉢	口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/良好	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、縦位、弧形の陰線を施し、LR縦文を充填施する。横位隆帯との交点に円形刺突を施す。	後期加曾利E系
第43回 PL.59	290 坑 7	底上25cm 深鉢	口縁部破片			粗砂、白色粒/ふつう	横位隆帯をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、LR縦文を全面施する。横位隆帯の一部を突出させる。	後期加曾利E系
第43回 PL.59	290 坑 8	底上35cm 深鉢	口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/良好	横位沈継をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、LR縦文を充填施する。隆縫上位に円形刺突を施す。	加曾利EA式
第43回 PL.59	290 坑 9	底上35cm 深鉢	口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石、石英/良好	隣縫による懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施す。無文帯は見られない。	中期末葉~後期初頭

付表

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 有 率	計測値	胎上/模成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第438# PL.59	290 坑 10	深鉢	底上40cm 制部破片		繊砂、白色粒、輝石/ふつう	弧状の隆線を施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E式
第438# PL.59	290 坑 11	深鉢	埋上 制部破片		繊砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	隆線による斜位、弧状のモチーフを施す。	後期加曾利E系か
第438# PL.59	290 坑 12	深鉢	埋上 制部破片		繊砂/ふつう	隆線による縦位、弧状のモチーフを施す。	後期加曾利E系か
第438# PL.59	290 坑 13	深鉢	底上18cm 制部破片		繊砂、輝石/良好	弧状の隆線を施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E式
第438# PL.59	290 坑 14	深鉢	底上39cm 口縁部破片		繊砂、輝石/ふつう	横位沈線をめぐらして幅狭な口縁部無文帯を区画。以下、LR縦文を全面施文する。	後期加曾利E系か
第438# PL.59	290 坑 15	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石、石英/ふつう	横位沈線をめぐらして幅狭な口縁部無文帯を区画。以下、LR縦文を全面施文する。	後期加曾利E系か
第438# PL.59	290 坑 16	深鉢	底上29cm 制部破片		粗砂、粗織/良好	RL縦文を斜位に全面施文する。	後期前葉
第438# PL.59	290 坑 17	深鉢	埋上 制部破片		繊砂、輝石、石英/ふつう	LR縦文を縦位に全面施文する。	後期前葉
第438# PL.59	290 坑 18	深鉢	底上32cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	波状口縁。無節LR縦文を縦横に全面施文する。	後期前葉
第438# PL.59	290 坑 19	深鉢	底上 5 cm 制部破片		粗砂、輝石、石英/ふつう	LR縦文を縦位、斜位に全面施文する。	後期前葉
第438# PL.59	290 坑 20	深鉢	底上30cm 制部破片		繊砂、輝石/良好	LR縦文を縦位に全面施文する。	後期前葉
第438# PL.59	290 坑 21	深鉢	埋上 制部破片		繊砂、輝石/ふつう	無節LR縦文を縦横に全面施文する。	後期前葉
第438# PL.59	290 坑 22	深鉢	埋上 口縁部破片		繊砂、輝石/ふつう	波状口縁。帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第438# PL.59	290 坑 23	深鉢	埋上 口縁部破片		繊砂/良好	波状口縁で口縁が細く内折。帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第438# PL.59	290 坑 24	深鉢	底上 3 cm 制部破片		繊砂、輝石/ふつう	刻み隆縫を垂下。帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第438# PL.59	290 坑 25	深鉢	埋上 制部破片		繊砂、輝石/良好	帶状沈線による斜先状、三角形状モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。縦文帯内に内端に刺突を伴う短沈線を配す。	称名寺 I 式
第438# PL.59	290 坑 26	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、輝石/良好	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第438# PL.59	290 坑 27	深鉢	底上36cm 制部破片		繊砂、輝石/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第448# PL.59	290 坑 28	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、粗織、輝石/良好	帶状沈線による幾何学モチーフを施す。	称名寺 II 式
第448# PL.60	290 坑 29	深鉢	埋上 口縁部破片			No.28と同一個体。	称名寺 II 式
第448# PL.60	290 坑 30	深鉢	底上47cm 制部破片		粗砂、粗織、輝石/ふつう	帶状沈線による幾何学モチーフを施す。	称名寺 II 式
第448# PL.60	290 坑 31	深鉢	底上47cm 制部破片			No.28と同一個体。	称名寺 II 式
第448# PL.60	290 坑 32	深鉢	埋上 制部破片			No.28と同一個体。	称名寺 II 式
第448# PL.60	290 坑 33	深鉢	埋上 口縁部破片		繊砂、輝石/良好	横位、斜位の沈線を施す。地文にRL縦文を施文。	加曾利E2式
第448# PL.60	290 坑 34	深鉢	埋上 口縁部破片		繊砂、輝石/ふつう	口縁部に2条の刻み隆縫をめぐらす。	瓶之内 2式

掃 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第4488 PL.60	290 35	坑 深鉢	埋土 剥離部破片		繊砂/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。称名寺Ⅰ式	
第4488 PL.60	290 36	坑 深鉢	底上36cm 口縁部破片		繊砂、輝石/ふつ う	波状口縁で口縁が緩く外反。無文。	後期前葉
第4488 PL.60	290 37	坑 深鉢	底上24cm 口縁部破片		繊砂、輝石/ふつ う	口縁が緩く外反。無文。	後期前葉
第4488 PL.60	290 38	坑 深鉢	底上44cm 底部破片	底 9.0	繊砂、輝石/ふつ う	履位、斜位の条線を全面施文する。	後期前葉
第4488 PL.60	292 1	坑 深鉢	底上3cm 剥離部破片		粗砂、繊維、白色 粒、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺Ⅱ式
第4488 PL.60	294 1	坑 深鉢	埋土 底部破片	底 (10.6)	繊砂、白色粒/ふ つう	残存部は無文。	後期前葉
第4488 PL.60	295 1	坑 深鉢	埋土 剥離部破片		繊砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施し、履位条線を充填施文する。	称名寺Ⅲ式
第4488 PL.60	295 2	坑 深鉢	埋土 剥離部破片		粗砂/ふつう	くの字形に緩く外屈。3条沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内Ⅰ式

1北区土坑

掃 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第4778 PL.60	299 1	坑 深鉢	埋土 口縁部破片		繊砂、輝石/ふつ う	隆帶による口縁部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第4778 PL.60	299 2	土 製品	埋土 1/2	径 内 径 8.3 5.3 厚 2.5 1.0	繊砂、白色粒、輝 石/ふつう	貝輪状土製品。外面が内傾する。中央部が最も厚く、上端を尖り氣味に形成する。白色塗彩の痕跡あり。	
第4778 PL.60	305 1	坑 深鉢	埋土 剥離部破片		粗砂、石英/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺Ⅱ式
第4778 PL.60	305 2	坑 深鉢	底上4cm 剥離部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺Ⅱ式
第4778 PL.60	305 3	坑 深鉢	底上17cm 口縁～胸上位破 片		粗砂/ふつう	地文にLR縦文を横位施文し、沈線による横長の蛇形文を施し、間を磨り消す。文様下端に刺穴を作らう円形貼付文を付す。	瓶之内Ⅰ式
第4778 PL.60	305 4	坑 深鉢	底上16cm 口縁～胸上位破 片		繊砂、白色粒/良 好	口縁が緩く外反。口縁部に円形刺突をめぐらし、以下、沈線による懸垂文を施す。地文にLR縦文を施す。	瓶之内Ⅰ式
第4778 PL.61	306 1	坑 深鉢	底上95cm～62cm 胸上位～底部 1/2	底 (8.0)	粗砂/ふつう	2条沈線を対弧状に垂下させ。文様外にLR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第4778 PL.61	306 2	坑 深鉢	埋土 口縁部破片		繊砂/良好	隆帶による口縁部区画を施す。	加曾利E3式
第4778 PL.61	306 3	坑 深鉢	埋土 剥離部破片		繊砂/良好	沈線による胸部懸垂文、U字状、逆U字状モチーフを施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第4778 PL.61	306 4	坑 深鉢	底上49cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	口縫に横状突起を付し、下端から隆線をめぐらして口縫部無文帶を区画。以下、LR縦文を充填施文する。突起頂部兩端を突出させる。	加曾利E4式
第4778 PL.61	306 5	坑 深鉢	底上62cm 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	口縫が短く内折。帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺Ⅰ式
第4778 PL.61	306 6	坑 深鉢	底上55cm 剥離部破片		粗砂、輝石/ふつ う	頗る外反。沈線による横位、弧状のモチーフを施し、円形刺突を充填施文する。無頭LR縦文を充填する箇所も見られる。	瓶之内Ⅰ式
第4888 PL.60	307 1	坑 深鉢	底上7cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隆帶による口縁部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第4888 PL.60	313 1	坑 深鉢	埋土 剥離部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第4888 PL.60	313 2	坑 深鉢	埋土 剥離部破片		粗砂、輝石/ふつ う	履位条線を充填施文する。	中期後葉～後 期前葉
第4888 PL.60	314 1	坑 深鉢	埋土 剥離部破片		繊砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺Ⅱ式

付表

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第48回 PL.60	314 坑 2	理上 打製石斧	長幅 1/3	長 (7.3) (4.4) 幅 厚 重	1.8 53.6 ホルンフェルス	完成状態?側縁は鋭く開き氣味、側縁は新鮮で装着痕は不明。器体下半部を欠損する。	不明
第48回 PL.60	315 坑 1	底上 6 cm 石皿	底上 6 cm ほぼ完形	長 幅 20.2 18.2 厚 重	7.9 4155.1 和粒輝石安山岩	表面側は摩耗して目が潰れた状態で、弱い稜が形成されてるほどである。上端部が閉じて下端部が開く状況は接出口に似る。表面面とも斜斗状の溝み部 1 がある。器体上端部の破損部は被熱による可能性がある。	無縫

I 中区上坑

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第50回 PL.61	6 坑 1	理上 深鉢	断面部破片		粗砂、輝石/良好	隣線による懸垂文を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第50回 PL.61	10 坑 1	底上 0 cm 深鉢	口辺部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位隣線をめぐらし、以下、LR縦文を縦位充填施文する。	後期加曾利E 系か
第50回 PL.61	14 坑 1	理上 深鉢	断面部破片		粗砂、輝石/良好	3 条の沈線をめぐらし、以下、蛇行懸垂文を施す。地文に RL縦文を縦位施文。横位隣線上位は無文帯。	加曾利E2式
第50回 PL.61	15 坑 1	理上 深鉢	口辺部破片		粗砂、細織、白色 粒、輝石/ふつ う	口縁が肥厚、短く外反する。無文。	中期後葉か
第50回 PL.61	15 坑 2	理上 深鉢	断面部破片		粗砂、輝石/良好	隣線によるモチーフを施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第50回 PL.61	15 坑 3	理上 石皿	完形	長 幅 1.4 1.5 厚 重	0.3 0.5 チャート	完成状態。器体全面を押刃剥離が残る。極小石皿の部類で、石器基部は浅く、側縁は直線的形状を呈す。	凹基無茎源 精円彫
第50回 PL.61	15 磨石 4	理上 完形		長 幅 9.4 5.6 厚 重	4.1 319.2	掌サイズよりやや小形の河床礫。右側縁中央付近が集中的に敲打されている。敲打痕と裏面には風化の差が明確。	加曾利E3式
第50回 PL.61	17 坑 1	底上 11 cm 深鉢	断面部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による断面部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第50回 PL.61	17 坑 2	底上 20 cm 深鉢	断面部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつ う	隣線によるU字状、逆U字状モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式

I 南区上坑

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第63回 PL.61	30 坑 1	理上 深鉢	断面部破片		粗砂、細織、輝石 /ふつ う	横位隣線、沈線による懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第63回 PL.61	30 坑 2	理上 深鉢	断面部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による断面部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第63回 PL.61	31 坑 1	理上 口辺部破片			粗砂/良好	手状の波状口縁。口縁部横円状凹凸を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第63回 PL.61	31 坑 2	底上 32 cm 深鉢	口辺部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縁部横円状凹凸を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第63回 PL.61	31 坑 3	理上 断面部破片			粗砂、輝石/良好	U字状、波状の沈線を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第63回 PL.61	31 坑 4	底上 32 cm、理上 断面部破片			粗砂、白色粒、輝 石/ふつ う	沈線による断面部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第63回 PL.61	33 坑 1	底上 35 cm 深鉢	断面部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による断面部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第63回 PL.61	33 坑 2	底上 35 cm 器台	断面部破片	底 15.4	粗砂、輝石、雲母 /良好	小型の円形透かしを入れる。推定 8 単位。	中期後葉
第63回 PL.61	33 坑 3	底上 35 cm 器台	断面部破片	底 (20.5)	粗砂、輝石/良好	円形の透かしを入れる。推定 6 単位。	中期後葉
第63回 PL.62	35 坑 1	理上 口辺部破片			粗砂、白色粒、輝 石/ふつ う	横位隣線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR縦文を充填施文する。横位隣線の一部を突出させる。	後期加曾利E 系か
第63回 PL.62	35 坑 2	理上 断面部破片			粗砂、輝石/ふつ う	帶状沈線による弧状モチーフを施し、文様外に RL縦文を充填施文する。	中期末～後 期初頭
第63回 PL.62	35 坑 3	理上 口辺部破片			粗砂、輝石/ふつ う	帶状沈線によるモチーフを施し、縦位条線を充填施文する。称名寺式	

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎上/模成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第63図 PL.62	35 坑 4	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第63図 PL.62	35 坑 5	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第63図 PL.62	36 坑 1	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	沈線による口縁部区画を施し、内部に満巻文を配す。RL 縦文を充填施文する。	加曾利E2式
第63図 PL.62	36 坑 2	深鉢	埋土 側部破片		粗砂/ふつう	沈線による弧状モチーフを施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第63図 PL.62	37 坑 1	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	降帯による曲線モチーフを施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第63図 PL.62	38 坑 1	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縱位充填施文す る。	加曾利E3式
第63図 PL.62	38 坑 2	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	縱位条線を施す。	後期前葉
第63図 PL.62	38 坑 3	石巖	埋土 完形	長 幅 2.0 厚 1.9 重 1.0	黒色安山岩	完成状態。器体全面が押土剥離で覆われる。基部を浅く抉 り込んだ三角窓。	凹型無茎巖
第64図 PL.62	39 坑 1	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縱位充填施文す る。	加曾利E3式
第64図 PL.62	39 坑 2	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、赤色粒、輝 石/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を充填施文、蛇行 懸垂文を施す。	加曾利E3式
第64図 PL.62	39 坑 3	浅鉢	埋土 口縁部破片		粗砂/ふつう	口縁内外面を肥厚させて口唇部平面面を作出、口唇部に刺 突を伴う帯状沈線をめぐらす。	後期前葉
第64図 PL.62	39 坑 4	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	横位沈線、低平な隠帶をめぐらし、隠带上に粘土をめくり あげる刺突を施す。沈線上位は無文部。	後期前葉
第64図 PL.62	39 坑 5	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石/ふつ う	押抜を伴う隠帶を垂下させ、縱位平行沈線を充填施文する。	後期前葉
第64図 PL.62	42 坑 1	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石/ふつ う	2条沈線を縦横に施す。地文にRL縦文を施す。	加曾利E2式
第64図 PL.62	43 坑 1	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、白色粒/良 好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縱位充填施文す る。	加曾利E3式
第64図 PL.62	43 坑 2	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石/良好	沈線によるU字状、逆U字状モチーフを施し、RL縦文を 充填施文する。	加曾利E4式
第64図 PL.62	43 坑 3	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	波浪形の扁平な突起。上下2個の透かしを入れる。両側面 に円形刺突。沈線を作う隠帶を貼付。隠面上にも円形刺突、 凹窓を施す。	称名寺式
第64図 PL.62	43 坑 4	土製品	埋土 破片	高 2.3 厚 1.3	粗砂、白色粒、赤 色粒、輝石/ふつ う	貝織状土製品。外面が内傾する。中央部が最も厚く、上下端 に凹窓が見られる。外側整形による門凸顎頭。内面 ケズリ痕見られる。白色塗装の痕跡あり。	称名寺式
第64図 PL.62	44 坑 1	深鉢	底上7.7cm 口縁~胸上位破 片		粗砂、白色粒、石 英/ふつう	隠帶による口縁部斜面凹窓区画、沈線による胸部懸垂文を施 し、RL縦文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第64図 PL.62	44 坑 2	深鉢	底上64cm 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施し、条線を充填施文する。	称名寺式
第64図 PL.62	44 坑 3	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施し、条線を充填施文する。一 部、条線を蛇行させる。	称名寺式
第64図 PL.62	44 坑 4	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施す。一部に列点を充填施文す る。	称名寺II式
第64図 PL.62	44 坑 5	深鉢	埋土 側部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第65図 PL.63	44 坑 6	深鉢	埋土 口縁~胸上位破 片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第65図 PL.63	44 坑 7	深鉢	底上50cm 胸下位~底部破 片	底 12.6	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	無文。	後期前葉

捕 図 PL.No.	種 類 器 類	出上位置 残 存 率	計測値			施工/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第65回 PL.62	44 坑 8 石鐵	埋上 ほぼ完形	長 幅	(1.7) (1.7)	厚 重	0.4 0.7	チャート	完成状態。器体全体が押圧剥離で覆われる。左右両辺の返し縫を欠く。
第65回 PL.63	44 坑 9 打製石斧	埋上 2/3	長 幅	(9.3) (4.2)	厚 重	2.2 101.4	黒色頁岩	完成状態。石斧は頭部側から4~8cm付近で装着したものと見られ、長さ13cm程度の石斧が想定可能。破損部は側縫から破損、再生途上破損した可能性が高い。頭部側のヒビは比較によるもの。
第65回 PL.63	45 坑 1 深鉢	埋上 口縫部破片					粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	表面凹縫。隕帶をめぐらして幅狭な口縫部無文帯を区画、以下、弧状の隕帶を垂下させ、RL縫文を充填施文する。
第65回 PL.63	45 坑 2 深鉢	埋上 側部破片					輝砂/ふつう	沈継による胸部懸垂文を施し、RL縫文を縱位充填施文する。
第65回 PL.63	47 坑 1 深鉢	埋上 口縫部破片					粗砂、輝石/ふつ う	隕帶による口縫部横円状区画を施し、RL縫文を複位充填施文する。
第65回 PL.63	47 坑 2 深鉢	埋上 側部破片					粗砂、白色粒、輝 石/良好	沈継による胸部懸垂文を施し、RL縫文を縱位充填施文する。
第65回 PL.63	47 坑 3 多孔石	埋上 完形	長 幅	45.2 31.8	厚 重	17.0 19000	粗粒輝石安山岩	理は造理構造を有し安山岩で、表面とも造理で割がれたもので、下端側は尖り気味。裏面側は安定感を欠いているが、表面側はほぼ平坦。上端側と右辺側は漏斗状の窪み穴が配され、加えて表面側の上端部は盛り上がり、全体として右端部の縁に見える。
第66回 PL.63	48 坑 1 深鉢	埋上 側部破片					粗砂、白色粒、輝 石/良好	沈継による胸部懸垂文を施し、RL縫文を縱位充填施文する。
第66回 PL.63	48 坑 2 深鉢	埋上 口縫部破片					粗砂、白色粒、輝 石/良好	横位沈継をめぐらして口縫部文様帶を区画、以下、縦位条縫を充填施文する。横位沈継内に刺突をめぐらす。
第66回 PL.63	48 坑 3 深鉢	埋上 側部破片					輝砂、輝石、石英 /ふつう	逆V字状に隕線を垂下させ、円形竹管刺突を治ませる。
第66回 PL.63	53 坑 1 深鉢	底上15cm、埋上 口縫部~胸上位破 片					粗砂、輝石/ふつ う	隕帶による口縫部横円状区画、沈継による胸部懸垂文を施し、RL縫文を充填施文する。
第66回 PL.63	53 坑 2 深鉢	底上15cm 口縫部破片					輝砂、輝石/ふつ う	横位沈継をめぐらして幅狭な口縫部無文帯を区画、以下、沈継による逆U字モチーフを施し、RL縫文を充填施文する。
第66回 PL.63	53 坑 3 深鉢	埋上 側部破片					粗砂、白色粒/良 好	沈継による胸部懸垂文を施し、RL縫文を縱位充填施文する。
第66回 PL.63	53 坑 4 深鉢	底上15cm 側部破片					粗砂、輝石/良好	沈継による胸部懸垂文を施し、RL縫文を縱位充填施文する。
第66回 PL.63	53 坑 5 深鉢	底上15cm 側部破片					粗砂、白色粒、輝 石、石英/良好	2条沈継による懸垂文、逆U字モチーフを施し、RL縫文を縦位充填施文する。間にワラビ手状懸垂文を配す。
第66回 PL.64	54 坑 1 深鉢	埋上 口縫部破片					粗砂、白色粒/良 好	隕帶による口縫部横円状区画を施し、RL縫文を充填施文する。
第66回 PL.64	54 坑 2 深鉢	埋上 側部破片					粗砂、輝石/ふつ う	沈継による胸部懸垂文を施し、複節RL縫文を縱位充填施文する。
第66回 PL.64	54 坑 3 深鉢	埋上 側部破片					粗砂、輝石/良好	沈継による胸部懸垂文を施し、RL縫文を縱位充填施文する。
第66回 PL.64	54 坑 4 深鉢	埋上 側部破片					粗砂、白色粒、輝 石、石英/良好	横位隕線をめぐらして口縫部無文帯を区画。以下、斜行する隕線を垂下させ、RL縫文を充填施文する。横位隕線の一部を突出させる。
第66回 PL.64	54 坑 5 門石	埋上 完形	長 幅	11.6 7.4	厚 重	4.1 467.3	粗粒輝石安山岩	表面裏面とも敲打痕が連続、表面側のそれは漏斗状の窪み穴に見える。石材側面が粗く摩耗痕は不鮮明だが、背面とも磨耗として使用された可能性がある。このほか、小口部内面や側縫に敲打痕がある。
第66回 PL.64	54 坑 6 磨石	埋上 完形	長 幅	13.2 6.5	厚 重	5.1 639.9	粗粒輝石安山岩	掌サイズだが、長幅比は棒状礫に近い。表面側が摩耗するほか、右側縫の摩耗も著しい。上端側小口部に敲打痕。
第67回 PL.64	49 坑 1 深鉢	底上65cm 口縫部破片					粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	舌状の波状口縫。隕帶による口縫部横円状区画を施し、RL縫文を縦位充填施文する。
第67回 PL.64	49 坑 2 深鉢	底上65cm 口縫部破片					粗砂/ふつう	舌状の波状口縫。隕帶による口縫部横円状区画を施し、RL縫文を縦位充填施文する。
第67回 PL.64	49 坑 3 深鉢	底上65cm 口縫部破片					粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隕帶による口縫部横円状区画、沈継による胸部懸垂文を施し、RL縫文を充填施文する。

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第678号 PL.64	49 坑 4	深鉢	底上10cm 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第678号 PL.64	49 坑 5	打製石斧	理上 完形	長 幅 14.9 6.7 厚 重 131.4	1.1 珪質準片岩	完成状態。薄い板状剥片を周辺加工して形状を整える。刃部の摩耗や傍刃痕は見られない。	分銅形
第678号 PL.64	50 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		細砂、輝石/ふつ う	隣帶による口縁部楕円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第678号 PL.64	50 坑 2	深鉢	理上 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第678号 PL.64	52 坑 1	深鉢	底上19cm 口縁～胴上位破 片		細砂、白色粒、輝 石/ふつう	隣帶による口縁部楕円状区画、沈線による胴部懸垂文を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第678号 PL.64	52 坑 2	深鉢	底上19cm 胴部破片		粗砂、輝石/良好	隣帶によるモチーフを施し、異条LR縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第688号 PL.64	55 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隣帶による口縁部楕円区画、ワラビ手文を配し、条線を環状に充填施文する。	加曾利E2式
第688号 PL.64	55 坑 2	深鉢	理上 胴部破片		細砂、輝石/ふつ う	隣帶による口縁部楕円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第688号 PL.64	55 坑 3	深鉢	理上 胴部破片		細砂、輝石/良好	隣帶による口縁部楕円区画、沈線による胴部懸垂文を施し、複数RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E2式
第688号 PL.64	55 坑 4	深鉢	理上 胴部破片		細砂、輝石/良好	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第688号 PL.64	55 坑 5	石器	理上 ほぼ完形	長 幅 (2.0) 1.7 厚 重 1.2	チャート	完成状態。器体全面が押圧剥離に覆われる。左辺側が薄く、左右のバランスが崩れる。	凹基無茎端
第688号 PL.64	55 坑 6	石器	理上 完形	長 幅 2.3 1.5 厚 重 0.3 0.7	黑色安山岩	完成状態。器体全面が押圧剥離に覆われる。薄手で丁寧な作り。石器基部は直線的に抉れ、返し部は小さい。	凹基無茎端
第688号 PL.64	55 坑 7	石器	理上 完形	長 幅 2.7 1.3 厚 重 0.5 1.2	黑色安山岩	完成状態。表面とともに素材面が残り、粗く剥離して器体を作出する。握身、身身の作り。	凹基無茎端
第688号 PL.64	57 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		細砂、輝石/ふつ う	横位沈線をめぐらして複数口縁部無文帯を区画、以下、張状沈線を垂下させ、粗縫文を充填施文する。横位沈線内にC字状剥炎をめぐらす。	加曾利E4式
第688号 PL.64	57 坑 2	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、輝石/ふつ う	2条隣帶による胴部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第688号 PL.64	57 坑 3	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胴部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第688号 PL.64	57 坑 4	石器(ドリ ル)	理上 4/5	長 幅 (3.0) (2.9) 厚 重 0.7 4.1	チャート	痛み部を持つタイプで、機能部先端を大きく欠損する。欠損は製作途上か。	
第688号 PL.65	62 坑 1	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、赤色粒、輝 石/ふつう	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第688号 PL.65	62 坑 2	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第688号 PL.65	62 坑 3	深鉢	理上 口縁～胴上位破 片		粗砂、輝石/ふつ う	波状口縁で波頭部に環状突起を付し、内脇に円形刺突を施文。内折する口縁部に帶状沈線。刺突を伴う円形貼付文を施す。以下、帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II式
第688号 PL.65	62 坑 4	土 製 品	理上 破片	高 厚 1.6 0.6	粗砂、輝石、石英 /ふつう	貝輪抜上製品。外縁が内縮する。断面は上部がやや膨らむ板状で、下端を尖り気味に形成する。白色塗彩の痕跡あり。	
第688号 PL.65	63 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、複数RLR縦文を充填施文する。	称名寺 I式
第688号 PL.65	63 坑 2	深鉢	理上 胴部破片		細砂/ふつう	押捺を伴う隣帶を垂下。帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II式
第688号 PL.65	63 坑 3	四 石	理上 完形	長 幅 12.7 8.4 厚 重 4.2 594.1	粗粒輝石安山岩	表面ともに瘤斗状の痛み穴があるほか、両側縁とも敲打痕がある。握み部や敲打部を除き、穂面は鉄錆が付く。	格鬥闘
第688号 PL.65	64 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	口縁が緩く内湾。隣帶によるワラビ手状文を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式

補 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第6984 PL.65	64 坑 2	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	沈線による胸部懸垂を施し、RL縦文を縱位充填施文す る。	加曾利E3式	
第6984 PL.65	64 坑 3	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	横位連弧状に隆線をめぐらして口縁部横円帯を区画、以下、 隆線による懸垂を施し、RL縦文を充填施文する。	後期加曾利E 系か	
第6984 PL.65	64 坑 4	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	横位隆線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、隆線に よる懸垂を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E4式	
第6984 PL.65	64 坑 5	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	隆線による胸部懸垂を施し、LR縦文を縱横に充填施文す る。無文帯は見られない。	中期未量～後 期初頭	
第6984 PL.65	64 坑 6	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺I式	
第6984 PL.65	64 坑 7	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	押捺を伴う低平な隆堀を縱横に施し、縱位集合沈線を充填 施文する。	後期前葉	
第6984 PL.65	64 坑 8	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、条線を充填施文する。	称名寺式	
第6984 PL.65	64 坑 9	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、ふつう	帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 瓶之内I式	
第6984 PL.65	64 坑 10	器台	埋上 上端～底部破片	底 (10.5) (16.0)	高 8.8	粗砂、輝石/ふつ う	側面に透かしを入れる。	中期後葉
第6984 PL.65	64 坑 11	土製品	埋上 端部破片	長 径 1.9	短 径 1.3	粗砂、白色粒、輝 石、石英/良好	現存長4.4cm。棒形の土製品。端部が梢円形に膨らみ、端 部から斜位の円孔が穿つ。	
第6984 PL.65	64 坑 12	石鑿	埋上 完形	長 幅 2.5	厚 重 0.5 2.0	黒色安山岩	未製品。表裏面ともやや粗い削離で覆われる。先端側加工 には薄く、先端部を出しているようにみえない。	凹基無茎頭
第6984 PL.65	64 坑 13	石鑿	埋上 2/3	長 幅 (2.1) (1.6)	厚 重 0.3 1.0	チャート	未製品? 器体全面斜面押圧剥離で覆われる。右辺側の返し部 および先端部を欠く。左辺中央付近はガジリの可能性。	凹基無茎頭
第6984 PL.65	64 坑 14	石鑿	埋上 1/2	長 幅 (1.7)	厚 重 0.4 1.8	チャート	未製品? 器体は薄く深く削離されているが、やや粗く最終 段階のそれではない。完成間際で上端部を破損。	平基無茎頭
第6984 PL.65	64 坑 15	打製石斧	埋上 1/3	長 幅 (5.8) (5.3)	厚 重 (2.0) 75.4	ホルンフェルス	未製品? 左辺側に弱く抉れノッチ状を呈し、これを相間に 右辺制部破片と見た。剥離面は新鮮であり、製作途中の破 き見である。	短冊形
第6984 PL.65	64 坑 16	打製石斧	埋上 4/5	長 幅 (8.0) 5.0	厚 重 1.0 41.5	ホルンフェルス	完成状態。刃部および側縁に摩耗がある。頭部側に大きな 削離があり、左辺側刃部がリタクションを受けている。	短冊形
第6984 PL.65	75 坑 1	両耳壺	底上6cm 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	屈曲部下に隆線によるワラビ手文を配し、沈線により梢円 状に区画、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式	
第6984 PL.65	111 坑 1	深鉢	埋上 口辺部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隆線による口縁部横円状区画を施し、RL縦文を充填施文す る。	加曾利E3式	
第6984 PL.65	111 坑 2	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂を施し、複数RL縦文を縱位充填施 文する。	加曾利E3式	
第6984 PL.65	111 坑 3	浅鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縁部を肥厚させる。無文。外顔赤彩。	中期後葉	
第7084 PL.65	111 坑 4	石鑿	埋上 未製品	長 幅 2.2	厚 重 0.6 2.3	チャート	未製品。ノッチ状に抉れる形状を重視して量化してみたが、 左辺側にも似たノッチがあり、石鑿の天地については再検討する 余地がある。粗い削離が全面を覆う。	凹基識
第7084 PL.65	111 坑 5	石鑿	埋上 完形	長 幅 (2.6) (1.8)	厚 重 0.3 1.1	チャート	完成状態? 表裏面とも丁寧な押圧剥離に覆われる。返し部 の欠損は石器製作の最終段階か。	凹基無茎頭
第7084 PL.65	111 坑 6	打製石斧	埋上 完形	長 幅 11.8 4.9	厚 重 1.3 71.2	ホルンフェルス	完成状態。側縁は「ハ」字状に開き気味で、刃部に最大幅が ある。風化が激しく、摩耗痕等は不明瞭。	短冊形
第7084 PL.66	132 坑 1	深鉢	底上8cm、埋上 口縁部～上位破片	口 (47.0)	粗砂、輝石/ふつ う	隆線による口縁部梢円状区画、溝巻文、沈線による胸部懸 垂を施し、RL縦文を充填施文する。頭部無文帯。	加曾利EZ式	
第7084 PL.66	132 坑 2	石鑿	埋上 2/3	長 幅 (1.6)	厚 重 0.4 1.2	チャート	完成状態。裏面基部を隠す表裏面とも押圧剥離を施す。 内辺の基部は棒状を呈す。同様な形状は石鑿にも見られ、形態的 的親和性が見て取れる。先端部は單に尖らせたというより意識的 に锐り込んでいるが、側縁摩耗は見られない。	凹基無茎頭
第7084 PL.66	132 坑 3	石鑿	埋上 完形	長 幅 2.3 2.0	厚 重 0.4 1.0	チャート		凹基無茎頭

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第708号 PL.66	133 坑 1	打製石斧	理上 ほぼ完形	長 幅 5.1 厚 重 1.7 チャート	8.8 82.5	完成状態。上端側面(4cm前後)が削れ摩耗していることから石斧部着部を想定した。石斧端部は未加工のエッジとなっているが、再生線上大きく破損したものであろう。	短冊形	
第708号 PL.66	136 坑 1	土製品	理上 下端部欠損	幅 厚 2.9 1.3	細砂、輝石/ふつ う	現存長5.1cm。楕円形状の板状の土製品。内外面ともに十字状に内円切突を有す。側縁は片側のみ連続させる。上端から下端に円孔を有す。		
第708号 PL.66	137 坑 1	深鉢	底上6cm 口縁部破片			粗砂、輝石/良好	隙帶による口縁部楕円状区画、渦巻文、沈線による側部懸垂文を施し。RL縞文を充填施文する。口縁部楕円状区画内は縦横に羽状施文する。	加曾利E2式
第708号 PL.66	138 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片	口 (25.0)		細砂、白色粒、輝 石、石英/ふつ う	横位降線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、LR縞文を全面施文する。横位降線の一部を突出させる。	後期加曾利E 系か
第708号 PL.66	138 坑 2	深鉢	理上 口縁部破片			細砂、輝石、石英 /ふつう	隙帶による口縁部楕円状区画。渦巻文を施し。RL縞文を充填施文する。	加曾利E2式
第708号 PL.66	138 坑 3	深鉢	理上 側部破片			細砂、繊維、白色 粒、輝石、石英/ 良好	沈線による側部懸垂文を施し。LR縞文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第708号 PL.66	138 坑 4	深鉢	理上 側部破片			粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつ う	沈線による側部懸垂文を施し。RL縞文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第711号 PL.66	138 坑 5	深鉢	理上 口縁部破片			細砂、白色粒、輝 石、石英/ふつ う	横位降線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、2条降 線を弧状に垂下させ、文様外にRL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第711号 PL.66	138 坑 6	深鉢	理上 側部破片			粗砂、輝石、石英 /ふつう	沈線による懸垂文、逆U字状モチーフを施し。LR縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第711号 PL.66	138 坑 7	深鉢	理上 側部破片			細砂、輝石、石英/ 良好	帶状沈線によるモチーフを施し。RL縞文を充填施文する。称名寺1式	
第711号 PL.66	138 坑 8	石棺	理上 先端破片	長 幅 (2.7) (1.9)	厚 重 1.2 3.8	粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつ う	木製品?折れ面のリングは不明瞭で、古い画鋲痕の部分か、表裏面とも加工は丁寧で、器体表面側には微細崩離感があり、軽用意図が窺われる。	
第711号 PL.66	138 坑 9	磨石	理上 完形	長 幅 8.2	厚 重 101.7	粗粒輝石安山岩	掌サイズよりやや大型。表裏面とも摩耗する。側縁に敲打痕や摩耗痕は見られない。	南円錐
第711号 PL.66	141 坑 1	耳环	底上1cm、埋上 側胴上位～底部 2/3		9.0	細砂、白色粒、輝 石、石英/ふつ う	脚中位がくの字状に彫らむ。沈線による玉抱き文様のモチーフを施し。LR縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第711号 PL.66	141 坑 2	石皿	底上13cm 1/2	長 幅 (19.8) (18.0)	厚 重 8.0 2078.9	粗粒輝石安山岩	多孔質で隕形は不明。裏面側に窪み穴が多数あり、端部が凸窪んでいる。石皿を意識した対比か。	有縫
第711号 PL.66	141 坑 3	多孔石	底上9cm 完形	長 幅 13.6	厚 重 10.6 4604	粗粒輝石安山岩	隕形状はほぼ柱状を呈し、各面に漏斗状の窪み穴がある。穴は回転穿孔されたような形状をとる。	亜角錐
第722号 PL.67	141 坑 4	多孔石	底上2cm 完形	長 幅 32.1	厚 重 15.9 15600	粗粒輝石安山岩	厚手で大形の楕円隕。片側に平坦面を作出したのち、粗い漏斗状の窪み穴を刻む。	南円錐
第722号 PL.67	141 坑 5	多孔石	底上5cm ほぼ完形	長 幅 21.0	厚 重 15.3 7800	粗粒輝石安山岩	垂角隕破片。窪み穴は隕の概形をなぞるようにあるが、穴の形状は不安定で3とは対照的。	亜角錐
第722号 PL.67	143 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、赤 色粒、輝石/ふつ う	隙帶による口縁部楕円状区画、沈線による側部懸垂文を施し。RL縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第722号 PL.67	143 坑 2	深鉢	理上 口縁部破片			細砂、白色粒、輝 石/良好	横位沈線をめぐらして口縁部LR縞文帯を区画。下位に逆U字状沈線を施す。	称名寺1式
第722号 PL.67	143 坑 3	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石、石英/ 良好	継やかな波状口縁。口縁部内折、肥厚部頂部下に円形刺突状に肥厚させ、刺突を施文、左側のみ沈線を施す。口縁内面も外面と對称となるよう円形刺突、沈線を施す。帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第738号 PL.67	144 坑 1	深鉢	底上1cm 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつ う	横位降線をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、LR縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第738号 PL.67	144 坑 2	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつ う	口縁部に1条の凹線をめぐらし、以下、縦位沈線を充填施文する。	後期前葉
第738号 PL.67	144 坑 3	深鉢	底上13cm 口縁部破片			細砂/ふつう	継やかな波状口縁。口縁内折、肥厚部頂部下に円形刺突状に肥厚させ、刺突を施文、左側のみ沈線を施す。口縁内面も外面と對称となるよう円形刺突、沈線を施す。帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第738号 PL.67	144 坑 4	深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝 石/良好	継やかな波状口縁。口縁部肥厚、肥厚部頂部下に円形刺突、沈線を伴う弧状隕帶を貼付し、間に円形刺突、帶状沈線を施す。以下、帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 腹之内1式
第738号 PL.67	144 坑 5	深鉢	底上13cm 口縁部破片			粗砂、白色粒、赤 色粒、輝石、石英/ 良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式

付表

補 図 PL.No.	No.	種 類 器 類	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第738 PL.67	144 坑 6	深鉢	埋上 胴部破片		粗砂、輝石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第738 PL.67	144 坑 7	深鉢	埋上 胴部破片		粗砂、白色粒/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第738 PL.67	144 坑 8	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	口縁を短く内折させ、内折部に円形刺突をめぐらす。以下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 瓶之内I式	
第738 PL.67	144 坑 9	深鉢	埋上 口辺部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	口縁直下の部位と思われる。口縁外面を肥厚させて円形刺突をめぐらし、以下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 瓶之内I式	
第738 PL.67	144 坑 10	深鉢	埋上 胴部破片		粗砂、輝石、輝石/ふつう	沈線による弧状の懸垂文を施す。	瓶之内I式	
第738 PL.67	144 坑 11	深鉢	底上 3cm 胴部破片		粗砂、輝石/良好	無文。瓶位のミガキ整形。	後期前葉	
第738 PL.67	144 坑 12	両耳壺	底上 83cm 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	口縁がくの字状に外屈。波頂部から把手を付す。把手下端から横位降帶をめぐらす。	後期前葉か 後葉	
第738 PL.68	144 坑 13	土製品か 土 製 品 か	底上 69cm 端部破片		粗砂、白色粒/良 好	筒状で、煙管の先端のような形状を呈す。端部内脇に楕状の把手を付し、円形刺突を施す。上端部に瘤状、内脇に2条の降帶を付する。	称名寺式	
第738 PL.68	144 坑 14	土 製 品	埋上 破片	高 厚 1.7 0.8	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	貝輪状土製品。外側が内縮する。中央部が最も厚く、上端および下端を尖り気味に成形する。白色塗彩の痕跡あり。		
第738 PL.68	144 坑 15	打製石斧	埋上 完形	長 幅 16.4 7.8	厚 重 3.6 474.7	ホルンフェルス	完成状態。側縁は開き気味で、刃部に最大幅がある。大型で、重量感がある。	錐型
第748 PL.68	159 坑 1	深鉢	埋上 胴部破片		粗砂/ふつう	撚糸文Lを瓶位施し、沈線による懸垂文を施す。	加曾利E2式	
第748 PL.68	159 坑 2	深鉢	埋上 胴部破片		粗砂、輝石、輝石/ 良好	沈線による胴部懸垂文を施し、RL繩文を瓶位充填施文する。	加曾利E3式	
第748 PL.68	159 坑 3	深鉢	埋上 胴部破片		粗砂、輝石、石英/ ふつう	沈線による胴部懸垂文を施し、複脚RLR繩文を瓶位充填施文する。	加曾利E3式	
第748 PL.68	159 坑 4	深鉢	埋上 胴部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胴部懸垂文を施し、RL繩文を瓶位充填施文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式	
第748 PL.68	159 坑 5	深鉢	埋上 胴部破片		粗砂、輝石、石英/ ふつう	隣帶によるU字状、逆U字状モチーフを施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式	
第748 PL.68	159 坑 6	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第748 PL.68	159 坑 7	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	表面側の環状突起、内外面に対称に隆帶を附付し、らせん状となる。内外面ともに環状に沿って沈線をめぐらすが、内側端部には円形刺突を加える。突起下の文様は沈線、列点を施す。	称名寺II式	
第748 PL.68	159 坑 8	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縁部に環状の突起を付し、上端部、内外面内側に刺突を伴う円形貼付文を施す。突起下は帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式	
第748 PL.68	159 坑 9	口注上器	埋上 口縁部破片		粗砂、石英/良好	口縫が短く内折。注口上端と口縁部を楕状につなぎ、上端を円形貼付文に肥厚させ、円形刺突を施す。口注間に円形刺突、沈線を伴う隆帶を付す。	称名寺式	
第748 PL.68	159 坑 10	磨石	埋上 ほぼ完形	長 幅 9.0 (8.3)	厚 重 3.5 348.1	粗粒輝石安山岩	颗粒物が抜けた痕跡は少。典型的な多孔質粗粒輝石安山岩とは異なり、摩耗面は見分け難い。被然破損か。	扁平椭円形
第748 PL.68	159 坑 11	敲石	埋上 完形	長 幅 9.8 5.3	厚 重 4.5 350.5	砂岩	小口部両端や側縁に敲打痕があるほか、表面側にも直線的に續く敲打痕がある。	棒状器
第748 PL.68	159 坑 12	丸石	埋上 完形	長 幅 16.1 13.7	厚 重 10.5 380.1	溶結凝灰岩	側周縁は鉄錆が付いているが、表裏面は青味を帯び綿麗、精緻な使用痕は見られない。	精円錐
第748 PL.68	159 坑 13	石皿	埋上 1/4	長 幅 (14.7) (10.8)	厚 重 12.1 1967.1	粗粒輝石安山岩	石皿端部破片。裏面側には漏斗状の窪み穴がある。石皿は厚く、大型品になるだろう。	有縫
第758 PL.68	146 坑 1	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隣帶による横状帯状沈線をめぐらし、円形刺突を充填施文、口縫との区画にも円形刺突をめぐらす。以下、逆U字状沈線を施す。	称名寺II式	
第758 PL.68	147 坑 1	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒/ふ つう	隣帶による口縁部横状帯状区画、渦巻文、沈線による胴部懸垂文を施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式	

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第758 PL.68	152 坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	口縁が短く内折。縦横に集合沈線を施し、RL縞文を充填施文する。	瓶之内1式
第758 PL.68	152 坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	胸中位でくびれる形態。集合沈線による弧状の懸垂文を施し、LR縞文を充填施文する。くびれ部に刺突を作った隠帶を有する。	瓶之内1式
第758 PL.68	152 坑 深鉢	理上 口縁～胸上位破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	口縁部に刻み隠線を2条めぐらし、2条の縦位隠線で連結、交点に刺突を施す。下位は帯状沈線による三角形を横位に連ねるモチーフを施し、LR縞文を充填施文する。	瓶之内2式
第758 PL.68	154 坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂/良好	口縁部に横位平干波線を施し、内部に対向する三角印刺を施文。沈線を治むれて横円文が横位に連なるモチーフを描く。地紋にLR縞文を施す。	五箇台式
第758 PL.68	157 坑 多孔石	床下60cm 1/3	長(15.8) 幅(16.3) 厚 2507	10.7	粗粒輝石安山岩	表面には漏斗状の窪みがある。亜角礫素材で、側面は鉄錆が付いているが、表面には鉄錆が見られない。	
第758 PL.68	160 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を瓶位充填施文する。	加曾利E3式
第758 PL.68	160 坑 浅鉢	底上0cm 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつう	胸上位に内湾し、口縁がくの字状に直立する。屈曲部に円孔を穿った鈎をめぐらす。外外面赤色。	中期後葉か
第758 PL.68	162 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を瓶位充填施文する。	加曾利E3式
第758 PL.68	162 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒、輝石/石英/ふつう	弧状沈線を施し、条線を充填施文する。	称名寺式
第758 PL.69	165 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を瓶位充填施文する。	加曾利E3式
第758 PL.69	167 坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつう	隠帶による口縁部凹凸、溝文を施す。頭部無文帯を挟み、横位2条の沈線をめぐらす。	加曾利E2式
第758 PL.69	167 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、輝石/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、複節RLR縞文を瓶位充填施文する。	加曾利E3式
第758 PL.69	168 坑 土製品	理上 破片	高 厚 1.7 0.6		細砂/良好	貝輪状土製品。外側に内縮する。断面は上部がやや膨らむ板状を呈す。白色透彩の経路あり。	
第758 PL.69	168 坑 打製石斧	理上 完形	長 幅 9.6 4.7	厚 重 2.1 97.9	ホルンフェルス	完成状態。装着部は耗耗、弱く括れる。上下両端に刃部がある。刃部は再生使用され、大きく後退している。	短冊形
第768 PL.69	173 坑 石鏡	理上 完形	長 幅 3.7 1.9	厚 重 0.4 1.8	チャート	完成状態。表面とも丁寧な押圧剥離に覆われる。大型・長身の石鏡で、対称性にも優れている。	凹基無茎鏡
第768 PL.69	175 坑 深鉢	理上 口辺部破片			粗砂、輝石/ふつう	隠帶による口縁部横内凹区画を施す。RL縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第768 PL.69	178 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、輝石、石英/ふつう	2条隠帶による制御懸垂文、1条の蛇行懸垂文を施す。地文にRLR縞文を羽状施文する。	加曾利E2式
第768 PL.69	178 坑 深鉢	底上10cm 口縁～胸上位破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	隠帶による口縁部横内凹区画、沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第768 PL.69	176 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒、輝石/石英/ふつう	瓶位条線を充填施文する。	中期後葉～後期前葉
第768 PL.69	176 坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつう	波状口縁で波頂部に逆S字状の貼付文を付す。脇に円形刺突、沈線を施す。	称名寺式
第768 PL.69	176 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、白色粒、輝石/石英/ふつう	瓶位集合沈線を施す。	瓶之内1式
第768 PL.69	176 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、輝石、石英/ふつう	集合沈線による同心円状のモチーフを施す。地文にRL縞文を施し、沈線部分は磨り消している。同心円の中心に貼付文状の高まりがある。	瓶之内1式
第768 PL.69	176 坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつう	口縁部に刻み隠線をめぐらし、以下、帯状沈線によるモチーフを施し、LR縞文を充填施文する。	瓶之内2式
第768 PL.69	176 坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/石英/ふつう	帶状沈線、沈線による幾何学モチーフを施し、LR縞文を充填施文する。一部、区画内に沈線を重層させる。	瓶之内2式
第768 PL.69	176 坑 深鉢	理上 胸部破片			粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線による幾何学モチーフを施し、LR縞文を充填施文する。一部、区画内に沈線を重層させる。	瓶之内2式

種 図 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/模成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第7684 PL.69	176 坑 8 深鉢	理上 制部破片		細砂、白色粒、輝 石/ふつう	帯状沈線による幾何学モチーフを施し、LR繩文を充填施 文する。	瓶之内2式	
第7684 PL.69	176 坑 9 深鉢	理上 制部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	横位帯状沈線を施し、LR繩文を充填施文、下位に横位沈 線を重層させる。	瓶之内2式	
第7684 PL.69	176 坑 10 打製石斧	理上 ほぼ完形	長 幅 10.9 (4.4) 厚 重 70.0	1.3	ホルンフェルス	完成状態。風化して不明瞭だが、内側縁の摩耗は明らかで ある。これに対して刃部エッジは比較的新鮮。	短冊形
第7714 PL.69	179 坑 1 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隙縫による口縁部凹凸を施し、縦位短沈線を充填施文す る。頭部は無文帶か。	加曾利E2式	
第7714 PL.69	179 坑 2 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/良 好	隙縫による口縁部凹凸を施し、縦位充填施文する。	加曾利E3式	
第7714 PL.69	179 坑 3 深鉢	理上 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂文を施し、LR繩文を充填施文す る。	加曾利E3式	
第7714 PL.69	179 坑 4 深鉢	理上 制部破片		粗砂、輝石/良 好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式	
第7714 PL.69	179 坑 5 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	2条沈線による逆U字状モチーフを施し、文様外にRL繩 文を充填施文する。	加曾利E4式	
第7714 PL.69	179 坑 6 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、白色粒、輝 石/ふつう	口縁部に横位1条の隙縫をめぐらす。ほか無文。	後期初頭	
第7714 PL.69	179 坑 7 深鉢	理上 制部破片		細砂、白色粒、輝 石/石英/ふつう	弧状の隙縫を施し、LR繩文を充填施文する。	加曾利E4式	
第7714 PL.69	179 坑 8 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	波状口縁。帯状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充 填施文する。	称名寺1式	
第7714 PL.69	179 坑 9 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/ふ つう	波頂部に捻転状の突起を付し、下部を伸ばして橋状につな ぐ。突起下部に円形の透かしを入れる。	称名寺式	
第7714 PL.69	179 坑 10 深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺1式	
第7714 PL.69	179 坑 11 深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺1式	
第7714 PL.69	179 坑 12 深鉢	理上 口縁部破片		細砂、輝石/ふつ う	波状口縁。帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施 文する。	称名寺II式	
第7714 PL.69	179 坑 13 深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第7714 PL.69	179 坑 14 深鉢	理上 制部破片		細砂、白色粒、輝 石/石英/ふつう	くの字状に継ぐ外輪。屈曲部に横位沈線をめぐらし、8の 字貼付文を付す。以下、帯状沈線によるモチーフを施し、瓶 之内1式	地文にRL繩文を施し、隙縫による懸垂文を施す。一部、 沈線による懸垂文も見られる。	
第7714 PL.70	179 坑 15 深鉢	底上2cm 底部破片	底 10.4	粗砂、輝石/ふつ う	地文にRL繩文を施し、隙縫による懸垂文を施す。一部、 沈線による懸垂文も見られる。	加曾利E2式	
第7714 PL.70	179 坑 16 深鉢	理上 口付浅鉢		粗砂、輝石/良 好	口縁部を内屈させ、沈線による楕円状の枠状文を施し、刺 突を充填施文する。	称名寺II式	
第7714 PL.70	179 坑 17 打製石斧	理上 1/3	長 幅 (7.7) 4.8 厚 重 62.8	1.4	ホルンフェルス	完成状態。右辺側の側縫は摩耗、使用状態にあることがわ かる。右辺側上半部および左辺側エッジは新鮮で、特に右辺 側縫は変形度が高く、右斧以外の軽用を想定すべきか。	短冊形
第7714 PL.70	179 坑 18 磨製石斧	理上 完形	長 幅 8.4 (4.7) 厚 重 2.4 166.0	2.4	赤輝緑岩	上端側削離は両極削離程度で、表面裏に小剝離痕が生じる。 刃部は片刃で、通常削離後に両極削離して直線的刃部を志 向した可能性が高。刃部は削離後研磨されている。	定角
PL.70	179 坑 19 打製石斧	理上 4/5	長 幅 (8.6) (3.7) 厚 重 71.0	1.7	ホルンフェルス	完成状態。右辺側は潰れ。石斧の形状が良く残る。左辺側 は欠損して形状は不明瞭。	短冊形
第7804 PL.70	188 坑 1 深鉢	底上6cm・ 16cm、理上 口縁～胸下位破 片	口 C36.5	粗砂、輝石/ふ つう	口縁部無文帶。屈曲部下に隙縫による楕円状区画文を施す。 地文に懸垂文を縦位施文。	加曾利E2式	
第7804 PL.70	188 坑 2 深鉢			細砂/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式	
第7804 PL.70	188 坑 3 深鉢	理上 口縁～胸上位破 片		粗砂、赤色粒、輝 石/良好	波状口縁。沈線によるU字状文、逆U字状文を2段波状に 横位に連ね、RL繩文を縦位充填施文、繩文帯にS字文を配 す。	加曾利E3式	

掃 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 現 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第7884 PL.70 坑 4	188	理上 口縁部・胸上位破片			繊砂、白色粒、輝石/良好	沈線による横内凹文を模倣に追ね。RL縦文を窓位充填施文。間にラブリ手紙蓋垂文を配す。くびれ部を境に上下2段に施文。内面ミガ牛整彌。	加曾利E3式	
第7884 PL.70 坑 1	189	理上 土製品 破片	種	1.6	繊砂、白色粒、輝石/ふつう	現存長4.0cm。棒状の上製品のようだが、くの字状に緩く屈曲し、屈曲に合わせて円孔を穿つ。		
第7884 PL.70 坑 1	192	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつう	口縁がくの字状に緩く外屈。口縁部を魚骨帯とし、屈曲部下に円形竹管刺突を充填施文する。1区造構外塗11と同一個体。	称名寺 II 式	
第7884 PL.70 坑 2	192	理上 完形 磨石	長 幅	12.4 6.7	厚 重 3.6 407.5	粗粒輝石安山岩	掌サイズの河床礫で、長幅は棒状圓に近い。表面とも摩耗痕が広がる。	精円礫
第7884 PL.70 坑 1	193	理上 完形 磨石	長 幅	15.1 6.2	厚 重 5.3 851.6	粗粒輝石安山岩	表面および右側縁、小口部端部の敲打摩耗痕が著しい。特に右側縁の敲打摩耗が激しく、殺擦石様の明瞭な棱を形成する。	棒状圓
第7984 PL.70 坑 1	194	理上 深鉢			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を窓位充填施文する。	加曾利E3式	
第7984 PL.70 坑 2	194	理上 完形 鐵石	長 幅	12.0 5.2	厚 重 5.5 470.8	粗粒輝石安山岩	扁平横円錐を二分したような圓形状。小口部両端および表面の櫛縁部に敲打痕がある。	棒状圓
PL.70 坑 3 打製石斧	194	理上 完形	長 幅	(10.1) 4.2	厚 重 1.5 82.1	ホルンフェルス	完成形状。風化が激しく摩耗痕等は不明瞭だが、側縁が削れていることは確実。上端内端を欠く。	短圓形
第7984 PL.71 坑 1	195	理上 深鉢			粗砂、繊維、輝石、石英/良好	隣帶による口縁部横内凹文、沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式	
第7984 PL.71 坑 2	195	理上 胸部破片			繊砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を窓位充填施文する。	加曾利E3式	
第7984 PL.71 坑 3	195	理上 完形 打製石斧	長 幅	14.1 4.9	厚 重 3.2 225.6	ホルンフェルス	完成形状。表面とも刃部摩耗が著しい。上端側エッジに同等の摩耗があることに注意。	短圓形
第7984 PL.71 坑 1	198	理上 深鉢			粗砂、輝石、石英/ふつう	櫛伝線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、沈線によるモチーフを施し、文様外にLR縦文を充填施文する。	中期未葉～後期初期	
第7984 PL.71 坑 2	198	理上 深鉢			粗砂/ふつう	窓位条線を充填施文し、口縁部に横位沈線をめぐらす。口縁部の条線を磨り消すが、下部は消し切れていない。	後期加曾利E系か	
第7984 PL.71 坑 3	198	理上 深鉢			粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式	
第7984 PL.71 坑 4	198	理上 深鉢			粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、無節RI縦文を充填施文する。	称名寺 I 式	
第7984 PL.71 坑 5	198	理上 深鉢			粗砂、輝石、石英/ふつう	穂やかな波状口縁。波頭部から刺突を伴う降帶を垂下。帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式	
第7984 PL.71 坑 6	198	理上 深鉢			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、条線を充填施文する。	称名寺式	
第7984 PL.71 坑 7	198	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	波状口縁で、波頭部に捻転状の突起。構状把手を付す。口縁を多くの字状に内屈させ、帶状沈線、刺突を伴う円形貼付文を施す。波頭部内に円孔を穿ち、沈線を削りませ、内側に刺突を伴う円形貼付文を付す。	称名寺 II 式	
第7984 PL.71 坑 8	198	理上 深鉢			粗砂、輝石、石英/良好	口縁が短く内折。内折部に刺突を伴う円形貼付文を付し、帶状沈線をめぐらす。以下、帶状沈線による括先モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II 式	
第7984 PL.71 坑 9	198	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	口縁外面をくの字状に内屈させ、内屈部に横位8の字貼付文を貼付。沈線による横内凹文を施す。刺突を充填施文する。以下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺 II 式	
第7984 PL.71 坑 10	198	理上 深鉢			粗砂、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II 式	
第7984 PL.71 坑 11	198	理上 胸部破片			粗砂、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、点列を充填施文する。	称名寺 II 式	
第7984 PL.71 坑 12	198	理上 胸部破片			粗砂/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、点列を充填施文する。	称名寺 II 式	
第8084 PL.71 坑 13	198	理上 深鉢			粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、櫛状側刺突を充填施文する。	称名寺 II 式	
第8084 PL.71 坑 14	198	理上 深鉢			粗砂、輝石、輝石/良好	口縁部を肥厚させ、肥厚部に凹線をめぐらす。以下、帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺 II 式	

補 図 PL.No.	No.	種 類 器	出上位置 残存率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第808回 PL.71	198 15	埋 深鉢	埋上 制部破片		細砂、赤色粒、輝 石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第808回 PL.71	198 16	埋 深鉢	埋上 口縁部破片		細砂/ふつう	口縁部に円形刺突をめぐらす。	称名寺II式～ 龜之内I式
第808回 PL.71	198 17	埋 深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	口縫部を肥厚させ、肥厚部に円形刺突をめぐらす。以下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 龜之内I式
第808回 PL.71	198 18	埋 深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縫部に円形刺突をめぐらし、以下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 龜之内I式
第808回 PL.71	198 19	埋 深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	口縫部を細く内折させ、内折部に横状沈線をめぐらす。頭部を無文帯とし、肩部に横状沈線をめぐらす。	龜之内I式
第808回 PL.71	198 20	埋 深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石、白色 粒、輝石/良好	継やかな波状口縁。口縁部に横位降級をめぐらして8の字 貼付文を施す。下位に沈線様が見られる。波頭部内面に 円形刺突を施す。	称名寺式
第808回 PL.71	198 21	埋 深鉢	埋上 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	くびれ部に8の字貼付文。横位帯状沈線を施し、列点を充 填塗する。1区画外幅12と同一化。	龜之内I式
第808回 PL.71	198 22	埋 深鉢	埋上 制部破片		粗砂/良好	くびれ部に8の字貼付文。横位帯状沈線を施し、列点を充 填塗する。	龜之内I式
第808回 PL.71	198 23	埋 深鉢	埋上 制部破片		細砂、白色粒、輝 石/ふつう	同心円状の集合沈線、LR織文を施す。	龜之内I式
第808回 PL.71	198 24	底上110cm, 埋 深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	無文。外面縦位、内面横位の粗いミガ牛整形。	後削前磨
第808回 PL.71	198 25	打製石斧	埋上 2/3	長 幅 (8.3) (5.0) 厚 重 1.9 82.5	ホルンフェルス	完成状態。両側縁および器体中央付近の裏面は摩耗する。 側縁は直線的だが開き気味。刃部を大きく欠損。	短冊形
第808回 PL.71	198 26	打製石斧	埋上 4/5	長 幅 11.5 厚 重 (5.8) 1.8 125.1	ホルンフェルス	完成状態。器体上下が弱く抉れ、芸苔部となる。左辺下端 側が強く摩耗する以外、エッジは新鮮。途中再生を放棄。	舟子形
第808回 PL.71	198 27	埋 凹石	埋上 完形	長 幅 9.9 厚 重 6.0 重 377.6	粗粒輝石安山岩	裏面とも裏面にはアバタ状の敲打痕があるほか、摩耗痕 が広がる。また、側縁の敲打・摩耗も著しく、側縁線が生 じるほどである。	圓内襷
第808回 PL.72	198 28	埋 磨石	埋上 完形	長 幅 8.7 厚 重 8.2 重 429.3	粗粒輝石安山岩	掌サイズの河床堆。裏面とも摩耗するほか、上端側小口 部に敲打痕が集中する。	扁平圓襷
第808回 PL.72	198 29	埋 鐵石	埋上 完形	長 幅 11.3 厚 重 4.6 重 295.5	粗粒輝石安山岩	棒状躍下端部を尖り氣味に整形する。突出部側には敲打 痕。稜部を外れた側縁部には研磨面で復元する。石皿製作 用の敲打とされるものに近い。このほか、躍上端部側縁に 敲打痕が集中する。	棒狀躍
第808回 PL.72	198 30	石製品	埋上 4/5	長 幅 9.4 厚 重 7.1 重 362.6	粗粒輝石安山岩	裏面に同型の裂き・裂み穴を有す。両側面は裏面だが同型 に込んでおり、単なる一つなどの意図したものなのか、判 断できない。ビビ音でしているが、エッジは不明。	
第808回 PL.72	198 31	多孔石	埋上 4/5	長 幅 18.2 厚 重 (20.6) 重 3004.8	粗粒輝石安山岩	側縁は鉄錆の付いた裸面で、円錆に近い禮形状。裏面側 は平田山分削面で、隕みびきがある。表面側には僅みびきが多 数あり、94縁より裏付近が高まる傾向にある。	垂円襷
PL.72	198 32	打製石斧	埋上 1/2	長 幅 (5.3) 厚 重 (4.0) 重 38.3	ホルンフェルス	完成状態。側縁はエッジがシャープで、リダクションの結果、側縁が変 形している気味が高い。胸部中央付近で欠損する。	短冊形
PL.72	198 33	鐵石	埋上 1/2	長 幅 (4.3) 厚 重 (7.8) 重 101.2	ホルンフェルス	片面に裏面が大きめの剥幅削片を用い、周辺加工して形 状を整える。風化が激しく不明瞭だが、エッジが摩耗する ことから敲打具として捉えてみた。	圓内襷
第81回 PL.72	203 1	埋 深鉢	埋上 制部破片		細砂、白色粒/ふ つう	弧状の隆線を重下させ、LR織文を充填塗する。無文帯 は見られない。	加曾利E4式
第81回 PL.72	206 1	埋 深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石	横位降級をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、隆線に よる懸垂文を施し、LR織文を縦位充填塗する。	加曾利E4式
第81回 PL.72	206 2	埋 深鉢	底上 2 cm 埋上 制部破片		粗砂、輝石、白色 粒/ふつう	隆線による懸垂文を施し、LR織文を充填塗する。	加曾利E4式
第81回 PL.72	206 3	埋 深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	横位沈線をめぐらして幅狭な口縁部無文帯を区画。以下、 帶状沈線によるモチーフを施し、LR織文を充填塗する。	称名寺I式
第81回 PL.72	206 4	埋 深鉢	埋上 制部破片		細砂/ふつう	帶状沈線による幾何学モチーフを施し、LR織文を充填塗 する。	称名寺I式
第81回 PL.72	206 5	埋 深鉢	埋上 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帶状沈線による幾何学モチーフを施し、LR織文を充填塗 する。	称名寺I式

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第81回 PL.72	208 坑 1	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、細繩、白色 粒、輝石/良好	隆帯による口縁部横円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第81回 PL.72	208 坑 2	深鉢	埋上 胸部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第81回 PL.72	208 坑 3	門石	底上 7 cm 完形	長 幅 8.0 厚 4.7 重 566.9	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗した浅い窪み穴2があるほか、小口部や両側縁には敲打痕がある。小口部や両側縁には敲打摩耗痕が広がり、弱い接縫が生じている。	横円縫
第81回 PL.72	214 坑 1	深鉢	埋上 口縁部破片		繊紗/良好	隆帯による口縁部横円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第81回 PL.72	214 坑 2	深鉢	埋土 胸部破片		粗砂、細繩、輝石、 石英/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第81回 PL.72	214 坑 3	深鉢	埋土 胸部破片		粗砂、細繩、輝石/ 良好	沈線による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第81回 PL.72	214 坑 4	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	横位沈線をめぐらして幅狭な口縁部無文帶を区画。以下、弧状の沈線を垂下させ、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第81回 PL.72	214 坑 5	深鉢	埋土 胸部破片		粗砂、白色粒、石 英/良好	弧状の隆線を垂下させ、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第81回 PL.72	214 坑 6	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	横位短沈線を伴う横位隆線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、無筋LR縦文を充填施文する。	後期初頭
第81回 PL.72	214 坑 7	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、輝石、石英/ ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第81回 PL.72	214 坑 8	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縁が短く内折。帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第82回 PL.72	214 坑 9	深鉢	埋土 口縁部破片			Nd10と同一個体。	称名寺 I 式
第82回 PL.72	214 坑 10	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縁部に小突起を付し、円形刺突、沈線を施す。帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。無文部、内面ミガ整形。	称名寺 I 式
第82回 PL.72	214 坑 11	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、輝石、石英/ 良好	波頂部に横状突起を付し、波頂部から内面にかけて逆S字状の隆線を付す。突起外側に円形刺突、沈線を施す。	称名寺式
第82回 PL.72	214 坑 12	深鉢	埋土 口縁部破片		繊紗/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II 式
第82回 PL.72	214 坑 13	深鉢	埋土 胸部破片		粗砂、細繩、白色 粒/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II 式
第82回 PL.72	214 坑 14	深鉢	埋土 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位弧状の沈線、列点を施す。	称名寺 II 式
第82回 PL.73	214 坑 15	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	口縫外縫をくの字状に内屈させ、内屈部に端部に円形刺突を伴う沈線をめぐらす。以下、帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺 II 式
第82回 PL.73	214 坑 16	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂、細繩、白色 粒、輝石/ふつう	口縫外縫をくの字状に内屈させ、内屈部に円形刺突をめぐらす。以下、帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺 II 式
第82回 PL.73	214 坑 17	深鉢	埋土 胸部破片		繊紗、細繩、輝石/ 良好	帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺 II 式
第82回 PL.73	214 坑 18	浅鉢	埋土 口縁部破片		繊紗、輝石/ふつ う	波頂口縫。口縫をくの字状に内屈させ、帶状沈線、8の字貼付文を施す。	称名寺式
第82回 PL.73	214 坑 19	深鉢	埋土 胸部破片		繊紗/良好	くびれ部に8の字貼付文、横位帶状沈線を施し、列点を充填施文する。貼付文下に逆V字状の沈線が見られる。	瓶之内 I 式
第82回 PL.73	214 坑 20	深鉢	埋土 胸部破片		粗砂、輝石/良好	くびれ部上下間に横縫をめぐらし、横状把手でつなぐ。把手上面に円形刺突、沈線を施す。胸部に沈線による幾何学モチーフを施し、刺突を充填施文する。	瓶之内 I 式
第82回 PL.73	217 坑 1	深鉢	埋土 胸部破片		粗砂、輝石/良好	横位弧状の沈線、列点を施す。	称名寺 II 式
第82回 PL.73	217 坑 2	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂/良好	無文。外面赤彩。	後期前量か

付表

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第828# PL.73	216 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/良好	逆U字状の沈線を施し、文様外にLR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第828# PL.73	220 坑 2	深鉢	底上27cm 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隣帶による口縁部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第828# PL.73	220 坑 2	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隣帶による口縁部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第828# PL.73	220 坑 3	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	横位隣縫をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第828# PL.73	221 坑 1	深鉢	理上 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による脇部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第828# PL.73	221 坑 2	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	横位隣縫をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、弧状隣縫を垂下させ、LR縦文を充填施文する。	後期加曾利E系 か
第828# PL.73	221 坑 3	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	小型。無文。	後期前葉か
第828# PL.73	222 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隣帶による口縁部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第828# PL.73	222 坑 2	深鉢	理上 胸部破片		粗砂、細繩/良好	沈線による脇部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第838# PL.73	222 坑 3	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	弧状沈線を垂下させ、縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第838# PL.73	223 坑 1	深鉢	理上 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による脇部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第838# PL.73	224 坑 1	深鉢	底上3cm 口縁部破片		粗砂/良好	口縁部がくの字状に内屈、屈曲部上位を三角形状に突出させ。対向する渦巻文を配し、面部に刻みを付す。口縁部に幅広な無文帯を置き、以下、横位沈線を多段に施し、交互刺突を施す。	中前期中葉 か
第838# PL.73	224 坑 2	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	隣帶による口縁部梢円状区画・渦巻文・沈線による脇部懸垂文、蛇行懸垂文を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E2式
第838# PL.73	224 坑 3	深鉢	底上3cm 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	双方向の起伏を付し、内外面、上端にのみかしを入れる。突起間に横状把手を持す、下端から派生する隣帶と沈線により口縁部梢円状区画を施し、隣縫短沈線を充填施文する。	加曾利E2式
第838# PL.73	224 坑 4	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	小突起を付す波状口縁。隣帶による口縁部梢円状区画を施し、縦位短沈線を充填施文する。波頭部下にワラビ手文を配す。	加曾利E2式
第838# PL.73	224 坑 5	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	添承文を縦位施文し、隣帶による口縁部区画を施す。	加曾利E2式
第838# PL.73	224 坑 6	深鉢	底上3cm 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/良好	隣帶による口縁部区画、胸部懸垂文。蛇行懸垂文を施す。地文にRL縦文を施文。	加曾利E2式
第838# PL.73	224 坑 7	深鉢	理上 胸部破片		粗砂/良好	添承文を縦位施文し、横位、波状沈線をめぐらす。	加曾利E2式
第838# PL.73	224 坑 8	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	隣帶による口縁部梢円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第838# PL.73	224 坑 9	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/良好	2条沈線による逆U字状モチーフを施し、文様外にRL縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第838# PL.73	224 坑 10	浅鉢	理上 胸部破片		粗砂、輝石/良好	無文。内外面横位のミガキ整形。内面黒色。	中后期後葉か
第838# PL.73	224 坑 11	深鉢	理上 底部破片	底 5.0	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隣縫沈線、縦位条線、付加条縫文を施す。	中后期後葉か
第838# PL.73	224 坑 12	深鉢	底上5cm 底部破片	底 7.7	粗砂、白色粒、輝 石/良好	縦位、斜位の条縫を施す。	中后期後葉か
第838# PL.74	224 坑 13	打製石斧	理上 完形	長 幅 9.6 厚 4.0 重 70.0	ホルンフェルス	内側縫とも摩耗、完成状態にあるのをあらうが、刃部は未加工で、素材エッジをうまく取り込んでいる。	短彫形
第838# PL.74	224 坑 14	門石	理上 完形	長 幅 11.6 厚 7.0 重 403.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも裏面には浅い漏斗状の窪み穴2があり、摩耗痕が広がる。内側縫は敲打摩耗して棱を形成、下端側小口部の種が潰れる。	梢円彫

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石 材 / 材 贀	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第848 PL.74	224 坑 15	理上 ほぼ完形 門石	長 幅 7.8	厚 重 9.2 869	粗粒輝石安山岩	掌サイズよりやや大。裏面側を除き各面に窪み穴がある。表面側の窪み穴は2ヶ所にあり、幅4cmを量す。右側面の窪み穴は若干変形、左側面のそれは敲打痕に近い。	不定形
第848 PL.74	225 坑 1	底上12cm、理上 口縁部破片 深鉢			細砂、白色粒、輝 石/ふつう	継やかな波状口縁。2条沈線による溝巻状モチーフを施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第848 PL.74	225 坑 2	理上 胸部破片 深鉢			粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第848 PL.74	225 坑 3	理上 胸部破片 深鉢			粗砂、白色粒、輝 石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第848 PL.74	225 坑 4	底上12cm 胸部破片 深鉢			粗砂/ふつう	隆線による曲線モチーフを施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第848 PL.74	226 坑 1	理上 口縁部破片 深鉢			粗砂/ふつう	舌状の波状口縁。縁帶による口縁部横円状区画を施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第848 PL.74	226 坑 2	理上 胸部破片 深鉢			粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第848 PL.74	226 坑 3	理上 胸部破片 深鉢			粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第848 PL.74	226 坑 4	理上 胸部破片 深鉢			粗砂、白色粒/良 好	帯状沈線によるモチーフを施し、RL繩文を充填施文する。区画内に沈線を重層させる。	縁之内 2式
第848 PL.74	226 坑 5	打製石斧 理上 ほぼ完形	長 幅 4.6	厚 重 1.8 86.6	ホルンフェルス	完成状態? 沈離面の稜は比較的新鮮で、摩耗痕等は見られない。左辺側上端の加工は再生時のそれである。	短冊形
第848 PL.74	227 坑 1	理上 口縁部破片 深鉢			粗砂、細繩/ふつ う	隆帶による口縁部横円状区画、円文を施す。	加曾利E2式
第848 PL.74	227 坑 2	底上12cm、理上 胸部破片 深鉢				No.1と同じ個体。RL繩文を地文とし、沈線によるU字状、逆U字状文を敲打胸部懸垂文を施す。	加曾利E2式
第848 PL.74	227 坑 3	理上 口縁部破片 深鉢			粗砂、輝石/良好	縁帶による口縁部横円状区画、溝唇文を施し、縦位短沈線を充填施文。沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E2式
第848 PL.74	227 坑 4	理上 胸部破片 深鉢			粗砂/良好	縁帶による口縁部横円状区画を施し、LR繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第848 PL.74	227 坑 5	理上 胸部破片 深鉢			細砂、輝石、石英 /ふつう	RL繩文を地文とし、2条沈線による胸部懸垂文、弧状文を施し、沈線間を磨り消す。	加曾利E2式
第848 PL.74	227 坑 6	底上15cm 底部破片 深鉢	底	7.2	粗砂、輝石/ふつ う	沈線によるU字状モチーフを施し、RL繩文を充填施文する。	中期後葉
第848 PL.74	227 坑 7	底上12cm 底部破片 深鉢	底	7.6	粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、複節LRL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第858 PL.74	227 坑 8	理上 底部破片 深鉢			粗砂、赤色粒、輝 石/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、複節LRL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第858 PL.74	227 坑 9	底上6cm 底部破片 浅鉢			粗砂、輝石/良好	縁帶による横円状区画、溝巻文を施し、縦位短沈線を充填施文する。内面黒化。	加曾利E2式
第858 PL.75	228 坑 1	理上 胸部破片 深鉢			粗砂、白色粒、輝 石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、LR繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第858 PL.75	228 坑 2	理上 胸部破片 深鉢			粗砂/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第858 PL.75	229 坑 1	理上 胸部破片 深鉢			粗砂、輝石/良好	沈線による弧状モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第858 PL.75	229 坑 2	理上 口縁部破片 深鉢			細砂、石英/ふつ う	波頂部の突起。波頂部から捻轉状縁帶を橋状につなぐ。上面に端部に円形剥突を作った沈線を施す。	称名寺式
第858 PL.75	229 坑 3	理上 胸部破片 深鉢			細砂/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II式
第858 PL.75	229 坑 4	理上 4/5 石 磨	長 幅 4.7	厚 重 2.1 (1.7) 0.8	チャート	未製品。れ面側先端を削き、表裏面とも丁寧な押圧剥離が施される。左辺側の返し部を欠損する。	凹基無茎磨

付表

種別 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/成形/調色 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第8584 PL.75	231 坑1	深鉢	理上 制部破片		細砂、白色粒、赤色粒、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第8584 PL.75	232 坑1	深鉢	理上 制部破片		粗砂、輝石/ふつう	2条縦線を弧状に施し、文様外に凹縦文を充填施文する。	加曾利E4式	
第8584 PL.75	236 坑1	深鉢	理上 口縁部破片	□ C37.0	粗砂、細砂、白色粒、輝石/ふつう	口縁外面をくの字状に内屈させ、内屈部に円形刺突、横位沈線をめぐらす。以下、帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式	
第8584 PL.75	236 坑2	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	波頭部の橋状突起。内部に円孔を穿る。波頭部に環状の隆帶を貼付し、平坦面を作出する。	称名寺式	
第8584 PL.75	236 坑3	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/良好	波頭部の橋状突起。波頭部内面にU字状隆帶を貼付し、内側面ともに内端に円形刺突を作り沈線を施す。波頭部下に沈線によるモチーフを施す。	称名寺式	
第8584 PL.75	236 坑4	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第8584 PL.75	236 坑5	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、石英/ふつう	波状口縁。帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第8584 PL.75	236 坑6	深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、石英/ふつう	帯状沈線による曲線モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第8584 PL.75	236 坑7	深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	帯状沈線による曲線モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第8664 PL.75	236 坑8	深鉢	理上 制部破片		粗砂/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式	
第8664 PL.75	236 坑9	深鉢	理上 制部破片		粗砂、輝石、雲母/良好	くびれ部に弧状の貼付文を付し、上面に円形刺突、沈線を施す。横位、逆U字状の沈線を施す。	瓶之内I式	
第8664 PL.75	236 坑10	深鉢	理上 口縁部破片		細砂/ふつう	無文。斜位のナデ整形による凹凸顯著。	後期前葉	
第8664 PL.75	236 坑11	深鉢	理上 制部破片		細砂/ふつう	横位、斜位。弧状の沈線を施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内I式	
第8664 PL.75	236 坑12	土製品	理上 破片	高厚 2.1 0.9	粗砂、輝石/良好	貝輪状土製品。外面が内屈する。中央部が最も厚く。上下端を尖り氣味に成る。整形による若干の凹凸見られる。		
第8664 PL.75	236 坑13	四石	理上 完形	長幅 12.4 7.3	厚 3.8 重 468.9	粗粒輝石安山岩	表面とも浅い漏斗状の窪み穴2があるほか、両側面にも大きく躍んだ敲打痕がある。小口部上端は敲打摩耗して、結果的に平坦面が形成されている。	精円謹
PL.75	236 坑14	打製石斧	理上 1/2	長幅 (8.4) 6.9	厚 1.8 重 145.2	ホルンフェルズ	未製品? 表裏面とも剥離面は風化しているが、エッジには敲打痕が新鮮に残る。表面は上部を欠損する。	細彫形?
第8664 PL.75	237 坑1	深鉢	理上 口縁~底部4底	口(17.5) 高 (7.5)	粗砂、細砂、赤色粒、輝石、石英/良好	隙帶による口縁部凹曲、内文を施し、縦位短沈線を充填施文。制部は無節RL縦文を地文とし、沈線による懸垂文、蛇行縦文を施す。	加曾利E2式	
第8664 PL.75	237 坑2	深鉢	底上 2cm 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	隙帶による口縁部凹曲、溝巻文を施し、縦位短沈線を充填施文。底面は無節RL縦文を地文とし、沈線による懸垂文、蛇行縦文を施す。	加曾利E2式	
第8664 PL.76	237 坑3	深鉢	底上 2cm 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	隙帶による口縁部凹曲、溝巻文を施し、RL縦文を充填施文。	加曾利E2式	
第8778 PL.75	237 坑4	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	隙帶による口縁部凹曲、溝巻文を施し、RL縦文を充填施文。	加曾利E2式	
第8778 PL.75	237 坑5	浅鉢	理上 口縁部破片		粗砂、細砂/ふつう	口縁に沿って2条縦帯をめぐらして垂下、RL縦文を充填施文する。	加曾利E2式	
第8778 PL.75	237 坑6	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/良好	口縁が緩く外反。颈部に刺突を伴う鋸歯状隆帶をめぐらす。口縁部は無文帯。	加曾利E2式	
第8778 PL.76	237 坑7	深鉢	底上 2cm 理上 制部破片		粗砂、赤色粒/良好	LR縦文を地文とし、平行沈線による幾何学モチーフを施す。	加曾利E2式	
第8778 PL.76	237 坑8	深鉢	底上 2cm 底部破片	底 10.0	粗砂/良好	異条RL縦文を縦位充填施文する。	中期後葉	
第8778 PL.76	237 坑9	深鉢	底上 2cm 底部破片	底 11.0	粗砂/良好	RL縦文を縱横に羽状施文する。	加曾利E2式	

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材 / 材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第878# PL.76	237 10	理上 窓 磨石	窓 完形	長 幅 6.6 厚 重 312.9	4.2 粗粒輝石安山岩	掌サイズよりやや小形の河床窓。表面側に著しい摩耗痕が広がる。窓面が部分的に煤ける。	梢円窓
第878# PL.76	241 2	理上 窓 深鉢	窓 口縁部破片		細砂、白色粒、輝 石/ふつう	波頂部の橋状突起。外面に側突、内面に8の字貼付文を施す。下端に貼付が見られる。	称名寺式
第878# PL.76	241 3	理上 窓 深鉢	窓 口縁部破片		細砂/ふつう	波頂部の橋状突起。波頂部に両端に刺突を伴う短沈線。右側面にも側突、沈線を施す。	称名寺Ⅱ式
第878# PL.76	241 4	理上 窓 深鉢	窓 口縁部破片		粗砂、輝石、雲母 /ふつう	口縁外面をくの字状に内屈させ、内屈部に円形刺突をめぐらす。以下、帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺Ⅲ式
第878# PL.76	241 5	理上 磨製石斧	窓 破片	長 幅 (5.5) (4.7) 厚 重 35.6	(1.1) 変質蛇紋岩	頭部でのくの字状に外屈し、口縁が短く内折する。内折部に円形刺突を作り双曲状の突起を付し、内下端に刺突を作り円形貼付文を付す。頭部を無文帯とし、屈曲部に橋状把手を貼付。胸部に横縫、斜位の沈線を施し、刺突を作り円形貼付文を付す。	趾之内式
第878# PL.76	241 6	石製品	理上 窓 完形	長 幅 20.9 30.3 厚 重 8300	粗粒輝石安山岩	表面側は敲打された面に見えるが、中央付近が高まり中空部を呈す。裏面側には縫斗状の窪み穴がある。窪み穴は大形で深い孔と、小形で浅い孔の2種類がある。上端側が厚く、下端側が薄く、側面形状になる。楕円形状を呈する河床窓で、表面側とも側面が通常の河床窓窓面に近く、外縁は敲打で覆われた傾向がある。	有縫
第888# PL.76	243 1	理上 窓 深鉢	窓 胸部破片		細砂、輝石/ふつ う	2条沈線による振扱、ワラビ手状、三日月状のモチーフを施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第888# PL.76	318 1	理上 窓 深鉢	窓 胸部破片		細砂、粗窓/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を窓位充填施文する。	加曾利E3式
第888# PL.76	318 2	理上 窓 石鑿	窓 ほば定形	長 幅 (2.4) 2.0 厚 重 0.4 1.8	チャート	完成状態?最終整形段階で差縫縁を欠損する。表面とともに丁寧な押圧削離を施す。	四基無茶鑿

2区土坑

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材 / 材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第928# PL.77	94 1	理上 窓 深鉢	窓 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縁部に3条の横位沈線をめぐらし、以下、RL繩文を充填施文する。	加曾利E2式
第928# PL.77	94 2	理上 窓 深鉢	窓 口縁部破片		細砂、輝石/良好	口縁部に刻み線をめぐらし、8の字貼付文を貼付し、以下、帶状沈線によるモチーフを施す。	趾之内2式
第928# PL.77	96 1	理上 窓 深鉢	窓 胸部破片		細砂/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL繩文を窓位充填施文する。	加曾利E3式
第928# PL.77	96 2	理上 窓 深鉢	窓 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、RL繩文を窓位充填施文する。	加曾利E4式
第928# PL.77	96 3	理上 窓 深鉢	窓 口縁部破片		細砂、輝石/ふつ う	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、RL繩文を窓位充填施文する。	加曾利E4式
第928# PL.77	100 1	底上24cm 窓 深鉢	窓 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR繩文を窓位充填施文する。上部は横位。下部は縦位施文とする。	加曾利E4式
第928# PL.77	100 2	理上 窓 深鉢	窓 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR繩文を窓位充填施文する。	加曾利E4式
第928# PL.77	100 3	理上 窓 深鉢	窓 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、降線の一部を秀状に突出させ、下端から降線を派生させてワラビ手文を施す。文様外にRL繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第928# PL.77	100 4	底上45cm 窓 深鉢	窓 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/良好	LR繩文を概位全面施文する。	中期未葉～後期初頭
第928# PL.77	100 5	多孔石	底上44cm 完形	長 幅 17.9 11.3 厚 重 180.5	6.6 粗粒輝石安山岩	左辺を除く各面に縫斗状の窪み穴がある。表面側の窪み穴は深く、側面のそれは浅い。	亜角窓
第938# PL.77	101 1	理上 窓 深鉢	口縁～胸中位破 片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	帶状沈線による幾何学モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺Ⅱ式
第938# PL.77	101 2	理上 窓 石鑿	4/5	長 幅 2.6 (1.7) 厚 重 0.5 1.4	チャート	完成状態?器体全体が押圧削離に覆われているが、やや粗く完成間際で被削したものと思われる。	四基無茶鑿
第938# PL.77	101 3	磨石	床 上 98cm 完形	長 幅 8.7 8.4 厚 重 449.9	5.5 粗粒輝石安山岩	多孔質石材で不明瞭だが、表面側とも摩耗、側縁には敲打痕が付くタイプ。窓面が部分的に煤ける。	梢円窓

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石 材 / 材 贅	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第93回 PL.77	101 4	石皿	床上89cm 1/3	長 幅 (29.8) 幅 (22.2) 厚 度 (11.0) 6900	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	厚手で大形の石皿。上端側を破損、縁出口が残る。裏面側には落み穴が刻まれているが、器形は維持されたよう に平坦化するような敲打痕は確認できない。	有縫
第93回 PL.77	102 1	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	沈線による器内側懸垂を施し、RL縞文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第93回 PL.77	107 1	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隣帶による口縁部横円状区画を施し、RL縞文を充填施文す る。	加曾利E3式
第93回 PL.77	108 1	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、細織、輝石 /ふつう	隣帶による口縁部横円状区画を施し、RL縞文を充填施文す る。	加曾利E3式
第93回 PL.77	108 2	坑 深鉢	理上 器内側破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	沈線による器内側懸垂を施し、複節RL縞文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第93回 PL.78	114 1	坑 深鉢	底上12cm 口縁～胴上位破 片	口 (26.0)	粗砂、輝石、石英 /ふつう	口縁部がすぼまる器形。横位沈線をめぐらしく口縁部無文帶 を区画、以下、2条沈線による逆U字状モチーフを施し、 文様外にRL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第93回 PL.78	114 2	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/良好	隣帶による口縁部区画を施し、縦位短沈線を充填施文す る。	加曾利E2式
第93回 PL.78	114 3	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	舌状の波状口縁。隣帶による口縁部横円状区画を施し、 RL縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第93回 PL.78	114 4	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、細織、白色 粒、輝石、石英/ 良好	隣帶による口縁部横円状区画を施し、複節RLR縞文を充填 施文する。	加曾利E3式
第94回 PL.78	114 5	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隣帶による口縁部横円状区画を施し、RL縞文を充填施文す る。	加曾利E3式
第94回 PL.78	114 6	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/ふつう	沈線による逆U字状モチーフを施し、文様外にRL縞文を 充填施文する。	加曾利E3式
第94回 PL.78	114 7	坑 深鉢	理上 口沿部破片		粗砂/ふつう	隣帶による口縁部横円状区画を施し、RL縞文を充填施文す る。	加曾利E3式
第94回 PL.78	114 8	坑 深鉢	理上 器内側破片		粗砂、細織、輝石 /良好	沈線による器内側懸垂を施し、RL縞文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第94回 PL.78	114 9	坑 深鉢	理上 器内側破片		粗砂、石英/良好	沈線による器内側懸垂を施し、RL縞文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第94回 PL.78	114 10	坑 深鉢	理上 器内側破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	沈線によるレンズ状文を施し、LR縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第94回 PL.78	114 11	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	横位降線をめぐらしく口縁部無文帶を区画、以下、2条降 線による対向する弧状文を重下させ、文様外にLR縞文を 充填施文する。	加曾利E4式
第94回 PL.78	114 12	坑 深鉢	理上 口縁～胴上位破 片		粗砂、細織、白色 粒、輝石/ふつう	横位沈線をめぐらしく口縁部無文帶を区画、以下、2条降 線による対向する弧状文を重下させ、文様外にLR縞文を 充填施文する。交点部分を突出させる。	加曾利E4式
第94回 PL.78	114 13	坑 深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位降線をめぐらしく口縁部無文帶を区画、以下、2条降 線による対向する弧状文を重下させ、文様外にLR縞文を 充填施文する。交点部分を突出させる。	加曾利E4式
第94回 PL.78	114 14	坑 耳瘻	底上11cm 器内側破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	把手の部位。全面に無節LR縞文を充填施文する。	中期後葉
第94回 PL.78	114 15	坑 深鉢	底上12cm 器内側破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	隣帶による懸垂を施し、LR縞文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第94回 PL.78	114 16	坑 深鉢	理上 器内側破片		粗砂、細織、白色 粒、輝石、石英/ ふつう	対向する弧状降線を施し、RL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第94回 PL.78	114 17	石 磨	理上 4/5	長 幅 (1.4) 幅 (1.7) 厚 度 0.4 0.7 チャート		完成状態? 表裏面とも押E剥離で復わっているが、右側縫 の加工は粗い。左辺の返し部を欠損する。	凹基無茎端
第94回 PL.78	114 18	坑 刨器	理上 完形	長 幅 3.1 2.8 厚 0.9 7.6 黒色安山岩		裏面側削離面は内輪削離により、表面面に微細加工して梢 円形形状に器体の形状を整える。刨器としてみたが、積極的 に刃部を認定することは難しい。	
第94回 PL.78	114 19	坑 打製石斧	理上 2/3	長 幅 (8.8) 4.2 厚 2.1 97.0 ホルンフェルス		完成状態。両側縫とも裏縫は滑れ右辺側の摩耗が著しい。 器体中央より下半を欠く。使用中破損か。	短縫形
第94回 PL.78	114 20	坑 打製石斧	理上 2/3	長 幅 (9.4) 6.6 厚 2.2 163.7 ホルンフェルス		完成状態? 裏縫が大きく開くタイプで、刃部は直刃様。器 体の状半部を欠く。摩耗痕等は不明瞭。	器型

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第958 PL.78	114 21	坑 砥石	理上 破片	長 幅 (6.1) (4.5)	厚 重 1.9 44.1	砂岩	表裏面とも浅く、側面は溝状に窪む。上端側を欠損する。 石材粒度は比較的均質に見える。
第958 PL.78	114 22	坑 石棒	理上 1/3	長 幅 (19.0) (13.0)	厚 重 (11.0) 367.3	変質安山岩	大形石棒の頭部破片。上端側破損面は新鮮、下端側破損面は風化摩耗して、時間差は明らか。
PL.78	114 23	坑 打製石斧	底上12cm 1/3	長 幅 (6.2) (4.2)	厚 重 1.8 61.6	ホルンフェルス	完結状態。側縁はエッジが潰れ、装着状態に近い。下端側を大きく欠損する。
PL.78	114 24	坑 打製石斧	理上 2/3	長 幅 (9.6) 6.7	厚 重 1.9 142.1	ホルンフェルス	完成状態。刃部は使用され、エッジは潰れた状態。側縁は直線的に開き気味で装着痕は中央付近にあり、相当な刃部内生が見込まれる。
PL.78	114 25	坑 打製石斧	理上 完形	長 幅 4.5 9.2	厚 重 1.9 64.6	ホルンフェルス	完成状態。風化が激しく不明瞭だが、側縁等のエッジは鮮に見える。
第958 PL.79	115 1	坑 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、白色粒/ふつう	埋糸文を縦位施文し、横位、弧状の沈線を施す。
第958 PL.79	115 2	坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石、石英/ふつう	隣帶による口縁部格円状区画を施し、RL縞文を充填施文する。
第958 PL.79	115 3	坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつう	隣帶による口縁部格円状区画を施し、RL縞文を充填施文する。
第958 PL.79	115 4	坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	口縁部にワラビ手状沈線を施し、以下、縦位条線を充填施文する。
第958 PL.79	115 5	坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、細繩、輝石/ふつう	隣帶による口縁部格円状区画を施し、RL縞文を充填施文する。口部に小突起を付す。
第958 PL.79	115 6	坑 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、細繩、白色粒、輝石/ふつう	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縞文を縦位充填施文する。
第958 PL.79	115 7	坑 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縞文を縦位充填施文する。
第958 PL.79	115 8	坑 深鉢	理上 口縁部破片			細紗/良好	口縁に沿って沈線をめぐらし幅狭な口縁部無文帯を区画、以下、2条沈線による逆U字状モチーフを施し、文様外にLR縞文を充填施文する。
第958 PL.79	115 9	坑 深鉢	理上 口縁～胴上位破片			粗砂、白色粒、輝石/良好	幅狭沈線をめぐらし幅狭な口縁部無文帯を区画、以下、2条沈線による波状文をめぐらし、文様外にLR縞文を充填施文する。
第958 PL.79	115 10	坑 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、輝石/良好	稍状沈線による逆U字状モチーフを施し、RL縞文を充填施文する。
第958 PL.79	115 11	坑 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	対向する弧状沈線を施し、RL縞文を縦位充填施文する。
第958 PL.79	115 12	坑 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	斜位、U字状の沈線を施し、RL縞文を充填施文する。
第968 PL.79	115 13	坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	横位沈線をめぐらし口縁部無文帯を区画。以下、隣線による懸垂文を施し、RL縞文を充填施文する。
第968 PL.79	115 14	坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	口縁に沿って隣線をめぐらし口縁部無文帯を区画、以下、RL縞文を充填施文する。
第968 PL.79	115 15	坑 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、赤色粒、輝石/良好	隣線による懸垂文を施し、LR縞文を縦位充填施文する。
第968 PL.79	115 16	坑 深鉢	理上 胴部破片			粗砂、白色粒、輝石/ふつう	隣線による懸垂文を施し、LR縞文を充填施文する。下部は無筋LR縞文を施す。
第968 PL.79	115 17	坑 深鉢	理上 底部破片	底 6.0		粗砂/ふつう	隣線による懸垂文を施し、RL縞文を縦位充填施文する。
第968 PL.79	115 18	坑 深鉢	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒/良好	波頂部の突起。波頂部下に球状の貼付文を付し、LR縞文を施す。口縁に沿って2条の円形刺突列をめぐらす。
第968 PL.79	115 19	坑 打製石斧	理上 1/2	長 幅 (5.6) 3.9	厚 重 1.0 23.7	粗粒輝石安山岩	完成状態?裏面側上端部に溝面があり、石斧頭部破片と捉えた。現状で石斧下端部に最大幅があり、側縁は装着部で括れるタイプになるのかもしれない。
第968 PL.79	115 20	坑 石皿	底上0cm 1/3	長 幅 (22.7) (22.3)	厚 重 9.0 582.8	粗粒輝石安山岩	石皿の下端側破片で、手前に搔出口がある。裏面側は敲打され浅く窪んだ平面となり、窪みが刻まれる。浅く窪めて石皿の安定化を図る工夫とするのか、裏面側にも石皿を意識したのか、いずれかであろう。

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第9688 PL.79	115 坑 21	多孔石	底上 0cm 4/5	長 幅 22.6 (17.2) 厚 重 12.2 4328.3	粗砂、白色粒、輝 石、石英/良好	表面に漏斗状の溝みぞが刻まれているが、いずれも縦面 を打撃して平坦面としたもの。側面は鉄錆の付いた裸面が 残る。	精円錐
第9778 PL.80	118 坑 1	深鉢	底上10cm 口縁～胴下位 2/3	口 28.2	粗砂、白色粒、輝 石、石英/良好	横位沈線をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、LR縞 文を斜位に充填施文するが、胴下半には施されない。	後期加曾利E 系か
第9778 PL.80	121 坑 1	深鉢	底上27cm 口縁～胴下位 1/3	口 (32.5)	粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	横位降帶をめぐらして口縁部無文帶を区画。おそらく2單 位に横突起を分け、間の2単位は降帶を突出させる。突 起下、突出降帶下に基点に2条沈線による逆U字状モチーフを施し、文様外にLR縞文を充填施文する。横突起の 上端部両側縫を突出させる。	加曾利E式
第9778 PL.80	121 坑 2	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、 輝石/ふつ う	円形刺突をめぐらして幅狭な口縁部無文帶を区画。以下、LR縞 文を充填施文する。	加曾利E式
第9778 PL.80	121 坑 3	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縞文を充填施文する。称名寺I式	
第9778 PL.80	121 坑 4	土製品	理上 端部破片	径 2.0	粗砂、白色粒、輝 石	現存長5.5cm。棒状の土製品。端部が膨らみ、端部から斜 位の円孔を有す。赤彩の痕跡あり。	
第9778 PL.80	121 坑 5	土製品	理上 端部破片	径 1.4	粗砂、白色粒/ふ つう	現存長5.0cm。棒状の土製品。先端が尖り氣味にすぼまる。 赤彩の痕跡あり。	
第9778 PL.80	124 坑 1	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	波頂部の筒状の突起。上端部を張り出させ、円形刺突、沈 線をめぐらす。波頂部下に円形刺突、沈線を伴うレンズ状 降帶を貼付、帯状沈線によるモチーフを施し、LR縞文を 充填施文する。	称名寺I式
第9778 PL.80	124 坑 2	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、細繩、輝石、 石英/ふつう	波頂部の筒状の突起。上端部を張り出させ、円形刺突、沈 線をめぐらす。波頂部下に円形刺突、沈線を伴うレンズ状 降帶を貼付、帯状沈線によるモチーフを施し、LR縞文を 充填施文する。	称名寺I式
第9778 PL.80	124 坑 3	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、 輝石/ふつ う	波頂部の筒状の突起。上端部を張り出させ、円形刺突、沈 線をめぐらす。波頂部下に円形刺突、沈線を伴うレンズ状 降帶を貼付、帯状沈線によるモチーフを施し、LR縞文を 充填施文する。	称名寺II式
第9778 PL.80	124 坑 4	土製品	理上 下端部欠損	幅 厚 4.5 1.0	粗砂、 輝石/ふつ う	現存長3.5cm。逆三角形状の板状の土製品。上部に3個の 円孔を並列させる。	
第9808 PL.81	125 坑 1	理上 胴上位～底部 2/3	底 幅 4.3 11.5	粗砂、 輝石、雲母 /ふつう	注口の脇に連弧状の降帶をめぐらす。以下、無文。外赤彩。	後期前葉	
第9808 PL.80	125 坑 2	注口土器	底上8cm 口縁～底部 ほぼ完形	口 底 11.0 高 4.0 幅 16.9 20.5	粗砂、 輝石、石英 /良好	豊富玉の器形で口縁がぐの字形に外屈。口縁部は無文帶。 注口と把手を基点として、間に口縁から刺突を伴う降帶を垂 下させて文様帶を4分割。胴部曲面に刺突降帶をめぐらし て交点に円形刺突を施す。区画内は3条の沈線による台形 状モチーフを重複させ、中心と外枠にLR縞文を充填施文 する。把手は捻軸状にし、上下端を環状に作出する。胴部 下半ミガヒ形。底部周縁の磨り減り斑若。	加曾利E式
第9998 PL.81	125 坑 3	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/良好	綾やかな波状口縁。波頂部下に沈線による同心円文を施す。	加曾利E式
第9998 PL.81	125 坑 4	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、白色粒/良 好	沈線による口縁部横円状区画。ワラビ手文を施し、RL縞 文を充填施文する。	加曾利E3式
第9998 PL.81	125 坑 5	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂/ふつう	舌状の波状口縁。降帶による口縁部横円状区画を施し、 RL縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第9998 PL.81	125 坑 6	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、白色粒/良 好	沈線による胴部懸垂文。U字状モチーフを施し、RL縞文 を羅位充填施文する。	加曾利E3式
第9998 PL.81	125 坑 7	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、 輝石、石英 /良好	沈線による胴部懸垂文を施し、RL縞文を羅位充填施文す る。	加曾利E4式
第9998 PL.81	125 坑 8	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、 輝石、石英 /ふつう	横位降帶をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、対向す る張状の降帶を垂下させ、RL縞文を充填施文する。交点 部分を突出させ、上端を円ます。	後期加曾利E 系
第9998 PL.81	125 坑 9	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、 輝石/ふつ う	横位降帶をめぐらして口縁部無文帶を区画。以下、LR縞 文を充填施文する。降帶の右端がせり上がりており、突出 させるようだ。無文部ミガヒ形。	中期未葉～後 期初頭
第9998 PL.81	125 坑 10	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	X字状の降線を施し、交点に中央を凹す円形貼付文を付 す。Xの上下区画にLR縞文を充填施文する。	後期加曾利E 系
第9998 PL.81	125 坑 11	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	弧状の降線を施し、RL縞文を充填施文する。	中期未葉～後 期初頭
第9998 PL.81	125 坑 12	深鉢	理上 胴部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	斜位、弧状の降線を施す。	中期未葉～後 期初頭

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/模成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第9998 PL.81	125 13	理上 深鉢	口縁部破片		繊砂/ふつう	波頂部の環状突起。端部を突出させる。円形竹管刺突を施す。	称名寺式
第9998 PL.81	125 14	理上 深鉢	口縁部破片		繊砂、白色粒、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 15	理上 深鉢	口縁部破片		繊砂、白色粒、輝石/石英/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 16	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線による幾何学モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 17	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/石英/ふつう	鋸み縦帯を垂下させ、下端に沈線を伴う対弧状縦帯を貼付。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 18	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 19	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 20	理上 深鉢	口縁部破片		繊砂、白色粒、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 21	理上 深鉢	口縁部破片		繊砂、輝石/石英/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 22	理上 深鉢	口縁部破片		繊砂、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 23	理上 深鉢	口縁部破片		繊砂、赤色粒、輝石/良好	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第9998 PL.81	125 24	理上 深鉢	口縁部破片		繊砂、輝石、石英/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第1008 PL.82	125 25	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/石英/良好	口縫が強くすぼまる。口縁部に2条の縦帯をめぐらし、横状把手を付す。以下、無文。把手上端に円孔を穿つ。	後期前葉
第1008 PL.81	125 26	理上 深鉢	口縁部破片	底 9.7	繊砂、良好	残存部は無文。外面巻冠のミガキ整形。	後期前葉
第1008 PL.82	125 27	土製品	理上 破片	高 厚 0.8	繊砂、輝石/ふつう	貝輪状土製品。外面が内傾する。中央部が最も厚く、上端を尖り氣味に形成する。外面にLR繩文を施す。	
第1008 PL.82	125 28	土製品	理上 破片	高 厚 1.6 1.2	繊砂/良好	貝輪状土製品。断面梢円形状を呈し、外面があり内傾しない。	
第1008 PL.82	125 29	石造	理上 完形	長 幅 1.3 1.1 厚 0.3 重 0.2	チャート	完成状態。表面とともに押圧剥離で覆われる。極小タイプの石造。	凹基無茎造
第1008 PL.82	125 30	石造	理上 完形	長 幅 1.7 1.5 厚 0.4 重 0.7	チャート	完成状態、表面とともに丁寧な押圧剥離に覆われる。返し部の形状が対称性を失っているが、完成度は高い。	凹基無茎造
第1008 PL.82	125 31	石造	理上 ほぼ完形	長 幅 (3.4) 2.6 厚 1.0 重 6.1	黒色安山岩	未製作品。厚手の櫛状削片を用いたもので、裏面側に素材面を部分的に残す以外、粗く加工して形状を整え多段階で、製作を放棄したものとみられる。	凹基無茎造
第1008 PL.82	125 32	打製石斧	理上 完形	長 幅 10.8 4.4 厚 1.4 重 54.9	ホルンフェルス	完成状態。無縫はハバ字状に開き刃部に最大幅を有す。刃部は未加工の削片エッジを用いる。激しく風化。	短範形
第1008 PL.82	126 1	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1008 PL.82	126 2	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第1008 PL.82	129 1	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、繊維、輝石、石英/良好	隙縫による口縁部区画を施し、輻射沈線を充填施文する。	加曾利EZ式
第1008 PL.82	129 2	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	隙縫による口縁部区画を施し、LR繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第1008 PL.82	129 3	理上 深鉢	口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	隙縫による口縁部区画を施し、LR繩文を充填施文する。	加曾利E3式

付表

補 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 有 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1008 PL.82	129 坑 4	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による制部懸垂を施し、RL縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第1008 PL.82	129 坑 5	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隆線による制部懸垂を施し、LR縦文を縦位充填施文す る。	加曾利E4式
第1008 PL.82	129 坑 6	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	弧状の隆線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第1008 PL.82	129 坑 7	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。称名寺 I 式	
第1010 PL.82	129 坑 8	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。称名寺 I 式	
第1010 PL.82	129 坑 9	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	波紋口縁で波頭部にハの字状の隆帶を貼付、内面に沈線を施す。波頭部から刻み隆帶を垂下、帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第1010 PL.82	129 坑 10	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	横状の突起を有する波状口縁。波頭部両側面に横状の隆帶を貼付し、刺突を作ら円形刺突付。沈線を施す。波頭部下に透かしを入れ、刺突を作ら円形刺突付。沈線を施す。波頭部下に透かしを入れ、波頭部から刻み隆帶を垂下、帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第1010 PL.82	129 坑 11	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。称名寺 I 式	
第1010 PL.82	129 坑 12	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。称名寺 I 式	
第1010 PL.82	129 坑 13	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。称名寺 I 式	
第1010 PL.83	129 坑 14	土 製 品	底上71cm 完形	径 厚 4.6 2.5 重 39.1	孔 2.2 粗砂、白色粒、輝 石/良好	環状の耳飾り。側面を弧状に凹ます。表面は中央に沈線を施し、沈線の内外に円形刺突をめぐらす。裏面も同様の文様となるが、沈線の外側の刺突は彫されない。	
第1010 PL.83	129 坑 15	門 石	理上 完形	長 幅 13.2 8.6 重 868.5	厚 5.5 粗粒輝石安山岩	表裏面とも中央や外周に斜向敲打痕があるほか、内側縁に敲打痕が広がる。掌ササイズの河床礫だがやや大形の部類。右側縁は敲打痕が多く、穂が生じるほど。	円内彌
第1010 PL.83	129 坑 16	石 棒	理上 破片	長 幅 (6.9) (3.3) 厚 重 64.3	厚 (2.2) 粗色片岩	石棒頭部の破片。横位に溝を刻み、頭部が二段に見える。表裏面で二分された状態で出土。	

3区土坑

補 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 有 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1038 PL.83	70 坑 1	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	波頭部の突起。波頭部に捻挫後の斜状突起を付す。	称名寺式
第1038 PL.83	70 坑 2	深鉢	埋上 制部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒、輝石/ふつ う	沈線、刺突を作ら隆帶を垂下、縦位沈線を施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第1038 PL.83	70 坑 3	往口土器	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、条線を充填施文する。口縁外側三角形状に肥厚。	称名寺 II 式～ 皿之内 I 式
第1038 PL.83	70 坑 4	土 製 品	理上 破片	高 厚 2.0 1.2	粗砂、輝石/ふつ う	目輪状土器品。外面が内傾する。中央部が最も厚く、上端を尖り氣味に成る。	
第1038 PL.83	80 坑 1	深鉢	埋上 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位隆帶をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、斜行す る隆帶を施し、LR縦文を充填施文する。	後期加曾利 E 系
第1038 PL.83	80 坑 2	打製石斧	理上 完形	長 幅 10.5 5.6 重 143.5	厚 2.5 ホルンフェルス	完成状態。器体上半は棒状を呈し、これに幅広の石斧本体 が付く。装着部の種は比較的新鮮で、磨耗痕は不明瞭。	円子形
第1038 PL.83	80 坑 3	敲 石	理上 完形	長 幅 9.4 5.9 重 310.6	厚 4.0 粗粒輝石安山岩	掌ササイズよりやや小型で、器の小口部内端に弱い敲打痕が ある。	円内彌
第1038 PL.83	80 坑 4	石 盆	底上46cm 1/4	長 幅 (19.2) (14.3)	厚 9.3 重 208.9	手前が低く、凸出口になる。裏面側は漏斗状の窪み穴が多 数あり、結果的に平坦となり口部の安定化を実現。	有縫
第1038 PL.83	80 坑 5	多孔石	底上63cm 1/3	長 幅 (23.1) (17.1)	厚 9.3 重 262.4	表裏面の漏斗状の窪み穴がある。多孔質で軽い。装饰石皿 等の素材か。	角縫

7北区土坑

補 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 有 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1040 PL.83	256 坑 1	深鉢	理上 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	RL縦文を地文とし、沈線による懸垂文を施す。	皿之内 I 式

理設土器

種 国 PL.No.	種 類 No.	種 類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第106回 PL.83	2 埋 1	深鉢	胴中位～底部 1/3	底 7.0	粗砂、赤色粒、輝 石/ふつう	沈線による胴部壓垂を施し、縦位柔線を充填施文する。	加曾利E2式
第106回 PL.84	5 埋 1	深鉢	口辺～胴下位 1/2		粗砂、輝石/良好	降帯による口縁部区画、溝文を施し、縦位短沈線を充填施文する。溝文は2単位と見られ、他の2単位は楕状突起になるようだ。胴部は地文にRL繩文を縱位施文し、溝文、突起下の4単位には2条沈線による壓垂文を施文、間に蛇行壓垂文を施す。	加曾利E2式
第107回 PL.83	6 埋 1	深鉢	口縁～胴下位 3/4	口 (35.0)	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	降帯による口縁部区画、溝文、円文、梢円文を施し、斜位施文し、2条沈線による壓垂文を施す。一部、沈線間を磨り消す部分、あとで繩文を施しない部分が見られる。	加曾利E2式
第107回 PL.83	7 埋 1	浅鉢	口縁～胴下位 3/4	口 (34.5)	粗砂、輝石 /良好	口縁がくの字状に細く外屈。無文。	後期前葉か
第108回 PL.84	1 埋 1	深鉢	口縁部1/5	口 32.0	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	舌状の4単位波状口縁、突出内面にラビ手状沈線を施文。降帯による口縁部格円状区画、沈線による胴部壓垂文を施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第108回 PL.84	3 埋 1	深鉢	口辺～胴上位 破片	口 46.0	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	降帯による口縁部格円状区画、沈線による胴部壓垂文を施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第108回 PL.84	3 埋 2	深鉢	胴中位～底部 1/3	底 7.0	粗砂、輝石/良好	円形刺突を伴う降帯による壓垂文を施し、RL繩文を縱位充填施文する。1条のみ刺突を施さない降帯が見られる。	加曾利E3式
第109回 PL.84	3 埋 3	深鉢	底部破片	底 9.0	粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	沈線による胴部壓垂文を施し、RL繩文を縱位充填施文する。	加曾利E3式

5区ピット

種 国 PL.No.	種 類 No.	種 類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第114回 PL.84	300 1	石罐	理上 ほぼ完形	長幅 (1.6) 1.1重	厚 0.3 0.4 チャート	完成状態。表面とも押圧剥離が全面を覆う。小型長身のタイプで、先端部を極めずか欠く。	平基無茎罐

1区ピット

種 国 PL.No.	種 類 No.	種 類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第114回 PL.84	58 坑 1	理上 胴部破片			粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胴部壓垂を施し、RL繩文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第114回 PL.84	58 坑 2	理上 胴部破片			粗砂、輝石/ふつ う	粗状沈線による曲線モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	称名寺I式
第114回 PL.84	58 坑 3	理上 胴部破片			粗砂/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第114回 PL.84	58 坑 4	理上 土製品 破片	高 厚 2.1 0.8		粗砂/良好	貝輪状上製品。外面が内縮する。断面レンズ状。上端の一部を面取りしている。白色塗彩の痕跡あり。	
第114回 PL.84	58 坑 5	理上 土製品 破片			粗砂/ふつう	上側の手足か。先端が短く屈曲する。	
第114回 PL.84	171 坑 1	理上 口縁部破片			粗砂、白色粒、輝 石/良好	降帯による口縁部格円状区画を施し、複数RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第114回 PL.84	218 坑 1	理上 胴部破片			粗砂、輝石/ふつ う	縦位弧状の沈線、列点を施す。	称名寺II式
第114回 PL.84	218 坑 2	理上 口縁部破片			粗砂/良好	継やかな波状口縁。口縁に沿って沈線をめぐらし、LR繩文を充填施文する。波底部下内外面に円形刺突を施す。	称名寺II式～ 堀之内I式
第114回 PL.84	218 坑 3	理上 口縁部破片			粗砂、輝石/白色 粒、石英/ふつう	口縁下に横位沈線をめぐらす。	称名寺II式～ 堀之内I式
第114回 PL.84	218 坑 4	理上 口縁部破片			粗砂/良好	口縁部を短く内折させ、内折部に横位沈線をめぐらす。	堀之内I式
第114回 PL.84	92P 1	理上 胴部破片			粗砂、輝石/良好	沈線による胴部壓垂を施し、節節RL繩文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第114回 PL.84	218 坑 2	石錐(ドリ ル)	理上 ほぼ完形	長 幅 1.9 重	厚 0.5 1.4 黒色岩質	幅広削片の先端に機能部を作出する。機能部は薄く、強度に欠ける。便宜上の石器か。	
第114回 PL.84	92P 3	石錐(ドリ ル)	理上 完形	長 幅 3.8 2.2 重	厚 0.8 4.1 チャート	小形削片の先端を鋸向削離して機能部を作出する。先端部エッジはシャープで未使用。	
第114回 PL.84	94P 1	深鉢	理上 胴部破片		粗砂/ふつう	張状降帯を垂下させ、RL繩文を充填施文する。無文帯は見られない。	加曾利E3式

付表

掃 図 PL. No.	種 類 器 種	出上位 置 残 有 率	計測値		胎土/焼成/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
PL.84 94P 2	蔽石?	理上 4/5	長 (0.3) 幅 (4.6)	厚 4.2 重 268.2	ホルンフェルス	小口部上端に打痕がある。襷表皮は劣化して大きく剥落しており、その他の特徴は明らかでない。	柄状彫
第114回 95P 1	深 脈	理上 制部破片			粗砂、輝石/良好	沈縫による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第114回 95P PL.85 2	深 脈	理上 制部破片			粗砂、輝石、石英 /ふつう	帶状沈縫によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第114回 95P PL.85 3	深 脈	理上 制部破片			粗砂、輝石/ふつ う	刻み降帯を垂下させ、縦位条線を充填施文する。	後期初頭
第114回 95P PL.85 4	上 製 品	理上 破片	高 厚 0.5	1.2	粗砂/良好	高さの低い貝輪状土製品。外面が内傾する。断面板状で上部が厚く、下端に向かって薄くなる。白色塗彩が良好に残る。	
第114回 95P PL.85 5	上 製 品	理上 破片	高 厚 1.1	1.8	粗砂/良好	貝輪状土製品。外面が内傾する。中央部が最も厚く、上端を尖り気味に成形する。白色塗彩の粗跡あり。	
第114回 95P PL.85 6	上 製 品	理上 破片	高 厚 1.0	2.2	粗砂/良好	貝輪状土製品。外面が内傾する。断面レンズ状で、上下端を尖り気味に成形する。	
第114回 95P PL.85 7	上 製 品 か れ	理上 破片			粗砂/良好	粘土帯を折り曲げている。	
第114回 95P PL.85 8	石 磨	理上 完形	長 幅 1.5	2.2 厚 重 0.9	黒曜石	未製品。全体が押圧割離で覆われているが、左辺側の返し部を欠き製作を放棄。裏面側先端は被熱して変質。	円基無茎彫
第115回 96P PL.85 1	深 脈	理上 制部破片			粗砂、細纖、輝石 /良好	沈縫による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第115回 113P PL.85 1	深 脈	理上 制部破片			粗砂、輝石/ふつ う	沈縫による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第115回 113P PL.85 1	深 脈	理上 口縫部破片			粗砂、輝石、石英 /ふつう	帶隙による口縫部横円状区画を施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第115回 113P PL.85 2	深 脈	理上 制部破片			粗砂/良好	沈縫による胸部懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第115回 113P PL.85 3	深 脈	理上 制部破片			粗砂/ふつう	沈縫による弧状モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第115回 113P PL.85 4	深 脈	理上 制部破片			粗砂、輝石、石英 /良好	横位沈線、列点を施す。	称名寺 II 式
第115回 260P PL.85 1	深 脈	理上 制部破片			粗砂、細纖/ふつ う	帶状沈縫による曲線モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II 式
第115回 263P PL.85 1	深 脈	理上 制部破片			細砂、細纖、輝石 /ふつう	隆縫による懸垂文を施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第115回 263P PL.85 2	深 脈	理上 制部破片			粗砂、輝石、石英 /良好	帶状沈縫によるU字状モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第115回 269P PL.85 1	深 脈	理上 制部破片			粗砂、細纖、石英 /良好	2条降帯による胸部懸垂文を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E2式
第115回 334P PL.85 1	深 脈	理上 制部破片			粗砂/良好	帶状沈縫による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第115回 334P PL.85 2	深 脈	理上 制部破片			粗砂、輝石、石英 /良好	帶状沈縫によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II 式
第115回 334P PL.85 3	深 脈	理上 口縫部破片			粗砂、細纖、石英 /良好	綱やかな波状口縫。口縫部に円形刺突、横位沈線をめぐらす。	称名寺 II 式
第115回 334P PL.85 4	深 脈	理上 包含層 胸部破片			粗砂、細纖、輝石 /良好	くびれ部に3条の横位沈縫をめぐらし、以下、弧状の集合 塊を垂下させ、LR縦文を充填施文する。	匂之内 I 式
第115回 339P PL.85 1	石 磨	理上 完形	長 幅 1.7	厚 重 0.9	黒曜石	完成状態、表面側とも押圧割離で覆われる。縦身、長身の石磨。	円基無茎彫
第115回 454P PL.85 1	打製石斧	理上 破片	長 幅 (3.7)	厚 重 1.3 30.6	ホルンフェルス	未製品。石斧頭部破片。削離面の粒は新鮮で、製作途上の破損したものの見られる。	短彫形
第115回 460P PL.85 1	深 脈	理上 口縫部破片			粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	表面外縫肥厚。肥厚部に8の字状の貼付文を付す。以下、 帶状沈縫によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺 II 式
第116回 464P PL.85 1	深 脈	理上 口縫部破片			粗砂/良好	帶隙による口縫部横円状区画を施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E3式
第116回 464P PL.85 2	深 脈	理上 制部破片			粗砂/良好	沈縫による胸部懸垂文を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式

2 区 ピット

掃 図 PL. No.	種 類 器 種	出上位 置 残 有 率	計測値		胎土/焼成/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第116回 240P PL.85 1	深 脈	理上 胸部破片			粗砂、輝石/良好	沈縫によるレンズ状文を施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第116回 257P PL.85 1	石 磨	理上 2/3	長 幅 4.6 (2.7)	厚 重 0.7 4.0	チャート	完成状態?器体全面が押圧割離で覆われる。表面側中央の 素材面が除去できおらず、完成状態間際に左辺側の返 し部を破壊した可能性が大である。	円基無茎彫

7 区 ピット

掃 図 PL. No.	種 類 器 種	出上位 置 残 有 率	計測値		胎土/焼成/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第116回 309P PL.85 1	深 脈	理上 口縫部破片			粗砂、輝石/ふつ う	帶状沈縫によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺 I 式
第116回 309P PL.85 2	深 脈	理上 口縫部破片			粗砂/ふつう	渡頂部の突起。渡頂部を円形、平坦に作出し、C字状沈縫、 円形刺突を施す。側面にも沈縫、円形刺突を施す。	称名寺式

5区遺構外

種類 PL.No.	種類 No.	器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第117回 PL.86	1	深鉢	埋土 口縁部破片		粗砂/良好	波状口縁。口縁に沿って素浮線1条、結節浮線2条をめぐらす。	前期末葉
第117回 PL.86	2	深鉢	埋土 口縁部破片			N1と同一個体。口縁が頗る内湾。口縁下に素浮線1条、結節浮線3条、窓を開けて結節浮線1条をめぐらす。地文にLR織文を横位施す。	前期末葉
第117回 PL.86	3	深鉢	埋土 胴部破片		粗砂/良好	方形区画内に角押文、平截竹箇によるC字状刺突、三角押文を施す。	勝坂式
第117回 PL.86	4	深鉢	埋土 胴部破片		粗砂/良好	邊破爪形文、三角押文をめぐらす。	阿玉台式
第117回 PL.86	5	深鉢	包含層 胴部破片		粗砂、埴離、白色 粒/良好	沈離による胴部壓垂文を施し、RL織文を縱位充填施す	加曾利E3式
第117回 PL.86	6	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縁下に刺突突をめぐらして横位沈離の区画、以下、弧状の縦縫を重き下す。RL織文を充填施す。	加曾利E3式
第117回 PL.86	7	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位縫離をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、対向する邊付沈離を垂下させ、LR織文を充填施す。	加曾利E4式
第117回 PL.86	8	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位縫離をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈線に逆るU字状モチーフを施す。横位縫線上にLR織文を施す。	加曾利E4式
第117回 PL.86	9	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、白色粒/ふ つう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR織文を充填施す。	称名寺I式
第117回 PL.86	10	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/ふつう	口縁に横状突起を付す。突起両脇に捺模を施し、口縁部の横位沈離へとつなげる。帶状沈線によるモチーフ、無節Lr織文を施す。	称名寺I式
第117回 PL.86	11	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帶状沈線によるモチーフを施し、LR織文を充填施す。	称名寺I式
第117回 PL.86	12	深鉢	包含層 胴部破片		粗砂、白色粒/良 好	帶状沈線によるモチーフを施し、LR織文を充填施す。	称名寺I式
第117回 PL.86	13	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横状突起を付す波状口縁。波面部に円形刺突、内面に捻転状の縦縫を貼付し、円形刺突を施す。突起両脇にも円形刺突を貼付し、内折口縁に帶状沈線を施し、LR織文を充填施す。	称名寺I式
第117回 PL.86	14	深鉢	包含層 胴部破片		粗砂、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施す。	称名寺II式
第117回 PL.86	15	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、白色粒/ふ つう	突起付付波状口縁。突起内面を三角形状に実らせ、両脇に円形刺突を施す。一見、鳥の頭のように見える。欠損しているが、波面部下に突起付付す。	称名寺式
第117回 PL.86	16	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第117回 PL.86	17	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	沈離によるモチーフを施す。	称名寺II式
第117回 PL.86	18	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒、石英/良好	口縁外面を肥厚させて円形刺突をめぐらし、以下、沈線に円形刺突を施す。一見、鳥の頭のようにも見える。欠損しているが、波面部下に突起付付す。	称名寺II式～ 瓶之内I式
第117回 PL.86	19	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/良好	口縁が短く内折、内折部分に円形刺突、沈線を伴う弧状縫離を貼付し、脇にも円形刺突、横位沈線を施す。以下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 瓶之内I式
第117回 PL.86	20	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/良好	口縁の内折部に弧状沈線、円形刺突、横位沈線を施す。	瓶之内I式
第117回 PL.86	21	深鉢	包含層 胴部破片		粗砂/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第117回 PL.86	22	注口付浅鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/ふつう	口縁がくの字状に内折し、内折部に横位沈線をめぐらす。以下、LR織文を地文とし、沈線による懸垂文を施す。	称名寺式
第117回 PL.86	23	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縁を短く内折させ、内折部に横位沈線をめぐらす。以下、逆V字状の沈線を施す。	瓶之内I式
第117回 PL.86	24	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縁外面をくの字状に肥厚させ、肥厚部に張模、横位の沈線を施す。以下、LR織文を地文とし、沈線による懸垂文を施す。	瓶之内I式
第117回 PL.86	25	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/ふつう	口縁外面をくの字状に内折させ、内折部に横位沈線をめぐらす。以下、LR織文を地文とし、沈線による懸垂文を施す。	瓶之内I式
第117回 PL.86	26	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縁を短く内折させ、内折部に横位沈線をめぐらす。	瓶之内I式
第117回 PL.86	27	深鉢	包含層 胴部破片		粗砂、輝石/ふつ う	LR織文を地文とし、平行沈線による弧状文を施す。	瓶之内I式
第117回 PL.86	28	深鉢	包含層 胴部破片		粗砂、輝石/良好	LR織文を地文とし、沈線による懸垂文を施す。	瓶之内I式
第117回 PL.86	29	深鉢	包含層 胴部破片		粗砂、輝石/ふつ う	くびれ部に横位沈線をめぐらし、以下、集合沈線による対向する弧状文を垂下させる。	瓶之内I式
第117回 PL.86	30	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	RL織文を地文とし、帶状沈線によるモチーフを施す。	瓶之内I式
第117回 PL.86	31	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縁が頗るそぼまる。斜格子目状の沈線を施す。口縁内面に1条の沈線をめぐらす。	瓶之内I式
第117回 PL.86	32	深鉢	包含層 胴部破片		粗砂/良好	帶状沈線による曲線モチーフを施す。LR織文を充填施す。	瓶之内I式
第117回 PL.86	33	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/ふつう	口縁部に逆S字状の突起を付し、渦巻文を施す。突起下に円孔を穿つ。外縁無文。内面に複数条の横位沈線をめぐらし、斜引文を施す。	瓶之内I式

付表

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 類	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第11804 PL.86	34	浅跡	包含層 口縫部破片		繊砂/良好	内形刺突を伴う隆起を重下させる。外削ぎの口縫部に横位 沈線をめぐらし、内外端に斜削文を施す。口縫内面に多条 の沈線をめぐらし、斜削文を施す。	瓶之内2式
第11806 PL.86	35	注口土器	包含層 制御破片		繊砂、輝石/良好	横位多条の沈線、鏡状垂直文を施す。	瓶之内2式
第11808 PL.86	36	注口土器	包含層 制御破片		繊砂/良好	多条の沈線による幾何学モチーフを施す。	瓶之内2式
第11808 PL.86	37	深跡	包含層 口縫部破片		繊砂/ふつう	外面無文。内面に3条の横位沈線をめぐらす。	加曾利B1式
第11806 PL.86	38	注口土器	包含層 注口部破片		繊砂/良好	注口正面にV字状の隆起を施す。	後期前葉
第11806 PL.86	39	深跡	包含層 口縫部破片		繊砂/良好	口縫を短く内折せし、端部に削みを付す。内面に1条の隆 起をめぐらし、間に内形刺突をめぐらす。隆起下に横位沈 線、斜削文を施す。外面無文、ミガキ整形。	加曾利B1式
第11806 PL.86	40	深跡	351ピット 口縫部破片		繊砂/良好	滑溜文LRをめぐらす。口縫内面に2条の沈線をめぐらし、 口縫内端に削みを付す。	加曾利B1式
第11806 PL.86	41	深鉢	包含層 口縫部破片		繊砂、輝石/良好	口縫が緩く内窪。横位沈線、斜削文を施す。	加曾利B2式
第11806 PL.86	42	深跡	包含層 口縫部破片		繊砂/ふつう	横位複数条の沈線をめぐらし、蛇行沈線を重下させる。	加曾利B1式
第11806 PL.86	43	深跡	包含層 底部破片	底 (8.7)	繊砂/良好	底面に網代痕。	瓶之内2式
第11806 PL.86	44	深跡	包含層 底部破片	底 4.8	繊砂、輝石/ふつ う	底面に網代痕。	瓶之内2式
第11806 PL.86	45	土器製品	包含層 完形	長 3.2 厚 短 3.0	1.2 1.2 繊砂、輝石/ふつ う	土器盤上。土器片加工。周縁に摩滅痕が認められる。	
第11806 PL.87	46	土器製品	包含層 破片	高 1.2 厚 0.8	繊砂/ふつう	高さの低い貝輪状土器製品。外側が内傾する。断面はレンズ 状に近い。円窓のがゆがむ。	
第11806 PL.87	47	土器製品	包含層 破片	高 1.3 厚 0.6	粗砂/良好	貝輪状土器製品。外側が内傾する。断面レンズ状。円窓の形 のがゆがむ。	
第11806 PL.87	48	土器製品	包含層 破片	高 1.6 厚 0.8	繊砂、白色粒/良 好	貝輪状土器製品。外側が内傾する。断面レンズ状で上下端が 丸みを帯びる。	
第11806 PL.87	49	土器製品	包含層 破片	高 1.4 厚 0.6	粗砂、白色粒、石 英/良好	貝輪状土器製品。外側が内傾する。断面板状で上部が厚く、 下端に向かって薄くなる。白色塗彩の痕跡あり。	
第11806 PL.87	50	土器製品	包含層 破片	高 1.9 厚 0.9	粗砂、白色粒/良 好	粗砂、白色粒/良 好	貝輪状土器製品。外側が内傾する。断面レンズ状だが、下端 がやや平坦となる。円窓の形のがゆがむ。
第11806 PL.87	51	土器製品	包含層 破片	高 2.4 厚 0.8	繊砂/ふつう	貝輪状土器製品。外側が内傾する。断面板状で上部が厚く、 下端に向かって薄くなる。上端は尖り気味に形成する。整 形による若干の凹凸が見られる。	
第11806 PL.87	52	土器製品	包含層 破片	高 2.3 厚 0.8	繊砂/ふつう	貝輪状土器製品。外側が内傾する。断面板状に近いレンズ状。 白色塗彩の痕跡あり。	
第11806 PL.87	53	土器製品	包含層 破片	径 1.1	繊砂/良好	現存長3.0cm。勾玉状の土器製品。上部に円孔を穿つ。白色 塗彩が良好に残る。	
第11806 PL.87	54	土器製品	包含層 完形	長 4.3 厚 幅 1.9	1.0 繊砂/良好	土器片加工。周縁を粗めに整え、上下左右に切り込 みを入れる。	
第11806 PL.87	55	石器	包含層 完形	長 2.3 厚 幅 1.2 重 1.0	0.5 チャート	未製品。表面裏とも押圧剥離で覆われているが、側縫形状 は対称性を欠き、先端部も完成状態には違い。	凹基無茎縫
第11806 PL.87	56	石器	包含層 ほぼ完形	長 2.0 厚 幅 1.8 重 0.6	0.3 チャート	完成状態。器体全面が押圧剥離に覆われているが、左側縫 の加工に失敗、製作を諦めたものに見える。	凹基無茎縫
第11806 PL.87	57	石器	包含層 2/3	長 (1.5) 厚 幅 (1.7) 重 0.8	0.4 黒色質岩	完成状態。表面裏とも押圧剥離で覆われる。身は三角形状 を呈し、返し邊は長い。先端部の欠陥は衝撃剥離痕という より製作途上の欠陥が、返し邊の欠陥は調査時。	凹基無茎縫
第11806 PL.87	58	蔽石	包含層 破片	長(9.1) 厚 幅 (4.6) 重 158.8	3.0 ホルンフェルス	右刃側に敲打痕があるほか、上端側に部分的な敲打 痕が残る。表面に穿孔。石斧制御破片の可能性も残る。	棒状縫
第11806 PL.87	59	蔽石	包含層 完形	長 15.2 厚 幅 9.8 重 1535.8	6.4 粗粒輝石安山岩	穿孔サイズより明らかなる形品。概して敲打痕が特徴的で、 摩耗痕は弱く、部分的である。	棒状縫
第11806 PL.87	60	石皿	包含層 完形	長 24.2 厚 幅 29.7 重 6300	6.7 粗粒輝石安山岩	上端側が厚く、下端側は薄い大形の焼円窓で、表面側縫面 がむすびに隈み、表面摩耗する。被熱して表面が割かれ、 ヒビ割れしている。	無縫

1区遺構外

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 類	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第11904 PL.87	1	深跡	880-300 口縫+脚中位破 片1/3	口 14.8	粗砂、輝石/ふつ う	隆起をめぐらして口縫部文様帶を区画し、縦位沈線を充 填塗墨。4単位波状口縫で、1単位のみ大方形にし、ワラビ 手状升降帶を施す。脚部は2条沈線による懸垂文、LR縄文 を施す。	加曾利E2式
第11906 PL.87	2	深跡	870-300 口縫+脚中位破 片	口 16.0	繊砂、白色粒、輝 石/ふつう	隆起をめぐらして口縫部文様帶を区画し、下位升降帶を突起状に張り出させ、縦位沈線を充填塗墨す る。脚部は呂揚文を地文とし、突起下に2条沈線による懸 垂文、間に蛇形重文を施す。	加曾利E2式
第11906 PL.87	3	深跡	880-300 口縫+脚中位 1/2	口 14.3	粗砂、石英/良好	隆起をめぐらして口縫部文様帶を区画し、隆起によるワラビ 手文、円文を施す。以下、LR縄文を縦位全面施文する。	加曾利E2式

種 国 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残存率	計測値	胎上/模成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第119回 PL.87	4	深鉢	880-300 口縁~胴中位破片	□ (24.0)	粗砂、輝石/ふつう	口縁をくの字状に内屈させた無文様とし、以下、RL縦文を全面施す。頭部の2条沈線をめぐらし、以下、2条沈線による懸垂文。蛇行懸垂文を施す。	加曾利E2式
第119回 PL.87	5	深鉢	875.870-300 胴部破片		細砂/ふつう	RL縦文を地文とし、2条沈線をめぐらして胸部文様帯を区画、以下、2条沈線による懸垂文を施す。	加曾利E2式
第120回 PL.88	6	深鉢	880-300,890- 290 口縁~胴中位破片	□ (36.0)	粗砂、赤色粒、輝 石/良好	左右非対称の突起を付す波状口縁で、波頂部にワラビ手文を施す。陸帶による口縁部区画、満登文を施す。RL縦文を全面施す。2条陸帶をめぐらして胸部文様帯を区画、以下、2条陸帶による胸部懸垂文を施す。RL縦文を充填施す。1条陸帶による横行懸垂文を施す。	加曾利E2式
第120回 PL.88	7	浅鉢	875.880-300 口縁~胴中位破片	□ 39.0	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	口縁部無文様、胸上位に陸帶をめぐらして文様帯を区画、陸帶による円状文を配し、斜位の2条陸帶で連結させる。地文に斑闇文を施す。	加曾利E2式
第120回 PL.88	8	深鉢	880-290 口縁~胴中位破片	□ (29.0)	粗砂、白色粒、輝 石/良好	舌状の波状口縁。沈線による口縁部梢円状区画、胸部懸垂文を施す。異条RL縦文を充填施す。	加曾利E3式
第120回 PL.88	9	深鉢	870-305 底部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施す。RL縦文を底位充填施す。	加曾利E3式
第121回 PL.88	10	深鉢	885-290 胴部破片		粗砂/良好	沈線による胸部懸垂文を施す。複節RL縦文を底位充填施す。	加曾利E3式
第121回 PL.88	11	浅鉢	875.880-300 口縁~胴下位 1/3	□ (40.0)	細砂、輝石/良好	口縁が額外反、胸中位に筒状に陸帶をめぐらして文様帯を区画、跨上に底位短沈線をめぐらす。文様帯内はくびれ部上位を無文帯とし、下位に横竹管斜突を充填施す。竹管は2種用いられ、ごく一部に細く竹管による斜突が見られる。	名古寺日式
第121回 PL.88	12	深鉢	880-300 口縁~胴中位破片	□ (19.5)	粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	胸部が膨らむ。頭部ですぼまって口縁が開く形状。口縁が切入し内折する。口縁部無文様。頭部に8の字割文を付し、横位底辺沈線をめぐらして列点を充填施す。以下、U字とV字を組み合わせた帯状沈線による連弧状モチーフを施し、列点を充填施す。下端を横位沈線でつなぐようだ。	腹之内式
第122回 PL.88	13	深鉢	埋土 口縁部破片		細砂、輝石、織維 /ふつう	無文。口縁部に斜位の刻みを付す。	早期後半
第122回 PL.88	14	深鉢	埋土 胴部破片		細砂/良好	底位展開する陸帶、沈線。側突列を施す。	勝坂式
第122回 PL.88	15	深鉢	880.885-295 口縁部破片		細砂、輝石/ふつ う	ぐの字状に頭部を露出させ、陸帶をめぐらし、環状陸帶を付す。口縁部は無文帯とし、屈曲部上位に横位多段の沈線、交互突きを施す。胸部は撫条文と底位施す。	三原田類型
第122回 PL.88	16	深鉢	880-300 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	陸帶をめぐらして口縁部文様帯を区画、頭部起突を付し、横位沈線による満登文を施す。横位沈線をめぐらして頭部無文帯を区画する。	加曾利E2式
第122回 PL.89	17	深鉢	865-305 口縁部破片		細砂/ふつう	頭やかな波状口縁。頭部文様帯を区画、頭部起突をめぐらす。	加曾利E2式
第122回 PL.89	18	深鉢	870-305 胴部破片		粗砂/良好	撫条文を底位施し、横位沈線をめぐらす。	加曾利E2式
第122回 PL.89	19	深鉢	包含層 口縁部破片		細砂、輝石/ふつ う	撫条文Lを底位施し、口縁下に横位2条の沈線をめぐらす。	加曾利E2式
第122回 PL.89	20	表土	口縁部破片		細砂、輝石/良好	口縁部両面に底位に底位短沈線を充填施す。	加曾利E2式
第122回 PL.89	21	深鉢	880-300 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	頭部をめぐらして口縁部文様帯を区画、陸帶による満登文を施す。底位短沈線を充填施す。	加曾利E2式
第122回 PL.89	22	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、石英/ふつ う	頭部をめぐらして口縁部文様帯を区画、陸帶によるワラビ手文、斜行文を施す。底位充填施す。	加曾利E2式
第122回 PL.89	23	深鉢	包含層 口縁部破片		細砂/ふつう	横位短沈線をめぐらして口縁部文様帯を区画、頭部起突を付す。頭部はRL縦文を地文とし、多哉竹管状の竹編による懸垂文を施す。	加曾利E2式
第122回 PL.89	24	深鉢	860-305 口縁部破片		粗砂、白色粒、赤 色粒/良好	横位の突起を付す波状口縁。頭部による口縁部区画、満登文を施す。RL縦文を充填施す。頭部に満登文を施す。内側に透かしを入れる。	加曾利E2式
第122回 PL.89	25	包含層 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつ う	頭による口縁部区画、満登文を施す。LR縦文を底位施す。頭部無文帯。	加曾利E2式
第122回 PL.89	26	深鉢	870-305 口縁部破片		細砂、輝石/ふつ う	頭やかな波状口縁。頭部をめぐらして口縁部文様帯を区画、頭部起突を施す。RL縦文を充填施す。胸部はRL縦文を地文とし、多哉竹管状の竹編による懸垂文を施す。	加曾利E2式
第122回 PL.89	27	深鉢	885-290 口縁部破片		細砂/良好	頭部による口縁部区画を施す。横位蛇行条線を充填施す。	加曾利E2式
第122回 PL.89	28	表土	口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	頭部をめぐらして口縁部文様帯を区画、蛇行条線を充填施す。	加曾利E2式
第122回 PL.89	29	深鉢	包含層 胴部破片		粗砂、輝石/ふつ う	Na.28、32と同一個体。降帶による蛇行懸垂文を施し、底位蛇行条線を充填施す。	加曾利E2式
第122回 PL.89	30	深鉢	880-300 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	円柱状の突起を付す波状口縁。頭部による口縁部区画、満登文を施す。RL縦文を地文とし、降帶を重下させる。	加曾利E2式
第122回 PL.89	31	深鉢	880-290 口縁部破片			Na.30と同一個体。	加曾利E2式
第122回 PL.89	32	深鉢	包含層 口辺部破片			Na.28、29と同一個体。降帶をめぐらして口縁部文様帯を区画。降帶によるワラビ手状文。胸部懸垂文を施し、条線を充填施す。	加曾利E2式

付表

掃 図 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	崩上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第12386 PL.89	33 深鉢	870-305 口縁部破片		細砂/ふつう	口縁部に内形刺突を抉む2条沈線をめぐらし、以下、2条沈線による懸垂文を施す。地文に粘土LRL繩文を羅位施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	34 深鉢	885-290 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	橋状突起を付す波状口縁、内面に透かしを入れる。口縁に沿って沈線、RL繩文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	35 深鉢	880-300 口縁部破片		粗砂/ふつう	上端に溝巻状隆脊を施す突起を付す。内面に透かしを入れ、環状の橋状突手を付す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	36 深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、赤色粒、輝 石/ふつう	突起を付す波状口縁、波頭部にワラビ手文を施し、口縁部へとつなげる。波頭部下に沈線による懸垂文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	37 深鉢	870-305 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	無頭L繩文を地文とし、沈線による連弧状文、ワラビ手文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	38 深鉢	870-305 口縁部破片		細砂/ふつう	穂やかな波状口縁。口縁下に横位、ワラビ手文状沈線を施し、波頭部から羅位沈線を重複させる。地文に無頭LRL繩文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	39 深鉢	880-300 制部破片		細砂、石英/ふつ う	RL繩文を地文とし、3条沈線をめぐらして制部文様帶を区分。以下、3条沈線による懸垂文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	40 浅鉢	870-305 口縁部破片		粗砂/良好	口縁がくの字状に強く内屈。口縁部に向するワラビ手文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	41 深鉢	880-300 制部破片		細砂、輝石/良好	RL繩文を地文とし、3条沈線による懸垂文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	42 深鉢	包含層 制部破片		粗砂/良好	RL繩文を地文とし、3条比線による懸垂文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	43 深鉢	包含層 制部破片		粗砂、輝石/良好	RL繩文を地文とし、2条沈線による懸垂文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	44 深鉢	包含層 制部破片		粗砂/良好	RL繩文を地文とし、沈線による懸垂文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E2式
第12386 PL.89	45 深鉢	包含層 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	羅位平行沈線を充填施文する。	加曾利E2式
第12386 PL.89	46 深鉢	860-305 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	隙帶による口縁部精円状区画を施し。RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12386 PL.90	47 深鉢	860,865-305 口縁・制中位破 片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隙帶による口縁部精円状区画を施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12386 PL.89	48 深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	隙帶による口縁部精円状区画を施し。RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12386 PL.90	49 深鉢	870-310 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	隙帶による口縁部精円状区画を施し。RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12386 PL.90	50 深鉢	875-300 口縁部破片		細砂/ふつう	舌状の波状口縁。口縁部精円状区画を施し。RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	51 深鉢	885-290 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	隙帶による口縁部病状区画、沈線による制部懸垂文を施し。RL繩文を充填施文する。口縁部に小突起を付す。	加曾利E3式
第12486 PL.90	52 深鉢	885-290 口縁部破片		粗砂、細粒、白色 粒、輝石/良好	穂やかな波状口縁。2条沈線による溝巻状モチーフを施し、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	53 深鉢	875-300 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	舌状波状口縁の波頭部。口縁に沿って沈線をめぐらし、RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	54 深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石、雲母 /ふつう	舌状の波状口縁。隙帶による口縁部精円状区画を施し。RL繩文を充填施文。隙帶を無文帯とし、以下、隙帶によるものモチーフを施す。	加曾利E3式
第12486 PL.90	55 深鉢	885-295 口縁部破片		粗砂/良好	隙帶による口縁部精円状区画。沈線による制部懸垂文を施し。RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	56 深鉢	表上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	2条隙帶による溝巻文を施し。RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	57 深鉢	包含層 制部破片		粗砂/ふつう	隙帶によるモチーフを施し。RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	58 深鉢	870-305 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	隙帶による口縁部病状、沈線による逆U字状モチーフを施し。RL繩文を充填施文する。間に逆S字状の窓呂文を配す。	加曾利E3式
第12486 PL.90	59 深鉢	880-300 口縁部破片		粗砂、細粒/ふつ う	穂やかな波状口縁。沈線による橋位・羅位の精円状モチーフを施し。RL繩文を充填施文。口縁区画内に2条沈線による連弧状文を施す。	加曾利E3式
第12486 PL.90	60 深鉢	包含層 制部破片		粗砂、赤色粒、輝 石/ふつう	内形刺突を抉む2条沈線をめぐらし、以下、沈線による逆U字モチーフを施す。RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	61 深鉢	870-305 制部破片		粗砂、白色粒/ふ つう	橋位複数条の沈線を施し。沈線内に内形刺突をめぐらす。以下、沈線による逆U字模モチーフを施し。RL繩文を充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	62 深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、赤色粒、/ふ つう	口縁下に1条の沈線をめぐらし、以下、沈線による逆U字モチーフを施し。LRM繩文を羅位充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	63 深鉢	875-300 制部破片		粗砂/ふつう	沈線による制部懸垂文を施し。RL繩文を羅位充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.90	64 深鉢	870-305 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による制部懸垂文を施し。LRM繩文を羅位充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.91	65 深鉢	870-305 制部破片		粗砂、輝石、輝石 /良好	沈線による制部懸垂文を施し。複節RLR繩文を羅位充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.91	66 深鉢	包含層 制部破片		粗砂、細粒、石英 /ふつう	沈線による制部懸垂文を施し。RLM繩文を羅位充填施文する。	加曾利E3式
第12486 PL.91	67 深鉢	包含層 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による制部懸垂文を施し。RLM繩文を羅位充填施文する。	加曾利E3式

掃 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第12586 PL.91	68	深鉢	870-305.310 胸部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第12586 PL.91	69	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第12586 PL.91	70	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第12586 PL.91	71	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第12586 PL.91	72	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第12586 PL.91	73	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂を施し、縦位条線を充填施文する。	加曾利E3式
第12586 PL.91	74	深鉢	1溝 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	2条隙縫による胸部懸垂を施し、RL縦文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第12586 PL.91	75	深鉢	870-300 口縁部破片		輝砂/ふつう	或状口縁。沈線をめぐらして幅狭な口縁部無文帶を区画、以下、沈線による対向する弧状文を施し、RL縦文を充填施文する。口縁部は内側に円形刺突をめぐらす。	加曾利E4式
第12586 PL.91	76	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、2条隙縫による弧状文を垂下させ、文様外にRL縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第12586 PL.91	77	深鉢	表土 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	一部を突出させた横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、弧状隙縫による対向する弧状文を垂下させ、文様外にRL縦文を充填施文する。	中期末葉～後 期初頭
第12586 PL.91	78	深鉢	885-290 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、弧状隙縫を垂下させ、RL縦文を充填施文する。横位隙縫上にも横位文を施し、無文帶は見られない。	加曾利E4式
第12586 PL.91	79	包含層 口縁部破片			粗砂/良好	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第12586 PL.91	80	深鉢	包含層 口縁部破片		輝砂、輝石/ふつ う	波状口縁。隙縫をめぐらして幅狭な口縁部無文帶を区画、以下、隙縫による懸垂文、弧状文を施し、RL縦文を充填施文する。無文帶は見られない。	加曾利E4式
第12586 PL.91	81	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/ふつう	2条隙縫による弧状モチーフを施し、文様外にRL縦文を充填施文する。	後期加曾利E 系
第12586 PL.91	82	深鉢	包含層 胸部破片		輝砂/良好	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、隙縫による懸垂文を施し、LR縦文を充填施文する。無文帶は見られない。	加曾利E4式
第12586 PL.91	83	深鉢	875-300 U辺部破片		粗砂、輝石/ふつ う	2条隙縫による弧状の突起を付す波状口縁。突起下端からつながる横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、斜行する隙縫を施し、LR縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第12586 PL.91	84	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、隙縫による懸垂文を施し、LR縦文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第12586 PL.91	85	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、縦位条線を充填施文する。	加曾利E4式
第12586 PL.91	86	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、縦位条線を充填施文する。	加曾利E4式
第12586 PL.91	87	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂/ふつう	隙縫による横位、曲線モチーフを施す。	中期末葉～後 期初頭
第12586 PL.92	88	深鉢	880-290 胸部破片		粗砂/良好	沈線によるU字彫、逆U字彫モチーフを施し、RL縦文を充填施文する。	加曾利E4式
第12586 PL.92	89	深鉢	880-295.300 口縁部破片		輝砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帶を区画、以下、縦位条線を充填施文する。	加曾利E4式
第12586 PL.92	90	浅鉢	865.870-305 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	口縁部に横位沈線をめぐらす。以下、無文。口縁部赤彩。	加曾利E4式
第12586 PL.92	91	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、細繩、輝石 /良好	横位隙縫によるモチーフを施し、交点に円形刺突を付す。	後期加曾利E 系
第12586 PL.92	92	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	横位隙縫によるモチーフを施し、複節RL縦文を充填施文する。	称名寺1式
第12586 PL.92	93	深鉢	880-290 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位隙縫によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺1式
第12586 PL.92	94	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	波状隙縫による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺1式
第12586 PL.92	95	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	波状隙縫によるモチーフを施し、無節LR縦文を充填施文する。	称名寺1式
第12586 PL.92	96	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺1式
第12586 PL.92	97	深鉢	885-290 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺1式
第12586 PL.92	98	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/ふつう	突起を付す波状口縁。波頂部内面に瘤状隙縫を付し、沈線を施し、上端に8字附文を横位に付す。外面上端に刺突をめぐらす。	称名寺式
第12586 PL.92	99	深鉢	875-295 口縁部破片		粗砂、白色粒/ふ つう	突起を付す波状口縁。波頂部内面に瘤状隙縫を付し、円形刺突、沈線を施し、上端、外面部、両側面に円形刺突を施す。	称名寺式
第12586 PL.92	100	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつ う	波状口縁。円形刺突、沈線を伴う対弧隙縫を付す。	称名寺式

付表

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残 余 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第12686 PL.91	101	深鉢	3溝 口縁部破片		織紗、輝石/良好	波状口縁。円形刺突、波線を伴う対弧状降帯を付し、下端から口縁に沿って帯状降帯をめぐらし、内側に円形刺突を沿わせる。	称名寺II式
第12686 PL.92	102	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、条線を充填施文する。	称名寺式
第12686 PL.92	103	深鉢	包含層 制御破片		織紗、輝石、石英 /良好	帶状沈線によるモチーフを施し、条線を充填施文する。	称名寺式
第12786 PL.92	104	深鉢	理上 口縁部破片		粗紗、輝石/良好	波状口縁。帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.92	105	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗/ふつう	口縁が内湾。帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.92	106	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.92	107	浅鉢	880-295 口縁部破片		織紗/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.92	108	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.92	109	深鉢	880-300 口縁部破片		粗紗、織紗/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.92	110	深鉢	880-300 口縁部破片		粗紗、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.92	111	深鉢	包含層 口縁部破片		粗紗、白色粒、赤 色粒/良好	横欄、レンズ状の沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.92	112	深鉢	包含層 制御破片		粗紗、白色粒、赤 色粒、輝石、石英 /良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.92	113	深鉢	包含層 制御破片		織紗、輝石/ふつ う	列点を作り斜行降帯を重下、沈線を沿わせ、逆U字状沈線を施す。降帯は左上方に向ひ伸びると思われ、交点に円形刺突を施す。	称名寺II式
第12786 PL.92	114	深鉢	包含層 制御破片		粗紗、赤色粒、輝 石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.93	115	深鉢	880-300 制御破片		粗紗、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.93	116	深鉢	885-295 制御破片		織紗、石英/ふつ う	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.93	117	深鉢	880-295 制御破片		織紗、輝石、石英 /ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.93	118	深鉢	870-310 制御破片		織紗、輝石/ふつ う	帶状沈線による曲線モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第12786 PL.93	119	浅鉢	包含層 口縁部破片		織紗、輝石/ふつ う	輪郭状の橋状突起を付す波状口縁。波頂部内面に円形の透かしを入れ、沈線、刺突を伴う円形刺突文を付す。口縁部をくの字状に内屈させ、帶状沈線を施す。	称名寺式
第12786 PL.93	120	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗、輝石/良好	横欄、弧状の沈線を施す。	称名寺II式
第12786 PL.93	121	深鉢	880-300 口縁部破片		粗紗、白色粒、輝 石/ふつう	口縁外表面を肥厚させて円形刺突をめぐらし、以下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第12786 PL.93	122	深鉢	870-300 口縁部破片		織紗、赤色粒/ふ つう	口縁外表面をくの字状に内屈させて円形刺突をめぐらし、以下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 瓶之内I式
第12786 PL.93	123	深鉢	870-300 口縁部破片		粗紗、白色粒、輝 石/良好	口縁外表面をくの字状に内屈させて円形刺突をめぐらし、以下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 瓶之内I式
第12786 PL.93	124	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗、輝石/ふつ う	口縁に円形刺突、横位沈線をめぐらし、以下、帶状比縫によるモチーフを施す。	称名寺II式
第12786 PL.93	125	深鉢	880-295 口縁部破片		織紗/ふつう	継やかな波状口縁。口縁部をくの字状に内屈させ、波頂部下に2段の円形刺突、脛に帶状沈線を施し、列点を充填施文する。	称名寺II式～ 瓶之内I式
第12786 PL.93	126	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗、輝石/ふつ う	口縁部をくの字状に肥厚させ、肥厚部に円形刺突、横位沈線を施す。以下、沈線によるモチーフを施す。	瓶之内I式
第12786 PL.93	127	深鉢	880-300 口縁部破片		粗紗、白色粒、輝 石、石英/ふつう	口縁外面を肥厚させ、肥厚部に8の字貼付文を付し、横位沈線をめぐらす。以下、横位沈線を施す。	称名寺II式～ 瓶之内I式
第12786 PL.93	128	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗、白色粒、輝 石、石英/ふつう	口縁を短く内折させ、内折部に円形刺突をめぐらす。頭部を無文帯とし、肩部に円形刺突、横位沈線を施す。	瓶之内I式
第12886 PL.93	129	深鉢	理上 口縁部破片		粗紗、織紗、輝石、 石英/良好	頭部を短く内折させ、内折部に横位沈線をめぐらす。頭部を無文帯とし、肩部に円形刺突、横位沈線を施す。沈线下にLR構文が見られる。	瓶之内I式
第12886 PL.93	130	深鉢	865-305 口縁部破片		織紗、白色粒、輝 石/良好	継やかな波状口縁で口縁が短く内折。波頂部下を半円状に内屈し、2条の張綱文を治ませ、横位沈線をめぐらす。頭部を無文帯とし、ぐひれ部に円形刺突、横位沈線を施す。	瓶之内I式
第12886 PL.93	131	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗、輝石/ふつ う	継やかな波状口縁で口縁内面肥厚。波頂部下に複数条の張綱文を施す。以下、無文。	瓶之内I式
第12886 PL.93	132	深鉢	包含層 口縁部破片		織紗、輝石/ふつ う	継やかな波状口縁で口縁内面肥厚。波頂部下に複数条の張綱文を施す。以下、無文。	瓶之内I式
第12886 PL.93	133	深鉢	885-290 口縁部破片		織紗、白色粒/良 好	口縁下に1条の沈線をめぐらし、以下、複数条の沈線による無文を施す。	瓶之内I式

種 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石 材 / 材 贀	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第128回 PL.93	134	深鉢	880-300 口縁部破片		細砂、輝石、石英 /ふつう	或状口縁。口縁を強く内折させ、内折部に2条の沈線をめぐらす。波頂部は3条のものとなる。LR縦文を地文とし、波頂部下から3条沈線による懸垂文を施す。	瓶之内1式
第128回 PL.93	135	深鉢	包含層 口縁部破片		細砂/ふつう	頸部でくの字状に強く外折し、口縁が強く内折する。内折部に小突起を付し、縦位沈線を施す。頸部に沈線をめぐらす。瓶之内1式	
第128回 PL.93	136	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縁に向かってすばりながら、口縁が強く外反する。口縁部に1条の陰線をめぐらし、以下、沈線による曲線モチーフを施す。	瓶之内1式
第128回 PL.93	137	深鉢	885-285,290 制部破片		粗砂、輝石/良好	くびれ部に横位沈線をめぐらして8の字貼付文を貼付。以下、複数条の沈線による弧状の懸垂文を施す。地文にLR縦文を施す。横位沈線上にも施文を見られる。	瓶之内1式
第128回 PL.93	138	包含層 制部破片			細砂/ふつう	くびれ部に横位沈線をめぐらし、以下、LR縦文を地文に施す。複数条の沈線による対向する弧状文を垂下させ、LR縦文を充填施文する。	瓶之内1式
第128回 PL.93	139	深鉢	875-295 制部破片		粗砂、石英/良好	複数条の沈線による対向する弧状文を垂下させ、LR縦文を充填施文する。	瓶之内1式
第128回 PL.93	140	深鉢	875-295 制部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	くびれ部に横位沈線をめぐらし、以下、3条沈線による対向する弧状文を垂下させる。	瓶之内1式
第128回 PL.93	141	深鉢	包含層 制部破片		細砂、輝石、石英 /ふつう	集合沈線による懸垂文を施す。	瓶之内1式
第128回 PL.93	142	深鉢	理上 制部破片		粗砂、白色粒、輝 石/良好	集合沈線による同心円状のモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内1式
第128回 PL.93	143	深鉢	870-300 制部破片		細砂、輝石/良好	3条沈線によるワラビ手状文、斜行文を施す。	瓶之内1式
第128回 PL.94	144	浅鉢	包含層 制部破片		細砂、輝石/良好	集合沈線による同心円文、斜行文を施す。	瓶之内1式
第128回 PL.94	145	深鉢	理上 制部破片		粗砂、細砂、輝石、 石英/良好	集合沈線による懸垂文を施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内1式
第128回 PL.94	146	浅鉢	875-300 口縁部破片		細砂、輝石/良好	口縁部がくの字状に内屈し、口縁が強く外折。円形刺突。沈線を伴う弧状刺突を貼付。間に円形貼付文があると思われる。横V字状の2条沈線でつなぐ。	瓶之内1式
第128回 PL.94	147	浅鉢	包含層 口縁部破片		細砂、輝石/良好	口縁部に横状把手を付し、円形刺突。瓶位沈線。列点を施す。両側面にも円形刺突。沈線を施す。LR縦文を地文とし、2条沈線によるモチーフを施す。	瓶之内1式
第129回 PL.94	148	深鉢	理上 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縁部に刻み隆線をめぐらす。	瓶之内2式
第129回 PL.94	149	深鉢	包含層 口縁部破片		細砂、輝石/良好	口縁部に1条の刻み隆線をめぐらし、以下、帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。内面ミガキ整形。	瓶之内2式
第129回 PL.94	150	深鉢	表上 口縁部破片		細砂、白色粒、輝 石/ふつう	口縁部に1条の刻み隆線をめぐらし、凹ませた口縁部から刻み隆線を垂下、下端に円形貼付文を付す。帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。口縁内面を厚壁させ、円形刺突を施す。	瓶之内2式
第129回 PL.94	151	深鉢	包含層 口縁部破片		細砂、白色粒、輝 石/ふつう	外面無文。内面に3条の横位沈線をめぐらし、円形貼付文を作り弧状隆線を施す。口縁部にも沈線をめぐらす。内外面ミガキ整形。	瓶之内2式
第129回 PL.94	152	深鉢	875-300 制部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第129回 PL.94	153	深鉢	885-285 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	横状沈線による菱形モチーフを施し、LR縦文を充填施文。区間に沈線を重刷させる。	瓶之内2式
第129回 PL.94	154	深鉢	表上 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	沈線による同心円文、重刷する三角形状等の幾何学モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第129回 PL.94	155	深鉢	875-300 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	沈線による重刷する幾何学モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第129回 PL.94	156	深鉢	875-300 制部破片		細砂、赤色粒、輝 石/ふつう	重刷する沈線によモチーフを施す。	瓶之内2式
第129回 PL.94	157	深鉢	包含層 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施す。	瓶之内2式
第129回 PL.94	158	深鉢	880-295 制部破片		粗砂、石英/ふつ う	帯状沈線による三角形状モチーフを施し、LR縦文を充填施文。区間に沈線を重刷させる。	瓶之内2式
第129回 PL.94	159	深鉢	包含層 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	沈線による重刷する幾何学モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第129回 PL.94	160	深鉢	890-285 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	LR縦文をまばらに全面施文する。内面ミガキ整形。	瓶之内2式
第129回 PL.94	161	深鉢	包含層 制部破片		細砂、輝石/ふつ う	制上位にLR縦文を充填施文する。無部、内面ミガキ整形。	瓶之内2式
第129回 PL.94	162	深鉢	包含層 口縁部破片		細砂、白色粒、輝 石/ふつう	頭部で緩く外反する。無文。口縁内面に1条の隆線をめぐらす。内外面ミガキ整形。	瓶之内2式
第129回 PL.94	163	885-300 注口上唇 制部破片			細砂、輝石/良好	算盤玉の器形。屈曲部上位に重刷する沈線による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第129回 PL.94	164	深鉢	包含層 制部破片		粗砂/良好	弧状の条線を横向方に重ねる。	後期前葉
第129回 PL.94	165	深鉢	包含層 制部破片		粗砂/良好	縦位の蛇行条線を充填施文する。	後期前葉
第129回 PL.94	166	870-300 底部破片	底 4.2		粗砂/良好	縦位条線を充填施文する。底面ミガキ整形。	後期前葉

付表

捕 図 PL.No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第12968 PL.94	167 深鉢	880-295 底部断片	底 3.7	粗砂/ふつう	縦位線を充填施文する。上げ底風に底面を凹ます。	後期前葉か
第12966 PL.94	168 注口上部	包含層 注口部破片		繊維、輝石/ふつ う	根元が丸みを帯び、先端に向かってすぼまる。外面ミガキ	後期前葉
第12965 PL.94	169 注口上部	875-300 注口部破片		繊維、輝石/良好	大型の注口部。先端に向かってすぼまる。	後期前葉
第12968 PL.94	170 浅鉢	包含層 口縁部破片		繊維/ふつう	口縁部に簡約の把手を付す。把手下端内弧から口縁に沿つて隆線をめぐらし、また2条の隆線を重下させる。赤彩の粗跡あり。	中期末葉～後 期前葉
第12968 PL.94	171 鉢	885-290 口縁～側中位破 片	口 (4.8)	粗砂、輝石/ふつ う	口縫が内湾する小型の鉢。無文。	後期前葉
第12968 PL.94	172 深鉢	包含層 口縁部破片	口 (6.4)	繊維、輝石/良好	小型。頭部ですばり口縁が聞く器形。横状把手を付し、下端から横位隆線を施文。把手下端に刺突を伴う円形貼付文を付す。	頭之内1式
第12968 PL.94	173 茶器	包含層 上端～底部破片	上 (6.4) 底 (9.0)	高 3.5 粗砂/ふつ う	横位横状線を施し、内部に横長楕円文を横位に連ねる。	後期前葉
第12968 PL.94	174 ミニチュア 土器	表上 口縁部破片		繊維/良好	口縫外端に縦位の刺みを付す。	
第12968 PL.94	175 上製品	表上 完形	径 3.3 厚 1.4	繊維、白色粒、輝 石/良好	土製円盤。土器器加工。周縁に摩減痕が認められる。器面上に横文の縦位施文が見られる。加熱E3式を利用か。	
第12968 PL.94	176 上製品	包含層 完形	長 短 3.7 3.1	繊維/ふつう 1.3	土製円盤。土器器加工。周縁に摩減痕が認められる。器面上に横位施文。列点が見られる。称名寺式を利用か。	
第13068 PL.95	177 土製品	包含層 破片	高 1.7 厚 1.7	繊維/良好	現状の上製品。断面円凹で貝殻状とは異なり、特殊である。把手の可能性もあるか。	
第13068 PL.95	178 上製品	885-290 破片	高 2.3 厚 1.2	粗砂、石英/良好	貝状土製品。外面が内傾する。中央部が最も厚く、上端を尖り気味に形成する。整形による若干の凸凹が見られる。内環の形がゆがむ。	
第13068 PL.95	179 上製品	865-305 破片	高 2.1 厚 1.4	繊維、輝石/良好	貝状土製品。外面が内傾する。断面直い。粘土滑を貼り合わせて成形した痕跡が見られる。	
第13068 PL.95	180 上製品	880-300 破片	高 2.1 厚 0.8	繊維、輝石、石英 /ふつう	貝状土製品。外面が内傾する。中央部が最も厚く、上端を尖り気味に形成する。外面にLR隠文を斜位施文する。	
第13068 PL.95	181 上製品	表上 破片	高 2.1 厚 1.3	繊維/ふつう	貝状土製品。外面が内傾する。中央部が最も厚く内面がくの字状になり、上下端に若干の平坦面を形成する。外面にLR隠文を斜位施文する。	
第13068 PL.95	182 上製品	890-285 破片	高 1.8 厚 0.9	繊維/良好	貝状土製品。外面が内傾する。断面やや厚みのある板状で上部が厚く、下端に向かって薄くなる。上端を純角なV字状に尖らせ、下端に平坦面を成形する。白色塗彩の痕跡あり。	
第13068 PL.95	183 上製品	表上 端部1/2	長 厚 1.6 2.0	繊維、輝石/ふつ う	現存幅4.0cm。三日月状の上製品。表面は長軸中央に沈継を施し、豆状孔の貼付文を付す。裏面は中央に楕円状の粘土貼付文を付け、長軸方向に円孔を穿つ。表面に赤彩の痕跡あり。	
第13068 PL.95	184 上製品	880-300 破片	長 厚 2.0 1.2	繊維/良好	現存幅3.7cm。表面とともに長軸に沈継を施し、間に短沈継を充填施文する。上端にも沈継を施文。	
第13068 PL.95	185 上製品	875-300 完形	長 径 4.6 3.9	繊維/ふつう	きのこ状の上製品。上端が若干凹む。	
第13068 PL.95	186 上製品	包含層 端部破片	長 径 1.7 短 径 1.4	繊維/ふつう	現存長3.6cm。棒状の上製品。先端が尖り気味にすぼまる。	
第13068 PL.95	187 土製品	890-285 端部破片	径 1.5	繊維、白色粒/ふ つう	現存長5.7cm。棒状の上製品。先端が尖り気味にすぼまる。	
第13068 PL.95	188 上製品	885-290 完形	長 径 5.4 短 径 2.0	繊維/良好	棒状の上製品。断面楕円状。上部に斜位の円孔を穿つ。脇に刺突のような疣状、下端脇に網代瘤のような疣状が見られる。	
第13068 PL.95	189 上製品	885-295 破片	径 3.0	繊維、輝石/良好	円形で断面凸状を呈す。側面と表面の境界に2条の沈継を施文し、沈継間に筋みをめぐらす。表面に刺突を伴う円形貼付文を付す。表面、側面ミガキ整形。裏面は凹状となるのが、剥がれた痕跡のようだ。	
第13068 PL.95	190 上製品	885-285 ほぼ完形	上 下 2.5 2.0 厚 重 2.3 12.9	繊維/良好	最小幅1.7cm。耳穿。裏面は弧状に凹ます。表面に同心円状の沈継を施すが、施文が浅い。裏面は無文。	
第13068 PL.95	191 石鐵	包含層 ほぼ完形	長 幅 1.6 1.1 厚 重 0.3 0.4	チャート	完成状態。裏面側に素材面を大きく残す。周辺加工を土体に潜れての形状を作出する。	凹基無茎葉
第13068 PL.95	192 石鐵	880-300 完形	長 幅 1.7 1.1 厚 重 0.3 0.4	黒色頁岩	完成状態。やや深い加工状態にあり、側縁形状は鋸歯状に近い。	凹基無茎葉
第13068 PL.95	193 石鐵	880-300 ほぼ完形	長 幅 1.8 1.5 厚 重 0.3 0.6	チャート	完成状態?上端側に大きな衝撃剥離痕様の剥離痕、裏面側基部にも似た剥離痕がある。完成段階の破損か。	凹基無茎葉
第13068 PL.95	194 石鐵	880-300 ほぼ完形	長 幅 2.6 2.1 厚 重 0.7 2.2	黒色安山岩	未製品。裏面側には平坦剥離が近く丁寧だが、表面側加工は剥離痕が強く、難である。	凹基無茎葉
第13068 PL.95	195 石鐵	880-300 4/5	長 幅 3.2 2.0 厚 重 0.5 1.7	チャート	完成状態。裏表面とも丁寧な押圧剥離で覆われる。大形の部類で、加工の優れた傑品。	凹基無茎葉
第13068 PL.95	196 石鐵	包含層 2/3	長 幅 2.8 1.8 厚 重 0.4 1.2	チャート	完成状態?裏表面とも押圧剥離で覆われているが、先端部は作出されておらず、完成間際で被損したものか。	凹基無茎葉

種 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第13064 PL.95	197	石礫	包含層 ほぼ定形	長幅 2.8 2.5 厚 0.7 3.6	チャート	未製品。加工は粗く、周辺加工に止まる。裏面側に素材面を大きく残す。	円基無茎端
第13064 PL.95	198	石礫	包含層 ほぼ定形	長幅 (3.1) 2.1 厚 0.3 1.8	黒色安山岩	完成状態。表面裏とも押圧剥離で覆われ丁寧な作り。大形品で、石材環境を考えるなら搬入品の可能性が大。	円基無茎端
第13064 PL.95	199	石礫	埋上 4/5	長幅 (2.7) (2.2) 厚 0.3 1.2	チャート	未製品。裏面側に素材面を大きく残しているが、表面側は押圧剥離による。左辺側の返し部をぐらかす。先端部の作出も不十分。	円基無茎端
第13068 PL.95	200	石礫	埋上 2/3	長幅 (2.2) 2.1 厚 0.5 1.6	チャート	完成状態。器全体が押圧剥離で覆われる。先端部破損後、加工を進めて石礫を出しようとする意図が窺える。	円基無茎端
第13068 PL.95	201	石礫	包含層 2/3	長幅 (2.2) 2.1 厚 0.7 2.4	チャート	完成状態。先端に近い表面側の縁が高く残されているが、加工は比較的丁寧である。	平基無茎端
第13134 PL.95	202	石礫	包含層 1/4	長幅 (1.6) 2.3 厚 0.4 1.1	黒曜石	未製品。押圧剥離を全面で覆う。基部側の部分破片。残存部が割らすと大方形で、石礫製作初期の未完成品。	円基無茎端
第13134 PL.95	203	石礫	845-325 完形	長幅 (3.1) 2.6 厚 1.2 7.3	チャート	小形削片を用いる。粗く周辺加工して、三角形状の器体を作出する。	未成品
第13134 PL.95	204	石礫	包含層 完形	長幅 (4.5) 2.6 厚 1.3 16.9	チャート	裏面とも粗く加工。石礫様の器体を作出している。内辺の加工は鋭意的で、側縁形状を整える段階にはない。	未成品
第13134 PL.95	205	石礫	包含層 ほぼ定形	長幅 (3.0) 2.1 厚 0.6 3.1	チャート	小形削片を粗く加工し、石礫様の器体を作出する。左辺側の加工が形状修正的で、右辺側加工はない。	未成品
第13134 PL.96	206	石錐(ドリル)	包含層 完形	長幅 2.7 1.6 厚 0.5 重 17.3	チャート	小形削片の機能部を作出するタイプ。先端部は節理面で斜め破損。	
第13134 PL.96	207	石錐(ドリル)	包含層 ほぼ定形	長幅 1.8 (1.4) 厚 0.5 重 0.8	チャート	摘み部を有するタイプで、下端側が機能部となる。先端部は破損後に内側再生、単純な摩耗痕は見られない。	
第13134 PL.96	208	複形石器	885-285 完形	長幅 3.6 3.0 厚 1.1 重 15.1	チャート	表面側削離は対向する側縁が主体で両端打撃されているが、裏面側には両側削離の痕跡は上下両端の打点が潰れる程度である。	
第13134 PL.96	209	打製石斧	包含層 完形	長幅 11.0 3.5 厚 1.4 重 65.9	ホルンフェルス	完成状態。刃部および着刃部に摩耗痕が残る。刃部幅は最小の部類になる。全般的に風化が激しい。	短幅形a
第13134 PL.96	210	打製石斧	890-290 4/5	長幅 (9.2) 3.8 厚 1.3 重 56.8	ホルンフェルス	完成状態。風化が激しく、削離面の核や摩耗痕は不明瞭。より大きめ破損している下端側を丸刀と見た。	短幅形a
第13134 PL.96	211	打製石斧	包含層 完形	長幅 9.8 3.7 厚 1.4 重 60.5	ホルンフェルス	完成状態。両側縁が平行するタイプ。上下両端とも摩耗しているが、より摩耗度の高い方を下に認めた。	短幅形a
第13134 PL.96	212	打製石斧	包含層 完形	長幅 9.9 3.5 厚 1.7 重 56.4	ホルンフェルス	完成状態。両側縁は比較的平行で、風化の影響は少ない。刃部摩耗はなく、使用されず放置されたものか。	短幅形a
第13134 PL.96	213	打製石斧	880-300 2/3	長幅 (9.8) 5.2 厚 2.5 重 144.3	ホルンフェルス	完成状態。表面側に刃部摩耗が明瞭で、装着部には傷痕も残る。側縁が弧状になるのは、刃部重生によるため。	短幅形a
第13134 PL.96	214	打製石斧	885-290 ほぼ定形	長幅 10.1 4.7 厚 1.6 重 93.4	細粒輝石安山岩	完成状態。表面側に刃部摩耗が明瞭で、装着部には傷痕も残る。側縁が弧状になるのは、刃部重生によるため。	短幅形a
第13134 PL.96	215	打製石斧	870-305 4/5	長幅 (10.0) 4.4 厚 1.3 重 61.2	ホルンフェルス	完成状態。板状剥離を周辺加工して器体を作出する。刃部痕は不明瞭だが、刃部摩耗は著しい。右側部部を破損。	短幅形b
第13134 PL.96	216	打製石斧	包含層 2/3	長幅 (7.6) 4.5 厚 1.8 重 88.9	ホルンフェルス	完成状態。両側縁が平行するタイプで、刃部摩耗が明瞭。調査時に剥脱付近の理路で破損。	短幅形a
第13134 PL.96	217	打製石斧	880-295 完形	長幅 12.1 4.6 厚 1.4 重 93.8	ホルンフェルス	完成状態。周辺加工して石斧概形を作出する。刃部摩耗が著しい。裏面側はよく剥落して、詳細は不明。	短幅形b
第13134 PL.96	218	打製石斧	875-300 完形	長幅 10.6 4.7 厚 2.0 重 105.1	ホルンフェルス	完成状態。両側縁の厚さは比較的断然で、刃部摩耗は見られないが、側縁は滑り装着可能な状態。刃部は未加工。	杓子形
第13134 PL.96	219	打製石斧	875-295 完形	長幅 9.1 4.6 厚 1.8 重 75.7	ホルンフェルス	完成状態。両側縁を部分的に加工するだけで、器体を作出している。刃部は未加工の剥片エッジを利用。摩耗痕は不明瞭。	短幅形b
第13134 PL.96	220	打製石斧	包含層 4/5	長幅 (12.0) 5.5 厚 2.3 重 160.5	ホルンフェルス	完成状態。側縁は引き気味で、最大幅は刃部にある。剥離面は側縁の風化が進んで、縮めて不規則。	短幅形b
第13134 PL.96	221	打製石斧	860-305 2/3	長幅 (7.5) 6.3 厚 3.0 重 146.3	ホルンフェルス	完成状態。側縁は八字状に開き、刃部は直刃様。器体上半部を欠く。摩耗痕等は不明瞭。	短幅形b
第13134 PL.96	222	打製石斧	875-295 完形	長幅 12.0 5.1 厚 2.0 重 124.0	ホルンフェルス	完成状態。刃部摩耗が引き気味で、刃部は最大幅がある。刃部は部分的に再生され、側縁に近い位置に摩耗痕が残る。	短幅形b
第13134 PL.96	223	打製石斧	包含層 ほぼ定形	長幅 (11.0) 5.9 厚 1.6 重 95.9	ホルンフェルス	完成状態。器体上半部は棒状を呈し、これに幅広の石斧本体が付く。風化が激しく摩耗痕等は不明。	短幅形b
第13134 PL.96	224	打製石斧	870-310 ほぼ定形	長幅 (9.4) 5.9 厚 1.7 重 83.7	ホルンフェルス	完成状態。刃部摩耗が引き気味で、刃部に限って刃離面が大きい。側縁は引き気味で、刃部は最大幅がある。石斧は小型で頭部は石斧の摘み部に近い。	杓子形
第13134 PL.96	225	打製石斧	870-305 完形	長幅 9.6 4.2 厚 2.0 重 74.2	ホルンフェルス	完成状態。刃部摩耗が引き気味で、刃部は最大幅がある。石斧は小型で頭部は石斧の摘み部に近い。	杓子形
第13134 PL.96	226	打製石斧	875-295 完形	長幅 8.0 5.2 厚 1.3 重 48.1	ホルンフェルス	完成状態。器体上半部は棒状を呈し、これに幅広の石斧本体が付く。風化が激しく、摩耗痕等は不明。	分胴形
第13134 PL.96	227	打製石斧	113上坑 1/3	長幅 (5.9) 5.9 厚 1.8 重 73.5	ホルンフェルス	裏面側削離面は側縁が摩耗しているのにに対し、表面側は新鮮で、石斧内生用されたことを示唆する。	分胴形
第13134 PL.96	228	打製石斧	包含層 完形	長幅 10.6 8.0 厚 1.7 重 185	黒色頁岩	完成状態。側縁は明瞭か。刃部加工は形状修正的で部分的。当初刃部は未加工状態で使用されたものと見られる。	分胴形
第13134 PL.96	229	打製石斧	875-300 ほぼ定形	長幅 (6.9) 6.9 厚 2.9 重 307.9	ホルンフェルス	未製品。側縁を浅く抉り、装着部を作出する。刃部形状が大きく変形しているが、摩耗等は見られない。左辺は節理面で破損する。	分胴形

付表

捕 図 PL. No.	種 類 器 種	出上位数 残 存 率	計測値	胎上/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第13286 PL. 96	打製石斧 完形	870-310	長 11.5 厚 5.7 幅 5.7 重 88.7	黒色頁岩	完成状態。表面裏面とも風化に伴う剥離が著しく、詳細は不明。薄い板状剥片を用いたもので、使用直後の窪座。	分削形
第13286 PL. 96	磨製石斧 包含層	24含層 4/5	長 8.4 厚 2.0 幅 4.6 重 146.7	変輝隕岩	全面が研磨され、丁寧な作り。使用中破損した可能性が大。破損部には敲打痕があり、再生意象が確認。	定角
第13286 PL. 96	磨製石斧 包含層	24含層 1/3	長 (3.0) 厚 1.8 幅 2.9 重 23.0	変玄武岩	右斧頭部を挟んで左刃内側部に敲打痕が付く。破損後、敲打石として転用したもの。	定角
第13286 PL. 96	磨製石斧 包含層	24含層 1/3	長 (5.4) 厚 (1.6) 幅 (3.7) 重 41.7	黒色頁岩	内側鋸部周辺に研磨痕がある。石斧頭部に敲打痕、表面裏面とも消磨。無縫は焼き裂き、大きく破損して形状は不明。	定角?
第13286 PL. 96	門石	370-306 完形	長 11.4 厚 7.8 幅 6.0 重 610.5	粗粒輝石安山岩	表面側に複数の敲打痕2ヶ所、裏面側に漏斗状の隙み穴2ヶ所がある。表面裏面とも摩耗するほか、側面の敲打・摩耗痕も著しく、明顯な棱が形成されている。	楔円錐
第13286 PL. 96	磨石	包含層 1/3	長 (6.9) 厚 3.4 幅 7.3 重 284.2	粗粒輝石安山岩	表面裏面とも摩耗する。礫は部分的に剥けており、渦体1/2程度の破損も被るしたままで。	扁平輪円錐
第13286 PL. 96	門石	包含層 完形	長 10.7 厚 4.5 幅 8.0 重 608.1	粗粒輝石安山岩	表面裏面とも縦面にはアバタ状の敲打痕があり、摩耗面が広がる。下端側小口部は敲打され、また、左側縁は敲打摩耗して、平坦化している。	楔円錐
第13286 PL. 97	門石	包含層 完形	長 10.5 厚 6.5 幅 8.7 重 899	粗粒輝石安山岩	掌サイズの河床礫、やや大型で厚手。表面側にアバタ状の敲打痕があるがほか、特に表面側の摩耗が激しい。	楔円錐
第13286 PL. 97	埋土	包含層 完形	長 11.5 厚 4.6 幅 8.2 重 676.1	粗粒輝石安山岩	表面裏面ともアバタ状の敲打痕が2ヶ所にあるほか、小口部内壁面や側縁に同質の敲打痕がある。磨石として使用され、表面裏面とも摩耗面が付加される。	楔円錐
第13286 PL. 97	磨石	870-305 ほぼ完形	長 (11.9) 厚 5.3 幅 7.9 重 632.8	かこう猩斑	表面裏面とも摩耗面が広がる。小口部や側縁の敲打痕は弱く、明瞭ではなく、下端側を熱で破壊する。	棒状礫
第13286 PL. 97	磨石	包含層 完形	長 12.1 厚 4.7 幅 8.9 重 792.6	粗粒輝石安山岩	掌サイズよりやや小さな河床礫。表面裏面とも摩耗しているが、側縁の敲打痕は珍しい。	楔円錐
第13286 PL. 97	門石	包含層 完形	長 9.9 厚 5.9 幅 9.1 重 694.5	粗粒輝石安山岩	表面裏面とも、やや漏斗状の隙み穴がある。いずれも漏斗状の斜面に斜向気味の敲打痕が重なっているが、表面側のそれは裏面側に比べ摩耗しているように見える。	楔円錐
第13286 PL. 97	敲石	包含層 完形	長 15.1 厚 2.9 幅 8.2 重 526.9	粗粒輝石安山岩	小口部端面を分割して機能部を作出する。機能部は分割面で敲打されたことで、側縁が薄く削れる。	偏平礫
第13286 PL. 97	敲石	870-305	長 6.4 厚 2.7 幅 重 50.5	砂岩	小口部端面の敲打痕は若干表面側に残る点で特徴的。礫は部分的に光沢を帯び、研磨具として使用された可能性を考えておきたい。	棒状礫
第13286 PL. 97	敲石	包含層 完形	長 11.8 厚 3.0 幅 6.0 重 64.9	頁岩	薄い板状構造の側縁部で敲打し、結果的に小さな剥離痕が生じている。側縁の傷はリッチャー様のものか。	棒状礫
第13286 PL. 97	石皿	包含層 1/2	長 (0.43) 厚 5.2 幅 18.3 重 152.5	粗粒輝石安山岩	上半部を欠損。手前には插入口が残る。多孔質石材の典型だが、孔はガス抜けたもの。	無縫
第13286 PL. 97	石皿	包含層 破片	長 (9.2) 厚 (4.0) 幅 160.7	粗粒輝石安山岩	側縁破片、外部側も内部底面も整形面で覆われ、裏縁は残存しないようである。特に多孔質とはいえないが、やや軽量であるように思う。	有縫
第13286 PL. 97	石錘	835-300 完形	長 5.7 厚 3.3 幅 重 35.2	頁岩	端面を三角形状に削りで器体を作出する。薄い扁平輪円錐を用いる。	扁平輪円錐
第13286 PL. 97	石錘	875-300 破片	長 (5.1) 厚 1.7 幅 (5.1) 重 66.2	砂岩	表面側は外縁に近い棱部に弱い研磨痕、裏面側は中央付近に強い研磨痕が付かる。裏面側にはタルが付着している。	扁平輪円錐
第13286 PL. 97	石錘	包含層 4/5	長 (6.2) 厚 1.0 幅 6.2 重 52.1	頁岩	表面裏面とも摩耗する。側縁から敲打され剥離がれたように見える剥離痕と被熱剥離痕が混在する。	河床礫
第13286 PL. 97	石錘	包含層 1/2	長 (6.6) 厚 2.1 幅 (6.4) 重 147.7	砂岩	表面側研磨痕は左刃内辺が主体であるのにに対し、裏面側は磁石の中央付近に複数の研磨痕が広がる。	扁平輪円錐
第13286 PL. 97	多孔石	890-300 完形	長 24.5 厚 21.5 幅 8.9 重 5400	粗粒輝石安山岩	表面裏面とも漏斗状の隙み穴がある。礫は裏面側が平坦で、表面側刃上端側に最大幅がある。表面側の孔は織目状に治る。裏面側も同様だが、孔周辺は敲打せば平坦面となる。	扁平輪円錐
第13286 PL. 97	多孔石	880-295	長 23.3 厚 19.5 幅 10.0 重 5200	粗粒輝石安山岩	漏斗状の隙み穴が表面側刃10.裏面側2つがある。表面側の隙み穴の周辺側面の鉋耕の跡跡が落ちる。	河床礫
第13286 PL. 97	多孔石	包含層 1/2	長 30.0 厚 (14.0) 幅 29.0 重 1300	粗粒輝石安山岩	表面側に漏斗状の隙み穴3つが連続して並ぶ。裏面側は節理に沿って平坦化が削れている。	河床礫
PL. 97	石礫	包含層 4/5	長 (2.0) 厚 1.7 幅 重 0.8	チャート	完成状態。器体全体を押圧剥離が複数。右側縁は直線的で鋸歯状を呈するのにに対し、左側縁は先端に向け絞り炎味である。製作の最終段階で先端部を欠く。	円基無茎礫
PL. 97	石礫	包含層 完形	長 2.2 厚 1.8 幅 重 0.3 1.1	チャート	完成状態。表面裏面とも押圧剥離で覆われる。右側縁はガジリの可能性。基部を折り込み、返し部は長い。	円基無茎礫
PL. 97	石礫	包含層 完形	長 2.3 厚 1.6 幅 重 2.5 0.9	チャート	完成状態。表面裏面とも押圧剥離で覆われ、器体の完成度は高い。右側縁の返し部を欠く。	円基無茎礫
PL. 97	石礫	870-310 4/5	長 2.6 厚 1.8 幅 重 0.4 1.6	チャート	未製品。加工状態は粗く、裏面側には素材面が大きくなる。右側縁の返し部を欠く。	円基無茎礫
PL. 98	石礫	885-285 2/3	長 2.2 厚 1.4 幅 0.4 1.3	黑色安山岩	完成状態。表面裏面とも渦体全面が剥離で覆われる。左側縁の返し部を欠いているが、器体の完成度は高い。	円基無茎礫
PL. 98	石礫	890-285 2/3	長 (7.3) 厚 3.6 幅 1.5 重 46.2	ホルンフェルス	完成状態。下端側刃部を欠き不明だが、側縁は渦れ右刃の装着準備は終えたと思われる。	渦面形a
PL. 98	打製石斧	包含層 破片	長 (8.9) 厚 3.0 幅 1.4 重 40.0	ホルンフェルス	完成状態。側縁の摩耗は明確。右刃上両端を欠く右刃削痕部。	渦面形a
PL. 98	打製石斧	包含層 4/5	長 (8.0) 厚 3.9 幅 1.2 重 46.4	ホルンフェルス	完成状態。表面裏面とも渦体全面が剥離で覆われる。左側縁の返し部を欠いているが、器体の完成度は高い。	渦面形a
PL. 98	打製石斧	880-295 4/5	長 (7.5) 厚 3.8 幅 1.8 重 58.9	ホルンフェルス	完成状態。表面裏面とも風化が激しく、詳細は不明。左刃側エッジを見る限り、側縁は潰れた状態にある。	渦面形a

種 国 PL.No.	種 類 器 種	出上位数 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
PL.98 263	打製石斧	880-295 1/2	長 幅 厚 重	(6.2) 3.5 1.4 41.7	ホルンフェルス	未製品? 表面側方に側縫を大きく残す。墨化が激しく詳 細は不明だが、製作途上破損した可能性が高い。器体下平 部を大きく欠損する。	短冊形a
PL.98 264	打製石斧	885-295 完形	長 幅 厚 重	(10.1) 4.4 1.7 101	ホルンフェルス	完成状態。風化が激しく詳細は不明。側縫は装着部が複く 抉れるように見える。刃部欠損。	短冊形a
PL.98 265	打製石斧	包含層 2/3	長 幅 厚 重	(8.4) 5.2 1.6 92.5	ホルンフェルス	完成状態。左側縫は潰れ、石斧の装着準備が整う。左刃側 裏面は大きく削除した状態。右斧上部を欠損。	短冊形a
PL.98 266	打製石斧	包含層 1/2	長 幅 厚 重	(8.1) 4.2 1.3 63.4	ホルンフェルス	完成状態? 左側縫は並行してエッジは摩耗した可能性。石 斧の上下両端を欠損する。	短冊形a
PL.98 267	打製石斧	880-290 2/3	長 幅 厚 重	(8.9) 4.1 0.9 39.1	変質安山岩	完成状態。刃部および右側縫が摩耗する。左刃側は施理か 古い引抜痕で破損したものか?	短冊形a?
PL.98 268	打製石斧	880-300 完形	長 幅 厚 重	(11.6) 4.1 1.6 98.7	ホルンフェルス	完成状態。右刃側は直線的な形状、側縫を潰す程度で、やや内済気味。 エッジは比較的シャープである。	短冊形b
PL.98 269	打製石斧	包含層 1/3	長 幅 厚 重	(5.9) 4.5 1.5 75.4	粗粒輝石安山岩	完成状態。右両端とも潰れ、俗神面が著しい。石斧上下 両端を欠損する。	短冊形a
PL.98 270	打製石斧	包含層 4/5	長 幅 厚 重	(7.8) 4.3 1.3 49.5	ホルンフェルス	完成状態。刃部摩耗。裏面側の上端側を破損しているが、 素材内に取り込まれた破断面で破損した可能性が高い。	短冊形b
PL.98 271	打製石斧	865-305 1/2	長 幅 厚 重	(6.7) 4.0 2.2 76.9	ホルンフェルス	完成状態。両側縫とも潰れ、右斧柄に装着可能な状態。 器体の下半側を欠く。	短冊形b
PL.98 272	打製石斧	包含層 1/2	長 幅 厚 重	(6.9) 4.1 2.1 70.5	珪質頁岩	未製品。両側縫は潰れているが、最打痕は新鮮に見える。 装着部の位置からみて刃部側を欠損した可能性が高い。	短冊形a?
PL.98 273	打製石斧	包含層 完形	長 幅 厚 重	(11.2) 6.1 2.0 167.7	黒色頁岩	完成状態。表面を剥離面は新鮮で、石斧は使い込んだ 状態にはない。表面側左刃より大きく剥離して石斧を再生 したものと見られる。	分胴形
PL.98 274	打製石斧	870-300 4/5	長 幅 厚 重	(10.7) 7.1 3.0 270.1	砂岩	未製品。両側縫は潰れているが新鮮。右刃刀部側を大きく 破損する。	分胴形
PL.98 275	打製石斧	包含層 2/3	長 幅 厚 重	(10.1) (5.0) 2.2 111.7	ホルンフェルス	完成状態。石斧刃部側を欠く。頭部側の変形は再生段階の もので、刃部側破損も同様。	分胴形
PL.98 276	打製石斧	875-295 1/2	長 幅 厚 重	(7.8) 5.7 1.0 63.0	ホルンフェルス	完成状態。上端側に割れがあり、全体形状、位置関係が 判明。右刃縫や側縫は摩耗しているに見える。	分胴形
PL.98 277	打製石斧	875-300 4/5	長 幅 厚 重	(10.9) (5.3) 1.0 77.7	珪質片岩	未製品。概形は既にされているが、裏面側は薄く脛理剝離 して裏面側をいたし状態。剥離面の端は新鮮。	分胴形
PL.98 278	打製石斧	870-305 ほぼ完形	長 幅 厚 重	(10.4) 4.9 1.2 57.4	ホルンフェルス	完成状態? 器体全周の風化が著しく詳細は不明だが、裏面 側が大きく剥離。側縫等は潰れており、エッジも摩耗して いる。再生途中破損した可能性が高い。	杓子形
PL.98 279	打製石斧	870-305 2/3	長 幅 厚 重	(9.4) 5.3 1.5 84.7	ホルンフェルス	完成状態。剥離面の稜は比較的新鮮だが、裏面側剥離面は 風化の差があり、再生途中に破損した可能性が高い。	杓子形
PL.98 280	打製石斧	包含層 2/3	長 幅 厚 重	(19.0) 4.7 1.3 66.7	黒色頁岩	未製品・手標の板状片岩素材、周辺加工して右刃の幾形を 作出す。刃部両側縫のエッジはシャープである。	杓子形
PL.98 281	石礫?	包含層 完形	長 幅 厚 重	(2.6) 2.2 1.0 6.2	ガラス質ディサイ	未製品。全般的に加工は粗く、製作段階は橢形を三角形状 に整えた前段階に止まる。	円盤
PL.98 282	門石	880-300 完形	長 幅 厚 重	(11.9) 9.2 5.4 929.3	粗粒輝石安山岩	表面側とも摩耗するほか、表面側付近両側縫に粗 い最打痕がある。裏面側は部分的に熱剝離。	円盤
PL.98 283	門石	875-295 完形	長 幅 厚 重	(10.8) 7.0 5.4 585.0	粗粒輝石安山岩	表面側とも摩耗するほか、礎中央付近にアバタ状の最打痕 がある。側縫は最打摩耗して縫隙を形成する。	円盤
PL.98 284	門石	包含層 完形	長 幅 厚 重	(13.8) 6.9 3.5 486	粗粒輝石安山岩	表面側の中央付近に深い漏斗状の窪み、小口部両端は最打 痕が集中する。上端側小口部は最打、摩耗して平坦化。	偏平盤
PL.98 285	門石	875-295 完形	長 幅 厚 重	(11.7) 6.4 4.9 478.7	粗粒輝石安山岩	表面側とも縫隙中付近にアバタ状の最打痕がある。石材 が粗く、摩耗痕については不明瞭。	円盤
PL.98 286	門石	880-300 1/2	長 幅 厚 重	(7.8) 7.5 3.7 346.3	粗粒輝石安山岩	表面側とも摩耗するほか、表面側には摩耗したアバタ状の 最打痕がある。小口部両端には最打痕、右側縫は最打、摩 耗されている。下端側を大きく破損する。	円盤
PL.98 287	磨石	包含層 完形	長 幅 厚 重	(13) 7.6 4.1 677.7	ホルンフェルス	掌サイズの扁平滑円錐。左側縫に鋭い最打痕がある。	楕円錐?

2区構造

種 国 PL.No.	種 類 器 種	出上位数 残 存 率	計測値	胎土/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第134回 PL.99 1	理上 深鉢	口縫部破片		繊砂、輝石/良好	縫合区画、横位の沈縫を施し、刺突を施す。口縫部に貼付 文、口縫部に刻みを付す。	五面ヶ台式
第134回 PL.99 2	理上 深鉢	口縫部破片		粗砂/良好	横位沈縫をめぐらし、輪状の口縫部文様帶を区画、縫帯に よる逆三角形状、縫内凹モチーフを施す。以下、弧状比縫によ る懸垂文構成。刺突、印刻を施す。口縫内面肥厚。	五面ヶ台式
第134回 PL.99 3	3	845-320 口縫部破片		繊砂/良好	波状口縫、平行比縫による幾何学モチーフを施す。	中期中葉
第134回 PL.99 4	4 深鉢	包含層 口縫部破片		繊砂、白色粘、輝 石/ふつう	縫帶を貼り付けけて縫内面文様帶を区画、横位比縫の一部を 上位に手状に押しださせ、下部を横状に凹めさせ、縫縫に 刺突させる。以下、粗面文を斜位に充填施す。	加曾利E2式
第134回 PL.99 5	5 深鉢	包含層 口縫部破片		繊砂、輝石/ふつ う	口縫部に3条の横位比縫、複数条の波状文をめぐらす。上 位2条の横位比縫に刺突をめぐらす。地文に燃糸文をし て置き文施す。	加曾利E2式
第134回 PL.99 6	6 深鉢	840-325 口縫部破片		繊砂、輝石/ふつ う	縫帶をめぐらして口縫部文様帶を区画、縫帶による溝状 文を施し、縫縫粗面文を充填施す。	加曾利E2式

付表

種 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎工/成形/色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第1348 PL.99	7	深鉢	包含層 口縁部破片		繊砂/ふつう	波頂部の突起、波頭部にラビ手状の降帶を施し、波頂部下に円形の透かしを入れる。	加曾利E2式
第1348 PL.99	8	深鉢	845-330 口縁部破片		繊砂、白色粒、輝石/良好	降帶をめぐらして口縁部文様帶を区画、降帶による溝巻文を施し、RL繩文を縱位充填施する。間に2条沈線による逆V字状文を配す。	加曾利E2式
第1348 PL.99	9	深鉢	840-330 口縁部破片		繊砂、輝石、石英/良好	降帶をめぐらして口縁部文様帶を区画、降帶による溝巻文を施し、RL繩文を縱位充填施する。頭部無文帯。口縁部をめぐらして縦溝文を施す。	加曾利E2式
第1348 PL.99	10	深鉢	845-320 口縁部破片		粗砂、輝石、石英/ふつう	降帶をめぐらして口縁部文様帶を区画、降帶による溝巻文を施し、RL繩文を充填施する。	加曾利E2式
第1348 PL.99	11	深鉢	845-320 制部破片		繊砂、輝石/良好	降帶による蛇行懸垂文を施し、縦位沈線を充填施する。	加曾利E2式
第1348 PL.99	12	深鉢	845-850-325 底 (5.4) 底部破片		粗砂、輝石/良好	2条降帶による懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文、並びに蛇行懸垂文を施す。	加曾利E2式
第1348 PL.99	13	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石、石英/良好	降帶による口縁部文画、沈線による制部壁垂文を施し、複数LR繩文を充填施する。	加曾利E3式
第1348 PL.99	14	深鉢	845-320 制部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	沈線による制部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文、並びに蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第1348 PL.99	15	深鉢	845-330 制部破片		粗砂、繊織、赤色粒/良好	沈線による制部懸垂文を施し、LR繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第1348 PL.99	16	深鉢	包含層 制部破片		繊砂、輝石/良好	沈線による制部懸垂文を施し、LR繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第1348 PL.99	17	深鉢	包含層 制部破片		粗砂、輝石、石英/良好	沈線による制部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E3式
第1348 PL.99	18	深鉢	包含層 制部破片		繊砂、輝石/ふつう	沈線による制部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文、並びに蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第1348 PL.99	19	深鉢	2457箱 底部破片		粗砂/良好	粗糲地を地とし、沈線による懸垂文を施文、沈線間を磨り消す。	加曾利E3式
第1348 PL.99	20	浅鉢	840-330 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縫内端部を厚肥させて口縁部平面帯を作出、口縫部に2条沈線をめぐらす。外面部無。	中期後葉
第1348 PL.99	21	両耳壺	840-325 制部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	把手の部位。上半部の側縁を張り出させる。	中期後葉
第1358 PL.99	22	深鉢	840-330 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.99	23	深鉢	845-320 制部破片		粗砂、輝石、石英/ふつう	横位沈線による弧状モチーフを施し、文様外に異色RL繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.99	24	深鉢	包含層 口縁部破片		繊砂、輝石、石英/良好	波状口縁。口縁に沿って降線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.99	25	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/石英/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.99	26	包含層 口縁部破片			繊砂、白色粒、輝石/良好	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.99	27	深鉢	845-320,850- 325 口縁部破片		繊砂、白色粒、輝石/良好	一部を突出させた横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、LR繩文を充填施文する。	中期末葉～後期初頭
第1358 PL.99	28	深鉢	845-320 口縁部破片		繊砂、白色粒、赤色粒、輝石/良好	一部を突出させた横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、沈線による逆U字状モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。	中期末葉～後期初頭
第1358 PL.99	29	深鉢	840-325 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、2条降線による豊伏文を垂下させ、文様外にLR繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.99	30	深鉢	845-320 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、2条降線による豊伏文を垂下させ、文様外にLR繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.100	31	包含層 口縁部破片			粗砂、輝石/ふつう	波状口縁。降線をめぐらして口縁部無文帯を区画、波頭部に捻状化した口縁部文様帶を付し、下部から逆V字状に降線を垂下し、文様外にLR繩文を充填施文する。	後期加曾利E系
第1358 PL.100	32	深鉢	840-330 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、中央を凹ます。内形筋文付与する。	後期加曾利E系
第1358 PL.100	33	深鉢	包含層 制部破片		粗砂、輝石、石英/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、以下、縦位柔軟繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.100	34	深鉢	840-325 制部破片		繊砂、白色粒、輝石/良好	降線による制部懸垂文を施し、RL繩文を縦位充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.100	35	深鉢	包含層 口縁部破片		繊砂、白色粒、輝石/ふつう	横位沈線をめぐらして口縁部無文帯を区画、降線による張状文を垂下させ、LR繩文を充填施文する。	加曾利E4式
第1358 PL.100	36	深鉢	850-325 制部破片		繊砂、白色粒/ふつう	降線による曲線モチーフを施す。	中期末葉～後期初頭
第1358 PL.100	37	深鉢	850-320 制部破片		粗砂、繊織、白色粒、輝石、石英/ふつう	刺込み降線を垂下させ、縦位条線を充填施文する。	後期初頭
第1358 PL.100	38	深鉢	包含層 口縁部破片		繊砂、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。称名寺1式	
第1358 PL.100	39	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/石英/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR繩文を充填施文する。称名寺1式	
第1358 PL.100	40	深鉢	包含層 口縁部破片		繊砂、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR繩文を充填施文する。称名寺1式	

掃 団 PL.No.	No.	種 類 器 種	出上位置 残存率	計測値	胎工成形・色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第1358# PL.100	41	深鉢	包含層 剥離部破片		粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺1式
第1358# PL.100	42	深鉢	845-325 剥離部破片		粗砂、輝石、石英/ふつう	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺1式
第1358# PL.100	43	深鉢	845-320 剥離部破片		粗砂/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺1式
第1358# PL.100	44	深鉢	包含層 剥離部破片		粗砂、輝石/良好	帶状沈線によるJ字状モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	称名寺1式
第1368# PL.100	45	深鉢	包含層 白練部破片		粗砂、輝石、石英/良好	口縁部に小突起を付し、右側面のみ円形刺突を施す。帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第1368# PL.100	46	深鉢	845-320 剥離部破片		粗砂、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第1368# PL.100	47	深鉢	包含層 剥離部破片		粗砂、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第1368# PL.100	48	深鉢	845-325 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	波折口縁で口縁が内折、波頂部に円形刺突を施す。無文。内外面ミガキ整形。	称名寺II式
第1368# PL.100	49	深鉢	840-325 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第1368# PL.100	50	深鉢	830-335 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第1368# PL.100	51	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/良好	口縁を短く内折させ、内折部に円形刺突をめぐらす。以下、帶状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 瓶之内1式
第1368# PL.100	52	深鉢	845-330 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	口縁を短く内折させ、内折部に横位沈線をめぐらす。以下、無文。	瓶之内1式
第1368# PL.100	53	深鉢	840-325 口縁部破片		粗砂、輝石、石英/ふつう	口縁部に横位集合沈線を施し、以下、弧状に垂下させる。地文にLR縦文を施す。	瓶之内1式
第1368# PL.100	54	深鉢	850-325 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	瓶やかな波状口縁で、弓形が短く内折。集合沈線による幾何学モチーフを施し、LR縦文を充填施文する。	瓶之内1式
第1368# PL.100	55	深鉢	840-325 剥離部破片		粗砂、輝石/ふつう	沈線による幾何学モチーフを施す。地文にRL縦文を施す。	瓶之内1式
第1368# PL.100	56	深鉢	850-325 剥離部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	対称状の集合沈線を垂下させる。地文にLR縦文を施す。	瓶之内1式
第1368# PL.100	57	深鉢	845-330 剥離部破片		粗砂、輝石/ふつう	粗砂、輝石/ふつう くびれ部下の部位。巻位沈線を垂下させ、対向するU字形、連U字形状モチーフを施す。文部外にLR縦文を施す。	瓶之内1式
第1368# PL.100	58	深鉢	840-325 剥離部破片		粗砂、輝石/良好	くびれ部下に帯状沈線によるモチーフを施す。	瓶之内1式
第1368# PL.101	59	深鉢	包含層 剥離部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	くびれ部下に帯状沈線によるモチーフを施す。地文にLR縦文を施す。	瓶之内1式
第1368# PL.101	60	浅鉢	850-325 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	非対称の突起を付す波状口縁。内面波頂部から「V」字に降り起せず、人相状に沈線を泊わせる。交点部に刺突を施す。波頂部下のみ地文にLR縦文を施す。外面には横位沈線が見られる。	瓶之内1式
第1368# PL.101	61	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	口縁部に1条の刻み降線をめぐらし、刺突を伴う円形貼付文を貼付。以下、帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。無文部。内面ミガキ整形。	瓶之内2式
第1368# PL.101	62	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	口縁部に1条の刻み降線をめぐらし、8の字貼付文を貼付。以下、沈線によるU字形モチーフを施す。	瓶之内2式
第1368# PL.101	63	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	口縁部に1条の刻み降線をめぐらし、8の字貼付文を貼付。以下、帶状沈線によるモチーフを施し、LR縦文を充填施文する。無文部。内面ミガキ整形。	瓶之内2式
第1368# PL.101	64	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	口縁部に2条の刻み降線をめぐらし、以下、帶状沈線によるモチーフを施す。口縁部に双連状の小突起を付す。	瓶之内2式
第1368# PL.101	65	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	口縁部に2条の刻み降線をめぐらし、刺突を伴う円形貼付文を付す。以下、巻位沈線で巻位降線でつなぐ。口縁内面を肥厚させ、巻位沈線を伴う巻位降線でつなぐ。内面ミガキ整形。	瓶之内2式
第1368# PL.101	66	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	口縁部に1条の刻み降線をめぐらし、太めの巻位降線を伴う巻位降線でつなぐ。内面ミガキ整形。	瓶之内2式
第1368# PL.101	67	深鉢	850-325 口縁部破片		粗砂、白色粒、輝石/良好	口縁部に2条の刻み降線をめぐらし、太めの巻位降線を伴う巻位降線でつなぐ。内面ミガキ整形。	瓶之内2式
第1378# PL.101	68	深鉢	850-325 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	口縁部に刺突を作った降線をめぐらし、以下、帶状沈線によるモチーフを施す。LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第1378# PL.101	69	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	波状口縁で波頂部に埠状の突起を付す。円形貼付文、刻み降線を施す。波頂部、内面ミガキ整形。	瓶之内2式
第1378# PL.101	70	深鉢	845-325 口縁部破片		粗砂、輝石/良好	非対称の突起を付す波状口縁。波頂部に渦巻文を施す。2条の刻み降線をめぐらし、円形貼付文、巻位降線でつなぐ。	瓶之内2式
第1378# PL.101	71	深鉢	包含層 剥離部破片		粗砂、白色粒、輝石、石英/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施す。LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第1378# PL.101	72	深鉢	840-325 剥離部破片		粗砂、白色粒、輝石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施す。LR縦文を充填施文する。	瓶之内2式
第1378# PL.101	73	深鉢	840-330 剥離部破片		粗砂、輝石/ふつう	弧状の条線を真方向に重ねる。	後前削
第1378# PL.101	74	浅鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石/ふつう	波状口縁。内面に刻み降線をめぐらし、内面に印刷状の幾何学モチーフを施す。	瓶之内2式

付表

捕 図 PL. No.	種 類 器 種	出上位置 残 存 率	計測値	胎工成形/色調 石 材・材 料 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考	
第137回 PL.101	75 深鉢	理上 口縁部破片		織砂/良好	口縁がすぼまる型器。口縁外端を肥厚させて外削ぎの口唇部平坦面を作出。口縁部に削み降線、沈継をめぐらす。	瓶之内2式	
第137回 PL.101	76 汗口上器	840-325 製瓶破片		織砂、輝石/ふつ う	同心円状の横長胎円文を施す。一部、地文にLR彫文を施す。	瓶之内2式	
第137回 PL.101	77 汗口上器	835-325 製瓶破片		織砂/ふつう	滑状沈線によるモチーフを施し、LR彫文を充填施す。	瓶之内2式	
第137回 PL.101	78 汗口上器	840-320 製瓶破片		織砂、輝石/良好	平行沈線による底状、錐状モチーフを施す。外面ミガキ整形。	瓶之内2式	
第137回 PL.101	79 深鉢	包含層 底部破片	底 7.2	織砂、輝石/ふつ う	底面に網代痕。	瓶之内2式	
第137回 PL.101	80 深鉢	850-325 底部破片	底 (10.2)	織砂、輝石/ふつ う	外面履位のミガキ整形。底面に網代痕。	瓶之内2式	
第137回 PL.101	81 汗口上器	830-330 注口部破片		織砂、輝石/良好	先端に向かってすぼまる。根元に縦帶を貼付。	後期前葉	
第137回 PL.101	82 上製品	845-325 上製品	高 厚 2.6 1.5	織砂、輝石/ふつ う	口輪状上製品。外縁が内傾する。中央部が最も厚く、上端を尖り氣味に形成する。粘土帯を貼り合わせて形成した痕跡が見られる。		
第137回 PL.102	83 石鑿	包含層 完形	長 幅 2.3 1.5	厚 0.3 0.9	チャート	完成両側縁とも直線的なが、左側縁は鋸歯状に近い。石器先端部は尖り氣味。	凹基無茎顯
第137回 PL.102	84 石鑿	包含層 ほぼ完形	長 幅 2.3 2.3	厚 0.4 1.7		完成状態。表面裏面とも押圧剥離で覆われ丁寧な作り。側縁は直線的で基部を抉る。搬入石器。	凹基無茎顯
第137回 PL.102	85 石鑿(ドリル)	845-320 ほぼ完形	長 幅 2.2 (1.5)	厚 0.4 重 0.9	チャート	摘み部を持つタイプで、機能部先端に摩耗痕が残る。小型品だが、全面が円錐形に覆われ、丁寧な作り。	
第137回 PL.102	86 棱形石器	840-330 完形	長 幅 2.9 2.6	厚 0.8 5.2	チャート	表面裏とも上下両端から対向する小剝離痕が並ぶ。これにより左側縁が破損する。	
第137回 PL.102	87 打製石斧	包含層 完形	長 幅 9.8 4.8	厚 1.3 重 61.5		完成状態? 滅・板状剥片を用い、周辺加工して器体を作出する。縁部が大きく残り、刃部は未加工。	舟子形
第137回 PL.102	88 打製石斧	845-320 4/5	長 (9.1) (4.7)	厚 2.3 重 108.5		完成状態? 両縁は引き気味で、刃部は最大幅を有す。器体下半部を欠損。側面加工により破損した可能性が大。	短幅形b
第137回 PL.102	89 打製石斧	845-320 ほぼ完形	長 幅 10.5 4.4	厚 2.0 重 87.4		完成状態? フルンフェルス	短幅形a
第137回 PL.102	90 打製石斧	840-325 ほぼ完形	長 幅 (10.1) 4.4	厚 1.3 重 68.9		完成状態。薄・削いた石材を用い、周辺加工して器体を作出する点で共通。風化が激しく詳細は不明。	短幅形b
第137回 PL.102	91 打製石斧	840-330 2/3	長 幅 (7.5) 3.9	厚 1.5 重 57.2		完成状態? 口部側面大きく破損するため不明だが、側縁痕は明らかである。表面側の縁部を大きく残す。	变質安山岩
第137回 PL.102	92 打製石斧	包含層 完形	長 幅 10.5 4.0	厚 1.7 重 65.3		完成状態。刃部側面が単面で、部分的に刃部再生が明らかである。	黑色白岩
第138回 PL.102	93 打製石斧	包含層 完形	長 幅 15.1 6.1	厚 2.4 重 280.0		未製品? 両側縁を大きく加工。形状は剝離状を呈す。剝離痕は薄く加工は裏面側からのみ、裏面の縁部が大きく残る。	ホルンフェルス
第138回 PL.102	94 打製石斧	包含層 完形	長 幅 12.5 (6.0)	厚 2.9 重 198.5		完成状態。石器表面の摩耗が進み、刃部摩耗等は明瞭ではない。	ホルンフェルス
第138回 PL.102	95 石門	包含層 完形	長 幅 12.5 8.5	厚 4.7 重 803.5		サザイズの扁平器。表面裏とも直線的にアバタ状の斜肩痕があるほか、表面側も摩耗する。	粗粒輝石安山岩
第138回 PL.102	96 石門	理上 完形	長 幅 10.9 8.6	厚 6.7 重 904.9		表面裏ともアバタ状の最打痕があるほか、両側縁とも同質の摩耗痕がある。摩耗範囲は不明瞭だが、表面裏の最打痕辺縁は確實に摩耗。サザイズの鍵を用いる。	粗粒輝石安山岩
第138回 PL.102	97 石門	845-330 1/3	長 幅 (6.5) 4.6	厚 4.2 重 250.7		表面側に深い窪み穴、トヶ所があるほか、表面側は激しく敲打、摩耗している。形状は右側斜状を呈し、下半部を大きく欠損。	粗粒輝石安山岩
第138回 PL.102	98 破片	850-325 完形	長 幅 12.2 6.4	厚 4.9 重 526.7		表面側にアバタ状の敲打痕が残る。被熱剥離した可能性がある。	ホルンフェルス
第138回 PL.102	99 石皿	830-320 破片	長 幅 (16.0) (6.1)	厚 (5.5) 283.7		多孔質石材を用いた石皿破片。外側面や口縁部は敲打したまま、内面は軽く剥離する程度。	粗粒輝石安山岩
第138回 PL.102	100 破片?	包含層 破片	長 幅 (2.6) (4.3)	厚 9.0 重 9.2		表面側外縁部に研磨痕が広がる。裏面側は浅く研磨痕は不明瞭。形状は1区構造外No.249に似似、同一個体か。	ホルンフェルス
第138回 PL.102	101 石鉢	845-330 ほぼ完形	長 幅 5.3 4.1	厚 1.4 重 32.4		両側縁の端目は打ちちいで作出。裏面裏とも被熱して大きく剥落する。	直岩
PL.102	102 打製石斧	包含層 完形	長 幅 9.3 3.9	厚 1.2 重 54.8		完成状態? 滅手の石皿剥片を用いる。左側縁が欠け、側縁の状況等は不明。	ホルンフェルス
PL.102	103 打製石斧	840-330 完形	長 幅 9.4 4.4	厚 1.5 重 82.7		完成状態。側縁は直線的で、エッジは著しく摩耗する。器体の下半部を大きく欠損する。	粗粒輝石安山岩
PL.102	104 打製石斧	包含層 2/3	長 幅 (7.3) 3.6	厚 1.4 重 60.0		完成状態。刃部破片。両側縁とも摩耗する。器体下半部を大きく欠損。	ホルンフェルス
PL.102	105 打製石斧	包含層 1/2	長 幅 (7.6) 4.7	厚 2.4 重 84.7		完成状態。頭部破片。両側縁とも摩耗する。器体下半部を大きく欠損。	ホルンフェルス
PL.102	106 打製石斧	845-325 4/5	長 幅 (8.4) (4.1)	厚 1.5 重 61.6		未製品? 右辺無を欠き詳細は不明だが、左辺側は未加工、形状のみ石斧型を呈する。風化が著しい。	ホルンフェルス
PL.102	107 打製石斧	包含層 完形	長 幅 8.9 3.4	厚 1.0 重 56.7		完成状態。側縁は直線的で、エッジは著しく摩耗する。器體再生が明らかである。	ホルンフェルス
PL.102	108 打製石斧	845-330 1/2	長 幅 (5.0) (3.9)	厚 1.5 重 41.5		完成状態。石斧頭破片で、おそらく使用中か再生中の欠損。	ホルンフェルス
PL.102	109 打製石斧	845-320 2/3	長 幅 (7.8) (5.2)	厚 1.9 重 105.8		完成状態。両側縁とも摩耗する。上下両端を欠損する。風化が激しく詳細は不明。	ホルンフェルス

種類 PL-No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
PL.102	110	打製石斧	845-325 1/2	長(8.2) 厚2.4 幅(7.2) 重179.1	ホルンフェルス	風化が激しく詳細は不明だが、概形は分断状を呈す。剥離面のエッジはシャープで、摩耗したうちはみえない。	分断形
PL.102	111	打製石斧?	845-330 破片	長(5.5) 厚1.3 幅(4.1) 重31.9	細粒輝石安山岩	左右の側縁は並行。右側縁に摩耗があり、機種認定した。 左側縁はエッジが強く側縁再生の可能性を考えた。	?

3区遺構外

種類 PL-No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第13964 PL.103	1	深鉢	包含層 剥離破片		繊砂、輝石/良好	横位弧状の沈線を施す。地文に燃え文Lを縱位、斜位施文。	加曾利E2式
第13964 PL.103	2	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	隙帶による口縁部内凹区画を施し、斜突を充填施文。胸部は沈線による懸垂文を施し、LR縞文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第13964 PL.103	3	深鉢	包含層 口縁部破片		繊砂、輝石/ふつ う	隙帶による口縁部横円状区画を施し、LR縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第13964 PL.103	4	深鉢	包含層 剥離破片		繊砂/ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第13964 PL.103	5	深鉢	包含層 剥離破片		繊砂、白色粒、輝 石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を縱位充填施文、蛇行懸垂文を施す。	加曾利E3式
第13964 PL.103	6	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第13964 PL.103	7	深鉢	包含層 剥離破片		繊砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第13964 PL.103	8	両耳壺	包含層 剥離破片		繊砂、輝石/ふつ う	胸上位に把手を付す。隙帶による横内凹区画を施し、窓位条縞を充填施文する。	加曾利E3式
第13964 PL.103	9	深鉢	包含層 口縁部破片		繊砂、白色粒、輝 石/ふつう	横位隙縫をめぐらして口縁部無文帯を区画。以下、RL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第13964 PL.103	10	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	隙帶による懸垂文を施し、LR縞文を縱位充填施文する。	加曾利E4式
第13964 PL.103	11	深鉢	包含層 剥離破片		繊砂、赤色粒、輝 石、石英/ふつう	隙帶沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第13964 PL.103	12	深鉢	包含層 剥離破片		繊砂、輝石/ふつ う	隙帶沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第13964 PL.103	13	深鉢	包含層 剥離破片		繊砂、輝石/ふつ う	隙帶沈線によるU字状モチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第13964 PL.103	14	土製品	包含層 端部破片	径 1.7	粗砂、白色粒/ふ つう	現行長4.8cm。棒状の土製品。端部に向かってすぼまる。先端は丸みを帯びる。	加曾利E4式
第13964 PL.103	15	打製石斧	包含層 完形	長 8.5 厚 1.7 幅 5.2 重 80.0	黒褐色岩	未製品? 刃削面の端は新鮮で、摩耗痕は見られない。石斧頭部を部分的に欠く。	短形b
第13964 PL.103	16	理上	包含層 多孔石	長(23.6) 厚(13.9) 幅(16.4) 重 526.7	粗粒輝石安山岩	表面裏に小さな孔穴がある。穴は回転穿孔が明瞭。被熱して大きく破損、礫面が焼ける。	楕円窓

4区遺構外

種類 PL-No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14064 PL.103	1	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	隙縫を弧状に垂下させ、LR縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第14064 PL.103	2	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	隙縫を弧状に垂下させ、RL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第14064 PL.103	3	深鉢	包含層 剥離破片		粗砂、輝石/ふつ う	隙縫による懸垂文を施し、LR縞文を縱位充填施文する。	加曾利E4式
第14064 PL.103	4	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/ふつう	突起を付す横内凹。頂部内面に隣接隙縫を付し、円形刺突、沈線を施文。波面部に円形刺突を施す。	称名寺式
第14064 PL.103	5	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	隙縫沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第14064 PL.103	6	深鉢	包含層 剥離破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	隙縫沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第14064 PL.103	7	深鉢	包含層 剥離破片		粗砂/良好	隙縫沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第14064 PL.103	8	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/良好	隙縫沈線によるモチーフを施し、柳葉状刺突を充填施文する。	称名寺II式
第14064 PL.103	9	深鉢	包含層 剥離破片		粗砂、輝石/良好	円形貼付文と思われる高まりを基点に、横V字状に隙縫を施す。	龜之内式
第14064 PL.103	10	土製品	包含層 破片	高 1.4 厚 0.8	粗砂、輝石/ふつ う	貝殻状土製品。外側が内傾する。断面板状で上部が厚く、下部に向かって薄くなる。白色塗彩の痕跡あり。	
第14064 PL.103	11	打製石斧	包含層 1/2	長(6.9) 厚 2.5 幅 5.5 重 115.5	ホルンフェルス	完成状態? 漏刻面の稜は比較的明瞭だが、摩耗痕は見られない。器体の上半部を大きく欠損する。	短形a

7区遺構外

種類 PL-No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14064 PL.104	1	深鉢	包含層 口縁部破片		粗砂/ふつう	隙縫による口縁部内凹、溝巻文を施し、縦位沈線を充填施文する。	加曾利E2式
第14064 PL.104	2	深鉢	包含層 剥離破片		粗砂、輝石/良好	2条隙縫による懸垂文を施す。地文にRL縞文を縦位に施す。	加曾利E2式

付表

補 図 PL.No.	No.	種 類 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎工成形・色調 石材・素材等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第14068 PL.104	3	深鉢	包含層 胸部破片		繊砂、白色粒、輝 石/良好	2条縦帶による懸垂文を施す。地文にRL縞文を縱位施文。	加曾利E2式
第14068 PL.104	4	深鉢	包含層 口縫部破片		繊砂/良好	縦帶による口縫部横筋状区画を施し、RL縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第14068 PL.104	5	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂文を施し、複節LR縞文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第14068 PL.104	6	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第14068 PL.104	7	両耳壺	包含層 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	脚上位に把手を付し、上端を円形に凹ます。沈線によるモ チーフを施し、RL縞文を充填施文する。	加曾利E3式
第14068 PL.104	8	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縞文を縱位充填施文する。	加曾利E3式
第14068 PL.104	9	深鉢	包含層 口縫部破片	口 (9.4)	繊砂、輝石/良好	小型。横位沈線をめぐらして口縫部無文帯を区画し、以下、 沈線による懸垂文を施し、RL縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第14068 PL.104	10	深鉢	包含層 胸部破片		繊砂/ふつう	弧状の沈線を垂下させ、LR縞文を充填施文する。	加曾利E4式
第14068 PL.104	11	深鉢	包含層 口縫部破片		粗砂/ふつう	波状口縫。波頂部に環状縦帶を付し、下端から逆V字状に 波縫を垂下、RL縞文を充填施文する。	後期加曾利E 系
第14068 PL.104	12	深鉢	包含層 胸部破片		繊砂、輝石、石英 /ふつう	波縫による懸垂文を施し、RL縞文を縱位充填施文する。	加曾利E4式
第14068 PL.104	13	深鉢	包含層 口縫部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縫外面を軽く肥厚させ、下位に横位隆縫を施し、縦位隆 縫でつなぐ。横位沈線と上縫縫下位にLR縞文を施す。	後期前葉
第14168 PL.104	14	深鉢	包含層 胸部破片		繊砂、輝石/ふつ う	縦位、U字状の沈線を施し、無節LR縞文を充填施文する。	称名寺1式
第14168 PL.104	15	深鉢	包含層 胸部破片		繊砂、輝石/良好	帶状沈線による曲線モチーフを施し、LR縞文を充填施文	称名寺1式
第14168 PL.104	16	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、白色粒、輝 石/ふつう	帶状沈線によるモチーフを施し、LR縞文を充填施文する。	称名寺1式
第14168 PL.104	17	深鉢	7溝 胸部破片		粗砂、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺2式
第14168 PL.104	18	深鉢	包含層 胸部破片		繊砂、輝石/良好	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺2式
第14168 PL.104	19	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺2式
第14168 PL.104	20	深鉢	包含層 胸部破片		繊砂、輝石/ふつ う	帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺2式
第14168 PL.104	21	深鉢	7溝 口縫部破片		粗砂/良好	口縫を短く内折させ、内部に横位沈線をめぐらす。以下、 帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺2式
第14168 PL.104	22	深鉢	7溝 口縫部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縫外面を肥厚させて帶状沈線をめぐらし、以下、沈線に よるモチーフを施す。	称名寺2式～ 龜之内1式
第14168 PL.104	23	深鉢	包含層 口縫部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縫外面を肥厚させて内折型胸突をめぐらし、以下、沈線に よるモチーフを施す。	称名寺2式～ 龜之内1式
第14168 PL.104	24	深鉢	包含層 口縫部破片		繊砂、輝石/良好	口縫を短く内折させ、内部に横位沈線をめぐらす。以下、 帶状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	龜之内1式
第14168 PL.104	25	深鉢	包含層 胸部破片		粗砂、輝石/良好	くびれ部に横位沈線、円形胸突を施し、以下、RL縞文を 地文に施す。筋状懸垂文を施す。	龜之内1式
第14168 PL.104	26	深鉢	包含層 胸部破片		繊砂、輝石、石英 /良好	集合沈線による同心円文。幾何学モチーフを施す。	龜之内1式
第14168 PL.104	27	深鉢	包含層 口縫部破片		粗砂、輝石/良好	口縫下に8の字貼付文を貼付。以下、沈線によるモチーフ を施し、RL縞文を充填施文する。	龜之内2式
第14168 PL.104	28	深鉢	包含層 口縫部破片		粗砂、輝石/良好	口縫部に8の字の側面隆縫。8の字貼付文を施し、以下、横 縞文を充填施文する。	龜之内2式
第14168 PL.104	29	深鉢	包含層 胸部破片		繊砂、輝石/ふつ う	帶状沈線によるV字形状モチーフを施し、LR縞文を充填施 文する。	龜之内2式
第14168 PL.104	30	深鉢	包含層 口縫部破片		粗砂、白色粒、輝 石、石英/ふつう	口縫が軽く外反。RL縞文を全面施文する。	後期前葉
第14168 PL.104	31	深鉢	包含層 胸部破片			No.30と同一個体。胸部が膨らむ。	後期前葉
第14268 PL.104	32	土製品	包含層 1/2			扁平な環状の本体に、異状の突出部がついて土製品。突出は 十字状になるか、あるいは下部には付かず左右、上部の三 方になると思われる。上部の突出は基部を盛り上げて円孔 を通す。右側の突出基部には粘土粒を貼り付け、窓位沈線 を施す。環状の本体には沈線をめぐらす。やや粗雑な作り で内面の凹凸立つ。赤彩の痕跡あり。	
第14268 PL.105	33	打製石斧	包含層 1/3	長 (4.9) (3.9) 幅	厚 1.4 重 39.1	ホルンフェルス 等は不明瞭。	短円形 a
第14268 PL.105	34	門石	包含層 1/2	長 (10.1) (7.7) 幅	厚 6.9 重 576.3	裏面は表面側のみ残存。ここに浅い漏斗状の窪み六ヶ所 ある。裏面側にも同様の窪みが認定可能。	不明
第14268 PL.105	35	磨石	包含層 1/2	長 (7.6) 幅	厚 4.0 重 334.1	表面側とも摩耗面が広がるほか、下端側小口部に敲打痕 がある。器体上端部を大きく破損する。破損は被熱が原因。	扁平格円彫
第14268 PL.105	36	石鍤	包含層 完形	長 幅	4.3 厚 4.1 重 25.7	裏面の端部を削離したものが、刃部側面には鉄錆が付いた部分もあり、これが影響 して破損したこととも考へておきたい。	扁平格円彫

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第14286 PL.105	37	石製品(石 皿)	包含層 完形	長 幅 7.5 厚 重 653.5	粗粒輝石安山岩	厚板状に縦に鋸形断面、角柱状に形狀を整えた後、表面無 を皿状に窪め、石器用の石製品とする。裏面側は敲打痕が 複雑、中央には梨子/漏斗状の窪み穴がある。側面に敲打 され、窪み穴に似て浅く窪んだ部分がある。	
第14286 PL.105	38	多孔石	包含層 1/2	長 幅 20.3 (15.0) 厚 重 2803	粗粒輝石安山岩	垂直壁上端部の破片で、平坦な上端面や側面、棟上に小形 の窪み穴がある。	亜角形
PL.105	39	石製品	包含層 破片	長 幅 (4.5) 厚 重 5.4 2.3 78.4	粗粒輝石安山岩	断面D字状を呈する。両辺ともエッジは直線的に整形され ている。石材が軽く、研磨に伴う経条痕は確認できない。 上下両端を欠き、全体形状は明らかでない。	

6区遺構外

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第14386 PL.105	1	深鉢	6-5区溝 胸部破片		粗砂/ふつう	縦位線条を地文とし、弧状、ワラビ手状沈線を施す。	加曾利E2式
第14386 PL.105	2	深鉢	6-5区溝 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	2条降縫による懸垂文を施す。地文にRL縫文を縦位施文。	加曾利E2式
第14386 PL.105	3	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、輝石/ふつ う	波状口縫。口縫部に2条の沈線をめぐらし、以下、弧状沈 縫を垂下、RL縫文を充填施文する。	加曾利E3式
第14386 PL.105	4	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位。円状の沈線を施し、LR縫文を充填施文する。口縫 部に小突起を付す。	加曾利E3式
第14386 PL.105	5	深鉢	6-5区溝 胸部破片		粗砂、輝石/ふつ う	夜鏡による胸部懸垂文を施し、RL縫文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第14386 PL.105	6	深鉢	6-5区溝 胸部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による胸部懸垂文を施し、RL縫文を縦位充填施文す る。	加曾利E3式
第14386 PL.105	7	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、白色粘土、輝 石、石英/ふつう	横位降縫をめぐらして口縫部無文帶を区画。以下、LR縫 文を充填施文する。	加曾利E4式
第14386 PL.105	8	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、輝石/ふつ う	横位降縫をめぐらして口縫部無文帶を区画。以下、LR縫 文を充填施文する。	加曾利E4式
第14386 PL.105	9	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、輝石/ふつ う	口縫が緩く内澗。縦位線条を充填施文する。	中期後葉
第14386 PL.105	10	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、輝石/良好	口縫が緩く内澗。斜行する平行沈線を多条に施す。	中期後葉
第14386 PL.105	11	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、白色粘土、輝 石、石英/ふつう	横位帶状沈線を施し、LR縫文、列点を充填施文する。	称名寺I式
第14386 PL.105	12	深鉢	6-5区溝 胸部破片		粗砂/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、無節RL縫文を充填施文す る。	称名寺I式
第14386 PL.105	13	深鉢	6-5区溝 胸部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縫文を充填施文する。	称名寺I式
第14386 PL.105	14	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、輝石、石英 /良好	波底部の環状突起。捻軸状の縦帶を連ねる。	称名寺式
第14386 PL.105	15	深鉢	6-5区溝 胸部破片		粗砂、白色粘土、輝 石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第14386 PL.105	16	深鉢	6-5区溝 胸部破片		粗砂/ふつう	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第14386 PL.105	17	深鉢	6-5区溝 胸部破片		粗砂、赤色粘土、輝 石、石英/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、列点を充填施文する。	称名寺II式
第14386 PL.105	18	浅鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂/ふつう	口縫がくの字状に内屈。内屈部に横位帶状沈線を施し、列 点を充填施文する。	称名寺II式
第14386 PL.105	19	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、輝石/ふつ う	帯状沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式
第14386 PL.105	20	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、輝石/良好	沈線による幾何学モチーフを施す。	後期前葉か
第14386 PL.105	21	深鉢	6-5区溝 口縫部破片		粗砂、白色粘土、輝 石/ふつう	穂やかな波状口縫。口縫外面を肥厚させ、帯状沈線、円形 刺突を施す。波底部下に透かしを入れ、沈線を沿わせる。以 下、沈線によるモチーフを施す。	称名寺II式～ 之内I式
第14386 PL.105	22	壺形土器	6-5区溝 口縫部破片			横位降縫をめぐらして口縫部無文帶を区画。以下、LR縫 文を充填施文する。	後期前葉
第14386 PL.105	23	深鉢	6-4区一括 口縫部破片		粗砂、輝石/良好	帯状沈線によるモチーフを施し、LR縫文を充填施文する。	称名寺I式
第14386 PL.105	24	深鉢	6-2区一括 口縫部破片		粗砂、輝石、石英 /ふつう	横位降縫をめぐらして口縫部無文帶を区画。以下、LR縫 文を充填施文する。	加曾利E4式
第14386 PL.105	25	深鉢	6-2区一括 胸部破片		粗砂、白色粘土/ふ つう	横位降縫を垂下。帯状沈線によるモチーフを施し、LR縫 文を充填施文する。	称名寺I式
第14386 PL.105	26	深鉢	6-2区一括 胸部破片		粗砂、白色粘土、輝 石/ふつう	帯状沈線による曲線モチーフを施し、列点を充填施文す る。	称名寺II式

1号穴建物

種 因 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値	胎上/焼成/色調 石 材・素 材 等	成 形・整 形 の 特 徴	備 考
第14586 PL.107	1	須恵器 壺	床 上 0 cm 底 面 ~体部下位	底 台 5.7	6.4 粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ形、回転は右回り。底部は回転刃切り、高台は貼付。	9世紀後半
第14586 PL.107	2	須恵器 無台壺	床 上 3 cm 1/4	口 底 12.2 高 5.8	3.7 粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ形、回転は右回り。底部は回転刃切り無調整。	9世紀後半

付表

古代土坑

拂 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1468 PL.107	2 1	須恵器 白磁瓶	埋上 口縁部片	口 14.2	織砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は上方に引き出されて いる。	9世紀
第1468 PL.107	2 2	土師器 灰陶	埋上 口縁部～頸部片	口 22.8	織砂粒/良好/に ぶい黄褐色	所謂「この字状口縁甕」。口縁部は横ナデ、口唇部に凹線が ある。	9世紀第3四 半期
第1468 PL.107	5 1	土師器 灰陶	埋上 口縁部～体部片	口 底 16.8 7.2	織砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。	9世紀後半
第1468 PL.107	5 2	須恵器 灰陶	底上14cm 底台	底 6.4 6.2	織砂粒/酸化塩/に ぶい黄褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	9世紀後半

古代道構外

拂 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1474 PL.107	1	須恵器 甕	1区表上 口縁部片		織砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形、回転は右回り。口縁部は上方に引き出され、 下方に断面三角形の凸帶状に粘土紐を貼付し、帯状に造る。	9世紀
第1474 PL.107	2	須恵器 甕	7区貝層 底部	底 6.7 底台 5.6	織砂粒/還元焰/黄 褐色	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。 内面焼成。	9世紀後半

1号竪穴状遺構

拂 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1528 PL.115	1	板碑片	埋上 破片	長 幅 (5.9) (5.1)	厚 重 1.0 47.7	綠色片岩	表面とモ形痕(工具痕)は見られない。表面で風化状 態が異なり、表面は右刃破断面、裏面は他の破断面に近い 風化状態に見える。

中古世土坑

拂 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1548 PL.115	1 1	中国磁器 白磁碗	埋上 底部	口 底 5.0	一 高	一 灰白	高台幅は広く、端部は斜めに削る底部の器壁は厚めで内面 周縁に上方からの片彫りによる圓線。大宰府分類のIV-1 類か。
第1598 PL.115	71 1	鴟糞系上器 内耳鉢	埋上 口縁部片	口 底 —	— 高	— 礎含む/後黄褐色	口縁部中央位で横くぼする。口縁部内面下平、横位ハケメ、 口縁端部上面平坦。口縁部外面に鋸作り痕残り、一部に縦 位並行沈状の圧痕と思われる痕あり。
第1598 PL.115	71 2	鴟糞系上器 内耳鉢	埋上 体部片	口 底 —	— 高	— 金雲母少微量含 む/灰白	表面付近から内面器表にはよい橙色。外面器表は灰白色。 内外面ハケメ。器壁厚い。
第1598 PL.115	72	涅美陶器 片口鉢	埋上 口縁部片	口 底 —	— 高	— 灰	片口部残存。内面下位は使用により器表摩滅。

中近世遺構外

拂 国 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1648 PL.116	1	中国磁器 白磁碗	3区70土坑 口縁部片	口 底 —	— 高	— 白	口縁端部上面は平坦で端部は外側に張り出す。大宰府分類 VかVI類。
第1648 PL.116	2	龍泉窯系青 磁碗	3区70土坑 口縁部片	口 底 —	— 高	— 灰	外曲に輪連弁文。外外面に青磁釉。大宰府分類II-b類。
第1648 PL.116	3	同安窯系青 磁碗	3区70土坑 口縁部片	口 底 —	— 高	— 灰白	器壁薄い。外曲に細かい擬輪描書き文。大宰府分類I-1 b・c類。
第1648 PL.116	4	美濃陶器 山皿	3区70土坑 口縁部から体部 片	口 底 —	— 高	— 灰白	浅い碗状を呈するか。東濃系山皿であろう。
第1648 PL.116	5	龍泉窯系青 磁碗	3区70土坑 口縁部片	口 底 —	— 高	— 灰白	外曲に輪連弁文。外外面に青磁釉。大宰府分類II-b類。
第1648 PL.116	6	龍泉窯系青 磁碗	3区70土坑 底部1/2	口 底 —	— 高 (4.7)	— 褐灰	底部内面に施文か。内面から高台外面に青磁釉。底部器壁 やや厚い。
第1648 PL.116	7	鴟糞系上器 内耳鉢	3区70土坑 体部片	口 底 —	— 高	— 金雲母少微量含 む/灰白	表面付近から内面器表にはよい橙色。外曲器表は灰白色。 内外面ハケメ。器壁厚い。
第1648 PL.116	8	鴟糞系上器 内耳鉢	3区70土坑 体部下位片	口 底 —	— 高	— 金雲母含む/浅黃 褐色	表面付近から内面器表にはよい橙色。外曲器表は灰白色。 内外面ハケメ。底部外面部は交差する斜めハケメ。体部外面に 組作り痕残る。底部付近の外面被熱による変色か。
第1648 PL.116	9	鴟糞系上器 内耳鉢	3区70土坑 1/4	口 底 —	— (34.0) 高	— 金雲母少微量含 む/灰白	器表付近から器表は浅黄褐色に近い灰白色。体部は丸みを 帯びる。頭部はくびれ。口縁部は中位で屈曲して立ち上がる より平坦。口縁部上面は横位ハケメ残る。口縁部端部内面 は横位ハケメ。肩部外側と口縁部外面下部は指測圧痕 状の窪み残る。体部内面は横位ハケメ。体部外面は羅目ハ ケメ。底部外面部は交差する斜めハケメ。底部付近の外面被熱 による変色か。

插図 PL.No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎上/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
			口 底	高 度	厚 さ			
第164回 PL.116	10 龍泉窯系青 磁碗	5区Ⅱ層 底部	口 底	—	高 度	—	灰白	底部器壁厚い。高台欠損。内面から高台外面に青磁釉。高台内は無釉。大宰府分類I・II類か。底部内面に施文か。
第164回 PL.116	11 在地系土器 焰焰	5区Ⅱ層 口縁部から全体 片	口 底	—	高 度	—	黒色鉱物少量含む /灰白	表面付近浅黄褐色。内面の器表浅黄褐色。外面の器表褐色。内面中位に明瞭な段。
第164回 PL.116	12 在地系土器 か 人形	5区Ⅱ層 完形	高 幅	2.2 1.6	厚 さ	0.67	夾雜物少ない/粗	片面の型で前面半身を作成。後ろ面は平坦。
第164回 PL.116	13 砥石	5区Ⅱ層 ほぼ完形	長 幅	(12.1) 4.3	厚 重	3.1 181.6	砥沢石	3面使用。裏面側を除き各面とも線状痕も明瞭である。特に表面側は上下両面で著しく研ぎ減り、激しく使い込んでいる。裏面側には端部に砥面があり、分割・粗く磨き整形したのち、砥面として使用したことわかる。
第164回 PL.116	14 砥石	5区Ⅱ層 破片	長 幅	(4.9) (3.3)	厚 重	1.2 22.8	砥沢石	1面使用。表面側砥面は光沢を帯びる。裏面側には横位に月牙状の工具紋があり、両側縁の整形痕は不明瞭だが、斜面状に形状を整えている。
第164回 PL.116	15 同安窯系青 磁碗	I区表土 口縁部片	口 底	—	高 度	—	灰白	外面に細かい竈位輪描書き文。大宰府分類I-1 b・c類。
第164回 PL.116	16 同安窯系青 磁?	3区表土 口縁部1/8	口 底	(17.0) —	高 度	—	灰白	外面に粗い竈位輪目。口縁端部は小さく外反。内外面青磁釉。釉は薄めで貫入する。
第164回	17 在地系土器 片口杯	3区表土 口縁部片	口 底	—	高 度	—	白色鉱物少量含む /灰白	口縁部横撫で。体部内面は丁寧な撫で。外面撫で調整か。
								中世

補遺

第3章第2節3において、中近世の土坑として報告した2区99号土坑および2区113号土坑(第156図)を縄文時代の土坑として訂正する。

調査時の所見では、99号土坑が縄文時代、113号土坑が中近世の土坑とされていた。整理段階において縄属時期を再検討したところ、99号が底面まで掘り抜いていたことから、井戸状と判断したため調査の安全面を考えて掘削を中断したと推測した。そして、113号と形状が似るうえ、113号が中近世とされていたことから、埋没土に若干の疑問を感じつつも、両土坑を中近世の井戸状遺構と判断した。

しかし、入稿間際になって、土層注記を整理する際に改めて調査写真を確認したところ、99号は壁面の下半に地山のロームが出ておらず、底面だけでなく壁面下半も掘り足りていないことが分かった。同様に、113号についても壁面下半が掘り足りていないことが判明した。さらには底面も黒褐色土であるため、より深くなる可能性が考えられた。埋没土層についても、他の縄文遺構と似た暗褐色土を主体に埋まっており、やはり縄文時代の所産とするのが妥当であるとの判断に至った。これらの点から、2区99号土坑および2区113号土坑は、縄文時代の袋状土坑であると結論付けたい。おそらく2区125号土坑や129号土坑(第91図)のような形状になる可能性が高いと考えられる。

ここで訂正是全体図には反映できたが、本文中のレイアウトを組み直すことは時間的に不可能であるため、この文章をもって改めたい。

● 2区99号土坑

2区南部で検出。開口部径がやや小さめの袋状土坑。下半の壁面・底面が掘り切れていないため全体の形状、規模は不明であるが、袋状であることは間違いないと考えられる。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土で埋まる。出土土器は67点で小破片が多い。時期比定しうるものでは加曾利E3式が主体となり、加曾利E2式、加曾利E4式、称名寺式がわずかずつ混じる状況を示す。そのため、明確な縄属時期の比定は難しい。石器の出土はない。

● 2区113号土坑

2区中央部で検出。99号同様、下半の壁面・底面が掘り切れていないため全体の形状、規模は不明であるが、袋状であることは間違いないと考えられる。ローム粒、ブロックを含む暗褐色土、黒褐色土で埋まる。出土土器は小破片ばかり16点で、時期比定しうるものでは加曾利E2式～加曾利E4式がわずかずつ混在する。石器は打製石斧1点(第131図227)が出土している。

写 真 図 版



1. 跟跡遠景(西から)



2. 平成30年度調査区全景(南西から)



1. 5区北部全景(北から)



2. 5区中央部全景(南から)



1. 5区南部全景(南西から)



2. 5区南部土坑群(南から)



1.1 北区全景(南西から)



2.1 北区全景(北東から)



1. 1中区・1南区北部全景(南西から)



2. 1中区・1南区北部全景(北東から)



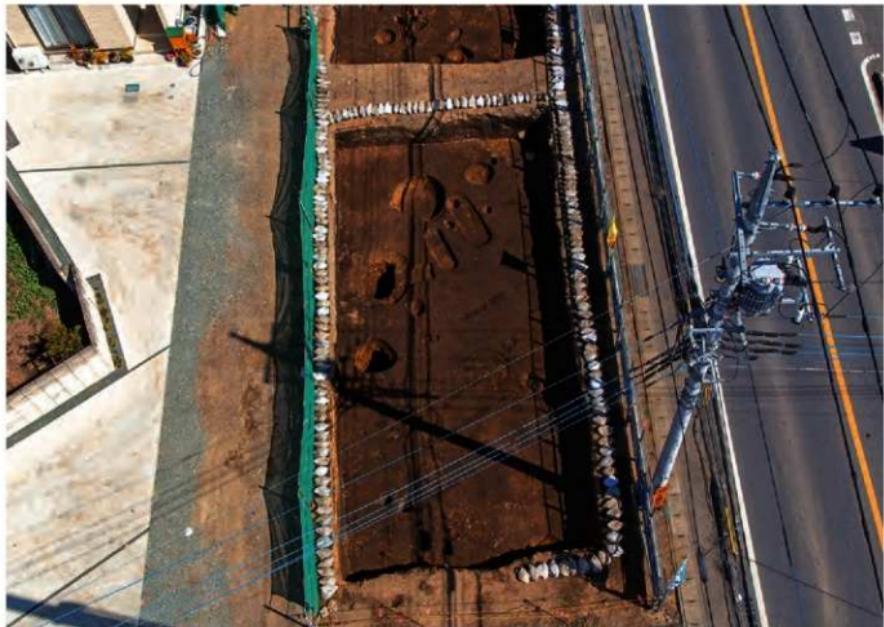
1.1 南区全景(北部を除く)(南西から)



2.1 南区全景(北部を除く)(南西から)



1.2区北部全景(南西から)



2.2区南部全景(南西から)



1. 3区西半部全景(北東から)



2. 3区西半部全景(南西から)



1. 3区東半部全景(北東から)



2. 3区東半部全景(南西から)



1. 4区全景(南西から)



2. 6-1区全景(北東から)



1. 6-2区全景(北東から)



2. 6-5区全景(北東から)



1 . 6-3 区全景(北東から)



2 . 6-4 区全景(南西から)



3 . 7 北区全景(北東から)



4 . 7 南区全景(南西から)



1. 2号竖穴建物全景(南東から)



2. 2号竖穴建物全景(北東から)



3. 2号竖穴建物断面(南西から)



4. 2号竖穴建物遺物出土状況(南東から)



5. 2号竖穴建物遺物出土状況(北東から)



1 . 2号竖穴建物遺物出土状況(北東から)



2 . 2号竖穴建物埋甕出土状況(東から)



3 . 2号竖穴建物埋甕断面(東から)



4 . 2号竖穴建物埋甕取上後状況(東から)



5 . 3号竖穴建物全景(南東から)



1 . 3号竪穴建物断面(南東から)



2 . 3号竪穴建物断面(南西から)



3 . 3号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



4 . 3号竪穴建物調査風景(南から)



5 . 3号竪穴建物炉全景(南から)



6 . 3号竪穴建物炉断面(南東から)



7 . 3号竪穴建物炉掘り方断面(東から)



8 . 3号竪穴建物炉掘り方(東から)



1. 4号竪穴建物全景(南東から)



2. 4号竪穴建物断面(南東から)



3. 4号竪穴建物断面(北東から)



4. 4号竪穴建物遺物出土状況(南から)



5. 4号竪穴建物遺物出土状況(南東から)



1. 5号竪穴建物全景(北西から)



2. 5号竪穴建物断面(北西から)



3. 6号竪穴建物全景(南西から)



4. 6号竪穴建物掘り方(南西から)



5. 6号竪穴建物断面(北西から)



6. 6号竪穴建物掘り方断面(北西から)



1 . 7号竖穴建物炉全景(西から)



2 . 7号竖穴建物炉断面(西から)



3 . 7号竖穴建物炉掘り方(西から)



4 . 7号竖穴建物炉掘り方断面(西から)



5 . 8号竖穴建物炉全景(南から)



6 . 8号竖穴建物炉断面(南西から)



7 . 8号竖穴建物炉体取上後状況(南西から)



8 . 8号竖穴建物炉掘り方(南西から)



1. 5区246号土坑全景(西から)



2. 5区246号土坑断面(西から)



3. 5区246号土坑遺物出土状況(西から)



4. 5区247号土坑全景(東から)



5. 5区248号土坑全景(西から)



6. 5区259号土坑全景(南東から)



7. 5区259号土坑断面(南東から)



8. 5区261号土坑全景(南から)



9. 5区261号土坑断面(南から)



10. 5区261号土坑調査風景(南から)



11. 5区262号土坑全景(南から)



12. 5区262号土坑断面(南から)



13. 5区263号土坑全景(南から)



14. 5区263号土坑断面(南から)



15. 5区265号土坑全景(南から)



1. 5区265号土坑断面(南から)



2. 5区266号土坑全景(南東から)



3. 5区267号土坑全景(南東から)



4. 5区268号土坑全景(北から)



5. 5区269号土坑全景(北から)



6. 5区270号土坑全景(南から)



7. 5区270号土坑断面(南から)



8. 5区271号土坑全景(南から)



9. 5区271号土坑断面(南から)



10. 5区272号土坑全景(南から)



11. 5区272号土坑断面(南から)



12. 5区273号土坑全景(南から)



13. 5区273号土坑断面(南から)



14. 5区274号土坑全景(西から)



15. 5区274号土坑断面(西から)



1. 5区275・276号土坑全景(南西から)



2. 5区275・276号土坑断面(南西から)



3. 5区277号土坑全景(北東から)



4. 5区277号土坑断面(南西から)



5. 5区278号土坑全景(南から)



6. 5区278号土坑断面(南から)



7. 5区279号土坑全景(西から)



8. 5区280～282号土坑全景(西から)



9. 5区280～282号土坑断面(西から)



10. 5区283号土坑全景(西から)



11. 5区284号土坑全景(南から)



12. 5区284号土坑断面(南から)



13. 5区284号土坑断面(南から)



14. 5区285号土坑全景(東から)



15. 5区285号土坑断面(東から)



1. 5区286・287号土坑全景(西から)



2. 5区286・287号土坑断面(西から)



3. 5区288・289号土坑全景(西から)



4. 5区290号土坑全景(南から)



5. 5区290号土坑断面(南から)



6. 5区290号土坑遺物出土状況(南から)



7. 5区291・292号土坑全景(南東から)



8. 5区291・292号土坑全景(南東から)



9. 5区291・292号土坑断面(南東から)



10. 5区294号土坑全景(北から)



11. 5区295号土坑全景(東から)



12. 1 北区299号土坑全景(北東から)



13. 1 北区301号土坑全景(南東から)



14. 1 北区301号土坑断面(南東から)



15. 1 北区305号土坑全景(南から)



1.1 北区306・307号土坑全景(南東から)



2.1 北区306・307号土坑断面(南東から)



3.1 306・307号土坑遺物出土状況(南東から)



4.1 北区308号土坑全景(南西から)



5.1 北区308号土坑断面(南西から)



6.1 北区309号土坑全景(南から)



7.1 北区310号土坑全景(南東から)



8.1 北区310号土坑断面(南東から)



9.1 北区312・313号土坑全景(南東から)



10.1 北区312・313号土坑断面(南東から)



11.1 北区314号土坑全景(南から)



12.1 北区314号土坑断面(西から)



13.1 北区315号土坑全景(西から)



14.1 北区315号土坑断面(西から)



15.1 中区6号土坑全景(南東から)



1. 1 中区6号土坑断面(南東から)



2. 1 中区10号土坑全景(南西から)



3. 1 中区10号土坑断面(南西から)



4. 1 中区12号土坑全景(南東から)



5. 1 中区12号土坑断面(南東から)



6. 1 中区14号土坑全景(北西から)



7. 1 中区14・15号土坑断面(北西から)



8. 1 中区17号土坑全景(北西から)



9. 1 中区17号土坑断面(北西から)



10. 1 中区17号土坑遺物出土状況(南西から)



11. 1 中区17号土坑遺物出土状況(北東から)



12. 1 中区18号土坑全景(東から)



13. 1 中区18号土坑断面(東から)



14. 1 南区30号土坑全景(南東から)



15. 1 南区30号土坑断面(南東から)



1.1 南区31号土坑全景(南西から)



2.1 南区31号土坑断面(南西から)



3.1 南区32号土坑全景(南から)



4.1 南区32号土坑断面(南から)



5.1 南区33号土坑全景(南西から)



6.1 南区33号土坑断面(南西から)



7.1 南区34号土坑全景(南西から)



8.1 南区34号土坑断面(南西から)



9.1 南区35号土坑全景(南西から)



10.1 南区35号土坑断面(南西から)



11.1 南区36号土坑全景(南西から)



12.1 南区36号土坑断面(南西から)



13.1 南区37号土坑全景(南西から)



14.1 南区37号土坑断面(南西から)



15.1 南区37号土坑遺物出土状況(南西から)



1.1 南区38号土坑全景(北西から)



2.1 南区38号土坑断面(南東から)



3.1 南区39号土坑全景(南から)



4.1 南区39号土坑断面(南から)



5.1 南区40号土坑全景(南から)



6.1 南区41号土坑全景(南から)



7.1 南区40・41号土坑断面(南から)



8.1 南区42号土坑全景(西南から)



9.1 南区42号土坑断面(西南から)



10.1 南区43号土坑全景(北東から)



11.1 南区43号土坑断面(北西から)



12.1 南区44号土坑全景(南東から)



13.1 南区44号土坑断面(南東から)



14.1 南区44号土坑遺物出土状況(北西から)



15.1 南区45号土坑全景(東から)



1.1 南区45号土坑焼土(東から)



2.1 南区45号土坑断面(東から)



3.1 南区45号土坑断面(東から)



4.1 南区47号土坑全景(北東から)



5.1 南区47号土坑断面(北東から)



6.1 南区47号土坑遺物出土状況(北東から)



7.1 南区48号土坑全景(北西から)



8.1 南区49号土坑全景(西から)



9.1 南区49号土坑断面(北から)



10.1 南区49号土坑遺物出土状況(北から)



11.1 南区50号土坑全景(南東から)



12.1 南区50号土坑断面(南東から)



13.1 南区52号土坑全景(北西から)



14.1 南区52号土坑断面(北西から)



15.1 南区53号土坑全景(北西から)



1.1 南区53号土坑遺物出土状況(北西から)



2.1 南区54号土坑全景(北西から)



3.1 南区53・54号土坑断面(北西から)



4.1 南区55号土坑全景(南西から)



5.1 南区55号土坑断面(南西から)



6.1 南区56号土坑全景(南西から)



7.1 南区56号土坑断面(南西から)



8.1 南区57・143号土坑全景(東から)



9.1 南区57号土坑断面(南東から)



10.1 南区59号土坑全景(南東から)



11.1 南区60号土坑全景(南東から)



12.1 南区59・60号土坑断面(南東から)



13.1 南区61号土坑全景(北西から)



14.1 南区62号土坑全景(南東から)



15.1 南区62号土坑断面(南東から)



1. 1 南区63号土坑全景(北東から)



2. 1 南区63号土坑断面(北東から)



3. 1 南区64号土坑全景(東から)



4. 1 南区64号土坑断面(東から)



5. 1 南区75号土坑全景(南東から)



6. 1 南区76号土坑全景(北東から)



7. 1 南区76号土坑断面(南西から)



8. 1 南区111号土坑全景(南から)



9. 1 南区111号土坑断面(南から)



10. 1 南区130号土坑全景(東から)



11. 1 南区130号土坑断面(東から)



12. 1 南区132号土坑全景(南東から)



13. 1 南区132号土坑断面(南東から)



14. 1 南区132号土坑遺物出土状況(南東から)



15. 1 南区133号土坑全景(南東から)



1.1 南区135号土坑全景(南東から)



2.1 南区135号土坑断面(南西から)



3.1 南区136号土坑全景(東から)



4.1 南区136号土坑断面(東から)



5.1 南区137号土坑全景(南東から)



6.1 南区137号土坑断面(南東から)



7.1 南区137号土坑遺物出土状況(北西から)



8.1 南区138号土坑全景(南東から)



9.1 南区138号土坑断面(南から)



10.1 南区140号土坑全景(南から)



11.1 南区140号土坑断面(東から)



12.1 南区141号土坑全景(西から)



13.1 南区141号土坑断面(西から)



14.1 南区141号土坑遺物出土状況(西から)



15.1 南区141号土坑遺物出土状況(南から)



1.1 南区141号土坑遺物出土状況(西から)



2.1 南区142号土坑全景(南東から)



3.1 南区142号土坑全景(北東から)



4.1 南区143号土坑全景(北西から)



5.1 南区143号土坑断面(北東から)



6.1 南区144号土坑全景(東から)



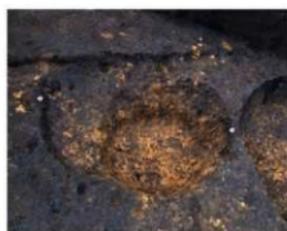
7.1 南区144・159号土坑全景(東から)



8.1 南区144号土坑断面(南から)



9.1 南区144号土坑遺物出土状況(東から)



10.1 南区146号土坑全景(東から)



11.1 南区146号土坑断面(東から)



12.1 南区147号土坑全景(東から)



13.1 南区147号土坑断面(東から)



14.1 南区148号土坑全景(東から)



15.1 南区148号土坑断面(東から)



1. 1 南区149号土坑全景(西から)



2. 1 南区149号土坑断面(南から)



3. 1 南区150号土坑全景(南西から)



4. 1 南区150号土坑断面(南西から)



5. 1 南区151号土坑全景(南東から)



6. 1 南区151号土坑断面(南東から)



7. 1 南区152号土坑全景(北西から)



8. 1 南区152号土坑断面(北西から)



9. 1 南区153号土坑全景(北から)



10. 1 南区153号土坑断面(南から)



11. 1 南区154号土坑全景(北東から)



12. 1 南区154号土坑断面(南西から)



13. 1 南区155号土坑全景(東から)



14. 1 南区155号土坑断面(東から)



15. 1 南区156号土坑全景(西から)



1. 1 南区156号土坑断面(北東から)



2. 1 南区157号土坑全景(北から)



3. 1 南区157号土坑断面(南から)



4. 1 南区159号土坑全景(東から)



5. 1 南区159号土坑断面(南から)



6. 1 南区160～162号土坑全景(西から)



7. 1 南区160～162号土坑断面(南から)



8. 1 南区160号土坑遺物出土状況(南西から)



9. 1 南区161号土坑全景(南西から)



10. 1 南区162号土坑全景(南西から)



11. 1 南区163・164号土坑断面(南西から)



12. 1 南区165号土坑全景(東から)



13. 1 南区165号土坑断面(東から)



14. 1 南区167号土坑全景(南西から)



15. 1 南区167号土坑断面(南西から)



1.1 南区168号土坑断面(南西から)



2.1 南区170号土坑全景(北西から)



3.1 南区170号土坑断面(北西から)



4.1 南区173号土坑全景(北から)



5.1 南区173号土坑断面(北から)



6.1 南区175~178号土坑全景(北西から)



7.1 南区175~178号土坑断面(北西から)



8.1 南区175号土坑全景(南西から)



9.1 南区176号土坑全景(南西から)



10.1 南区176号土坑遺物出土状況(南西から)



11.1 南区177号土坑全景(南西から)



12.1 南区178号土坑遺物出土状況(南西から)



13.1 南区179号土坑全景(西から)



14.1 南区179号土坑断面(西から)



15.1 南区179号土坑遺物出土状況(北西から)



1.1 南区182号土坑全景(北西から)



2.1 南区184号土坑全景(東から)



3.1 南区184号土坑断面(北東から)



4.1 南区187号土坑全景(東から)



5.1 南区187号土坑断面(東から)



6.1 南区188号土坑全景(北西から)



7.1 南区188号土坑断面(北西から)



8.1 南区188号土坑遺物出土状況(北西から)



9.1 南区188号土坑遺物出土状況(北西から)



10.1 南区189号土坑全景(南から)



11.1 南区189号土坑断面(南から)



12.1 南区190・191号土坑全景(南から)



13.1 南区190・191号土坑断面(南から)



14.1 南区192号土坑断面(南西から)



15.1 南区193号土坑全景(南から)



1. 1 南区193号土坑断面(南東から)



2. 1 南区194・195号土坑全景(南西から)



3. 1 南区194号土坑全景(南西から)



4. 1 南区195号土坑全景(南西から)



5. 1 南区194・195号土坑断面(南西から)



6. 1 南区196号土坑全景(東から)



7. 1 南区196号土坑断面(南東から)



8. 1 南区197号土坑断面(南東から)



9. 1 南区198～200号土坑全景(南東から)



10. 1 南区198号土坑全景(南東から)



11. 1 南区198号土坑断面(南東から)



12. 1 南区198号土坑遺物出土状況(南東から)



13. 1 南区199号土坑断面(南東から)



14. 1 南区200号土坑断面(南東から)



15. 1 南区201号土坑断面(南東から)



1.1 南区202号土坑全景(北から)



2.1 南区202号土坑断面(南から)



3.1 南区203号土坑断面(西から)



4.1 南区204号土坑全景(東から)



5.1 南区204号土坑断面(西から)



6.1 南区206号土坑全景(南から)



7.1 南区206号土坑断面(西から)



8.1 南区206号土坑遺物出土状況(西から)



9.1 南区206号土坑遺物出土状況(西から)



10.1 南区208号土坑全景(南東から)



11.1 南区208号土坑断面(南東から)



12.1 南区208号土坑遺物出土状況(南東から)



13.1 南区209号土坑全景(西から)



14.1 南区209号土坑断面(南から)



15.1 南区211号土坑全景(北東から)



1. 1 南区211号土坑断面(北東から)



2. 1 南区211号土坑遺物出土状況(北東から)



3. 1 南区212号土坑断面(東から)



4. 1 南区214号土坑全景(北東から)



5. 1 南区215号土坑全景(北東から)



6. 1 南区216号土坑全景(北東から)



7. 1 南区217号土坑全景(北東から)



8. 1 南区214～217号土坑断面(北西から)



9. 1 南区214号土坑遺物出土状況(北西から)



10. 1 南区214号土坑炭化材出土状況(北東から)



11. 1 南区214号土坑炭化材出土状況(北東から)



12. 1 南区220号土坑全景(北から)



13. 1 南区220号土坑遺物出土状況(北から)



14. 1 南区221号土坑全景(北東から)



15. 1 南区221号土坑断面(南東から)



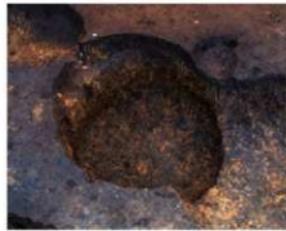
1.1 南区222号土坑全景(北西から)



2.1 南区222号土坑断面(北西から)



3.1 南区223号土坑全景(東から)



4.1 南区224号土坑全景(東から)



5.1 南区225号土坑全景(東から)



6.1 南区223～225号土坑断面(北東から)



7.1 南区224号土坑遺物出土状況(東から)



8.1 南区225号土坑遺物出土状況(西から)



9.1 南区226号土坑全景(南東から)



10.1 南区226号土坑断面(南東から)



11.1 南区227号土坑全景(南西から)



12.1 南区227号土坑断面(北東から)



13.1 南区227号土坑遺物出土状況(北東から)



14.1 南区228号土坑全景(南から)



15.1 南区228号土坑断面(南から)



1.1 南区229号土坑全景(南から)



2.1 南区229号土坑断面(南から)



3.1 南区230号土坑全景(北東から)



4.1 南区230号土坑断面(東から)



5.1 南区231号土坑全景(西から)



6.1 南区231号土坑断面(西から)



7.1 南区232号土坑全景(西から)



8.1 南区232号土坑断面(西から)



9.1 南区233号土坑全景(北西から)



10.1 南区233号土坑断面(南西から)



11.1 南区234号土坑全景(北から)



12.1 南区234号土坑断面(西から)



13.1 南区235号土坑全景(北から)



14.1 南区235号土坑断面(西から)



15.1 南区236号土坑全景(北西から)



1.1 南区237号土坑全景(北西から)



2.1 南区237号土坑遺物出土状況(北西から)



3.1 南区237号土坑遺物出土状況(北西から)



4.1 南区238号土坑全景(北から)



5.1 南区238号土坑断面(北から)



6.1 南区239号土坑全景(北東から)



7.1 南区241号土坑全景(北西から)



8.1 南区242号土坑全景(西から)



9.1 南区242号土坑断面(西から)



10.1 南区243号土坑全景(北から)



11.1 南区243号土坑断面(北から)



12.1 南区244号土坑全景(北東から)



13.1 南区244号土坑断面(北東から)



14.1 南区316号土坑断面(南東から)



15.1 南区317号土坑断面(南東から)



1.1 南区318号土坑全景(北から)



2.1 南区318号土坑断面(東から)



3.2 区94号土坑全景(南西から)



4.2 区94号土坑断面(南から)



5.2 区96号土坑全景(南西から)



6.2 区96号土坑断面(南西から)



7.2 区100号土坑全景(南東から)



8.2 区100号土坑断面(南東から)



9.2 区100号土坑遺物出土状況(南東から)



10.2 区101号土坑全景(北から)



11.2 区101号土坑底面(北から)



12.2 区101号土坑断面(南東から)



13.2 区101号土坑遺物出土状況(北から)



14.2 区102号土坑全景(南西から)



15.2 区103号土坑全景(西から)



1. 2区107号土坑全景(東から)



2. 2区107号土坑断面(北東から)



3. 2区108号土坑全景(北西から)



4. 2区108号土坑断面(北西から)



5. 2区114号土坑全景(東から)



6. 2区114号土坑断面(南東から)



7. 2区114号土坑遺物出土状況(東から)



8. 2区114号土坑遺物出土状況(南東から)



9. 2区115号土坑全景(南東から)



10. 2区115号土坑断面(南東から)



11. 2区115号土坑遺物出土状況(南西から)



12. 2区118号土坑全景(北西から)



13. 2区118号土坑遺物出土状況(北西から)



14. 2区121号土坑全景(北から)



15. 2区121号土坑断面(北から)



1. 2区121号土坑遺物出土状況(北から)



2. 2区121号土坑遺物出土状況(西から)



3. 2区122号土坑全景(西から)



4. 2区122号土坑断面(南西から)



5. 2区124号土坑全景(北西から)



6. 2区124号土坑底面(北西から)



7. 2区125号土坑全景(北から)



8. 2区125号土坑底面(北から)



9. 2区125号土坑断面(南東から)



10. 2区125号土坑遺物出土状況(南から)



11. 2区125号土坑遺物出土状況(南から)



12. 2区125号土坑遺物出土状況(西から)



13. 2区125号土坑調査風景(南から)



14. 2区126号土坑全景(南東から)



15. 2区127・128号土坑全景(東から)



1. 2区129号土坑全景(南西から)



2. 2区129号土坑底面(北東から)



3. 2区129号土坑断面(南西から)



4. 2区129号土坑遺物出土状況(南西から)



5. 2区129号土坑遺物出土状況(南西から)



6. 2区129号土坑遺物出土状況(西から)



7. 3区70号土坑全景(南東から)



8. 3区70号土坑断面(南東から)



9. 3区80号土坑全景(南から)



10. 3区80号土坑断面(南から)



11. 3区80号土坑遺物出土状況(南から)



12. 7 北区255号土坑全景(南東から)



13. 7 北区255号土坑断面(南東から)



14. 7 北区256号土坑全景(南東から)



15. 7 北区256号土坑断面(南東から)



1 . 3区 1号埋設土器全景(南西から)



2 . 3区 1号埋設土器断面(北西から)



3 . 3区 1号埋設土器掘り方(北西から)



4 . 1 南区 2号埋設土器全景(北から)



5 . 1 南区 2号埋設土器断面(南から)



6 . 1 南区 2号埋設土器掘り方(東から)



7 . 3区 3号埋設土器全景(南東から)



8 . 3区 3号埋設土器断面(南東から)



1. 3区3号埋設土器全景(南東から)



2. 3区3号埋設土器取上後状況(南東から)



3. 3区3号埋設土器掘り方(南東から)



4. 3区3号埋設土器断面(南東から)



5. 1南区5号埋設土器全景(北西から)



6. 1南区5号埋設土器断面(北西から)



7. 1南区5号埋設土器取上後状況(北西から)



8. 1南区5号埋設土器掘り方(北西から)



1. 1 南区 6号埋設土器全景(南東から)



2. 1 南区 6号埋設土器断面(南東から)



3. 1 南区 6号埋設土器取上後状況(南東から)



4. 1 南区 6号埋設土器掘り方(南東から)



5. 1 南区 7号埋設土器全景(北から)



6. 1 南区 7号埋設土器断面(北から)



7. 1 南区 7号埋設土器取上後状況(北から)



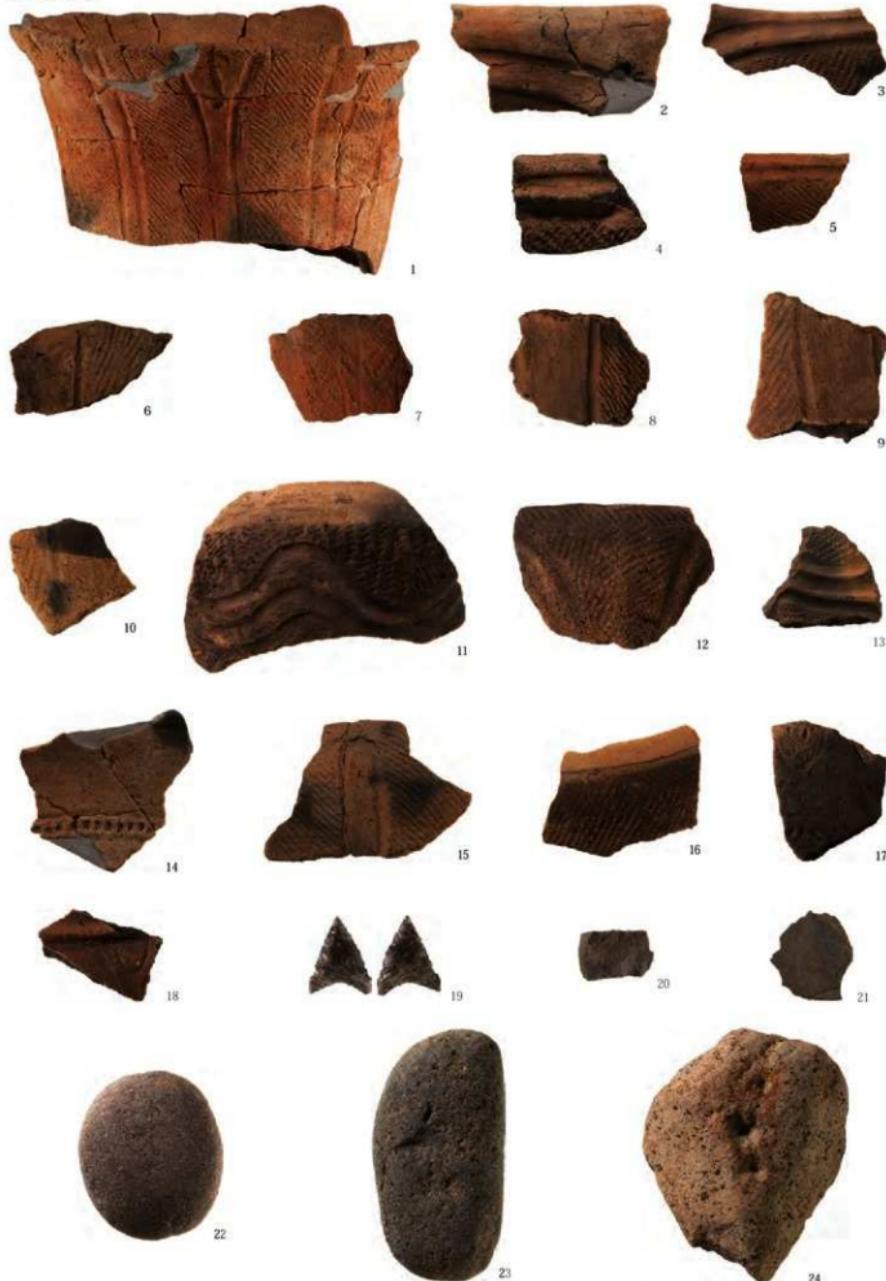
8. 1 南区 7号埋設土器掘り方(北から)

2号壁穴建物



2号壁穴建物出土遗物

3号竖穴建物



3号竖穴建物出土遗物

4号竖穴建物



4号竖穴建物出土遗物(1)



5号竖穴建物



4号竖穴建物出土遗物(2) · 5号竖穴建物出土遗物

6号竖穴建物



6号竖穴建物出土遗物(1)



7号竖穴建物



8号竖穴建物



6号竖穴建物出土遗物(2)、7号·8号竖穴建物出土遗物

5区土坑

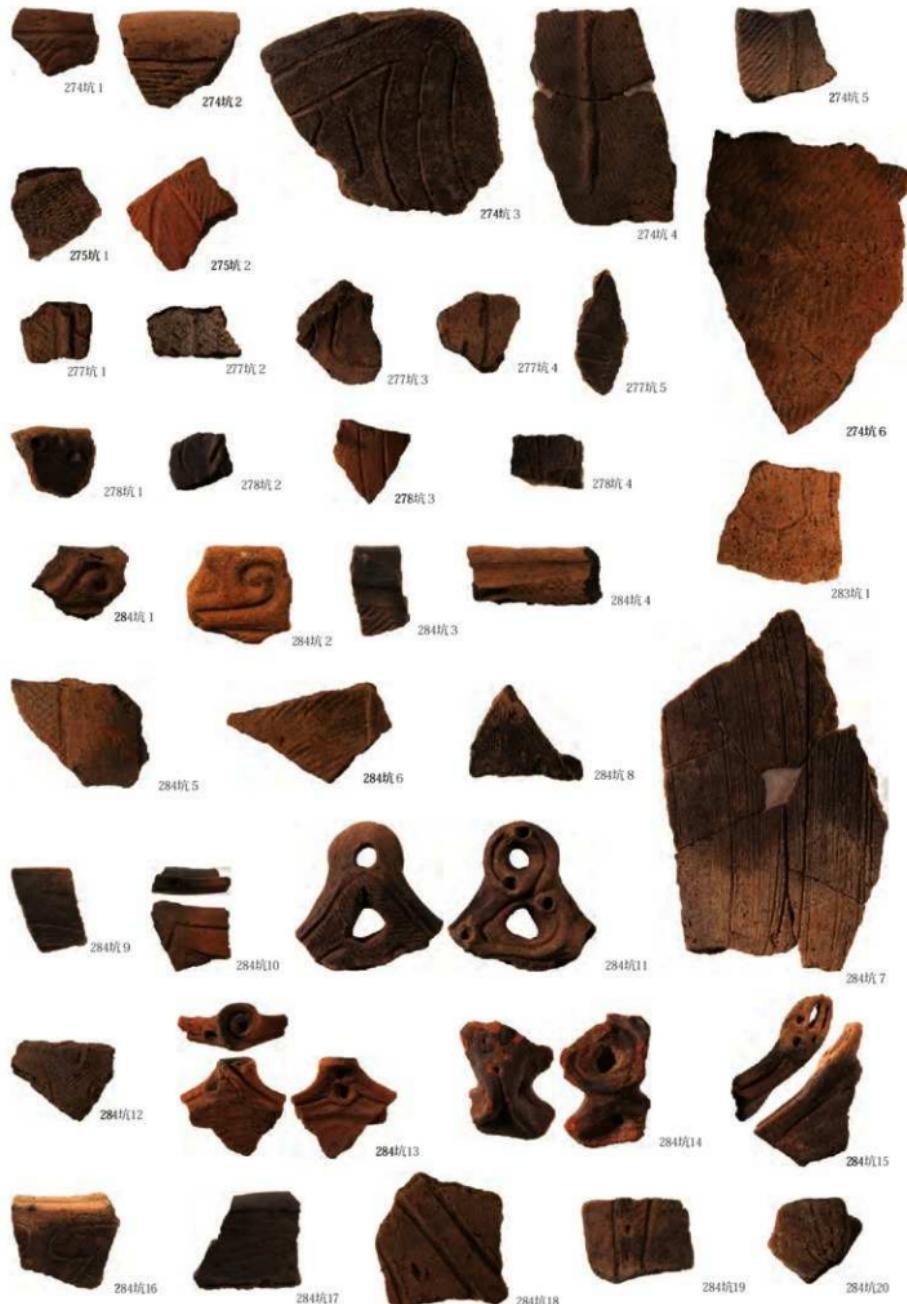


5区土坑出土遗物(1)

PL.56



5区土坑出土遗物(2)



5区土坑出土遗物(3)





5区土坑出土遗物(5)



5区土坑出土遗物(6) • 1 北区土坑出土遗物(1)



1 中区土坑



1 南区土坑



1 北区土坑出土遗物 (2) • 1 中区土坑出土遗物 • 1 南区土坑出土遗物 (1)



1 南区土坑出土遗物(2)



1 南区土坑出土遗物(3)

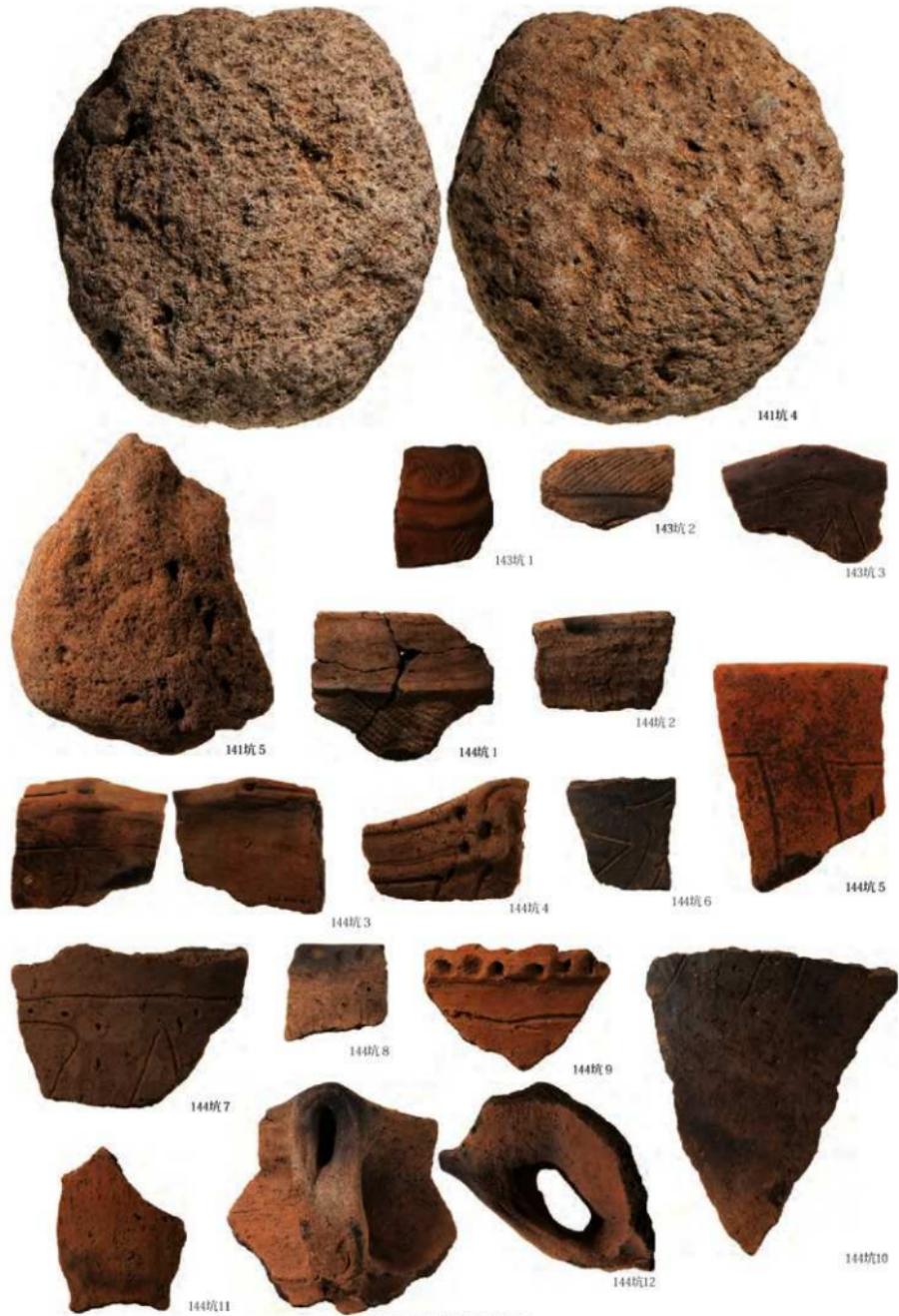




1 南区土坑出土遗物(5)



1 南区土坑出土遗物(6)



1 南区土坑出土遗物(7)



1 南区土坑出土遗物(8)



1 南区土坑出土遗物(9)



1 南区土坑出土遗物(10)



1 南区土坑出土遗物(11)



1 南区土坑出土遗物(12)



1 南区土坑出土遗物(13)



1 南区土坑出土遗物(14)

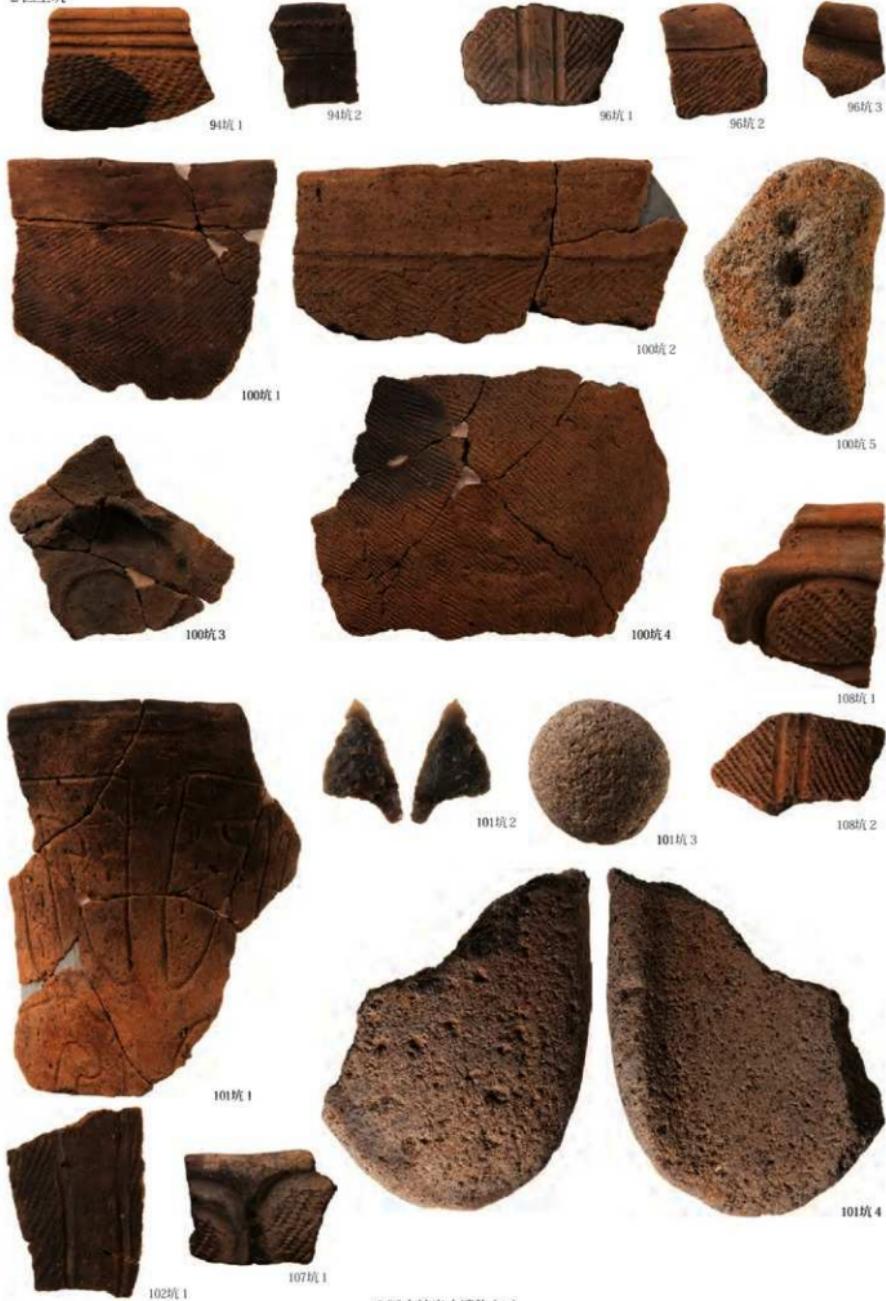


1 南区土坑出土遗物(15)



1 南区土坑出土遗物(16)

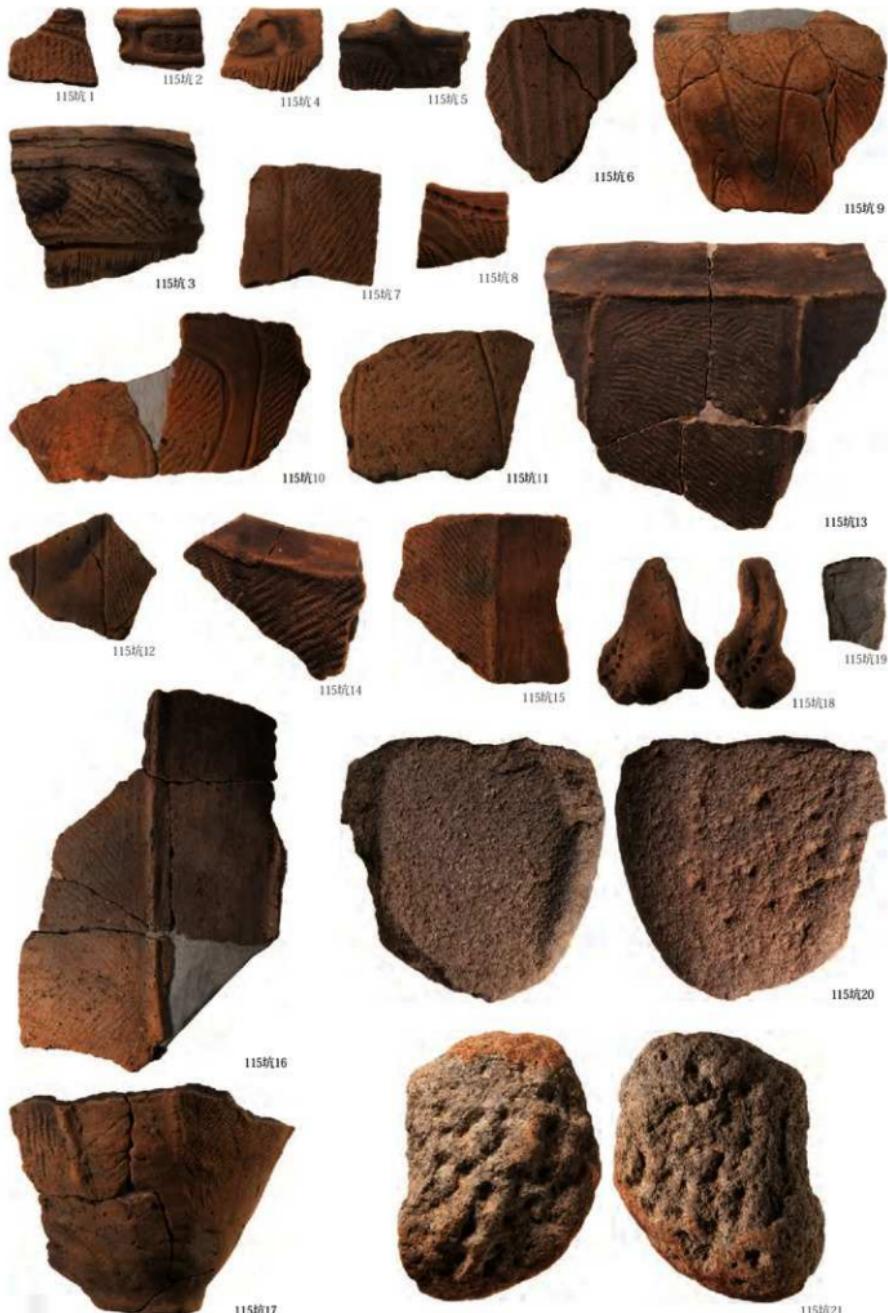
2区土坑



2区土坑出土遗物(1)



2区土坑出土遗物(2)



2区土坑出土遗物(3)



121坑 2



121坑 3



124坑 1



124坑 2



124坑 3



121坑 4



121坑 5



2区土坑出土遗物(4)



125坑 2



2区土坑出土遗物(5)



125坑25



126坑1



129坑3



129坑7



2区土坑出土遗物(6)



3区土坑



129坑13



129坑14



129坑15



70坑1



70坑2



70坑3



70坑4



80坑1



80坑2



80坑4



80坑5



80坑3

7北区



256坑1



2理1

埋設土器



6理1



7理1

2区土坑出土遗物(7)、3区·7北区土坑出土遗物、埋設土器(1)



5埋1



1埋1



3埋1



3埋2



3埋3

5区ピット



359P1

1区ピット



58坑1

58坑2

58坑3



58P4

58P5

171坑1



218P1

218P2



218P3

218P4

94P1



94P2

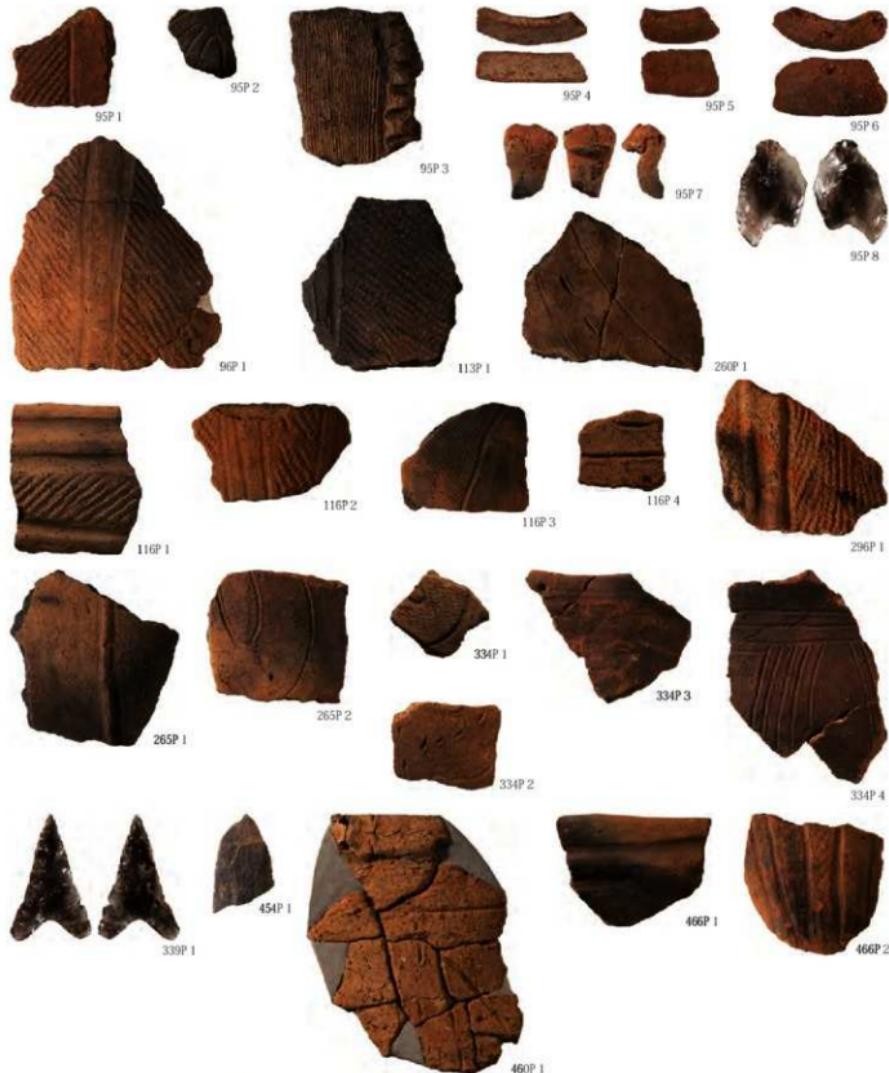


92P1

92P2

92P3

埋設土器(2)、1区ピット出土遺物(1)



2区ピット



1区ピット出土遺物(2)

7 北区ピット



7 北区ピット出土遺物

5区遗构外



5区遗构外出土遗物(1)



1区遗物外



5区遗物外出土遗物(2) • 1区遗物外出土遗物(1)



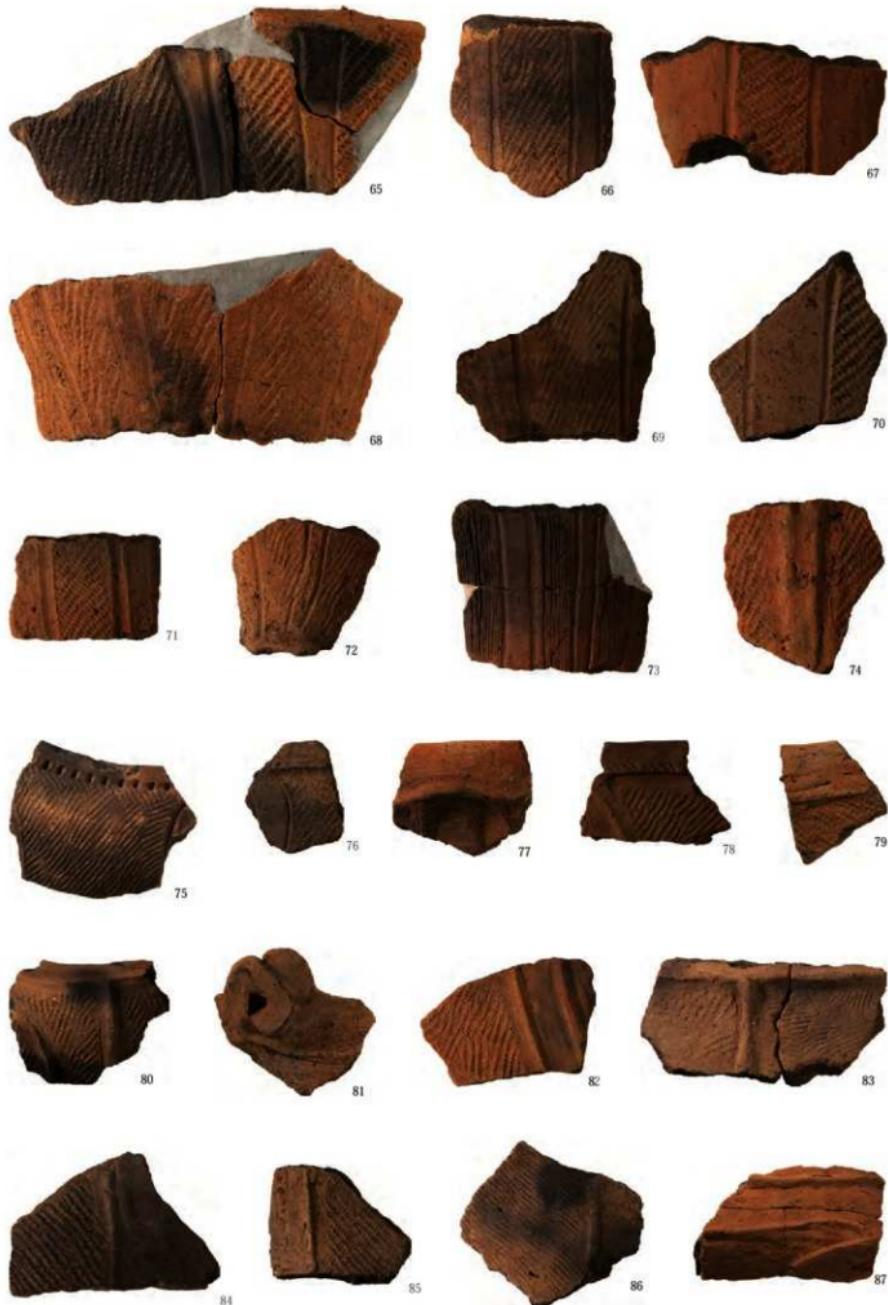
1区遗构外出土遗物(2)



1区遗构外出土遗物(3)



1区遗构外出土遗物(4)



1区遺構外出土遺物(5)



1区遗构外出土遗物(6)



1区遗构外出土遗物(7)





1区造構外出土遺物(9)

PL.96



1区遗构外出土遗物(10)



237



238



239



240



241



243



244



245



246



242



247



248



249



250



251



252



253



254



255



256



257



2区遺構外



2区遺構外出土遺物(1)





59



60



61



62



63



65



67



64



66



68



60



70



71



72



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82

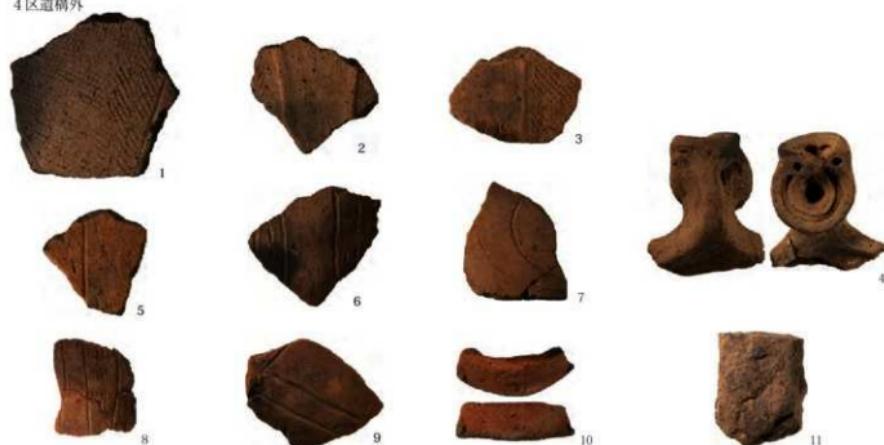


2区遺構外出土遺物(4)

3区道構外



4区道構外

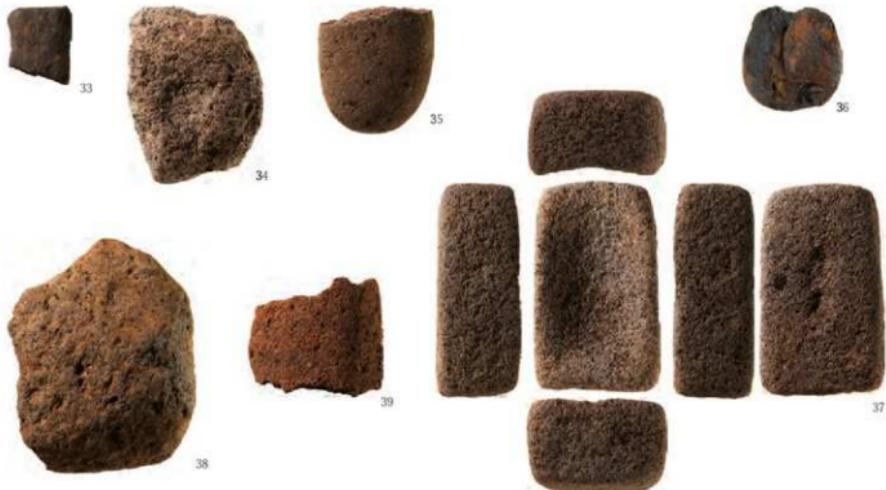


3区・4区道構外出土遺物

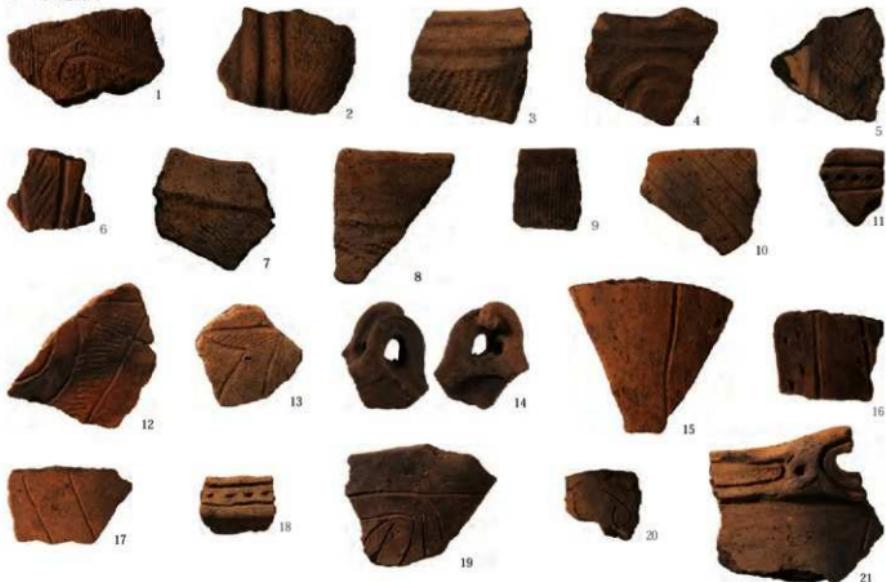
7区遺構外



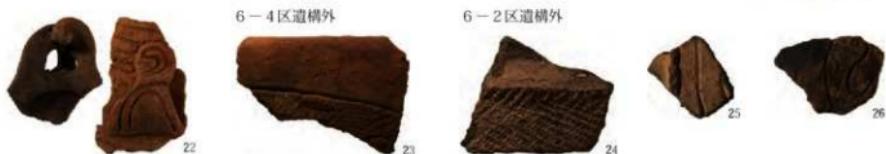
7区遺構外出土遺物(1)



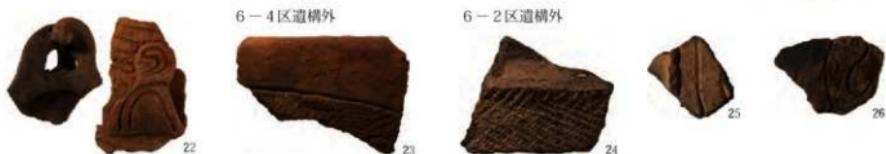
6-5区遗横外



6-4区遗横外



6-2区遗横外





1. 1号竪穴建物全景(西から)



2. 1号竪穴建物断面(南西から)



3. 1号竪穴建物遺物出土状況(西から)



4. 1号竪穴建物遺物出土状況(西から)



5. 1中区2号土坑全景(南東から)



6. 1中区2号土坑断面(南西から)



7. 1中区3号土坑全景(東から)



8. 1中区3号土坑断面(東から)



9. 1中区5号土坑全景(南から)



10. 1中区5号土坑断面(南から)



11. 1中区5号土坑遺物出土状況(東から)



古代竪穴建物・土坑・遺構外出土遺物



1.1中区1号竪穴状遺構全景(南から)



2.1中区1号竪穴状遺構全景(西から)



3.1中区1号竪穴状遺構断面(南から)



4.1.1中区1号竪穴状遺構床面(東から)



1. 5区245号土坑全景(東から)



2. 5区245号土坑断面(南から)



3. 5区249号土坑全景(東から)



4. 5区249号土坑断面(東から)



5. 5区250号土坑断面(南西から)



6. 5区251号土坑全景(南から)



7. 5区251号土坑断面(南から)



8. 5区252号土坑全景(南から)



9. 5区252号土坑断面(南から)



10. 5区253号土坑全景(南東から)



11. 5区253号土坑断面(南東から)



12. 1中区1号土坑全景(南西から)



13. 1中区1号土坑断面(南西から)



14. 1中区8号土坑全景(南西から)



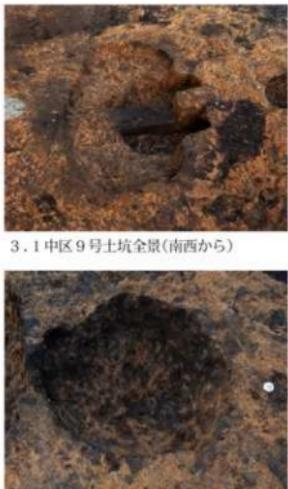
15. 1中区8号土坑断面(南西から)



1. 1 中区7号土坑全景(南西から)



2. 1 中区7号土坑断面(南西から)



3. 1 中区9号土坑全景(南西から)



6. 1 中区11号土坑断面(南東から)



7. 1 中区13号土坑全景(南東から)



8. 1 中区13号土坑断面(南東から)



9. 1 中区20号土坑全景(北西から)



10. 1 南区21号土坑全景(北東から)



11. 1 南区21号土坑断面(北東から)



12. 1 南区27号土坑全景(南東から)



13. 1 南区27号土坑断面(南東から)



14. 1 南区27号土坑遺物出土状況(南東から)



1. 2区91号土坑全景(南西から)



2. 2区91号土坑断面(南西から)



3. 2区92号土坑全景(南から)



4. 2区92号土坑断面(南から)



5. 2区93号土坑断面(南から)



6. 2区95号土坑全景(南東から)



7. 2区95号土坑断面(南東から)



8. 2区97号土坑全景(北西から)



9. 2区98号土坑全景(南西から)



10. 2区98号土坑断面(南西から)



11. 2区99号土坑全景(北西から)



12. 2区99号土坑断面(北東から)



13. 2区113号土坑全景(西から)



14. 2区113号土坑断面(西から)



15. 3区65号土坑全景(南から)



1. 3区65号土坑断面(南から)



2. 3区66号土坑全景(東から)



3. 3区67号土坑全景(西から)



4. 3区67号土坑断面(南東から)



5. 3区68号土坑全景(南から)



6. 3区68号土坑断面(南から)



7. 3区69号土坑全景(東から)



8. 3区71号土坑全景(南東から)



9. 3区71号土坑断面(南東から)



10. 3区72号土坑全景(南から)



11. 3区72号土坑断面(南から)



12. 3区73号土坑断面(南東から)



13. 3区77号土坑全景(東から)



14. 3区77号土坑断面(南から)



15. 3区78号土坑全景(南東から)



1. 3区78号土坑断面(南東から)



2. 3区81号土坑全景(南東から)



3. 3区82号土坑全景(南東から)



4. 3区83・84号土坑全景(南西から)



5. 3区83号土坑断面(南西から)



6. 3区84号土坑断面(南西から)



7. 3区85号土坑全景(南から)



8. 3区85号土坑断面(南西から)



9. 3区86号土坑全景(南から)



10. 3区86号土坑断面(南から)



11. 3区87・90号土坑全景(南東から)



12. 3区90号土坑断面(南東から)



13. 3区88号土坑全景(南東から)



14. 3区88号土坑断面(東から)



15. 3区89号土坑全景(北東から)



1. 3区89号土坑断面(北東から)



2. 4区22号土坑全景(南東から)



3. 4区22号土坑断面(南東から)



4. 4区23号土坑全景(北西から)



5. 4区23号土坑断面(北西から)



6. 4区24号土坑全景(北西から)



7. 4区24号土坑断面(西から)



8. 4区25号土坑全景(北から)



9. 4区25号土坑断面(北から)



10. 4区26号土坑全景(南西から)



11. 4区26号土坑断面(南西から)



12. 4区28号土坑全景(北東から)



13. 4区28号土坑断面(北東から)



14. 4区29号土坑断面(北西から)



15. 4区46号土坑全景(南西から)



1 . 5 区 4 号溝全景(北から)



2 . 5 区 4 号溝断面(東から)



3 . 1 中区 1 号溝全景(北東から)



4 . 1 中区 1 号溝断面(南西から)



5 . 1 南区 3 号溝全景(北西から)



6 . 7 北区 7 号溝全景(南東から)



7 . 3 区 2 号溝全景(南西から)



1. 3区 2号溝断面(南西から)



2. 6-5区 5号溝全景(南西から)



3. 6-5区 5号溝断面(北東から)



4. 6-5区 5号溝断面(南西から)



1 整穴状



1 坑1



71坑1



71坑2



72坑1

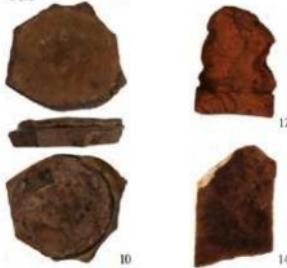
中近世整穴状遺構・土坑出土遺物

PL.116

70号土坑



5区



1区



3区



中近世遺構外出土遺物



1.5区旧石器A トレンチ全景(南から)



2.5区旧石器A トレンチ断面(南から)



3.5区旧石器B トレンチ全景(南から)



1.5 区旧石器Bトレンチ断面(南から)



2.1 北区旧石器Cトレンチ全景(南から)



3.1 北区旧石器Cトレンチ断面(南から)



4.1 北区旧石器Dトレンチ全景(南から)



5.1 北区旧石器Dトレンチ断面(南から)



6.1 中区旧石器Eトレンチ全景(東から)



7.1 中区旧石器Eトレンチ断面(東から)



8.1 中区旧石器Fトレンチ全景(東から)



9.1 中区旧石器Fトレンチ断面(東から)



10.2 区旧石器Gトレンチ断面(南から)



11.3 区旧石器Hトレンチ全景(東から)



12.3 区旧石器Hトレンチ断面(東から)



13.4 区旧石器Iトレンチ全景(南から)



14.4 区旧石器Iトレンチ断面(南から)



15.4 区旧石器Jトレンチ断面(東から)

報 告 書 抄 錄

書名ふりがな	あざみいせき
書名	阿左美遺跡
副書名	(主)桐生伊勢崎線(阿左美大原工区)社会資本総合整備(国土強靭化)(防災・安全)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	724
編著者名	橋本淳 田村博
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20230323
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	あざみいせき
遺跡名	阿左美遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんみどりしかさかけまちあざみ
遺跡所在地	群馬県みどり市笠懸町阿左美
市町村コード	10212
遺跡番号	K0006
北緯(世界測地系)	362307
東経(世界測地系)	1391822
調査期間	20190101-20190331/20200401-20200630
調査面積	3960
調査原因	道路建設
種別	集落跡・包蔵地
主な時代	縄文/古代/中近世
遺跡概要	縄文-竪穴建物8+土坑214+埋設土器6+ピット227/古代-竪穴建物1+土坑3/中近世-竪穴状遺構1+土坑49+溝5+ピット249
特記事項	縄文時代中期後葉から後期前葉にかけて営まれた集落。
要約	大間々扇状地岩宿面上に形成された縄文時代の大規模集落で、時期は中期後葉加曾利E2式期から後期前葉編之内2式期に至る。なかでも加曾利E3式期、称名寺式期に集落規模が大きくなるようだ。土器や石器のほか、さまざまな土製品が出土しており、貝輪状土製品の出土は群馬県内最多となる。群馬県東部で検出された縄文時代中期後葉～後期前葉の大規模集落の一つとして貴重な遺跡である。

公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第724集

阿左美遺跡

(主)樹生伊勢崎線(阿左美大原工区)社会資本総合整備
(国土強靭化)(防災・安全)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和5(2023)年3月20日 印刷
令和5(2023)年3月23日 発行

編集・発行/公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県邑楽市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaiban.org/>

印刷/第一印刷株式会社

